主筆　室伏高信
編・解題　飯田泰三

復刻版 批評

第1巻

龍溪書舎

本巻収録史料

批評

創刊号（大正八年三月一日）
第二号（〃四月一日）
第三号（〃五月一日）
第四号（〃六月一日）
第五号（〃七月一日）
第六号（〃八月一日）
第七号（〃九月一日）
第八号（〃十月一日）
第九号（〃十一月一日）
第一〇号（〃十二月一日）

大正八年二月廿六日納本
大正八年三月一日發行

批評

毎月一回
一日發行

創刊號

批評社
東京市麹町區
山元町二ノ五

編輯局より

▲「批評」の立場はデモクラシーの立場です。

▲その立場からデモクラシー自身についての研究をします。またその立場から政治、社會、教育、文藝を批評します。

▲デモクラシーは政治の領分にだけあるのではなくして、われ等の生活の一切を規定する道徳的本能であります。その「道徳的本能」を體現するものが「批評」であります。

▲「批評」は日本の改造を要求します。新日本の創造のために働きます。

▲「批評」は主義をもつて立ちます。それ故に名士だとか博士だとかの意見は成るべく掲載しません。私ども同人の主張をもつて全巻を横溢させます。

▲私どもは、私どもの力によつて日本を改造して見せるといふほどの己惚れと決心とをもつて立ちます。私どもはカール・マルクスとはその主張を同じくしない點が澤山あります。けれどもマルクスが「新ライン新聞」を起したと同じ決心をもつて立ちます。

▲私どもが日本の皇室的傳統に忠誠であることは、本號中の「民主主義と共和主義」によつても明らかです。

▲それとともに私どもは民衆に對して何人よりもより多く且つより深く忠誠でありたいと思ひます。然り、より深くです。より深くといふことは、現在の民衆的表現よりも超越してゐる場合のあることの意味です。

▲私どもは民衆を友とします。民衆を深きところに友とします。深きところに民衆を見るものにとつては、民衆は「多数決」ではなく、「米騒動」ではなくして、眞に偉大なる道徳であります。

▲私どもはその偉大なる道徳としての民衆を理解します。さうしてその民衆の父ともなり、兄ともなり、姉妹ともなります。

▲だから社會問題、勞働問題は、私どもによつては最も重大なものとして感んぜられます。教育も、文藝も、政治も、その意味からして重大です。

▲だから私どもは民主主義に反對するあらゆるものに非難を加へます。無政府主義に非難を加へることも勿論です。社會主義についても嚴正な批評を加へます。

▲「批評」の使命は、こゝに一々語ることはできない。たゞその内容によつて語るのほかはない。

▲第一號には不備の點の多かつたことを認めます。私ども雑誌の編輯には素人です。素人であるがゆへに、新らしき雑誌ができます。

▲同人の名は暫らく秘密にされます。その秘密はやがて取り去られる時がきます。

（K生）

批評

第一號目次

時代批評

民主主義と共和主義

日本に於いてデモクラシーを非難するもののうちには、デモクラシーをもつて共和政治の意味に解するものがあるように思ひます。若しもデモクラシーの主義が絶對的に共和政治を要求するものであるとなし、從つて皇室の觀念と相容れないものであるとすれば、日本においてデモクラシーを主張することは、皇室を尊崇する私どもの心もちに反逆するものであります。然らばデモクラシーについて考へるものは、デモクラシーと皇室との關係にも無頓着でゐることができないと思ひます。

このことについて考へるためには先づプラトーの共和論について考へることが便利である。プラトーは共和國の主張者であります。この共和國の思想はプラトーから生れ出でたものであると申すべきであります。彼れの共和論は最も徹底したる共和論であり、たゞに政治上の共和を主張してゐるのみならず、また共産主義をも主張してゐるのであります。彼れの共和政治とは共産主義の意味であると申してよいのであります。彼れは人間の爭ひの最も大なる源因をもつて私有財産及び家族の關係であると申しております。彼れに從へば理想の國家においては私有財産は存在すべからざるものであります。また父はその子を知つてはならない。その子は父を知つてはならない。これがプラトーの共和國の理想であります。父はその子を知らず、子はその父を知らず、凡ての人々がその私有財産を所有せざる社會においては、プラトーに從へば爭ひのない社會組織であります。凡ての人はそれぞれの損得において、ともに喜びともに悲しむものであり、私のもの、彼れのものとい ふ言葉は全く同一の意味をもつてゐるものでなくてはならないといふのであります。

かやうにプラトーは徹底したる共和國の主張者でありま す。そのプラトーの共和國論から近代の共和政治は生れ出でゝゐるといつても差支へないのであります。それにもかゝはらず彼れはデモクラシーの排斥者であります。彼れは世界における最初の共和國の主張者であつたとともに、ま

た世界における最初のデモクラシーの排斥者であります。彼れは貴族政治を主張しております。彼れの政治上の權力と哲學との結合を主張します。彼れは理想主義者であります彼れは智識と道德との同一性を主張します。政治と敎育及び人格樹立とを同一物であると主張します。その立場からデモクラーシをもつて政治の三つの體樣のうちで、最惡のものであると述べております。またその立場から哲人主義貴族主義を主張しております。それゆへに世界における最初の共和國の主張者たるプラトーにおいては、その共和國を直ちにデモクラシーと同一物なりとなし、またはデモクラシーを必然的に要求するものであるとなしてゐないのみならず、却つてその反對に、共和國と少數政治とを結合し、共和國とデモクラシーとを敵對させてゐるのであります。

アリストールはこれに反してデモクラシーと君主主義とを對立させております。けれどもアリストートルがデモクラシーを對立させてをるところの君主主義とは、君主が政治上の主權を掌握し、且つ政治の實際的運用をなすところの主義であります。從つてアリストートルにおいての君主主義とは、專制政體の意味であると申すことができます。いふまでもなく彼れは專制政治と暴民政治とを區別してをります。さうしてこの暴民政治をもて專制政治の腐敗したる狀態であるとなしてをります。けれどもその何れにしても專制政治であり、一人の政治であり、人民がこれに參加することは一切排斥してゐるのであります。それゆへにこの君主々義とデモクラシーとの對立は、專制主義とデモクラシーとの對立であり、この點においては何人も異論を挾むの餘地のないところであります。その對立は君主國とデモクラシーとの對立であります。それゆへにアリストートルの分類からいつてもデモクラシーは必然的に君主國と矛盾するものであると申すことはできないのであります。

近代の立憲國においては、プラトーまたはアリストールの時代におけるがごとき、君主々義は存在してゐないのであります。君王が人民の政治的參加を排斥して、一人の意思による最高、無制限、獨立、の政治上の權利を行使することは近代の諸國家においては、みることのできない事實であります。立憲政體の採用とともに大權政治は理論上にも實際上にも行はれるものではなく、その最少限度においても、立法上の權力は議會が掌握してゐるのであつて、君主が單獨に立法權を運用するがごときは、その例をみざるところであります。それゆへにアリストートルが對立せし

めてゐるところの君主々義とデモクラシーとの關係は、今日の世界における君主とデモクラシーとの關係とは全然その性質を異にしてゐるものと思ひます。

近世においてもモンテスキユーはデモクラシーと君主主義とを正面に對立せしめてゐないのであります。彼れは政治の分類を共和國、君主國及び專制國の三つに分けております。この三つを相對立するものとなしてをります。この政治の分類とデモクラシーとの關係は、彼れにおいては範疇 (Category) の違つたものであります。彼れはたゞアリストクラシーとデモクラシーとの二つを對立させております。このアリストクラシーとデモクラシーとの對立は、共和政治の內部においての分類であります。共和國とは、彼れにおいては必らずしも主權者が全人民であることが必要でなく、人民の一部によつて主權が掌握されてゐる場合にも、共和國なることは差支へないのであります。それゆへにモンテスキユーにおいては、その共和國なるものは必らずしもデモクラシーと一致するものではなく、共和國はデモクラシーの國家であることがあり、またさうでない場合もあるのであります。

また純然たる民主國であるとともに、君主を戴いてゐる國家の實例をも指摘することができます。白耳義はその代表的の國家であります。白耳義の憲法においては、その第二十五條において『凡ての權力は人民より生ずる』と規定して主權在民の大義を明らかに示してゐるにもかゝはらず、その同じ憲法の第二十六條においては、立法權は國王代議院、及び元老院の協定によつて行使せらるべきものであることを規定しておるのであります。またその憲法の第二十七條においては、國王が立法上の發議權をもつてゐることを規定し、更にその二十九條においては、行政權が國王に屬してをることを規定してをります。卽ち民主々義と君主國とは白耳義の憲法においては、兩立のできる性質のものとされてゐるのであります。

この例は獨り白耳義においてばかりではなく、英國においてもその事實をみるのであります。バジョットに從へば英國の主權はその下院のうへにあります。それにもかゝはらずそのバジョットは皇室を尊崇し、特にヴヰクトリア女王の偉大なる功績を稱讃して、女王なくんば今日の英國政府は倒れ且つ雲散するとさへ述べてをります。卽ちデモクラシーと皇室との兩立性を信じてゐることが理解されるの

であります。セエニョボース教授は、民主々義と共和主義とは混同すべからざるものであると述べてゐます。

君主をもつて一切の權力の源泉であるとするの思想は、今日においては一部の時代錯誤者を除いては、何人も信ぜざるところであります。この點は日本の憲法學者の間においてさへ、議論なきところであると申しても差支へないことと思ひます。君主機關說は日本の一大學教授によつて夙に主張せられ、その思想は日本においてさへ危險思想とされてゐないのであります。私どもはそのやうな法律學者の形式論に參加する必要はないと思ひます。彼れ等の議論とはたゞ論理上の遊戲であります。このやうな遊戲によつてデモクラシーの深き精神を批判することは、素より一切見當違ひであります。

前にも述べた通り、デモクラシーとは政治、社會、產業のある形式ではなくして、それ等に通ずる奧深き精神であります。それゆへに如何なる形において發現するともデモクラシーの精神を表現するものである以上は、それは一切デモクラシーそのものであります。

それとは反對に如何なる形において現はるゝとも、民意の眞實なる表現でないものはこれをデモクラシーと稱することはできないことゝなります。君主が存在するや否かといふことは、たゞ國體の問題であります。デモクラシーとは精神の問題であります。卽ちこの二つのものゝ關係は相對立する關係ではなくして、その二つの關係は別種の範疇に屬してゐるものであるのであります。この二つのものを相對立させることは範疇の混同であります。君主國においてデモクラシーを排斥すべしとするの理論は、この範疇の混同であります。

モンテスキューはその政治の分類の源因を性質 nature と主義 Principle との二つに分けてゐます。さうしてこの二つの源因のうちで、主義によるものを重要なる方法であると申してをります。その國の政治または社會及び產業の組織が、デモクラシーの組織であるかどうかといふことは、このモンテスキューの指摘してゐる通り、主義による區別であります。卽ち形のうへの區別ではなくして、主義においての區別であると申すことができるのであります。

既にデモクラシーが形の問題でなくて主義の問題であり、また精神の問題であるとすれば、そのデモクラシーが如何なる形において表現されるかといふことは、それがデ

モクラシーであるかないかの問題とは無關係であります。例へていへばナポレオン三世が帝位についた場合には、彼れは國民總投票の方法 Plebiscite によつてゐるものであるがゆへに、彼れは一見して民主國の大統領と撰むところなきものであると申すこともできないのではない。けれどもこの見方はたゞ形式のうへから主義を批判するものであり、もつと精密にいへば、形を批判して、それが主義の批評となるものであるとするの見方であります。ナポレオン三世は如何なる方法において帝位につかうとも、彼れは民主主義者ではなく、彼れの政治はデモクラシーではなく、その制度はデモクラシーの制度ではないのであります。これに反して例へばアブラハム・リンコーンのごとき政治家がたとへ如何ようの權力を與へられようとも、その權力の大小といふことは、彼れがデモクラットであるかどうかといふこととは無關係であります。彼れがデモクラットであるかどうかといふことは、たゞその奉ずるところの精神が何であるか、またその精神が實現されつゝあるかどうかの問題であります。

デモクラシーの政治は民意の支配する政治、民意が一體として表現せらるゝ政治であります。その表現の方法はデモクラシーのたゞ表現の方法でありデモクラシーであるかないかの問題とは無關係であります。君主を戴くことは、大統領を戴くことゝ同じく、デモクラシーであるかないかとは無關係であります。君主にはデモクラティックの君主もあり、その反對の君主もあります。古代から近世へかけての君主々義なるものは、明らかにデモクラシーの反對者であります。何となればそれは民意の一切の支配に反對し、自由平等の諸制度を妨げ、人民をエクスプロイットすることによつて、君主の獨裁權を運用してゐるものであるからであります。けれども君主に對する國民的の傳統が深くその國民の心の價値を構成し、その君主が人民のこの價値を體現し、それが民意の支配と矛盾せざる場合においては、その君主はデモクラティックの君主であり、その國の政治はデモクラシーの政治であることにおいて、何の疑ひもないのであります。白耳義の皇室のごとき、英國の皇室のごとき、また日本の皇室のごときものは、この種の名譽ある皇室であると申すべきであらうと思ひます。

國家の體裁は造らるべきものではなくして、生長するものであります。少くとも歴史的の國家においては、大體において生長するものであると申すべきであります。日本の

皇室のごときは、何人が企てたるものでもなく、何人が約束したるものでもなく、その皇室の德的卓越によつて自然にわれ等の民族のうちに生れ、その民族の間に自然に生長したるものであります。從つて日本の皇室はその國民の心の價値の體現であり、その民族の歷史上における德的價値の表徵であります。他の言葉をもつていへは、日本の民族生活のうちにおける何ものよりも強き傳統であります。日本の皇室が永ければ永きほど、それは根つよき傳統の證據であり、また德的價値の卓越せる證據であります。その存在はデモクラシーの思想とは何の矛盾するところもなきのみならず、そのデモクラシーの最も美しき發現の一面であると申して差支へないことゝ思ひます。然り、傳統とデモクラシーの結合の美しさであります。

デモクラシーが必らず共和政治でなければならないとすることは、デモクラシーが精神であり、心の質であることを解せざる人々の言葉であります。日本においてデモクラシーがその國體と矛盾するものであるとするの思想は、このデモクラシーが心の質であることを解せざるものであるそのうへに、日本の皇室が、われ等の國民生活の卓越せる傳統 tradition であることを理解せざる人々の言葉であります。國體は擁護せらるべきものではなく、自然に生長すべきものであります。皇室に對する忠愛の養成は國體の擁護なる思想によつて行はれるものではなく、人々がこの傳統に目醒めることであります。從つて自身の心について目醒めることであります。また從つて人々が眞實なるデモクラシーについて目醒めることであります。

普通選擧運動

今年の政界において、何ものよりも多くの注意を要するものは普通選擧の運動である。その運動は未だ多くの政黨の贊同するところとなつてはゐない。なつてゐないのみならず、それ等の政黨にとつては、とても贊成のできないことであるかも知れない。それ故にこの運動は今年は失敗に終るであらう。來年もその來年も失敗に終るかも知れない。失敗に終るのが當然である。このような大運動が、一年や二年や三年で成功するといふことは、世界の歷史において見ざるところである。

チヤーチストの運動は一八三二年の改正に不滿のために起された普通選擧の運動である。その運動は一八四八年ま

で繼續された。一八三九年には倫敦において普通選擧を要求するための「勞働者議會」Workingmen's Parliament が開かれてウエストミンスタアの國會を壓迫しようとしたこともある。一八四八年にフヒアガス・オコンナアがチャーチスト一派を率ゐて國會に請願の運動を企たてた時には、その普通選擧の請願に署名したものは二百萬人と稱せられた。その請願書だけでも車五臺に一杯に積み込まれてあつたといふほどであつた。それほどの大運動があつたのにもかゝはらず、英國に於ける普通選擧の運動は、その實現には八十年間を費してゐる。それだけの時間と苦心とが必要であつたのである。

それ故にわれ〵〵が普通選擧を要求するにしても、一夜の演說で成功すると思つたら大違ひである。學生の一日のデモンストレーションで成功すると思つたら大違ひである。その戰は少くとも四年五年を要する。要するものと思つてかゝらなくてはならぬ。その運動は一時的では一切無効である。一時的の働きで成功するものは暴動があるのみである。革命は決して一時的のものではなくて多年の歷史的醞釀の結果である。われ〵〵の要求するところのものは革命ではない。けれども普通選擧の要求は、今日の政治的勢力の分布に對して根本的の變革を要求することである。たゞの選擧法の改正ではなくして、政治改造の基本的の要求である。われ〵〵の要求するところのものはこの政治の改造である。從つてまた社會制度及び產業制度の改造である。資本家本位の社會は不健全なる社會である。その社會は人民の最大多數をもつて「公民」から區別するところの社會である。最大多數の人民はたゞ資本家のエクスプロイテーションに甘んじてゐるのほかはない。彼等は社會的に平等の機會を與へられてゐないことは、その各人の與へられたる天賦を發揚することができないばかりではなく、また最大多數の人民が貧困に苦しんでゐるばかりではなく、それ等の大多數の人民に對して、それ等の人々の社會的義務 Social duty を盡すことの機會を與へないといふこととなる。また從つて社會それ自身の進化と創造との要求を妨ぐることとなるのは勿論である。われ〵〵が最大多數の人民の階級――プロレタリア階級の解放を要求することはたゞプロレタリア階級の利己心に滿足を與へようとするのではない。それ等の最大多數の人民に自由を與へるとともに、これ等の人民を眞實なる社會組織のうちに組み入れようとすることである。

即ち社會連帶の組織のうちに投入しやうとすることである。然り、われ〵〵の要求するところはこの社會連帶の要

求である。

われ〳〵は社會の一階級に着目するものではない。全體の社會に着目するものである。またわれ〳〵はある一個人に着目するものではなくして全體の社會または社會心Social mind に着目するものである。この意味からいへばプロレタリア階級の覇權にも反對する。それと同時にブルジョア階級の覇權にも反對する。一階級の覇權は他の階級の迫害を意味するものであり、從つて社會連帶の組織を妨げるものであるからである。

今日の制限選擧はブルジョアの覇權を意味するものである。そのブルジョアの覇權は、今日の日本における社會上または産業上のエクスプロイテーションを政治上に確立することである。社會上または産業上の不平等をもち來つてまた直に政治上の不平等となさんとするものである。その制度の不合理のものであることは勿論である。その制度を不合理であるとすることは、十圓の納稅資格を五圓に、三圓に、二圓に引下げることではない。これを五圓にし、三圓にし、二圓にすることは、たゞブルジョア階級の政治的膨脹を意味してゐることである。たゞ特權階級の膨脹を意味してゐることである。その改革の意味は社會的または政治的不平等を除き去ることに一歩を進めることではなくしてその反對である。その反對にブルジョア階級を膨脹せしめることである。それゆへにわれ〳〵は十圓の納稅資格を不當として反對するとともに五圓、三圓、二圓の納稅資格をも同時に不當として反對するものである。

それのみではない。五圓、三圓、二圓にすることは、農民の有權者を增加することである。地租による有權者を多くすることである。殆んどそれのみを多くすることである。この點は近代文明の精神とは正反對である。

人口の都會の集中は産業革命の直接の影響である。産業革命の行はれてゐる凡ての國家においては、例外なしに人口が都會に向つて集中する。ウエッヴの計算してゐるところによると西歐、米國、濠洲等においては、都會の人口は全人口の半數に達してゐる。最も進歩した國においては都會人口は全人口の四分の三にまで達してゐるといふことである。日本においてもその趨勢は素より免れない。卽ち勞働者の都會集中である。都會における無權者の膨脹である。この膨脹したる無權者に選擧權を與へることが、選擧權擴張の要求そのものではないか。この痛切なる要求に耳をかさずして、地方の農民に選擧權を擴張してゆくことに、果して何の合理的の根據があるか。

その結果はたゞ農民的勢力の增大があるのみである。政

治勢力の不均衡の狀態をいよ〳〵激しくして、agrarians の勢力の不當の膨脹を來すことである。政治勢力の均衡を目的とする。選擧權擴張の目的とは反對である。その正反對である。このような改正は、世界の歷史にも類例を見ざるところの不當なる改正である。

たゞに不當であるのみならず、その結果は保守主義の勝利を意味する。農民黨の增加は保守主義の勝利を意味する。政治の改革とは反對である。然り、その正反對の結果である。

われ〳〵はこれ等の不當なる一切の要求に反對する。政友會の案にも、憲政會の案にも、國民黨の案にも反對する。それ等のブルジョア黨または農民黨の一切の提案に反對する。さうして普通選擧を要求する。デモクラシーのために普通選擧を要求する。社會連帶のために普通選擧を要求する。

この要求は懸値のない要求である。一切懸値のない要求である。われ等の要求する最低限である。然り、ミニマム・デモクラシーの要求である。從つて妥協は凡て排斥する。妥協の餘地は何れのところにも餘されてはゐない。

あるものからいへば、普通選擧は日本にはまだ早過ぎるといふかも知れない。然り、早過ぎるといふのが彼等の隱れ場所である。正面からの反對ができないために、普通選擧は早過ぎるといふのである。けれどもわれ等から見れば、普通選擧はもう遲過ぎる。日本にも遲過ぎる。一切の國家に遲過ぎる。少くとも産業革命の行はれてゐる諸國家には遲過ぎるといふのが至當であるのではないか。

政府が若しも社會の凡ての階級に公平であるものとすれば、政黨が社會の凡ての階級に公平であるとすれば、この道理を認めなくてはならない筈である。けれども今の政黨は、みな公平な政黨ではなくしてブルジョアのための、或は地主のための Partisan である。彼等の代表するものは國民ではなくしてたゞ一部の特權階級である。

このような Partisan に向つて普通選擧を要求することは、その政黨に向つて自殺を要求することである。われ〳〵の要求するところはこのような政黨の自殺である。それ故にそれ等の政黨がわれ〳〵の要求を喜んで迎へないのは素より當然のことである。われ〳〵は初めからこの點を豫期してかゝらなくてはならぬ。それゆへに普通選擧の前途には非常な難關が橫はつてゐる。その難關は樞密院でもない。貴族院でもない。元老でもない。軍閥でもない。官僚でもない。最も先きにくる、さうして最も大きな難關は今日の政黨である。政友會がそれである。憲政會がそれで

ある。國民黨がそれである。われ／＼はその難關と妥協することはできない。それに信頼することは素よりできない。たゞその難關を突破するの一事があるのみである。

日本の今日の時代は、選擧權の問題から見ると、丁度一八三二年の英國の時代と同一の程度、同一の意味の時代に立つてゐる。その一八三二年に、ブルジョアのための選擧法改革案が通過した後に、ロードジョン・ラッセルは、この改革をもつて改革の第一歩ではなくて最後 final のものであるといつたことがある。日本の政黨も、五圓案、三圓案、二圓案が「最後のものであると考へてゐるかも知れない。けれどもラッセルの時代が去つたがごとく、政友會、憲政會、國民黨の時代も去りつゝある。さうして普通選擧の時代が來りつゝある。われ／＼は政友會、憲政會、國民黨の顚覆することを意識しつゝ、またそれを希望するがゆへに、普通選擧を要求する。眞實なる日本、眞實なる日本人の日本はかくして來る。

デモクラシーの諸運動

デモクラシーの諸運動の起つてきたことは、今日の日本において最も著るしい現象である。丁度一八四八年を迎えたヨオロッパのそれのように見える。日本が初めて新時代にと入りつゝあるのである。新時代がわれ等の前に躍動しつゝあるのである。

黎明會の諸君の運動にしても、國際日本協會の運動にしても、また大學の學生の間における新人會と稱するものの運動にしても、みなデモクラシーの基礎のうへに立たんとするものである。

私どもはそれ等の諸運動を歡迎する。それ等の諸運動がどれだけの力をもつて、信仰をもつて、決心をもつて立つたものであるかはわれ／＼の關知しないところであるにしても、またそれ等のもの、半年、一年の後に泡沫のごとくに消えさるものであるにしても、それの起つたといふことだけが、現代日本のトレンドを物語るものとして、それのみに私どもの滿足の價が滿たされる。

けれども私どもは有體にいひたい。私どもは一切の新運動に同情する。私どもは一切のデモクラシーの運動に對して、それが他の運動と對比されてゐる場合にこれに同情することができる。けれども有體にいへば、私どもは今日までの一切のデモクラシーの諸運動が泡沫のように消えうせてしまうことを望むものである。

人々の心はデモクラシーを求める。その求めるところのデモクラシーとは、たゞ形式ではない。たゞの形骸ではない。魂である。魂でなくてはならない。魂はたゞ人々の飾り氣のない自覺からのみ生れてくるものである。

學者の慰みの運動として、政治家の人氣取りの事業としては、デモクラシーはあまりに尊き魂である。デモクラシーとは人氣取りの援助者ではなくして、その破壞者である。偶像破壞において、學閥破壞において、老人閥破壞において、名士閥破壞において、生れいでるところの魂である。この魂は、たゞ飾氣のない、偽りのない、さうしてデモクラシーの信仰の溢れるものの所有とすることを求める。

虛偽のデモクラシーが覆滅された時に、眞實のデモクラシーが生れる。私どもは國體擁護運動とともに虛偽のデモクラシーの諸運動を葬る。

國際協同及び産業協同へ

普通選擧運動とともに新に起つてきたものは勞働運動である。新に起つたといふよりは普通選擧運動が一つの勞働運動である。有力なる勞働運動である。勞働運動の政治的發現として普通選擧が生れてくるのである。その政治上において普通選擧を求むるの聲は、社會的または産業的にも勞働運動を求むるの聲でなくてはならぬ。

今日の世界においては、普通選擧は最早や問題ではない。世界における最も反動的な諸國家であつたロシア、フロシアの舊制度が瓦解した以上、普通選擧のことは、今日の文明國においては問題ではなくなつてゐる。それを問題としなくてはならない不幸なる人民は、たゞ日本と支那と土耳古があるのみであるといふことができる。けれども社會的または産業的の勞働運動は、今日以後の世界においては、凡ての問題のうちの最も基底的のものである。凡ての問題のうちの最も中核的のものである。

この問題は、今日の講和會議においても、國際聯盟の問

題とともに、最も重要な、さうして最も意義の深い問題である。

國際聯盟は國と國との問題である。國と國との爭ひを解決すべき問題である。勞働問題は資本と勞働との問題である。資本家と勞働者との爭ひを解決すべき問題である。それ等のものは世界の全人類の問題である。一國の問題でもなく、一民族の問題でもなくして全人類の問題である。全人類の問題は全人類の問題として解決されなくてはならぬ。全人類のために解決されるものでなくてはならぬ。

全人類のために國家と國家との關係を改造することは、今日までの征服と被征服との關係から、國際的機會の平等へと行くことである。全人類のために資本と勞働との關係を改造することは、資本的征服の社會及び産業から、社會的または産業的機會の平等へと行くことである。

今日までの世界は、國際的にはアナーキーの世界であつた。軍國主義はこの世界においての征服者であつた。資本主義的軍國主義はこの世界においての征服者であつた。世界はその征服するまゝに任せて置くよりほかにはなかつたのである。たゞに國際的にさうであつたのみならず社會的または産業的にも、今日までの世界はアナーキーの世界であつたといふことができる。その世界は無組織の世界であり、機械と工場と銀行との支配する世界であつたのである。卽ち社會的または産業的にも征服と被征服との世界であつたのである。

この征服と被征服との關係から新世界へゆくことは、國際的には民族解放にゆくことである。卽ち民族主義にゆくことである。貪慾なる征服的大國家主義から民族線國家の理想へとゆくことである。卽ち國際的協同 International co-opration へゆくことである。

産業的または社會的の關係からいへば、その征服被征服の狀態から勞働者解放へとゆくことである。貪慾なる資本主義的覇權から産業協同または社會協同へとゆくことである。

現代精神の求むるところは、破壞ではなくして協同である。個人主義ではなくして協同主義である。政治的、社會的、産業的、または國際的アナーキーの要求ではなくして、そのアナーキーの世界を葬つて、政治的、社會的、産業的または國際的協同の新組織へとゆくことである。

組織とは强制の意味ではない。機械觀の體現ではない。自由の剝奪を意味するものではない。丁度その反對である。眞の組織とはたゞ自由の保障としてのみ存在するものである。强制は無組織を意味する。組織は自由を意味する。

それ故に國際的協同の第一歩は小民族の解放である。卽ち民族線 National line の回復である。産業的または社會的協同の第一歩は、プロレタリア階級の解放である。勞働者の人格の回復である。

またそれ故に國際的協同とは五大國本位の國際聯盟ではなくして、凡ての民族のための國際聯盟である。産業的または社會的協同といふことも、資本家のための溫情主義ではなくして勞働者の人格の基礎のうへに立つところの新組織でなくてはならぬ。

われ〳〵は眞實なるリーグ・オブ・ネーションスを求める。リーグ・オブ・フリー・ネーションスを求める。またそれとともに眞實なる社會的及び産業的協同を求める。卽ちプロレタリア階級の解放を求める。さうしてその解放されたる狀態においての協同を求める。さうでなくては、國民と國民、資本と勞働との爭の絶ゆることは永久にわれ等の地上に來ることはない。

ジョージ・バーンスは曰く

國際産業委員會とは、講和會議に附屬するものである。それは勞働者、雇主、政府の代表者の三要素から成立つらのである。けれども眞實なる勞働者の代表者は、ヴエルサイユには集まらずしてベルンに集まる。ベルンの國際勞働黨または社會黨の會議において、眞實なる勞働階級の主張は代表せられるわけである。それ故にヴエルサイユにおける國際産業委員會は、勞働階級のためのものであるといふよりは寧ろ official のものである。

それにもかゝわらず、今日の日本からいへば、この委員會の設けられたことは、由々しき重大な要件である。國際聯盟に加入するかしないかといふことは、日本の現狀にとつては、それほどの變革を意味しないものであるといひえられるにしても、産業委員會に加はることは、日本の社會的及び産業的組織のうへにおける一大變革を要すことである。

この委員會においてウヰルソンの地位を取るものがゴム

バースであるとすれば、ロイド・ヂョーヂの地位を占めるものは明らかにヂョーヂ・バーンスである。そのバーンスは、英國勞働黨の裏切り者である。勞働階級の側からいへば、卑しむべき裏切りものである。けれどもそのような保守的なバーンスの要求するところでさへ、日本の産業組織に對しては、根本的の大改造を意味してゐるものである。

彼れの第一に要求してゐるものは勞働組合の自由である。その次ぎに要求するものは最低賃銀及び最低勞働時間の要求である。第三に求めるものは勞働休日の要求である。即ち一切の自由放任主義に向つて破滅の宣告を與へようとすることである。一切の Sweat-shop を絶滅しようとすることである。もつと他の言葉をもつていへば、ゴムバースの要求してゐるとほり、勞働者を商品 Commodity として取扱ふべき一切の舊制度を改造することである。即ち勞働人格へとゆくことである。(デーリー・クロニクル一月一日號による)

バーンスの主張がどれだけの程度において實現されるものであるかについてはこゝに何んとも斷言することはできない。けれどもこれ等のうちの可成り多くの部分は、歐米の諸國においては、既に全部またはある程度まで實現された問題である。その或ものは、日本に對して殊更らに持ち出されたと思ふような部分もある。ゴムバースの要求もまたこれである。日本の政治家はこの點についてどのような考があるか。國際聯盟について狼狽した日本の政治は、それ以上の狼狽をもつて、この産業委員會の提案に面しなくてはならぬ。さうしてその決議に盲從することを餘儀なくさるるであらう。

勞働組合の自由

川村警保局長の名によつて二月十三日の各新聞紙に發表されたものは、勞働組合についての、原内閣の方針を明らかにしてゐるものであるといふことができる。それによつて見れば、勞働組合の組織は自由であるといふ。果してその通りであるか。

その通りであるとすれば、勞働組合の組織は自由といふことが、果して何を意味してゐるかを考へて見る必要がある。

その第一に來るところのものは勞働組合主義についての考察である。トレード・ユニオンを認めることは、勞働組合の主義(Trade Unionism)を認めることでなくてはなら

ぬ。トレード・ユニオニズムは基礎である。トレード・ユニオンとはたゞそのトレード・ユニオニズムのうへに立つてゐるものであるからである。勞働組合の組織の自由を認めることを宣言した原內閣は、果してこの點についての用意があるか。

その第二に來るところの問題は、勞働組合の働きについての考察である。卽ち Trade Union Function を認めることの問題である。勞働協約、仲裁、標準率、相互保險のメトードを認めることの問題は、勞働組合の組織について切り離すことのできないものであることは勿論のことである。政府はこの點についての用意があるか。

少くともこの二つのものは、勞働組合の組織と切り離して考へることのできないものである。勞働組合の組織なるものもまたこの二つの點と切り離しては考へることのできないものである。それゆへに勞働組合の組織の自由を認めるといふことは、それと同時に勞働組合主義並にその機能を承認することでなくてはならぬ。これを承認するものでなくては、勞働組合の組織の自由を認めたといふことはできない。それは丁度政黨の組織を認めて、その政治運動を承認しないのと同じことであるからである。この點について政府はどう考へてゐるか。彼れが勞働組合の組織の自由を認めたことは宜しい。それとともに彼れはその勞働組合主義及びその機能の自由をも認めなくてはならぬ（十四日）

右黨と左黨

ロバートミヒエルスの言つた如く、正しい意味に於て、團體組織は寡頭政治への傾向を含んでゐる。と論ずる事が出來る。而して、同時に寡頭組織が次第に團體政治への傾向を含んでゐるといふ事も言ふ事が出來る。例へば、政黨の組合、若しくは其他あらゆる團體に於て貴族主義的な傾向は極めて明瞭に顯はれてゐる。政黨が少數幹部の政黨となり、組合が少數幹部の組合になる事は、事實が之を雄辯に物語てゐるでは無いか。

近代社會生活に於ける特徵は、最初二三の少數にのみ限られてゐた政治に干與する特權が次第に多數人民の手に擴大されてゆきつゝある事である。然し乍ら、是が更に數步を進めて團體中心、（政黨、組合）の時代に入ると忽ち此傾向が一變する。而して、幹部の勢力が次第に增大して來る。

此推理を其儘適用する時、右黨と左黨との何れが眞に右黨である乎。何れが眞に左黨である乎といふ區別はつかなくなる。何となれば左黨が其最極端に進んだ時は、最極端の右黨に近いた時であるからである。而して其實例は吾々の周圍に澤山轉がつてゐる所である。

吉野博士の誤謬を指摘して普通選擧の主義を論ず

室伏高信

（一）

普通選擧論の行はれることは今日の日本においての一つの流行であります。あらゆる流行のうちにおいて最も美しい流行であると思ひます。私はこの美しき流行に對して興奮することなくして考へることはできないものであります。普通選擧についての諸運動の模樣が日日の新聞紙を通じて報導されつゝあるのをみて、私のごとく强き興奮を感ずるものはまたとないことであることを思ひます。私はそのやうな心をもつて普通選擧の名に憧憬することにおいて、何ものにおいてよりも私自身の純眞を感じます。その普通選擧とは、一切の古き日本を改造して日本特有の皇室的傳統のもとに、新日本を創造することであります。それは單に選擧法の改正ではなくして國會的デモクラシーの建設であり、そればかりではなく、社會的または産業的にも、われ等の日本を改造することであり、一切のわれ等の生活のうへに新日本を建造することであり、從つてデモクラシーの日本を始めることであるからであります。然り、デモクラシーの第一歩であります。デモクラシーの第一歩は普通選擧から始まります。組織的民主々義は普通選擧からその第一歩を進めます。オリガアキーとプルートクラシーの古き日本を厭ふものは普通選擧を愛します。デモクラシーを愛するものは普通選擧を愛します。暴民の政治の危險から免れ、皇室的傳統のものに組織的、秩序的、協同的、社會連帶的の新日本を開

造しようとするものは普通選擧を愛します。その意味からして私は普通選擧を主張します。

（二）

普通選擧は日本に適しないものであると述べる人があります。今日までの日本においては普通選擧はもとより無かつた。その日本には普通選擧は適せざる制度であつたといふこともできやう。その制度は日本に生れたものではなくして、フランスに生れたものであり、東洋に成長したるものではなくしてヨオロッパまたはアメリカに成長したものである。その意味においては日本と無關係のものであります。若しも日本の一派の時代錯誤者の指摘してゐるように日本の國體が、單に美しき皇室的傳統でなくして、神權說的の國體であるとすれば、普通選擧は日本には適せざる制度であり、主義であり、議論であります。こういふ立場からの普通選擧反對論は、私どもが屢々聽かされたところであります。私どもはさういふ日本を嫌ひます。またさういふ日本を信じません。私どもは神權說が近代の初頭において革命の忌はしき出來事によつて葬り去られた事實をみます。そのやうな忌はしい結論に行くべき運命に纒はれてゐる神權說とわれ等の日本とを結びつけやうとする、一派の愚鈍なる人々の立場に反對します。さうして美しき皇室的傳統のうちに日本の國民生活の精華をみます。その精華こそ不朽のものであれと願ひます。その願ひはデモクラシーの願ひとは少しの衝突もないことと思ひます。私どもはその立場から普通選擧をみます。またその立場から普通選擧が日本に適するものであることを思ひます。その主義はフランスに適したるとおなじやうに日本の國民にも適するものと思ひます。それは一切の人民に適します。デイケとアイドウスとを一樣に且つ平等に與へられた凡ての人間の集團的生活において、普通選擧はデモクラシーとともに適します。私は心からさう考へてゐます。さう考へてゐるがゆへに、普通選擧の主張をなすうへにおいて私自らを僞るの必要はないと思ひます。普通選擧を愛するものはその純眞なる姿、純眞なる精神を愛します。その愛するところのものは形ではなくして心であります。それが普通選擧よりもほかの形において現はるゝとも、それは私どもの愛着にうら切るものではないと思ひます。その普通選擧の主義を僞はり、その主義を誤解し、たゞ何の深き理解

もなくして普通選擧を主張してゐるものは、日本の國體に何の深き理解もなくして、徒らに國體論を高唱してゐる一派の時代錯誤者とおなじやうに、普通選擧を誤まるものであり、國體を誤まるものであり、その殘るところのものはたゞ虛僞と不正實と輕薄とであります。私はその一切を排斥します。私は眞實なる私を考へます。私は眞實なる日本を考へます、また眞實なる普通選擧を考へます。普通選擧はデモクラシーの組織の第一步であります。

（三）

普通選擧を求むるの聲は各方面に揚がつてゐます。私はこれ等の普通選擧の要求に對して、ナポレオン三世が、人民の聲は神の聲であると叫んだとおなじやうに、それが神の聲であることを信じたいと思ひます。然り、普通選擧を要求するの聲は、神の聲、人民の聲、自覺せる人民の心のどん底からの叫びであらねばならぬ。

（四）

さういふ心もちをもつて普通選擧についての日本の學者または學者と稱せらるゝ一派の人々の意見をみます。普通選擧に興奮してゐる人々、デモクラシーの組織の第一步としてその心を踴らせつゝある人々は、それ等のものによつて强い恥辱を感じます。うら切られたことを感じます。普通選擧の反對論者からではなくして、普通選擧の主張者であるとせらるゝ、人民の聲の代表者であるとせらるゝ、さうして神の聲の代表者であるとせらるゝ、またさうして日本における――この小さい日本における最も卓越せる政論家であり、政治學者であるとせらるゝ人の意見によつて、私どもは心に恥辱を感じます。日本の民衆のための恥辱を感じます。日本の政論及び政治學のために恥辱を感じます。普通選擧を愛するものはその普通選擧のために心を傷めます。

（五）

法學博士吉野作造氏の日本の政論壇におけるその優越なる立場を認めます。私はその人に對して最も多くの尊敬をはらふことを期します。その人は、今日までの政論の舞臺においては決して普通選擧の主張者ではない。私の承知してゐる範圍においては、その人は制限選擧の主張者であります。彼れが五圓說を主張したことは私は忘れずにゐます。私はその嘗て五圓說を述べたことを咎めることをしません。その五圓說でさへも、二年三年五年の前には、日本においてはデモクラットの立場であるとされてゐます。然り、安價なるデモクラットであります。けれども私はまだ吉野博士を信じてゐました。其人は日本における民主主義の代表者とされてゐます。その人の民本主義は、私どもの眼にはデモクラシーの極右端であります。強いてデモクラシーといひ得るならば、その人の民本主義は極右端のデモクラシーであります。それでもまだ私は吉野博士を信じてゐました。その人の民本主義とは、その人自身の註解によれば、選擧權の擴張といふことに歸着するものゝやうであります。そのやうなデモクラシーは今日においてはレーゾン・デートルを主張することのできないデモクラシーであります。カアペンターは國會におけるデモクラシーは、たゞデモクラシーの一幻影であると述べてゐます。そのデモクラシーの幻影から見ても、吉野博士の選擧權擴張論は、更に一層狹くして小さい領分のうちに蹐跼してゐます。幻影のまた幻影であります。デモクラシーの幻影のまた幻影であります。そのやうな幻影を捕へてデモクラシーであるとしなくてはならない日本は、不幸なる日本であります。そのやうな國に移されたるデモクラシーは吉野博士によつて狹くなり、小さくなり、薄くなつてゆきます。それでもまだ私は吉野博士を信じてゐました。彼れはたゞ世を僞るためのタクテイックであると思つてゐました。私は日本の學界におけるたゞ一人のデモクラットとしての吉野博士を最後まで信じてゐたいのであります。

(六)

その强い信仰の心をもつて吉野博士の選擧權擴張論を讀みます。枝葉の點は私においてはどうでもいゝことであります。私の問題とするところは主義の問題であります。普通選擧の主義の問題であります。前にも述べた通り吉野博士の

幻影民本主義の全内容は、選擧權の擴張といふことであります。』それゆへに吉野博士といふことの印象は民本主義の印象ではあるべからずして選擧權擴張の印象であるべきであります。その印象をもつて吉野博士の選擧權擴張論を讀みます。一層の重味を感じます。それのみではない。その選擧權擴張論の冒頭においては、私どもの心を興奮させるに充分なる刺戟劑があります。彼れは次のように述べてゐます。『選擧權擴張の機運は、今日大いに熟せるを認める。』『たゞ、然しながら、吾人のなほ甚だ遺憾に耐へざるは、次の二點において今日の論議が從來のそれに比して餘りに著しき進歩をみてゐない點である。一つは擴張の主張になほ大いに徹底を缺くものあることである。』その通りであります。選擧權擴張の機運は大いに揚つてゐます。それにもかゝはらず、その擴張の主義においては大いに徹底を缺いてゐます。その主義においては大いに不徹底を極めてゐます。私は吉野博士の言葉をその儘信じます。そのまゝ信じつゝなほ吉野博士の論文の次の文句を讀んでみます。『我が國今日の選擧法改正に關する問題を吟味してみやうと云ふのが余の本編の目的である。……いろ〳〵の人からいろ〳〵の説明が公にされた……この問題の全般に亘つての比較的まとまつた意見には、余の寡聞なる、今日までまだ接してゐない』彼れはさう斷言してゐます。可なり大膽な斷定であります。その大膽な斷定をそのまゝ信じます。さうしてその次にきたる彼れの論文の如何にまとまつたものであるかを期待する心もちの刺戟をうけながら更にその次の文句を讀みます。余は最近この問題に著しく興味を感じたといふ前おきのつぎにこういふ一節があります。『余は東京帝國大學法科大學の特志なる數名の學生諸氏と謀つて先頃來この問題の包活的研究を企てゝゐる。』こゝまで讀むできた私は吉野博士の論文が如何に「まとまつた」ものであるかを期待せずにはゐられなかつたのであります。それからいよ〳〵本論に入ります。その本論に入つてから私の凡ての興味、私の凡ての信用のうら切れたことをこゝに斷言します。(中央公論一月號――吉野作造「選擧權擴張問題」參照)

(七)

吉野博士が選擧權擴張論の根據として想定してゐるものに三つの種類がある。その一つは天賦人權論であります。そ

の二つは博士の所謂第三階級說であります。第二がソリダリテ、ソシアールであります。この三つの說について一々說明と批評とを與へてゐます。その說明と批評とは先づ天賦人權說から始まります。彼れに從へば天賦人權說は既に崩壞されたる思想であります。私はこの點においては吉野博士とその說を同じくするの光榮を擔ひます。然らば天賦人權說とは何であるか。彼れに從へば天賦人權說とは各個人の絕體的自由を主張する說は、彼れに從へば十八世紀の末に主としてフランスに起つた說であります。さうしてこの個人の絕體的自由を主張する說である。私はこの一點をみて、吉野博士の說明がその最初の一頁から誤謬をもつて始まつてゐることを指摘しないではゐられないのであります。卽ちこの天賦人權說なるものはフランスに起つたのではなくして英國に起つたものであります。その起つたのは十八世紀においてジョン・ロックがこれを唱へてゐるばかりではない。ホッブスも、ベーコンも、ヒュームも等しくこれを唱へてゐるところの說であり、その哲學は英國特有の哲學であります。これを汎くいへばその哲學は、唯名論であり、自然主義であり、個人主義であります。これを權利または法律の關係においていへば、自然法及び自然權の說であります。吉野博士がフランス特有の文化として說明してゐるところの社會契約の說も、フランスに起つたのではなくて英國に起つた學說であります。ロック（1632—1704）は既にその Treatises of Government のうちにおいてこれを主張してゐます。これ等の說がヴォルテールやディデローや、ルソウによつてフランスに紹介されたのであります。それゆへに天賦人權說が十八世紀の末に起つたといふことが一つの誤謬であり、それが「主として」フランスに起つたといふことが第二の誤謬であります。（中央公論二月號七頁參照）

（八）

この天賦人權說は前にも述べた通り唯名論であり、從つてアリストートル說であり、また從つて個人主義であります。政治的民主々義はこの個人主義から出發してゐます。私はその個人主義には反對します。個人において自由を求むるの主義には反對します。その個人主義を政治上においても最も強く力說したものは、私の記憶においては、明治の初年にお

いては馬場辰猪であります。大正の初年においては吉野作造氏であります。吉野博士の民本主義なるものはそれが如何なる主義であるかは理解に困難なことがないことはない。彼れの説明するところによれば、それもまたデモクラシーのある一派であります。そのデモクラシーの分類の煩項なることは私どもの未だ世界の何人の分類の煩項からもうけたことのないほどの高度であります。私どもはさういふ一切の煩項にして無用なる分類を避けます。そのやうな分類においてそのデモクラシーとは、それがデモクラシーと稱するとにかゝはらず、私どもの眼にはたゞ講壇デモクラシーとして映ずるのみであります。その民本主義についての批評と分類とは一切これを避けます。けれどもこゝにどうしても一言しなければならないことは、その民本主義なるものが政治的自由主義のうへに立つてゐることであります。即ち個人主義のうへに立つてゐることであります。この點が吉野博士の民本主義の根本の思想であります。その根本の思想であることは彼れが屡々述べたところであり、こゝに一々例證するの必要もないことであると思ひます。彼れはこの政治的自由のうへにその民本主義の哲學を組織します。彼れの煩項なる分類法に從へばその民本主義もまた二つに分れます。その一つは自由尊重主義であり、他の一つは選擧權擴張主義であります。この二つのものは形において二つであり、その根底においては一つであります。『第二の意味の民本主義はもと第一の意味の民本主義から起つたものである。』これが吉野博士自身の説明であります。(中央公論大正七年、四月號九三頁）即ちその選擧權擴張論の根底は自由尊重主義であります。その自由尊重主義とは、彼れ自らの解説によれば、個人主義であります。即ち個人主義的自由主義は二つのものとして考へることができます。一つは極端個人主義であります。無政府主義であります。その二つは政治的自由主義または政治的個人主義であります。哲學的には唯名論であります。ホッブス、ロック、ヒューム、ベーコンの英國派の主張であり、フランスに輸入されてヴォルテールの説であり、ルソウの説であり、ディデローの説であり、百科辭典派の説であります。その説はルイ十四世の暴政に興奮してギロチンの血の革命を躍らせてゐます。即ち吉野博士の謂ふところのフランス革命の哲學であります。更にも一度吉野博士の言葉をかりていへば、天賦人權説そのものであります。その説は普遍を否認します。個人を中心とします。個人をもつてあらゆる生活の中心とします。その小さい

考へのうちに自由を發見します。小さい自由を發見します。その自由とは貧乏の存在に氣の付かない自由であります。資本家にエックスプロイテイトされることの自由であります。ラムセイ・マクドナルドの言葉をかりていへば、往來を歩むことの自由、さうして飢ゆることの自由であります。そこに個人主義的自由の特質が存在します。これを政治的自由Political liberty または政治的自由主義 Political liberalism と申します。この立場がフランス革命の立場であります。人權及び公民權宣言の立場であります。遡つていへばアメリカ獨立宣言の立場であります。もつと遡つていへば英國の權利章典の哲學であります。これを後期の英國派哲學に求むれば、ミル、スペンサーの立場であります。これを今日の日本の政治學者の一人についていへば、法學博士吉野作造氏の立場であります。その立場は吉野博士の政治學の立場の全部であると申すことができます。その立場を今年の中央公論二月號において、吉野博士は最早や崩壞したものであると述べてゐます。(中央公論二月號九頁)

(九)

吉野博士は、吉野博士の立場に反對します。その民本主義の唯一の哲學に反對します。彼れはその自らの手によつて彼れ自らの民本主義を破壞します。これが吉野博士の「選擧權擴張問題」の第一段に現はれてくる悲劇であります。彼れは彼れ自らを葬つてゐるのであります。

(十)

その次に出てくるのが吉野博士の所謂第三階級說であります。彼れに從へば歷史上において選擧權の根據として天賦人權說に次いで現はれたものはその謂ふところの第三階級說であります。『第三階級とは何ぞや。』さういふ冒頭のもとに法學博士吉野作造氏はその謂ふところの第三階級について述べてゐます。

「一體フランス革命以來十九世紀の初頭大陸の諸所方々に起つた政治的革命運動は、成程一般民衆の名において爲

され、又實際一般民衆の力が大に與つて其成功を助けたのではあるが、改革の結果に由つて新に權力の地位に登つた者は主として所謂中産階級以上の者であつた。そこで取殘された所謂勞働者階級は、一般文運の進歩に伴ふ下層階級の自覺といふ現象に伴つて、段々不當に壓倒せられたる自家權利の伸張を叫ぶに至る。斯くして結束したる彼等は自ら第三階級を以てをり、この第三階級が實に國民の大部分を占むる者なるの故を理由として　この階級の利益幸福を圖る事が卽ち國家の主要なる目的たらざるべからずとするに至つたのである』（中央公論二月號九頁――十頁）

この拔書きは吉野博士の謂ふところの第三階級の說明であります。この誤謬には何人も氣が付かなくてはゐられないことと思ひます。卽ち吉野博士によれば第三階級とは勞働階級の事であります。第三階級 third estate といふ言葉が如何なる意味をもつてゐるかといふことは、經濟學の第一年の學生も承知してゐるところであります。この言葉の用法を代表してゐるものはシーエーであるといふことができます。シーエーはフランス革命の一方の首領であります。その一方とはブルジョア階級のことであります。卽ち第三階級のことであります。彼れはフランス革命における天賦人權說に興奮しながら、さうして政治的自由に興奮しながら、自問自答して次のやうに述べてゐます。『第三階級とは何ぞや？　凡てゞある。』然り、フランス革命においてはブルジョア階級は全部であつたのであります。人民とは公民 Citoyen のことであつたのであります。その公民に名づけてシーエーは第三階級と申してゐます。シーエーばかりではない。世界の凡ての學者がこれを第三階級と名づけてゐます。その第三階級に對してラッサアルは第四階級を高唱してゐます。卽ち勞働階級を高唱してゐます。その用法は如何なる學者も異議のないところであります。こゝに異論のあるのは法學博士吉野作造氏唯一人であると思ひます。私はそれをたゞ活字の誤植であると信じたい。けれどもさう信ずるにはその誤りが餘りに多い。私の計算したところではその第三階級といふ文字が十一使つてあります。も一つ實例を擧げると次の一節があります。

『第三階級の利益幸福の增進が國家の主要なる目的の一なりとする思想から、更に一轉して選擧權の國民的增進を說くに至らしめたるものは、獨逸社會主義者の功である。主としてはフエルジナンド・ラッサアルの功であるとい

はなければならぬ』(中央公論二月號十頁)

吉野博士においては、等三階級とは何處までも勞働階級のことであります。社會主義のよつて立つところはこの第三階級であります、然り、ブルジョアジイとプロレタリアートとの混同であります。

(十一)

私はその言葉の咎めだては止めます。その咎めだてをやめても、私は吉野博士が勞働階級及びその哲學の何ものであるかを眞實に理解してゐるかどうかを疑ふの權利をもつてゐます。

『天賦人權論の根據に立つ選擧權論が第三階級説を論據とするに變つて往く道筋は歴史的に見ると一層明白である。而して此變遷を致すに最も與つて力あつたものは、第一には最大多數の最大幸福説であり、第二には社會主義の政治組織であると言はなければならぬ』(中央公論二月號九頁)

卽ち吉野博士によれば最大數多の最大幸福説なるものは、勞働階級の哲學であるかのやうに説かれてゐます。この點を一層明白にしたのは次の一句であります。

『大最多數の最大幸福説が最近の新らしい國家觀と相容れざる限り、この説の第一の根據は崩れたものといはねばならず』(同上十一頁)

こゝに「この説」といふのは勞働階級主義のうへに立つ普通選擧論のことであります。卽ち最大多數の最大幸福説が破産するとともに、勞働階級主義に基く選擧權擴張論が崩壞するものであるといふのであります。も一度註釋を加へていへば、勞働階級(吉野博士の言葉でいへば第三階級)の哲學は最大多數の最大幸福であるとするのであります。少くともその一つであるとするのであります。その最大多數の最大幸福説なるものは吉野博士の指摘してゐる通り英國に生れたものであります。その説はベンタムの説であります。ベンタムがこれを唱へその弟子のフランシス・プレースがこれを唱へてゐます。ベンタムはその最大多數の最大幸福説をもつて道德の根底としてゐます。彼れの書物『道德及び立法の

原則」(Principles of morals and Legislation) はこの精神をもつて一貫されてゐます。また彼れの Catechism of Parliamentary Reform は急進主義者の尊重して措かなかつたところであります。彼れは普通選擧をも主張してゐます。けれども彼れの哲學の根底は決して勞働階級の哲學ではない。彼れの主張したところはたゞポリチカルであつてソーシアルではない。彼れ及び彼れの一派のもつてゐる地位は急進論者 The Radicals の立場であります。彼れが國會から二萬三千磅をうけ取り、宏壯なる邸宅をかまへてゐたことを指摘するまでもなく、彼れは勞働哲學の祖述者ではなく、眞實のデモクラットではない。その點は(エエスがその「近代における政治及び社會史」のうちに述べてゐる通りであります。その點はベンタムの門弟フランシス・プレースの場合になつて一層明白であります。彼れの主張もまた急進論の第一陣に立つてゐます。ベンタム主義を基礎としての改革者として立つてゐます。それにもかゝはらず一八三〇年から一八三二年へかけての選擧權擴張問題の時にあたつては、彼れの邸宅はブルジョア階級の改革論者のレンデボウとなつてゐます。勞働階級の代表者が集るのではなくしてブルジョア階級の代表者の集會所となつてゐたのであります。彼れは明らかに普通選擧に反對しました。普通選擧を唱へたものは實際運動においてはチャーチストに始まります。ベンタム及びその一派の急進論者の主張するところは、何處までも唯名論であり、個人主義論であり、勞働階級の哲學ではなくして、ブルジョア階級の代辯であり、その代辯者の急進的なものであるにすぎないのであります。吉野博士のやうにこの最大多數の最大幸福說を以て勞働階級の哲學であると說くことは、最大多數といふ文字に囚れたる輕薄なる誤謬であります。從つてまたこの說の崩壞によつて勞働階級主義が崩壞するものゝやうに說いてゐる吉野博士の主張は途方もなき謬說であらねばならぬ。

(十二)

一體、この吉野博士の論文は誤謬に充ちてゐます。小さい一つの事實を擧げてもフランスにおいて普通選擧を初めて採用したのは吉野博士に從へば一八四九年となつてゐます。けれどもこの點もまた全く誤謬であります。フランスが初

めて普通選擧を憲法のうちに規定したのは一七九三年のことであります。それから第二にこれを採用したのは一八四八年の憲法であります。この憲法によつて選擧を行つたのはその年の十二月十日のことであります。このやうな誤謬はどうでもいゝこととします。けれどもこゝに述べなくてはならないことは、彼れの勞働階級主義に反對することの理由についてゞあります。

(十三)

『また第二には第三階級の權利利益の伸長を圖るところから、階級的差別を激成しもつて國家の統一觀に悖るといふの點において大なる理論上の弱點がある』(中央公論二月號十一頁)

この文句のうちに第三階級といふのは第四階級の誤りであることは勿論であります。卽ち第四階級主義は階級的の差別を激成しもつて國家の統一觀に悖るといふのであります。この說もまた一つの俗說であると申して差支へないと思ひます。如何にも勞働階級主義は階級的意識から出發するにしても、そのこゝに至るのは何のためであるか。第四階級が階級的觀念を建設するのであるか。吉野博士にはそれが肯定されます。肯定されてゐることは前文の拔書のうちに明白にされてゐます。私はその反對の立場をとります。勞働階級主義はその反對の立場をとります。階級のつくられたのは勞働階級によつてつくられたのではない。この意味の社會階級はブルジョアによつて、ブルジョアが產業革命の果實を獨占することによつてつくられてゐます。勞働階級は自らそれ自身の階級をつくつたのではない。その階級に落されたのであります。獨立勞働者としての立場から資本家のエクスプロイテーションを餘儀なくさるゝ第四階級に落されたのであります。階級的觀念はブルジョアから出發してゐます。階級鬪爭の思想もブルジョアから出發してゐます。それが第四階級から出發してゐるとするは俗說であります。フランス革命の前後において、ブルジョアの階級は一方には貴族及び僧侶の階級に反對してゐるとともに、また他の一方においては勞働者にも反對してゐます。フランス革命はブルジョアの革命であつたのであります。その主義の最も明白にされたのは、英國においては一八三二年の選擧法の改正で

あります。この改正はブルジョアの勃興によつて指導されてゐます。その階級が覇權を掌握してゐます。これがその改革の歴史的の意義であります。そのブルジョアの覇權は勞働階級の要求する普通平等の選擧に反對し、アニユウアル・パアリメントに反對します。彼れ自らの自由と權力とを主張して、勞働者のための自由を排斥します。それゆへに階級闘爭はブルジョア階級から仕向けられたものであると申すべきであります。吉野博士の言葉をもつてすれば「階級的差別を激成」したものはプロレタリア階級ではなくして、ブルジョア階級であります。

(十四)

ブルジョア階級の勃興といふことは、第四階級の發生といふことであります。ブルジョア階級が資本主義を伴つてきたときに、「階級的差別は激成」されるものであります。そのブルジョア階級の哲學は個人主義的自由主義であります。社會的の意味においての自由と平等との叫びに對しては、一切耳を蔽ふてゐるのであります。それが吉野博士の民本主義の立場であります。卽ち講壇的デモクラシーの立場であります。その立場から階級――新らしき有力なる階級の覇權が生れます。その覇權のもとに第四階級が生れます。その第四階級が社會的、政治的、または產業的に自由を要求することが何の「階級的差別の激成」であるものぞ。その反對であります。正反對であります。造られたる階級差別を徹廢することが勞働階級主義の根底的の主張であります。重ねていへば吉野博士の所謂激成されたる階級的差別を徹廢することが第四階級主義の主張であります。ソーシアル・デモクラシーはこの立場をとります。吉野博士の說は事實を轉倒してゐます。彼れの述べてゐるところはブルジョアのための代辯であります。彼れが如何樣の言葉を用ふるとも、彼れの根本の主義、その民本主義はブルジョアのための代辯であります。彼れの地位は一八三二年における英國のラディカルスの立場であります。フランシス・プレ！スの立場であります。彼れの研究室は普通選擧には適しないものであります。それはフランシス・プレースの邸宅と同じやうにブルジョアのための制限選擧の代表者のレンデボウとなるべきものであります。

（十五）

吉野博士は天賦人權論に反對すべからずして反對してゐます。さうして彼れ自らの立場をソリダリテ●ソシアールに求めようとしてゐます。第四階級の性質に無理解にしてその主義に反對してゐます。彼れはソリダリテ●ソシアールの説によつて啓發されたとする、その謂ふところの最近の國家理論をもつて、選擧權のよつて生ずるところの淵源であるとなしてゐます。卽ちこれをもつて彼れの普通選擧の根源であるとなしてゐます。これが吉野博士が普通選擧の問題に『著しく興味を感じた結果として、東京帝國大學法科大學の特志なる學生諸氏と謀つてその包括的研究をなした』結果である。然りソーシアル●デモクラシーを排斥して、ソリダリテ●ソシアールをとつたといふのであります。（中央公論二月號十一頁――十二頁參照）

（十六）

吉野博士においては、ソリダリテ●ソシアールは社會民主主義とは全然相容れざる主義であり、勞働階級主義とは全然相容れざる立場であります。卽ち一方に資本家階級があり、餘剩價値が成立し、使用人と被使用人とが存在し、征服と被征服とが存在し、その制度が存在し、その哲學が存在し、その代辯者が存在し、さうして社會連帶（ソリダリテソシアール）が成立し得るものであるといふのであります。その考へは根本的に誤謬であります。ソリダリテ●ソシアールは、フランスにおいては、革命派の哲學に反對してゐます。その點からソリダリテ●ソシアールが出發します。天賦人權論に反對の立場から出發します。吉野博士の民本主義に反對の立場から出發します。その根本は唯名論ではなくして實念論であります。個人主義ではなくして協同主義であります。政治的自由主義ではなくして社會的自由主義であります。權利說ではなくして義務説であります。分裂論ではなくして統一論であります。マックス●スチーネルの個人主義ではなくしてヂイドの連帶主義であります。その思想はコンペティションの思想ではなくしてコーペレーションの思想であります。卽ち勞働階

級の哲學であります。勞働階級主義であります。

（十七）

資本主義の存在は社會的征服の存在であります。その關係はエクスプロイテーションの關係であります。その關係においては自由なるものはない。その自由と稱するものは往來を歩むことゝ自由、さうして飢ゆることの自由であります。ソリダリテ・ソシアールはこのエクスプロイテーションを排斥することから出發します。エクスプロイテーションは社會協同ではなくして階級的征服及び被征服であります。卽ちソリダリテ・ソシアールではないのであります。

（十八）

ソリダリテ・ソシアールは勞働階級の哲學であります。少くとも今日においては勞働階級によつて主張されてゐます。その階級のために主張されてゐます。凡ての階級的の存在を是認して、凡ての階級の間の調和を圖らうとするものは日本においては溫情主義であります。ベラミーにおいては國民主義(ナショナリズム)であります。さうしてソーシアルデモクラシーでもなく、ソリダリテ・ソシアールでもないのであります。

（十九）

制限選擧とは財產をもつてゐるものに選擧權を與へるといふことであります。財產をもつてゐるものを政治的の中心勢力とするの制度であります。卽ちブルジョアジィの政治制度であります。これに對して普通選擧はこのブルジョアのRégimeに反對します。卽ち財產を持たない人々に選擧權を與へることを要求するのであります。制限選擧と普通選擧との差別は、この無資產階級に選擧權を與へるかどうかといふことの差別であります。無資產階級に選擧權を與へてはならないとするのが制限選擧の立場であります。無資產階級に選擧權を與へなくてはならないとするのが普通選擧の立場

であります。それゆへに普通選擧と制限選擧との相違は、勞働階級主義とブルジョア主義との相違であります。普通選擧は勞働階級のうへに立ちます。普通選擧の意味はこの點にあります。この點においてのみ意味をもつてゐます。普通選擧の要求は勞働階級の政治的解放の要求であります。また從つてその階級の政治的組織の要求であります。この勞働階級の政治的解放の根底をなすものは、社會的解放の要求であります。卽ち普通選擧の根底をなすものは勞働階級主義の政治組織としての立場であります。

(二十)

これを歴史的に考へてみても普通選擧は勞働階級主義とともに生れ、またこれとともに發展してゐます。英國においてはチャーチストの運動がこれであります。英國の勞働者がその勞働組合の自由を得なかつたときに、チャーチストの運動が起つてゐます。チャーチストの運動はブルジョア的覇權に反對する勞働階級の政治運動としての普通選擧運動であります。フランスにおいての一八四八年の二月革命はその歴史的意味において勞働者の革命とされてゐます。その革命において確立されたものが普通選擧であります。獨逸においてのフランクフルトの國會は失敗したにしても、ビスマークが普通選擧を採用したことは、勞働階級に着目したことであります。ラッサアルは勞働階級の立場から熱烈に普通選擧を要求してゐます。彼れの指導のもとにライヴチヒにおいて結合された獨逸の勞働團は社會民主黨となつてゐます。そのソーシアル●デモクラシーの要求としてゐるところは、普通、平等、直接、秘密選擧であります。獨り獨逸においてだけではない。世界の凡てにおいて普通選擧を要求する聲は、ソーシアル●デモクラシーの聲であると申すことができます。英國の選擧法改正は一八三二年からグラッドストーンの改正に至るまでみな有産階級によつて支持されてゐます。その間は如何樣に改正されても普通選擧とはならなかつたのであります。英國において昨年普通選擧が採用されたことは、勞働黨の勝利であります。勞働黨の政綱の實現であります。ソーシアル●デモクラシーの政治的勝利でありま

す。かくして普通選擧の根底は勞働階級主義であります。世界の何れの歴史においても勞働階級主義と伴つてゐます。吉野博士に從へば、今日においては普通選擧とは新しき根據、フランスに生れたるソリダリテ●ソシアールからきたるものであるとされてゐます。けれどもその「新らしい根據」とは、既に十八世紀に起つてゐます。ラ●ソリダリテ●ソシアールは十八世紀に生れてゐます。その「新らしい根據」によつて普通選擧が新しく主張されることとなつたといふのが吉野博士の立場であります。けれどもフランスにおいての普通選擧は勞働階級とともに起つてゐることは前にも述べた通りであります。さうしてこの制度は一八五二年以來幾多の憲法の改正にかゝわらず、フランスにおいて引續き採用されてゐるところであります。

(二十一)

ラ●ソリダリテ●ソシアールは、勞働階級の哲學であります。勞働階級の哲學としてゞなければ存在の理由はないと思ひます。勞働階級主義を排斥することは社會的征服を是認することであります。社會的協同を否認することであります。卽ちラ●ソリダリテ●ソシアールを否認することであります。

(二十二)

勞働階級主義をもつて單に勞働者のみのための自由平等の要求であるとすることとは、一大誤謬であります。吉野博士はこの立場にたつてゐます。法學博士福田德三氏もこの立場にたつてゐます。福田博士に從へばソーシアル●デモクラシーにおいてのデモスとは、全體の人民ではなくしてたゞ勞働階級のみであるとなしてゐます。けれどもこの點は眞實に勞働階級を理解したものといふことはできないのであります。(拙著デモクラシー講話參照)ソーシアル●デモクラシーが勞働階級のうへにたつことは、勞働階級か現在において被征服の階級であるといふ嚴粛なる事實から出發します。その要求はその被征服の狀態から勞働者を解放することの要求であります。その勞働者をもつて新らしき征服階級とす

ることではない。勞働者が如何に多數のものであるにしてもそのもののみの支配はデモクラシーではなくして Masority tyrany であります。その要求はソーシアル●デモクラシーの要求ではなくして、オークロクラシーの要求であります。勞働階級主義の要求は無階級の要求であります。自由の要求から出發します。さうしてその自由の共同責任を要求します、社會生活のソリダリティを要求します。卽ちラ●ソリダリテ●ソシアールを要求します。この關係はラッサアルによつて詳らかに述べられてゐます。吉野博士によればラッサアルは勞働階級主義のチャムピオンであります。そのチャピオンは吉野博士の指摘してゐるやうに、勞働階級主義をもつて社會の一部の階級のための覇權の要求であるとなしてはゐないのであります。その反對であります。彼れの要求するところは無階級の要求であります。彼れは次のやうに述べてゐます。『勞働階級とは實は、階級ではない。國民である。』『國家とは何ぞや？　諸君は國家である』。『諸君の事務は人類の事務である。諸君の個人的の利害は道德的發展の生ける原則として歷史の脉膊とともに動くものである』こゝに諸君とは勞働階級のことであります。勞働階級が一階級であることは今日においては動かすべからざる事實であります。けれども勞働階級主義の要求するところはこの階級の維持ではなく、その反對であります。卽ちその撤廢であります。勞働者のための dictatorship の要求ではなくして、ラ●ソリダリテ●ソシアールの要求であります。

(二十三)

ラ●ソリダリテ●ソシアールが勞働階級主義を驅逐して新らしき原理を開拓したといふのが吉野博士の講壇であります。日本における最高學府の政治學の講壇であります。その講壇に集る學生は不幸なる學生であります。その講壇からの普通選擧を迎へる人々は不幸なる人々であります。

(二十四)

私は吉野博士の選擧權擴張論の根底についてだけ批評します。さうして彼れの說明が徹頭徹尾誤謬であつたことを指

摘します。さうして吉野博士に對する今日までの迷信から醒めたことに幻滅の悲しみを感じます。

（二十五）

吉野博士は、上杉博士の普通選擧論を非難してゐます。私はその非難に贊成します。上杉博士の謂ふところの國體論と普通選擧とを連結することはルイ十四世とラッサアルとの混同であります。けれども吉野博士の政治的自由主義または個人主義卽ちブルジョアの哲學と普通選擧とを結びつけることはシーエーとラッサアルとの混同であります。上杉博士を變說改論者といふ可くんば、吉野博士もまた變說改論者であります。彼れ等は共に現代に適するものではない。現代に適せざるものとして生れてゐます。現代に適せざるものとしての思想のうちに彼れ等の全生命があります。上杉博士を非難することは吉野博士を非難することである。上杉博士が國體論と普通選擧とを結びつけることによつて、彼れ自らの思想を葬るべき深き穴を堀りつゝあるがごとく、吉野博士もまたそのブルジョア哲學と普通選擧とを結びつけることによつて、彼れ自らを葬るべき深き穴を掘りつゝあるのであります。彼れ等はその何れか一つを捨てなければならぬ。その捨てるものを何れに撰むかといふことによつて、彼れ等の賢明であるか否かといふことがわかります。その何れを撰むにしても彼れ等のとるべきことはその何れか一方を捨てることである。これを混同することではなく、これを誤魔化すことではないのであります。普通選擧を求むるの聲が高くなればなるほど、私どもは眞實なる普通選擧を要求します。私どもは私ども自身を僞ることなき、眞實なる普通選擧を要求します。さうして先づ吉野博士の普通選擧論を排斥します。（二月十日朝）

人の批評

有島武郎

士郎

二年前、私が「カインの末裔」を讀んだ時の感じ位、驚くべき恐ろしいものはなかつた。私は其處に人間の心の中に內在するグングン伸びてゆく力の鋭さを見た。私は其處に、いたましい慘虐の中に聞える、――その慘虐を透して、戰き顫える人間の喜びの聲を聞いた。

すべてが私を戰慄させた。すべてが私を壓迫した。私は唯、暴風雨の夜、海岸の巖の上に突立つた人間の樣に、よろめきながら全篇を通讀した。私は藝術批評家では無い。藝術批評家でない私にとつて有島氏の作物の價値批判を試むる事は全く不可能の事業に屬する。

私は唯私の頭腦の中に、私の心の中に有島氏の力を描き出す事が出來る。而して私の主觀の中に、尠くとも、カインの末裔を通じて、痛ましい人間と自然との葛藤を、――その葛藤が生んだ悲劇を、大きく目を睜いて肯定する事が出來る。私はあらゆる意味に於て「カイン」の末裔を人間が造つた藝術の最大なるものである、といふ事が出來る。然り、尠くとも現在の私にとつて、有島武郎氏の價値は同時にカインの末裔の藝術的價値其者である。

其後私は有島氏の製作に對しては、驚くべき注意を以て讀んだ。然し、其何れも私がカインの末裔に對して感じた程の、鋭さも、力強さも與へなかつた。――宣言、石にひしがれた雜草、實驗室、迷路、――私は其何れもが私の中に潜む、力を剔出して吳ない事を限り無く不滿に思つてゐる

嘗て、江口渙氏(であつたと思ふ)が有島氏の創作の背後に常に、斥くべき誇張が爲されてゐる事を批難した事があつたのを記憶してゐる。――而して、其批難の延長、若しくは補足とも見るべき或る他の批難は其誇張が常に、有島氏の中に潜む眞實のものを顯現する力を覆ひ隱してゐる、といふ所に存在してゐる。

私は其批難を盡く正しきものであると思ふ。然し乍ら、私は其誇張が誇張として、グングン伸長してゆく所に逆つた意味の力を體感せざるを得ない。

嘗て有島氏が或る批評家に答へて言つた。「批評は優者の仕事だ。石を以て打ち得る者が先づ石を取るべきである」と。――

私は此言葉の底に――此言葉を透して有島氏の人格のすべてを摑む事が出來る。

「人間の止むに止まれぬ生に對する執着の姿」これは有島氏の創作の出發點である。あらゆる人間の運命を通じて、生に對する驚くべき不思議な我執――之は有島氏の創作を導く一つの規準である。

而して此態度が思ひ切つて、自由に、伸びやかに、奔放に、顯はれたものは「カインの末裔である。私は有島氏の創作の中先づカインの末裔を擧ぐる。而して、カインの末裔と比較する時、「宣言」も「迷路」も共に時代と共に朽ちゆく藝術品である事を思はざるを得ない。

『魂の醜くさを凝視して、その傳習的な醜の概念の後ろに潜む本體の實質を恐れなく見透すべき勇氣の缺乏が人の子を驅て永遠の漂浪に赴かせた魔の杖である。』――

私は嘗て有島氏に依て紹介せられた或る思想家の此言葉が有島氏自身を端的に語てゐる事を確信する。而して其處に抑える事の出來ない共鳴を禁ずる事が出來ない。

◇政治家の頭は古るい

◇加藤高明子は日本において一番の外交通または外國通として世間も許してゐるし、御自分は無論許してゐる以上である。彼れが外交調査會に入らなかつたことには二つの理由がある。その一つは尾崎愕堂が衆議を排して反對したためである。その二つは「犬養なぞのような無學な男と一所に外交を談ずるのは己れの估券にさわる」といふ加藤子の估券論からである。

◇その外交自慢の加藤さん――日本一の外交通だそうである加藤さんの「國際聯盟論」といふものが「大觀」の一月號に麗々しく掲げられたことも讀書子のみな知つてゐるところであらう。

◇こういふ拙者も本屋の店頭で讀んでみた。國際聯盟といふ言葉に「インタアナショナル・リーグ」といふ振り假名がついてゐる。マサカと思つてからよく〳〵調べてみると、その原稿は加藤子の演説の速記でもあり、またその原稿は加藤子自身が速記に筆を入れて綿密に訂正したものであろそうである。驚いた外交通ではないか。こんな頭で國際聯盟(リーグ・オブ・ネーションス)を批評されては、ウイルソンや加藤子の「親友」のグレー子もたまつたものではあるまい。

◇これと好一對のたれがある。日本の講和全權特使として堂々巴里に出かけんいつた牧野さんが、いよ〳〵横濱出發といふその二、三日前のこと、ある外交通が牧野さんに會つて國際聯盟の話をしかけてみたところが、牧野さんが狐につままれたような顔付きをしたまゝ何んとも言はない。變んだなと思つて尙ほ重れて話して見る。牧野さんいよ〳〵けげんな顔……『國際聯盟つて何のことかい?』『そりや毎日新聞にも出てゐるし、今度の講和會議の大問題ではないですか』『そんなことがあつたのか。わしは新聞を讀まないものだから……それに君そんなことは外交調査會でも問題にならなかつたようだよ』といつた調子。

◇流石の外交通先生驚いた。早速『國際聯盟』に關係のある材料を集めて横濱から牧野さんの出發するといふ朝牧野さんに手渡したといふことだ。

◇さういふわけだから牧野さんがヴエルサイユの會議で居眠りと傍聽ばかりしてゐろのも――さうして支那の委員あたりから遣りこめられてゐるのも無理はない。日本もエライ委員を出したものだ。

◇正直のところ、日本の政治家の頭は支那の政治家よりも劣つてゐることだらう。

◇何んといつても日本では政治家が一番時代後れだらうよ。原首相だつてそうだ。衆議院の豫算總會の席上で、望小太君あたりから國際聯盟について質問された時に――『國際聯盟の思想は新らしい思想ではありません。百年前にグロシユウスがこの意見を述べております』――速記錄にまでチヤンとこう載つてゐる。

◇だれも知つてゐるとほりグロシユースは一六四五年卽ち今から約三百年前に死んである。其人が百年前に意見を述べたといふのも滑稽だし、一體グロシユースが國際聯盟について意見を述べたといふことからして全然ウソの皮ではないか。原首相の無學もこれで立派に證明されたわけだ。

普通選擧論

尾崎敬義

一、

世界の民主的潮流が驚くべき勢を以て奔騰しつゝある事は私の今改めて言ふ迄も無い事である。而して此民主的潮流を眞向に受けて舊來の傳統的思想の渦卷の中に悶え苦しんでゐる日本現在の爲政家が、如何なる態度を執て、如何なる見地に立て將來の日本を指導せんとしつゝある乎といふ事は最も興味ある問題であらねばならぬ。

二大帝國の崩壞――軍國主義の滅亡――社會黨の發興――リーブクネヒトの死――斯の如く混亂し、斯の如く紊亂してゐる世界の大勢力に眼を閉ぢて、日本獨自の思想を表現し日本のための世界を造就する事に全力を注がなければならぬと爲す者があるならば、迂之より甚しきは無い。

嘗て、ヘエゲルが言つた事がある。存在するもの〻總ては道理あるものであり、道理あるもの〻總ては存在するものである。と。世界史上に於て有數の專制君主であるウィリアム一世並びに其忠良なる臣下は之を楯として一切の暴政、一切の苛政を肯定した。然し乍ら、道理無き存在は眞實の存在で無い。人間性の眞實なる要求に目醒むる事無くして、徒らに人間生活の道程に於て養はれたる傳統と因襲に依て誤て造就せられたる考、並びに行爲を肯定して以て人間性の本然なりと爲す者あらば、彼は軈て顯るべき事實の上に於て、驚くべき錯誤に陷るに相違ない。

二、

思想を産むものは事實である。然し乍ら、同時に事實を生むもの――事實の進展を期するものも亦思想である。政治といふ事實があつて、政治學があり、政治學があつて政治の進展がある。

然るに日本の政治は、其出發點に於て正しき哲理に導か

れざるものであつた。哲理から離れた政治は恰も軌道を失つた汽車の如きものである。

或る哲學者が言つた。「第一のボタンが間誤つて篏められるならば、それに順應して最後のボタンが正しく篏めらるゝ筈が無い。」と。この言葉は日本の立憲政治の出發點を其儘端的に表明したものである。天賦人權論に依て其烽火を擧げられ、而して資本家と富豪と豪族に依て其權力を壟斷せられた日本の立憲政治は、尠くとも其間誤て篏められたボタンが再び正しく篏めらるゝか、然らずんば、其他の手段方法に依て、最後のボタンを最後の穴に導くか何れかに依る事無くしては、其完全なる進展を見る事は出來ない。

嘗て日本の老政治家は、ルソーの民約論の心醉者であつた。然り、尠くとも初期の議會に議席を有する政治家の大半は民約論の心醉者でなければならなかつた。而して、彼等は唯要するに民約論の心醉者であるに過ぎなかつた。彼等の胸に響き渡るものは、唯民約論の中に輝いてゐる抽象的文字に過ぎなかつた。

――然らずんば彼等は民約論を謳歌し、讃美する當時の空氣の中に、涵り醉てゐる人々であつた。感激に感激した彼等が相率ひて政治の事實問題に逢着する時、其處に驚くべき錯誤の生ずるのは止むを得ない事である。

――此間の消息は日本の政黨政治發達史上のあらゆる頁が之を物語てゐる。

而して眞實なる民人の要求を基礎として、民人の力に依て建設せられなかつた、大日本の立憲政治が大いなる試練を受くるの時、受けなければならない時は竟に來た。日本の政治に眞實の生命が吹込まれ、事實の進展を左右する哲理が日本の政治を導く時は竟に來た。――國民すべての心に湧起る要求がそれである。日本の國家を取巻いて渦巻き流れてゐる世界ト潮の奔騰がそれである。

三、

普通選擧を要求する聲は今日日本全國を覆ひ盡してゐる。或者は口を以て論じ、或る者は紙に依て論ずる。或る者は聲無く文字無き心の叫びに依て之を唱ふる。――民人が其政治的理想に眼醒めて來た證據は明に此聲の中に發見する事が出來るではないか。

然し乍ら、此叫びに追隨して、種々なる實際運動に從事しつゝある者が如何なる基礎に立て、如何なる見地から之を論述し、之を唱導しつゝあるかといふ事を思ふ時に吾等は自ら疑無きを得ない者である。尠くとも、普通選擧運動の先覺者――若しくは之に附隨する人々、――彼等に果し

て此要求の聲の背後に存在してゐるデモクラシーの思想に對する正しき理解があるが。現在に於ける彼等の一擧一動、――並びに彼等の過去の言動は明に之と正反對の證據を示しつゝあるではないか。

嘗て日本に於て、普通選擧が大多數を以て衆議院の門を潜つた事があつた。その時、議院に席を有してゐた大多數の人々は普通選擧の贊成者であつた。然らば彼等が如何なる哲學的基礎に立て普通選擧に贊成したか。――この滑稽なる質問に對する最も明快なる答は日本現在の政黨其者である。――普通選擧か實施さるゝ事に依て全く其地位を失ふべき日本現在の政治家其者である。彼等が、普通選擧といふ文字に對して全然無智であつた事が、彼等の普通選擧贊成案となつて顯はれた。然り、而して、現在の政治家が、普通選擧といふ文字に幻惑されて蠢動しつゝある姿態は、往年大多數を以て此議案をして下院の門を通過せしめた老政治家の言動と何等の異る所が無い。而して、若し假りに普通選擧案が往年と等しく下院の門を潜る事ありとするも、この議案の有する運命は、往年「斯の如き不詳なる問題を再び我が貴族院の門に入らしむる事勿れ」、と言て貴族院に於て滿場一致を以て彈き出された運命と全く同一のものであるに相違ない。

四、

今や日本の政治は一つの哲學を要求しつゝある。――日本の立憲政治が外れたるボタンの運命から免れて正しき步みを運ばなければならない時が今來つゝある。而して、私達の眞實なる日本を產むべき產婆たるべきものは普通選擧であらねばならぬ。然り、ソーシアル、デエクラシーに依て導かれ、ソーシアルデモクラシーを基礎としたる普通選擧の實現であらねばならぬ。

世界思潮は驚くべき勢を以て日本の周圍に迫りつゝある。吾等が此潮流の間に介在して眞實なる日本を造就する事が如何に困難なる而して危險なる事業である事といふ事に想到する時、自ら爲政者としての責任の重且大なる事を感ぜざるを得ない。

泡沫の如く普通選擧運動の感激に醉てゐる人々――徒らに抽象的名辭に囚はれて動いてゐる人々――其等はすべて過去の遺物てある。それ等の人々に依ては斷じて、眞實なる日本は生れない。それ等の人々が盡く一つの哲學的理想に導かれて力強步みを運ぶ時、眞實なる日本の光榮は太陽と共に光り輝くであらう。

五、

普通選擧の實現が、ソーシアル、デモクラシーの主張を基礎として爲さるゝ以上、其實現と時を同ふして當然來るべきものは勞働組合であらねばならぬ。普通選擧と勞働組合とは現在の日本に於て、ソーシアル、デモクラシーを完成する第一歩でなければならぬ。

日本に於ける勞働組合の達成を沮害しつゝあつたものが治安警察法である事は何人も異例の無い所であらう。勞働者が自己の抂屈したる權利を伸暢せんがために、資本家に對抗する機關として、當然必然に存在せざる可らざる勞働組合が保安條例の變形たる治安警察法に依て縛られてゐるといふ事は洵に滑稽なる事と言はなければならない。

無政府主義者の一派は、勞働運動を以て經濟運動のすべてであると存し、總同盟罷工を以て第四階級民の權利獲得運動の第一に數へてゐる。然し乍ら、政治生活に向て働く人間の文化的要求は斷じて斯の如き偏頗なる考への存在を許さない。若し現在をより善くする運動であるならば政治運動たると經濟運動たるとは問ふ所で無い。現に經濟運動の端的なる失敗の實例はロシアの革命か如實に之を物語てゐるでは無い乎。彼等が其經濟運動を爲すに當て、政權獲得といふ事を第一の眼目とした事は何がためである乎。――ソーシアルデモクラシーの要求は政治運動を行ふ事に依て經濟生活の進化發展を期する所にある。而して、現在日本に於ける其最大の而して最善の運動は、普通選擧の獲得に向ての國民各自の努力である。

然ら、而して、其國民各自の努力は、第四階級を肯定する理論から定るゝもので無い以上斷じて有力なる運動と爲る事は出來ない。

吾等は日本の思想家、並びに政治家が盡く此見地に立て國民を指導し、啓發せん事を希望する者である。若し此學理的基礎を離れて叫ばるゝものがあるならば、それは盡く資本閥の起す虚妄の聲である。而して、斯の如きものは吾等の全力を擧げて反對する所である。

「普通選擧權尙早論」「選擧擴張論」――斯の如きものは十九世紀の遺物である。縱令如何なる理想の下に、如何なる主義の下に之が叫ばるゝとしても、要するに、時代を離れた、醜き暴論に過ぎ無い。吾等は唯、國民の胸から胸に傳はつて起つた政治的要求に一つの統一と、秩序と、而して哲學とを與ふる事を以て新らしき日本を創建する唯一、無二の方法であると信ずる。若し日本の政治家が此理想を抛ち若しくは之を隔離して徒らに蠢動するならば、正しき穴

へ入らんとするボタンの要求は、或は恐るべき流血の悲慘事になつて顯はれるかも知れない。吾等は斯の如き事を最も忌み懼るゝ者である。眞實なる日本は正しき指導者に依て其歩調を正しくして進む可きである。而して、幸福と光榮の中に國民各自の努力を文化的發展の方向に向て續けしむべきである。資本家黨の沒落、富豪農民黨の衰頽——然り、而して官僚、軍閥の倒壞是等の事實は普通選擧の實現と共に生るゝ。而して、普通選擧の實現と同時にソーシアルデモクラシーの實現である。ブルヂョア階級の優越と、第四階級民の優越との結合統一する所に眞實なる文化の所産がある。而して、其結合統一は當然必然に階級鬪爭を第一條件とする。然り、而して此階級鬪爭の正しきプロセスは普通選擧によつて開かる。

吾等は到處に改革の必要を認む

森　恪

一、

私は、日本のあらゆる社會を通じて、根本的改革の必要を認むるものである。現代日本の制度、組織は總ての意味に於て、日本をして眞に自由なる發展を爲さしむる途を塞いでゐると言ふ事が出來る。而して、制度、組織の改善と共に、あらゆる事物に對する所謂識者の批判の錯誤に到ては最も端的に眞實なる日本を造就する途を塞いでゐる。

私は今其最も極端なる例として、支那に關する問題を擧ぐる。——私は自ら支那に事業を有し、且常に支那に居住する者であるが故に、支那問題に關する我國朝野の人士の思想、感情、並びに言動に就て頗る誤れるもの多き事を痛感する者である。

我國の政治家、操觚業者、或は實業家、盡く口を開けば、我國の現在並びに將來は支那より物資の供給を仰ぐ必要ある事を論じ、所謂支那の門戸開放を以て、我國、國是の

一とする事に異論ある者は一人も無い樣である。

而して、又支那の門戸開放は、我傳來の主張であつて、今日に於ては殆んど不文の國是となつてゐる。恐らく、如何なる種類の人と雖も　門戸開放の實行して居られない事に疑を抱く者の無い程に、習慣的熱語となつてゐる。

然るにも關らず、事實は全く之と異り、支那はあらゆる方面に極端なる門戸閉鎖の實を示し、其法律、制度習慣すべて閉鎖主義の實行を示してゐる。此處に於て乎自ら各方面に於て衝突を惹起するのである。

二、

我國朝野の人士は、支那の門戸は開放すべきものであると爲し、官民共に我國人の支那に於ける發展を希望し、且つ之を奬勵しつゝある。斯の如く、一方に於て支那の極端なる門戸閉鎖を默認するがために、自ら兩者の間には衝突を免れる事が出來ない樣な狀態であつて、若し現在の如くに支那の門戸閉鎖を默認するならば、我國人の支那開發に從事する者を總て抑止する必要があると言なければならない。

又、支那の門戸を開放する事を必要とするならば、先づ支那閉鎖的法律制度を撤廢し開放的に之を改造せしむる必要がある。斯の如くする時は、兩者の間に何等の矛盾も起る事無くして、總てが圓滿に解決せらるべき筈である。然るに現在に於ては口に門戸解放を唱へ乍ら、事實は支那の閉鎖主義を認容して此根本の問題に關し特殊の努力を試みてゐる事實を認めない。

然らば、支那問題は斯の如き不徹底なる狀態に於て滿足する事の出來るものである乎。否乎。此點に於て吾人は直ちに其方針を改める必要ある事を痛感する者である。

日本政府は支那政府を援助する目的を以て支那の各方面に、顧問として仰ぐべき人物を推薦しつゝある。然らば、如何にして其人物を推薦しつゝある乎と言へば、實に驚くに堪へたるものゝある事を目擊する。吾人の見地を以てすれば、斯の如き場合に於ては、我が内地に於ても、最も推服するに足るべき技倆、人格、並びに經驗を具有する人物を推擧すべきが當然であると信ずるにも關らず、政府當局者の爲す所を見るに、往々にして全く之と正反對なる事實を目擊する。例へば、免職されたる古き官吏、或は、内地に於て極端なる批難攻擊の中心となりつゝある底の人物、或は其技倆に於ても能力に於ても斷じて優秀と目する能はざる人物を、推擧しつゝある。而して、斯の如き人物を推擧して置き乍ら、是等の人物に對して要求する俸給其他の待

遇法は頗る大である。のみならず、自ら斯る原因を作成して置きつゝ、支那の改革事業の成績の擧らない事を頗る慨嘆してゐる。然し乍ら、事態斯の如しとすれば之を慨嘆するは誤りであつて、改革の行はれざるは寧ろ當然であると言はなければならぬ。

三、

又、日本の實業家が屢々日支經濟連絡を口にするのを耳にする。

思ふに、支那の內地は、行政紊亂して、安んじて業を起す能はざる狀態にある。而して若し事業を起し得る餘地ありとすれば、それは僅に外國人の行政下に屬する地內に限られてあるといふ有樣である。

昔より、政治の紊亂腐敗したる所に事業の起つた試めしは無い。事業が起るを以て政治が紊るゝに非ずして、政治が完備するが故に、經濟的發展の自由なるものを認むる事が出來るのである。若し、行政紊れ、從て經濟發展の望み無き支那と、經濟連絡を保ち、この連絡に依て支那の秩序を維持せしめんとするものありとせば、之れ明に本末顚倒の議論であると言はなければならぬ。然るに支那內地行政紊亂の改革に向ては、特殊の方法を講ずる事無くして、徒に經濟連絡を大呼しつゝある實業家の心事に到ては洵に言語同斷と言ふべきである。

斯の如き狀態であるにも關らず、日本人は支那の事業であるが故に、特殊の利益を豫期し、或は極端に犧牲を拂ふを辭せない。

例へば、今日迄日本政府より支那政府に借したる、所謂對支借款の額は實に甚大なるものである。今其借款の條件なるものを見るに、名は支那を援助する事に在るけれども、實は勢力扶植といふ事が根本的基礎條件となつて約定が取定められる。而して之等の借款の用途等に就ては全く無主義無方針である。尠くとも此借款あるがために、大いに支那改善に資したと思はれる樣な事實は毫も無い。寧ろ斯の如き借款あるがために支那の政治を誤らしめてゐると言ふべきである、而して、此借款も、若し日本內地の財政頗る豐富であるがために其餘りを支那に捨てたと言ふならば兎に角、日本內地には使用すべき財力の方途甚だ多きにも關らず、之を有用の途に用ゐず、反て國民の懐より絞り取つた金を以て全く理由無き方面に投ずるといふに到ては實に矛盾撞着の極である。例へば米の供給が年々五百萬石宛の不足を示しつゝあるにも關らず、政府としては其不足額を外國より買入れんとする時に當て其資金無きに苦し

みつゝあるといふが如き狀態である。

斯の如き狀態を自國内に控へて置き乍ら、何を以て、支那なるが故に特殊の條件を以て金を借さゞる可らざる乎。吾等には全く其理由を了解する事が出來ない。

斯の如き事實に對して吾人は其根本的改善の痛切に必要なる事を感ずる者である。

四、

更に、支那に於ける日本人の生活狀態を見るに、其大半は支那の語學、習慣並びに其風の研究を怠り、進んで支那人と接し、支那の風土に親しむるを爲す者は極めて少い。之を彼等の日常生活より判ずる時は、彼等は恰も支那に對して何等の希望も目的も有しないものである如く見ゆるけれども、一度び口を彼等に問へば盡く其目的を支那に有してゐると爲してゐる。而して是等の人々の大多數は人生の中心時代とも言ふべき廿才より四十才に到らんとする强壯の何年かを支那に費してゐる人々である。斯の如き事實も吾等の大いに憂ふる所であつて、出來得べくんば此種の人々をして不徹底なる思想の下に日を送らしむる事無く、一日も早く、眞實なる國家的理想に醒めしめなければならぬと信ずる。

五、

吾等が會々內地に歸るや、進んで東京市の狀態を見るに、一方に於て文明交通機關の發達を希望し、自働車の如きもの丶發展を奬勵してゐると同時に、顧みて町の狀態を見るならば、自働車の如きものが到底發展する事の出來ない樣な狀態を形成してゐる。

又、年々各政黨の政綱中、常に支那問題を叫び、或は行政整理を唱へ、其他の百般の事物に對する主義主張を恰も年中行事の如く繰返すと雖も、是等を口にする人々の間に果して綿密なる研究が遂げられつゝある乎。と言ふに全く零であると言はなければならぬ。

依是觀之、あらゆる方面に、理想と實際との間に大きな衝突のあるのを發見する者である。之を約言すれば萬事が不徹底の中に彷徨してゐる。個人經濟に就て見るも終始一致しない生活を續けてゐる樣な有樣である。

斯の如き狀態の下に國家を放置しておいで而して猶且國家の安全が保證されてゐると考ふる事は如何にしても出來ない。我國人、口を開けば必ず常に一等國と言ふけれども、今日の平和會議は、遺憾無く二等國の事實を曝露してゐるではないか。吾人は此一事に想倒する每に憂懼の念禁

ずる能はざるものがあるのである。

王政維新當時日本の文物が歐洲の文物より遲れてゐた程度よりも、今日の日本の百般の事物が歐洲のそれに比して遲れてゐる。程度の方が遙かに大きいと思はれる程である。聞くが如くんば維新改革後の我國人はこの遲れたる文物の改造のために努力到らざるなき有樣であつたと言はれてゐる。然り、而して今日の我日本人も我等の祖先に劣らざるべき勇氣と眞面目とを以て、世界の大勢に順應して國家の安全なる發展を期する事に資せなければならない。是れ吾等が各種の點に就て改革の必要を叫ぶ所以である。

民主主義史論の序

□

序といふものは、後に書いて前に載せるものであります。この私の序文は、先ぎに書いて先きに載せます。私は「民主主義史論」を書く前にこの序文を書きます。

□

私が民主主義史論を書いて見ようと思つたことは、もう一昨年あたりからのことです。この私の宿志は、私の思想の未熟であること、材料の乏しいことの二つの理由によつて、たゞ時々思ひ出しては書いて見ようと考へるだけであり、さうして書くことのできないのに殘念がるための働きしかしてくれなかつたものであります。

□

今日においても、思想の未熟であることは依然として舊のとほりである。その材料の乏しいことも依然として舊のとほりである。けれども私はその宿志を捨てることはできない。できるかできないかはこれから後の問題である。兎に角書いて見ようといふような曖昧な決心と用意とをもつて私はこの大膽な事業に取りかゝります。さういふ次第だから何時如何なる故障が起るかも知れない。序論だけで中止になるかも知れない。半分位ひで止めになるかも知れない。前途のことは私にも一切混沌として何が何やら分らない。たゞ私の心には、この事業に力を入れて見たいといふ刺激が燃ゆるように盛んであります。私はその刺激のまゝに動きます。

□

私の承知してゐる範圍では、この種の著述は日本には無論ない。西洋にもこれといふものがない。それゆへに私は私自身のものを生み出さなくてはならぬ。私にとつては重荷であらう。けれどもまた私は思ふ。その仕事は何人によつてよりも、私にとつて最も適當した仕事ではないかと。

私はこの心をもつて書きます。私の事業の第一歩としてこの民主主義史論の著述に向つて進みます。さう考へたことだけでも、私にとつては自己滿足を感んじます。だからこの仕事は私に適した仕事であるといへます。

□

私の書こうとするものは、たゞ材料の整頓といふことではない。歴史を通じて、民主主義の眞實なる姿、さうして精神を見ようとすることであります。たゞそれだけであります。それゆへに私の蒐集する。材料とは、書物の頁數を厚くするための材料でもなく、博士論文のそれのように、成るべく世間の人の知らないことを探りだすことでもなく、また民主主義と民本主義との使ひ分けをするための方便としてゞもない。

□

私は正直でありたい。私は何時までも小供の心でありたい。私は民主主義の歴史の進化の各階段については、注意深い研究者の態度をもつて見ます。その注意深いといふことは民主主義についての斷片を蒐集することではなくして、その精神を奥深きところに探り求めることである。

□

それゆへに私の書こうとするものは、民主主義史論といふよりは、或は民主主義論といつたことの適當であるかも知れない。そんな場合もあらう。けれども私の考へでは、民主主義論は民主主義史論そのものであるべく、民主主義史論もまた民主主義論そのものでありたい。この二つものは叙事の順序と組織とを異にする場合もあらう。けれどもそれはたゞ方法の異ひであります。

□

歴史を離れて民主主義はありえない。離れたものがあるとすれば、それはたゞ僞りの民主主義である。眞實の民主主義は歴史とともに生れます。歴史とともに成長します。さうして歴史とともにわれ／＼の今日の生活を導いてゆくものであります。それ故に民主主義の研究は民主主義史論の研究でなくてはならない。また民主主義史論は、民主主義そのものの研究でなくてはならない。

□

事實を如何に多く列べて見ても、そこに歴史は生れてこない。歴史とは材料の陳列ではなくして、人類進化體系の探求であります。民主主義史論とは民主主義を表現すべき事實の陳列ではなくして、その進化と創造の體系であります。

□

それ故に民主主義史論において必要であることは、部分部分の材料を説明することではなくして、全體系についての精神とその全體系の進化の各階段が、全體系において有する地位と、その各時代において有する地位とを、嚴肅に反省し、研究し、思索し體現することでなくてはならない。

□

民主主義とは何んであるかといふ問題は、決して一口にいふことのできるものではない。それは民主主義史論の全巻を通じてでなくては分るものではない。その全巻が終つたときに初めて民主主義とは何ものであるかといふことが分つてきます。分つてくる筈です。けれどもそれもたゞ分つてくる筈だといふまでのことです。分らないかも知れない。また分らないといふの方がより多く正しいかも知れない。

□

民主主義は歴史とともに始まるものである——私はこう述べて置きました。けれども歴史とともにといふよりは、人間とともにといふことの方が正しいと思ひます。私の今まこの序論を書こうとする時に、私の頭に浮んでゐるところでは、民主主義は人間とともに始まります。或は人間以前から始まつてゐるとしたことの方が正しいかも知れない。けれども生物學にまで立入ることは、私の研究の範圍を、私の能力を超えて廣くすることである。私はたゞ人間の生活についてだけ考察します。demos といふ文字からいつてもその方が正しいかとも思ひます。正しいといふことができないにしても私にはその方が便利でもあり、また私の能力の範圍ではその方がより多く確實でもある、

□

私は民主主義と貴族主義または君主主義とを比較して、民主主義の卓越は量の卓越であるとは思はない。質の卓越であると思ふ。私の考へでは、民主主義とは、たゞ多數者の支配といふことではない。多數者の支配といふことは、その裏面には少數者の被支配といふことがあります。それは最大多數の最大幸福説が成りたゝない以上は、これを正しいことであると申すことはできない。

□

一面において征服者があり、他面において被征服者があるとすれば、その征服者と被征服者との數の割合がどうあらうとも、その間に不自由といふことがあり、不平等といふことがあり、强制といふことがあり、屈從といふことのあることであるから、これを民主主義といふことはできない。その關係は、征服者の數が被征服者に比べて量的優越を示してゐるにしたところで同じことである。その量的優越といふことは、征服者の多いこと、從つてタイラントの多いことを意味するに過ぎない。またそれとともに被征服者の側が如何に傷ましい不自由の狀態であるかといふことを物語つてゐるものであるに過ぎない。

□

民主主義についてのある書物のうちにこういふ話が書いてあります。小供が玩具をもつて遊んでゐた。お母さんが臺所からその小供の名を呼びます。幾度も呼びます。その小供は玩具に氣をとられてゐて返事もしない。お母さんが怒つてその玩具を取り上げてしまいました。書齋からこの樣子を見てゐたお父さんがいきなり「泥棒！」と叫んだ。——玩具はどこまでも小供の玩具である。それを買つてやつたものが誰れであらうと、與へられた以上は小供のものでなくてはならない。その小供のものを取りあげたからには泥棒である。こう書いてあります。

誰れが取りあげたにしても泥棒であります。その玩具がお母さんの手に入る正しい方法は、たゞ小供の手から與へられた時に限ります。

□

何人が征服しても征服であることに變りはない。征服とは奪ふべからざるものを奪ふことであります。然り、民主主義を奪ふことであります。民主主義は奪ふべからざるものであります。

□

民主主義は凡ての人に與へられました。凡ての人に同樣に且つ平等に與へられました。だから民主主義は如何なる一人からも奪ひとらうとする人——卑しとせらるゝ人においてこそ眞の民主主義の自覺があります。卑しとせらるゝ人こそ眞に尊い人であります。

□

民主主義は決して馬車の轍とともにくるものではない。それは車の舵棒とともにきたるものであります。貴族こそ卑しきものであります。驕れば驕るほど見憎きものであります。

□

「白堊館の大統領とブロードウエーの人足との違ひは、違ひといふほどのことではない。たゞ職務の違ひである」——ワルトホヰツト・マンがさう歌つてゐます。

□

私は純眞なものとしての民主主義を見ます。民主主義とは私にはたゞ美しきものであるとして見えます。美しきものであるといふことは、天上のものであるとしてゞはなく、地上のものとして、われ等のものとして、われ等の全人類のものとしてさう考へるのです。

□

私はこの美しいものを捕へようとする時の心持ちをもつて私の民主主義史論を書きます。さういふ想像のうちに私自身——醜く私自身をも美しくすることができます。凡ての人は、美しきものを心に畫く時にその心を美しくすることができます。私は民主主義について想像に耽つてゐる時に、私自身を純白なものとすることができます。私にとつては、民主主義とは眞善美そのものであります。

□

それは決して数へられることによつて與へられるものではない。人間の instinct であります。moral instinct であります。奪ふことのできない眞善美です。だから民主主義とは造られたものではなく、また從つて虚僞でありえない。ありのまゝの人間の生活であり、本能であり、刺激であり、營養であり、赤裸々の眞實であります。それはシルクハットも被つてはこない。ダイヤモンドの頸飾りもしてはゐない。彼れそのまゝである。彼れそのまゝを主張します。彼れそのまゝをもつて生存を主張するものである。だから彼れは決して滅びるといふことがありえない。

□

彼れは人間の集合といふことでもなく、革命でもなく、暴動でもなく、多數決でもなく、代議政體でもなく、立法部でもなく、チユリーでもなく、たゞスピリットであり、またアトモスフヰアであります。これを探り、これを捕へることは、何ごとよりも容易のことであり、また何ごとよりも六かしいことであります。

□

それは公文書においてよりは、人々の會話のうちに存在します。政治家の雄辯においてよりは「失望の夜明け(ホープレス、ドウン)」を力なく歩いてゆく勞働者の僞りのない會話のうちに見えてゐます。會話とは「自然の演説」であります。キプリングの詩、ローウエルの對話のうちに民主主義の精神が流れてゐます。

□

グリーンが英國の歴史について述べてゐることは眞理である。英國の歴史とはたゞ國王や戰爭の歴史ではない。それは人民の苦慘と艱難と、その質實な成果とである』と。世界の歴史、人類の歴史、凡ての民族の歴史はみな「人民の苦慘と艱難とその質實な成果」とであります。然り、人類の歴史は貴族や英雄や戰爭の歴史ではなくして民主主義の流れであります。

□

その流れに掉してゆくことが私の民主主義史論の唯だ一つの事業であります。その流れのうちに、私は民主主義の眞實な精神を捕へることを期します。民主主義を私身自のうちに體現し、私自身を民主主義のうちに吸收させることが私の心の願ひです。(室伏生)(大正八年二月十五日)

普通選擧運動の人々

▲日本に於ける普通選擧運動の歴史は可成りに古いものである。――而して其最も古い思想上の淵源は、ルソーの天賦人權論である。だから、自由黨時代のそもそもから普通選擧といふ文字が政治家の間に持囃されてゐた事は事實である。然し乍ら、天賦人權論が普通選擧の哲學であつた時代は、あまり長くは續かなかつた。――けれども、それは唯天賦人權論の誤謬が指摘せられたに止てゐて、普通選擧は其儘、引續き呼號されて來た。中江兆民は先づ最初に於ける其思想の宣傳者として當然擧げらるべき人である。然し中江兆民は直接に普通選擧の宣傳者でもなければ、又運動者でも無い。彼は唯單に普通選擧運動を産み出すべき機會を與ふるに有力なる思想の持主に過ぎなかつた。

▲普通選擧に對する要求の聲が無邪氣に、奔放に叫ばれた時代は何と言ても舊自由黨の全盛時代であつた。先頃日比谷の中央亭で納税資格撤廢同盟會の席上に於て座長に推擧された白髯の河野廣仲翁の如きも此二十年前の昔から普通選擧の唱導者であつた。――往年の彼が常にルソーのソーシアル、コントラクトを懷中から離さなかつたといふ事を聞くと聊か滑稽な感じがする。今の憲政會の老將藤澤幾之輔等も亦地方に於ける普通選擧運動の戰士であつた。と聞くと何となく異樣な感じがする程である。

▲大井憲太郎、松本君平、既に人民黨の過去帳の中に葬り立られた是等の名前は普通選擧の實際運動の歴史に筆を染むる者の何と言ても見遁す能はざるものである。大井憲太

郎松本君平並びに少し遅れて先頃巣鴨病院で死んだ日向輝武氏等に依て造られた普通選擧同盟會は徒らに年月の長きを誇るに止て十數年の間、是といふべき運動もしてゐない。

而して、時代の近代は往年に於ける新思想の持主であつた彼等をして見事に普通選擧の幽靈にしてしまつた。然り、普通選擧の幽靈彼等に加へらるべき讃辭は最早之以上を出でなくなつてしまつた。――今や其看板休職陸軍騎兵大佐西本國之輔氏の門柱を飾てゐる。

▲最近に於て、普通選擧運動として特に記すべき理由を有するものは青年學生の運動である。明治二十年から三十年に亘る、東京の青年學生の運動といふものは實に旺なものであつた。而して、此運動を促進せしめ原因たの主要なるものは勿論、當時の社會狀態に相違ないけれども、直接の意味に於て彼等を刺戟誘發したものは當時に於ける社會主義者であつた。其中に我々は、安部磯雄、片山潜、石川三四郎、木下尚江等の名を擧ぐる事が出來る。而して、是等の人々に刺戟せられて、次第に其運動を社會的に擴大して來た團體は早稻田大學に於ける、社會政策學會であつた。

その社會政策學會の代表者は、一昨年の騷動以來稻門を去て、目下、資本金百萬圓日本國產株式會社の社長となつてゐる一代の雄辯家、永井柳太郎君である。當時運動の中に入て旺に活動した人々は白柳秀湖、山田欣一郎、小口孤劍等の人々である。

▲其中に世界の大勢が一變した。歐州戰亂が起つた。世界の思潮は次第にデモクラシーへ、――デモクラシーへ、と流れた。斯の如き周圍の狀態にせき立てられて日本の社會狀態――日本の國民思想が激變した事は事實である。――此二三年來、普通選擧要求の勢は再び千里の藪を燒き始めた。大正六年加藤時次郎氏を中心として出來た普通選擧同盟會（舊普通選擧同盟會の變形）は先づ是等の新運動の先驅者として顯はれた。此同盟會の運動は、たつた一回の演說すら官憲の壓迫禁止する所となつて暗から暗に葬られた。――その理由とする所は其運動の背後に賣文社を中心として立てる社會主義者の一派があるといふ所にあつた。同會のメンバアは、石川半山、森田義郎、小野瀨不二人、それに例の大井、松本等の人々であつた。

▲爾後一年、普通選擧運動は隨所に起りつゝある。單獨で。あらゆる方法を以て普通選擧の運動に從事しつゝある布施辰治氏――近來メッキリ男を擧げて來た黑須龍太郎氏、更に此實際運動の中心たらんとする尾崎行雄氏、是等の名前を列記して來ると普通選擧も其實現の日のあまり遠くない事を泌々感じさせる。

新著批評

ヘンダアソン著「勞働黨の目的」

『この書物はマグナ・カルタや米國獨立宣言のように epoch-making のものではないにして最も epoch-marking なものである』――これはヘンダアソンの著書「勞働黨の目的」についてアレキサンダア・マツケンドリツクが批評した言葉であります。私はこの批評に附け加へることもできない代りに、また何ものも削りとることはできない。ヘンダアソンのこの書物は慥に卓越した epoch-marking なものであると思ひます。

□

ヘンダアソンとは人も知る通り英國勞働黨の首領であります。今年五十五才、ニユーカツスルの鑄物師の丁稚から身を起してゐます。アスキス内閣では教育院總裁となり、ロイド・ジョーヂ内閣では軍事内閣員となつてゐます。また一九一四年二月から勞働黨の幹事長となり、開戰後は勞働黨の議長となつてゐました。同黨において最も卓越した指導者であることは勿論です。

□

彼れが一九一七年五月にロシアへ旅行してから後は、だん〳〵にロイド・ジョーヂとの折合が惡しくなり、遂に對ロシア政策について意見を異にして内閣を去りました。ロシア政策といふよりはロイド・ジョーヂ内閣の戰爭政策について意見を異にしたのであります。彼れが内閣を去るとともに、英國勞働黨とロイド・ジョーヂ内閣との關係は一變しました。彼れに次いでジョーヂ・バーンスが軍事内閣に入つたにしても、勞働黨の大多數は、ヘンダアソンの側にと立ちました。さうしてロイド・ジョーヂ内閣にとつては最大の强敵として立つことになつたのであります。

□

いふまでもなく彼れは戰爭そのものに反對したのではない。彼れの愛兒ダヴキツドは戰において仆れてゐます。彼れはその祖國を愛する政治家であります。けれども彼れの愛國心とは、たゞ英國のための利己心に屈從してゆくことではない。

□

彼れは獨逸軍國主義の反對者であります。けれども彼れが軍國主義に反對することは、たゞ獨逸を憎むがためでもなく、獨逸の破滅において英國の膨脹を期待するがためでもなく、民族自決主義のうへに、世界の平和を期待したが

ためである。その世界の平和とは、英國的資本主義のための平和でもなく、權力均衡の基礎のうへに立つ武裝的平和でもなく、眞實なる平和世界的協調の平和、全人類のための平和、彼れの言葉をもつてすれば「人民の平和」であります。

□

この「人民の平和」を贏ちうることは、彼れにおいては、彼れが英國の參戰を支持したる理由の凡てゞあります。彼れはこの立場から世界の大戰を判斷します。それゆゑに獨逸の軍國主義には勿論反對します。それとともに、獨逸の「人民」に對しても、更らにボルシエヴヰキについても、またこれを敵として取扱ふことを心から避けます。こゝに彼れの立場があります。こゝにロイド・ヂヨーヂの立場があります。

□

彼れはどこまでも勞働者です。彼れの心はどこまでもニユウカツスルの丁稚奉公者の心です。勞働者の友として、勞働者の父として立つことが、彼れの政治の凡てゞあり、また彼れの全生命であります。

□

彼れの書「勞働黨の目的」は四六版百頁ばかりの小著であるに過ぎない。けれどもその內容は、勞働者の立場を說明するにおいて、何人によつてのものよりも整頓した文書であると思ひます。その用語のうへから判斷しても、その思索の深くして精密であるところいつても、慥に卓越した文書であると思ひます。

□

彼れは勞働黨の組織を改正することの必要を述べ、ソリダリティを說き、自由を說き、平等を說き、デモクラシーの精神を明らかにし、民族主義を談じ、世界の新組織について多くの暗示を與へてゐます。それ等の項目は何れも熟讀する値打ちのあるものであるといふことは、決して記者が、自らその好むところに偏したものといふことはできない。

□

勞働黨の組織を改正することについて彼れの述べてゐるところも、政黨政治家のどうしても一讀するの必要のある文字であると思ひます。その計畫は決して新らしいものではないにしても、英國勞働黨については革命である。彼れは勞働組合の一聯合會に過ぎなかつた勞働黨を國民的基礎のうへに立つところの政治團體となすことの必要を力說してゐます。彼れは體力勞働者に非ざる智識階級をも勞働黨に加入せしめることを提唱してゐます。

□

その書物はヘンダアソン一個人のものであるといふよりは、寧ろ英國勞働黨の立場を宣明したものとして見ることができます。彼れ自身は昨年の選擧において自由黨と統一黨の包圍を蒙つて名もなき候補者のために敗られたことはその當時の電報によつても傳へられた通りであります。けれどもその敗られたことは決して勞働黨そのものの敗北と見るべきものではなくして、たゞ戰勝熱に驅られたる人民の無自覺の結果であつたといふことができる。それにしても勞働黨の得票は二百三十萬票もあるから同黨のトーマス君のいつてゐるとほり、今日においても既に英國における第二位の政黨であることを證明してゐます。次ぎに來るべき選擧において、勞働黨が過半數を占めるであらうとするトーマスの豫言は必ずしも誇張といふことはできない。

□

それのみならず、昨年の總選擧では統一黨も自由黨の兩派もともに政綱を發表することができなかつた。たゞカイゼル處分問題や賠償問題のような際物師的の斷片を發表して選擧民の戰勝心理を利用したものに對して、勞働黨が正々堂々その社會改造政策を提げて立つたことは、勞働黨が今後において霸權を主張することのできる大きな强味の一つであると思ひます。この英國勞働黨の社會改造政策は、ヘンダアソンのこの書物によつて明らかにされてゐます。

(by B. W. Huebsch, New York)　(K生)

デユウヰー教授「學校と社會」

□

デユウヰー教授は、交換教授として日本にきてゐます、彼れが米國における一流の思想家であることは誰れも許します。彼れはシカゴ派を代表するプラグマチストです。彼れの著書としては、「學校と社會」、「論理の研究」、「哲學上におけるダーヴヰンの影響」等があり、何れも現れてゐます。

□

「學校と社會」(School and Society)は新らしい書物ではなく、既に一八九九年に出版されたものです。この意味からいふと古るき書物です。けれども一八九九年に第一版が印刷されて以來、既に十四版を重ねてゐます。一九〇九年からは毎年一版づゝ賣れてゐます。それで見てもこの書物が今日においても立派に生命をもつてゐる書物であることが分ります。

□

彼れは先づその第一章において學校と社會の進歩との關係について述べてゐます。彼れに從へば、精神上の變化は最も遲く來るものである。彼れの言葉通りにいへば、われ等の道德的、宗敎的の思想と興味とは最も保守的なものである。何故ならば、それ等のものは、われ等の性質のうちにおいて、最も深きところに橫はつてゐるものであるからである。けれどもそのような深きところに潜んでゐるものでさへ、社會の進歩と隔絶して存在することはできない（六頁參照）

□

「社會の進歩は驚くべきものである。われ等の社會生活のうちにおいて、革命がこんなに急激に、廣汎に、完全に行はれたものとは何人も殆んど信んじられない位である」とデユーキーはいふ。さうしてこの社會的革命の事實と學校敎育との關係について述べる。「敎育もまた全社會進化の一部分であらねばならぬ」

□

彼れは學校敎育と社會進化との關係の密接であることを述べる。また密接であらねばならないことを述べる。「新敎育？新教育といふ言葉が使ひえられるならば、最早や敎育なるものの孤立性が失はれた時ではないか。」

□

彼れは敎育を批判することは、たゞ敎育といふことの狹い立場から判斷してはならないことを主張する。即ち廣い立場、社會的見地（ソーシアル、ヴヰユー）から批判することの必要であることを主張する。こゝにも彼れのプラグムチストとしての立場が見える。

□

彼れはソーシアリズムと個人主義とか同一物であることを主張します。この點においては、日本におけるプラグマチストとしての田中王堂氏と同一の立場におります。「善良にして賢明なる父母がその子に求めるところのものは、社會がその凡ての小供等に求めるところのものでなくてはならぬ。」彼れはこう主張します。さうして社會主義と個人主義との同一性を主張します。「凡ての個人の發達にトルウであることによつてのみ、社會はたゞそれ自身にトルウであることができる」とは、彼れの全著書を一貫する精神であります。(by University of chicago)（K生）

レビュー オブ、レビュース

河上肇氏の「勞働運動の使命」

東方時論二月號に顯はれた、法學博士河上肇氏の「勞働運動の使命」と題する論文は社會的に多くの注意と、尊敬とを拂はるゝに充分なるものである。

冒頭、氏は先づ叫んで曰はく、「勞働運動をして力あるものたらしむるために最も大切なる事は之に魂を與ふる事である。」と。

氏に依て提唱せられた魂なる文字は、吾等に從へばSystem（組織）である。更に此立場を廣く解釋する時は、經濟上に於ける勞働者の奴隷生活の解放である。而して、河上博士の勞働運動の使命、は要するに勞働者を解放する事に依て、勞働者自らが文化の所產に携はり、而してその中心勢力となる事である。

此處に河上氏の聲を最も端的に語るべきものとして此論文中に挿まれた一節を拔萃する。

『此大事業（河上氏に據れば勞働者自らが文化の所產に携るべき運動）は勞働者の外に之を實現し得る者あらざるのみならず、そは、また必ず彼等によりて實現せらるゝ事を要する。若し彼等によりて實現せられずんばそは必ず失敗に終るべきものである。」と。勞働者自らが文化の所產に携はらんがための運動とはそもそも如何なる運動を指す乎。――河上博士の推論は其抽象的名辭に裏切て、思ひ切て明瞭な、而して大膽な卒直な答を與へてゐる。

曰はく、「日本の勞働者は團結しなければならぬ。團結して鬪はねばならぬ。諸子、勞働者をして團結せしめよ、團結して鬪ふ所あらしめよ、而して彼等の鬪を公の鬪たらしむるがために、彼等をして其使命を自覺する所あらしめよ。」と。

河上博士の言は雄大である。壯麗である。而して、此雄大にして壯麗なる文字の所產である、「勞働運動の使命」は一面に於て吾等の注意と尊敬とを要求すべき資格を有するものに相違ないが、此雄辯宏辭の禍する所となつて眞實なる勞働運動の形式に對する批判が全く失はれてゐる所に吾等の批難の焦點が存在してゐる。

氏は叫ぶ、「日本の勞働者は鬪はなければならぬ」と。然らば、彼等は何を目的として、何と鬪はなければならぬのか。若し此鬪爭が直ちに階級鬪爭を意味し、第四階級民の資本鬪に對する戰を意味するならば、博士の所論は明に自

己撞着に陷てゐる。何となれば博士は其論文の第二段に於て、恰も劍を潛めて長袖善舞するが如き態度を示して、「今日勞働者の解放は實に必要であるけれども、之を直ちに解放したからとて、決して善い結果は生ぜぬのである。大多數の者は貧乏であるが故に、一般的に言へば智識も低い、精神も充分に向上されて居らぬ。今、是等の人々を直ちに解放して、政治上、經濟上の權利、權力を平等に分配したからとて彼等は之を如何する事も出來ぬ、」と說いて居られるではないか。

而して、博士の態度を徹底すれば、勞働運動に於ける精神主義卽ち、勞働者自らの精神生活の向上發展が、勞働運動速成の第一段階である、といふ事になる。

然し乍ら、若し此考を、勞働者各自の中に內在する反抗的精神の結晶が直ちに社會的の形を執て顯はれる時、始めて勞働者自身のための、而して、勞働者自身に依ての勞働運動が起る、といふ意味に解釋する時は博士の議論は論理一貫、理義極めて明白のものとなつて來る。――何れにせよ、此短き論文は大體に於て其言はんとする要旨を最も碎けた態度を以て語てゐる。而して、斯の如く、碎け切つた所に博士の强味と同時に弱味が潛伏してゐる。何となれば、斯の如き立場に立て、斯の如き問題を論ずる博士自身が如何なる思想の所有者である乎。といふ事に就て吾等は全く之を知る術を有たないが故である。博士の考を思想の形式の上に顯はす時、博士は、果して何れの形に屬すべき乎。サンデイカリスト乎。コムミニズト乎。乃至はソーシヤルデモクラツト乎。――恐らく博士の內部には其何れかが明瞭りした形を執て存在してゐるに相違ない。而して吾等の要求は博士が其屬する何れかの立場を固執してあらゆる問題に深奧なる學殖を傾けられん事である。（尾崎士郎）

若宮卯之助氏の「危險思想の中心としての帝國大學」

一

若宮氏が最近、なにがし氏と共に「大宇宙」とか、「大亞細亞」とかいふ名前の雜誌を出されるといふ噂を聞いた時、今迄一種の皮肉、若しくは反語として吾等の耳底に響いてゐた、若宮氏の反民主々義的立場が可成り明瞭りした眞劍味を帶びて聞えて來る樣になつて來た。

嘗て與謝野晶子氏が、若宮氏の論文を批評して、「世界の大勢に妄信する空想的反譯論を攻擊せられでゐる程の勢力

を以て、日本人は世界の大勢力の中から日本人獨自のどういふ必要と見識と、能力とに依て、どういふ世界の理想を是として撰擇し、それに如何いふ手加減をして日本人の營養に資したら宜いかといふ事を、遊戯的でなく、反語的でなく、匠氣的で無く、攻撃的で無く摯實に、正面から、積極的に主張して戴く事を私は望みます。』と言つた事がある。然し乍ら、與謝野氏の希望は竟に仇なる空想として見事に葬られた。若宮氏は愈々出でゝ愈々旺に其貴族主義的官僚主義を振廻してゐられる。其等に若し若宮氏を信ずるものありとせば、その反語のすべてを言說其者として信ずるより外は無い。若し吾等が若宮氏のすべてを信ぜずとすれば、反語のすべてを、言說其者として信ぜざるのみである。

二

斯の如く貴族的、專制的、官僚的態度を露骨に大膽に表明して世界の民主主義に叛旗を飜へした最近の武者振りは、其雜誌新時代に書かれた「危險思想の中心としての帝國大學」の中に發見する事が出來る。

若宮氏は此一文の中に於て、畢常の歷史的見地から世界の大勢に通ずる前に先づ日本の大勢に通ずるの必要を說いてゐられる。而して其鋭き槍玉に先づ第一に擧げられた哀れなる盲者は京都帝國大學の朝永三十郎博士と、帝國大學の吉野作造博士とである。此兩名は德川時代の鎖國を以て日本歷史に於ける國民惰眠の時代と解した事を以て其無智を追究ぜられてゐる。德川時代の歷史的研究は暫く之を除外するとしても、日本の大勢に通ずる事が世界の大勢に通ずる第一步である、といふ議論は寧ろ當然といふ程度に解り切つた問題である。然し乍ら、此解り切つた問題も若宮氏に依て解釋せらるゝ時は、聊か異つた結果に到達する樣に見ゆる。尠くとも若宮氏にとつて日本の大勢に通ずる事は、日本國民の生活の根柢に潜んでゐる官僚的、貴族的思想を摑み出した、而して之を遵守し、之を固執する所にあるのである。――而して之を固執する時、此官僚的日本を守る貴族思想に反對する思想はすべて危險思想であり、すべて橫文字の奴隷である。而して此見地から進んで論斷せらるゝ時、日本に於ける危險思想の中心は「帝國大學」である。然り、而して、若宮氏に從ふ時は、苟くも斯の如き貴族的日本に生れたる人間は、日本の大勢を知らずして「世界の大勢」に順應する前に、先づ進んで勇敢に此貴族的日本の思想を以て、世界の大勢を指導しなければならぬ。

――吾等は若宮氏の此論文に對し、尠くとも生眞面目に之を論評するの勇氣が無い。吾等は反語に於て到底、天才

若宮卯之助氏に追隨する事は出來ない。嗚呼、我豈辯を好まんや。――若宮氏の反語も、皮肉も等しく止むに止まれざる所より生れたものであるに相違ない。

三

若宮氏の議論――(反語)の根據は「日本」の民主思想家の殆んど總てが社會的色盲であるといふ點である。卽ち彼等は歐洲を知て日本あるを知らず、世界の大勢に順應し、追隨する事を知て、日本の思想を以て世界の大勢を指導する事を知らない。而して其最も尤たるものは橫文字を以て終始しつゝある帝國大學である。――是が若宮氏の議論の論據である。

若宮氏は頻りに民主思想家の社會的色盲たる所以を難ずる。然し乍ら、之を難ずる若宮氏自身は果して何である乎。若し彼等が口にする日本が直ちに歐羅巴の事であるならば同じき意味に於て若宮氏が口にする世界とは直ちに日本の事である。若し彼が社會的色盲であるならば、同時に是も社會的色盲であらねばならぬ。社會的色盲を以て、社會的色盲を難ずる。――此處に於て乎、人生之れ危しの感無きを得ない。

歐洲の事は歐洲の事、日本の事は日本の事、といふ態度は、更に進んで歐洲の中に日本を發見し、日本の中に歐洲を發見するに非ずんば斷じて、徹底するものでは無い。然るに若宮氏に從へば歐洲の思想は竟に日本國民の同一基調に立てる同一要求に副ふものでは無いのである。然らば、歐洲に非る日本に何故に產業革命が起つたか。何故に普通選擧の運動が起つたか。――若宮氏の反語は此質問に對して、或は大きく空嘯いて、日本の產業革命は日本の產業革命だ。日本の普通選擧は日本の普通選擧だ。と言はれるかも知れない。而して同じ論法が「民主思想」の上にも行はれる事が出來る。――世界の大勢を砌り、自國の大勢と、世界の大勢との交涉點に深く思を致して政治の特殊的性質が十分に了解せられた時政治的民主思想は政治的過程に置ける一大進步を證するものである。」――是が若宮氏の議論の過程である。然し乍ら、「是は危險である。」是が若宮氏の議論の結論である。(尾崎士郎)

□次號豫告

ラディカリスト　尾崎士郎

リーブクネヒトの著書から

カール・リーブクネヒトは伯林の市街戰において仆れました。彼れが仆れたとともに獨逸の過激主義もまた仆れたといふこともできます。過激主義はベルンの國際社會黨會議で決議したとほり、民主主義ではなくして一種の專制主義であります。その過激主義者としてのリーブクネヒトは永久にこの世界から去りました。けれども彼れの「軍國主義論」は永久に殘ります。殘るべき名著です。それはリーブクネヒトが過激主義者でありし紀念としてゞはなく、彼れが正しき勞働階級の代表者として、また正しき平和主義として殘るといふことです。この論文は彼れの「軍國主義論」の一節です。

……室伏生

對外的軍國主義、海國主義
殖民的軍國主義
戰爭及軍備撤廢問題

資本家階級の軍隊は、他の社會組織の軍隊と同じく、二重の目的に奉仕する。

第一には、外國を攻撃し、或は外部からの危險を防衛するための國民的組織である。一言にして言へば、國際爭議に備へるものである。また軍隊用語に從へば、外敵に備へるものである。

資本主義から云ふと、戰爭はモルトケのいつたように、「神の世界的規律の一部である。」ヨーロッパ自身のうちに戰爭の或る原因が、除かれてゆくことは事實である。またアルサス、ローレンスの問題にかゝわらず、クレマンソオ、ピシヨン、ピツカートの三人組にかゝわらず、東方問題、汎回教主義（パンイスラミズム）幷にロシアの革命にかゝわらず、ヨーロッパ自身における戰爭の可能性は、だん〳〵に減退してゐるのである。けれども膨脹慾——謂ふところの『文明國民』によつて育成されつゝある、商業上幷に政治上の膨脹慾の結果として、ヨオロツパには、新らしき、且つ非常に危

險なる衝突の原因が現はれてきた。この膨脹慾は、主として東方問題并に汎回教主義に關するものであり、其の世界政策、就中殖民政策の結果は、一九〇六年十一月十四日の獨逸帝國議會において、大宰相ビューローが卒直に承認してゐるとほり、無限に衝突の原因を導き、且つ非常な勢をもつて、軍國主義の他の二つの形式卽ち海國主義と殖民的軍國主義を助長せしめるものである。――われ等獨逸人こそこんな話ができる！

海の軍國主義――海國主義(ネーバリズム)は、陸上軍國主義の自然の兄弟であり、そうして軍國主義の、あらゆる猛惡にして、嫌惡すべき特性を現はすものだ。それは結果においても、また國際的危險――世界的戰爭の危險においても、陸上軍國主義よりは、一層度合ひの激しいものだ。

ある善良な人民、または欺瞞者達は、吾々をして、英獨兩國間の緊張せる關係は、單に、或る誤解、惡德記者の煽動、または拙劣な外交官の大言壯語の結果であると信ぜしめやうとしつゝある。けれども吾々は、眞實なる意味を知つてゐる。

これ等の緊張した關係は、世界の市場における、英獨兩國の經濟的競爭の擴大した當然の結果である。また無制限なる資本主義の發達、國際的、競爭の直接の結果でなくてはならない。キユバに對する米西戰爭、伊太利のアビシニア戰爭、英國の南阿戰爭、日清戰爭、北清事件、日露戰爭、これ等のものは、戰爭を起した特別の原因及條件が、それぞれ異つたものであるにしても、一般に、膨脹慾の戰爭としての、共通の特質をもつてゐるのである。また若しも吾吾がチベット、波斯及アフガニスタンの問題についての英露の關係、一九〇六年の冬における日米の紛爭、及一九〇六年十二月の、佛西兩國の協同――モロッコ爭議についての光榮ある事件を記憶してゐるならば、われ〳〵は如何に殖民的資本主義政策并に膨脹的資本主義政策が、世界の平和の建物の下に、無數の坑道――その導火線(ヒユーゼス)は、易すく且つ偶發的に、爆發すべき――坑導を仕掛けつゝあるものであるかを知ることができるのである。ある時期には、世界の區劃が、一定の程度――凡ての殖民地は、殖民帝國の信託に委せられるやうな政策が、實現されると云ふ時代にまで進步して、個人的資本主義の競爭が、トラストまたは同盟(コムバイン)によつて、ある程度まで實現してきたごとく、斯くして殖民的競爭が減退するやうなことがあるかも知れない。けれどもそんなことは、丁度支那の經濟的并に國民的勃興が、悠久の時間に委せられてあるごとく、遠い將來の問題

である。

それ故に、今日まで主張された凡ての軍備撤廢の計劃は、今日においては、愚鈍な、單純な修辭上の、また欺瞞的の計劃と云ふの外は、何んにもならないのだ。ザーがヘーグにおける喜劇の作者であつた事實が、これ等の計劃のうへに眞實なスタンプを押したものだ。われ〳〵の時代においても謂ふところの英國の軍備制限の僞謀は、滑稽な裝のもとに現はれた。これ等の計劃の、謂ふところの首唱者――陸軍卿ハルデーンは、軍備の縮小に對する强き反對者として現はれ、彼れ自身が、軍事的無鐵砲者であることを示した。その間に、英佛の軍事條約が、地平線上に現はれてきた。

それのみならず、第二回平和會議の準備が出來上つたその瞬間にさへ、瑞典は艦隊を擴張した。米國及日本は益々軍事豫算を增加した。フランスのクレマンソオ内閣は、强大な陸海軍が必要だと云ふ主張のもとに、二億八百萬法の軍事費の增加を要求した。獨逸の半官紙「ハンブルゲル、ナハリヒテン」は動かすべからざる確信のもとに、「神聖な救世主」軍國主義をもつて、獨逸の支配階級を蔽ふてゐる感情の精髓であると主張した。獨逸の人民は、彼等の政府によつて、軍事的經費の擴張を求められた。――自由黨員すらも、熱心にこれを贊助した。

斯かる事實は、われ等に、フランスの元老院議員にして、ヘーグ仲裁裁判所の議員たるコンスタントの、軍備制限の論文が、如何に無邪氣のものであるかを敎へる。誠に、この政治的夢想家の想像においては、軍備撤廢の基礎についての、誰れも知り切つてゐるような了解――普通の雀もするほどの、了解すらも必要ではないのだ。その後に、平和會議において、列强がステッドの提議を捨てゝ、軍備撤廢の問題を、第二回會議の議題から驅逐した。――その强國の、赤裸々な殘忍性を見ると、却つてセイ〳〵した氣持がする。

私はもう少し資本主義――軍國主義の方面における資本主義の、第三の結果、卽ち殖民的軍國主義について語らなくてはならない。殖民地軍――これは獨逸領南アフリカに計劃された民兵の意味ではない。況んや半獨立の英國殖民地における、全く性質の違つた民兵のことではない――は、英國にとつては極めて重大なものである。そうしてその他の文明國においても、益々重大なものとなりつゝある。英國にとりては、この殖民軍は、獨り殖民地の「内

敵」即ち土民を壓迫し、拘束するのみならず、尚ほ外敵例へばロシアに對する武器となるものであるが、その他の殖民的强國、米國及獨逸においては、屢々保護隊（schutztruppe）或は外國團と云ふの名のもとに、最初の目的とは離れて、憐れむべき土民等を、資本主義的牢獄の奴隷となし、またこれ等の土民が、外國の征服者又は盗賊に反對して、その國家を保護するやうなことがあれば、何時にても、少しの同情もなしに、これを射り、斬り、且つ餓死せしめるために働くものである。ヨォロッパ人中での、寧ろ廢物から成立つてゐることの多い、この殖民軍なるものは、われ等のヨォロッパの資本主義の國家におけるあらゆる、軍隊のうちで、最も殘忍にして、且つ最も憎むべきものだ。殖民地軍から生れるこんな殖民的軍國主義及殘忍なる熱帶的野蠻主義のごとき罪惡は、未だ存在しなかつたところである。ティッペルスキッヒや、ヴィヤマンや、ボドビーエルスキーや、ライストや、ヴキーローや、ピエタースや、アーレンベルヒの名は、この點を、獨逸について證據立てゝゐるものである。これ等のものは、ヨォロッパ諸國の殖民政策の性質——殖民政策は、文明の基督教的信仰を宣傳し、或は國民の名譽を宣傳すると僞りながら、殖民地に關係ある資本家の利益のために、忠實に、暴利を貪り、欺僞手段を實行するところの、殖民政策の果實である。彼等ヨオロッパ人は、防禦なき人間を殺戮し、虐待し、無防禦の財産を焼き盗み强奪し、そうして基督教と文明を僞り、且つ辱しめるのだ。コテッツやピザーロの名聲と雖、印度やトンキンや、コンゴーや獨逸領南アフリカや、フ井リッピンの前には色褪せてしまうのではないか。

ゴシップ

△大逆事件以來、日本の勞働運動は全く影を潜めてしまつたと言ても言い。その原因は勞働運動が社會主義者と名乘る人に依て爲されてゐた爲めである。而して、日本の官憲の解釋に從ふ時は社會主義者は同時に勞働運動者であり、勞働運動者は同時に社會主義であつた。否唯に社會主義者であつたばかりでなく、勞働運動と言へば直ちに無政府主義に到達するものと信ぜられてゐた。少くとも、勞働運動に從事するものは盡く、幸徳秋水を稱想するものです。爆彈に到達するものであると信ぜられてゐた。だから大逆事件の審判と共に日本の勞働運動は全く其影を潜めてしまつたのである。其勞働運動が政治的の意味を以て解釋せられて來たのは極めて最近の事に屬する。

▲何れにせよ。勞働組合、普通選擧、等の文字が其儘に危險物の對照とせられて來た事は事實である。而して、暫く押入の中に投げ込まれてゐた彼等の運動が再び塵垢と共に飛び出して來た事は興味深き事實である。

▲河野廣仲、松本君平、大井憲太郎、——過去帳の中に綴り込まれた是等の名前を再び其看板にしなければならない日本は少くともならなくなれてゐる日本人は餘程呪はれた人種と言はなければならない。（ＳＯ）

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部 十八錢	五厘
半年分 一圓	税共
一年分 二圓八十錢	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十錢

大正八年二月二十六日印刷納本
大正八年三月一日發行

東京市麴町區山元町二ノ五
編輯兼發行兼印刷人　尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　株式會社博文館印刷所

東京市麴町區山元町二ノ五
發行所　批評社

廣告

半頁	十六圓
三等	三十圓
二等	四十圓
一等	六十圓

但二等以上の半頁以下は御斷り

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館　良明堂
▲日本橋　至誠堂

大正八年三月三十日第三種郵物認可
大正八年三月廿八日納本大正八年四月一日發行（毎月一回一日發行）

批評

四月號

批評社

東京市麹町區
山元町二ノ五

編輯局より

▲誰れが民衆を指導しますか？　誰れが民衆に代つて戰ひますか？

▲デモクラシーを體現しくゐる人、純潔の人、確信の人、英邁の人が日本のどこに見當りますか？

▲過當に尊敬されるものは大學の先生達であります。その大學の先生達に、時代を創造し、民衆を指導するの用意がありますか？學問がありますか？　思想がありますか？　人格と勇氣とがありますか？

▲黎明會？、それは新思想の人々の集まりであると吹聴されます。その黎明會のどこに新思想があります。どこに新思想の人物がゐます。どこに民衆を率ゐて立つだけの用意があります。民衆の一人たりとも、それに滿足してをりますか。黎明會自身でさへ、少しも滿足してゐないであらうものを！

▲日本の新聞紙は何をしてゐますか。議會筆記の競爭です。飛行機の墜落の號外です。「某所着電」の多いこと！

▲代議士は何をしてゐますか。「議長！九名の委員附託」……「委員長報告通り可決確定」……質問……討論……委員會……さうして何が殘りますか？

▲政府は何をしてゐます。開墾助成法案！、選擧權三圓案！然り、農民色の濃い政府！

▲民衆は飢ゑてゐます。民衆は疲れてゐます。さうして疑つてゐます。その民衆を誰れが指導してゆきます。

▲指導なくしては民衆はない。指導なくしてはデモクラシーはありえない。指導なくしてあるものは、民衆ではなくして暴徒であり、デモクラシーではなくしてオークロクラシーであります。

▲美しきもの、民衆！

▲醜くきもの、暴徒！

▲われ等をして美しき皇室的傳統のもとに、新らしき協同の社會――デモクラシーの日本を建設せしめよ。さうして醜き一切のものを葬らしめよ。

▲若き日本は、既に人々の心のうちに建設されつゝある。この心を成長せしめよ。

▲「批評」はもとより微力なものです。微力なれどもわれ等の民衆の心のうちに、「若き日本」――然り、デモクラシーの日本を建設するものは、われ等の「批評」の任務であらねばならぬ。

▲Onward!……to Democracy.

▲道は遠い。けれども光は見えてゐます。その光を追ふて、私どもは若きデモクラシーの日本へと進みます。

▲近頃、色々の新雜誌が現はれます。新聞紙が、民衆の指導力を失つてゐる以上、民衆の指導者としての新雜誌が生れなくてはならぬ。（K）

批

第二巻……目次

時代批評

新時代運動の精神

今日の日本が時代の變轉期に立つてゐることは勿論であります。然り、われ〳〵は何ごとよりも先きに、われ等の日本が一大變轉期に立つてゐることについて、深く、さうして強い自覺をもたなくてはならないと思ひます。

一切の諸運動はみなこの時代變轉の精神から生れてきます。その精神は一切のものゝ基調となります。一切のものの父ともなりまた母ともなります。今日のわが日本においての諸運動——文化運動と稱する樣々の運動は、よきものもあしきものも、みなこの時代變轉の精神から刺激をうけたものでなくてはならないのであります。

刺激 impulse とは人間の本性のうちに根ざすところの人間本能の衝動であります。この衝動はたゞ人間のうちにのみ宿ります。その本性のうちにのみ成長します。これあるがゆへにこの刺激は何ものにも奪はれることのない力であります。この力からのみ人間的なる眞實の諸運動が生れることができます。この力のうへに立つことのなき諸運動は何れも眞實なる人間的の運動ではなくしてたゞの僞りの形骸であります。その運動が如何に壯大であらうとも、如何に高慢な人々によつて指導せられようとも、そのような運動は魂に缺けたる運動であり、やがて泡沫のごとくに消えてゆきます。

われ等の先輩はこの泡沫のような諸運動のために空しくその心身を滅ぼしてきました。日本の歷史は、それが二千五百年間の長さがあらうが、また或は世界に比類なきほどに、一點の瑕瑾もなき圓滿なる體系美があるにしても、その一切を通じて、深刻なる人間的の何ものもなかつたことを斷言するに少しも憚ることの必要はないことゝ思ひます。その歷史の全體のページを通じて、一として、人間本性の刺激のうちに生れたる深刻なる精神の發現を見ることはできないのであります。

日本の二千五百年と稱する全體の歷史を通じて果して何ものが殘るか。われ等を指導し、われ等を教へ、われ等を興奮せしめ、われ等を靈感せしむべき何ものが殘されてゐるか。

私どもの祖先は戰爭に長じ、勇氣に富み擊劍に巧みでありました。けれども二千五百年と稱するその長き生活の歴史を通じて、遂に一度たりとも彼等は彼等自身を知ることはできなかつたのであります。それゆへに日本の歴史はそれが公卿の歴史、武家の歴史、「百人一種」の歴史、英雄の歴史であるにしても、決して眞實なる人民の歴史と申すことはできないのであります。その眞實なる人民の歴史を創造することの任務は、私どもの現代の日本の民衆の開拓に任ずべき荒蕪地として殘されてゐるのであります。

その荒蕪地を開墾すべき時代がきました。これがわれ等の新時代運動であります。それゆへに新時代運動は日本の歴史の破壞ではなくして日本の歴史の創造であります。皇室的傳統のもとにおける日本の民衆史の創造であります。新時代運動の意味と價値とはこの一點にあると申して差支へないのであります。

民衆運動は人間の本性のうちにおける民主主義の impulse から生れます。その impulse から生れたものゝみ眞實の民衆運動であります、またその運動のみ眞實の新時代運動でなくてはならないのであります。然り、新時代運動とは民主主義の運動でなくてはならない。從つて人民自身の運動でなくてはならない。人民自身の運動は、人民がそれ自身を知ることからその第一歩を始めます。

日本の民衆は、何ごとよりも先きに、彼れ自からを知らなくてはならない。時代の變轉期とは、日本の民衆が彼れ自からを知り始めたことを意味します。然り、日本の民衆もまた彼れ自からを知り始めつゝあります。今日の日本における人心の動搖とは、いふまでもなくこの時代の變轉期を物語つてゐるものであります。この時代の變轉期を正當に指導することが謂ふところの新時代運動であります。

新時代運動の聲は隨所にその火の手を揚げてゐます。その運動は未だ決して有力なる組織的の運動ではない。ありのまゝにいへば極めて蕪雜にして無責任なる運動であります。それにもかゝわらずその蕪雜にして無責任なる運動も動搖しつゝある民心の何れかの微妙なる一點に觸れてゐます。こゝに凡ての新時代運動の眞理が横はります。それとゝもに今日までの新時代運動の凡てが蕪雜にして無責任であるにしても、それは決して新時代運動の前途を悲觀するの理由とはならない。それ等の蕪雜にして無責任なる新時代運動が奪ふべからざる民主主義の道德的勢力によつて驅逐せられる時に、眞實なる新時代運動が起ります。

眞實なるものは榮えます。虚僞なるものはやがて滅亡の秋がきます。虚僞の廢墟のうへに、眞實なるものゝ殿堂が築かれます。虚僞の新時代運動の廢墟のうへに、眞實なる新時代運動が生れるのであります。

プロパガンダの權利

新時代運動は言論運動によつてその火の手を揚げてきます。フランス革命がディデローやルソウやヴォルテールの文字によつて指導されたことの多かつたがごとく、今日の新時代運動もまた言論運動の影響をうけることの大なるものであることは勿論であります。この言論運動はこれをプロパガンダ Propaganda と申します。

プロパガンダは一切の諸運動に使用されます。民主主義においても、軍國主義においても、貴族主義においても、プロパガンダは、今日の世界においては最も有力なる機關でなくてはならないのであります。

ハーゼが獨逸の獨立社會黨の首領であることは何人も承知してゐます。そのハーゼが大戰中にキールにおける獨逸の水兵に向つて平和主義の宣傳をなしたことは、その當時の新聞紙によつて傳へられてゐます。彼れがこの宣傳をなした時に、キールにおいて水兵の大暴動のあつたこともまだその當時の新聞紙によつて傳へられたところであります。時の獨逸の海相チルビッツ提督はこの事實を指摘して、ハーゼ等の一派を國家の叛逆者であると主張しました。この問題は忽ち獨逸帝國議會に大波瀾を捲き起すべき問題となりました。その時に今日の獨逸共和國の大統領エーベルトは、チルビッツ海相の態度を攻撃して、凡てのプロパガンダは政黨の當然の權利であることを主張してゐます。

私どもはこのエーベルトの立場に贊成します。プロパガンダは國民の權利でなくてはならない。一切のプロパガンダが國民の權利として承認せられるものでなくては、民衆の指導と啓蒙とは不可能であります。民衆の啓蒙と指導とが不可能とせらるゝ時に、その民衆を支配するところのものは秘密出版と暴動とであります。

民衆を憎惡するものはプロパガンダに反對します。

秘密を愛するものはプロパガンダに反對します。プロパガンダは民衆運動の最も有力なる機關であります。それゆへに民衆運動が公明なる運動であるべきがごとくに、凡てのプロパガンダは公明なる運動でなくてはならないのであります。

プロパガンダが秘密に行はれることは、プロパガンダの權利が承認されないがためであります。そのような狀態においての民衆運動は、獨りプロパガンダにおいてのみでなく、その一切の方法において陰謀的のものであり、また從つて危險性をもつてゐます。危險性の母は秘密政治にあります。その秘密政治から陰謀と危險思想とが生れます。

民主主義においては、人々は先づプロパガンダの權利を與へられなくてはならない。

文化と危險思想

ある評論家に從へば帝國大學は危險思想の根源であるとされます。或はさうであるかも知れない。若しもその通りであるとすれば日本においての危險思想なるものが至つて穏健であることの事實を示すものであるとゝもに、日本における政治狀態の最悪であることを反證するものでなくてはならないのであります。

ありていにいへば、帝國大學は決して日本における文化の中心であることはできない。今日の帝國大學に對しては、私どもはそのような信用を拂ふことはできない。いふまでもなく私どもは帝國大學のうちにも卓越したる學者の存在するの事實を否認するものではないにしても、それ等の一、三の學者の存在することの事實は、帝國大學をもつて日本における文化の中心とするほどの重味あるものとなすことはできない。それとは丁度正反對であるとも申すことができます。例へば帝國大學が日本における官僚政治の思想的の支持者であつたことは既に久しい事實である。それにもかかわらず、日本の政治的文化は、帝國大學を時勢の潮流から取り殘して、帝國大學の期待したる政治的文化とは正反對の方向に漸進してきたものであります。それゆへに帝國大學をもつて日本における文化の中心となすことは素より帝國大學に對する買被りでなくてはならない。たゞ最近になつてからの帝國大學は稍やその長夜の眠りから醒めようとしつゝある。帝國大學が世間の進歩の後を隨從してきたのである。その隨從の事實を見て、帝國大學が危險思想の

中心であるかのごとくに論ずることは、素より正しき批評家の批評ではない。それはたゞある保守主義者の苦悶の言葉であるに過ぎない。それにしても今日まで官僚主義の淵叢とされてきた帝國大學が何故に世間の風潮に隨從するようになつてきたものであらうか。われ等の注意を要する點は卽ちこのところに存する。

私どもは革命前のロシアにおいて、屢々その國の大學、特にモスクヷ大學が危險思想の淵叢とされたことの事實を見ます。獨り大學ばかりではなくして貴族の青年が屢々危險思想の中心であつたことの事實を見ます。トルストイやクロポトキンやリユオフ公が貴族であることの事實を指摘しなくとも、ロシアにおける改革または革命の諸運動は、屢々貴族の子弟によつて指導せられてゐることは、ロシアの革命史を讀むものゝ何人も承知してゐる事實でありま す。それは何のためであらうか。

貴族が多くの場合において保守黨であることはいふまでもない。大學もまた多くの場合において保守黨の巢窟であると申すことができます。英國の諸大學のごときは明らかにこれを證明してゐます。それにもかゝわらず大學が――日本またはロシアの大學が危險思想の中心であり、またはありとせられることは何のためであるか。その國の文化が、他の多くの國の文化よりも著しく後れてゐることを證據立てゝゐるものではなからうか。

貴族に屬するものは、決して彼れ自からの生活上における痛切なる壓迫からの彼れ自身の自覺に到達することはできない。この點において貴族に生れたるものは決して現代の指導者となることはできない。大學の世間知らずの學生諸君にしても、彼れがその貧しきノートをもつて誇りとしつゝある間は、彼等は決して民衆の指導者となることはできない。大學卒業生特に法科大學の卒業生の多くが役人となり會社員となることの事實に見ても、彼等が現代社會運動の指導者となることの抱負と實力とをもつてゐないことは明白であります。それにもかゝわらず、政治的文化の著しく低級なる國家においては、この世間知らずの大學の先生學生または貴族の子弟も、世間の平準よりも一步先きの立場に立つことができます。何となれば、彼等は多數の無學者よりも、その橫文字讀みの理由をもつて、諸外國の狀況に通ずることができるからであります。諸外國の狀況に通ずることはその自國の文化を正當に批判すべき第一步であります。この第一步の便利をもつてゐるものが橫文字讀

みの諸君であります。その横文字を通じてその國の文化が他の諸國のそれよりも著しく劣等のものであることが感得せられる時に、その感得したるものは改革者となり、また革命家となることもあります。卽ち謂ふところの危險思想の釀生者となることができるのであります。

それ故に大學が危險思想の中心であることの事實の肯定されることは、その國の文化の劣等であることの事實の肯定されることでなくてはならないのであります。私どもは謂ふところの危險思想を恐れる前に先づ私どもの一切の文化の劣惡であることを見なくてはならない。

「我が國」の煩悶

「我が國」が迫害されてゐる時に、「我が國」を高調するものは愛國心であります。それとは反對に、「我が國が順境にある時に、徒に「我が國」を高調し、「我が國」の膨脹を主張し、さうして一切の排外的の態度に出づるものは、國家的利己主義 egoism であります。

一九一四――一八年の世界戰爭は、各國における愛國心を證據立てゝゐます。それとゝもに國家的利己主義また自我主義の立場は、だん／＼に危險に陷つてゆきます。

民主主義は愛國心とゝもに立ちます。國家的利己心は民主主義の最先に排斥するところであります。それゆへに民主主義の榮えることは、國家的自我主義または利己主義の滅落を意味します。その自國偏愛主義 chauvinism の滅落の時が近づきつゝあります。「我が國」の煩悶はこのところから出發します。日本における官僚、軍閥または資本的チンゴイストの一派の諸君の煩悶はこのところから出發します。「私どもは目のあたりこの「我が國」の一派の諸君の煩悶を見ます。けれども官僚、軍閥、元老、または資本的チンゴイストの「我が國」の煩悶は、決して眞實の「我が國」民主主義の日本の煩悶でないことは勿論であります。その古るき「我が國」の煩悶とゝもに、若かき民主主義の日本が、美しき皇室的傳統とゝもに榮えます。

社會主義運動

社會主義運動の擡頭してきたことは、今日の日本においての、われ／＼の最も深い注意を要する點であると思ひま

す。

その運動は、今日までの日本においては、決して強い、さうして大きな運動となることはできなかつたものである。それはたゞ官權の壓迫のために、可成りに久しき間、屛息的の狀態を持續してくるのほかはなかつたほどに、微力なるものでもありまた少しも國民的の後援ある運動といふことはできなかつたものであります。今日までの經過においては日本における社會主義運動は、一部の社會主義者と官權との爭ひであるに過ぎなかつたものともいふことができます。

けれどもわれ〳〵は明日を見なくてはならない。今日までの微力は、明日の不振の理由となるものではない。

われ〳〵は素より社會主義者ではない。或る種の社會主義に對してはそれに嚴肅に反對するものであります。けれどもわれ等が社會主義者であると否とにかゝわらず、社會主義運動の權利を否認すべき何等の理由をもゝたない。少くとも國家社會主義の運動に對して、國家がこれを抑壓することは、その國家が資本主義の萬能を理想とする國家であることを證明するものでなくてはならぬ。

われ等の國家の任務は社會主義を禁壓することではなくして、それを健全に指導することであらねばならぬ。今日以後の批評家の任務は眞に社會主義を理解して、それに嚴正な批評を下すことであらねばならぬ。社會主義に對して嚴正な批評を下すことのできる人々のみ、今日以後の世界における批評家としてのレーゾン・デートルを主張することができるものとも申すことができるのであります。

然り、われ等は凡てのものに機會を與へなくてはならぬ、凡てのものから營養を攝取しなくてはならぬ。

私どもは革命と暴動と專制とを排斥します。さうして眞實なるデモクラシーを主張します。眞實なるデモクラシーは賢明なる國家と賢明なる民衆とを要求します。（三月二十日）

デモクラシーの新理想

室伏高信

ヅ・トツクヴヰユがその Democracy in America のうちにおいて述べてゐるところは、デモクラシーの心理をよくいひあらわしてゐるものと思ひます。「民主約の人民は……平等に對して熱烈なる、飽くなき、不斷の、打ち破るべからざる熱情をもつてゐる。――然り、自由においての平等、奴隷においての平等、たゞ平等に對して」これはヅ・トツクヴヰユの著書中の一節であります。デモクラシーの心理は平等を好愛する人々の熱情のうちに存在します。ブルツクスもまたその名著 The Social Unrest のうちにおいて、民主主義の中核の思想は平等を求むることの熱情であることを指摘してゐます。

（一）

世界の歴史のうちにおいて、最も早やく民主々義を主張したものはプロタアゴラスであります。彼れに從へば、天神ゼウスは、人間に公正(ディケ)と羞耻(フィドッス)とを一樣に且つ同等に領ち與へたがゆへに、人間の社會は民主々義の發展に適してゐるのであると。(拙著「民本主義について」參照)その言葉によつても知られるとほり、民主々義はその世界における最初の主張者の時から、平等の思想のうへに立つてゐます。獨りプロタアゴラスにおいてばかりではない。ヘレニツクの凡ての民主々義はみなこの平等の思想とゝもに生れてゐると申すことができます。そのヘレニツクの民主々義はたゞ自由民(フリーメン)においての民主々義であり、それは多數の奴隷民とは沒交渉のものであります。この點にヘレニツクの民主々義の一大弱

點が横はります。それにもかゝわらず、スパルタにおいても、アゼンスにおいても、その民主々義は貴族の特權に反對するものとして、貴族と平民との間における政治的平等の慾求としてそれ等の民主々義が生れてゐます。ローマの民主主義もまた貴族の特權に對する平民の反對として生れてゐることは勿論です。フランス革命の民主々義においては、人間はみな「平等に造られたものである」ことを宣言しました。その人間が平等に造られたものであるとするの哲學によつてフランス革命が肯定されたのであります。その思想はプロタアゴラスのそれと全然同一のものであるとすることができるのであります。現代民主々義はフランス革命の民主々義を敵とします。それを正面の敵として立ちます。それにもかゝわらず、現代民主々義の目的とするところは依然として自由と平等の要求であり、その自由と平等の要求であることの點においては、少しもフランス革命のそれと異るとこはないのであります。卽ちその民主々義の求むるところは、勞働階級のための平等の慾求、自由の慾求であります。その勞働階級のために自由を要求し、平等を要求することは現代民主々義の中核であると申すことができます。

（二）

現代民主々義はフランス革命の民主々義を正面の敵として出發します。フランス革命の民主々義と現代民主々義とは相許すことのできない敵同志であると申すことができます。ラッサールが何ものよりも先きにまた何ものに對してよりも强烈にその國の自由主義の諸政黨に反對して立つたことはこの事實を最も雄辯に物語つてゐます。彼れが自由主義の諸政黨に反對したことは決して自由そのものに反對したことではない。その反對である。その反對に自由主義の諸政黨——諸政黨といふよりは、それが代表する資產階級の覇權に反對したことであります。フランス革命は一面において凡ての人間が平等に造られたことを宣言してゐます。それにもかゝわらずそのフランス革命においての民主々義は、たゞ公民 citoyen においての民主々義として終つたのであります。中世の都市において發達したる資產階級に對して政治上の權力を與へたものがフランス革命であります。それゆへにフランス革命は一面においては貴族的オートクラシーに對

する革命であるとゝもに、また他の一面においては資産階級的オートクラシーの創造であると申すことができます。その民主々義は貴族的オートクラシーを破壊することにおいては慥に埋沒すべからざる功績をもつております。けれどもまたそれとゝもに今日に至るまで百數十年の久しきに亘つて資産階級的オートクラシーを築きあげたことにおいて辯解すべからざる罪惡をなしとげてきたものであります。最近百數十年の世界はこの資産的オートクラシーのために悩まされたる慘憺たる記錄の堆積であります。この世界において産み出されたるものは資本家階級と勞働階級とであります。資産的オートクラシーによつて、資本家はたゞに政治的においてばかりではなく社會的にも産業的にも、一切の覇權を掌握することの生活體系を組織することができたのであります。この一切の體系を指して資本主義 Capitalism と申します。この資本主義の覇權のもとにその一切の自主的の立場を失つて、社會的政治的産業的の一切の生活の最下層に落されたものが卽ち勞働階級 Proletariate であります。それゆへにこの勞働階級はフランス革命の謂ふところの自由主義の名において社會の最下層に墜落するの止むなきに至つたものであります。卽ちそのフランス革命においての自由とは人口の最大多數を占めてゐる勞働階級のためには、たゞ社會の最下層に墜落することの自由であると申すことができます。かくしてフランス革命後の世界は、自由といふことの名によつて、それまでの世界における如何なる階級も比較することのできない一つの強大なる階級――ブルジョア階級を押し立てることゝなつたのであります。その階級の強大であるだけ、それだけこの階級においての覇權は、階他の如何なる階級においてのものよりも強大なるものであり、たゞに政治的の領域においてばかりではなく、社會的または産業的の領域においてもその覇權を押し立てたものである。從つてその覇權は貴族主義または君主專制主義のごとき無內容にして且つ形式的のものではなく、人間生活の一切に貫通する覇權であります。また從つて人間生活の一切を支配するオートクラシーとなつたのであります。

（二）

資本的オートクラシーの力が強大であればあるほど、そのオートクラシーによつて支配せられる勞働階級の苦痛は深

刻なるものである。フランス革命の前においての公民は、その時においての貴族主義から、或はまた宗教的覇權 Papa-
l hegemony からの迫害をうけたにしても、彼等のうけた迫害は決してその生活のどん底においての苦痛ではない。彼等には信仰の自由がなく、言論の自由がなく、所有の自由がなく、また集會結社の自由がなかつたにしても、それ等のものは、多くは政治的の關係においてのみの迫害である。これとは反對に、資本的オートクラシーのもとにおいての勞働階級のうくるところの迫害は、その產業的の世界から始まる。從つて彼れの日常の生活の問題から始まつてくる。彼れの生活、彼れの父母の生活、彼れの妻、彼れの小供の生活の問題から始まつてくる。そのうくるところの苦惱は彼れの祖先の味はつたことのないほどに傷ましいものである。傷ましい苦惱は人間の心を深刻なものとします。その深刻なる人間生活の苦惱から現代民主々義が生れます。それゆへに現代民主々義は、如何なる時代においての民主々義よりも嚴肅なる民主々義であります。人間生活のどん底から生れてくる民主々義であります。然り、どん底からの民主々義であります。どん底からのものであるがゆへに、それは嚴肅なるものであり、それは一切輕佻浮薄なる何ものをもゝつてはゐないのであります。

（四）

どん底においての人間生活の苦惱は、たゞそのどん底に立つてゐる人のみ、さうして眞に道德的である人のみ、これを理解することができます。それは學者の玩弄物としてはあまりに傷ましい民主々義であります。また政治家の人氣取りの道具としてはあまりに嚴肅なるものであります。それは決してルソウや、ディデローや、ヴォルテール等のような高慢な空想家によつて理解されるものではない。況んや滔々たる空疎なる形式法律家の理解しえられるものとしては、それはあまりに深刻なる人間精神の苦悶詩であります。この深刻なる人間精神の苦悶のうちに傷ましく彼れ自らの生活の解放を要求するところのものが現代民主々義であります。

（五）

それゆへに現代民主々義は資本的オートクラシーに反對するものとして出發します。またそれゆへにフランス革命の空想に反對して立ちます。さうして勞働階級のための眞實なる自由と解放とを要求します。それゆへに現代民主々義の一大特質はいふまでもなく勞働階級主義として出發するの點にあります。

（六）

前にも述べたとほり、資本主義とは單に産業的の覇權でもなく、政治的の覇權でもなく、政治、産業、社會のあらゆる人間生活を規律し支配する一切の領域に貫流するところの體系であります。それゆへにこの資本的オートクラシーからの解放は、また社會的、政治的、産業的の一切の人間生活を規律する局面においての、勞働者階級の解放でなくてはならないのであります。他の言葉をもつていへば現代民主々義は單に政治的領域においてのみの空疎にして樂天的な民主々義ではなくして、社會的または産業的の領域にまで突入してゐるところの深刻なる人間精神の要求であります。この點に現代民主々義の第二の特質が存在します。それゆへに現代民主々義は政治的、社會的、産業的の人間生活の一切の領域における自由、平等の慾求であると申すことができます。

（七）

かくして現代民主々義は、社會的、政治的、産業的の人間生活のあらゆる領域における自由、平等の慾求であります。もつと具體的にいへは現代民主々義はそれ等の一切の領域においての被支配階級たる勞働階級のためにその一切の領域においての自由と平等とを熱切に要求します。けれどもこの勞働者のために自由と平等とを要求することは、決して勞働者のための覇權を要求することであつてはならない。それが覇權の要求であるとすれば、何ものゝために覇權を

要求するものであるにしても、それは決して民主々義の精神であると申すことはできない。繰返していへばその覇權が貴族のために要求せらるゝものであるにしても、資產階級のために要求せらるゝものであるにしても、また或は勞働階級のために要求せらるゝものであるにしても、それ等のものは一切民主々義ではない。貴族のために覇權の要求せらるる時にアリストクラシーが成立します。資產階級のために覇權の要求せらるゝ時にプルウトクラシーが成立します。勞働階級のために覇權が要求せらるゝ時に過激主義が成立します。それ等のものは一切民主々義ではなくしてその反對であります。ベルンの國際社會黨會議において、デモクラシーの名において過激主義反對の決議の發表せらるゝに至つたことはこの事實に對する有力なる證明でなくてはならないのであります。然り、民主々義の要求するところは一切のもののゝためにする覇權 dictatorship の要求ではなくしてその反對であります。その反對に自由と平等とを要求します。

（八）

「第四年に於ては」エッチ・ヂ・ウエールスが最近の著述であります。彼はその書物のうちにおいて、今日の民主々義を代表するものが比例代表であることを述べてゐます。このことの意味は少數代表といふことであります。少數者の意思を尊重するといふことは、あらゆるもののゝ自由を尊重することの意味であります。それとゝもにあらゆるもののゝ專制を排斥することであります。その當面の目的とするところは多數の專制を排斥することであります。多數者の支配は古き代議政治の思想において、民主々義そのものであると考へられてきたと申すことができます。けれども多數者の支配といふことは、その一面において少數者の被支配といふことが存在します。その數の大小は兎も角もとするも、そこには慥に被征服階級の存在する事實を見なくてはならないのであります。旣に被征服階級が成立する以上その組織は決して自由の組織、平等の組織、人民全體の組織と申すことはできない。從つてこれを民主々義と稱することはできない。最大多數の最大幸福說が成り立たない限り、多數者は決して眞理と稱することはできない。その反對である。その反對に一つの專制政治であります。シドニー・ウエッヴはこれを多數者專制 Majority tyrany と申してゐます。ウエッ

ヴがこれを多數者專制と申してゐることは、ウエールスが比例代表をもつて民主々義の表徵であると申してゐることゝ同一の精神であります。その精神が民主々義であります。民主々義は凡ての種類の征服に反對します。さうして人間生活の自由と平等とを要求します。この自由と平等との要求であることの點においては、プロタアゴラスの時代から、今日の勞働階級民主々義の時代に至るまで、あらゆる時代の民主々義に一貫したる大精神であると申すことができます。然り、民主々義とは一つの精神であります。自由と平等とを慾求して止むことなき人間精神そのものとして民主々義が存在するのであります。

（九）

けれどもこゝに自由と平等とを主張することは、決して凡ての人間が平等に造られたことを主張することではない。凡ての人間が平等に造られたものであるとは米國獨立宣言の大文字であります。またそれはフランス革命の宣言の基礎ともなつてゐます。凡ての人は生れながらにして自由であり、凡ての人は生れながらにして平等であることがフランス革命の立場であります。その立場からして人間の歴史上における最も慘憺たる大革命が成立してゐます。近代の諸國家はみなこのフランス大革命の影響をうけざるはないと申しても差支がない。それにもかゝわらずそのフランス革命においての自由と平等の宣言は一切虛僞であり、空想であると申すことができます。人間は決して平等に造られたものでもなければ、また決して自由に造られたものでもない。却つてその反對であります。凡ての人間が平等に造られたとすることは一切の人間の進化史を抹殺する議論であらねばならぬ。また人間の天賦の才能の優劣ある嚴然たる事實を否認するものでなくてはならぬ。天賦の才能の優劣は、われ等の世界においては、如何な詭辯家もこれを否認することはできない。ミケロアンヂエロと市井の一彫刻家とをもつて、ともに平等に造られたものであると論ずる人があるとすれば、その人はたゞ虛僞の批評家であると申すのほかはない。私どもは虛僞を排斥します。私どもの論ずるところはたゞの空想であつてはならない。人間生活の嚴然たる事實から出發するものでなくてはならない。その事實から出發するものは、人

間が決して平等に造られたものでないことの事實を承認します。然り、人間は不平等に造られたものである。この不平等に造られたものを、一切平等であると前提するところの主張は民主々義ではなくして暴民政治の主張であります。その政治はたゞ凡庸主義であり、数量主義であり、多数決萬能主義であり、さうして民主々義ではない。民主々義はそのような虚僞の主張ではないのであります。

ある種の藝術家は、藝術は貴族的であると申します。また民主々義は藝術に適しないと申すものもあります。これ等の人々は、民主々義をもつて、たゞ單に数量的に多数決を眞理であるとするの主張であると考へてゐる人達であります。その人達はフランス革命の民主々義に囚はれてゐます。その古るき幻影のうちに民主々義を捕へてゐます。けれどもその捕へたとするところのものは民主々義ではなくして、古るき、さうして滅落したる幻影であります。現代民主々義は既に民主々義自身の立場において一大革命を遂げてゐます。民主々義に反對する人々は、その反對と否とを決する前に先づ民主々義自身についての眞實なる理解に入らなくてはならない。その眞實なる理解に入るものは、民主々義が決して藝術の立場に反逆するものでないことを承認します。眞實なる民主々義は獨り藝術と兩立することのできるものであるばかりではない。眞實なる民主々義においてこそ藝術の榮えがあると思ひます。何となれば民主々義こそあらゆる藝術に機會を與へるものであるからであります。

(十)

民主々義においての平等とは何んであるか。この問題に答へたるものゝうちにおいて、私の最も興味深く感ずるのはアブラハム・リンコーンであります。彼れは奴隷の廢止によつて不朽に傳へらるべき人であります。彼れは奴隷に對して熱切な同情を寄せます。さうして白人と奴隷との間における平等を主張します。彼れの血管には米國獨立宣言の大精神が流れてゐます。彼は世界に於ける最大のデモクラットであるとされます。そのアブラハム・リンコーンは一八六一年フヒラデルフヒアの獨立會館における有名なる演說のうちにおいて、『凡ての人々の肩上から苛酷の負擔を除き、さう

して凡ての人々をして平等の機會をもたせなくてはならない』ことを述べてゐます。またさうしてこの凡ての人々に平等の機會を與へることが『米國獨立宣言のうちに宿れる感情である』ことを述べてゐます。それゆゑに彼れにおいての平等とは人間が平等に造られたとすることの空想的の平等ではなくして、人間生活における各人の機會の平等 equal chance であります。各人の機會の平等においてアブラハム●リンコーンの民主々義が存在したのであります。人民の、人民によつての、人民のための政治とは、彼れにおいては各人に對する政治上の機會の平等といふことにほかならなかつたのであります。このアブラハム●リンコーンの立場はまた同時に今日のソーシアル●デモクラシーにおいてのシドニー●ウエッヴの立場であります。ウエッヴにおいては、民主々義とは次のごときものであります『われ〳〵は社會の凡ての人々がその天賦の才能を使用し且つ發展せしめることの公明なる機會をもつことを要求するものである』と。

（十一）

デモクラシーとは各人の意思の支配であります。社會的領域における各人の意思の支配を社會的民主々義と名づけます。産業的領域における各人の意思の支配を産業的民主々義と名づけます。亦政治的領域における各人の意思の支配を政治的民主々義と名づけます。（拙著「デモクラシー講話」參照）各人の意思の支配とは、人々がみな征服階級となる事ではない。ルソウが空想したやうに、それは各人がみな官吏となることの要求ではない。卽ち各人が他の人々に對して征服權を實行することでもなく、その征服權を慾望することでもなくして、他の何人によつても征服せられざることであります。民主々義は征服に對して非征服を要求します。民主々義においての官吏とは、征服者ではなくして人民の機關であります。また民主々義においての生産機關とは、人民をエクスプロイットすることの機關ではなくして人民の、人民によつての、人民のための生産機關であります。それゆゑに民主々義においての各人の意思の支配と云ふことは、その各人が他の何人をも征服することではなくしてたゞ彼れ自らを征服せられざることであります、モンテスキューは自

由を定義して、自由とはその欲するところをなし、その欲せざるところをなすことを強制せられざることであると申してゐます。このモンテスキューの定義はまた移して直に民主々義の定義にも用ゐることができると思ひます。民主々義とは各人がその欲するところをなすとゝもに、その欲せざるところを強制せられざることであると申すことができます。けれどもこゝに深い注意を必要とすることは民主々義において、その欲するところをなすといふことは、決して各人の利己的なる意思の無制限の發動といふことの意味ではないといふの點であります。各人はみなその利己的の一面をもつてゐます。この一面は凡ての人間の自然的生活においては免れることのできない本能的の慾求であります。私どもはこの事實を否認することの獨斷に陷つてはならない。けれども各人がその利己的に欲するところに從つて無制限に行動することは、他の各人の行動の自由を抑制することであり、從つてそれは自由ではなくして征服であり、拘束であり、束縛であります。ある一人または數人の個人の慾望において他の各人の慾望の抑制せられることであります。從つてそれは民主々義ではなくしてオートクラシーであります。それゆゑに民主々義においての自由とは、各人がその心に欲することの如何なる種類のことをも無制限になしうることの狀態ではなくして却てその反對であります。その反對に各人がその一切の利己的慾望を捨てざることによつて、各人の生活においての眞實なる自由が成立します。人々は各人がその利己的の醜き慾望を捨てざることによつて初めてその社會生活における機會の平等にと到著することができます。またこの機會の平等においてのみ眞實なる自由が成立します。これをフランス革命の民主々義について見る。フランス革命においては、人間が生れながらにして平等であることを宣言してゐるにもかゝわらず、その社會的關係においてまた政治的關係においてさへ、人間生活の平等の機會を與へることをなしてゐない。あるものは廣大なる工場と精巧なる機械とによつて生産手段を獨占してゐるに對し、社會の最大多數の階級はたゞその機關によつて征服せられるよりほかなき狀態に置かれてゐます。機會の平等ではなくして機會の最高度における不平等であります。それゆゑに多數の人々は貧困に飢えます。少々の人數のみ榮えます。少數の人々の征服において多數の人々の被征服が存在します。少數の人々はそのなさんと欲するところをなし得られるに對し、大多數の人々はそのなすを欲せざることを強制されるの

であります。それゆゑに眞實なる自由とは各人がその利己的になさんと欲することを無制限になすことの狀態ではなくして、その一切の利己的の慾望を制限することであり、政治、社會または產業生活における人間の機會の平等とは、この利己的慾望の制抑において、その排斥において、その否認においてのみ存在します。然り民主々義とは人間生活における機會の平等において存在します。さうしてその機會の平等とは人間の利己的慾望の一切の否認においてのみ存在します。

（十二）

利己的慾望の心は平等の機會の慾求の心ではなくして、その反對に不平等の機會を要求するの心です。利己的の機會の慾求の心です。その心は征服者の心であり、ブルジョアの心であり、卑しき人間の自然的慾求の一面であります。それ等の一切を捨てさるにあらざれば人間生活の機會の平等なるものはあり得ない。また從つて民主々義なるものはあり得ない。民主々義とは利己的慾望に捧仕することではなくしてその利己的慾望を捨てさることであります。弊履のごとくに捨てさる時に、そこに美しき民主々義の誕生があります。

（十三）

フランスの革命の精髓は人權宣言であります。「その人權及び公民權宣言」のうちにおいては、人間は生れながらにして平等であることを主張してゐるとゝもに、また凡ての人は天賦に人權をもつものであることを宣言してゐます。その人權のうちにおいて、最も重要なる地位を占めてゐるものが所有することの權利であります。所有權の神聖であることの宣言は、フランス革命の諸事業のうちにおいて最も多く人間生活に影響を與へてゐます。その所有權神聖の宣言のために貴族と僧侶との專制政治を轉覆すべき重要な原因を導いてゐるとゝもに、またこれによつてブルジョア階級の政

治的、社會的、產業的覇權を導くことになつてゐるのであります。卽ち古るきオートクラシーを打破して新らしきオートクラシーを組織してゐるのであります。そのオートクラシーは、人間の自然的慾求としての、有たんとするの意思のうへに立つてゐます。所有せんとする意思は、利己的の意思であります。彼れ自らの慾望の充足を目的とするところに所有せんとするの意思が成立します。その意思の最も根本的の impulse は彼れ自らのための慾望であります。所有とは、自己の慾望の目的に對して、他人の利益を排斥して、彼れ自らの欲するまゝにこれを支配することであります。そのものゝ使用が、如何にして社會的効用の能率を增進するかの問題を考量するの意思ではなくして、そのものが、如何にして自己のために最も多く効用を增加するかの問題を考量するの意思であります。從つて所有の意思は、利己的の衝動から出發します。その利己的の衝動は、フランス革命におけるブルジョアの意思であると思ひます。フランス革命の民主々義はかくして有たんとするの意思から出發します。それゆゑにまたその民主々義の特質は利己主義のうへに立つてゐるものであるㇳ申すことができます。

既に有たんとする意思が人間の自然的の衝動のうへに成立する以上、私どもはこの有たんとする意思を全然われ等の心から除きさることはできないであらう。けれどもその意思はどこまでも利己心の慾求である。利己心の慾求は、各人のための平等の慾求ではなく、人民の、人民によつての、人民のための政治、社會、產業の要求ではなくして、それは一切排他的のものであります。ある目的物について、他人の利益を排斥するのでなくては、所有といふことはあり得ない。卽ちそれは一切排他的であります。從てそれは征服の意思であり、侵略の意思であり、專制慾の意思、貴族慾、資本慾の意思であり、それゆゑに民主々義の精神ではなくしてオートクラシーの精神であります。

（十四）

私どもは一切の利己心に反對します。利己心を排斥することから人間の道德的生活は出發します。道德の第一步は利己心の排斥であります。利己心を排斥することは、個人を捨てることではない、個人をもつて利己心のうちに沒入せし

める代りに、その個人をより以上のものゝために捧(デディケート)げることである。即ち自己犧牲であります。自己犧牲とはこれを自己否認または自己輕蔑と區別しなくてはならぬ。犧牲とはたゞ自己そのものをより高く、より美しく、より尊きもせんとする衝動とは利己的の衝動であります。創造せんとする衝動とはその利己心の慾求と相對立するところのものでのゝためにデディケートすることである。從つてそれは自己の發展であり、自己の創造であり、人間の理想に向つて彼れ自身の最高の努力を拂ふことである。卑しき自己を捨てゝ尊き自己に就くことである。從つて利己心を捨てゝ道德的生活にと入ることであります。道德とは何んぞや。

(十五)

道德とは何んぞや、私はこの問題に答へるために、ベルトランド・ラッセルの言葉を引用します。ラッセルは今日の英國の思想界においては最も權威ある哲學者とされます。そのラッセルの近著「政治的理想」、「社會改造の主義」及び「神秘主義と論理」の三著は、近頃の讀みものゝうちにおいて私の最も深く傾倒したるものであります。このうち「政治的理想」及び「社會改造の主義」の根本をなすものは、彼れの謂ふところの二つの impulse であります。彼れは二つのものが人間生活を支配する最も基底的の力であることを主張します。またこの impulse のうへに立たざる凡ての思想が人間の實際生活を規定するの力となることの不可能であることを主張します。彼れの「政治的思想」及び「社會改造の主義」はみなこの impulse の哲學から出發します。二つの impulse とは、所有せんとする衝動と創造せんとする衝動の二つであります。彼れにおいては、國家、戰爭、財産のごときものはこれを所有せんとする衝動の文化であるとなします。さうして敎育、結婚、宗敎のごときものは、創造せんとする衝動の文化であるとされます。Bertrand Russell, Principles of Social Reconstruction, P.6 彼れはこの二つのものを否認しない。二つのものを否認することは人間の本能を否認することである。從つてそれは空想である。彼れは決して空想のうへに築かれたる道德論の權威を信ずるがごときありふれたる學者ではない。けれどもまたこれとゝもに、彼れの道德の理想をなすものは、彼れの謂ふ

ところの創造の衝動が、その謂ふところの所有の衝動に打ち勝つといふことである。彼れは次のやうに述べてゐます。『最もよき社會とは、創造の衝動が最も多く働き、所有の衝動が最も少く働く社會である』と。(Russell, Political Ideals) 所有あります。從つてラッセルの道德の理想とは、利己心の最少限度においての創造の最大限度の生活であります。

(十六)

ラッセルの述べてゐるとほり、われ〳〵は所有の本能を否認することはできない。獨り所有の本能ばかりではない。一切の動物的衝動から免れざるといふことはできない。そのやうな立場においての道德論とはたゞ空想であり、教場道德であり、教科書道德であり、さうして彼れ自らを僞瞞しつゝある道德論であります。その道德論は人間の眞生活と道德的獨斷との間の疎隔のために、無若氣なる人々を無効果に懊惱せしめるところの道德論であります。それは道德ではなくして人間の眞實なる性情を壓迫せんとするところの暴虐なる威迫であります。それはたゞ威迫であるのみであつて道德として何等の合理性をもつてはゐないのであります。それゆゑにわれ〳〵は決して人間の衝動的要求の一切を否認せんとするがごとき教科書道德——師範學校的道德論を主張するほどの機械的思想の持主ではない。たゞ私どもはそれ等の動物的または利己的衝動に對してはラッセルとともにこれを最少限度に引下げることを主張するものであるに過ぎない。これ等の利己的または動物的本能を最少限に低下することを主張することは、もつと基底的にしてまたもつと人間的なる衝動の前にわれ〳〵の生活を奉仕することの主張であるに過ぎないのであります。私どもは人間の生活に押ゆべからざる衝動の力を承認します。さうして衝動のうちにおいて最も人間的にしてまた最も力強きものを捕えます。その衝動とは、ベルトランド・ラッセルの指摘してゐるとほり創造の衝動 impulse to creation であります。創造の衝動は凡ての生物に共通するものであるにしても、人間において最も旺盛のものであることは勿論であります。人間の生活とは創造の堆積であります。何ものよりも多く創造の生活の堆積したるところに人間の生活の開造せられたもの

であることは、生物進化史の明白に證據立てゝゐるところであります。然り、人間の生活は原存したるものではなくして創造されたるものであります。その創造の最長において人間の生活の特質が存在します。

(十七)

所有せんとする意思は、權利を要求するの意思であります。この權利を要求するの意思は、人間の生活が不當に威迫せられてゐる社會においては素よりこれを拒むことはできない。拒むことができないのみならず、その意思の解放に向つて努力することは、また人間生活の創造を解放することゝならなくてはならぬ。何となればこれ等の不當なる威迫を一掃することは、凡ての人間に向つて自由を考へることであり、平等の機會を與へることであり、從つてまた創造の充分にして滿足なる機會を與へることであるからであります。けれども所有せんとする意思によつて行はれたるものは、その副產物の何もの績を殘してゐるといはなくてはならぬ。フランス革命はこの點においては慥に沒却すべからざる功であるかは兎も角として、その行くべきところはどこまでも「所有」であります。われ〳〵は決して「所有」の一切を否認するものではない。けれども「所有」に行くものとは、文化の開造ではなく、人間進化の開展ではなく、また自由と機會の平等にと行くことではなくして、その反對に財の蓄積であり、文化の停滯であり、動物慾の爭鬪であり、その結果は所有階級を無所有階級の分裂となるものであることは世界における過去一世紀の歴史がわれ等の面前に證據立ててゐるところであります。その結果はまた更に社會の大名の數においての被征服となり、さうして遂に機會の不平等によつて人間生活の創造の停止的狀態となるものであることも明白なる面前の事實であります。創造せんとする意思は正にこれに反對します。創造せんとする意思は、創造の前路を妨げつゝある一切のものゝ犧牲を要求します。その一切の犧牲の根本となすところのものは犧牲の意思でなくてはならぬ。卽ち自己犧牲でなくてはならぬ。

創造の生活は犠牲の生活であります。自己犠牲によつてのみ創造があります。また創造に對してのみ自己犠牲が存立します。犠牲とは創造に與へらるゝものであり、創造とは犠牲の果實であります。生物進化の理法は明らかにこの事實を證據立てゝゐます。

（十八）

犠牲と創造との世界においては、權利の觀念は、全然これを否認するものではないにしても、これに對する承認は、最小限においての承認である。その觀念は決して最高の道德とせらるゝものではなくして、却つてその反對でありま す。その反對とは何んぞや。いふまでもなく義務の觀念であります。義務の觀念こそ最高の道德とされるのでありま す。ラッセルの言葉を借りていへば、權利の思想は所有せんとする衝動の發現であり、義務の思想とは創造にゆかんとする衝動の社會的發現であります。

（十九）

權利の思想が民主々義の中核とされたることは既にフランス革命の昔であります。そのフランス革命においての民主主義は、ブルジョア的利己心の民主々義であり、ブルジョア的侵略慾の民主々義であり、ブルジョア的征服慾の民主々義であり、從つてそれは所有する階級においての權利、さうして所有せざる階級においての屈從と飢餓との民主々義であつたのであります。その民主々義の破滅において現代民主々義が生れます。現代民主々義は權利慾に反對するの主張として出發します。義務の道德の高調者として現代民主々義が出發します。然り、現代民主々義の理想とするところは、

（二十）

人間に對する、創造のための嚴肅なる義務の宣言であります。マクドナルドは現代民主々義の立場から次のやうに述べてゐます。『國家はもと〳〵人間をもつて權利の所有者として取扱ふものではなくして、それを義務の遂行者として取扱ふものである』と。マクドナルドの述べてゐるところは、ラッセルの主張と同一の立場にあるものと思ひます。

（二十二）

現代民主々義の理想とするところは individual right の要求ではなくして社會的義務 Social duty の要求であります。人々がその利己心を捨てゝ社會的義務に奉仕するところに現代民主々義においての平等とは、この社會的義務に參加することの平等であります。それゆゑに現代民主々義は、一つの主義といふことよりも、人間生活の一切の局面における最高道德の具現であるといふべきであります。その參加の機會の平等であります。それは創造に對して主張せらるゝものであり、所有に對して主張せらるゝものではない。所有の最少限においての、創造の最高限にとゆくことであります。然り社會的理想——創造の理想に向つて、自己犧牲の平等の機會を慾求するところ然り、一切の生活の局面においてゞす。政治生活においても、社會生活においても、產業生活においても、また國際的生活においても、それ等の一切に通じて、人間の道德的本能を具現したるものが現代民主主義であります。われ〳〵は最早や利己主義のうへに、權利の慾求のうへに、われ等の世界におけるデモクラシーの精神が存在するものゝごとくに考へてはならない。そのやうな精神は、ブルジョアの精神であり、「暴民」の精神であり、過激主義の精神であり、さうしてわれ等のデモクラシーの精神ではないのであります。われ等のデモクラシーはそのやうな卑しい精神ではなくして、その卑しき精神とは反對の impulse のうへに深く根ざしたる道德的精神であります。現代民主々義を理解せんとするものは、何ごとよりも先きに、それが道德的精神であることを知らなくてはならない、この點が理解せられる時に、デモクラシーは一派の保守主義者の恐怖するがごとき奇矯なるものでもなく、輕薄なる人人の信ずるがごとくに煽動的のものでもなく、眞に偉大なる道德であることを知ることができます。それゆゑにデモク

ラシーについて眞實に理解せんとするものは、何よりも先きに、フランス革命に對する彼れの憧憬の心を捨てなくてはならぬ。またさうして英國的自由主義に對する彼等の傳統的の讃美の心を捨てなくてはならぬ。暴民的またはブルジョア的の卑しき精神をもつてデモクラシーを批判せんとすることは、デモクラシーに對する誤解の最も基底的のものであると思ひます。その誤解から解放せしめよ。さうして凡ての人類が、その各々の利益と我儘と贅澤と高慢とのためにではなく、全人類の共同の理由（Common couse）について目醒める時に、眞實なるデモクラシーが芽ばえてきます。われ等をして尊きデモクラシーの精神のために結合せしめよ。

個人的より協同的へ。權利の慾求より犧牲の憧憬へ。――デモクラシーの新理想へ。（八―三―十三日）

文學とデモクラシイ

田中純

文學を成り立たせる最も主要な感情は、何時でもデモクラチックなものである。何故ならば文學は何時でも、最も「人間的」である感情の上に、打ち立てられねばならないからである。

吾々は常に、或る恒久性を持つた不拔な本質が、あらゆる人の人性の中に潜んで居ることを信じて居る。もの丶考へ方は、人々によつて違ふかも知れない。もの丶感じ方も、人々によつて違ふかも知れない。しかし、さうした差別の底にも、尙、或る普偏的な恒久的な人間らしい感情が、あらゆる人の心内に力强く動いて居ることを信じて居る。これは文學者の人間觀であると共に、文學そのもの丶アプリオリであり、信仰の對象物である。吾々は、さうした普偏的なもの丶存在を信じて、それにアッピイルしようとし、それをエンライトンしようとする。このことなくば、文學は遂に新聞の雜報に及ばないことになる。封建時代の哀歌を歌つた大近松の諸作が、その生活に於てすつかり近代化された吾々にも、なほ捨て難い文學として扱はれ得るのは、それが吾々の人間的な本性に訴ふるところがあり、その本性を力强く搔き立て丶呉れるところがあるからである。

吾々は常に、環境に順應して、また環境を順應せしめて、生きて行かなければならない。吾々と社會との間には、常に複雜な關係がある。しかし、大多數の人々に取つて、社會に――環境に順應することは容易であるが、社會を吾々自身に順應させることは困難である。社會的機構が複雜になり、その個人に對する强制力が强くなればなるほど、その困難はますく甚しくなつて來る。やがて人は、たゞ一個の機械としてのみに、その社會的生存を許されることになるだらう。そして、その個人的生存が、だんくその社會的生存によつて驅逐されることになるだらう。かくして人々は、

次第にその相互理解を失つて行く。その愛を失つて行く。その人間としての本統の姿から離れて行く。これは恐ろしいことである。

近代的社會生活に於ける文學の使命は、その離れ離れになるものを結び着かせることになければならない。お互ひに無興味になり、お互ひに無理解になり、時としてはお互ひに相反目しようとする心と心とを、本質的に深く相結び着かせることによつて、社會生活の幸福な環境を作り出すものが、吾々の文學でなくてはならない。而も、この使命を果すための吾々の唯一の方法は、社會の各人の心の、最も本質な人間的感情に訴へて、その純眞性を掻き立てることにある。人々の、最もデモクラチックな感情に訴へて、その本性を亢揚せしめるところにある。

此の意味に於て、文學はその本質に於て、デモクラチックなものである。

次號豫告

△社會主義と政治運動……室伏高信

△デモクラシーの研究……ギユリバア

『新ライン新聞』を出すまで

尾崎士郎

『一』

マルクスがボンヌ大學の哲學講師たらんとする志を抛て、ライン諸州に横流したるブルヂョアの反抗的空氣を善導して、ライン新聞を發行し、自ら其主筆となつたのは、一八四二年の秋、恰も彼が、年齢僅に廿四歳の時であつた。然し乍ら、同新聞は種々なる迫害、干渉のために、到頭一八四三年三月發行を禁止さるゝの止む無きに到つたのである。――かくて彼は禁止の命に接すると同時に、直ちに佛國巴里に居をトして、アーノルド・ルージュと共に、協同經營といふ名義で『獨佛年報』と稱する雜誌を發行した。

彼は此時始めて、ヘーゲルの法理哲學に關して意見を發表したのであるが、此時に於ける彼の研究こそ、實に彼をして、哲學の世界から社會主義に進むの道を發見せしめたものである。

『獨佛年報』は長きを支ふる能はずして廢刊となつたのであるが、此短き期間に於て彼が終生を通じて忘るゝ能はざる感謝は、彼が盟友エンゲルスを知つた事であつた。エンゲルスは彼より二年若くして、且つ彼よりも早くヘーゲル學派に離絶したる物質思想の所有者であつた。――爾來一生を通じて此二人は、感嘆すべき友情の下に、相結んで、研究上に、或は實際運動上に終始して渝る事がなかつた。

『二』

『獨佛年報』廢刊後、マルクスと、エンゲルスとはハイネエ、エールベック其他と協同して、フォルヴエルツと題する雜誌を發行し、彼等二人の著名を以て、Holly family と題するパンフレットを刊行した。是が二人の名前を以て書き誌された第一の書物である。

其後、マルクスは彼の言論が禍する所となつて、巴里を追はれて、ブラッセルに赴き、新聞、雜誌に投書して僅に生活の資を得乍ら研究を續けた。――彼の名篇『資本論』は實に此間に於て其根本思想を孕まれたるものである。

後、マルクス、エンゲルスの兩人は獨逸亡命者によつて巴里に設立せられたる『共産主義同盟』に加入し、一躍して同盟の主腦人物となり、續いて同盟の組織の變更と共に『共産黨宣言』の起草が此兩者の手に委ねられた。是れ卽ち天下に有名なる『共産黨宣言』にして、其社會的に發表せられ

たるは一八四八年であつて、丁度二月革命に先立て行はれたるものである。

『三』

斯の如くにして『共産黨宣言』は二月革命に先立て公布せられた。其部分部分に就て、何處がマルクスの筆に成つたものであるか、何處がエンゲルスの筆に成つたものであるか、といふ事は全く解らない。而して、それを明にする事は彼等二人にとつては全く不必要の事であつた。何となれば、マルクスの心臓は直ちにエンゲルスを意味するものであり、エンゲルスの頭腦は直ちにマルクスの頭腦を意味するものであつたからである。彼等は正しい意味に於て全く一身同體であつたのである。『共産黨宣言』が公布せられると間も無く二月革命が起つた。

前後十八年間、全く靜止の狀態に在つた革命の噴火口は、再び盛返して爆發した。――恐慌は遂に來た。雪崩の如く遂に來た。此時に於て『共産黨宣言』が甚だ有力なる革命黨の武器となつた事は改めて喋々するまでもない。

マルクスとエンゲルスとを要求する聲は此雜然、亂然たる空氣の間から甚だ切實なるものがあつた。

革命の餘沫は到る處に飛散した。而して、ブラッセルに於ても此影響は頗る甚しくなり、激烈なる示威運動が行はるゝに到つた。此處に於て白耳義政府は周章狼狽して直ちにマルクスを捕えて之を其國境外に放逐した。そこで彼は急遽巴里に赴いて、其革命を援けてゐたが間も無く獨逸よりの革命報知に接し、取るものも取り敢へずしてコローンに歸つた。――而して祖國に歸らんとしつゝある彼の胸中にはライン新聞再興の計畫が欝勃として蟠てゐた。

『四』

「新ライン新聞」は遂に刊行された。其編輯員の中には彼の片腕たるエンゲルスを始めとして人材雲の如くに集つた。――獨逸の新聞社にして斯の如く人材を網羅し盡したものは無かつたと傳へられてゐる事を以てするも當時の勢揃ひの如何に物々しかつたかといふ事を察知するに難くない。

而して年次を經るに從て其聲價は高まつて來た。

一八四八年十一月、プロシアにクーデターの起つた時、ライン新聞は、每號、其卷頭に於て納稅を拒絕すべきを說き、宜しく暴力に對するに暴力を以てすべき事を人民に警告し煽動した。而して數回起訴せられ、最後にライン諸州に於ける五月革命鎭壓の後に於て、遂に政府の武力に依て、其發行を禁止されてしまつた。

其……
八四……
であ……
其……
にあ……
を掲……
ー……

マ……
闘爭……
的で……
に政……
は、階級闘爭を認めて……

プロパガンダ、オブ、ゼ、ディード、に依てのみ彼等の理想實現の第一手段があると信じてゐた。

いふまでもなく、是等の社會主義者は頗る穩健であつて、勞働階級と、資本階級との間に横はれる闘爭に對し、

……る表現は『共産黨宣言』である。

卽ち、『共産黨宣言』は忽ちにして、『萬國勞働者同盟』の基礎となつたのである。その是非はとも角として、彼等の說が甚だ新らしいものとして迎へられたことは事實である。

その歴……
彼等の……
難し、之……
にすると……
への致し……
社會主義……
企圖つた……
現のため……
彼等は人……
した。
個人的組……
於ける生……
明言し、……

たるは一八四八年であつて、丁度二月革命に先立て行はれたるものである。

『三』

斯の如くにして『共產黨宣言』は二月革命に先立て公布せられた。共
ものであ
か、とい
は彼等二
ば、マルク
あり、エン
るものであ
一身同體で
と間も無く
前後十八
再び盛返し
遂に來た。
の武器とな
マルクス
る空氣の間
革命の鉾

於ても此影響は頗る甚しくなり、激烈なる示威運動が行はるゝに到つた。此處に於て白耳義政府は周章狼狽して直ちにマルクスを捕へて之を其國境外に放逐した。そこで彼は急遽巴里に赴いて、其革命を援けてゐたが間も無く獨逸よりの革命報知に接し、

其初刊は一八四八年六月一日であつた、其終刊は翌、一八四九年五月十九日、僅に一ヶ年を以て滅びてしまつたのである。

其終刊號は全部赤紙に印刷し、巻頭には「鬪爭によりてにあらず、陥穽によりて倒れたり。」と唱へた革命詩人の賦を掲出して餘韻縷々として盡きざる趣を添へた。

——以上は老リープクネヒトに依て書かれたる『カアル、マルクス』中より抜萃したものであります。（尾崎生）

マルクスとヱンゲルス

マルクス並びにヱンゲルスより以前の社會主義者は階級鬪爭の意義を解しなかつた。言ふまでもなく此鬪爭は政治的である。而してその目的は勞働階級の利益、幸福のために政權を獲得せんとするに在る。當時に於ける社會主義者は、階級鬪爭を認めず、一切の政治運動を禁止し、唯僅にプロパガンダ、オブ、ゼ、ディード、に依てのみ彼等の理想實現の第一手段があると信じてゐた。

いふまでもなく、是等の社會主義者は頗る穩健であつて、勞働階級と、資本階級との間に横はれる鬪爭に對し、僅にその慘禍のみを看取して、その依て來る原因、その歴史的進化の道程を知らなかつたのである。而して、彼等の理想とする所は、斯の如き地位にある資本家を鞭韃し、之を覺醒せしめて、而して自ら其慘禍を滅却する樣にするといふ所に在つたのである。

斯の如き思想に對して、マルクス及びヱンゲルスの致したる大いなる功績ともいふべきものは、理論的の社會主義と實際に於ける政治上の勞働運動との連絡、結合を圖つた點である。

ヤウツキーの言ふ所に從へば『彼等は新社會實現のために勞働階級の鬪爭力を利用し、善導せんとした。彼等は人道家の好意に代ふるに、勞働階級の利害休戚を以てした。彼等は新生產を爲さんとする時に當ては決して、個人的組合に據るべきに非ずして、必ずや現在の文明國に於ける生產機關及び勞働組織を有しなければならない事を明言し、提示した。』のである。

斯くの如くして、彼等の思想運動の最も端的なる表現は『共產黨宣言』である。

即ち『共產黨宣言』は忽ちにして『萬國勞働者同盟』の基礎となつたのである。その是非はとも角として、彼等の說が甚だ新らしいものとして迎へられたことは事實である。

ピョトル・クロポトキン

一

クロポトキンは、從來迄、アナアキストとして知られてゐました。而して、彼の言行の總ては盡くアナアキズムに對する努力に於て終始したと言てもよい位でありました。

元來、アナアキズムといふ觀念は一つの固定硬化した規準の中に入てゐるものではない。

それは丁度ソーシアリズムの間に驚く可き大きな相違があつたといふ事と同じであります。

而して、世界に於けるアナアキズムは大凡之を、個人的アナアキズム共産的アナアキズムといふ大綱に分ける事が出來ます。個人的アナアキズムは、一つの哲學的アナアキズムである。而して之をソーシアリズムより見る時は一つの根據無き空想であります。

然るに、コンミユニステイツク、アナアキズムは哲學的アナアキズムと等しく、個人主權の主義の上に立脚するものでありますが、インデイビデユアル、アナアキズムが私有財産を許すに反して、全く之と反對の地位を執ております。此意味に於てコンミユニステイツク、アナアキズムは、インデイビデユアル、アナアキズムに對して、甚だ革命的であるといふ事が出來ます。而してピョトル・クロポオトキンは實に此コンミユニステイツク、アナアキズムの立場に在る思想家であります。

二

クロポオトキンの特色は、彼の思想を語る上に於て、常に演繹的の方法を用ひずして歸納的——換言すれば、科學的の方法を用ひた事であります。卽ち、此方法から彼に從へば、社會は各個人の一切の勢力、一切の存在、一切の目的に從て、新に歸納的に建設せられなければならないものであります。——要するに社會とは各個人がソリダリテイの大義を行て、而して、其上に自由なる一致團結をしたものでなければなりませぬ。斯の如く、クロポオトキンは充分科學的の説明論を用ひてあります。而して、之をプルードンや、バクーニン等が屢々其獨斷を基礎として論理を組立つるのを常例としたのに反して、クロポトキンは出來る丈け演繹論の誤りから逃れて、事實の上に推論して居りま

した。例へば、動物界に於て、殆んどその總てを通じて、ソリダリテの感情が存在してゐる事を證據立つるために、先づ動物界に於ける生活の狀態を研究し、其等の事實を蒐集して、先づ斯の如き感情が動物界に普遍的に存在してゐる理由を明白にし、而して、之が宇宙の根本法則である事を明にしたのであります。而して、此處から更に新しく出發して、動物は道德的生活に於て人間よりも劣てゐる。其劣てゐる動物にして既に然りであるから人間にこの理法の通用されないわけはない、といふ見解に迄到着したのであります。

三

前にも申しました如く、アナアキズムに對する理解と解釋とは人に依て甚だ相異てゐます。或る人に依て紹介せられた三人の代表者の解釋の相違を次に揭げます。

先づ第一にプルードンに從ふ時は、總ての物は何人の有でもないのであります。然るにスチルネルに從へば總てのものは皆我が有であります。最後に之をクロポオトキンに從ふ時は、總ての物は總ての人の有であります。

此處に於て彼等の間に明に、コレクチイヴイズムとインデビデユアリズムとの相違があります。而して、クロポトキンは言ふ迄も無く、コレクチイヴイズムの信奉者であります。

四

私達は、斯の如き立場に立てる一切のアナアキズムに反對します。然り、一切のアナアキズムに反對します。一切のアナアキズムに反對する事は私達の事業のすべてゞあります。

私達は法律に服從します。私達は制度を維持します。私達は生命を尊重します。而して此處から私達の新らしき政治運動が生れるのであります。然るにアナアキズムは、法律に服從する事を否定します。制度の維持に反對するばかりでなくして、反て之を破壞する事を其運動の根本原則と致します。

然し乍ら、クロポトキンの思想家としての價値は永遠に私達の胸の中に生きてゐます。私達は彼の奉ずる主義に反對する事に依て彼を憎む事を欲しません。

私達は彼から多くを聽きます。然し乍ら私達が彼の反對者である事は言ふ迄もないことであります。

デモクラシーの人々（評論）

『デモクラシーはあらゆる美はしきもの丶内容を含む』——私は斯く謳つたエドワード、カアペンタアの言葉に遵守して、デモクラシーへ、デモクラシーへて流れて行く民衆文化の潮流を、人類に依つて爲さる丶最も美はしき運動であると信じてゐる。而して、此美はしき運動に携てゐる人々を以て、眞正なる文化の所産に與てゐる人人であるとみなしてゐる。私の目は世界に汪流するデモクラシーの渦巻を見た。而して、更に私の目は私の愛する祖國に奔騰するデモクラシーの狂瀾を見た。——私は其狂瀾の底から、音律正しく響いて來るさゝやかな音樂を聽いた。——私は今此音樂を批判し、解剖し、純化し、統合する所に、眞實なる日本の精神、眞實なる日本の民衆運動を發見する唯一の方途が與へられてゐると信じてゐる。私はデモクラシーといふ言葉の中にあらゆる進歩思想を含ましめた。唯然し乍ら、私の批評は渦巻を形成する個々の波動に就ての解剖では無い。唯渦巻の波動を渦巻全體として眺めたものに過ぎない。私は更に嚴正なる態度を以て、人物を透しての文明批評を試むるの日の

ある事を豫言して置く。（以上）

『一』

中央公論の新年號は、『現代の青年を動かしつゝある政論家・思想家』といふ題の下に文壇、並びに政論壇に於ける、青年思想家、並びに批評家の意見を徴した。其中に於て最も多くの人々の意見の合致したる政論家は、『福田徳三博士』と『吉野作造』博士とである。——私の批評のメスが先づ此二人を解剖する事から始まる事は洵に止むを得ない事である。

福田、吉野兩博士は其實際運動の機關、——彼等の稱して愛國的プロパガンダと爲す所の『黎明會』における中心人物である。而して、此兩者が日本に於けるデモクラシーの渦巻の核心を爲してゐる事も亦事實である。

福田徳三博士の立場はソーシアル、デモクラットから、ソーシアル、コムミュニストに到る立場である。尠くとも、博士の語る所、博士の說く所は、斯の如く解釋しても差支無い程迄に明瞭な内容を示してゐる。唯博士が其立場を常

に動搖せしめつゝ、或はソーシアル、デモクラシーの反對者となり、或は社會政策の主張者となつて、國體論から來る襲撃を右に替し、左に替して之を未然に防ぎつゝある態度は、實に一本の竿を以て山間の溪流を下る船頭以上の聰明さでなければならない。然し乍ら、博士の態度が如何に矛盾杆格を顯現するものありとは言へ、其論理の上に盛上げられたる、豐富なる組織的內容に到ては實に當代稀に見る所であると言て差支無い。何れにせよ、博士は日本に於て最も進んだる、而して進み得べき學者である。其社會組織に對する觀察に於ても京大の人氣役者河上肇博士が、宗教的立場を脫し得ずして、『無我苑』と共產黨宣言とを結びつけてゐるが如き二元的態度に對して、飽く迄も經濟的立脚地を固執して、直截簡明に進んでゆくあたりは實に氣持が宜い。是に對應する時『現代の青年を動かしつゝある』思想家の他の一方の旗頭である吉野作造博士は、尠くとも之を福田博士と比較する時、甚だ無雜、幼稚の評を免れ難きものがある。吉野博士の民本主義說を延長して解釋する時は、政治學は人類の「政治生活の原則を論ずる學問にはあらずして、現行憲法を永久規定の事實と看做して」常に此一點をスタアトとしてゐるものである。尠くとも過去に於ける吉野博士の論議は總て此處から出發して來たと見て差支無い。理解ある吉野博士の思想の批評者の一人であつた北昤吉氏が、博士の民本主義を難じて『博士は主權論と民本主義とを沒交涉ならしめ、更に民本主義を二分するのみで、政治の目的に關する民本主義に對しては、其內容を解剖して、之を訂正し、政治の目的を確定せんとはせず、徒らに之に對して不卽不離、是々非々的態度を執り、自ら政權運用の方針決定に關する民本主義のみに局限して、政治の目的と政權運用の方針とを分離せしめて種々の矛盾を暴露し、科學的政治學を提唱して常識的談議に墮し、主權論を廻避する事處女の如く、參政權主義の一孤域に頑守して虎視耽々天下を志すこと奸雄の如く、官僚閥族を攻擊するや平民の味方なるが如く、社會主義を曲解するや中產階級の代辯者の如く、民本主義の一本槍にて學界を馳驅する事唯物論者の如く、政界の表裏に通じ、情理並び重んずる實際家の如く變幻出沒殆んど其實體を捉ふる事が出來ない。』と論じたのは或意味に於て吾人の肯定する所である。

　唯予が思想家としての博士を尊重する所は、常に眞理探究者として、異常の努力を純粹なる學理の爲めに儘して居らるゝ事と、毫も私憤私情を其評論の上に顯はさず平々坦々たる態度を維持して堅實なる論究を進めてゐらるゝ點である。——然し乍ら、予は吉野博士の將來に對し、最早餘

り多くの期待を有するものでは無い。唯、彼が其過去に於て日本のデモクラシーの渦卷の基調を造就したものであり而して絕大なる努力を帝國大學の一角から社會に向て致されてゐた功績に對して滿腔の敬意を拂はざるを得ないものである。

『二』

予は前段に於て、日本のデモクラシーの渦卷の底流の基調を形成する二人の中心人物に就て簡單なる批評を試みた。然し乍ら、今や此渦卷は更に淸新なる分子を加えて、より一層の混沌と複雜とを示してゐる。

而して、此混沌と複雜とを分明に語るに必要なる一つの境界線は言ふ迄も無く歐洲戰亂である。歐洲戰亂以前に於ては、日本のデモクラシーが盡く同樣の假面を被らざるを得なかつた事は洵に止むを得ない事であつた。此意味に於て『歐洲戰亂』は日本の文化運動に於ても正しく一新紀元を開拓したものであつた。而して予は、此混沌と複雜とを形成する、淸新なる分子の中に、より善き、より力强きものの多くを發見する者である。

此渦卷の中に在て純正なる立場に立て、民主々義を主張する人々の中から、大山郁夫、室伏高信の二民を引拔く事が出來る。——然し乍ら現在に在ては此兩者は到底一致し得べき立場を持てゐない。大山氏は宗敎的立場に立てるデモクラッドである。而して彼のデモクラシーを彩るものは『心靈的必然』である。『道德的自由』である。大山氏の言ふ所に從へば『同類意識及び、共同利害觀念の中に於ても、同類意議は共同利害觀念よりも多くの場合に於ては心靈的必要の衝動に迫らるゝ事が多い爲め、團結生存の基礎としては、遙かに賴母しいものである。』

斯くて大山氏に從へば、國民結合の基礎條件は宗敎的信仰である。生物的要求に非ずして『心靈的』要求である。而して、大山氏のデモクラシーが、徹底するが如くにして徹底せず、煮え切るが如くにして煮え切らず、民衆と接觸する事を望みつゝ、反て民衆と離れてゐる所以は眞に此處に胚胎してゐると見て差支ない。予は此有望なるデモクラシーの鬪將をして、永久に此殼を脫ぎ捨つる能はずして、徒らに『社會的同情』に立脚したる『立憲的社會視』の迷妄の中に彷徨せしめ度く無い。

之に對して、室伏高信氏は、現在に於ては明にソーシアル、デモクラシーの立場に立てゐる。それ丈けに彼に就ての一切の態度は極めて明白である。唯大山氏が宗敎的であるに反して、彼の論議の背後には詩人的熱情がある。而し

て此詩人的熱情が彼の思想をして極めて藝術的ならしむると共に、一方に於て往かんとする所に邁往する直截簡明の態度を鈍らしてゐる事は事實である。

尠くとも彼の立てる立場は思想家として最も聰明なる立場である。——新らしきものに對する彼の眼は頗る鋭敏である。彼は總てを彼の聰明に托して、進んでゆく。彼の頭の中には現在と將來との混淆が無い。何物をも『現在』といふ定められたる規準の下に片附けてしまはなければならない、といふ態度は時として彼の言議を危險に導くものがあるけれども、何れにせよ、これ丈けの天分と、これ丈けの才筆とを持てゐる評論家はあまり澤山無い事は事實である。

『三』

或は『國家民生主義』を提唱し、或は軍國主義の味方となり、或は大亞細主義の宣傳者を以て任じ、或は哲人主義を讃美し、時に或は共産主義的の論議を弄しつゝ、常に哲學的精神の一本槍を振り翳して勇奮躍鬪してゐた者は、吉野博士の去就を難じたる北昤吉氏である。氏は、『社會主義の檢討』に於て大味噌を附けたまゝ、渡歐して以來杳として其消息を絕てゐるが、日本の思想界に在ては甚だ有望なる論客の一人である。予は今氏の過去に就て之を語る事を避くる。避くるのは、善惡共に、氏が餘りに長く論壇と交渉を絕てゐるが爲めである。唯、哲學的背景を有する政論家の唯一者として、吾人は氏の將來に期待する事甚だ深きものがある。

北氏には全く反對の立場に在る事は勿論であるが、文藝批評家としてあると同時に文明批評家である人に生田長江氏がある。昨年あたり氏が文明批評家として、漸く其名聲を上げ始めると共に官憲の壓迫が激烈になつて遂に一度び拔いた刀を再び鞘に收めざる可らざるの餘儀無きに到つたのであるが、氏が文明批評家として占むべき優秀なる地位は其將來に於て期待されてゐると見て差支無いのである。——特に氏の立脚地が大膽に露骨に階級鬪爭說を是認し、高潮する所から造り上げられてゐる事に對し、予は特殊の注意を拂はざるを得ない。

『ともあれ、此大戰亂のあとに、事に依つたらば最終の國際的大戰亂になるかも知れない。此大戰亂のあとに、資本家階級に對する無階級が、第三階級に對する第四階級が、猛然として奮起するかも知れないといふ事の可能性を何人かよく疑ひ得る者ぞ。』

『曾ては國民の中の多數者、若しくは多數者の代表者であつた所の商工階級が、封建制度の支持者たる君主と貴族と

の特權を剝脫し、近代的國家を建設し得たるが如く、今日の、嚴密に多數者である所の第四階級が近代的國家の支持者たる第三階級の特權を破却し、現代的國家其者の政治組織と國際的關係とを全然別の物にしてしまふかも知れないといふことの可能性を何人かよく否定し得る者ぞ。』」

以上の拔書は氏の將來の立場を端的に立證する者である。一年前に於て斯の如き言辭を弄したる氏が果して其思想に如何なる變化を示すかといふ事は特に注目するに足る事實である。

『四』

デモクラシーの渦卷の中に混化してゐる分子の中に特に社會批評家としての立場を固守してゐる人々がある。彼等は正しい意味に於て思想家では無い。何となれば、彼等の頭は常に政策の問題を考へ、彼等の眼は常に現前の社會狀態に向て注がれてゐるが故である。

經濟學者としての堀江歸一博士、米田庄太郎氏、渡邊鐵藏博士、神戸正雄博士、田島錦治博士、三浦鐵太郎氏、北澤新次郎氏、田中萃一郎氏等が是である。而して、彼等の基調が等しく、甚だ社會主義的である事は頗る注意すべき事である。堀江歸一博士は『雜誌太陽』を其地盤として經濟批論を書いてゐられるが、其思想は既に現代を導くに足る力を持てはゐない。唯諸種の政策問題に對して緻密にして質實なる批評を提供せられる事に於てのみ吾人は氏の存在を認めてゐる。

米田庄太郎、渡邊鐵藏、神戸正雄等の諸氏は『學者』としての批評家として甚だ尊敬すべき人々である。

三浦鐵太郎氏は『東洋經濟新報』の主筆として殆んど其全力を其雜誌に注いでゐられるため普遍的に世間に知られてはゐない。然し乍ら其非凡なる頭腦と、卓越せる才識とは現代に於て決して多くを得る事の出來るものではない。氏の立場は『フェビアン、ソサイエティ』の社會主義の立場である。尠くとも予は日本に於ける經濟政策論者として、氏の唯一人者である事を信じて疑はざる者である。

早大教授北澤新次郎氏は勞働問題に關して優秀の批評家であると共に、其實行家であるけれども、其思想家としての根據は甚だ淺薄である事を思はせる。然し乍ら、年若き氏の將來に對しては吾等は甚だ多大の希望を囑する者である。

最近に於て『普通選擧尙早論』を主張した事を以て一部の批難と攻擊とを受けてゐる田中萃一郎氏も、其純粹なる立脚地は極めて社會主義的である。然し乍ら、其『批評家』と

しての將來に就ては吾等は殆んど絶望してゐる。

『五』

〜前段に掲出した人々と殆んど同じき立場に立て、而も一方に甚だ思想的である人に、河上肇博士がある。――貧乏物語、――社會問題管見、――社會問題研究。一書を刊する毎に博士の名聲は驚くべき速力を以て上て行きつゝある。博士に對する社會的注意は今や其絶頂に達してゐると言て差支無い。

氏の立場は、セリグマンの『エコノミツクインタアプリテイシヨン、オブ、ヒストリー』の立場である。（同書は新史觀と題して、氏に依て譯されてゐる）氏は日本の經濟學者の中に於て最も優秀にして、卓越したる、唯物史觀說の硏究者であり、且其主張者である。

河上氏の說く所に據れば、『人間を觀る方法には全く相離反したる二つがある。一つは人間を外部から見るものであり、他は內部から見るものである。而して外部から觀るものは純客觀的であり、內部から觀るものは純主觀的である。斯くして、若し外部から客觀的に觀たる人を以て機械的個人と言ひ得べくんば、內部から主觀的に觀たる人を以て意識的個人と言ふ事が出來る。而して、社會現象に關して法則となる觀念は總て機械的個人を以て其前提とするものである。』

而して、斯の如き立場から、マルクスの歷史觀を以て、『社會の變遷に關し最も、根本的にして、且つ最も概括的なる立言』であると爲してゐる。氏の論據中、最も注意すべき點は氏が經濟的唯物觀が成立すると等しく、人種的唯物觀、地理的唯物觀の成立する事を主張する點に在る。

而して吾人が思想家としての氏を觀る時、其精神的（例へば宗教的）方面と、其物質的方面とが二元的に可成り明瞭りした形を執て存續してゐる事は甚だ興味ある現象であると思ふ。

『六』

猶、鳥居素川、姉崎正治、田中王堂、若宮卯之助、長谷川如是閑、茅原華山等の諸氏が此空氣の中を彷徨してゐる事は言ふ迄もない。鳥居氏に就ては殆んど知る所が無いが、氏が頗る社會主義的な批評家であつた事丈けは事實である。姉崎氏の立場は一面甚だ宗教的ではあるが頗る包容的な推論、を有する所に其特徵がある。田中王堂氏は徹底個人主義の主唱者であるが、常に政治、産業等の問題に留意して、甚だ熱情的な國家觀念を抱持する所に他に匹敵する

能はざる優越性がある。

若宮卯之助氏は、現在に於ては立派に詭辯學派の泰斗になり濟した。彼が壯年時代の熱情と純眞とは最早彼の論文の何處からも發見さるゝ事は出來ない。然し乍ら、其立路整然たる文章と、人の肺肝を宛るが如き皮肉と、冷罵と嘲笑とは、今に到て一層の冴え振りを見せてゐる。――予は此天才批評家の前に展開せられたる運命に對し異常の興味を感ぜざるを得ない。長谷川如是閑氏には非常に鋭い〳〵直覺がある。而して、一事一物を批評する毎に此態度は明瞭りと顯はれてゐる。然し乍ら、氏には多くの批評家の中に共通である『華かさ』が乏しい。これ氏の人氣が自然的に奔騰せざる所以である。

茅原華山氏は餘りに衰へ過ぎた。常に時代を率ひやう、率ひやうと焦慮してゐた氏は到頭時代から置いてけぼりにされやうとしてゐる。予は此一代の文章家をして、此蕭條たる末路に遭逢せしめた事に想到する時暗然たらざるを得ざるものがある。

『七』

此渦卷の最左端に大杉榮氏がゐる。氏の立場は無政府主義である。是と殆んど同じき地位に山川均氏が居る。山川氏は昨年以來無名氏なる名前の下に、先づ吉野、北兩氏の民本主義論に犀利なる批評を加へて名聲頗る上つて以來、頻りにデモクラシーの中心人物を批評して、或は之をして兜を脫かしめ、或は詰腹を切らしめて、縱横無盡、甚だ勇壯なる武者振りを示した。然し乍ら、其論文が常に他を排擊する事に終始してゐるのは聊か物足らなさを感ぜしむる。――其立場は吾等と全く反對であるが、而かも予は絶えず獨得の經濟史觀の上に立て氣味の惡い位冴え切つた彈劾振りを見せてゐる所に特異の期待を有する者である。

純正社會主義の立場を固守せる堺利彥氏も亦特殊の意味に於て卓越したる評論家である。其他是と離れて國家社會主義の立場に立てる高畠素之氏の在る事も甚だ注意すべき事である。氏は從來迄極めて非社會的に其言論を發表してゐたがために殆んど社會からは認められなかつたのであるが、頭腦の精密なる點に於て、觀察の鋭俊なる點に於て『生田長江』氏が賞讃したるが如く頗る優秀なる人である。

『八』

以上の人々の間に在て特別の色彩を造り上げてゐるものは女流批評家の諸氏である。是等の人々の中に在ては、與謝野晶子、山川菊榮、平塚明子等の人々を擧ぐる事を適當

とする。其中平塚氏を除いた與謝野、山川兩氏は最近に於て稍相類似した色合を見せてゐる。唯兩氏の異るところのものは、晶子氏の立場が經濟的唯物主義であるに對し菊榮氏の立場が平和的人道主義であるといふ事である。而して、吾等の晶子氏に敬意を拂ふ所以のものは、常に自己の實感を主として論歩を進めてゐらるゝ點である。山川氏の態度は理路整然、恰も針で縫ふ様に進んでゆくところに得難き特徵がある。何れにせよ此兩者は我國に於ける新らしき婦人運動の双壁である。此兩者と比較する時、平塚氏の立場は稍異てゐる。氏の立場は寧ろ個人主義に近いと言ても宜い。尤も最近に於ては其言説を發表しないために何とも言ふ事は出來ない。

『九』

最後に眼を轉じて、實際政治家の群を一瞥する。何と言ても政治家中のデモクラットは尾崎行雄氏である。氏の主張に就ては改めて喋々する迄も無い。實行家としての尾崎氏が世のデモクラシーを標傍する幾多の思想家よりも遙かに進んだる意見の所有者である事は特に注意すべき事である。聰明なる政治家として、將來に於ける民衆の指導者として吾人は氏の將來に驚くべき期待を有する者である。

氏が常に新らしき思想に對して深甚なる研究を怠らない所に新時代を率ゆる叡智と聰明とがある。而して、權謀と術數とを以て圍繞された大堵博場である現代日本の政治界に在て極めて不利な地位を維持して來た事は又此處に起因し、胚胎すると見て差支無い。

最近氏は歐米視察の途に上らんとして居られる。吾等は來る可き時代の氏を迎ふるために其健康を祝せざるを得ない。

外に、今井嘉幸、尾崎敬義、等の諸氏があるが是等の人々を除いてしまつては殆んど人物といふ人物を發見する事の出來ないのは遺憾至極である。

『一〇』

以上に於て概觀を終つた。予は更に驚くべき興味と希望とを以て、デモクラシーの渦卷を形成する各個人個人に就て精細なる文明批評を試むる事とする。匆卒の間に文を行つた爲めに當然書くべくして、書き得なかつた人もある。謹しんで筆を擱くに當て諒恕を乞ふ次第である。(士郎)

(三月十三日)

新著批評

イリー教授「民主主義の指導」

□イリー教授が世界的經濟學者であることは誰れも知つてゐます。そのイリー教授の最近の著述として「世界戰爭と民主主義の指導」(Richard T. Ely, The world war and Leadership in a Democracy) を深い興味をもつて讀みました。

□民主主義においての最も重要な問題はその指導の問題であると思ひます。この點については私は別に私の意見を發表する機會があることゝ思ひます。この點にイリー教授の注目されてゐることに私は先づ敬意を表します。今日以後の問題はたゞデモクラシーの問題であり、さうしてそのデモクラシーの問題は、それの指導の問題であるからであります。

□彼れは民主主義の指導の問題の大切であることを主張します。さうして先づ第一に彼れの主張することは、直接主義の不可能且つ不適當であることです。この前提については私もまた同一の意見をもつてゐます。この前提からイリー教授は直に代議政治を是認するの結論にと到著します。けれどもこの點になると、私はイリー教授の主張があまりに單純であることに驚きます。直接主義でなければ直に代議主義であるとなすところに彼れの著述の一大缺陷が横はります。

□この點から見れば、彼れもまた眞に現代民主主義について深い理解があるかどうかを疑はざるをえないこととなります。

□彼れはその指導論の基礎となるものを個人の發達において見ます。劣等なる個人において指導の不可能であることを指摘します。この點は民主主義の指導が、官僚的または軍國主義的の指導と異る所以を明らかにしたものとして、私どもは素よりイリー教授の主張に贊成します。

□この點からして教育の必要が出發します。民主主義においての最も重要な事業は教育であると思ひます。教育は民主主義の指導そのものであり、また教育によつてのみ民主主義の指導が可能であることと思ひます。

イリー教授はこの點に着目してゐます。さうして教育の必要であることを高調してゐます。(ibid, P. 104)

□指導と教育とが離る可らざるものであるごとく、指導

と能率ともまた離るべからざるものであります。日本の政治論はまだ指導論に達せず、組織論に達せず、教育論に達せず、能率論に達してゐない。この點において、私どもは日本の政治論のあまりに幼稚であることに驚きます。イリー教授の說は、この點において日本の政治學者なぞの是非とも一讀を要するものであると思ひます。彼れは能率論にまで達してゐます。

□能率論に到達しない政治論は決して科學的の政治論といふことはできない。吉野作造氏一派の民本主義論のごときものは科學以前の政治論であると思ひます。

□イリー教授はその著書の最後において、「社會進歩の六つの光明」と題して自由と平等と博愛と統一と指導と奉公の理想とを計へてゐます。

□デモクラシーの思想はわれ等の日本においても既に國民精神の中核となりつゝあります。けれども指導の思想は未だ何れにも起つてゐない。私はデモクラシーを求める。さうしてその健全なる指導を求める。健全なる指導とは、第一に民衆の敎育であり、第二には高潔にして卓越したる新人物の出現することであると思ひます。(室伏生)

サック氏
「露西亞民主主義の誕生」

□デモクラシーについての讀物のうちにおいて、私の最も價値多いと思つてゐるものの一つはサック氏の「露西亞民主主義の誕生」(A. J. Sack. The Birth of the Russian Democrac) であります。

□サック氏は米國におけるロシア報道局長であります。從つてロシアについてこの人がよき材料を蒐集することのできる便宜をもつてゐることは勿論です。

□それはヂョーヂ・ケナンがアウトルックのうちで批評してゐるとほり、十二月黨の革命から今日のボルシエヴキキに至るまでのロシア革命の完全なる――完全に近い記錄であると申すことができます。從つて「ウォールズ・ウワークの批評してゐるとほり、ロシアを知らんとする何人も一讀しなくてはならない價値をもつてゐることも勿論です。

□彼れのこの著述は主として革命史です。けれどもまた

革命家の評傳史であるとすることもできます。バクーニンについても、クロポトキンについても、ブレシコ●ブレシコウスクヤについても、ヴレン●チノウィッチ●プレハーノフについても、ミカエル●ミュラヴィオフについても、グチコフ、ミリユーコフ、ケレンスキーについても、彼れは詳細な記錄を掲げてゐます。

□その革命史はたゞ革命の記錄史ではなくしてまた革命の思想史であるとも申すことができます。從つてそれは眞實なる歷史としての價値があることを思ひます。そのうへに革命に關係ある主要なる人物の寫眞數十葉が載せてあります。

□サック氏は最後に次のように述べてゐます。『恐怖すべき教訓の後に、この若き國家における建設的の勢力は、日日に強大となりつゝあります。さうしてロシアが新らしくとして光輝ある生活をうるに至ることは決して遠い將來のことではない』と（K生）

『純正民主主義の限度』

マロック氏

□マロック氏は社會主義の撲滅者として知れてゐます。彼れの「近世社會主義の檢討」は日本においても大分物議を引起す種子となつたことがあります。日本においてばかりではなく、世界の社會主義者から樣々の批難をうけてゐます。マクドナルドや、スパルゴウはこれを誤謬であると指摘してゐます。イリー教授はこれを學者的でないと論斷してゐます。

□彼れの新著「純正民主主義の限度」W. H. Mallock, The Limit of Pure Democracy は約四百頁のものでデモクラシーについて可成り精細な研究を發表してゐるといふことができます。この書物もまた社會主義檢討を目的としてゐる點が多いことは勿論です。その說のうちには素より多くの誤謬があります。イリーのいつてゐるとほり學者的でない多くの點をもつてゐます。けれどもそれがデモクラシーについての比較的精細な研究を載せてゐるものとして矢張り一讀の値打ちのあるものと思ひます。

□私どもデモクラシーの反對者からも、その反對論を聽くだけの餘裕がなくてはならぬ。その意味において、マロックの著書は有益であります。（K生）

レビュー、オブ、レビュース

大山郁夫氏

『民衆政治と國民文化』

『一』

『我等の見地からすれば、政治は其本質上、單に國民の生存上の第一次的要件に關係を有するに止らず、それ以外に尙其文化生活上の諸方面にも觸着しなければならないものである。』——以上は大山郁夫氏の據て立てる政治學の立場である。而して同時にデモクラシーの本壘である。此デモクラシーの本壘に立籠て執筆せられた最近の名篇『民衆政治と國民文化』は吾々にとつては甚だ注目すべき文字であつた。大山氏は此論文の中に殆んど其懷抱する所の總てを熔化混入するが如き態度を以て、——あらゆる問題を論じ盡した。

吾々が大山氏の政治家としての立場に特殊の地位を發見するのは、氏の論文が常に其背景として、（大山氏の言葉を拜借すれば心靈的な）宗教的な部分を有してゐるがためである。而して、此一點に於て氏の確實性と曖昧性とが共に伏在してゐる事は洵に止むを得ない事である。吾々は斯の如き見地から、其最も極端なる例證を最近の論文『民衆政治と國民文化』の中に發見する者である。

『二』

大山氏は曰はく、『總ての文化が國民間に於て社會化せられた時は、それは軈て國民文化の要素となるものであり、また總ての國民文化が世界に於て社會化せらるゝ時はそれは軈て世界文化の要素となるものである。』と。

然らば總ての文化は如何にして、如何なる狀態の下に於て、國民間に於て社會化せらるゝ乎。更に又、總ての國民文化は如何にして、如何なる狀態の下に於て世界文化の要素たるべく社會化せらるゝ乎。大山氏は、一國に於ける政治生活を始め、一切の社會生活が民衆化するに從て、國民文化は勢ひ民衆文化にならなければならぬ、と說いてゐる。而して、更に百尺竿頭一步を進めて『アリストクラシーの社會生活の下に於ては少數貴族が國民精神を代表してゐた事もあるであらうが、デモクラシーの社會生活の下に於ては、民衆が國民精神を代表してゐるのである』と論じ、續いて聲を大にして、『我が國の文壇の人々が唱へてゐる民衆藝術とは果して何を意味してゐるものなるか、我等は不幸

にして之を聞知する所が無いが現代の國民藝術は總て皆、右に述べたる意味の民衆藝術でなくてはならない、と我等は固く信ずる所である』と論究して、氣焰頗る萬丈であるが、然らば、大山郁夫氏に依て解釋され、且理解されたる民衆とは果して如何なる階級の如何なる人々を指す乎。尠くとも、大山氏は前段に於て『物資有限の世界に於て、掠奪階級が、被掠奪階級に臨んでゐる樣な社會狀態を改造する必要を一層痛切に感じないわけには行かない』と説いてゐられる所を見ると、資本勞働の軋轢、闘爭の必然性を是認し、肯定してゐらるゝと見て差支無い。而して、少數貴族の專制を排擊された論法から臆斷すれば、氏に依て解釋されたる民衆とは、貴族階級にあらず、町人階級にあらずして、プロレタリアン(賤民階級)であると見て差支無い。吾々は、尠くとも、大山氏が、曖昧模糊、洵に山鳥の尾の如き長々しき論文に於て、屢々吾々を迷宮の中に投入して置き乍ら、而も朦朧たる筆致の中に、極めて勇敢に是等の事實を肯定されたるを以て甚だ多とせざるを得ない者である。

『三』

然し乍ら、他方に於て此大山氏の勇敢性を奪ひ去て、之を不徹底の境に投入するものは、氏の宗教的態度である。即ち、氏は社會狀態改造の要訣を語て曰はく、『貴族貧富の是認の上に立てゐるが如き封建的社會觀に代ふるに、社會的同情に立脚したる立憲的社會觀を以てする必要を認めない譯には行かないのである』と。若し夫れ、大山氏の所謂、掠奪階級が被掠奪階級に臨んでゐるが如き社會狀態を改造せんがためには、民衆夫れ自身が民衆自體をエキスプロイトして存續してゐるところの征服階級に對して、階級的自覺を存し、其階級的存在を主張する事を以て始まらなければならない。然るに、大山氏は其『心靈的』なる立場から社會的同情を力説してゐられる。然らば、社會的同情とは、そもそも何事を指すのであるか。勞働問題に顯はれて、溫情主義と爲り、社會問題に顯はれて救世軍となる。——吾々は此以上に『社會的同情』なる言葉を解釋する途を知らない。——吾が勇敢なる「デモクラット」が、此intellectual masturbation に依て滿足してゐる間は政治が文化生活の諸方面」に觸着する時代は尠くとも、近き將來に於て來そうも無い。(尾崎士郎)

『各國のデモクラシー』

『一』

大觀三月號は其呼物として『各國のデモクラシー』と題する大文字を掲げた。尠くとも此擧が甚だ時宜に適したものである事は繰返して言ふ迄もない明白な事實である。

然し乍ら、これを說く人々の顏觸を見る時吾等は今更ながら、大觀編輯者の希望と、期待とがあまりに亂暴過ぎた事に對して一驚を喫せざるを得なかつた。先づ其顏觸を檢するに『日本のデモクラシー』を說くに浮田和民氏を以てし『英國のデモクラシー』を說くに植原悅二郎氏を以てし『米國のデモクラシー』を說くに監澤昌貞博士を以てし『佛國のデモクラシー』を說くに林慶大教授を以てし、『獨逸のデモクラシー』を說くに副島法學博士を以てし、露西亞の社會運動を說くに桑田熊藏博士を以てしてゐる。尠くとも、吾等は桑田熊藏博士が露西亞の社會運動の研究者として頗る優秀な學者であつたといふ事を知る外、其他の人々が『デモクラシー』に就て正しき理解を有する人であるといふ事すら知らなかつた。而して、彼等が其有合せの知識を以て書き上げた、若しくは物語つた論文が、畢竟するに緣日商人の安物賣的態度であつた事は洵に止むを得ない事であつた。

今、彼等の總てに亘て之を論評するの自由は無い。然し乍ら、若し心ある人にして、此論文を讀む時、デモクラシーに對する固定硬化したる解釋が如何に有害無益なものであるかといふ事を知る事が出來るであらう。此意味に於て雜誌界の呼物であつた事は事實である。

『二』

其中に在て、特に亂暴なる說明は浮田和民氏の『日本のデモクラシー』なる論文である。

浮田博士の說く所に從へば、現在の日本には政治上のデモクラシーは無いが經濟上のデモクラシーはあるそうである。

然らば經濟上のデモクラシー無き處に如何にして政治上のデモクラシーがあるか。又あり得たか。此質問に對する浮田博士の返答は極めて簡單明瞭、直截簡明である。

曰はく、『日本に於けるデモクラシーは大隈侯の言へるが如く、理想としては建國の當初から有したものであると言ふ事が出來る。

その實日本の政治は古往今來一種のマリストクラシーであるけれども、貴族は一面皇室に隷屬し、又一面人民のための貴族であつたから、古來日本に貴族はあつたが貴族主義はなかつた、又貴族政治であつたが何れの時代も國體は君主制であつて、古來ポーランド王國又は獨逸にあつた神聖羅馬帝國の如く、名は君主制として、其實貴族團體であつた事は無い。』と。――恐らく是が現在の政黨政治家たりの口から洩れた言葉であるならば、吾等は寧ろ彼等に向て其卓見――尠くとも日本のデモクラシーが建國以來皇室と共に在つた事を理解した意味に於て其卓見に服した者であらうと思ふが、苟くも是が日本に於ける唯一の政治學者として、人も許し自らも許してゐる浮田和民博士の口より洩れた言葉なる事を思ふ時坐ろに無殘の感が起る。

浮田博士は『人民のための貴族』といふ言葉を用ひてゐるが『人民のための貴族』とはそもそも何を意味するか。吾等は學究的言辭の下に博士の無知と不徹底とを追求する事を避くる。然り吾等は博士の政治學者としての從來迄の名聲を尊重する意味に於て、その亂暴極まる推論の矛盾を指摘する事を避くる。

然し乍ら、時代か此老ひたる學界の偉勳者を新らしい世界から投げ出しかけてゐるといふ事は、まことに悲しむべき皮肉ではあるまいか。

『三』

浮田博士を手始めとして、其他の人々の說明も、一人の桑田氏を除くの外全く浮田氏同流のものであつた。法學博士――何々教授、――斯の如き言辭が如何に無智と無理解とを端的に表明してゐるかといふ事の證據は此一篇の『世界のデモクラシー』である。

社告

創刊號は非常に賣れました。市內の販賣店には殆んど一部も餘らないといふ有樣であつたので地方からの御注文に對し一々應ずる事の出來なかつた事を甚だ殘念に思ひます。
然し何れの日か合本を作成する筈ですから其節讀者諸賢の御高誼に酬ゆる事が出來ると信じます。

◇校正室にて

▲校正室へ來て、何か塡め草がなと思ひながら机上の「太陽」を手にとつて見ます。與謝野晶子女史の「逆風航跡」といふ一文が目につきます。

▲それは例の――例のといつては失禮ですが、矢張り例の婦人參政權論であります。晶子氏はその立場から今日の日本の普通選擧論を罵倒してゐます。痛快に罵倒してゐます。今井嘉幸氏の普通選擧論には『何んの哲學的根柢もないものであり』……さうして今井氏の『學者的良心を疑はざるをえない』といふことまで激語されてゐます。

▲その通りです。私は晶子氏の言葉に對して全然贊成します。今井氏の幾多の論文を讀んで見ても、一つとして「哲學的基礎」をもつてゐるものはない。このような人達が普通選擧の指導である間は、國民は決して普通選擧に興奮することはできない。

▲政友會での選擧法通として自らも己惚れ政友會でも許るしてゐるものは例の松田源治さんである。その松田さんは盛んに外國通を振り廻すもよいが、今ま頃になつて、白耳義に階級選擧――知識選擧による階級選擧があるものゝように論じてゐるところから見ると、松田さんの選擧法通が、雜誌か新聞位ゐ――例のアウトルツクとタイムスのウヰークリー程度の知識階級であることが暴露されます。

▲矢張り院內の知識の程度は院外よりも低い。あらゆる點において低い。代議政治が權威を失ふ第一の理由はこゝにあります。

▲鈴木富士彌君が、『社會主義者解放案』を出しました。その言論の筆記を、官報で讀んでみると隨分詳しい事が出てゐます。鈴木君が新思想の理解者であるか否かは別として、更に如何なる思想的見地から斯る質問を發したかは別として、とにかくこれ丈け周到なる用意を以てされた事に對し、吾吾は多くの敬意を拂ひます。さて、この質問に對し政府が如何なる應答をなすか。吾等の興味は尠からずこれに注がれてゐます。

▲一方に於て『社會主義者解放案』が出ると殆んど前後して、日本に於ける社會主義者の巣窟と言はれてゐた賣文社が解散しました。或者は主義の爭ひだと言ひ、或る者は感情の爭ひだと言ひ、或る者は利害問題からだと言てゐます。その果して何れであるかは全く門外漢である所の私達の知るところでも無ければ、また知らんとする所でもない。然し乍ら如何なる運動にしても、それが苟くも思想的な意味を持て來る時硬、中、軟、の三派に分れる事は止むを得ない事です。『唯往く者をして往く所まで往かしめよ』――『批評』の立場は唯あらゆる人間の動きの中に文化的意義と價値とを發見するところにあるのであります。

デモクラシー研究（一）

はしがき

デモクラシーは成長しつゝあります。世界の到るところにデモクラシーは適します。誰れが抑えようとも誰れが迫害しようともデモクラシーは人々の心のうちに榮えます。心のうちに榮えるものは、奪ふことはできない。デモクラシーは奪ふことのできない力であります。その奪ふべからざる力が、世界の到るところに成長しつゝあります。

「文字の發明されたところでは、デモクラシーは避くべからざるものである。」カアライルの言葉は眞理であります。世界にも日本にも。

日本にも、デモクラシーは芽ばえてきました。政治にではない。社會にではない。産業にではない。人々の心のうちにさうして若き日本の建設さるべき時代にと移つてきたのであります。

デモクラシーを敵視する人々、愚かなる人々は醒めねばならぬ。デモクラシーを愛する人間的の人間は、デモクラシーについて知らねばならぬ。

われ等は先づ知らねばならぬ。一切に先だつて知らねばならぬ。新らしき人間生活の精神と組織とを――デモクラシーを。

私はエツチ・ヂイ・ウエールスを尊敬します。そのウエールスは、デモクラシーの研究と宣傳とが、新世界の劈頭において、何ごとよりも大切であることを力說します。そのデモクラシーの宣傳と研究とは、世界の何れにおいてよりもわれ等の日本において必要であらねばならぬ。若き日本のデモクラシーの健全なる成長のために、私は「デモクラシー研究」を企てます。私に最も適したものとして。

（室伏生）

ゲッテイスブルグの墓所に立ちて

アブラハム・リンコーン

この演説はアブラハム・リンコーンが一八六三年九月十九日ゲッテイスブルグにおいて試みたものであります。時はアメリカ南北戰爭の正に去らんとした時、各州の知事がこのゲッテイスブルグの國立墓所に集つてその危機の去つたことを記念したものであります。雄辯家エドワード・エヴェレットの長き演説の後にアブラハム・リンコーンは二分間の短い演説をしてゐます。それは決してデモクラシーの定義としてされたものではないけれども彼れの一言一句は、この偉大なるデモクラットの肺肝から出でたるものとして不朽に傳へらるべき大文字であると思ひます。こゝに原文と譯文とをともにそへて置きます。(室伏生)

八十七年前、われ等の祖先は、この大陸に自由のうちに胚まれたるさうして凡ての人類は平等に造られたるものとする教義に捧げられたる、新國民を建設しました。今やわれ等はこの國民が、或はかくのごとくにして胚まれ、かくのごとくにして捧げられたる如何なる國民も、果して永く存續するものか否かを試練すべき一大内亂を戰ひつゝあります。われ等はその戰ひの大戰場に會してゐます。われ等はその國民の生存のために彼等の生命を擲ちたる人々の永眠の地として、この戰場の一部を捧げんがためにこの地に來ました。これ實に適切正當の措置であります。けれども更に大なる意味においていへば、われ等はこの地を捧げることはできない――尊くすることはできない――神聖にすることはできない。この地に鬪ひたる勇士は、生けるものも死せるものも、われ等の貧しき力が遠く及ぶこと能はざるまでに、この地を尊きものとしてゐるのであります。われ等がこゝに述ぶるところについては、世界は殆んど注意することもなくまた長く記憶に存ずることもないであらう。けれども彼等のこの地においてなしたるところは永遠に忘れ去られることはないのであります。この地に鬪ひたる彼等の誠に光輝ある遺業に對しこゝにわれ等の一身を捧げることが、われ等生き殘れるものの任務であります。われ等にとつては、われ等の面前に取り殘されたる大業に一身を捧ぐることはわれ等の任務であります――これ等の名譽ある故人の刺戟によつて、彼等がその十全を盡したる所以の原因に對していよ〳〵大なる獻身をなすがためにこれ等の故人をして空しく死せざらしむることを堅く決心する

がために、この國民が神の加護によつて新に自由を贏ちうるがために、さうして人民の、人民によつての、人民のための政治が地上から滅亡せざらんがために。

（原　文）

Four Score and seven years ago our fathers brought forth on this continent a new nation, conceived in liberty and dedicated to the proposition that all men created equal.

Now we are engaged in a great civil war, testing whether that nation, or any nation so conceived and so dedicated, can long endure. We are met on a great battlefield of that war. We have come to dedicate a portion of that field as a final resting place for those who here gave their lives that that nation might live. It is altogether fitting and proper that we should do this. But, in a larger sense, we can not dedicate—we cannot consecrate—we cannot hallow—this ground.

The brave men, living and dead, who struggled here have consecrated it far above our poor power to add or to detract. The world will little note nor long remember what we say here but it can never forget what they did here. It is for us, the living, rather to be dedicated here to the unfinished work which they who fought here have thus far so nobly advanced. It is rather for us to be dedicated to the great task remaining before us—that from these honoured dead we take increased devotion to that cause for which they gave the last full measure of devotion; that we here highly resolve that these dead shall not have died in vain; that this nation, under God, shall have a new birth of freedom; and that government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth.

民主主義の精神

アーサア・ヘンダアソン

世界戰爭の慘憺たる荒廢から、世界を通じて民主々義的感情の復活をみます。さうして國民的及び國際的の諸問題における民主的支配についての、今日までの强烈な一般的傾向に對して偉大なる刺激を與へます。今日の世界の人民

の中に民主的の思想と理想とが如何に汎く滲み込んでゐかといふことは量り知ることはできない。それは各國において一つの例外もなしに强大なる權力の觀念――それ等の凡ての人民に、合法的に且つ神聖に與へられた――が深くなつてきたといへば宜しいのであります。○○○○○○、さうして人民の神權があります。さうしてこの地球上の凡ての人民はだん〴〵と「地上の新王國」は唯これ等の神權――自由及び平等の權利についての充分なる承認によつてのみ押したてることのできるのであることを悟り始めてゐます。それは民主々義的信念の泉であります。それは眞實なる民主々義の精神的基礎であります。

世界的民主々義の到來は、自由、正義、平等及び博愛の世界的支配を意味してゐます。凡ての人民に對して自己決定及び自己發展の平等の機會を與へることの原則の世界的承認を意味します。さうして凡ての民族が諸民族同盟の一員としての權利及び義務の實際的承認を意味します。それはまた人民の相互的信頼を意味し、また世界的共同及び友誼に入ることを意味します。

國際的の關係においては、それは利己的の民族的利益及び野心に反對するものとしての、全人類の幸福を意味します。國民的の關係においては、それは階級または個人の利益に反對するものとしての共同の幸福を意味します。國民の繁榮といふことは、少數の人々の富によつて評價することのできるものではなく、全體としての社會の滿足と幸福とによつて、さうしてたゞに社會的要求ばかりではなく、人々の精神的需要をも滿足させる能力によつてのみ評價することのできるものであります。レッキーのいつてゐる通り『國民的偉大といふことの主要なる性質は、道德的でありさうして物質的ではない』のであります。道德的偉大は物質的繁榮を産むことができます。けれども物質的繁榮はそれ自身常に精神的及び道德的の廢頽をもたらすものであります。それは美しき感情を鈍くしさして人民の眞實なる力を絞りとります。如何に屢々戰爭の初めにおいてわれ等の物質的の偉大なる繁榮によつて美しき國民的性質及び之れ等の種族の特質の多くのものが打ち滅されたといふことをおそれてゐたであらう！われ等の人民の將來の幸福のために、幸ひにも、彼等は打ち滅されてはゐないので、眠つてゐたのであります。さうして一九一四年に彼等のうけた新生活を求むる刺戟は戰爭の壓迫と緊張のうちにありて、人民のヴヰジョンが益々明確となり、今日彼等が、人間の

智識、經驗及び能力の企及し得らるべき最もよき社會組織が正義と公正の基礎の上に文明を再造すべき彼等の決心を滿足させることのできるものであると考へるやうに至るまで、彼等の眞實なる價値の觀念が益々美しくなり、また益益鋭敏になつてゐます。

けれどもまた個人の個性の重大であることが認識されるにあらざれば、健全なる國際主義と眞實なる民族主義とを創造することを期待することは絶望であります。諸民族の同盟は個人の友誼の上にたちます。さうして民族的及び國際的生活における缺くべからざる要素としての人格の最高の重要性を考へるとそこに明らかに危機が横つてゐます。國民的生活の各局面を想望するものは社會の單位の道德的價値を蔑視しまたは無視する傾向を發見することができます。われ等は數量のことを考へます。われ等は數量のうちに活動します。運動は彼等が常に正しきがためではなくして。彼等が人氣あるものであるがために、われ等の心に訴へます。多くの人々は世界の、國民の、または自治體の不正について論じます。けれども個人の不正については論及することを夢みだもしない。それにもかゝはらず、國民的意思の表現は選擧區における各個の人々の意見の總計においての一般的標準を代表してゐるものであります。さうして各個人が道德的偉大の最高點に達することなくしては、民主々義はその本義の滿足なる發達を遂げることはできない。低くき道德の男女はたゞ鎖の弱い結び目であるに過ぎない、その鎖の强さはその結び目の强さ以上に出ることができない。人民の物質的及び社會的條件を改善するためには、われ等は人民の道德的標準を高めなくてはならない。何となれば全體としての社會の道德的判決の結果としてのみ一大變化を贏ち得ることができるからであります。この道德的熱情と個人の誠實であることの必要は、この國に顯著なる發展と日進の勢力とを得つゝある民主々義の立場において益々熱切なものとされつゝあるのであります。國民の將來における幸福は組織的民主々義の掌中にあります。さうしてわれ等はたゞに計畫や實際的の企圖についてばかりではなしに、指導者と民衆との信念と理想とその個人的人格とについても考量しなければならないことゝなつてゐるのであります。われ等の前路に横はつてゐる困難は洪大なものであります——ローマは一日にして成つたものではないのであります。また人民の道德的權力のうへに艱難な要求が課せられるものでなくては、國民的及び國際的の新組織は決して完成されるものではないのであります。少し

でもこれを拒むようでは、新世界はわれ等のうへに來たることはない。その道は遠く、崎嶇として、また陷穽に充ちてゐます。

民主々義がその前に横はつてゐる光輝ある機會を利用しなければならないものとせば、個人々々の人民が强固なる決心をもち、道德的熱情と高尚なる理想に共鳴し、高き目的と非利己的の慾望によつて靈感されてゐる人々によつて指導せられるのほかはない。誠にわれ等は社會的理想に到達しようとする努力のうちにおいて個人の人格の問題を閑却してゐることはできない。個人的無責任の主義はたゞに危險なものであるのみならず、その主義を奉ずる人々のウヰジョンに缺けてゐることを示すものであり、また往々にして人々の市民として及び社會的の義務を回避することの遁辭に供せられるものであります。その友僚または國家に對する各人の義務を完うするものでなくては、各人はその國民性を主張することの權利がない。また國家がその人民から市民としての義務を履行することを求むるがためには、その國家は市民の權利を認めなくてはならない。これが民主々義の成功を齎らすべき眞實なる個人的並に國民的自覺を刺戟すべき確實なる道であります。民主々義の効果はその精神的及び道德的信念の强さに比例します。さうして全體としての民主々義の權力は、各人の主義に對する忠誠と正義に對する道德的勢力についての各人の信念とによつて測知することのできるものであります。各人の人格は最高の形においての人間の性質を立證するものであります。何となればそれは人間を最善において表現するものであるからであります。さうして最高の人格のうへに立てられたる民主々義のみ獨り世界を救ふことのできる一方法となり得るのであります。(Arthur Henderson. The aims of Labour, P. 92)

民主主義の將來

ハルデーン卿

民主々義の理想とは何であるか? 私は民主々義の將來について語る前に、これ等の理想について語り、またこれを定義してみる必要があると思ひます。私は遠き昔——八百年前に遡つて考へてみなくてはならない。その當時の人々はクリスト教について樣々の考へ方を致してをります。私は教會の歷史及びその教會の傳統のうちにおける多くの事

柄については深くたち入つた立場をとるものではありません。けれども私が固く信じてゐることはクリスト教がこの世界に新しき理想――人間の自由はそれ自身目的であるといふことの理想を齎らしたといふことであります。それは決して他のものによつて破滅せらるゝものではなきのみならず個人の正當にしてまた疑ひのなき權利として承認せらるゝものでなくてはならないのであります、クリスト教は遂に奴隷の廢止を齎らしたのであります。クリスト教は人間の個人性について新價値 Newvalue を主張してゐます。さうしてこの主義によつて今日の勞働運動に靈感を與へること多く、また男女に對して勞働、または快樂よりも偉きもの――凡ての人間精神の偉大にして貴重なる價値の存在を敎へてゐるのであります。然り、私どもはこの點から出發します。この新理想は常にクリストの名とゝもに存するものであります。

この私の指摘した理想から如何なものが考へられるかを述べてみます。それは絕體的平等の思想ではない。諸君は凡ての人間を平等にすることはできない。私はその理由を語ります。――何となれば造花の神は餘りに有力であるからであります。ある女は美しく生れ、ある女は醜く生れ、さうしてそれから大きな差別が生れます。ある男は英明に生れ、他の男は愚鈍に生れます。あるものは不健康に、他のものは健康に生れます。諸君はこの事實を變更することはできない。さうして諸君はこの世界において完全なる平等をうることはできない。それゆゑに平等についての抽象的の思想はこれを排斥しなくてはならない。それは多くの人々を惱ましたる古き思想であります。それは屢々勞働運動を惱ましてゐます。一八四八年にこの事があります。卽ち凡ての人々は同一でありまた從つて何人もその同僚よりも卓越することはできないものであると考へられたのであります。この偏狹な思想に對して反動が起つてゐます。

若しも人々が凡ての點において平等のものでないとすれば人々はどういふことゝなりうるであらうか? 彼等はその天與のものを發展させることの機會においての平等を與へられることができます。若しも諸君が古るき抽象的平等の觀念について見れば、それが如何に惡しきものであるかを知ることができます。ロシアがそれであります。ロシアは今日何處におりや? 私はある程度においてボルシエヴキズムに同情します。それは憎惡すべき政治に對する反動であります。ボルシエヴヰストはその 反對の極點に走りまし

た。彼等は凡ての人々がそれ自身平等のものであり、また同じ愚鈍の線上に立つてゐるものであることを主張します。彼等は生命を死のレベルにまで引下げます。……私はロシアの回復を信じます。私はトルストイとドストエスキーの國家を信じます。私はロシアの回復を信じます。けれどもロシアはわれ等に對して一つの教訓を與へてゐます。即ち不當に抽象的且つ偏狹なる觀念に囚はれることなく、また普魯西主義に從ふことなく、われ等の高き理想に從つてわれ等自身を組織することの必要であります。それはわれ等に思想においても知識においても最善を與へます。さうしてわれ等の人民の個性を發展することの必要を教へるのであります。

若しも造物主がわれ等に凡ての人々を平等のものとして取扱ふことを許さないとすれば、われ等の目的とするところのものは何んであるか？それはわれ等が凡ての人々に平等の機會を與へなくてはならないといふことであります。凡ての男、女、小兒はその天與のものを發展すべき機會をもたなくてはならないのであります。

私はもつと進んで話さなくてはならない。若しこの立場を取らなくてはならないとすれば、國家は少くとも二つの義務をもつてゐます。國家は積極的に小兒を教育し、またその小兒の身體に對してもその精神と同じやうに注意を拂ふものでなくてはならない。また國家はそれ以外の任務にもつかなくてはならない。それは各個の人々の建設に注意するとともに、その個人の維持のほかに、それ自身の特種利益の增進をなすことに頗る恰悧にしてために他の人々のレベルを不當に引下げさうして彼れ自身の利益をその利己的の目的のために極度にまで增進するところの人々を抑制することの任務をもつてゐます。諸君は將來においては單なる利己的のエクスプロイテーションの存在すべからざることを知らなくてはなりません。またそれ故に國家は支持（サステーニング）と制抑（レストレーニング）の二重の職能をもつてゐるのであります。

國家が二重の職能をもつてゐるものとして、この國家が前に述べてきた機會均等主義を完成するについては如何なことが必要とされるのであるか。第一には、國家は凡ての小兒が教育及び養育されること——即ちその兩親によつて監督されること——を注意しなければならないのみならずこの國における男女が平等の機會といふ條件のもとに生活することが單に一つの狂言（フワース）でないことを注意しなくてはな

らないのであります。さうしてこの目的の爲に國家が主張すべきある最小限(ミニマ)が存在します。國家はある一人が一日に二磅、他の一人が一日に一磅をとらなくてはならないといふことを干渉することまたは命令することはできない。それはこれ等の凡てのことを規定することはできない。けれども何人も正當に生活することのできない條件で雇はれることについては國家はこれを默視してゐることはできない。また雇傭の條件がこの最少限より以下に引下げられることを默視してゐることはできない。この點は決して新しき主義ではない。少くとも全然新主義といふことはできない。けれどもそれは戰爭がそれに現實性を與へたといふ意味において新主義であります。

それゆゑに第一の原則は諸君が生活賃銀 living wage をえなくてはならないといふことであります。第二の原則は諸君が適當の住宅 decent home を持たなくてはならないといふことであります。人々がその妻、その子及び彼自身のために適當の住宅を持つことができないとすれば彼れは決してよき家族を持つことはできない。またよき家族なくしてはよき國家は存することを得ない。私の述べてゐることは二重の利益即ち國家及び個人の雙方の利益においてゞあります。

私は既に國家が考量すべき二つの最少限即ち生活賃銀と適當の住宅とを指摘しました。そして私は第三の最少限即ち充分の智識を附け加へることができます。勞働黨のあるものは人間の能力は資本家によつての勞働者の利己的使用に供せられるものであると主張します。『資本を撤廢するまでは教育が何の役にも立つものではない』と。けれども諸君は資本の征服を撤廢する前に、先づ無智の征服 domination of ignorance を撤廢しなくはならないのであります。……今日においては、智識は、如何なる時代においてよりも、力であります。

われ等の時代おくれの貴族主義が廢滅しつゝあることは如何にも事實であります。何の困難もなくまた平穩に、諸君はわれ等貴族を政治の圏外に放逐することができます。われ等貴族の滅亡しつゝあることは明白であります。私はこの貴族主義の滅亡に次いでこれに代るべきものゝ何ものであるかを述べます。才能の精兵がこれに代らんとしてゐます。諸君は、ボルシユヴヰキの立場においてではなく、才幹と能力とに從つての權力のうへに、諸君の民主々義をもつことができます。その權力は才能に應ずるものであり、またその權力者が正當に彼れのものである以上のもの

を領有することのできる權力ではないのであります。何人と雖。卑しき生れの人と雖、その才能の精髓に從つて最高の位置に立つことができるのであります。われ等はこの點において稍やその事實に近づいて來てゐるのであります。けれども私の求めるところのものは科學的の方法において爲されることであります。

けれども諸君は單にこの點に止まつてはならない。われ等の求むるところのものは半人格 half man ではなくして全人格 whal man であります。諸君は權利よりもより高きもの丶あることを知らなくてはならない。卽ち人民の義務の方面があります。われ等は國家の市民でありさうして國家に對してまた相互的に義務を負ふてゐるのであります。われ等の到達しうる最高の價値は自己犧牲によつて、われ等自身についての考へを排斥することによつて、またより高尙により偉大なるあるものを考へることによつて到達することのできるものであります。それはわれ等の軍隊がフランスの戰場においてとりつ丶あるところのものであり、またわれ等の心が彼等のうへに注がれる所以であります。何となれば彼等の信念は生命よりもより以上のあるもの——その國家の幸福のうへにあるからであります。われ等はこのことを心に銘しなくてはならない。國家に對してわれ等の義務を承認するがごとく社會は、單にわれ等の自助よりもより高きもの丶存在することを承認しなくてはならない。さうしてわれ等の單なる個人的願望よりも、より以上のもの丶存在することを承認しなくてはならない。組織されたる社會においてはわれ等は報酬を目的とするものでもなくまたそれについて考へるものでもない。われ等は永久の正義のため生きます。最善の人はその正しきことを爲したことに對して報酬を要求することはない。國家の市民の理想は、量についてのものではなくして質についてのものであり、また眞の報酬は自己犧牲それ自身のうちにあり、各人の生命を失ふ場合においてもまたさうであります。……(Lord Haldain, The Future of Democracy.抄譯)

『デモクラシイ』なる言葉

エドワード・カアペンタア

今や凡ゆるものは、それらのそれに相會ふところに他の

諸の言葉の有效を顚覆せしむるこの『言葉』の下に來りたり。

政治、藝術、科學、商業、宗敎、日常生活の習慣と方法、世の常の事物の外觀また類似——花苑なる薔薇、納屋の扉のうしろに懸けられたる斧——

これらの意味は、すべて今こそこの言葉のうちに吸收され而して改鑄されざるべからず、然らざれば乾きたる苞のごとくその閉づるに先つて脫落すべし。

見ずや卿、卿が個人の生命は、他の諸の生命の不斷の犧牲を拂ふことによりてのみ確保さるゝを、されば、卿は、順番來たらば、他のためにそれを犧牲となすべく常に用意するを條件としてのみそを『無私』の法則、そはこれより以後、顯然に認識せられまた實施されざるべからず。

今こそ、藝術はもはや人生より離さるべくも非ず。古き寺法は空しくなり、彼女の後見期を濟まして彼女は『自然』と同意味となれり、而して彼女の窓帕を絕ふるときなく雲々と瀑布と共に懸く、

科學は書籍より出でゝそれみつからを空しくし、書籍の敎へたるところのあらゆることは、最も微かなる薄靄の如く現實の前に滅ぶ——草の葉片の一片すら匿くすこと能はず、或ひはまた最も微かなる星光を害ふこと能はず、

人間の形態は、古き分類と定義とを感じつゝあらゆる事物のなかに現出す、

現出する人間の形態の美しさ、また天なる理想の——

地上を重壓する足の、しなやかなる強き踝さては拳の、腰の固着の、また太陽によりて輪形復光せられたる平衡されたる頭の、

彼れみづからのうへに主義を變改したる政治家は——科學者の如く、問題によりて昏迷せられたる彼れの頭腦を識別す、彼れは彼れの手を『民衆』の手に對つてその助力を求むべく達せしむ、

主義を變じたる商人——堅き大地はまた彼れの脚下に道をゆずる、今こそ與ふるは獲得するよりも良く思はる——而してそは如何なる種類の商業標語ぞ?

社會のあらゆる習慣は變ず、そはあらゆるものは裏面に意味あるが故に、かくて日常生活の永く受容れられたる公理は崖崩れのことの丘腹の如くに位地を變ぜられたり、

古き建造物はもはや直立すること能はず、——それらの基礎は取換へられたり——

かくて人々はなを未だ新しきものゝための堅き大地を求め

得るに先つて舊きものより驚怖しつゝふためき出づ。

あらゆる方向に濁とまた欠伸する奈落、
社會の基礎は龜裂を生じ、火はそこより現はる、
古き緊轉は緊張の下にうち負かされ、かくて大いなる閉込
められたる心は破裂せんばかりに脹大す——
語られたる新しき言葉の響に——
『デモクラシイ』なる言葉の響に。

平和なる放牧場を貫いて爆發する如何なる火山もこれより
大いなる革命ならじ、
太洋の深きところより、いやはるかなる未來を見はるかす
新しき大陸の原始脈を形成くるべく如何なる涯なき山の連
亘も突出するなし、蓋しこれぞ人間の心より泉み出でたる
熔岩なれ，
これぞ最も遠き種族を養ひ育つべき流れの元なる蒼穹の接
吻する隆起なれ、これぞ新しき生きもの下圖なれ、また輪
廓なれ、
外なる荚の下なる『人類』の翼の形成——『平等』の擴ぐ
る翼翅、その上に起ち上りて彼れは竟に彼れみづからを
『地』のうへに舉げて『天空』を貫いて帆走すべく船出す。

（富田碎花氏譯、カアペンタア原著『民主々義の方へ』より轉載す。）

戰爭と民主主義

アーノルド・ベンネツト

民主々義と戰爭との關係を考へることは眞先きに必要のことであります。この戰爭(一九一四——一八年)は民族性の戰ひであるにしてもそれは人民によつて起された大戰爭ではない。この戰爭を生み出したものは凡ての人民を墮落させるとに怜悧であり且つ執拗であるところの不遠慮な、盲目な、且つ高慢な人々の比較的に少數な一團であります。人民が墮落に甘んじてゐる以上は人民もまだその責めを負はなくてはならない。けれどもその最も主要なる責任はこの少數の人々の一團のうへにあります。ヨオロッパは種族の調和のためではなしに、少數の人々の白痴的野心を滿足させるために、無益に數百千萬の人々を虐殺し、またこの西半球における凡ての人々を苦るしめてゐるのであります。この事實を記憶せしめよ。民主々義はこの事實を忘却しないであらう。さうして將來における外交政策は如何

なるオートクラシーの手にも委ねてはならない。支配階級の人は民衆をもつて外交政策を理解することのできないものであることを主張してきました。その民衆は今やそれを理解しました。民衆は、政府の様々の努力にもかゝはらず支配階級が歴史上におけるこの最も恐怖すべき災害を防ぐことに失敗したことを理解します。民衆は獨語していふ「どんなにしてもそれよりもより悪しくなすことはできるものでなかつた」と民衆は、若しもこの戰爭の決定が、隱蔽と嫌惡すべき詭計のうちに處理せらるゝことなくして、獨逸の代表機關の手に公けに託せられたものとすれば、戰爭は起らなかつたといふことを承知します。民主々義の勝利のみ戰爭を終局せしめること、さうしてそれ以外の何ものも戰爭を終局せしめるものでないことは絶對に眞理であります。戰爭は外務省が人民の支配に委せられる時に終結します。その人民の支配は近づきつゝあります。(Arnold Bennett in the "Daily News," Oct, 15, 1914)

民主主義の研究及び宣傳運動

エッチ・ヂ・ウエールス

世界の他の政治家の間に立つて、大統領ウヰルソンは、殆んど神々しく見ゆるほどに卓越してゐます。けれども彼れが教育ある人々の間における地位は、彼れが政府の權力者の間におけるがごとくに異常なるものでないと申しても決して彼れに對して無禮のことではあるまい。到る所においてわれ等はウヰルソンの目的と聰明との何ものにか接します。けれどもまた殆んど到る所において、それは特權階級または危險なる下等の人々の政治的利益のために不問に附せられ、隱蔽され、無効のものとされてゐます。役人の世界や、支配者や代表者や「政治家」の罰にあつては、殆んど彼れのみ獨り近代的聰明を語ります。

この世界の優れたる聰明の息の根を止めることゝ、さうしてこの聰明の發現と權力とを許容することが、私の眼に

は今日の人類の悩みの底に横はつてゐる根本的の論點であります。到る所に愚人(フール)や俗物(バルガリアン)が人を殺し、牢獄に投じ、言論を抑へ、且つ人々を飢ゑしめる挺子(レバア)もつてゐる間は、われ等は進歩することはできない。われ等は虚僞の政治とゝもにゆくことはできない。また暴徒の政治とゝもにゆくことはできない。われ等は正しき政治をもたなくてはならない。知識ある世界の人々は、彼等が既に久しく閑却しきたりたる協同にゆくことの義務がある。政治組織の近代化、全人類が卓越したる聰明者の指導のもとにともに働くことのできる最も優れ且つ最も能率的なる方法を發見し及び完成するまでこれ等の組織について研究することは、研究能力をもつてゐる凡ての人の共同の義務である。さうして何ごとよりも先きに、われ等は今日の「デモクラシー」と稱せられるものゝ粗製にして不完全なることを理解しなくてはならない。デモクラシーは尙ほ主として願望であり、精神であり、思想であります。何となれば尙ほそのメソッドの多くの部分はこれを探究してゆかなくてはならないものであるからであります。「自由國民の同盟」に至つては、更に一層願望であるに過ぎない。われ〳〵をしてわれ等の現前におけるこれ等の事業を輕視せしむることなかれ。學校において、講壇(プルピット)において、書物において、新聞紙において集會において、智能を有する數千百の人々の犧牲的の奉仕によりてのみ、これ等の救世的の觀念をもつて堅き地上を支配せしむることができるのであります。……世界は、民族的の、憎惡的傳統の、感情的にして且つ墮落したる愛國心の人類を分裂せしめ、懊惱せしめ、且つ殺戮するところのあらゆる誤謬の樣々の宣傳(プロパガンダ)運動に滿ちてゐます。凡ての人類の組織は宣傳運動によつて造られ、宣傳運動によつて支持せられ、さうしてその宣傳運動の絕ゆる時に滅落します。それ等のものは再三再四、青年または、怠慢者に說明されなくてはならない。さうして凡ての合理的の人物が注意しつゝある民主々義及び「自由國民の同盟」のこの新世界にとつては、あらゆる宣傳運動が最も多く必要とされなくてはならぬ。これがためには、凡ての人々は教師となり、牧師とならなくてはならない。「それについて說伏し、その思想を起し、それの必要を明らかにすることは」、全世界を通じて、凡ての學校教師や、凡ての家庭教師や、凡ての牧師や、凡ての記者や、凡ての講演者や、凡ての父母や、凡ての信義ある朋友達の義務である。またそれに對して凡ての人々は生徒とならなくてはならない。また不確實なる諸計畫を確定的の計畫となすの事業に就かなくてはならない。さうして障碍を分解し且つ打ち破り、幾萬の些末なる

困難を破りつゝ……　(H. G. Wells, In the Forth year, P. 150)

進め！民主主義へ

（ゲーテの獨逸を慕ひて）

フエルマン・フアナウ

ビスマークを葬れ！　それがこの世界戰爭の獨逸に與ふる教訓であります。鐵と血とではなくして、正義と自由とが近代におけるわが祖國の契機であります。

われ等をして再び古典的獨逸主義の絲をたぐらせしめよ。われ等をしてツルレル及びゲーテの時代における、前世紀の四十年代における民主的國民詩人の時代における智的英雄を回想せしめよ。彼等の助けによつてのみさうして彼等の精神においてのみ、獨逸の問題は、獨逸並に世界の幸福のために最後の解決をなすことができます。

われ等をして前世紀における發展（獨逸の）を破壞せしめよ。この世界戰爭は全然非獨逸的卽ち全然フロシア的の組織及び精神の崩壞を意味してゐます。われ等をして文化の戰場において平等の權利と平等の能率とをもてる勞働者として世界の凡ての平和的の文明國民と提携せしめよ。われ等をしてヘルデル及びカントによつて、レッシング及びフンヴォルトによつて、ゲーテ及びシルレルによつてわれ等に啓示せられたる、全く新しき、全く自由なる、全く民主的なる文化の創造に着かしめよ。もはや Deutschland über alles ではない。獨逸は凡てのものとともに、また凡てのもゝ側に立ちます。たゞ斯くすることによつてのみわれ等はわれ等の世界における眞實なる使命を充たすことができます。

進め！……デモクラシーへ

デモクラシーのみ將來における諸國民の平和の、可能にしてまた永續することのできる基礎であります。カントの根本的の要求が實現せらるゝことなくして結ばれたる平和は、たゞの彌縫と自己欺瞞とであります。

進め！……デモクラシーへ。

これが凡てのヨオロッパ、特に獨逸の、明日の戰ひの叫びであらうまたあらねばならぬ。

ビスマークを葬れ！獨逸人のための獨逸へ！

それをしてこの恐ろしき世界戰爭の、獨逸のための果實たらしめよ。

Hermann Fernau, The coming Democracy, P. 319

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部	十八錢五厘
半年分	一圓 税共
一年分	一圓八十錢 税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金
▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替
▲外國行郵税十錢

大正八年三月二十八日印刷納本
大正八年四月一日發行

東京市麹町區山元町二ノ五
編輯兼發行兼印刷人 尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所 株式會社博文館印刷所

東京市麹町區山元町二ノ五
發行所 批評社

大正八年三月廿八日印刷納本
大正八年四月一日發行（每月一回一日發行）

批評四月號（第二號）

定價金拾八錢

批評社發行

THE CRITICISM

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年四月二十八日印刷納本　大正八年五月一日發行
（定價金拾八錢）

五月號（第三號）

東京市麹町區
山元町二ノ五
批評社

「批評」より

◆今度の號は、主として社會問題または社會主義問題を取扱ふことゝしました。

◆私どもの同人が社會主義者でないことは創刊號で申述べたとほりであります。けれども私どもが社會主義者であるとないとにかゝはらず、社會主義の勢力が現代の世界において偉大なる力であることの事實に眼を蔽ふてゐることは許されるものではない。

◆人々が、社會主義者となり、またならないことは、その人々の勝手であります。またそのことは決して强制さるべきことでもない。けれども社會主義に對して知らぬ顏をしてゐる人は、批評的良心の缺けたる人であります。

◆學者も政治家も批評家も普通の新聞記者も彼れ等は何ごとよりも先きに、社會主義に對する態度を明らかにするの必要があります。

◆私どもは今日までの社會主義と稱せらるゝものに對しては、多くの美點と缺點とを感じます。この社會主義と稱せらるるものゝ一切を排斥することが愚鈍であるごとく、それの一切を無批評に受け入れることも、現代思想においては許されてゐるものではない。

◆「批評」は社會主義に對しては第三者の立場です。第三者の立場から嚴正な批判を加へます。嚴正な批判を加へるために、社會主義が本來何ものであるかを究明し、それと過激主義、それと無政府主義、それと政治、國家、權力、民主々義との關係を明かにします。

◆それはもとより大事業であります。社會主義の性質を究明し、それに嚴正な批判を加へ、誤謬を誤謬として無遠慮に指摘し、長所を長所として論明することは、極めて困難なる事業の一つです。

◆私どもはこのやうな大事業を、一回の雜誌によつて遂行しようとする考は毛頭もない。本號はこの事業の手初めであるに過ぎない。この事業の手初めであると申しても、毎號社會主義問題について研究するといふ考でないことは勿論です。たゞこの問題に特種の注意を拂つて、俗學者のなさんとしてなし能はざるところ、一般讀者の知らんとして知り能はざるところに、「批評」の重要なる任務の一つが殘されてゐると申すまでのことであります。

◆本號に掲載されたるベルトランド・ラッセルの「社會主義の陷穽」は最も興味の多い論文であるとして讀者諸君に一讀をお薦めすることを愉快に感じます。ラッセルは英國現今の哲學界における明星とされます。

◆本號中の彼れの論文「社會主義の陷穽」は、彼れの新著「政治の理想」のうちの一章(全譯)であります。今後も毎號彼れの論文中卓越せるものを連載します。

◆「デモクラシー研究」、「新著批評」等もまた本誌の特色として毎號連載してゆきます。

◆「批評」の實行が益々盛んであることは、同人の最も愉快とするところです。

（K）

批評

第三號　目次

批評

日本精神と世界精神

到るところに、老日本は行きづまつてゐます。思想において、政治において、また社會問題においても、講和問題においても、老日本はたゞ煩悶してゐます。時代の激流の間に立つて、彼れ自らの信仰の薄弱となりゆくまゝに、無準備の彼れ、無理想の彼れ、さうして反動的感情の間に永く滲潤しきつてゐた彼れ――沈滯の老日本は、煩悶と苦惱と孤立の悲哀とのうちに彼れの貧しき姿の廢頽しつゝあることを思はずにはゐられないであらう。

彼れは日本主義と稱した。けれども彼れの日本なるものは、彼れの反動的なる感情からのみ生み出されたる私生兒であるに過ぎない。日本の歴史に根據があるのでもなく、日本の國民精神のうちに支柱があるのでもない。たゞ彼れの好愛する反動主義から政略的に造り出されたる私生兒であるに過ぎない。それは凡ての特權階級には便利なる玩具であります。けれどもデモクラシーを好愛する最大多數の人民にとつては、たゞ時代錯誤の諷刺畫としてのみ考へることができます。

その日本主義が、獨逸的軍國主義と結合するところに、大日本主義なるものが生れます。それは獨逸――革命前の舊獨逸の支配階級を維持するため、また更にその支配階級の精神を興奮せしめるために、汎獨逸主義、軍國主義、侵略主義の諸政策と諸組織とが必要であつたがごとくに、日本の支配階級を維持するために、またその精神を興奮せしめるために、大日本主義の唱道は、「眞實なる日本」、愛國的」の叫び聲であるとされてきたのであります。けれどもそれはどこまでも支配階級の精神、さうして支配階級的の精神であり、寺内内閣の軍國的政策は、この大日本主義的精神の最高調の表現であるとされます。

日本は第二の獨逸であるといふの印象は、世界の民主的の人々の鋭敏なる神經に強い刻印を與へることになつてゐます。軍國主義は日本の傳統的の政策であるとされます。

日本の國際問題の難關は凡てこの點から出發します。「軍國主義の日本」といふ印象は、容易に世界の人々の神經から除きさることができない。隣邦の人民、同文の人民、同色の人民でさへ、日本に對して猜疑の眼をもつて眺めてゐるではないか。講和會議において、最も強く日本に反對してゐるものは、同文、同種、同色の隣邦の代表者であるではないか。日本が何ものよりも先きに協同すべき、また何ものにも先つて信賴せらるべき、弱き、さうして平和なる人民の代表者が、强硬に日本に反對して立つといふことは、「日本軍國主義」の印象が、如何に強くして深いかの事實を證明してあまりあるではないか。獨り支那だけではない。濠洲の雄辯政治家ヒユースは何故に日本に反對するか。アメリカの民主主義は何故に日本に對して疑惑を抱いてゐるか更にロシアの民衆は日本に對して如何なる感情をもつてゐるのであるか。日本の世界的地位と　さうして世界が如何に公平または不公平に日本を印象してゐるかを問はんとするものは、先づ日本を圍繞する平和なる隣邦の人民の恐怖と疑惑と嫉妬と猜疑との心を知らなくてはならない。革命前の獨逸軍國主義が、小弱なる白耳義に、丁抹に、瑞西に、フランスに與へてゐた恐怖と疑惑と嫉妬と猜疑の深い印象を、日本がその四隣に與へてゐる時に、日本の世界界的地位の前途は果してどのやうなものを暗示してゐるのであらうか。

日支親善のために、日米親善のために、日露、日濠親善のために、われ等は先づ何をなすべきか。答は極めて簡單であります。われ等は先づ世界に與へたる日本軍國主義の印象を一掃し去らなくてはならない。この印象を一掃したる時に、支那問題は初めてその緒につきます。濠洲の不安は除きさられます。米國ともロシアとも日本は協同の立場にと立つことかできます。少くともさうならなくてはならない。また少くともその方面に向つて進まなくてはならない。

現代は最早や侵略主義の時代ではない。それは人々の思想において否認されるばかりではない。實際の世界においても不可能の空想となりつゝあるではないか。この時代においての國家の偉大なることは地平線的であつてはならない。それは垂直的のものでなくてはならない。即ち彼れは文化的に偉大なる國民であらねばならぬ。われ等は地平線的に偉大ならんとする舊日本――舊日本の政治家、軍閥、政黨を排斥して、垂直的に偉大なる文化の若き日本を建設することを要求します。これが「若き日本」の最初の叫び

聲でなければならない。

日本の國際孤立とその孤立から生ずる苦悶とは、所謂日本精神――日本の支配階級の精神と現代世界精神との衝突から生れ出でゝゐるのであります。それ故に若き日本の建設は、この支配階級の謂ふところの日本精神、然り、私生兒的精神を排斥して、眞實なる日本の民衆のうへに根ざしたる民主主義的日本精神と世界精神との連絡から生れてくるものでなければならぬ。

孤立の日本から世界的協同の日本へ。若き日本はその與へられたる道程を急がなくてはならぬ。（森恪）

青年亞細亞同盟

沈滯の亞細亞、廢頽の亞細亞を復活することのできるものは、青年亞細亞同盟の力でなくてはならない。青年亞細亞同盟とは何んであるか。このことを説明するためには「青年ヨォロッパ」Young Europe について語らなくてはならない。「青年ヨォロッパ」とは、一八三四年伊太利の愛國者マヂニーによつて起されたものであります。このマヂニーの「青年ヨォロッパ」は、三つの支部をもつてゐます。その一つは「青年獨逸」、その二つは「青年伊太利」、その三つは「青年波蘭」であります。この同盟は政治上の革命を目的としたものであり、その手段として祕密結社を組織したものであります。いふまでもなくこのやうな同盟は、十九世紀前半の陰慘なるヨォロッパ政治が生み出したるものでありその目的とするところが政治的革命であるがゆゑに、目的も手段も、ともにわれ等の排斥するところであります。「青年獨逸」を指導してゐたマァ W. Marr が祕密の手段をもつて大事業をなすことのできるものでないと喝破してゐることは、われ等の等しく承認するところであります。けれどもマヂニーがその祖國に對する熱愛の精神と、マァが豐かに所有した人道的の精神とは、われ等のこゝに受け入れようとするところであります。

青年亞細亞同盟は、祖國に對するマヂニーの熱愛と、マァが所有したる人道的同盟のうへに立つものでなくてはならない。またそれは「青年獨逸」の會員がもつてゐたごとくに、熱烈なる民主々義的憧憬のうへに立つものでなくてはならない。民主々義的情熱のうへに立つことは、國際的には民族主義の主張となります。對内的には政治の民主々義的改革となります。青年亞細亞同盟の綱領とするところ

は、飽くまでも亞細亞民主々義の實現にあらなくてはならぬ。民主々義のうへに立つてこそ、亞細亞民族の眞實なる協同が成立します。ある一國が野心を抱き、侵略的の野心を抱き、或はまた高慢なる態度をもつてゐる間は、青年亞細亞同盟は成立することのできるものではない。

青年亞細亞同盟は決してヨオロツパまたはその文明に對抗するための組織ではない。ヨオロツパであると、アメリカであると、日本であると、支那であるとを問はず、苟くも亞細亞民主々義に反對し、民族的傳統と信念とを破壞しさうして民主々義的思想を敵視する一切の反動的勢力に對して反對するものであります。

從つてそれは大日本主義でもなく、大支那主義でもなく、大亞細亞主義でもない。その正反對であります。支那をして支那の正しき地位にあらしめ、日本をして日本の正しき地位にあらしめ、一切の亞細亞民族を正しき地位にあらしめ、その民族的並に個人的解放のもとに、亞細亞の改造を實現することでなくてはならぬ。われ等はこの意味においての「青年亞細亞同盟」を提唱します。

民衆の指導

民衆の指導者として立つものは、日本においては主として職業的の末流政治家、浪人、壯士、無賴漢の一派であります。彼等は自ら民衆の指導者として裝ふ。けれども民衆の一人たりとも彼等を信賴するか。彼等の人格、彼等の學問、彼等の識見、彼等の辯力が、民衆指導者として如何に低劣であるかを思へ。

試みに人種差別撤廢運動または普通選擧運動を指導する人々の何人であるかを思へ。彼等の一人たりとも、果してよく國際的民主々義の理解のうへに、正義のうへに、人道のうへに、彼等の人種差別撤廢運動の基礎を築くだけの道德的または智力的の才能を具へてゐるか。軍閥の手先としての彼等、何等かの醜き臭ひに醉つてゐる彼等、——それ等のものは、國際聯盟に反對し、國際勞働に反對し、あらゆる世界的義務に反對して、たゞ人種差別撤廢のみを主張するの心理が、何ものよりも雄辯に、赤裸々に彼等そのものを物語つてゐるではないか。

普通選擧を指導するといふ人々も、一人たりとも、果し

てよく普通選擧の意義と効果とを理解してゐるか。試みに彼等が壇上に叫ぶところを聽け。誠に噴飯に堪へぬではないか。

日本の民衆が、民衆としての威力を發揮するためには、彼等は先づ自ら民衆の指導者と僭稱する無學、低劣、放浪、無頼の營業的興業師の一派を驅逐しなくてはならぬ。

花下の普通選擧

上野公園の高臺で、麗かな春の太陽を浴びて、普通選擧の大講演會が開かれたさうであります。上野公園と聞く時、直ちに吾々の頭に浮びくるものは、醉ひつぶれたる花見客である。喩ふるに言葉無き男女の醜態である。家庭を忘れ、兄弟を忘れ、夫婦を忘れ、市民を忘れ、國民を忘れたる魂の拔殼であります。この上野公園を選んで、醉ひつぶれたる大平の逸民を相手に、普通選擧を說き、社會問題を語る諸君は尠くとも諸君自體に於て曾我廼家五郎をして歡呼措く能はざらしむる喜劇の好個の題材であらねばならぬ。

若き日本の社會運動は尠くとも斯の如き悠長なるものであらうか。花見氣分を以て日本の社會運動を率ひんとする指導者に依て導かれつゝある日本の國民は幸福であるのか。不幸であるのか。新らしき日本の建設者たるべきヤングゼネレーションは既に業に諸君の如き遊蕩兒を社會的に抹殺しました。諸君は花下の醉漢を動かすことができるかも知れない。けれどもヤングゼネレーションの論理的頭腦を動かすことは斷じてできない。上野東叡山の鐘は軈て淋しく諸君の運命を弔ふであらう。

虛僞の普通選擧が滅落した時に眞實の普通選擧が起ります。われ等は先づ虛僞の民衆運動を排斥しなくてはならぬ。

對外硬と對內軟

日本の役人外交は、多くの場合において對外軟であるといふの非難をうけるのに對して、日本の國民外交の指導者と稱する一團の諸君は、常に對外硬の主張者として一貫されてゐます。外交の成功とは、常に對外硬的の國家の活動であるとすることが、これ等の人々の頭腦を支配する——既に數十年間支配し來りたる因襲的の主張であります。

對外硬とは何んぞや。それには少くとも二つの種類——

正反對の二つの種類があります。その一つは、日本が迫害せられたる時代の對外硬であります。その時代の對外硬は當然必然に、日本の民族的自由を要求する鬪ひの聲であります。從つてそれは國際的民主主義の要求であります。日本の對外硬は、その徃時の、日本の置かれたる國際的地位の必然の結果として、無意識に、この國際的民主主義のために戰ふことを餘儀なくされたのであります。

けれども時代は既に一變しました。日本の對外硬が民主主義と一致する時代は既に日露戰爭以前の昔となつてゐます。

今日の日本は既に世界五大國の一つとなつてゐます。その五大國の一つとなつたことは、文化のためでもなく歷史のためのでもなく、生產力のためでもなく、卽ち一切の創造的建設的の理由によつてではなくして、戰爭と武力、破壞的の力によつてゞあります。その日本の對外硬とは、いふまでもなく帝國主義または軍國主義の主張であらねばならぬ。從つてそれは國際的民主主義の側にあるのではなくして、反つてその反對の側にあります。

それゆゑにこの意味においての對外硬はまた同時に「對內軟」の運動とならなくてはならぬ。彼等が論理的の頭腦の所有者である限り、彼等の對外硬は、また同時に對內軟とならなくてはならない。

內においては自由、外においては帝國主義――これ實に英國の資本主義的自由主義の產みいだしたる奇怪なる產物であります。その時代は、英國においても過ぎ去りつゝあります。かくして一切の意味において對外硬の時代は去りつつあります。

日本の政治運動の理想は、一面において對內軟の諸運動を排斥するとともに、また更に對外硬の諸運動を葬ることでなくてはならぬ。――何となればこの二つのものはデモクラシーの要求と兩立することができないからであります。

（廿一日）

[German Cartoon]

Bolshevism (落ちるも知らないで)

—*From Simplicissimus, Munich.*

THE BOLSHEVIK: "We will show the world that the people also have the right to commit stupidities."

社會主義と民主主義

室伏高信

『私との會話のうちで、カール・マルクスは、社會主義者が政治の舞臺に參加することを常に明白且つ强烈に支持しました。』——英國の老社會主義者ハインドマンはその The Future of Democracy のうちでかういふ話を書いてゐます。

（一）

政治的民主主義といふ言葉は、社會民主主義または産業民主主義といふ言葉と對立して使用されます。この三つの區別は、多くの民主主義者の慣用するところです。政治的民主主義の起原についてはこゝにこれを述べない。けれどもこの思想とレヂームとが、歷史のうへに一時期を劃したのは明らかにフランス革命であります。それゆゑに政治的民主主義は稍もするとフランス革命によつて表徵されます。それに對して社會民主主義または産業民主主義といふ新系統が立てられることとなつてゐます。この歷史上の經過から見ると、政治的民主主義の印象——少くともその言葉の印象がアンチークなものであることは自然の結果であるに對し、社會民主主義または産業民主主義といふ言葉の印象は極めて新らし味のあるものであります。かういふ印象のもとに觀念される政治的民主主義は、いふまでもなく現代的の民主主義ではない。それは現代民主主義の思想のもとにおいては民主主義と觀念することのできないものであります。何となればその民主主義と稱するものは、一部の階級においての民主主義であり、現代の世界において最大多數の人口を占めてゐる第四階級の解放に無頓着であり、或は更にそれに反對するものであるからであります。それとともに、またそのう

へに、この用法においての政治的民主主義のうちには、「社會的」または「產業的」といふ觀念が一切除外されてゐるものであり、從つてその民主主義と稱するものは、人間生活の一切の局面においてのものではなく、たゞその局面のある限られたる部分における思想または制度であるに過ぎない。これに對して社會民主主義または產業民主主義は、主として一八四八年のルイ•ブラン の革命によつて表徵されてゐるものであり、產業革命の結果に對して起されたる運動であり、從つてエピセットとしての政治的民主主義が閑却し、又は反對しきたりたる第四階級並に「社會的」または「產業的」のプロヴヰンスのうへに立つてゐるものであります。だから社會民主主義または產業民主主義のみ、現代における民主主義として受取られる傾向が一部の人々の間に存在してゐることは決して謂はれのないことではない。

（二）

產業民主主義とは、生產に對する人民の支配といふことであります。シドニー•ウエッヴの定義に從へば「生產(プロダクション)」そのものが人民それ自身によつて支配されることであります。だから產業民主主義といふエピセットは、その言葉自身が示してゐるとほり、純然たる產業上のものであり、また生產に對する人民の關係を指すものであり、またこの點に制限せらるべきものとされます。例へば職工組合に屬してゐる勞働者が、社會民主黨員としてなした行動は、必ずしも獨り「產業(インダストリー)」または「生產(プロダクション)」の範圍に限られてゐるものではない。その範圍に限られてゐないとすれば、その場合における職工組合の運動は、もつと廣汎なる社會運動の一現象であると見なくてはならない。卽ち產業民主主義の範圍に屬するものではなくて、社會民主主義または政治的民主主義のプロヴヰンスに屬するものとされます。これ等に對して政治的民主主義は統治または行政上の人民の支配を指すものであります。その統治の範圍は必ずしも地理的のものではなくして、地平線的及び垂直的の兩方面があります。この兩方面における國家または自治團體の統治及び行政上における人民の支配をもつて政治的民主主義と申すのであります。かう考へて見ると、民主主義のうちに、政治的(ポリチカル)、社會的(ソーシャル)、產業的(インダストリアル)といふ三系統を區別することは必ずしも不當なことではない。エピセットとしてのこの三つの民主主義の系統は、みなそれぞれに特有の內容をもつてゐるからであります。けれども私どもは人間生活の各部分について鋭敏でなければなら

ないとともに、またその全局面の統合の上に思ひ至らなくてはならない。即ち政治的の局面について考へなくてはならないがごとくに、社會的及び産業的の局面について考へなくてはならない。その言葉を逆に用ゐると、われ〳〵は社會的及び産業的の局面について考へるとともに、また政治的の生活局面について考へなくてはならない。

民主主義が政治的の方面にのみ存在するものとするの思想の誤謬であることは、私の屢々述べてきたところであります。こゝにこれを繰返しては述べない。けれどもまたそれとともに、民主主義が「政治的」を排斥して、單に社會的または産業的にのみ存在するものであるかどうかについては、こゝに詳に述べる必要があることと思ひます。

(三)

政治的民主主義といふエピセットは、これを使用する人々によつて様々の意味に用ゐられます。その最も著るしい例は、「代議政治」、「憲法政治」または「第三階級主義」の意味に用ゐられてゐることであります。

いふまでもなく、代議政治は、政治的民主主義の一過程を代表する政治の體様であります。その體様は、近代民主主義の政治そのものを標徴すべきほどに、深い關係をもつて生れてゐます。その政治の體様は、專制政治を救ひうべき、唯一の政治體様であるかのやうに思はれてゐました。それ故に代議政治と、政治的民主主義とは必然の關係があるもののやうに考へ、代議政治そのものを指して、政治的民主主義と稱するものがあります。この使用法は、あるものを暗示するの用法としては、必ずしも非難すべき用法ではない。即ち政治史的に觀察して、その各時代を、ある標準によつて暗示しようとする企てとしては、決して非難すべき用法ではない。けれども代議制度をもつて、政治的民主主義に限られたもの、或はそれに必然的の關係をもつてゐる存在だとなすことは、重大な誤謬であります。その點はシドニー・ウエッブの「産業民主主義」が最もよくそれを説明してゐます。彼れの考證するところに從へば、プリミチーヴの狀態に於ては、民主主義は凡て直接的であります。けれどもその狀態は、直に代表制度によつて代襲されべきものであり、その關係は獨り「政治的」の場合に限るものではなくて、産業民主主義または社會民主主義の場合においても、みな一つであります。(Webb, Industrial Democracy, 1—37) それ故に、代表制度は、決して政治的の場合に限られたものではなく、

政治的民主主義は、決して代表制度を專有してゐるものではない。もつと詳にいへば、代表制度が、近代民主主義と共に生れたのは、代表制度が、政治的民主主義と必然的關係があるためではなくて、その民主主義が、たま〳〵近代大國家のうちに接續したからであります。近代大國家の存在を想像しなくては、代議制度と政治的民主主義との關係は、今日までありたるよりは、遙に相違したものとして考へられます。だから、代表制度であるかないかといふことは、政治的民主主義とは、本來は無關係な理窟であります。この無關係——必然的關係のないものをもつて、政治的民主主義の標準とすることは、決して正しい用法といふことはできない。

標語的の學說は、大體の概念を捕へるうへにおいて、多くの便宜を有することがあるにしてもその危險は、誇張に陷ることであります。誇張は誇張に接續して、標語的學說は、極めて危險なる步き方をします。政治的民主主義をもつて代議政治だとするものは、その「代議政治」を、更に「第三階級の政治」といふ意味に誇張する。政治的民主主義をもつて、第三階級民主主義だと看做すことは、社會主義者の間にあつては、寧ろ普通の用法であります。彼等が「政治的民主主義」といふ時には、多くはブルジョアジーの支配といふことを意味してゐます。然り、エピセットとしての政治的民主主義は、屢々この意味において使用せられるものである。如何にも社會主義者によつて主張せられるとほり（社會主義者以外の人も主張しないことはないが）近代民主主義は、大體において、第三階級民主主義たることに、その特長の一つをもつてゐたものであります。それ故に、標語的の學說によれば、政治的民主主義は、また一つの「ブルジョア・デモクラシー」であつたといふこともできないではない。けれども嚴密なる思想家は、そのやうな標語的學說に滿足してゐることができるものではない。

第三階級とはいふまでもなくブルジョアジイBourgeoisieのことであります。それは中世の都市生活から發達したる一階級であります。マルクス及びエンゲルスの「共產黨宣言」Das Communistische Manifest による時は、それは第四階級以外の一切の階級を指稱するものとされます。またデキレイ博士に從へば、ローマのエクイテスもフランスのブルジョアジイと同じく一つの第三階級であります。希臘においても、スパルタのペリオイコイ(Perioikoi)は、一種の第三階級であります、ダンニングはこのペリオイコイを指して「中等階級」といふ言葉を使つてゐます。その階級はスパルタの中等の階級に屬し、主として

商工業に從事する階級であり、また公民權を與へられてゐたものであります。だからこのペリオイコイも、一種の第三階級と稱することができます。それのみならず、希臘及ローマの民主主義が、下層の人民卽ち奴隷の階級に及ばなかつたものであり、單に自由民の間に行はれたといふ意味からして、中等階級民主主義と稱すことができます。何となれば、希臘ローマの時代における奴隷階級は、政治的及社會的觀察において、今日の第四階級（Proletariat）に比すべきものであるからであります。

（四）

政治的民主主義は、慥にそれが「ブルジョア・デモクラシー」たることに、一つの特長をもつてゐたものであります。それはフランス革命の記錄に見ても、英國における代議政治發達の經路に見ても、「ブルジョア・デモクラシー」としての特質を具備してゐます。また代議政治そのものが、この「ブルジョア・デモクラシー」の機關として生れ、この機關として利用されてきたことは明白なる事實であります。けれどもそれだけの事實をもつて、直に政治的民主主義が「ブルヂョア・デモクラシー」に限られたものであり、またそれが政治的デモクラシーの凡てゞもあるかのごとくに考へることは――言葉を換へていへば、政治的民主主義は、この範圍に限られたのであり、この範圍に限られたものを、政治的民主主義だと考へることは、決して正しい考へ方と稱することはできない。例へばフランス革命にしても、その人權及公民權宣言の中には、所有權の神聖と不可侵とを宣言してゐるばかりではなくて、フランス革命の際における選擧權の割當に見ても、普通選擧にさへ到達してゐないのであるから、フランス革命の民主主義が、中産階級の民主主義といふ標語によつて說明されることは決して不當のことではない。然り、エピセットとしての政治的民主主義は、事實においてブルジョアジーの擁護に終つてゐる形がある。けれどもそれは政治的民主主義が、フランス革命の時代に當て箝められた結果であつて、それが政治的民主主義の全體であり、全生命だといふことはできない。卽ち中世における都市生活から引續いて第三階級の發達を促し、その第三階級が、社會生活及び國家生活の中堅としての實力をもつこととなつてフランス革命が行はれたるものであり、從つてその革命は必然に第三階級の革命に終るの止むなきに至つたものであるとともに、その革命は人間の政治的及び社會的生活の進化の一階梯を區劃するものであると申すべきであります。また

從つてそれはある種の民主主義を代表する一切ではなくして、民主主義の政治的または社會的體現の一つのエポックを表象するものとして見るべきものであると思ひます。然り、フランス革命は他の歴史上の現象と同じく、それ自身一個の孤立せる存在ではなく、それ自身全目的を表現し包含した運動ではなくして、歴史的進化 Historical evolution の一階梯であります。その歴史的進化の一階梯としてのフランス革命は政治的の運動として出發し、また政治的運動としてのみ終始してゐるにしても、それはたゞ歴史的進化の一階梯を代表してゐるまでのことであり、これをもつて、政治的の運動が單にブルジョアの特有するところであるとなすことは素より誤謬であります。この理論を證明するためには一、政治的民主主義の發達の事實を説明し二、社會的民主主義及び產業的民主主義の實體に突入してそのものが果して如何なることを要求するものであるかを説明する必要があることゝ思ひます。

（五）

政治的民主主義は、明らかにその第一步をブルジョア●デモクラシーとして體現させてゐます。けれども政治運動が常にブルジョアの運動であつた時代は必ずしも長いことでない。フランス革命はブルジョアの名によつて代表さるべき最も華々しき革命であつたにしても、それから半世紀も立たないうちに、英國における最も重要なる政治運動は例のチャーチストの運動であります。その運動は明らかに第四階級の運動であるとともに、またそれは疑もなく政治運動であります。その意味においてはチャーチスト●ムーヴメントはまた一つの政治的民主主義の運動であると申すことができます。またフランスにおける一八四八年のルイ●ブランの革命にしても、それは普通選擧の要求において永久に紀念さるべき價値をもつてゐるものである以上、それは半面において社會主義の運動であり、また半面において政治主義の運動であります。卽ち政治的民主主義が、その古るき形と內容とにおいての破產を證據立てゝゐるものであり、他の言葉をもつていへば、政治的民主主義が社會主義の主張の前にある種の讓步をなしてゐることを證據立てゐるものであるとともに、政治的民主主義がそのブルジョアの古るき精神から脫却して漸く第四階級のうへに立脚することの傾向を示したるものとして見ることができるのであります。獨りこのフランスの二月革命またはチャーチストの運動ばかりではない

一八四八年の獨逸の勞働者達の諸運動もまた主として勞働階級の政治的運動として起つてゐるのであります。卽ち普通選擧の運動として起つてゐるのであります。この運動は政治を否認する社會主義の運動——無政府主義の運動として成立したのではなくしてその反對に勞働者の政治的要求として成立してゐるものであります。この意味においてそれはソーシアル・デモクラシーの要求であるとともにまた政治的民主主義の要求であると申すことができます。またこの勞働者の政治運動は、十九世紀の中半から二十世紀にかけては、世界の凡ての文明國において成功してゐます。それ等の諸國においては、第四階級は決して政治から除外されてゐるものではない。その言葉を逆に用ゐると、政治は決してブルジョアの專有物ではない。「政治がブルジョアの專有物であつた時代は、フランス革命から二月革命に至るまでの間であると申すべきであります。それゆゑに一八四八年代の社會主義者が政治をもつて常にブルジョアの專有物であるとしてこれに强き反感を抱いてゐたことはもとよりありうべきことであります。無政府主義者は勿論のこと、マルクス派社會主義者のうちにも政治について深い反感をもつてゐるものも少くはない。マルクスの alter ego としてのフリードリッヒ・エンゲルスは政治及び國家について露骨にその反感を表明してゐます。「今日の國家は、階級鬪爭の必要がなくなり、生產上の階級支配または個人的競爭がなくなつた狀態においては、壓迫の機關——國家といふものの必要がなくなるのである」と。(Engels, Die Entwickelung des Sozialismus von Utopie zur Wissenschaft) けれどもエンゲルスが政治を排斥することは彼れが宗教を排斥することゝは必ずしも同一ではない。彼れが宗教に反對することは、宗教を以て人間のイニシエチヴを破壞するの罪惡として根本的にこれに反對することであるにしても、(Engels, Landmarks of Scientific Socialism) 彼れが政治または國家に反對することは、たゞブルジョアの國家または政治に反對することでなくてはならぬ。彼れが政治に反感をもつてゐたことは、ブルジョアの政治に反感をもつてゐたことでなくてはならぬ。今や、社會運動が起つてから既に四分の三世紀、政治は既にブルジョアの專有する時代ではない。縱令勞働階級は未だその鬪爭運動の中途にあるにしても 既にブルジョアの衰頽に對して、勞働階級の勝利が着々實現されつゝあることは、現代の政治上における最も著るしい事實であります。

(六)

政治上における勞働階級の勝利は、今や世界の到るところに證據立てられてゐます。ロシアにおいて、獨逸において、オーストリアにおいて、匈牙利において。それからフランス、英國、白耳義、瑞西の諸國においても、勞働階級は既に政治上の全權を掌握し、或はその中道に達し、或はまた政治の一半に責任を負ふこととなつてゐるのであります。今日の文明國と稱せられる諸國においては、勞働階級が政治に對して無責任であり、または政治から除外されてゐるやうな國家は存在してゐない。それのみではなく、勞働者が政治上の全權を掌握しまたは政治を分擔してゐる結果は、政治は更に勞働者の、勞働者によつての、勞働者のためのものとなりつゝあります。卽ちその政治的民主主義はブルジョア民主主義ではなくして、ソーシアルまたはインダストリアルの領域に突入しつゝある民主主義となつてゐます。この事實は到るところに證據立てられてゐます。獨逸共和國の政治、ロシア・ボルシエヴヰキの政治はいふまでもなく、米國におけるウヰルソンの政治もまた殆んど勞働者の政治となつてゐます。「北米評論」の主筆ハァヴエイが、ウヰルソンの政治と共和黨の政治とを對立せしめて、社會主義とアメリカ主義との對立であると稱してゐることは、彼れがウヰルソンを排斥するの言葉としてのみ聽くべきものではない。(North American Review, March, 1919)ウヰルソンの國際的民主主義の立場が、社會主義の立場と一致するものであることは、英國またはフランスの社會黨が熱心にこれを支持してゐることによつても證據立てられてゐるところであります。ロイド・ヂョーヂの政治すらも、一歩一歩、勞働階級の側にと進まなくてはならないことに常に煩悶しつゝあることも、英國における政治の重要なる傾向を物語つてゐるものであります。かくして現代の文明國と稱せられる諸國の政治は、眞實なる勞働者の政治となり、またそれとともに社會的或は産業的の政治となりつゝあります。資本主義の政治、帝國主義の政治、軍國主義の政治、貴族の政治の破滅において、勞働階級のための政治が世界の到るところに凱歌を奏しつゝあります。然り、今日においては、政治は決して勞働階級の敵ではなくしてそれの支持者となつてゐます。政治的民主主義はそれの虚僞の民主主義の時代から眞實なる民主主義の時代へと進展しつゝあります。それにも拘はらず、今日尚ほ依然として、政治とはブルジョアの專有するものである

として、一八四八年代の社會主義または無政府主義のごとくに、徒に政治または國家に對して反感を抱いてゐることは驚くべき愚昧なることであります。それもまた明らかに一つの時代錯誤であります。一部の社會主義者の時代錯誤であります。

（七）

一部の社會主義者または無政府主義者の政治に對する反感は、これを二つに分けて考へることが便利であります。その一つは政治機關についてのものであり、他の一つは政治の實質についてのものであります。政治の機關——今日までの政治機關について最も端的にその反感を表明したものは、社會主義者のうちにおいてはベーベルを推すべきであらうと思ひます。オーギユスト・ベーベルは叫んでいひます。大臣を廢せ、議會を廢せ、常備軍、警察、法廷、檢事を廢せと。(Bebel, Die Frau und Sozialismus) けれども大臣を廢し、議會を廢し 常備軍、警察、法廷、檢事を廢することは、たゞ政治上のある種の機關を廢するといふまでのことである。政治上のある種の機關を廢することは決して政治そのものを廢することではない。たゞに廢することでないのみならず、政治實質の單純化の效果は毫末も含まれてゐるものではない。例へば常備軍を廢止するにしても、獨逸社會民主黨の主張のごとくこれに代ふるにミリシアをもつてするうへに、更に全國民の政治的總訓練をなすものとすれば、これによつて政治はたゞ複雜化するのみであります。また大臣を廢するにしてもこれに代ふるに書記(セクレタリー)をもつてし、議會を廢するにしてもこれに代ゆるにソビエツトのごときものをもつてし、或は更にロシアのボルシエヴヰキ・レヂームのやうに宣傳局までも設けるとすれば、大臣を廢し、議會を廢し、常備軍を廢し、檢事、法廷、警察を廢することは、たゞ機關の置換または機關そのものゝ單純化であるにしても、政治實質とは少しも交渉するところはないのであります。その目的とすべきところは民主主義の能率を增進することであるに過ぎない。民主主義の能率を增進するために政治機關の變更または置換へをなすことであるに過ぎない。卽ち民主主義に適したる政治の機關を要求することであり、それは政治を廢滅するの效果もなく、また政治を廢滅すべき何等の理由をもつてゐるものではない。政治實質の單純化は、たゞ生活の單純化並に人口の減少によつてのみ成立することので

きろ空想であります。近代の國家は一方において人口が增殖します。この人口の增加とそれに伴ふ支配地域の擴大とは、異民族の分解なる國際的民主主義によつてその一部を防過することができるものであり、從つてこの點においての政治の單純化を來すことができるものであるにしても、人口の增殖は、異民族の併合からのみ生れてくる事實ではない。從つて異民族の分解のみによつて、人口の增加から生ずる政治の複雜化を防止することは素より不可能のことであります。また生活の單純化は、物質的及び精神的文化の單純化によつてのみ成立することができるものであります。かくのごときは文明の精神に反逆するものであり、また人間進化の趨勢と矛盾するところのものであつて、素よりこれを期待することはできないものであります。

(八)

社會主義と民主主義との關係を知るためには、私は更に進んで社會主義の何ものであるかについて述べなくてはならない。社會主義とは何んぞや。この問題に答へることは極めて容易であり、また極めて困難であります。スパルゴウに從へば、社會主義の分派は、これを主張する社會主義者の數に比例するものとされます。(Spargo, Social Democracy Explained) けれどもこれを大觀すれば、今日の科學的社會主義の要素は、それがコレクチヴキズムのうへに立つの點にあります。個人主義の思想または制度に對してコレクチウキズムを主張するの點に現代社會主義の要素の存在するものであることは、社會主義に對する歷史的觀察において證據立てられるところであります。いふまでもなく科學的社會主義はマルクスの研究によつて確立せられたるものであり、そのマルクス及びエンゲルスによつて宣言されたる「共產黨宣言」は共產主義の名をもつてゐるにしても、これは單に名辭上の問題であるに過ぎない。卽ち一八四七年においては、社會主義とは空想社會主義 Utopean Socialism のことであり、それは勞働者の運動といふよりは寧ろ中等階級の社會運動であるとされます。さうして共產主義 Communism のみ勞働者の運動として目せられたものであります。從つてマルクス及びエンゲルスの共產黨宣言の名辭に囚はれて、共產主義をもつて社會主義であるとなすことは素より間違ひであります。この點はエンゲルスがその「共產黨宣言」の序文において明らかにしてゐるところであります。(Preface to The

Communist Manifesto, by Engels, Kerr edition) 然り社會主義とはワグナアによつて正しく述べられてゐるとほり、コレクチヴヰズムであると申すことができます。個人主義の思想及びそのレヂームに對するコレクチヴヰズムの思想及そのレヂームであります。それは共産主義でもなく、無政府主義でもなく、また個人をもつて最高の權威なりと意識する個人主義でもなくして協同的または團體的生活をもつて人間生活の道德的根柢であると意識するコレクチヴヰズムそのものであります。それは個人的原因を最高目的とするものではなくして共同原因を意識してその理想に奉仕することを道德の根柢とするところの主張であります。從つて社會主義または社會民主主義においての社會とは決して政治に對するの意味ではなくして個人主義に對する意味であると了解すべきものであると思ひます。ある社會主義者のごときは、社會主義もまた個人主義であると申してゐます。(Spargo, Socialism, Social Democracy explained) けれどもこのやうな説明は資本主義と社會主義との對立をもつて、單に生産機關の所有者の相違であるとなすものであり、その生産機關の所有者を移動すべき理由を説明すべき何等の哲學的根據をも示すことのできない淺薄なる説明であるに過ぎない。繰返していふ、社會主義とは何んぞや。また更にコレクチヴヰズムとは何んぞや。

（九）

ヂュール・ゲードはフランスにおけるマクス派正統社會主義の指導者であります。彼れが嘗つてフランスの代議院において反動派の一議員ブウヂの問に答へて、社會主義の主張を明らかにするために試みたる演説は、社會主義の要求について、最も明晰なる説明として尊重せらるべきものであります。彼れは社會主義をもつてコレクチヴヰズムであると論じてゐます。彼れは人と人との戰ひの代りに、人と自然との戰ひを奬めてゐます。人と自然との戰ひのために人間の協同 Solidarity を奬めてゐます。生産手段は、資本主義のもとにおいても、益々集中的の傾向と必然性とをもつてゐるとするのがヂュール・ゲードの立場であります。「その資本主義において生産手段の集中は、階級的のコレクチヴヰズムである。……われ等は社會的コレクチヴヰズムを得なくてはならぬ。」「少數の株主によつて鐵道が所有せらるゝ代りに、われ等をしてフランスの勞働者が運轉する鐵道をもたしめよ」ゲードはかう申してゐます。(Jules

Guesde, Collectivism) 然り、科學的社會主義の目的とするところはコレクチヴヰズムであります。無政府的の個人主義または個人的無政府主義に對して、社會的コレクチヴヰズムを主張することであります。

如何にしてその目的を達すべきか。

(十)

如何にして社會主義の目的を達するかの問題は、これを直接的のもの卽ち資本主義制度を廢滅することゝ、社會主義的制度を樹立することの二つに分けて考へることができます。資本主義の制度を廢滅するの方法としては、革命を主張するものと、妥協を主張するものとがあります。正統派の主張は革命——社會革命であります。けれどもその社會革命なるものは、決して暴動を指してゐるのでない。マルクスは革命と暴動とを嚴格に區別します。ゲードは、フランス革命の經過を批評して、「バスチィユの破壞、火藥庫の放火……これ等のものは革命の如何なる分子をも含んではゐない」ものであると論じてゐます。卵の中の雛鳥が發育して一定の時期に達する時に、その卵の殼は破壞するに至らなくてはならぬ。……これが革命である。ゲードはかう申してゐます。それゆゑに彼等のいふところの革命なるものは、また一つの進化の過程であるに過ぎない。進化の一過程に對して、彼等はこれを革命と名づけてゐるのであります。それゆゑにゲードの立場が、平和的に、さうして政治的に、その社會主義の理想を實行しようとするにあることはもとより當然であります。(Guesde, Collectivism) またそれゆゑにハインドマンが、フランスのゲード派社會主義を批評して、「ヨオロッパにおいて、最も多く純正マルクス主義に執着してゐるゲード派のフランスの社會主義者は、機會あるごとに、機會なき時においてさへ、政治的の方法を用ゐた」と述べてゐることもまた素より當然であります。(Hyndman, The Future of Democracy)

この正統派の主張に對して、猛烈なる反對を加へたものは、フランスにおいてはヂョウレィ、獨逸においてはベルンスタインであります。ヂョウレィは一九〇四年のドレスデン決議に反對し、獨逸社會民主黨の態度に痛烈なる非難を加へてゐます。ベルンスタインもまた革命說に反對してその名著「進化的社會主義」(Bernstein, Evolutionary Socialism)

を出版してゐます。これ等の修正派の主張は、英國の勞働階級のうちには最も多數の共鳴者をもつてゐます。英國勞働黨の首領ヘンダァソンは、「革命か妥協か」の題目のもとに、英國においては革命の成立すべからざるものであることを力說してゐます。(Henderson, The Aims of Labour) 英國の勞働黨または修正派の主張が革命主義に反對することは、妥協を主張することであります。政治上の合理的の機關を通じてその目的を達せんとすることであります。卽ち政治的民主々義にとつて社會主義の目的を達せんとすることであります。英國の社會主義者マクドナルドは社會主義と政治的民主々義との關係を論じて、社會主義が政治的民主々義と結合すべきものであることを率直に述べてゐます。(Ramsay Macdonald, The Socialist Movement)

(十一)

社會主義と政治的民主々義との關係は、社會主義の運動史が、何ものよりも明白に且つ雄辯に物語つてゐます。マルクスが倫敦において共產主義者同盟 Bund der Kommunisten を再興せんとした時に、マルクス及びエンゲルスが政治的革命派の一派と分離したるを初めとして、一八七三年には社會主義者は無政府主義者と分離するに至つてゐます。無政府主義の指導者はいふまでもなくミハエル・バクーニンであります。バクーニンは國際勞働者協會から分離するとゝもに、無政府主義の一團 Alliance de la Démocratie Socialiste を組織するに至つてゐます。彼れはその宣言において、政治的、宗教的、司法的、公民的の諸制度に反對してゐます。けれどもこの立場はマルクスにとつては反對の立場であります。マルクスは痛烈にバクーニンの立場に反對します。バクーニンもまた痛烈にマルクスの立場に反對します。かくして最初の國際勞働黨の運動は、社會主義と無政府主義との分裂となつて終りを告げることゝなつてゐるのであります。國際社會黨の運動が再興されたのは一八八九年のことであります。その年に巴里において各國社會主義者の會合があつて以來、世界大戰(一九一四—一八年)の初めに至るまで、二ヶ年乃至四ヶ年毎にこの會合が繼續されてきました。一八九三年のツーリッヒの會合においては、再び無政府主義を國際社會黨の會合に參加せしむべきものであるか否かの問題を討議することゝなつてゐます。議論は二つに分れました。けれども採決の結果は十六對二の割合をもつて、無政府

主義者の參加を拒絶することゝなつたのであります。その會合においての無政府主義者とは、政治的行動に反對する一切の人々であり、從つて社會主義的秩序を理想とするものと雖も政治的行動を否認するものは無政府主義者としてこれを排斥したのであります。「政治的行動とは、政權を支配するためにする勞働階級によつての政治的權利並に立法の利用である」とはこの席上におけるベーベルの有名なる定義であります、一九九六年のロンドン會議においても議會派（パーリメンタリアン）と非議會派（アンチパーリメンタリアン）との間に猛烈なる論爭がありました。けれどもその席上においても、議會派の勝利に歸して、直接行動を主張するサンヂカリストの參加を拒絶することゝなつてゐます。さうしてその決議の第一條において、「政治的行動とは、政權を獲得するためにする組織的爭鬪の凡ての形式並に解放のためにする勞働階級によつての立法、行政及び市政上におけるその使用である」ことを決議してゐます。その第二條においては、社會主義の目的を達するためには、政治的行動が最良の手段であることを規定してゐます。またこの會各におけるヴヰルヘルム・リーブクネヒトの動議によつて、無政府主義者は永久にこの國際社會黨の會議に參加することを拒絶することゝなつたのであります。獨逸社會民主黨もまたそのエルフルトの（宣言一八九一年において、勞働階級對資本家の爭ひは政治的の爭ひでなければならないことを主張してゐるのみならず、その要求條件の第一條においては政治的民主々義の機關たる普通選擧を要求し、その第二條においては、帝國、州、縣または自治團における自治政治を主張してゐるのであります。即ち政治的民主々義を主張してゐるのであります、かくして社會主義の運動史は、また政治的民主々義の發達史であります。政治的民主々義の發達によつてのみ社會主義の目的の實現されるものであるとすることは、社會主義の運動史が明白率直に物語つてゐるところであります。けれどもそれは獨り社會主義の運動史がこれを物語つてゐるのみではなくして、社會主義の理論が端的にこれを要求してゐるのであります。

（十二）

このことを説明するためには私は再び振り返つて社會主義の要求とは何んぞやの問題を考へなくてはならぬ。繰返していへば、社會主義の要求するところはコレクチヴヰズムであります。コレクチヴヰズムがその正面の敵とするところ

は自由放任主義であることは勿論です。自由放任主義においては、政治は極めて簡單であります。簡單であることを目的とするものであります。これに反してコレクチヴキズムにおいては、自由主義の制度において、國家が無干渉を主義としたるところのものもまた國家の意思と力とに訴るところの重要なる目的となります。例へばフエービアン社會主義の宣言に從へば、社會主義とは土地及び產業資本を公有とすることであるとされます。卽ちブルジョアの制度において個人の手に委せられたる土地及び產業資本をもつて國家またはその他の公共團體の管理に移さんとすることでありますその結果は如何になりゆくか。國家またはその他の公共團體がその公共の利益のためにあらゆる障碍を排斥して行ふべきところのもの——政治は益々重大なるものとなることは見易きの道理ではないか。マルクス及びエンゲルスの「共產黨宣言」によれば社會主義の制度においては、「人」に對する支配の代りに「物」に對する管理が行はれるのであると述べられてゐます。けれども「人」に對す團體の意思の活動——これを支配といふも管理といふも、また指導といふも何れにしても問ふところではない——が行はれることなくして果してよく「物」に對する管理が行はれうることができるか。かくのごときことは素より漫然たる空想であるに過ぎない。また例へば獨逸社會民主黨の綱領を如何にして實現するかの問題について考へて見る。彼等はそのエルフルトの宣言のうちにおいて、一般的軍事教育を提唱してゐるとゝもに、また國民教育の强制を主張してゐます。(第七條) この國民教育の問題は、生產及び分配の問題とゝもに、社會主義の綱領のうちにおいて最も重要なるものであります。その國民教育の强制とは何ぞや。これまた一つの重要なる政治的民主々義の現象であるではないか。然り、社會主義はたゞ政治的民主々義によつてのみ實現せらるべきものであります。この點においてジョン・スパルゴウが、社會主義を說明して「それは政治的民主々義と產業的民主々義との結合であると述べてゐることはよくこの間の事實を說明してゐることゝ思ひます。(Spargo, Socialism, P. 288)

(十三)

より多數の生活においては、より多くの權力を必要とする。より多く民主々義的であるものは、より多く權力的である。この點は歷史的にも、科學的にも證明の容易なことであります。シドニー・ウエッブが立證してゐるとほり產業民

主々義の幼稚な狀態においては、職工組合においても、同業組合においても、その組合の事務は凡て直接的に實行される。また委員を選み代表者を選むやうになつても、初めは交代または抽籤によつてこれを定めるのであります。けれどもその組織が大規模となり、その參加者が多數となるに從つて、直接的は代表的となり、代表的は、次第に專門的となります。專門的となるに從つて權力的となります。(Webb, Industrial Democracy) 凡ての組織的の運動は、みな權力の集中によつてのみ行はれます。獨逸の社會民主黨が中央集權的黨制を實行してゐることは、民主々義の立場においては素より當然でなくてはならぬ。中央集權的黨制によつてデモクラシーの組織と指導とが行はれ、またこれによつてのみ、デモクラシーの能率が增進せらるゝからであります。社會主義の主張は、產業の局面にのみ限らるれものではなくして、人間生活の一切の局面に交涉するものであるにしても、(H. G. Wells, New world for Old) その主要なる點は生產の集中であるとされます。生產の集中は、あらゆるものゝ集中と等しく、組織と指導とによつてのみ行はれ、その組織の單純化と指導の有効化とによつてのみ集中能率の增進を見ることができるのであります。卽ち權力によつてのみ產業の集中——社會主義の實行を見ることができるものでなくてはならぬ。この點において、バァナァド・ショウが、社會主義、の國家においては、國民はみな普魯西軍隊內の兵卒のごときものでなくてはならないと述べてゐることは、稍や誇張に類するの嫌ひがあるにしても、またよく社會主義のもとにおける制度の如何なるものであるかを說明すべき暗示多き言葉であると思ひます。卽ち社會主義は、政治的に退却する運動ではなくして前進——急速度に前進すべき運動であります。ブルジョア制度においては一切個人間の自由に放任されたることも、社會主義においては、團體の意思の參入すべき領域であるとされます。團體意思の活動の領域は益々擴大せられ、政治の領域は益々擴大せられ、權力の需要は益々痛切となつてこなくてはならないのであります。

　それゆゑに社會主義は國家社會主義となるべきものでなければならぬ。社會主義の主張をもつて國家を否認するものであると考へることは一大誤謬でなくてはならぬ。社會主義の要求するところは、民主々義的國家團體主義でなくてはならぬ。……こゝにはこの點を詳かに述べてゐる暇がない。たゞウヮルト・ホヰットマンの暗示多き言葉を引用して社會主義と民主々義との關係を明らかにしたいと思ひます。ホヰットマンはいふ「政治的民主々義は社會的民主々義となることができる」と。(大正八年四月十三日)

社會主義の陥穽

ベルトランド・ラッセル

ラッセルは英國今日の思想界、哲學界または批評界における第一人者とされてゐます。新思想を了解しようとするものは少くとも彼れの why Men Fight, Principles of Social Reconstruction, Political Ideals の數著を讀まなくてはならないと思ひます。こゝに譯出した論文は彼れの Political Ideals のうちの第三章であります。この論文を一讀するものは、彼れが如何に嚴正且つ深刻に國家社會主義を批判してゐるかを承知します。（室伏生）

（一）

その初めは社會主義は、賃銀勞働者階級の解放并に自由と正義とを樹立することを目的とした處の革命的の運動であつたのであります。資本主義から新制度への變轉は急激且つ暴力的でなければならなかつたのであります。資本家は賠償なしに奪略されなければならなかつたものであり、且つ資本家の權力は他の如何なる新しき權力によつても置き替へられてはならないものであつたのであります。

漸次に社會主義の精神の中に變化が起つてきてゐます。フランスにおいては社會主義者が內閣員となり、さうして議會の多數派となり、また少數派となつてゐます。獨逸においては社會民主々義は其强硬なる共和主義と、彼れの要求に對する政府の承諾とを引替へにすることの誘惑を斥けることができなくなつたほどに勢力を强くしてゐます。英國においてはフエービアン社會主義者は革命に反對して改革の利益を敎へてゐます。さうして非協調的反抗のかはりに協調的協約の利益を敎へてゐます。

漸進的改革の行き方は革命の行き方に比べて多くの功績をもつてゐます。また私は革命の鼓吹を希望するものではない。けれども漸進的改革もまたある種の危險卽ち今日まで個人の手に屬してゐた事業の所有及び支配並に賃銀勞働者の種々なる部分の利益のためにする立法的干渉を奬勵す

ることによつて、ある種の危險を伴つてゐます。斯る手段によつて、最初の社會主義者を靈感せしめ、さうして今日も尙ほある種の社會主義を主張する人々の大多數を靈感せしめつゝある理想に向つて果して何ものを貢獻することができるかといふことは私の少くとも疑問とするところであります。

この點を說明するために私は國家の鐵道買收政策を指摘します。この方法は國家社會主義の目的の表徵的のものであり、全く實行可能のものであり、既に多くの國家において成就せられたものであり、さうしてコレクチヴヰズムの完成に接近するために必ず通過しなくてはならない階段であります。けれども國家が株主に充分の賠償を支拂つて鐵道を讓受けた場合に、私はそれが民主主義、自由または經濟的正義の成就せらるべき方面に、眞實にその一歩を進めてゐるといふことを信ずべき何等の理由をも發見することはできない。

經濟的正義はたとへ全部の撤廢ではないにしても、地代及び利潤の受領者の手に收めらるべき國民所得の割合の減少することを要求します。けれども鐵道株券の所有者がその株券に相當する政府の證券を與へられる場合には、この株券の所有者達は彼等がその株券から生ずるものと正當に期待し得られると同等の利得を永久に期待することができます。鐵道收益の莫大なる膨脹が期待されざる限り、このやうな方法は富の分配の變更のうへに全然何の益にもたつものではない。それはたゞ現在の所有者が放逐されるか、市價以下で支拂はれるか、または賠償として單なる終身財產權が附與される場合においてのみ始めて効果の存在するものであります。全價値が賠償される場合には、一歩たりとも經濟的正義は進んでゐるものではない。

それは自由に對してもまた等しく殆んど一歩をも進めてゐるものではない。鐵道に使用されてゐる人々は、鐵道の支配においても、また勞働の賃銀及び條件においても、彼等が以前にもつてゐたよりもより以上の發言權をもつてゐるものではない。政府に訴へることの可能性のもとに、その管理者と戰ふことの代りに、彼等は直接に政府と戰はなくてはならぬ。さうして經驗の敎ふるところは、政府當局は、勞働者の要求に對して何等の特別なる同情をもつてはゐないといふことであります。彼等がストライキを起すとすれば、彼等は國家の全組織の勢力と戰はなくてはならぬ。それはたゞ偶々彼等が强大なる輿論の援助をうくる場合においてのみ成功の望みがあるに過ぎない。國家が常にその勢力を新聞紙のうへに及ぼすことのできる結果は、輿

論は恐らくは彼等に對しては不公平であります。名義上進步的の政府が權力を握つてゐる場合において特に然りであります。國有鐵道においては最早や各鐵道の間に政策上の相違なるものがありえない。英國における鐵道從業員は多年の間北東鐵道の比較的に自由なる政策から多大の利益をうけてゐます。卽ち彼等は到る所に同樣の政策を要求するための論據と見て北東鐵道の政策を利用することができたのであります。かゝることの希望は、痲痺せる劃一的の國家管理のもとにおいては消滅に歸します。

またそこには眞實なる民主主義の進步が存在しない。鐵道の管理は勞働者とは、別個の傾向と別個の一團をなしてゐる役人の掌るところであり、さうして其役人は權力の習慣性のために彼れの專制的の性情を發展させてゆくのであります。また名義上これ等の役人を支配してゐる民主的機關なるものは煩瑣にして關係の遠いものであり、それはたゞ全國民の利害にかゝる第一級の事件においてのみ活動することのできるものであります。そのやうな場合でさへ、役人及び政府の優越せる敎育は、彼れの地位よりうくる便利と結び付いて、その事件に關する輿論を誤導し、勞働者の側に立派な理由のあるものをさへ、世間の同情から遠ざけてしまうことができるのであります。

私はこれ等の害惡が今日存在することを排斥するものではない。私はたゞ今日の經濟的及び政治的環境のもとにおける鐵道國有のごとき手段によつてこれ等の害惡を救濟することのできるものでないことを指摘するまでのことである。より偉大なる向上と、人々の心の習慣のうちにおけるより偉大なる變化とは、凡ての眞に重要なる進步のために必要であります。

(二)

國家社會主義は、政治的民主主義の體制をもつてゐる國民においてさへ、眞實なる民主主義の組織ではない。それが民主主義的となることのできないことは、政治上の領域からの類推によつて明瞭にされます。凡ての民主主義は愛蘭人がその愛蘭の事務についての自治政をもつべきことを承認します。さうして彼等が合衆帝國の國會における分擔に參加してゐるが故に、不平のないものであると申すことはできない。その利害若しくは慾望が全然汎く社會の他のものと相違してゐる凡ての團體が、彼等の內部的の事務を、彼等のために處理することが自由でなくてはならないといふことは、民主主義にとつては肝要な點であります。さうして國民的または他方的の團體のために眞理であるこ

とは坑夫や鐵道從業員のごとき經濟的團體のためにも等しく眞理であります。總選擧のごとき國民的機關は決してこのやうな團體が、彼等のもたなくてはならない自由を贏ちうるの充分なる手段ではない。

役人の權力――近代の國家における偉大にして且つ增大しつゝある危險である――は、その役人のうへにたゞ最後の民衆的支配を行ひうる選擧人の多數が、原則として如何なる特定の問題にも利害關係がなく、從つて彼等が、利害關係ある少數の人々の希望を蹂躪する役人に對して有効なる干渉を試みることを欲しないことの事實から發生します。役人はたゞ名義上間接の民衆的支配に服するにしても、彼れの行動から直接の影響をうける人々の支配をうけるものではない。社會の意思の大部分は紛爭事件に耳を傾むけるものでもなく、またたとへ耳を傾くるにしても、それは利害關係ある人民の部分からでなくして役人の側からくる不適當な報道のうへに立てられる急造的の意見であるに過ぎない。重要なる政治上の事件については、ある程度の知識は早晩散布されます。けれどもそれ等のものを除く時は、そんな望みは殆んど期待することができない。

「役人の權力は、資本家の權力よりも、遙にその危險の少ないものである。何となれば役人は賃銀勞働者と對抗する經濟的利害をもつてゐないからである」と、かやうに申すことができるかも知れない。けれどもこの議論は政治的人間性についてあまりに單純なる學說である――それは純正社會主義がその古典的經濟學から適用し、さうしてその誤謬であることが益々明白となつてきたにもかゝはらず尙ほ維持せんとする學說であります。經濟的私慾は　また經濟上の階級的利害でさへも、決して唯一の重要なる政治的動機ではない。その俸給が一般に特定問題の決定に何等影響することなき役人は、人並みに正直のものである限り、公共利害と信ずるところの見解に從つてその意見を決定するものと申すことができます。けれども彼等の見解なるものは屢々彼等を誤謬に導くところの偏頗心であります。われ等の運命をあまりに無造作に政府當局に任せる前にこの偏頗心について理解することは大切なことであります。

第一に考へなくてはならないことは、凡ての大組織、就中大國家においては、役人又は立法者が、常にその支配する人民と隔絕し、さうして彼等がその決定を適用すべき人民の生活狀態について通曉してゐないといふことであります。その結果は、統計または靑書（ブリーブツク）によつて知りえられることについては熱心且つ勤勉であるにしても、彼等はその知ることを必要とする點について甚だしく無知でありま

す。彼等が親しく了解するたゞ一つのことは、役所の常規と行政上の規則とであります。その結果は劃一組織に對する過當の渴望となります。私はフランスのある文部大臣が時計を取り出して、さうして「この瞬間にフランスにおけるかく〳〵の年齡の子供等はこれ〳〵を勉强しつゝある」と話してゐたのを聞いてゐます。これが行政者の理想――自由の成長、獨創、實驗または遠大なる改革にとつて全く致命的な理想であります。人間の怠慢性とは政治理論の書物においては動機として認められるに至つてゐない。何となれば人間性についての凡ての正則の知識はこれ等の書物の尊嚴とは無關係のものであると考へられてゐるからであります。けれども私どもは凡てこの怠慢性が、最も有力なる人間の動機――少數の人々の例外を除きて――であることを承知します。

不幸にして、この場合に、怠慢性は、權力の愛好のために增大します。その權力の愛好のために、精力主義の役人は、怠慢なる役人の希望する行政上の體系を創造します。精力主義の役人は、常に彼れの支配せざるものを憎みます。彼れの公式の命令は、何事もなしえられない前に行はれなくてはならぬ。彼れの目に觸れたるものはそれが何んであつても、彼れはある方法によつて、彼れの權力についての感情を滿足せしめ、またその權力を意識せしめるやうにこれを變更することを欲します。彼れが若し良心の自覺のあるものとすれば、彼れは彼れの最良のものであると信ずる、ある完全に統一的且つ精密なる計畫を考へ出だし、さうしてこの計畫を慘酷に强制し、如何なる有望なるものゝ成長に對しても、調和のために、これを摘みとらなくてはならないものとします。その結果は、久しく個別的生活と個性とのうへに生活し且つ發達した古代都市の美と豐裕とに比べて、新らしき直角的都市が Rectangular town 何んとなく廢滅的の鈍ぶさを見せてゐるのは止むをえないことであります。生長したものは、常に、命ぜられたものよりも生々してゐます。それにもかゝはらず精力主義の役人は、自然の生長の外見的不秩序よりも、彼れの命令したものゝ整然たる秩序を選みます。

權力を掌握しさへすれば、それから權力の愛好が產みだされます。――それは極めて危險なる動機であります。何となればたゞ他人をしてその欲するところから妨げることによつてのみ權力の證明は成立するものであるからであります。民主主義の主要なる理論は全人民の間に權力を散布し、かくして一人に保有する强大なる權力から生ずる害惡を防止することであります。けれども民主主義を通じて行

はれる權力の散分は、選擧人が當該問題について利害を感ずる場合においてのみ有効であります。その問題が彼等に利害關係を與へざる場合には、彼等はその行政の支配を企てることなく、さうして、凡ての實權は役人の手に移るのであります。

それゆゑに民主主義の眞實なる目的は、國家社會主義または人民の支配に服從することのない——議會によつて間接に幾分か行はれるほかは——人々の手に强大なる權力が委ねらるゝ體系によつては、到達せらるゝものではない。

人々の政治上の活動について検分する時は、政治的に有力たらんとする充分の精力をもつてゐる人々のうちにあつては、權力の好愛は、經濟的私慾よりもより多く强大なる動機であります。權力の愛好は、大富豪——費消しきれないほどの金をもつてゐる——をして、益々世界の財界を支配せんとするだけの目的の爲に富の蓄積を繼續させます。權力の愛好は明らかに多くの政治家の主要なる動機であります。それは又戰爭——殆んど常に富の立場からくる投機であると認められてゐる——の主要なる原因であります。それゆゑにたゞ經濟的の動機のみを攻擊して、權力の集中に干涉しない新經濟組織は、世界における大改革を實現するものではない。この點が國家社會主義に疑を抱く重要なる理由の一つであります。

(三)

權力分配の問題は、富の分配の問題よりももつと困難な問題であります。代議政治の機關は、唯一の重要なる問題として最高權力のうへに集中され、さうして直接の行政權とは無關係であります。行政の民主化については殆んど何ごともなされてはゐない。政府の役人は、彼等の收入の安全及び社會的地位のために、その學生時代からの日々の同友たる富豪の側に立つものといへます。また彼等が富豪の側にあると否とにかゝはらず。前に述べた理由によつて、彼等は眞に進步のために盡すことを欲するものではないと思ひます。役人について適用されることは、選擧區に自己推薦をした時とは全く別物の代議士にも適用されます。けれどもこれはたゞ支配階級の他の性質のうへに更に僞善といふことが加はるのです。何人でも下院の廊下に立つて、議員——選擧人が見つけるまでは、きよと〳〵した眼と、無意味な笑を漏らしつゝ出てくる代議士が、選擧人と腕を組合せて、「親しき友よ」と呟きながら、もつと奧まつた院内へと案內してゆく光景を見て、これが人々の立法者となりまた立法者として存續してゆく技術であると知るものは、

今日の存在する民主主義が、絶對に完全なる政治上の制度でないことを感得します。一般の選擧民が、少くとも英國においては、全く不誠實について盲目であるといふことは痛ましい事實であります。政治上に何等の定見もない人民は、概して公然または秘密の、賄賂または諂諛によつて説伏されます。また改革の要求に唆がされてゐる人々は、野心滿々たる空論家を、正直に公共の利益を切望する人として喜ぶのが常であります。さうして此野心滿々たる空論家は、その自ら煽揚した熱狂(エンスウジアスム)の爲に權勢をうると、彼れの勢力を、ある時は公然と、またある時はもつと巧妙な方法——重要な場合にわざと落伍するといふごとき——によつて、支配階級に賣りつけます。これが代表制度のうちに體現されてゐるものとしての、民主主義の普通の活動の部面であります。民主主義が單に一場の喜劇に終つてならないものとすれば、救濟の道が發見されなくてはならないのであります。

近代大國家民主主義のうちにおける害惡の源泉の一つは選擧民の大部分が、政治上の諸問題の大部分について、直接または致命的の利害をもつてゐないことの事實であります。ウエールスの子供等は學校においてウエールス語の使命を許されべきか否か？ チブシーは文部當局者の命令のためにその漂浪生活(ノーマディックライフ)の放擲を強制されなくてはならないかどうか？ 礦坑夫は八時間勞働を當然とすべきか否か？ 基督敎信仰治療主義者(クリスチャン・サイエンチスト)は重病の時に醫者を呼ぶことを強制されべきか否か？ これ等のものは社會のある一部には熱切な利害の關係する問題であるにしても、大多數にとつては殆んど無關係のことであります。彼等が若しも多數の希望に從つて向背しつゝあるものとすれば、少數者の熱烈なる希望は、無關係なる他の多數者の輕視的且つ劃一的の出來心のために壓倒されてしまひます。若しも少數者が地理的に集中し 從つてウエールス人または坑夫のやうに、選擧民の多數によつて選擧を決定することができるものだとすれば、非常に便利なる徑路——敵はこれを無能者の相互援助だといふ——によつて、その目的に到達すべき善き機會をもつことができます。これに反して彼等が若しもチブシーや基督敎信仰治療主義者のやうに四方に散在し、且つ政治的に弱勢のものであるとすれば、彼等は多數者の偏見のために、殆んどよき機會をもつことはできない。地理的に集中されてる場合においてさへ、愛蘭人のごときは、多數者の側に敵意または征服の意欲の存在してゐるために、彼等はその慾望を達することができないのであります。かゝる状態は、凡ての民主的原則の否定であります。

多數者の專制は誠に現實の危險であります。多數者が必然的に正しきものであると考へることは誤謬であります。凡ての新問題について、多數者は常に最初は間違つてゐます。國家が全體として行動しなくてはならない場合、例へば關稅問題のごとき場合には、多數決は恐らくは最もよき方法であります。けれども統一的の決定を必要とせざる問題は多々あります。宗敎は是等のものゝ一つであると認められてゐます。敎育もまた若しも一定の最小限が成就されてゐるとすればそれ等のものゝ一つでなくてはならない。軍役は明らかにその一つでなくてはならない。無政府となることなくして別個の行動が別個の團體によつて行はれうる場合には常にそれは許されなくてはならぬ。かゝる場合に於ては、過去の歷史を考へるものは、如何なる新らしき根本的の問題が起つた時にでも、多數者は偏見と習慣とによつて指導されてゐるために不正であることを知るのであります。進步は、輿論を轉換し且つ習慣を變改することの少數者の徐々の効果から生じます。ある時代――そんなに遠い昔ではない――においては、老婦人が女巫として燒かれてはならないといふ說を支持することは、非常なる惡事であると考へられたのであります。若しもこの意見をもつてゐるものが强制的に抑壓されたものとすれば、われ等は尙ほ依然として中世の迷信に囚はれてゐなくてはならないそれゆゑに、統一が絕對に必要とされない事件について、多數者の意思の適用を制限することは最も重要なることであります。

（四）

前述の危險に對する救濟は、デヴォリユウシヨン（責任移轉）及び聯合政治の一大擴張であります。ウエールスや愛蘭のやうに、民族的自覺のあるところには、それの存する地域は、外部的干涉なしに、凡ての純粹なる地方的事務を自決することが許されなくてはならぬ。けれども地方的の團體の管理にではなくして、職業的團體またはある一派の意見を體現する組織の管理に歸屬させなくてはならない事件も多々あります。東部においては、人々は彼等の宣言する宗敎に從つての別個の法律に服從します。若しも信仰に大なる隔りのあるところに自由の外觀が存在しなくてはならないものであるとすれば、この種のあるものは必要とされます。

ある事件は主として地理的であります。例へば瓦斯や、水や、道路や、關稅や、陸軍や、海軍のごときはこれであります。これ等のものは地域を代表する權威によつて決定

されてなくてはならぬ如何に面積が廣大であるにしても、地理的及び感情的の偶然と、そのうちに包含されてゐる事件の性質とによつて運命を決します。陸軍または海軍は、小地域が戰爭を防ぐことができない以上は、全地球のみが充分なる地域とされるのに對し、瓦斯と水とは狹小なる地域を、道路は稍や廣き地域を要求します。

けれども多くの經濟問題のための適當なる單位は、またさうして個人的意見と密接な關係のある多くの問題においての適當なる單位は、全然地理的のものではない。鐵道の內部的管理は前述の理由によつて國家の掌中にあつてはならない。況んや無責任なる一派の資本家の掌中にあつてはならない。唯一つの民主的體系は、鐵道の內部的事務を鐵道從業員の掌中に歸屬せしめることであります。これ等の從業員が總支配人を選擧し、必要とあれば指揮者の議會をも選擧すべきであります。賃銀や、勞働條件や、汽車の進行や、物資の取得などの諸問題は、鐵道勞働に現に從業してゐる人々に責任を負へる集合體の掌中にのみ歸屬すべきものであります。

同じ議論が他の大規模のトレーヅ(同業)にも適用ができます。礦業や、鐵及び鋼鐵や綿やその他の如きものがこれです。英國の職工組合主義は、勞働と資本とがともに永久の勢力――勞働組織の勢力によつて平等の力にまで到達しなければならない永久の勢力であると欺くことにおいて誤謬であると思はれます。これは私にはあまりに穩和に過ぎるものと思はれます。私が提唱する理想は、政治上におけると同じく、經濟上の領域においても、民主主義の支配と自治政治とさうして資本家の手に委せられたる權力の全廢とであります。國家のうちに勞働するものが國家の支配について發言權があると同じく、鐵道勞働をなすものは鐵道政治についての發言權をもたなくてはならぬ。事業の發案を雇傭者の手中に集中することは一大罪惡であり、その同業の大問題についての、被使用人の利害の適當なる分前を奪ふものであります。

國家社會主義よりも同業自治の制度をもつてよりよき解決策として最初に主張したものはフランスのサンヂカリストであります。けれども彼等の見解に從へば「同業」は殆んど今日の國家のごとく獨立のものでなくてはならない。かゝる體系は今日の國際關係以上には少しも平和を進めるものではない。人々の集合體の事務においては、凡て大體にこれを內政と外政との問題に區別することができます。政治上の一體を構成するに足るだけの明瞭なる凡ての集合體は、內部的の事件については自決的でなくてはならないに

しても、直接に外界に影響する事件についてはさうであつてはならない。若しも二つの集合體が相互に關渉する點について全然自由であるとすれば、危險を防ぎまたは力に訴へることを避ける方法がない。人間の團體の對外的關係は、できうる限り、中立の威力によつて支配されなくてはならぬ。こゝにおいてか別個の同業の間における關係を整調するために國家が必要であります。一定の商品を造くる人々は、勞働時間、その同業の全利益の分配、または事業管理の凡ての問題については自由でなくてはならぬ。けれどもまた彼等はその生産したる荷物の價格については自由であつてはならない。何となれば價格は社會の他の部分に關係するものであるからであります。若しも價格について呼價の自由があつたとすれば、永久に相連る危險――そのうちにおいて、社會の存在に最も直接必要なる同業が常に不當の利益をうけることができる――が存在します。力は、國家間の處置におけると等しく、經濟上の領域においても稱揚すべきことではない。力の最小限においての自由の最大限をうるための一般の原則は、「凡ての政治的に重要なる團體の內部における自治權、さうして團體間に關渉する問題を決定するための中立の威力」といふことであります。中立の威力は素より民主的基礎のうへに立つものでなくてはならないにしても、できるならば當該團體そのものよりももつと廣い選擧區を代表すべきものであります。國際的事務についての唯一の適當なる威力は凡ての文明國民を代表したるものでなくてはならぬ。

かゝる威力の不當なる擴大を防ぐためには、各種の自治圈が相互に各々の自由を羨望し、且つ政治的手段によつてそれ等の獨立の侵害を拒絶するの用意のあることが望ましくもあり、また必要でもあります。國家社會主義は、かゝる團體卽ち各々その團體に責任を負ふべきそれ自身の役人をもつてゐる團體の存在を許容しない。從つて國家社會主義は、その團體の內部の事務を、その團體に責任を負ふことなき、またはそれの要求を特別に注意することなき人々、の支配に委せます。これが專制政治とさうして自發力の破壞とに導きます。是等の危險は人間の凡ての團體が奪略を目的とせざる限り、他の凡ての目的のために結合することを許るし、且つ中央權力からその目的を遂行するうへに必要であるとしてかゝる自治政を要求するの體系によつてのみ避けることができます。各種の分派の教會はこの實例を提供します。彼等の自治權は幾世紀かの戰爭と迫害とによつて贏ちえられたものである。それほどの爭鬪をなさずして經濟上に同一の結果を贏ちうることは望ましきことであります。けれども如何なる困難があらうとも、私は自由の重要は一つの場合において承認されたると等しく他の場合においても偉大なることであると信じます。

民衆教育と米國の圖書館

倉橋藤治郎

□『圖書館、博物館、運動場(ジムナジウム)、僕は日本へ歸つてから此の三つに骨を折つて見たい』之は私が歸る一寸前ブロードウエーを散歩しながらNが私に話した言葉であつた、私も勿論同感であつた。

□人類の文明は或點に於て造物主の豫想以上に發達して居るかも知れない。然しまだ／＼無智である。尠なくとも最近著しく無智であつた、此れ迄時代の推移に智識を有つて居たものを文明史上に求めると第一に畫家の群れである、其新運動である、後期印象派であり未來派であり立體派である。

□吾々自然科學者も隨分永い間 data を蒐めては法則や定義を製造して居たが、其結果が捗々しくないので少し前から餘程根本的に考へ方を換え出して來た、かはり出してから幾年にもならないからまだ自然科學界全體を動かしては居ない、自然科學者の大部分はまだ舊科學の復習者である、然し大勢は搖いて居る、其の搖ぎ方は畫家の新運動と同じプリンシプルである。

□人類を無智より救ふものは教育である、何時の代にでも最大、事な仕事は教育である。

□今日本で最も缺けて居るものは民衆の教育である、大人(おとな)の教育である、子供の校外教育である、大臣、議員、役人、大學教授、資本家、勞働者、軍人等あらゆる職業を通じて教育を必要としないものはないのが今日の有様である。

□此の教育は圖書館、博物館、美術館、音樂會、劇場、運動場等の司る教育である、私は不取敢こゝに圖書館に就て少し述べて見たいと思ふ、殊に過去二年間私の親しんだ米國の圖書館のいゝ所を述べて見度い、有りの儘を述べれば夫れがいゝ所を述べた事になる程米國の圖書館はいゝと思ふ。

□ニューヨーク市共立圖書館は合衆國でも最も完備したものと云はれて居る、第五街に面し西四十一丁目から四十二丁目の間の一ブロックを占める大理石のガッシリした大建築が夫れである。

□私がよく出入したのは第一階の工業圖書館(エンジニアリング・ライブラリー)と特許(パテント)圖書館(ライブラリー)であつたが此外美術、科學、經濟、政府及公的刊行物(パブリック・ドキユーメンツ)、新雜誌等の各專門圖書室と一般閲覧室、盲人圖書室、繪畫陳列室等がある、何の部も大抵大同小異であるから一寸工業圖書館の分に就て申上げる。

□正面大理石の階段を登つてドアを押すと入口廣間の左側に荷物預所がある、外套、傘、不用の手荷物を預ける、

中には新聞の讀み殼を預ける吞氣者もある、私達はよく晝飯に出掛ける時外套を貰つて其代りにノート類や手鞄などを預け、晝飯から歸つて又外套を預けノートを貰つて圖書室へ行く事にして居た、夫れを淡白に「私晝飯(ランチ)に出るから一寸此ノートを預かつて貰ひたい」と賴むと、守衛のおぢはオールライトで快く外套とノートを交換してくれた。

□何の圖書室の入口にも署名帳が一册宛テーブルの上に載つて居る、夫れにすぐ署名する、T. Kurahashi, 536, W. 112 St., New York…… 之で讀者としてのあらゆる權利が生じる譯である。町名や番地は書かない者が多い位である。

□署名が濟めば書籍閲覽の順序であるが、カードで繰出してもよし、又自身書棚から勝手に持出して來ても少しも差支へない、之は私達が圖書館に親しむ第一の原因であつた。册數部數にも制限がない、唯之を元の位置に返さないで其儘机の上に積んでおいてくれと云ふ事が注意されてある、勝手に始末されると書物の配列の狂ふ虞れがあるからである。之も私達の非常に氣持のいゝ注意であつた。

□カードで繰出した時は閲覽用紙に書名、册數、番號、本人住所氏名を書入れて館員に渡すのであるが、用紙は一册一枚宛で其用紙は使用濟の上自分で貰つて持つて歸る事が出來るから、私達は豫め箱の內に積み上げてある用紙を百枚許り貰つておいて重要な參考書類の圖書館用カタログを作つてポケットにもつて居る事にした、必要に應じて圖書館へ行く、ポケットから讀み度い書物の閲覽用紙を引拔いて館員に渡す、館員は書物と共に用紙を返してくれる、用紙は再びポケットに仕舞はれると云ふ順序である、之も私達には此上もない便利であつた。

□書物を讀んで居るうちにいゝ文句の所がある、又雜誌の寫眞圖面などで取つておき度いものがある、此んな場合には圖書館の方で一頁十二仙半から二十五仙で寫眞印刷をしてくれる。此れも私達の樣な職業のものには金錢にかへられない便利であつた。

□讀者の種類は勿論區々(まちまち)である、女がその位の割合になるか判らないが、假に工業圖書館に平均五十人の讀者がありとして、七八人位は女である、工業などでそうだから他の部はズッと多い、工業圖書館には職工も可成り多い、何時か一人の靑年が新聞の切拔を持つて私に相談をかけた事があつた、それは戰場に於る日本製ポケット、ストーブ(懷爐の事)と云ふ題で日本の懷爐を稱揚し、其の供給不足なる事を訴へた記事であつた、靑年は之に興味をもち一工夫する積りで圖書館へ來て私を發見したのである、彼はブルックリンの或工場の職工で工夫が出來たら社長(ボス)に相談す

る積りであると評して居た。

□カタログもいゝ組織になつて居る、大體は種類別とアルファベット別とであるが、便利な事は單行本のみならず、雜誌の主要な……長短に拘はらず內容のある……記事が獨立して分類配列せられてある事である、之に就て私自身に一つの話がある、私は渡米するとすぐ「日本副產物骸炭工業最近の進步に就て」と云ふ一文を化學及冶金雜誌に投書した、之は餘り自信のあるものでなかつたが、やがて紐育公立圖書館工業圖書室のカタログに之が出て來たには少々極りが惡かつた。

□序に此事に就て今一言したい、私は此一文を私の米國旅行に對する紹介文の代りに書いたのであつた、從つて原稿料をくれるものとは豫期しなかつた。所が翌月になると發行所のマグロー、ヒル出版會社から十五弗の小切手を送つて來た、此雜誌は權威のあるいゝ雜誌であつたが、寫眞共一頁半に十五弗くれるとすれば、一頁日本の貨幣(かね)で二十圓である、私達の書く日本の工業に關する雜誌は大抵一頁五十錢である。

□日本と合衆國の生活費がどの位違ふか判然(はつきり)知らない、此頃の樣子では二倍から三倍位の間だらうと思ふ、一升五十錢近い米を食ひながら一頁五十錢の工業雜誌などに原稿を書けないから、私は此れから暇でもあれば外國の雜誌に物を書かうと思ふ、すると叉事大主義な日本の技師が一層熱心に讀んでくれるかも知れない、それとも反感を起して讀まないかも知れない。

□經濟室は新聞の切拔帳を非常に豐富にもつて居た、之も非常な便利である、新聞の切拔の整理に二三人の娘が働いて居た。

□圖書館員(ライブラリアン)に若い女の多い事もいゝ事である、圖書館員(ライブラリアン)が私達と同じで水平線に立つて居る、而已ならず大抵は特別の境界のない閱覽室の一角で仕事して居る事も氣持のいい感じを與へるものである、ライブラリアンが多いから勉强の相手にもなつてくれ二三分の話相手にもなつてくれるやがて少し顏馴染になれば其娘達が出會頭に『お早う、如何ですか』と挨拶しながらヤンキーの娘に得意な快活な身振りで迎へてくれる樣にもならう。

□田丸と云ふ理學博士がある、日本の科學界の新運動の先頭に立つ化學者の一人であるが、此人などは終ひに此圖書館の特許圖書室を自分の事務所並(なみ)にして終つた、下町から特許圖書室へ電話をかけて「ドクター、タマルが居ますか」と尋ねると館員の娘が早速田丸さんを呼んでくれると云ふ仕掛である、此田丸さんはローマ字の方ではない、弟の方である。

□公立圖書館もいゝが私達が一層悃んだのは西三十九丁

目の聯合技術協會館の十三階にある技術協會圖書館であつた、夏の晝などハドソン河から吹き通す風を向ける時は暑氣知らずに日中を暮す事が出來た、私などは眞夏になるとよく仕事をもつて此處へ通つた事があつた。

□此處は公開と云ひ條、餘り一般的でない爲め讀者がいつも十五六人を超えない、之に對して圖書館員が十人餘りも居るだらう、彼等は男も女も大抵大學を出て相當の敎養と領解をもつて居る、又わざとらしくなく親切である。

□此處は公立圖書館より尙ほ自由である、特に雜誌が多數に且つ古くから蒐められて居る事が非常な便利であつた日本の雜誌も十種類位はあつた、勿論自由に持つて來ていいのである、

□一般の閱覽用テーブルの外に各書棚の横に小さい机と椅子が二脚宛おいてあるのも非常な便利であつた。

□此處でもカードはよく出來て居るが、尙ほ無精者や不案內な者はライブラリアンに私は何々の問題を調べたいと云へば其娘達が早速オールライトで英、米、佛、獨等各國で出版された其問題に關する書籍、雜誌、報告等を自分の部迄運んで來てくれる、之も面倒だと思へば規定の料金を拂へば圖書館員が代つて調査をしてくれる方法もある。——

□オペラの時間を待合せる爲に此圖書館に腰を卸して居た夕があつた、私の手にはオペラ役者の寫眞があつた、ファラー、アルダ、三浦、ガァリー、パヴロヴァなどであつたと記憶する、夫れはミシユキンが撮つたのをわけて貰つたのであつた、ロシア生れの圖書館員の娘は、故國から來た世界的に名高い踊子のパヴロヴァの自慢を始め出した、私は何でも其の娘にギリシア、ダンスの話をしたと思ふ、人間美は裸體に在りとし道德の許す範圍に於て裸體に近い扮裝で踊るギリシア、ダンスにのみ見る眞の人間らしい表情に就て話したと思ふ、時間が迫つて私は匆惶エレベーターで街へ下つて行つた、圖書館員が此んな餘裕と自由とをもつて居るのは館員の爲にも讀者の爲にもいゝ事である。

□ワシントンの議會圖書館もいゝ圖書館である政治、法律、經濟、社會、勞働、農業等に關しては米國第一である、建物の裝飾は非常な金ピカ物であるが、內部は極めて自由で、書庫の中もパスを貰へば容易に出入される、パスは事務所ですぐくれる、私も一週間通つた事がある、萬事が署名一つで事足りる。

□此處の支那圖書室の如きは前清皇室の寄贈書籍を始め非常に貴重なものが夥しい。

□特許圖書館も工業家には非常にいゝ、私はワシントンへ行く度に此處で時間の半ばを費した、此圖書館の事は此頃の『發明』(帝國發明協會發行)と云ふ雜誌に詳しく書いておいた。

□昨日の夕刊には日本圖書館協會の大會で德川賴倫氏が演説をして居る寫眞が載つて居た。私は德川さんを始め、日本の圖書館に關係のある諸君に、日本の圖書館の何處にいゝ所があるか[illegible]、又裁判所と圖書館の空氣とに何處に[illegible]みがあるかを聞き度い、があるかを聞き度い。

□生活の疲勞に困憊せる見るから不快な容貌で讀書人を白眼する館員、傲然として所謂慈善を施す積りか何か本を受渡する館員以下小僧、下足番等の雇人から閲覽手續から何から何迄、人間を不愉快ならしめねばおかない空氣の裡で、あなた方が本を讀む氣が出るかどうかを問ひ度い。

□だから日本の圖書館は辯護士、醫者、藥劑師の試驗を受ける書生と、小說や雜書を讀みに行く者と、化學工業の本を讀んでうまい金儲けをし度い男との巢になるのである。

□日本の何處に物を少し突込んで調べ得る圖書館があるか、假に書物があつても此を自由に調べ得る圖書館があるか何處に氣持よく勉强の出來る圖書館があるか、私達は日本の圖書館に就て、其の設備と館員とから得るものは、唯不快と反感と時間の空費である。

□德川さんが何と演說し樣と『高き家にのぼりて見れば煙立つ』的な領解よりもつて居ない圖書館關係者の云ふ事に何の權威もない、一體あなた方は自分で圖書館の讀者になる事があるかどうか、時々は木綿の着物でも着て何處の圖書館へでも這入つて乞食扱ひや盜賊扱ひされて見るがいゝだらう。

□之は公開された圖書館であるが、學校內の圖書館も大同小異である。

□せめて一つ位は、氣持よくはいつて氣持ちよく出られる圖書館を欲しい、其處で大臣も勞働者も軍人も資本家も技師も愉快に勉强させ度い、もう小手利きの時は去つた、勉强家の時代が來た、頭のいゝ人間でも勉强しない者はだめになつて來た。（四月十二日）

「社會主義と民主主義」發行について

批評社では今回いよ〳〵「民主主義叢書」の出版にとりかゝることとなり、その第一編として、每號本誌に長篇の論文を寄せらるゝ室伏高信氏の新著「社會主義と民主主義」を發行することになりました。第一版は五月十日に發行されます。內容は「社會主義と民主主義」、「社會主義の煩悶」、「過激主義と民主主義」リンコーンの民主主義」、「民主主義の諸象」、「デモクラシーの新理想」、「軍國主義の社會戰」等みな著者苦心の作から成つてゐます。（定價八十五錢送料四錢）

◇社會主義民主主義勞働組合主義

▲「北米評論」といふ雜誌は正札付きの共和黨の機關雜誌であります。その三月號に、主筆のヂョーヂ・ハアヴェイ君が書いてゐるところは素敵に面白い。

▲「社會主義かアメリカ主義か」――興味多い標題は何を示してゐると思ひますか。ウキルソン――社會主義。共和黨――アメリカ主義。彼れの結論は極めて無造作であります。日本の反動派が、民主主義者を非國民だとして排斥するやうにヂョウヂ・ハウヴェイはウキルソン大統領の政策と權力とを排斥するために、彼れは社會主義者だと申してゐます。

▲ある意味からいへば、ウキルソンは慥に社會主義者であります。彼れの國際主義は獨逸のエーベルトやシャイデマンなぞに比べると遙に徹底したものでもあるし、彼れのデモクラシーは、古るい意味でのポリチカル・デモクラシーではなくして可成りに深くソーシアルの領域に突入してゐます。

▲だから「北米評論」がウキルソンの政策を批評して社會主義の政策であると論ずることは、黨派的偏見を抜きにして、味ひ深い議論だと思ひます。尠くとも彼れの立場は勞働階級のうへに立つてゐます。それにもかかはらず、福田博士がウキルソンをもつて矢張りブルジョアの政治家であると見て居られることは、博士としてはあまり不公平な議論ではなからうか。

▲ウキルソンと并んで興味の多いのはゴムパアスであります。米國勞働組合聯合會の會長サミユエル・ゴムパアスは米國切つての勞働者の一大指導者。三百萬の組合員は彼れの卓越せる指導に服してゐること既に久しいことであります。

▲そのゴムパアスはまた大の社會主義嫌ひ――彼れの二大敵國は資本家と社會主義者であるといはれてゐる位です。

▲昨年、ロンドンで聯合國社會主義者と勞働組合代表者の大會が開かれたことがあります。ゴムパアスも素よりこの大會に出席する筈であつたところ、どうしてもゴムパアスの顔が見えない。大會の方では大に心配してゴムパアスのところへ使ひを出して見たところがゴムパアスの曰く「わしは案內狀を受取つてゐない。」

▲そんな筈はないと折り返して尋ねて見るゴムパアスは濟しきつたものだ『何か案內狀が來ることはきた。だがそれには「聯合國(インタアリード)社會黨會議(ソシアリストコムフアレンス)」と書いてある……わしは社會主義者では御座らぬ』

▲使ひが歸るヘンダアソンが手落ちであつたといつていくら謝罪しても、頑として應じなかつたのがゴムパアス。『わしは社會主義といふ字を見るだけでも氣持ちが惡るい

▲彼がロンドンから米國に歸つて演說したところによると、相變らずの社會主義攻擊『アメリカ勞働組合ほど勞働者の地位と利益とを進めるために有効に働いたものが何處の國にあるか』

▲かういふわけで勞働者の指導者としてのゴムパアスは社會主義が嫌ひ、政治運動が嫌ひ。だが併しアメリカの勞働組合も、シカゴを中心として勞働黨の組織の機運が次第に熟しつゝあります。ゴムパアスはこの政治的要求の機運をどうするつもりであるか。何れにしてもアメリカにおける勞働運動の前途は餘程興味の深いものだと思ひます。（K）

過激主義とは何んぞや

K生

一、起原に就て

□過激主義を代表してゐるものは、今日においてはボルシエヴヰズムであります。そのボルシエヴヰズムのことについて、三月號のアメリカ勞働組合聯合會の機關雜誌 American Federationistに可成り興味のある記事が載つてゐます。

□ボルシエウヰキが一九〇三年の社會民主黨會議から生れたもの――社會民主黨が多數派と少數派とに分れて、この多數派をボルシエヴヰキと稱するものであることは、何人も知つてゐるところと思ひます。

□少數派 Menshiviki と多數派 Bolsheviki との相違は、その初めは單に黨派の作戰上の意見の相違であるに過ぎなかつたのであるが、ボルシエヴヰキの方はだん〳〵と過激となり、遂に極端まで行かなければならないもの卽ち whole hogger となることになりました。

□少數派の指導者はプレファノフ、彼れは議會へも入つて、ブルジョアの議員連の間に交遊することをも避けなかつたものであるに對し、多數派の首領レーニンは斷乎としてこれを避けました。

□プレファノフは貴族です。レーニンは猶太人です。それからトロツキーは初めは小數派にも多數派にも關係がなくその中間にあつて兩派の調停に盡力してゐたものです。

二、勢力をえた理由

□過激派は何處にロシアにおいて勢力を得たか。『平和とパンと土地とを與へたからである。』ロシアの人民は何よりも先きに戰爭に慊き、パンに飢ゑてゐました。彼等らが土地をえようとすることは、その傳統的の志であります。革命といふ聲は、ロシアの農民にとつては土地の分配をうける問題であると考へられてゐたとも言はれてゐる位ゐです。

□ところがミリユウコフの政府は土地をくれない。平和を與へない、パンを與へない。人民は素より滿足するとができなかつた。ケレンスキーの內閣もまた大體ミリユウコフの內閣と同樣の態度に出でた。それゆゑにロシアの農民達から見ると、革命といふことは何の役にもたゝない。革命師に欺かれたといふ感じをもつやうになる。

□この機會に猛然として頭を擡げてきたものはニコラス、レーニンであります。レオン・トロツキーは急遽ロシアに歸つてきました。『土地とパンと平和』――ボルシエヴヰキの三大政策は、何ものよりもロシアの民衆には適するものとして迎へられるに至つたのです。さうして勞兵會全露社會主義聯合共和國といふ恐ろしい長い名のロシア國ができあがつたのです。

□それが一九一七年十一月であるから、過激派の治世は既に一ヶ年半になります。その間に聯合國からいろ〳〵の壓迫が試みられたが少しも動搖しないことだけは事實であり從つてそれがロシアの人民には適したものとして受取られてゐることもこれを事實として認めなくてはならぬ――夫程ロシアの人民の多數が愚昧だともいふとができませう。

三、その憲法

□過激派はともかくも土地とパンと平和とを與へるとには成功したと言はなくてはならない。彼等はその執政の初めの憲法會議では見事に失敗したがそんな會議なぞは、過激派にとつてはたゞブルジョアの機關であるに過ぎない。忽ちそれを一蹴してしまつたのです。彼等の新政治はこれから始まります。

□先づ興味の多いのが彼等の憲法です。彼等の憲法によれば、ロシア共和國は『全ロシア勞働者の自由、社會主義的社會』と稱せられてゐます。卽ち全人民のロシアではなくて勞働者のロシア、勞働者のみのロシア共和國であります。この點が新憲法の基礎であります。

□その憲法に從へば、ロシアの政治を分擔する權利――選擧權をもつてゐるものは、勞働者、工業、商業、農業其他に從事する被使用人、地代のためにする賃銀勞働の契約をさなざる農民、並に陸海軍の兵卒だけに制限されてゐます。だから縱令一人たりとも人を雇入れて農業をする農民――小さき『ブルジョア』は選擧權をもつてゐないことゝなります。農民に限らない。苟くも他人を雇入れて仕事をするものは選擧權をもつことはできない。資本や企業や、財産の利益によつて生活するものは無論除外されます。

□けれどもこれ等のものを除外するものは、たゞ今日においてのみとされます。過激派の理想が實行される場合には一切の寄生蟲がなくなる。凡ての人民は自己の額の汗によつて生活する。然り、勞働が强制される。軍事的强制卽ち徵兵の代りに一般的勞働强制が行はれる。

□凡ての土地は國有と宣言されます無償で土地は勞働者の自由に、且つ平等に使用するものとされます。鑛山も鐵道

も農業機關もみな國有とされます。過激派の憲法にさう宣言されてゐるのです。
口從つてまた教師や、教授や、商人や、銀行家や、製造業者や、使用人などといふ『寄生蟲』は一切消滅するわけである——『新らしいオートクラシーだ』と American Federationist のうちに書かれてゐます。

國家社會主義運動

『一』

一九一六年、米國に於て或るデモ學者が、戰後頻りに必ず大いに國家社會主義の起るべき事を說述した書册が顯はれたが、事實は米國に顯はれずして、反て日本に於ける社會主義者の分裂の中に早くも此傾向を見る事が出來る。而して日本の國家社會主義者の中に見られる特徵は、自らを Socialism と呼ばずに、National Soci alism と呼んでゐる事である。 National といふ言葉の背後には皇室に對する尊崇の心が見える。反逆的氣分よりも寧ろ愛國的氣分の充ち溢れてゐるのを思はせる。——國體論より來る襲擊に對應せんとするの準備は、尠くとも、其左右に轉ずべきロヂックの許す範圍内に於て到れり盡せりである。

『二』

社會主義が其理論の世界から實行の世界へ移らうとする時、其處には多くの讓步と妥協とが生ずる。然し、此の讓步、此妥協を以て墮落であるといふ論理は成立しない。

ファアディナンド、ラサールは國家と皇室を武器とする事に依て社會主義運動の基礎を築いた。——苟くも如實の實際運動として顯現する時、社會主義の政治運動に顯はれる形式は盡く國家社會主義である。見よ、ボルシヒヴイキの施設すら、極端なる Internationalism を標榜して、而も猶、其實行手段としては、國家に便て、政權獲得をするより他に方途は無かつたではないか。

日本の國家社會主義者は、其立場を決定するに當て、經濟上にはマルクス主義を應用し、政治上には、社會改良主義の精神を以て行かんといふ事を明言した。——此意味に於て日本の Notionol Sacialiot の爲す所は言ふ迄も無く一つの方便である。

此處に於てか、問題は、その方便が、何處迄徹底し得るかといふ一事に屬しなければならぬ。唯彼等が何處迄其哲理と共に進み、何處迄方便に依て左右さるゝかといふ一點

に就てのみ彼等に對する價値批判が爲されるであらう。

『三』

日本に於て、國家社會主義に對する體系的理論を最初に發表したものは、尠くとも私の知れる範圍に於ては山路愛山氏である。其山路愛山氏に從ふ時は、國家社會主義者は國家が其最高の使命たる共同生活の實を擧げんがためには便宜の爲め人民に與へたる權利を回收して、自己のものと爲し得るといふ事を唯一の信條とする。かくて日本に於ける國家社會主義の基礎的理論は大體に於て山路愛山氏に依て形成されたものと言つても差支無い。

ベルンスタインは、マルクスを抛つは社會主義を抛つ事に非ずと言つた。然し乍ら國家社會主義の理論的基礎に於てマルクス説を放棄する事は絶對に不可能である。

『四』

カール、カウツキーは言つた。『マルクスの造就した學理を征服せんと欲せば、マルクスの造就したる實際方面の勝利を期するの外は無い。凡そ如何なる學者も、學者としてのマルクスに打ち克つ事は出來ぬ。學者としてのマルクスに打勝つ者は唯實際家としてのマルクスあるのみである。』

斯の如くして國家社會主義者は、實際家としてのマルクスに到達せんとする努力を空しうしては何等の意義を有せざるものである。一國家社會主義者は言ふ。『吾々は所謂マルクス派社會主義者に對して、多大の尊敬を惜む者では無い彼等も亦國家により社會主義を實行せんとする意味に於て國家社會主義者である。』更に言ふ『吾々の目的は、國家をして國家の自衛上、資本主義の廢止、國營主義の實現を斷行せしむるに在る。而して、其手段は言論文章に依る輿論の覺醒と、立法部に於ける一般民意の發動とである。勿論吾々は國民の總てが吾々の主張に贊成する者とは思はない。若し不幸にして吾々の主張の贊成者が、國民中の多數者たる無産階級に獨占され、吾々の主張の反對者が國民中の少數者たる有産階級に集中するといふ狀態に立ち到るならば、吾々の運動は勢ひ階級鬪爭の色彩を帶びて來る。』と。此一語は國體論から來る襲撃と、マルクス主義者から起る批難に對する安全瓣である。然らば此安全瓣が日本現在の政府者に對して如何なる程度迄應用出來る乎。――吾等の興味は總て此の一點に存する。

若し此所説が猶危險として容認されずとすれば日本は或はソーシアリズムの國と成り得るも、畢竟ナショナル、ソーシアリズムの國とは成り得ないであらう。（△△△）

レビュー オブ レビュース

デモクラシーの迷惑

＝大學教授的識見の一實例＝

一

太陽の四月號は、早大教授帆足理一郎君の『デモクラシーの意義』なる論文を掲げた、此一文はデモクラシーに對する曲解淺解の最も大膽なる表現である。吾人は斯の如き意見、並びに解釋の存在に對しては、何等の意義を認めない者であるが、僅に曲解されたるデモクラシーの一實例として、其迷惑の爲めに聊か辯じ度いと思ふ。

二

帆足君は民衆政治を難じて曰はく、『デモクラシーは愚民政治では無い、多數政治では無い。それは多智政治である。多賢政治である。カアライル曰はく、歴史は英雄の傳記であると。』又曰はく、『賢明なる指導者に自發的に服從する事が民本主義である』と。帆足君は以上の見地から普通選擧を批難し（一三八頁上段）天才主義を高潮してゐる。而して、續いて聲朗かに叫んで曰はく、『プラトーは Philosopher King を其共和國の理想とした。希くば賢者をして吾等の指導者たらしめよ。而して吾等は聖賢の指導に從て吾等が日常の生活を改善し行かん。――されば普通選擧や多數決の如きは、民本主義の要件では無い。』と。然し乍ら、プラトーのデモクラシーに對する批難は彼の政治哲學の根本問題では無い。彼の哲人政治を以て直ちにデモクラシー其自身の批難であると解するものがあるならば、彼は徒らに政治學に對する無智と無言とを表明するに過ぎないであらう。

デモクラシーに對するプラトーの批難が主義としてに非ずして、單に實行上の問題に過ぎなかつた事は既に明瞭過ぎるほどに明瞭な事實ではないか。（此事に就ては稿を改めて述べる機會があらう。）――帆足君に依て解釋せられ、而して帆足君に依て利用せられたるプラトーは、プラトー自身としても甚だ迷惑であらう。

三

帆足君に依て決定せられたるデモクラシーの意義は要するに哲人政治である。善政主義である。帆足君は賢者の指導を要求するが、然らば其賢者は何人が如何なる方法によつて決定するのであるか。尠くとも帆足君をして政治學者であるといふ事を決定するものは帆足君の知識を判定する民衆の頭腦であるのか、若しくは帆足君自身の判斷力であるのか。そもそも帆足君は何の必要あつてかくの如き哲人政治の上にデモクラシーといふ衣を被せるのか。

四

帆足君は階級鬪爭を難じて言ふ、『資本家の暴戾に對して、勞働者が同盟罷工の如き暴力による解決手段を執るが如きは兩者の主張を理智の力に依て調和するものに非るが故に劣敗者は常に優勝者の暴力に外的に服從するものに過ぎぬ』と。――かくて帆足君は人性の心靈的改革によつて哲人によつて導かるゝ理想社會を實現せん事を要求する。――お目出度き理想主義者よ。帆足君の耳には萬人の胸に響く、人民の支配の聲が聞えないのか。何れにせよ、デモクラシーの在所は帆足君の足跡の及ばざる所である。誤られたるデモクラシーは帆足君の放言に對して恐らく苦笑するであらう。

（S O,

編輯室と校正室

□この頃の日本は何ごとも逆さになつてきた。例へば政治家とは知識のあるもの――プラトーは哲學者であれといつた位ゐのものであつたのに、この頃は豆腐屋の親父が大臣になり、高利貸の息子が總務になる世の中である。

□さういふ世の中だから、老人が危險思想をもつてゐるのと反對に若い連中が保守思想をもつのも當り前だといへばそれまでだが、それにしてもこの頃の憲政會の有樣はどうだ。尾崎愕堂はこれから洋行して勞働黨を組織し日本に於ける新運動の急先鋒とならうといふ意氣込みだのに、弟子の望小太がそれでは先生あまり過激すぎるといつて諫めるし、島田三郎、箕浦勝人、河野廣中の諸老が急進的普通選擧論を主張し、就中島田沼南のごときは、憲政會內の現狀の保守的なのに愛想をつかしてとんと本部へ顏出しもしないといふのに對して、若い連中が普通選擧は未だ早いと論する有樣である。

□イヤハヤ憲政會の若い連中ときたら加藤の御機嫌加藤といふよりは岩崎大明神の御機嫌をとることばかり考へて皆な氣が腐さりきつてゐるのだ。

□あの連中が政府の外交を攻撃してゐるのが、加藤の御機嫌とりのためかどうかは別とするが、兎も角、國際的民主主義――新日本のために活動すべき彼等が、軍閥の手先とでもいひさうな議論で騷ぎ廻つてゐるのを見ると氣の毒でたまらない。

□これといふのも若い議員達に學問のない結果だ。今の若い議員連はルソウの民約論さへ讀んでゐるものがないといふ有樣である。――獨り憲政會ばかりではない。政友會だつて同じことだ國民黨は論外だ。

□吉野作造博士が中央公論四月號で發表した『余の選擧論の批評に就て』の一文は『批評』の創刊號に載せられた室伏高信「吉野博士の誤謬を指摘して普通選擧の主義を論ず」に對して書かれたものだ。その內容については議論の餘地があるとして、兎も角一々答辯することの態度は見上げたものだ。

□色々の新雜誌が出る。この二、三ヶ月のうちに七、八つの新雜誌が出た。結構なことだ。新らしい新聞も大阪で一つ、東京で一つ可成り大規模のものが出るものだ。どちらも可成り計畫が熟し、近く發表されるとのことである。

□よるとさはると出るのが日本の講和委員の無能についての評定だ。併しある人が悟り顏で言つた――日本でも演說したことのない先生達が外國で喋舌れるわけがなからうと。

遠吠録

秋　花

□巴里の講和會議で支那の委員ウヱリントン、クウの氣焰には、流石に我が老委員連も大刀打が出來なかつたのであらう。何となればクウの主張には哲學がある我が委員の主張には哲學がない。言ひ換ふれば支那側の主張は正義の觀念に立脚し、我が主張の基礎は利益問題の外に何物をも見出されぬからである。私は白狀するクウの態度や主張は全く小癪に觸はる。併し冷靜に之を判斷して、其主張には道理ありとの答辯を與へねばならぬといふ雅量は、私は人間として持たなければならぬと思ふ。

□支那に對する列國殊に我が國の態度には從來幾多の非難があつたことは事實である。殊に大隈內閣當時に於ける所謂二十一ヶ條の要求の如きは、疑もなく火事場泥棒の態度と言はねばならぬ。私は從來の我が對支政策は常に日支親善を標榜し乍らも、其實日支不親善の實を擧げつゝあつたといふことを斷言するに躊躇しない。支那といふ大共和國の存在は厳乎たるの事實である、已に支那といふ國の存在が認めらるゝ以上、其名譽も亦認めねばならぬ。

□一の國が弱い國だといふことは他の國が之を侵略していゝといふ事であつてはならぬ。正義人道といふことは何時の世如何なる時代にも適用せらるべき金言である。日本は果して事實の上に於て支那に對して正義人道主義を取つたか。支那に於ける南北を通ずる排日思想は何故に發生したるか。日本人の頭には、誤れる傳統に囚はれたる侵略慾はあらう。正義の觀念に依つて弱き國と交際するといふ事は遺却し居つたといふことを吾々は白狀せねばなるまい。神后皇后の三韓征伐、豊大閤の朝鮮征伐、時宗の明使殺害と云ふ從來の涉外の事件はいつでも戰爭を意味して居るではないか。此等の思想に囚はれたる日本人が、日支親善といふ羊頭を揭げて、二十一ヶ條の要求といふ狗肉を賣るといふ事は、誤れる傳統に囚はれたる日本人のやりさうな事である成る程日本の富や力が支那の夫等に比べて優秀であるといふことは事實であらう。然れば何故日本は支那を眞面目に誠意を以て善導しないか。斯して日支親善の實が擧り日支經濟の連結が出來ねばならぬ。誤れる日本の傳統、恐るべき日本の侵略慾は遂に對支政策の根本に禍をなしたのである。かるがゆゑに支那問題を誤るものは歐米でもなく、支那自身でもなく、日本人の誤れる傳統思想であると云はなければならぬ。

□次に朝鮮問題は如何であるか、それには重大な缺陷はないか成る程朝鮮は自立の能力を缺いて居つたかも知れない、自存の途を知らない近隣の弱國があるなれば、日本は何故に之を保護し誘掖し、補導しないか。之れ人道ではないか。正義ではないか。日本の朝鮮政策は不自然の同化政策であつてはならない。正義と人道の立場か來らなくてはならぬ。

クララ・ツエトキンとロウザ・ルクセンブルヒ

（一）

クララ・ツエトキンとロウザ・ルクセンブルヒとは獨逸の社會運動を彩るべき二つの明星であります。彼れ等はともに獨逸社會民主黨に屬してゐました。マルクス派正統社會主義者であります。

世界大戰の影響は、獨逸の社會民主黨を三つに分割しました。社會民主黨、獨立社會黨、スパルタカスの三つがこれであります。今日の社會民主黨は、エーヴエルト、シヤイデマン、デヴオツト等の指導のもとに、ブルジヨア黨と妥協して、獨逸の政權を掌握するの地位に立つてゐます。けれども今日まで獨逸の社會民主黨に重きをなし、特に世界的名聲をもつてゐた人々は、多くは社會民主黨から脱退してゐます。ハーゼ、ザツトマン、リーブクネヒト、カウツキー、ベルンスタイン、さうしてクララ・ツエトキン、ロウザ・ルクセンブルヒ等はみなこれであります。

（二）

ロウザ・ルクセンブルヒは左翼中の左翼であります。彼の地位は女のカール・リーブクネヒトであると申ますことができます。實際に彼れの政治的才能は、リーブクネヒトよりも優つてゐたものであるとされます。あの勇猛なリーブクネヒトも、彼女の前には温順な子供のやうなものであつたとは、デーリー・クロニクルの伯林通信のうちに記されてゐたことを記憶します。彼女の指導力は、實に天才酌の卓越性をもつてゐたものである。

スパルタカスの中心は、リーブクネヒトではなくしてロウザ・ルクセンブルヒであると申されてゐます。彼女を失つたスパルタカス團は、指導者のなき團體となつたものとされてゐます。彼女の指導力は、それほどに魅力をもつてゐたのであります。

（三）

ロウザ・ルクセンブルヒが「女のリーブクネヒト」であるとすれば、クララ・ツエトキンは「女のカウツキー」であると申すことができます。卽ちロウザが實際政治の卓越せる才能の所有者であるに對し、クララは理論的批評的才能の卓越せる天與（ギ）の所有者であると申すことができます。

一八八九年は、國際社會黨の再興された年として紀念されます。その會合への獨逸からの代表者のうちには、ウヰルヘルム・リーブクネヒト、オーギユト・ベーベルのやうな歷史的人物が發見されます。さうしてわがクララ・ツエトキン女史の名も發見されます。しかく彼女は早くから世界的に名をなしてゐます。

彼女は Die Gleichheit の主筆でありました。その彼女の主宰する新聞紙は十萬七千の發行部數をもつてゐます。けれども社會民主黨の多數派と意見を異にした時に、彼女グライヒハイトから退きました。さうして正當社會主義のために戰を續けてゐます。（Claraの父）

社會運動の人々 (A)

『一』

若しその言葉の意義にのみ拘泥するならば、純正なる社會運動の起源が何處に在つたかといふ事は吾々の到底知る能はざる所である。

尠くとも吾々は社會運動が、其自體、社會運動としての體裁と內容とを備へ來つたのは佛蘭西革命以後に屬すると信じてゐる。

然し、佛蘭西革命がその本質に於て明に失敗の革命であつた事は言ふまでもない。革命後の事物の新らしい秩序は、之を革命以前と比較する時は、より以上に合理的であつたけれども、その發展の結果は、決して絕對に合理的なものではなかつた。

それは、エンゲルスが其不朽の名篇、Socialism; Utopian And Scientific.（空想的、及び科學的社會主義）の中に書いてゐる事に依て明である。彼は言ふ。『ブルヂョアは自ら其政治的能力を信ずる事能はずして、第一に dire-ctorate の腐敗の中に隠れ、最後には遂にナポレオンの專制政治の羽翼の下に隠れた。斯くの如にして、期待せられたる永恒の平和は、忽ち變じて、限り無き、勝利の戰爭と化した。而して、道理の王國は毫も實現せらるゝ事無く、從來まで封建制度の桎梏に繫がれた。『財産の自由は今や全く完成された。而して此財産の自由も、小資本家、並びに小地主にとつては『財産を得るの自由』にあらずして、財産を失ふの自由であつた。』と。

彼は更に說いて曰はく、

『今や、カーライルの言の如く、現金支拂が人と人との間の唯一の連鎖となつた。――犯罪は年次を經るに從て增加して來る。商業は日を追ひ月を追ふて愈ゝ詐欺の淵に沈み、革命の標榜語 "Fraternity" は競爭の戰場に於ける詭計の中に實現せられた。斯くて、武斷的壓制に代るものは『腐敗』となり、劍に代るものは黃金となつた。第一夜の權利は、徒らに封建諸侯の手から紳士閥の手に移つたといふ事實を止め、賣淫は驚ろくべき增加を來した。』と。

けれども、吾等をして言はしむれば、佛蘭西革命が、革命以前に於ける學者の空想的革命思想に裏書する所無くして、反てエンゲルスの所謂『苦き失望の諷刺書』となつたところに眞實の理想に到達すべき道路の坦々として橫はつて

ゐる事を看取するに難くないと思ふ。而して、此失望に反撥し、此失望を基點としたる運動こそ、眞實の意味に於ける勞働運動であり、社會運動である。若し強ひて、佛蘭西革命の意義を問ふものあらば、吾人は言下に『勞働運動の產婆』と答ふるであらう。——此意味に於て吾人は一八〇二年ゼネバ公開狀に其抱負と識見とを托したサン●シモン、一八〇八年、その最初の著述を公にしたる、フーリエー、並びに、一八〇〇年、New Lanark に於ける工場の管理者となつた ロバート●オーエン、是等の人々、及び是等の人々を取卷いて動いた人々を以て、眞實なる社會運動の先驅的人物と爲す事を至當とする。

『二』

佛蘭西社會主義の元祖と言ふべき、サン●シモン、は一九六〇年に於て巴里に生れた。彼は當時に於ける著名なる貴族の後裔であつた。

彼の幼少年時代を通じて其の最も顯著なる特徴と言ふべきは、常に熱烈なる『企業心』を有してゐた事である。彼が每朝、彼の侍僕に命じて『記憶せよ、我が主人よ、貴方は將來大事業を成就すべき人ではないか。』と呼んで眼を醒まさしめたといふ事を以てするも、彼の性行の一部を知る事が出來るではないか。

彼は佛蘭西革命に對しては決して直接的なる關係を持つてはゐなかつた。然し間接的なる意味に於て、彼が甚だ深い關係を有てゐた事は言ふまでもない。

彼はその生より、その死に到るまで、常に赤貧洗ふが如き境遇を彷徨した。或時は窮餘の結果、自殺を企てた事すらある事を以て見るも、彼の當時を察知するに難くないであらう。

カーカップの言ふ所に從へば、——『サン●シモンは思想家にして、其所說の組織、統一、秩序等の點に於て甚だ缺くる所がある。然し乍ら、彼の思索の結果は獨創的であつた。

彼の社會改造の理想に到ては一層單純極まるものであつた、彼の所論は、佛蘭西革命より論じて、當時、佛蘭西に存在したる封建制度、並びに軍隊組織に及んだものであつて、單純なる革命時代の破壞的自由主義に反對して、新らしく、積極的に社會を組織する事の必要を說いたものである。——故に強ひて言ふならば、之を革命主義者と言はんよりも、寧ろ或意味の保守主義者である。

彼は其生存中に於て、必ずしも多數の學徒を得る事は出來なかつたけれど、極めて少數の信仰者と、後繼者とを得

る事は出來た。

其間に在てバザールは特に彼の學徒中最も注意すべき人であつた。彼は一八二八年に巴里に於て、自ら街頭に立て、『サン・シモンの信仰の解說』と題する長演說を試みた。其後暫く、彼の學說のプロパガンダがあらゆる形式に於て行はれた。

サン・シモンの唱導したる社會主義の長所と缺點とは今此處に詳しき說明を要する事無くして明である。サン・シモンの學說、並びに其學徒の運動が徒らに多くの佛蘭西に於ける革命青年を集めて置きながら、社會の嘲笑と侮辱の中に葬られた理由は主として彼等の思想が餘りに、空想的であり、而して彼等の運動が等しく、あまりに無分別であつた事に歸因する。然し乍ら、何れとするも、歐洲に於て表面に顯はれたる社會主義運動の鼻祖たるの榮冠が彼の頭上に光り輝くべき事は言を俟つまでもない。

『三』

エンゲルスは、サン・シモンとフーリエーと、ロバート・オーエンを以て三大空想家と爲した。而してサン・シモンに在ては勞働階級運動と相並んで、中等階級の運動が猶幾分の意義を有し、オーエンに在ては、資本家的生產の最も發達したる英國に生れ、從て之に隨ひ來る階級的反目の影響を受けたので、階級的差別の根本的廢棄を提唱し、其學說は、佛蘭西の唯物論と甚だ密接なる關係を有してゐた。

然し乍ら、彼等を共通したる思想は、彼等の總てが、歷史發達の結果として、當時既に生じてゐた、プロレタリアートの利害、權務の代表者として顯はれたのでないといふ一事であつた。

彼等は恰も革命以前に於て恐るべき妄想の中を彷徨しゐたる多くの佛蘭西の哲學者と其軌を一にして、其第一着手として、特殊階級の解放を要求せずして、一擧直ちに全人類を救ひ得るものと爲し、且之を救はんとして、道理の王國を主張した。素より其所論の內容が、佛蘭西革命以前に於ける哲學者と比べて甚だ進んだものであつた事は云ふまでもない。

フーリエーの社會主義は又サン・シモンの所說と全然異てゐる。前者は、後者が、權力主義に依て其理想を實現せんとするに際し、個人的に其理想を實現せんとしてゐる。

而して、前者に於ては國家が其出發點たるに對し、後者に在てはコンミユーン(自治體)を出發點とした。而して此三者の間に在つて最も先きに其聲を顯はしたものはフーリエーであつた。

『四』

フーリエーは一七七二年にブサンソンに生れた。彼は其少年時代に於て既に現代社會の缺陷に對して非常な疑惑を持てゐた。

彼が廿七歳の時に、恰も、マルセイユ港に於て、當時饑饉の爲め米價が非常に暴騰し更に奸商等の商略として此高價の米が多量に海底に沈められたのを見て非常に驚き、現時の商業に對して非常な疑惑を持つと共に、現存社會制度の間に含まれたる罪惡の如何に恐るべきかといふ事を痛感した。

而して、此社會の缺陷を匡正して新らしき制度と組織とを造就しなければならぬといふ決心を抱かしめたものは實に此一事實であつたのである。

然し乍ら、彼の事業は事毎に失敗し蹉跌した。――フーリエーが多少社會的に注意されて、漸く成功の一歩を占め得たのは實にサン・シモンの運動が開始された後の事に屬する。

最初殆んど顧る者すらなかつた彼の運動に對しても、軈て熱心なる同志が顯はれた。

幾干もあらずして機關新聞が創刊されて彼の傳道事業は稍其の眼を開き、彼の得意の時代が來た。然し乍ら、其得意の時代も竟に槿花一朝の夢に過ぎなかつた。卽ち、一八三二年に於て、ヴェルサイユに近き土地に於てファランクスを組織して、其理想を實現せんと計畫したけれども、其結果は幾多の破綻を生じて、此處に彼の主張の缺陷は暴露された。斯くて、一八三七年、彼は彼を待遇するに甚だ酷なりし現社會と袂れて、幽明境を異にした。

フーリエーの思想中、其最も特色を示したるものは、社會の歷史に關する考である。

彼は其全過程を進化の四階級に分て一を野蠻時代と爲し、二を未開時代と爲し三を家長政治時代と爲し、四を文明時代と爲した。

エンゲルスは彼を讃へて曰はく、『カントが博物學に於て地球の究極破壞の觀念を紹介した如く、フーリエーは歷史學に於て人類究極滅亡の觀念を紹介した』と。

『五』

佛蘭西が革命の波濤に包まれたる時、其反對側の英國に在ては、靜かなる革命の波が搖いでゐた。

卽ち蒸氣と、新器具製造材料とは、忽ちにして、從來までの手工的製造業を一變して、機械工業の時代と化し、此處に

近世產業の基礎を造つた。斯くて全社會を驅て大資本家と純勞働階級との間の社會の分裂作用は甚だ急速なる勢力を以て進み來つた。——斯くて國民的不安は暴風の如く來た。而して、此國民的不安の中に介在して、過渡時代の社會改良家として生れた者が、ロバート・オーエンであつた。

ロバート・オーエンは一七七一年にノースウエールス・モンゴメリー州のニユータウンに小さい馬具商を父として生れた。彼は九歳にして町の小學校を卒業し、其翌年には商店の小僧となつて少年時代旣に業に人生の辛酸を嘗めた。

幾干もなくして、彼はマンチエスターに移つた。

マンチエスターに於ける彼の進步は實に驚くべきものがあつた。十九歳にして早くも五百人の勞働者を使用する紡績會社の支配人となり、一策する毎に一策就り、一畫する毎に一畫成て、彼の名聲は忽ちにして頗る昂つた。

間もなく、彼はグラスゴーに於ける、ラナアク工場の持主であるデールの娘と戀に落ち、後、結婚して、自ら其工場の所有者となつた。彼は此事業に於て、業務擔當組合員として大いなる權限を有し、遂に其成功に依て彼の名聲は全歐洲に轟き渡つた、由來、ニユー・ラナークの使用人は種々雜多の者より成り、且其大部分は頗る墮落したる者で其數は次第に增加して、二千五百に迄上つたけれども、彼は自らの努力によつて竟に之を模範植民地と化した。

彼は實に幼稚園の創始者であつた。

斯の如く連續したる成功にも關らず、猶、彼は之に滿足しなかつた。彼の眼には、彼が其勞働者の爲めに保證した生活も、猶、普通の人間よりは遙に低き程度のものとして、映ずる樣になつた。

彼は言ふた。『此二千五百人の勞働者が半世紀にも足らざる以前に在ては、恐らく六十萬も要したに相違ないほど多くの富を日々社會の爲めに作出しつゝある。此處に於て私は自ら問ふた。二千五百人によつて消費せらるゝ富と、六十萬人によりて、消費せらるゝ富との差は如何にすべき乎。』と。

然し、彼は直ちに其解答を得た。

曰はく、『若し此新富材が、機械によつて作出せられなかつたとするならば、ナポレオンに反抗して貴族主義を支持したる歐洲の諸戰爭は到底之を維持する事は出來なかつたであらう。而して、此新生產力こそは卽ち勞働階級の創造である。』と。此聲は當然、必然に彼の思想を共產主義に導いた。かくて、オーエンの思想が次第に共產主義に向て進んだ時期は實に彼の生涯に於ける一大旋回點であつた。

彼が單に一個の博愛家たりし間は、彼に酬いられたるも

のは、唯賞讃のみであつたが、彼にして一度び其思想上の新らしき獲得物たる共産主義を標榜して立つや、形勢は全く一變した。

彼が見て、社會進化を妨害するものと爲したるものは『私有財産』と『結婚制度』とであつた。

然し乍ら、當時に在て前掲二者を攻撃し、批難することは、要するに、一身を法律の保護外に置く事、官憲社會より放逐さるゝ事、等を豫期しなければならなかつた。而も、彼は敢然として、是等のものと戰闘を開始した。

彼は五年間惡戰苦闘したる後、遂に工場に於ける婦人、小兒の勞働時間を制定する第一の法律を制定せしむる事に成功した。

後、彼は共働組合を作り、勞働賣店を作つたが餘り多くの効果は上らなかつた。是等の組織は明に失敗に終つたのであるが後に來る社會革命家に對して甚だ寄與する所が多かつた。

彼は一八五六年、八十七歳を以て其長き一生の幕を閉ぢた。

『六』

吾人は初期の社會運動者として、三大空想家と共に、ルイ・ブランを擧げなければならぬ。彼は一八一一年、マドリツドに生まれた。

彼の思想の中心は、『民主的國家が産業同盟を組織して、漸次に其工場を設立し、最も溫和なる手段を以て私立工場を消滅する事にあつた。

彼は最初才能に對しては宗門政治を信じ、人間の才能に關する報酬に對しては、各人の非社會的意志を存在せしむるの必要を認めて賃銀の相違を許した。然し乍ら、其後報酬階級を立つるといふ意見は全く之を取消してしまつた。

一八四八年の革命に際しては、彼は驚くべき活動をした。然し乍ら、彼は其主張を實行するに肝要なる個人的勢力、並びに政治的勢力の何者をも有してゐなかつた。彼は卓拔なる識見を有し、加ふるに懸河の雄辯を持てゐたけれども人心を統率し、收攬するの術を知らなかつた。——之を例ふれば、ルクセンブルグに於ける勞働會議の如き、實に彼が首席に推擧されたにも關らず、徒らに反對黨をして其名聲を縱にせしむるのみであつた事は雄辯に此間の消息を明にしてゐる。

三大空想家を語り、ルイ・ブランを語る者は同樣の意味に於て、プルードンを語る事を忘れてはならぬ。プルードンはフーリエーと其鄉村を同じくし、幼よりして、其才氣

を知られてゐた。

プルードンは社會の變革を分類して Tradition と、Perf-ession とに分けた。此變遷に依て彼は財産私有權の全廢を漸次に實行してゆくと云ふ事を主張した。彼が理想としたるシステムは完全なる個人の發達を理想とするものであつて、苟且も人類の自由進歩の目的を妨害するが如き主義に對しては、如何なるものと雖も斷乎として之に反對すべき事を宣言した。

此論據から、彼の無政府主義の空想的理論が生れて來る。――『縱令、如何なる形式を以てするも、人が人を支配するは壓制である。』といふのが彼の根本思想であつた。彼は『財産は盜奪なり』と言つた。尠くとも、前期の社會運動者の中に於ては甚だ異彩を有するものであつた。何れにせよ、彼は世界に於ける無政府主義の開祖である、

Kirkup, History of Socialism. Engels Socialism;. Utop-and Sciensific に據る。(尾崎士郎)

新刊紹介

▲世界文明の新紀元

文學博士 姉崎正治

日本唯一の宗教哲學者として吾等の推擧する人は姉崎正治博士である。吾等が博士に傾倒する所以のものは獨り單なる宗教哲學者であるといふばかりでは無くして、博士が常に論據とする宗教哲學の立場から特異の文明批評、社會批評を行はれつゝある點に存在する。而して、本書は實に斯の如き意味に於ける博士の努力の結晶の集成である。

全篇は大小の論文四八四頁より成つてゐるが、其中特に注目すべきものは、『十九世紀文明の總勘定、』『戰後の世界がどうなるか、をどうするか、』『人本主義の實行』等である。殊に『人本主義の實行』は博士の立場を最も直截簡明に表現したものである。而して博士はその終りに於て叫んで曰く、世界に處する日本として、日本が世界の新局面に處する道は、卽ち又直に內にあつて社會を刷新し民心を振起し、人性を醇化する所以の道である。內治外交共に人本主義の理想を以て一貫せよ。是れ新たなる世界に處する日本の道である。世界人類は戰亂の大破壞を經て新生命に復活せんとしつゝある、大正の日本が此曙光を見る能はずして、世界の新生面に後れをとるなら汝等は國の生命と共に同胞の生命を殺す事になるぞ。』と。以て博士の識見、抱負の一斑を知るべきである。(定價壹圓五十錢、日本橋區三丁目博文館發行)

薫風往來

■北昤吉君が中央公論の四月號へ、マロック事件の辯明書を送てゐる。——吾々は北氏が如何なる態度を執て、如何に此問題を辯明するかといふ事に異常の興味を持てゐたが、北君の所謂一世一代の此辯解は見事に吾々の期待を裏切つた。北君は其論理的知識を誇示して、自分の文章と他人に依て書かれた文章との區別を付け得なかつた河上、山川二君を冷笑してゐるけれども斯様いふ論法は、畢竟するに菓子を强請る子供の駄々と異らない。而も一代の論客を以て自任する北君が、僅か二三行で濟む詑證文を堂々數頁に亘て牛のよだれの如く長々と竝べてゐるのは、寧ろ見ッともなさ過ぎる。野狐を以て任じ、禪の修道者を以て得意とする北君の爲めに甚だ遺憾千萬である。

■北君は、從來迄の代筆は盡く大家のために小家が書いたものであるが自分の代作は大家に依て書かれたものであると言つて頗る得意氣であるが、その北君の所謂大家とは久津見蕨村君のことであるさうだ。

■青葉が燃える時が來た。若々しい青葉の輝きを見ると、若い者の世界が來たといふ事を痛切に感ずる。あらゆる老いたる者は去るべきだ。あらゆる老いたるものを葬るべきだ。世の中に老人程醜惡愚劣なものがあるであらうか。老人をして薫風の前に慚死せしめよ。

■賣文社の分裂事件に就ては種々な噂が頻りに取沙汰されてゐる。日本及日本人は社内の少壯派の反逆に對し、堺利彦氏が失つて其席を去つたのだ（恐らく大庭柯公氏の言であらう）と言ひ『我等』は、現賣文社の人々を以てアルコール中心主義者と嘲笑てゐる。門外漢にして、而も賣文社の内情に通ずるの機會と便利とを持てゐる吾々にとつては、その何れもが、爲めにする所ある批評だとより思はれない。尠くとも吾々の知る所のみに據て解釋する時、賣文社の分裂は、政治運動派と經濟運動派との分裂である。實行派と理論派との分裂である。而して、其分裂は吾々に從ふ時は極めて自然な動き方である。賣文社の同人が酒呑みであるか、酒呑みで無いかは素より吾々の知る處では無い。吾々には國家社會主義者だつて人間だから酒位飲んでも宜からうと思つてゐる。唯吾々は彼等の熱心と勇氣とに對して尠からぬ好意を持てゐる丈けだ。

■福田德三博士が國家社會黨を評して鰻の天プラだと言つたさうだ。それを聞いた高畠素之君が『鰻の蒲燒にしてみせる』と言つた所が博士は其翌晩二三の人と共に『高畠君ヒヤカシ會』なるものを下谷の盛る天プラ屋に催してギンポウの天プラを喰つて頗る痛飲したさうだ。何の事だか一向解らない。恐らく御當人たる二人にも解るまい。

社告

地方の青年諸君の團體、若しくは其他の學術的研究を目的とする團體の爲めに、批評社は將來時日の許す限り講演の依頼に應じます。

デモクラシー研究（二）

社會主義とは何ぞや

(Social Democracy Explained)より

ジョン・スパルゴウ

『一』

社會主義の定義を作るといふ事には、常に限り無き一つの困難が伏在する。

而して、新に社會主義の傳道運動に參加せんとする人にとつては、各自獨特の形に於て、社會主義の精髓を一定の形式に包含し、之を正確な記述として表現する事が其重要なる事業の一つとされてゐる。唯に新に傳道運動に參加せんとする人々ばかりでは無い。すべての社會主義者を通じて、其胸奧に湧起る一つの野心はあらゆる分派に屬する同主義者をして、その夫々の要求と合致し、且容易に之を是認せしむるが如き定義を造るといふ事である。

圖書館の中には、社會主義に關する多くの書册があるが是等は各々、社會主義の定義に就て多種多樣の異見を樹てゐる。而して之を說明するに當つては斯くあるべきが至當である。

總ての社會主義傳導運動者が、社會主義に就て彼獨自の概念を造り出すといふ事、並びに、其概念に就ての彼の說明を、最も明瞭、簡潔ならしむるといふ事は、その事業の最も重要なる部分として看做されるであらう。それは丁度彫刻家が粗糙の大理石に斧を入るゝに當つて、其冗物を取除くと共に必要物を保存して置いて、軈て完全なる形を造り出すが如きものである。其故に社會主義の定義を作る事を目的とする傳道運動者は完全なる代表的定義を得るが爲めに、總ての不必要なるものを除去し總ての本質的眞理の部分を保存しなければならぬ。

『二』

從來迄存在したる社會主義に關する無數の定義は畢竟するに、希望多き多くの研究者をして、或は失望せしめ、或は落膽せしむるに過ぎなかつた程、複雜極まるものであつた。斯くの如くして彼等の態度が、當然、必然に『批評的』に傾いて行くといふ事は洵に止むを得ない事である。

試みに彼等のグループより何れの二人の社會主義者を拔き出してみる時と雖も、その信條と目的とを決定するに當つて、決して、彼等の一致すべからざる事を發見するであらう。

かくて、社會主義者の數が多ければ多いほど、其種類はいよ／＼廣汎なものになつて來る。而して、此難點が社會主義を批難攻擊する者の中心論點とされてゐる。否唯に論點にされてゐるばかりで無く、苟くも社會主義攻擊者が手にする武器として、而かく頻繁に用ひらるゝものは殆んど無いと言づて宜い。

社會主義に對して、單なる政治運動としてのみ、特殊の興味を持てゐる人々が、其定義を決定するに當つて、自ら社會主義の政治的部分のみを力說するのは、當然と言ふべきであらう。

將來社會の、想像の喜びに刺戟されてゐる人々は、自ら彼れの判定に從て彼の想像し得る社會の部面のみを力說するに相違ない。又、社會主義を目して、哲學の大なる體系と爲す人は自ら彼の定義を下さんとするに當て、其部分のみを主張するであらう。而して、斯の如き人々は當然、必然に一方に於て政治運動を輕視すると共に、又他方に於ては、根據なき美の憧れを嘲笑ふであらう。而して、夫は各自の立場に從て、夫々の意義と價値とを生じて來る。

然し、以上揭げたる三つの態度の間に橫はる相違は決して、根底的に矛盾、背反するものでは無い。

何故なれば、以上の如き定義は、畢竟部分的のものであるからである。從て其定義は自ら不完全なものとなつて來る。――其完全なる定義は此三樣の態度を、三樣乍ら含有するものでなければならぬ。

而して私は社會主義研究の第一步に於て敢て此冒險を企てようと思ふ。吾等の眞摯なる研究に對しては、社會主義の理論家も、空想家も、實行家も等しく、部分的には多少の相違は認めつゝも、猶之に多くの一致點を發見すべき事を信じて疑はない。

吾々は、本質的なる主義及目的の諒解、並びに解釋の大體の一致に對して特別の注意を拂はなければならない。吾々は、過去に於て存在したる幾多の定義に就て、吾々が一致し得る個所を發見する事に努めなければならない。

吾々の主張は、素より、現在迄に存在したる定義の中に於ても全く一致すべきもの丶ある事を信ずる者である。唯吾々獨自の立場から、吾々の主張を述ぶるに過ぎない。

斯の如き見地から、吾々の主張は全く異つた理義に胚胎するものと言つて差支無い。

——先づ第一に其處には、總ての過去の經驗に依て生じたる、一つの立脚地がある。而して、此立脚地に基く時、吾々は略々完全に近き定義を得るに相違ない。——而してその定義こそは、如何なる批評に對しても、常に正確にして、傷けられざるものである。

第二は、一層重要なる用意は、吾々が定義を作成するに當て、從來迄存在したる定義を一層深く研究し、究明する事に依て得るよりも、寧ろ、吾々獨自の解釋を作るために新らしき地歩を開拓する努力の中に於て眞に、完全にして正しき智識を得るに相違ないといふ事である。而して此法則は今迄最も有効なものとして用ひられて來た所の、極めて普遍的なものとして知られてゐる。

『三』

社會主義に定義を下すに當て、第一に必要なる事は、先づ範圍を測定する事である。言換ふるならば、定義の目的を評價する事である。

それ故に吾々の第一の仕事は、質疑の目的並びに限界を定めるといふ事でなければならない。

吾々は、マルクス、エンゲルス、ラツサル、リーブクネヒト、ベーベル、カウツキー、ゲード、ヂョーレス、ワンダーベルド、ハインドマン、プレハノフ、等に依て代表されたる近代的社會運動——更に言換ふるならば、近代の政治學に於ける大なる挑戰運動とも言ふべき、國際社會主義に就ては多くの關係を有する者であるがプラトー以前の多くの夢の城砦の建築師に對しては何等の交渉を有せざる者である。

而して、吾々は功妙なる社會の考案に依て案出せられたる計畫並びに方法を離れて何者も有せざる者である。而して、彼等に從ふ時、現在一切の階級に屬してゐる者は、盡く一つの目的の下に彼等が各自に承認するを得可き、政治組織並びに經濟組織を造就する事に努むべきである。——而して、吾等は此說明を稱して社會主義と名くるに過ぎない。

吾々が、其運動を觀察し、其順序を研究し、議會に於ける吾々の代表者に就て聽聞し、或は政治的權力に對する其鬪爭を記し、更に或は經濟組織の改善に對し、組織的勞働の爭鬪に於いて其實際的適用を爲す時に當て、吾々は吾々の定義に就ての必要なる目的を知悉する者である。

而して、吾々は、社會主義を(一)現在に於て組織されてゐるが如き社會を批評するものとして、(二) 社會進化の哲

學として、(三) 聽て遂行せらるべき理想として、(四) 哲學に依て導かれ、而して理想の達成を目的とすべき批評に於ける不滿足なる非難に依て刺戟されたる運動として、其本質的特徵を、明瞭に且諒解し易く說明しなければならぬ。

『四』

(一) 現在社會の批評としての社會主義、——社會的不平等は社會主義の本質的狀態である。然し乍ら社會的不平等は斷じて社會主義的なものでは無い。——然り、而して、社會批評は必ず常に社會主義に到達すべきものと限つてはゐない。

現在の社會制度を批難し、貧乏並びに其他の害惡を盡く人間の懶惰に歸し、而して、人間の性質の改造を企圖する所の說教者は、彼等の言ふ所、彼等の說く所が如何に强く如何に銳くありとするも斷じて社會主義者では無い。

又それと同時に無政府主義者も社會主義者では無い。何となれば、彼等は現在社會に存在する一切の罪惡を以て、其由來する所を、權力を背景とする法律の上に築かれたる政府の中に在るものとして、絕對の個人的自由を主張し、要求するものなるが故である。

彼は社會主義者が攻擊する此の同じき罪惡を荅し、攻擊する。而して、社會主義者が口にする同じき言葉と說明とを以て彼等を攻擊する。

然し乍ら、彼等は其根柢に於て社會主義とは到底相容れざるものである。——これに反して社會主義者の批評態度は全く特別のものである。而して、其批評は社會主義にのみ許されたる特權であらねばならぬ。

而して、其最も注意すべき特徵は、貧乏の如き、或は犯罪の如き、或は勞働過度の如き、或は就業難の如き、或は產業恐慌の如き、或は戰爭の如き、而して或は社會の階級的支配に胚胎して生じたる、ストライキ、ボイコット、其他の方法に依る社會的鬪爭の如き、盡く之れ資本家社會の害惡の事實に基いて主張せられたる、階級的認識に根據を有するとなす點である。

卽ち、現在の如き經濟組織の下に在ては、社會に於て、比較的少部分を占むる一階級が自然力、並びに生產機關を獨占し、若しくば管理してゐる。而して、大多數の富の眞實の生產者は此少數の階級に從屬し、之に利用せられてゐる。斯の如くにして、吾等は社會に於て利益の大なる葛籐狀態を目擊する者である。

一階級——卽ち、直接生產に携つてゐる階級は毫も生產に携はらざる階級に依て支配せられてゐる。而して、眞實

の生産者は、彼等の造り出したる價値の當額を得る事無くして、唯僅に賃銀の名稱の下に極めて少額を與へられてゐるに過ぎない。而して、生産物と賃銀との間に横はる差額は盡く支配階級の手中に歸するのである。他の言葉を藉りて言ふならば近代産業の特徴は、支配階級の爲めの利益をのみ目的とするものである。

資本主義の精神は、社會の全員が、共通に自由と幸福とを得て、社會の進歩發展に備へ、文化の恩澤に浴する事に努力するに非ずして、寧ろ全く反對に、支配階級の豪奢と權力とを增大せんとする目的の下に其努力を捧ぐるものである。而して、此根本的事實に基いて、近代文化を荒廢せしむる多くの罪惡が生ずるのである。

卽ち、斯の如き狀態の下に於て、現在社會制度の批評としての社會主義は生産階級の自然的不平の言表其者であらねばならぬ。而して社會主義者の哲學は當然必然に、制度組織を變革して、以上述べ來りたる社會的害惡を除去する事に在る。

『五』

(一)社會進化の哲學としての社會主義――吾々は進歩の事實、並びに其の普遍的法則を了解する事なくして、社會主義の哲學――卽ち實際運動の上に關係を保てる社會主義の哲學を理解する事が出來ない。

何となれば、社會主義は人類發達の解說であり、同時に社會進化の學說である。而して吾等が稱して、社會主義者の理想と爲す所の社會發達の將來の豫言、並びに其に到達せんとする所の順序、方法は總て、人類社會の進化を支配する法則の研究の上に基礎を有するものである。――而して、社會主義者の哲學は唯物的假定の上に基礎づけられてゐるものである。其根柢的教義は、カールマルクスに依て形成せられたる歷史的發達の學說である。

近代の勞働階級は從來歷史上に存在したるあらゆる階級と、重要なる點に於て異つてゐる。――彼等は支配力を得るための鬪爭を事としない。其處には斷じて階級的擯斥が無い。

その鬪爭はすべての階級と等しく、それは自己の階級を支配し及び壓制の桎機から自由ならしむるための鬪爭である。それが他の對立階級と異る點は、鬪爭の結果、從來迄の地位を顚倒して、直ちに支配、壓制階級たらんとするの希望目的を有せざる事である。

それは全く經濟的支配の可能性を破壞する事に依て夫自身を自由ならしむる事が出來る。

それ故に近代勞働階級の勝利は、古代蠻族の共產主義を以て開始された所の階級鬪爭の循環の終りを意味する。

『六』

(三)理想としての社會主義――、近代に於ける社會主義者の理想は社會狀態をして、階級的支配の總ての形式から全く自由ならしむるといふ事である。

而して、それは客觀的には、一階級が他の階級に依て支配されるといふが如き事無き、完全なる政治的、並びに產業的民主々義として決定され、主張される。

斯の如き社會の下に在ては、現在の社會制度の下に存在するが如き最惡の害毒は存在しない。斯の如き社會の下に在ては、現在の社會に存在する、階級的對立は斷じて見る事が出來ない。而して、此完全なる政治的、並びに產業的の民主主義が樹立せらるゝ前に、其處には先づ必ず現在の經濟組織の完全なる整理が行はれなければならぬ。

社會主義推進の動機は、經濟的支配の上に存在してゐる階級的法則の破壞である。而して斯の如き支配を含まざる方法に依る生產、並びに分配は、縱令其が個人によつて爲さるゝとも、若しくは團體に依て爲さるゝとも、其目的實現の上に決して矛盾を來すものではない。

『七』

(四)運動としての社會主義、――近代に於ける社會主義運動の注意すべき特質の中、最も重要なる點は階級的性質に就てゞある。而して、そは本質的には、特別なる階級、卽ち勞働階級を解放する事を目的とする階級運動である。

すべての國に於ける社會主義運動の注意すべき特徵の一つはノン、プロレタリアンの數が次第に增加しつゝあるといふ事である。然し乍ら、プロレタリアンの運動に從事する者が其階級に從屬するもので無いといふ事は毫も異とするに足らぬ事である。

此、ノン、プロレタリアンの要素は、腰辨階級、小商人製造業者、農夫等である。而して、彼等は之れを有力なる資本家の數と比較する時、極めて少數であることは言ふ迄も無い。

而して、其運動が若し確實に階級運動である時に於ては社會主義は當然に國際的運動であらねばならぬ。然し乍ら其運動は、物質的、並びに外延的な意味に於て單なる國際的運動では無い。唯尠くとも、國際的ソリダリティを主張し、目的とする精神に於てのみ國際的であるだけである。

『萬國の勞働者よ、團結せよ。』『Working-men of all country

といふ言葉は有名なる共產黨宣言が訓ゆる所である。而して此言葉は前述の理想を最も端的に表明したものと言つて差支無い。

社會主義者の運動は當然結果に於ては根柢的な國際主義に來るものである。而して世界に於ける、最も大なる力が總ての人類に共通したる平和を作り出さなければならぬ。

而して、運動は國際主義の理想に依て刺戟さるゝものである。けれどもそれは決して非國家的なものではない。——吾々の愛國心に就ては之を說明すべき理由は無い。然し乍ら、吾々が國を愛するといふ事は、斷じて他の國を忌憚するといふ事を意味しない。

『八』

其運動の大體は、生產機關の占有、若しくば管理を團體的基礎に立てる國家の手に移して、資本家階級の支配を排斥する事を目的とする所の勞働階級の政治運動其者である、

若し吾々が社會主義を以て革命運動と呼ぶならば、吾々は革命の意味に就て他の概念を適用しなければならぬ。——社會主義者の考慮は極めて嚴密である。彼に從へば、革命とは變化の手段を意味するものにあらずして變化其者を意味するものである。即ち、變化の手段には交渉を有せずして、其目的に交渉を有するものである。

『九』

今や、吾等の定義を組織的に陳述すべき時が來た。

吾等は既に『社會批評』として、或は『哲學』として、或は『理想』若しくば『觀念』として、社會主義の本質的特徵を檢覈し來つた。

而して、今や、吾等に殘されたる事業は、是等の特質を統轄し、續いて之を簡單なる記述に書改める事である。

吾人は實に以下の如くに社會主義に定義を下した即ち曰はく、『社會主義は、直接生產に携はらざる階級をして、富の生產者を虐使せしむるが如き、生產並びに交換に對する社會力の、個人的若しくば階級的獨占及び管理に現在の社會惡の多くが附隨する社會の『批評』である。社會的進步の度合並びに方向が、生產並びに交換の經濟的要素の發達に依て決せらるゝ、社會進化の學說である。生產並びに交換の團體的管理に依て區別せらるべき社會的進化の中に、將に來るべき時代を豫言し若しくは想像する學說である。而して最後に其運動は社會主義の理想を招來せんがために、國家の凡ての權力を管理すべき事を目的とする勞働階級の人々に依て成就さるべき、國際的〇〇運動である。(尾崎士郎譯)

新著批評
(生K)

◆レヴァハルム卿
「六時間勞働其他」

□ Labour unrest! Labour unrest! 近頃英國からくる新聞紙の第一面を彩つてゐるものは、みな「勞働不安！」の記事で滿たされてゐます。

□この時にレヴァハルム卿が「六時間勞働其他」を著したことは興味の多いことと思ひます。六時間勞働！ レヴァハルムは決して勞働者でもなく社會主義でもなく、彼れは立派な資本家であります。資本家としての彼れは六時間勞働を主張します。「六時間勞働は生産能率を最も增進する所以である。」「婦人または少女の勞働においては、六時間勞働制の必要は一層熱切である。」彼れはかう申してゐます。資本家の立場において生産能率增進のために六時間勞働が必要だと申すのであります。

□この書物は英國における資本家の間にも大分問題となつてゐるのみならず、勞働者の側においてもまた注意を集めてゐます。勞働黨の機關雜誌と目されてゐる「ニュー・ステーツマン」はこの書物の批評のうちにおいて次のやうに述べてゐます「この書物は勞働黨が嘗つて社會改造案として提議した內容に近いものである。その勞働黨の社會改造案が發表されたる時に、ロイド・ヂョーヂは過激派主義だといつて排斥したが、今日、レ卿がそれに近い意見を發表しても、ブルジョア階級が沈默を守つてゐることは社會の一大躍進——ソーシアル・デモクラシーへの躍進を物語つてゐるものである」と。

□兎も角日本の資本家諸君、特に工業俱樂部と稱する資本團——日本の最特權階級に一讀して貰ひたいものであります。

(Leverhulme, 'The Six-hour Day and Other Industrial Questions)

◆ロッス敎授
「向上のロシア」

□ロシアの過激派については諸説紛紛たるものがあります。それ等の諸説のうちで、九十九パアセントは誤謬であると申して差支のないほどに信ずべき說の少ないことは遺憾です。

□最も信賴することのできる書物として、私のこゝに推薦のできるものは社會學の大家、エドワード・エ・ロッスの新著「向上のロシア」であると思ひます。「ロシアの前途は悲觀するの必要がない」とは彼れの結論であります。彼れはこの結論に到著するまでに、從來の諸政治と過激派の政治とを比較して、過激派の政治が、遙によく秩序を維持してゐることを立證してゐます。

(Ross, Russ a in Upheaval)

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部　十八錢	五厘
半年分　一圓	税共
一年分　一圓八十錢	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十錢

大正八年四月廿八日印刷納本
大正八年五月一日發行

編輯兼發行印刷人　東京市麴町區山元町二ノ五　尾崎士郎

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　株式會社博文館印刷所

發行所　東京市麴町區山元町二ノ五　批評社　振替東京四五三四六

廣告

半頁	十六圓
三等	三十圓
二等	四十圓
一等	六十圓

但二等以上の半頁以下は御斷り

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館　良明堂
▲日本橋　至誠堂

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正八年四月廿八日印刷納本
大正八年五月一日發行（毎月一回一日發行）

批評 五月號（第三號）

定價金拾八錢

批評社發行

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年五月二十八日印刷納本　大正八年六月一日發行
（定價金拾八錢）

六月號（第四號）

批評社

「批評」より

◆人々は知識に飢ゑてゐます。私どもが今日までうけてきた教育は、今日までの世界には、瞬間的に役に立つものであつたにしても、それは凡て世界の現狀維持といふことの大膽なる獨斷のうへにのみ安心のできる教育であり、知識であり、才能であつたに過ぎない。

◆世界は一變しました。少くとも一變しつゝあります。それゆゑに今日において必要とせらるゝ知識は世界を改造することにおいて必要とせらるゝ知識であります。それは明日の世界についての知識であり、さうして昨日の世界についての知識ではない。

◆今日の政治家――特に日本の政治家の諸君は世界の改造について一切樂天的であります。彼等は普通選擧をもつて餘りに急進的であると感じてゐます。勞働組合についても一切無理解であります。それほどに彼等の精神は現代から遠ざかつてゐます。時代は彼等の一團を殘して遠慮なく進んでゆきます。

◆今日の論壇において政治家の名が殆んど一切驅逐されてゐることの事實は、今日の政治家が知識的に如何に不信用でありまた如何に無準備であるかの事實を物語つてゐます。

◆今日の政治家が既に知識的に不信用であるとすれば現代の政治界が新しき人物を求めてゐることは明白となります。その求められてゐる政治家とは世界のあらゆる改造――政治的、社會的、産業的及び民族的改造についての知識と綱領とをもつてゐるものであるにほかならない。

◆社會主義についての知識、民主主義についての知識は、今日及今日以後の世界に生活するものにとつてはヴアイタルに必要のものであります。これ等の點について、新らしき知識と正しき批判とを與へることにおいて、「批評」は決して何れの新聞または雜誌にも劣るものではない

◆その意味において、微力ながらわが「批評」は密に新時代の開拓と指導との任務を感じてゐます。

◆今度の號には無政府主義についての批評を載せました。思想界が常に不安の狀態に置かれてゐる時に、無政府主義のごとき不健全にして且つ思想的に可成り勢力あるものに對して嚴正な批判を與へることは極めて必要なものでなくてはならない。

◆それからまた今度の號からヂョン・スパルゴウの「過激主義」を連載することとしました。スパルゴウが社會主義または民主主義についての有名な研究家であることは申すまでもないことであります。

◆スパルゴウの書物とは本年三月紐育で出版されたBolshevismであります。それもまた思想の健全なる指導のために熟讀を要するものと思ひます。

◆秋花氏の短篇は毎號載ります。秋花氏の何人であるかはこゝにいふことを避けます。森恪氏も長篇のものを書く豫定でしたが差支のために出來上らなかつたのは遺憾です。たゞ匿名の研究家甲野哲二のマルクス研究をえたことを喜びます。

（一記者）

批評

六月號 目次

批評

政治改造と社會改造

社會改造の聲は世界を通じての聲である。十九世紀が政治改革の時代であつたのに對して廿世紀が社會改造の時代であるといへないこともない。少くとも社會改造は現世紀において世界的の一大要求である。この一大要求に盲目であるのは一切の公的の地位を要求する資格のないものである。何となれば彼れは現代の中核的の精神について無理解であるからである。

けれども社會改造はまた政治改造でなくてならぬ。われ等がその團體的生活の必要と習慣とを傳統的に所有するものであるとすれば、われ等の生活は遂に政治と無關係に成立することはできない。政治的に無政府の要求は經濟上にも無政府の要求とならなくてはならぬ。それは決して人間生活の協同の理想へと向つてゆくことではないのみならず、一切の不秩序へとゆくことである。

今日の世界においては、政治とは決して壓迫の機關であるといふごとき主張――無政府主義者の主張を許容することができるものではない。政治とは國民生活に對して秩序と理想とを與へるものでなくてはならぬ。われ等の要求するところの政治とは卽ちこれである。

政治をしてこの理想に添はしむるがためには、產業組織の改造、社會組織の改造、さうして政治組織の改造――一切の國民生活をして日本の榮譽ある皇室的傳統のもとに改造することは必然に來るべき階梯である。さうして現代は正にこの要求が最も多く、且つ世界的に高調されてゐる時代である。この時代において日本の政治家は何ごとをなしつゝあるか。凡ての黨派を通じて、彼等は相互に相爭ひつゝあることのほかに何をなしつゝあるか。政友會も憲政會も國民黨も、一つとして社會改造または政治改造の理想と綱領とを表示したものがあるか。

政治家無能の聲は到る所に高まりつゝある。人民と政治家との乖離は到る所に實現せられつゝある。新らしき政治家、現代の精神を理解し社會的及び政治的改造の新綱領を抱いてゐるものをして現代を支配せしめよ。(森恪)

山東問題は成功か

山東問題についての日本の要求が三大國首腦の賛成をえたことは事實である。日本の論壇はこれを成功であるとする。日本の政治家はこれを成功であるとする。その成功を誇りつゝある間に支那において排日の暴動が起つたことは傷ましいアイロニイであるではなからうか。

山東問題についての支那の要求が正當であるか否かの問題は暫らくこゝにいはない。けれども日本の對支外交が支那に對して不信用の原因となつてゐることは明白である。山東問題とはたゞ山東問題としてのみ切り離して考へることのできるものではない。その背後には一切の對支外交の失敗の堆積がある。寺内内閣の無暴なる對支干渉、大隈内閣の過酷なる對支條件、これ等のものは日支關係を險惡ならしめたる最も主要なる原因である。それ等の日支關係の險惡なる狀態において山東問題なるものがあり、日本人排斥があり、國辱大會なるものがありうる。それゆゑに山東問題なるものは過去における一切の對支外交の失敗の表象として生れたものである。

われ等は山東の一角に利權をうるがために四億の支那の

人心を失つてはならぬ。（森恪）

秘密外交より外交民主主義へ

政治家の憂慮病は政友會から憲政會へと移つた。……外交のこと憂慮に堪へず……政友會の總裁原敬氏が嘗つてこれを口にした。憲政會の總裁加藤高明氏が今まこれを口にしつゝある。彼等は何ごとを憂慮しつゝあるか。然り、憂慮とはたゞ無能者の常套語であるに過ぎないではないか。

外交攻撃は國家に不利益であるから……加藤子はこういふ。けれども外交攻撃が國家の害惡であつた時代は、國家がたゞ利己的存在であるとされた時代においてのみのことである。國家が秘密結社でない限り、また國家が國際的偸盜を目的とする團體でない限り、外交もまた民主主義の支配をうけなくてはならぬ。

秘密外交より外交民主主義へ。

新聞記者精神の墮落

新聞記者が純然たる『材料取り』となりつゝあることは

現前の不幸なる事實である。その結果はいふまでもなく新聞記者精神の墮落とならざるをえない。

見よ、何れの新聞紙——大新聞と自稱する諸新聞がこの「材料取り」以外に何をなしつゝあるか。、彼等はその「材料取り」において益々巧妙となりつゝあるとは正反對に、その批判的能力と精神とにおいては益々墮落しつゝある。

朝鮮問題において、國際聯盟問題において、國際勞働問題において、山東問題において、新聞紙が權威ある批判をなして國論を正して指導すべき機會は屢々與へられたにもかゝわらず、政府の提灯持ちとなり、軍閥の御幣かつぎとなり、政黨の御用となり、甚だしきに至つては壯士浪人輩の職業的對外硬の運動に盲從して徒に弱き隣邦の人心の反感を買ひたることの以外に、彼等は如何なる權威ある批判を發表したことがあるか。

現代の新聞紙は民衆の指導者としての地位と信用とを急速に失墜しつゝある。

新聞紙法の改革とゝもに新聞または新聞記者そのものゝ改革がなくてはならぬ。

青年の解放

青年を解放せよ。あらゆるものから青年を解放せよ。

先づその高天原的小學教育から解放せよ。さうして彼れに先づ人としての自覺を與へよ。

その次ぎに彼れを「青年會」から解放せよ。郡長を會長または支部長とし、報德教を强制せられ、軍閥の講演と指導とを强制せられつゝある「青年會」から、地方の純眞なる青年を解放せよ。

青年の精神は痲痺しつゝあるではないか。

勞働運動の指導

あらゆることのうちにおいて、勞働運動の指導は今日の日本において最も熱切の急務である。

勞働運動は隨所に起りつゝある。勞働組合、勞働黨、社會主義またはサンヂカリズムの色彩をもつてゐる運動さへも今や隨所に起りつゝある。勞働運動の勃興は現代日本の諸現象のうちにあつて最も重要なる社會的現象である。さうしてまた軈て政治的現象でゞもある。われ等は勞働運動の勃興を歡迎する。あらゆるものがその初めにおいて亂雜であるごとく、今日の勞働運動もまたその亂雜と不秩序とから免れることはできないにしても、勞働運動なるものは、

政治的、社會的、または産業的組織を改造すべき最大多數の民衆の運動である。その運動は熱切なる民衆の精神及びその生活の痛苦なる要求から生れ出でゝくるものである。從つてそれは指導なくしても起らざるをえないものであるにしても、われ等はこの民衆運動に對して統一と組織と權威とを附與するためにこゝに正しきさうして偉大なる指導とを與へなくてはならぬ。

新著批評

カール・リープクネヒト『未來は民衆のものなり』

("The Future Belongs to the people" By Karé Liebknecht)

□

カール・リープクネヒトが現在獨逸國内に在て猪の如く荒れ狂てゐるスパルタカス團の主腦人物であつたことは何人も知てゐます。

本書はそのリープクネヒトの實際家としての、Revolutio: al な半面を知る意味において最も適當なる彼の演説集であります。その演説は彼が戰爭開始當時から最近華々しい運動振りを示して死に到るまでの間において爲されたる最も主要なるものゝ累積であります、或は議會において、或は社會黨大會において、或は法廷において、凡そ彼の洩らしたる一言一句は纏めて此一書に溢れてゐます。

□

本書の編者はウオルター、ウエールといふ人であります。そしてそれをニューヨルクにおいてデイマンドといふ人が重譯したものであります。巻頭に、The man Liebknecht といふ章があります。彼の人物性行は此一篇の中に躍如として輝いてゐます。又第一頁には彼の抱負を托したものともいふべき演説の抜萃が揭げられてあります。吾々はその彼の言葉を悲痛な宣言として信じます。その全文を次に揭げます。

As my father, who appeared before this court exactlythirty five years ago to defead himselfaginst the charge of treason, was altimate ly Pronounced victor so I believe the dayis not far distant when the principles which I represent will be recogniged aspatriotic, as honorable, as true,"

□

全文は百四十四頁本書の特徴はそれが單なる演説集にあらずして、同時に彼の運動史であることであります。(By S. Zimand, New York)

遠吠録

秋花生

■外務省のある若い侯爵が、內務大臣を昇いで、新舊の俳優を大臣官邸に招待、タヮイもないことを話して居ることが、近日の新聞紙を賑はして居りました。而かも歌右衞門や佐藤歲三やらに、大分氣焰を吐かれて居るのが太だ皮肉に感ぜられました。聞けば若い侯爵は大分劇通ぢやさうです、自分で勸進帳かなにかをやつて、大分得意がつて居る人ぢやさうです。內務大臣は御承知の通りな好人物、劇に對する意見などのありさうなことは無論ありません。此等の人が役者を招いて只一時の歡をつくしたといふことなら、其は何でもありませむ。太郎兵衞ところの犬が子を生んだといふことであまり距りのない出來事です。それに何ぞや、やれ國民思想が何うの、社會と藝術が何うの、と大したふれ出しには恐れ入るではありませんか。

■若い侯爵や、內務大臣や、あなたがたは果して藝術といふことに就きて、どの樣に抱負がありますか。コヮ色を使ふことを藝術と心得、演藝に關する警察事故を少からしむる爲めに、國民文藝會を組織するといふ樣な御考へでは、藝術が泣きます。先づあなたがたの藝術觀や、社會及び國民思想と藝術との關係に關し御意見を先づ承りたいものですれ、それから其根本觀念の上に國民文藝會を組織し、學後に役者連を集めて、之に順應せしむる樣指導して行くこそ社會先覺者の勤めではありませんか。然かるにどうです、國事多忙の內務大臣や外務省の役人が、盡日中役者を官邸に招いて、役者に皮肉を言はれて、其れで面白がつて居るとは氣が知れませんれ。役者連も又役者連です。大臣が何です、侯爵が何です、大臣に招かれたからといふて有無を言はずに飛んで行く樣では、あなたがたの御里が知れます、藝術に携はるものは、今少し高い所に持つて居らればなりません。藝術は內務大臣や侯爵の力を俟つて向上する樣なそんな卑しいものでは斷じてありません。

■日本の所謂舊劇なるものが觀客に喜ばれなくなるといふことは、最早問題ではありません。それなれば、新時代の要求に應ずる所謂日本の劇といふものが、現在に於て存在して居るか。或は又存在せんとしつゝあるか。私は遺憾ながら、之を否定するの外はありません。國民文藝會では。差當り此の方面の研究に努力せねば　らぬことではありますまいか。役者本位の脚本を書いて觀客の俗眼を誤魔化す樣な現在の有樣では、日本の劇も何もあつたものではありません。先づ良い脚本を得るといふことは、何と云つても焦眉の急であると思ひます。脚本あつての役者です。脚本あつての現代劇です。今の樣に、脚本作者が役者の機嫌ばかりを取つて居らなければならぬ樣な爲體では、何で良い脚本が出來ませう。

■次は役者の養成です。一定の型にのみ依つて動くことが、劇の能事であると心得て居る現代の役者の頭は、どうしても改良して行かねばなりません。役者の頭が現代の思想を了解し、現代の社會を知悉すると共に、劇の精神を細かく研究すると云ふことの程度に發達せなければ、所謂現代劇の出來やう筈はありません。此の主張から見ても、國民文藝會たるものが、內務大臣や侯爵の手に依つて幕を開けられると云ふことは、一代の不祥事と申すの外ありません。

■良い脚本が出來て、それから良い役者が出來れば、茲に創めて現代の劇が出來る譯です。而かも其の劇は必ずや現代の社會と思想とに共唱するものであらればならぬと思ひます。

■其本を究めずして、徒らに國民思想と文藝との關係を論じやうとし、又は社會と劇との關係を究めやうとするのは、少々見當違ひといふの外ありません。內務大臣官邸の宴會は、只新聞の三面記事を賑はすの外。大臣と侯爵との好奇心を喜ばしたといふことゝ、役者の自惚心を增長さしたといふこと位が其產物でせう。國民文藝會は、今少し眞面目に出發したいものです。

現代人物傳（一）

福田德三氏

◇吉野博士がかういふ話をしたことがある「私は福田博士と相撲を見に行つたことがある。栃木山と千葉崎との取組となつた。人々が栃木山〳〵と呼ぶ。福田博士が立ち上つて千葉崎〳〵と怒鳴る　博士の隣席に十二、三になる少年がゐた。その少年が栃木山〳〵と叫ぶ。福田博士は又もや立上つて千葉崎〳〵と怒鳴る」

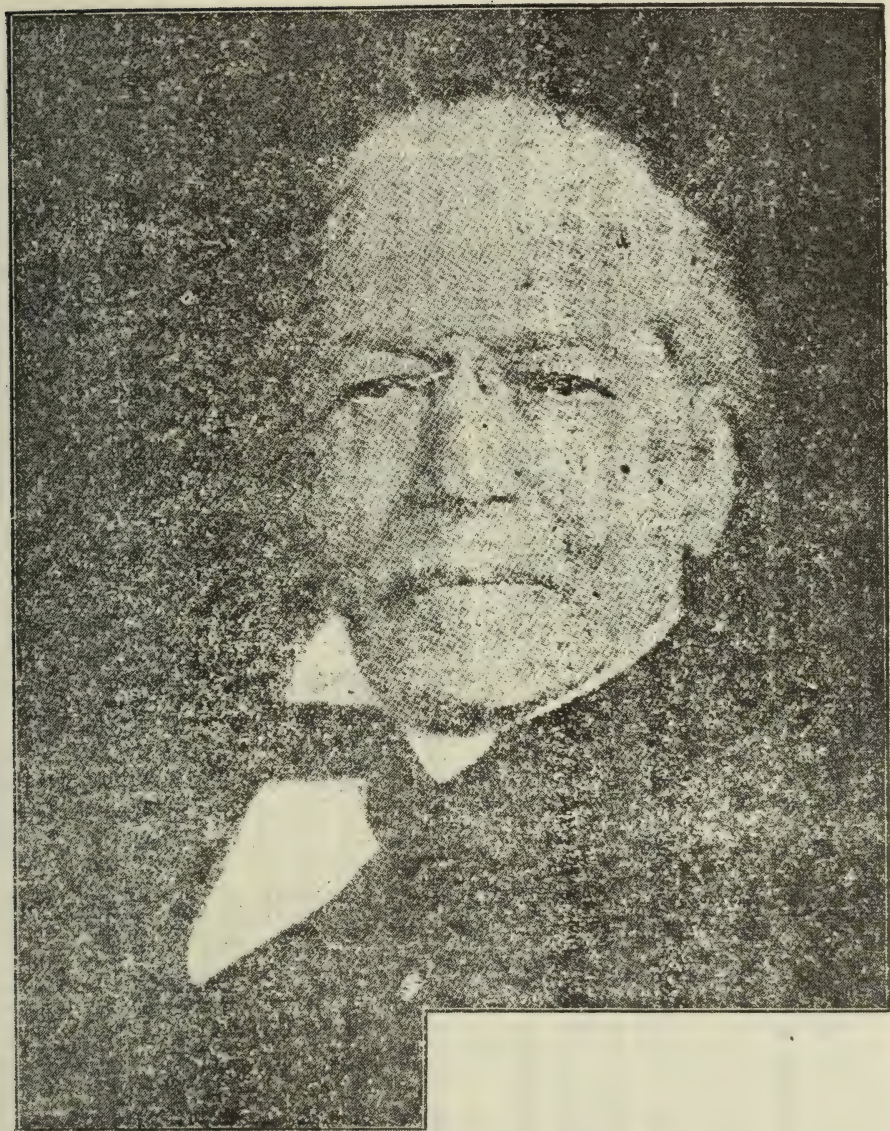
◇この話のうちに福田博士の性格がよく現れてゐる。博士は妥協が嫌ひ、さうして反對が好きだ。反對することに於いて博士の全性格が現れてゐる。それには反對せんがために反對するといふやうなこともある。だからその反對論に無理な點のあることも勿論である。けれどもその反對論の論理上の價値においてどうあるにしても、そこに福田博士の全人格が流露する。

◇反對僻は、多くは純眞なる性格から生れてくる。今日のやうな不合理な社會組織のもとにおいて、これに甘んじてゐることのできるものは、その人自身が特權階級の人であるか、それでなければ批評的良心に缺けたる人である。

◇經濟學者としての福田博士が押しも押されもせぬ大家であり、わが學界の權威者であることは改めていふまでもないことである。けれどもその學者としての福田博士よりも、われ等は學者的良心の豐富なる所有者としての福田博士を愛する。

◇彼れは學者としては稀に見る雄辯家である。その犀利にして深刻なる辯舌は、帝國議會においても比肩すべきものはない。

◇彼れはその雄辯を振つて黎明運動の陣頭に立つてゐる。たゞ惜しいことには、黎明會そのものの曖昧であることである。然り黎明會とは今や純然たる通俗學術講演會と化してしまつてゐるではないか。

◇何ごとにも徹底を求めなくては止まない福田博士の性格が、あのやうな曖昧糢糊たる旗印のもとに包容されてゐることは慥に一つの奇蹟でなくてはならぬ。(Demos)

サミユエル・ゴムパアス

ゴムパアスは三十七年間米國勞働同盟會の會長をしてゐます。彼れは三十七歳の時まで葉卷の製造をやつてゐました。初め葉卷工國際組合の頭會長に擧げられ、それから米國勞働聯合會の組織に盡力し、一八九五年この同盟會を代表して國際委員會に出席しました。一九一七年には合衆國國防委員會の顧問に擧げられ、今度の講和とともに國際勞働立法委員會の議員となつてゐます。

無政府主義の批判

室伏高信

無政府主義anarchism, anarchismus の起原については學者の間に様々の意見があります。ジエームスに從へば、バークの「自然的社會の辯護」(1)は當然に無政府主義の結論は到著するものであるとされます。バークがこの書物を著したのは一七六〇年のことであります。そのバークが公生涯から退く前年即ち一七九三年にゴドウヰンの「政治的正義」が發表されました。彼れは政府なるものは凡て有害物であると述べてゐます。『政府とは本來人の獨創力に反逆するものである。』彼れはこう述べてゐます。それゆえに彼れもまた無政府主義の先驅者の一人であるとされます。それのみではない。バイロンも、ルソウも、シエレイも、コンドルセイもまた無政府主義の先驅者として數えるものもあります。(2)けれどもそれ等の無政府主義とは、組織されたる體系ではなくして、たゞ政府に對する憎惡の表白であるに過ぎない。組織的體系として無政府主義を主張するに至つたものとしてはプレフアノフに從へばスチルネルであるとされます。(3)スチルネルは既に一八四五年に「個人とその財産」(4)のうちで無政府主義を主張してゐます。從つて彼れが無政府主義の先驅者の一人であることは勿論であるにしても。これより先き、一八四〇年プルードンは有名なる「財産とは何んぞや」(5)の一書を著して、既に無政府主義を主張し、また無政府anarchieなる文字を使つてゐます。それゆえに學者は通例プルードン及びスチルネルの兩氏をもつて無政府主義の先驅者であるとなします。爾來バクーニン、プルース、クロポトキン、レクルス、タツカア、モスト、マラテスタのごとき著名なる無政府主義者が相續いて現はれてゐます。ヘエスに從へばニーチエも、ホヰツトマンも、トルストイも、イヴセンも、ゾラもまた無政府主義者であるとされます。(6)

(1) Burke, Vindication of Natural Society.
(2) C.L. James, Origin of Anarchism, P. 2-4
(3) Plechanoff, Anarchism and Socialism
(4) Stirner, Der Einzige und Sein Eigentum.
(5) Proudhon, Q'est ce que la propriété
(6) Hayes, A Political and Social History of Modern Europe, Vol. II, P.268

(二)

ツーリッヒにおける國際社會黨の會合（一八九三年）は、議會派と非議會派との激烈なる爭ひのあつたものとして紀念されます。その會合において非議會派とは、ロンゲエに從へば無政府主義者であります。それが社會主義的秩序の支持者であつても、また選擧における政治的行動をとるものであつてもたゞ「煽動の手段」としてのものであるとすれば、それ等は一切無政府主義の立場であるとするのがロンゲエの記るしてゐるところであります。(1) けれどもある主張が無政府主義の主張であるかないかの問題は、その本質において、「議會派（パアリメンタリアン）」であるか、「非議會派（アンチパアリメンタリアン）」であるかの問題とは無關係であります。議會を非認するものゝうちには、無政府主義もあり、また無政府主義にあらざるものもあります。何となれば政治の機關とは、決して議會組織に限られたものではなく、それよりも反動的なるものもあり、またそれよりも民主主義的のものもあるからであります。それゆゑに「議會派」か「非議會派」かといふことは、無政府主義であるかないかを決定すべき何等の標準ともなるものではない。その標準はこれを他に求めなくてはならない。然らば無政府主義とは何んぞや。マッキンレイの虐殺、アレキサンダア二世の虐殺、ウムベルト一世の虐殺、ヘンリー三世、ヘンリ

ー四世、カルノー大統領、カスチロ首相、ガーフキールド大統領の暗殺、これ等の事實を一々列擧する時は、無政府主義者の如何に狂暴なものであるかを知ることができます。それのみではなく、無政府主義の使徒としてのブルース(2)は暗殺、破壞、暴行をもつて無政府主義を實行するうへに最も必要であることを主張したものであり、ピータア・クロポトキンのごときもまた巴里における無政府黨の機關紙「反逆」のうちにおいて叫んでいふ『吾等の運動は筆により、舌により、劍により、銃により、爆裂彈により、投票紙によるものである』と。かくして彼れもまた暴動の福音を傳へるのであります。ヨハン・モスト(3)のごときもまた大膽なる暴動の主張者であります。彼れの著「科學的革命戰術と投彈者」においては、教會、○○または宴會室に爆彈を投ずべきことさへ記るしてゐます。一八八一年のロンドン會議は暴動の手段が筆舌の手段に優ることを決議し、一八八三年のピッツバーグの「國際勞働者同盟」においては、暴動をもつて無政府主義の實行に必要である旨を綱領として掲げてゐます。それゆゑに無政府主義の歷史的觀察においては、それを暴動、陰謀、虐殺と無關係なものであるとして説明することが許されてるものではない。社會主義の歷史が政治運動の歷史であつたのに對し(4)て無政府主義の歷史は暴動、虐殺、陰謀の歷史であつたと批評しても、必ずしも事實と全然無關係な説明であるといふことはできない。けれどもこれ等の事實は無政府主義そのものゝ内容といふよりは無政府主義を實施するための武器、戰術として用ゐられるものであります。彼れ等が暗殺、陰謀、暴動をなすことは、それを理想としてゐるのではなくて、たゞ今日の政治的及び社會的組織を破壞するの武器として用ゐることを主張してゐるに過ぎない。それのみではなく、同じく無政府主義者の間にあつても、凡てが暴動、暗殺、陰謀の武器を使用することを主張してゐるのではない。この點において無政府主義は二派に分れます。プルードンは平和手段によつて無政府主義に到達せんとするものであり、マッケエ及びタッカアもまたこの派に屬します。これに反してバクーニンは恐怖手段をとることを是認します。ブルース、モストのごときがその流れを酌んでゐるものであることは既に述べてきたところによ

つて明らかであります。それゆゑにジェームスはその無政府主義についての書物のうちで次のように述べます『無政府主義とは國王を殺戮することの陰謀でもなく、勞働階級の武裝した運動でもなく、また秘密結社でもない、無政府主義とはたゞ理論である』(5)と。少くとも暴動、暗殺、陰謀は決して無政府主義の要素ではない。ダニエル・デ・レオンはその無政府主義についての講演のうちで、一方無政府主義者の殺戮の行動がそれの偶然の所作でないことを指摘しながらも、またこの暗殺的行動が決して無政府主義の要素でないことを明らかにして次のように述べてゐます『暗殺は無政府主義の要素ではない。諸君は暗殺が可能のことであるにしても、それは決して無政府主義の避くべからざる從屬關係であるのではない。無政府主義にとつては、殺人にゆくことが自然の傾向のごとくに見ゆるにしても、それは無政府主義のうちに含まれてゐるものではない。無政府主義とは要するに政府に關する觀念である』(6)と。

(1) William English Walling, The Socialism of To-day, P.8-9.

(2) ブルース博士はバクーニン派の無政府主義者、一八七三年のマルクス及びバクーニン兩派聯合會議において猛烈に無政府主義を主張してバクーニン派のために活動し、ユラ聯合の重要なる一人物であります。彼れの機關紙「先鋒」はクロポトキンの機關紙「反逆」とともに無政府主義の有力なる宣傳の機關であつたとされます。

(3) ヨハン・モストは二回まで獨逸帝國議會の議員となつたことがある。ビスマークの社會黨鎭壓令のために議員となることができなくなつてから非議會派となり、暴動の煽動者となり、遂に一八八〇年社會民主黨から除名せられことになつたものです。その後米國に渡りその雄辯によりて無政府主義を宣傳し、一九九三年のピッツバーグの「國際勞働者同盟の創立」は彼れの事業であるとされます。

(4) 拙著「社會主義と民主主義」第一章參

(5) C.L. James, Origin of Anarchism, P. I.

(6) Daniel De Leon, Socialism versus anarchism, P.8-9.

(二)

無政府卽ちアナーキイといふ文字は、希臘語の「無」ana と「支配」arche の二つの結合から生れたものであります。それゆえに近代無政府主義の明星としてのピータア・アレキセイウヰッチ・クロポトキンは無政府 anarchy なる文字を「政府なき社會」a society without government といふ意味を使つてゐます。(1) またオウエンは無政府主義者を定義して「支配せられざる人」といつてゐます。『人は自由でなくてはならない。彼れ彼れ自身を所有しなくてはならない。……汝の生命は汝に屬する。さうして汝にのみ屬する。……彼れはまたは彼女は自ら主權者である。』彼れはかう申してゐます。(2) 卽ち政治の否認、權力の否認であります。プルードンもまたその著書のうちにおいて凡ての政府、凡ての政黨を排斥し、また凡ての權力を伴へる政府、——社會民主主義の政府も、君主制の政府も、寡頭制の政府もみな等しくこれを排斥してゐます。『政黨も無用、權力も無用、さうして人及び市民の絕對的自由』とは彼れの政治的信條であります。(3) 卽ちこれまた政府の否認、權力の否認であります。バクーニンは次のやうに述べます『あらゆる現存の制度——國家、敎會、法廷、銀行、大學、軍隊、警察を破壞することは必要である』と。(4) バクーニンによつて創立されたる「社會民主主同盟」Alliana ce de la Democratie Socialiste もまた「權力ある國家」の廢滅を主張してゐます。(5) エドウアード・ベルスもまた「國家は最高の寄生蟲である」le parasite par excellence と申してゐます (6) かくして凡ての無政府主義に一貫したる思想は政治の否認、權力の否認、さうして國家の否認であります。その國家の否認、政治の否認、權力の否認は、あらゆる政治、あらゆる權力、あらゆる國家の否認であります。この點においてはプルードンの使徒も、バクーニンの使徒もみな同一であります。プルードンがあらゆる政府に反對すること——社會民主主義の國家にも反對するものであることについては既に述べました。バクーニン の使徒 もまた一九一四年その有名なる「革命問

答」(7)のうちにおいて次のやうに述べてゐます『人民を幸福にすることのできる唯一の革命は凡ての國家……を悉く絕滅することである』と。無政府主義の精髓はこの點にあります。

(1) Peter kropotkin, Anarchist Communism, P.1.
(2) Wm. G. Owen, Anarchy versus Socialism, P.1-2.
(3) Hayes, A Political and Social History of Modern Europe, P. 267.
(4) Malon, Le Socialisme Intégral, Vol. I. 199-200.
(8) Lecky, Democracy and Liberty, Vol. II. P. 300.
(5) Edouard Berth, Les Nouveaux Aspects du Socialisme.
(7) "Revolutional Catechism."

(三)

無政府主義の要素が凡ての政府、凡ての國家、凡ての權力を否認するにあることは既に述べたとほりであります。けれども無政府主義について正しき理解をうるためには、またさうしてこれについての正しき批評をなすがためには、更に一步を進めて考へる必要があります。さう考へてみる時に、無政府主義とは、權力の否認、政府の否認、國家の否認の點においては凡ての無政府主義に一貫してゐるところであるにかゝわらず、その無政府主義を主張する根據においても、その無政府主義の理想とするところにおいても——無政府主義の社會觀においては、決して同一の主張であるのではない。社會主義なるものが、これを主張する人々によつて別個の內容を附せられることの多いがごとく、無政府主義もまたこれを主張する人々によつて、屢々その立場を異にします。それは少くとも三つに分類することができます。個

人主義的無政府主義、集産的無政府主義、共産的無政府主義がこれであります。個人主義的無政府主義の唱道者はいふまでもなくマックス・スチルネル(1)であります。獨逸における無政府主義者としてのヂョン・ヘンリー・マッケー(2)もまたスチルネルの流れを酌める個人主義的無政府主義者として知られてゐます。スチルネルの無政府主義は極端無政府主義であるとともにまた極端個人主義であると申すことができます。彼れは凡ての政府を否認します。王制の國家であつても、寡頭制の國家であつても、また人民のうへに立つ國家であつても、たゞそれは權力の所在の相違であるに過ぎないものであり、人間の自由と兩立のできないものであるとするのが彼れの立場であります。彼れは自由を三種に區別します。政治上の自由、社會上の自由、人道上の自由がこれであります。彼れの自由とは極めて最高度の自由であります。彼れは社會をも否認します。社會を否認して組合をもつてそれに更へることを主張します。さうして自我の無制限なる發揮を要求します。『自我は本來自由なるものである』とはマックス・スチルネルの無政府主義の中心點であります。マッケーもまた彼れの流を酌んで個人主義においてのみ自由が存在し、またこれにおいてのみ無政府主義が存在すとなしてゐます。ベンヂャミン・タッカア(3)もまたスチルネルの門弟であります。彼れはその「國家社會主義と無政府主義」の論文のうちで次のように述べてゐます『無政府主義とは人間の凡ての事件が個人または任意的組合によつて行はるべきこと、さうして國家の廢止せらるべきことの原則である』(4)と。これ等の個人主義的無政府主義に對してバクーニン(5)及びそのディサイプルは團體主義(6)を主張します。彼れの門弟の間にあつて最も著しきものをブルース(7)及びレクルスの二人となします。彼等はともに無政府主義者であり革命主義者であり、さうしてまた團體主義者であります。從つて個人主義に反對するものであることは勿論であります。これ等の兩派の無政府主義に對して無政府共産主義 Anarchist Communism を主張するものとしてはクロポトキン(8)及びヨハン・モストを擧げることができます。モストの指導のもとに組織せられたる「國際勞働者同盟」I.W.A.は無政府共産主義をその綱領として掲げてゐま

す。またクロポトキンに從へば多くの無政府主義者は共産主義を奉ずるものであります。『われ等は共産主義者である。』クロポトキンはこう申してゐます。(9)けれども彼れの共産主義とはフーリエルの共産主義 Phalanstery ではない。「無政府的共産主義であります。從つて「政府無き共産主義」であります(10)かくして無政府主義には主として以上の三種を數へることができます。それのみではなく、プルードンの無政府主義に至つては個人主義のうへに立つのでもなく、團體主義のうへに立つのでもない。彼れは先づその「財産とは何んぞや」(クエスト・セ・クエ・ラ・プロプライエテ)のうちにおいて財産 Propriété とは偸盗であることを主張してゐるにもかゝわらず、その「革命及び教會における正義に就て」(11)のうちにおいては、彼れが財産の廢滅を主張するものでないことを論じ、彼れの立場がルソウやプラトウやブラン等のごとき共産主義でないことを述べてゐます。さうして彼れは財産の不可分のものであり、集合的のものであり、從て集合財産制でなくてはならないことを主張してゐます。けれどもまた彼れは決して團體主義者でもない。ヘエエスはその「政治的及び社會的近世歐洲史」のうちでプルードンの無政府主義が著るしく個人主義に依據してゐることの事實を指摘してゐます。(12)これを要するに彼れの主張には幾多の矛盾が含まれてゐます。それゆゑに彼れはカール・マルクスによつて罵倒されたるごとく何等の識見なき人物ではないにしても、彼れの無政府主義は科學的體系と哲學的基礎とを缺いてゐると申すべきであります。

(1) マックス・スチルネルは本名をカスパア・シユミツトといひます。一八〇六年にバイロイトに生れました。その著「個人とその財産」Der Einzige und sein Eigentum が最も著名であります。

(2) ヘンリー・マツケエは一八六四年スコットランドに生れ、早く獨逸に移住し、「無政府黨」の著があります。

(3) タッカアは米國の無政府主義者中最も現はれ、週間雑誌「自由」を主宰して盛んに無政府主義を主張してきた人。

(4) Shaw, The Impossibilities of Anarchism, P.39.

(5) ミハエル・アレキサンドロウヰツチ・バクーニン(一八一四——七六年)は初めマルクスの「國際勞働者協會」Association

internationale des travailleurs に加つてゐたものであつたが後に分れて「社會民主主義同盟」 Alliance de la Démocratie Socialiste を組織し、無政府主義實際運動の師祖であります。

(6) 團體主義 collectivism は多くは集産主義と譯されてゐます。この言葉はコリンスによつて始めて用ゐられ、バクーニンも一八六九年のベルンの會議でこの言葉を使つてゐます。けれども一八七八年の頃からこの言葉はマルクス門下の使用するところとなつてゐます。即ちその「科學的社會主義」を空想的社會主義から區別するためにこの言葉を使つたものであります。

(Orth, Socialism and Democracy in Europe, P. 339. 參照)

(7) エリゼエ・レクルスは一八七八年のフラブルグの無政府黨の會議を指導したるものとして現はれ、クロポトキン等とともに最近代無政府主義の指導者であります。

(8) ピータア・クロポトキンの事蹟は世間に著聞してゐます。彼れの著述として左の數著が著れてゐます。

Anarchist Communism.

La Conquête du pain.

The wage System.

Memoirs of a Revolutionist.

Law and Authority

The State.

Anarchism: Its Philosophy and Ideal.

Modern Science and Anarchism.

Explopriation.

Fields, Factories and Workshops.

Mutual Aid.（大杉榮氏譯「相互扶助論」）

（9）Kropotkin, Anarchist Communism, P.22.

（10）同上

（11）Proudhon, Of Justice in the Revolution and in the Church.

（12）Hayes, a Political and Social History of Modern Europe, P. 268.

（四）

かくして無政府主義はそれに到達すべき手段において平和的及び恐怖的の二種類に分れてゐるのみではなく、その哲學的及び經濟的基礎においても少くとも三つ——個人主義的、共産主義的、及び團體主義的の三つに分裂してゐるものであることを知ります。その分裂は、たとへ無政府主義の致命傷ではないまでも、無政府主義そのものゝ煩悶を物語るものであり、無政府主義の、思想的及び實行的の一大弱點であることは勿論であります。いふまでもなく無政府主義が人間生活を規定すべき原則としてのレーゾン・デートルを主張しようとするためには、それが優越なるさうして整頓せる科學的體系をなすものでなくてはならない。それでなければ、たゞ一人若しくは數人の意見または感情の表現であるに過ぎないものであり、從つて空想であるに過ぎないものであり、人類久遠の歷史によつて集積せられ、それの衝動と合理的判斷とによつて指導、開拓、蓄積せられてきた人間の政治的、社會的、經濟的組織及び諸制度を轉覆するの理由となるものではない。

われ等は各種の無政府主義についてその價値を正當に判斷しなくてはならぬ。

（五）

私は先づバクーニンの團體主義的無政府主義について考へてみます。『凡ての人間は肉體的、精神的、及び政治的社會的特性――それが人間に個性を與へ、また他の凡ての人々から分離せしめるものである――を具有する團體的存在である。(1)』バクーニンはかくして凡ての人間が孤立せる存在でなく團體的または集合的存在であることを主張します。彼れは社會をもつて有機體であるとするの意見を持してゐます。『われ等は人間の社會を他の有機體のごとくに見なくてはならぬ。』それは生物よりも複雑なものであるにしても丁度自然のそれのごときものである。彼れはかう申してゐます。彼れに從へば、その質または量の如何にかゝわらず、またその慾望と自覺とに關係なく、統合的の運動に結合してゐる凡ての存在の不朽の活動または反動は、われ等の一般的統一、生命、因果關係と稱するところのものを包含してゐるものである『この普遍生命が世界を造つた……人間は凡ての地上の存在のうちで最も個性的であるとともにまた凡ての存在のうちで最も多く社會化されたものである。(2)』それゆゑに社會は自然に發達したものであり、さうして如何なる契約によつても生じたものではない。それはたゞ傳統的の習慣及び排列（ディスポジション）によつて支配せられたものであつて法律によつて支配されたものではない。また從つて『それは個人の自發的衝動によつて進歩したものであつて立法者の思想及び意思によつて進歩したものではない。』とするが彼れの自然の論理であります。彼れはこの立場からして國家に反對し、政治に反對し、權力に反對します。さうして「國家、教會、法廷、大學、軍隊、警察」の廢滅を主張するのが彼れの破壞的の方面であります。けれども彼れが社會の成立をもつて立法者の功績でないとすることの社會觀を是認するにしても、それをもつて直に國家を害惡なりとするの論理に演繹することは素より不當でなくてはならない。彼れは國家なるものを憎惡して「尨大なる共同墓地」であるとなし、各人の犧牲によつて政治的偉大が存在し、『その犧牲が大なれば大なるほど國家はいよ／＼完成するものである(3)』と主張します。即ち個人と國家とが矛盾するものであることを主張します。けれども彼れの論理を一貫するためには、國家とは常に個人を害するものであり、社會的存在と兩立しないものであ

り、人間の自由及び生活力と矛盾するものでなくてはならない。彼れはどこまでも國家とは本質的に少數者の專制となるべきものであるとする見解を持してゐます。『國家とは常に特權階級の所有であつた。僧侶、貴族、さうしてブルジョアの。(4)』この點が彼れの國家觀の基礎であります。彼れの時代の國家は如何にもその通りであつたと申すことができます。けれどもそれはたゞ過去における實在國家の批評であるに過ぎない。彼れが逝いてから僅に四十餘年(5)のうちに既に國家の歴史は一變するに至つてゐます。ブルジョアの國家の代りに、彼れの鄕國ロシアにおいては既にプロレタリアートの國家が成立し、獨逸においてもソーシャル・デモクラシーの國家が建設せられつゝあります。それゆえに凡ての國家をもつて本質的に「特權階級の所有」であると論ずることは彼れの獨斷であると申さなくてはならない。彼れの無政府主義なるものはこの國家に對する偏見から生れてゐます。然らば如何にして人間の自由を體現し、その自然的發達、個人的自發力を維持すべきか。凡ての人間が團體的または集合的存在 Collective being であるとなしてゐるバクーニンはまた財產上の團體主義を主張します。土地の團體的所有を主張することは彼れの無政府主義の一大特徵であります。團體主義 Collectivism なる文字は決して彼れの發明ではなくしてコリンスの發明であるにしても、これに歴史的の意義を與へたものとしては先づミハエル・バクーニンを推すべきであります。彼れのこの主張は「ジエネヴァの「社會民主主義同盟」の最も重要なる綱領の一つをなしてゐます。それによれば土地、農業器具及びその他の資本は團體的所有に歸屬すべきものであるとされます。然らばその團體主義なるものは何んぞや。バクーニンはショウデエの問ひに答へて彼れの團體主義が決して共產主義にあらざることを論じてゐます。(6) 從つてその財產上の團體主義とは個人の一切の所有の否認ではないにしても、少くとも生產手段において、個人を超越したるものゝ所有でなくてはならない。個人を超越したるものゝ所有のためにはその所有の主格となるべき意思と人格との必要であることは見易きの論理であります。また從つてそれはその財產について個人の意思と自由に優越なる他のオーソリチィを前提とするにあらざれば成立

することのできない觀念であります。それゆえにこの財産上の團體主義なるものが漸次に國家または公共團體の手に生産手段を集中するの意味に使用せられることゝなつたのは自然の論理的歸結であり、無政府主義者がこれと離れて、却つてバクーニンの正面の敵として彼れの謂ふところの財産上の團體主義的無政府主義と戰つてきたカール・マルクスの門下がこの主義を奉ずることゝなるに至つたことは、バクーニンの團體主義的無政府義の破産を物語つてゐるものでなくてはならぬ。クロポトキンが財産上の團體主義を批評して、「今日までの如何なる政府よりも有力なる政府」の力によらなくては實行の不可能なものであると論じたことはバクーニンの無政府主義に對する弔鐘の言葉として聽くことができます。(7)その言葉が示してゐるとほり、團體主義とは如何なる制度においてよりも權力をより多く需要するものでなくてはならぬ。然り、バクーニンの無政府主義は一大矛盾に滿ちてゐます。彼れはその無政府の主張か、或はコレクチヴキズムの主張か、その何れかを捨てなくてはならぬ。彼れが一方に無政府主義を主張しながら、遂にまた「勞働者の國際的國家」を要求するに至つた事は、彼れの無政府主義の傷ましき矛盾の曝露であると申さなくてはならない。(8)だからヘッケルがその「ロシア社會學」のうちにおいて(9)バクーニンの著述は殆んど科學的價値のないものであるとなし、その無政府主義が現存の社會組織、特に國家及び敎會に對する痛烈なる偏見から生れたものであると批評してゐることは決してバクーニンの無政府主義の價値を不當に引下げてゐるものではないと思ひます。

(1) Bakunin, Balashev ed, Vol. I,P. 89. (cf.Hecker, Russian Sociology)

(2) ibid, P.193.

(3) ibid, P.188.

(4) ibid., P.189.

(5) バクーニンは一八一四年に生れ一八七六年に死にました。

（6）一八六九年のベルン大會

（7）Kropotkin, Anarchist Communism, P.20.

（8）Lecky, Democracy and Liberty, Vol. I, P.299. (Laveleye, Le Socialisme Contemporain, P.200)

（9）J.F.Hecker, Russian Sociology, P.73.

（六）

次にクロポトキンの無政府主義——無政府共產主義について考へて見ます。彼れの無政府主義は最も深い思想上の產物であるとされます。思想上における彼れの功績は決して埋沒することのできないものであります。彼れはバクーニンのコレクチヴヰズムに反對して立ちます。けれども彼れの社會觀のうちには著しくバクーニンのそれと類似してゐる點、があります。彼れは社會をもつて人間の造りいだしたものではなくして、人間以前から存在したものであることを論證してゐます。彼れは社會をもつて人力の最小限の消費によつて最大の幸福を產出すべく組織されたる「偉大なる全部」であるとなします。（1）けれども彼れは決して社會成立の基礎をもつて共同利害觀念のうへに存在するとなすものではない。また愛——それは、常に個人的のものまたは種族的のものである——によつて生れたとなすものでもない、「それはたゞ他の人間と相互に同一（ワンネス）であるとするの觀念から」成立するものである。（2）クロポトキンはこう論じます。それとともにまた凡ての人間が『彼れ自身において全世界である』ことを主張し、（3）微細なる細胞でさへも『それ自身の生活を所有する自治的有機體の世界である』と述べてゐます。（4）これ等の自治的有機體が、みな「同一—oneness であることを自覺し、それとゝもに「相互扶助」にと入ることが社會成立の主要なる要素であるとなすことがクロポトキンの立場であります。（5）それゆゑに彼れは相互扶助を高調します。相互扶助はたゞに人間の衝動であるのみではなく、そ

れの最もよく行はれる時に藝術も産業も科學も進歩するものであるとするのが彼れの「相互扶助論」一巻の精神であります。『われ等は動物の世界において進歩的發展と相互扶助とが相並んで行はれることを見る』クロポトキンはこう申します。(6) この相互扶助論から彼れは共産主義論にと入ります。(7) またその共産主義は中央集權的支配から自由なものであることが必要であり、「最小の單位において獨立する地方的生活を創造することなくしては實現せられざるもの」であるとします。(8) こゝに無政府主義と共産主義とが結合すべきものであると申すのであります。

(1) Kropotkin, Revolutionary Studies, P.24.

(2) Kropotkin, Mutual aid.

(3) Kropotkin, Anarchism: Its Philosphy and Ideal, P.5.

(4) ibid.

(5) Kropotkin, Anarchist Morality, P.12.

(6) Kropotkin, Mutual Aid, P. 222.

(7) Kropotkin, Anarchism; Its Philosophy and Ideal, P.20

(8) ibid.

(七)

クロポトキンは相互扶助を高調します。相互扶助の精神は彼れの書物のあらゆるもの、あらゆるところに流れてゐます。社會は決して一人または數人の人によつて造られたのではない。それは凡ての人の建設的才能の産物、凡ての人の事業、自然の生長であると論じます。(1)

『われ等をして文明國について觀察しめよ。森林は開拓され、沼澤は塡められた。これを横斷する數千の道路と鐵道とはあらゆ

る方面に設けられた。河は航海に適するに至り、港は近づくに便となつた。運河は海と海とを接續し、岩石は碎かれ、製造物は陸を蔽ひ、科學は人間に如何にしてその慾望のために天然力を利用すべきかを教へ、都市は次第に發達し、科學と藝術の實はこれ等の文明の中心に堆積せらるゝに至つた。けれども誰れかこの奇蹟（マアベル）を造つたか？』（2）

クロポトキンはこういふ問に自問自答して次のように述べます。

『數千年間の結合したる努力がこれ等の成果を成就するために寄與せられたものである。森林は數世紀前に開拓せられた。沼澤を塡めるために、道路を開拓するために、鐵道を建設するために、幾百萬の人々が年々その勞働を捧げた。また他の幾百萬の人々が都市を建設し、文明を創造した。その大部分は知られることなく、貧困と輕視とのうちに死せる數千の發明家が機械――それを人間がその天才であると稱讃する――を作りあげた。幾百千の植字工や、活版工や、さうして無數ともいふべき多數の勞働者の援助のもとに、幾千の文士や、哲學者や、科學者達が知識を建設し、普及し、誤謬を消滅し、誤謬なく科學的思想の一空氣を造るために寄與してきたのである。――これ等のものなくしてはわれ等の時代の奇蹟は齎らされることはなかつたのである。マイヤアや、グローヴの天才、ヂユールの刻苦艱難の事業は、世界の凡ての資本家よりも、近代産業の新らしき出發に對して、慥により多くの貢献をなした。けれどもこれ等の天才自身もまた産業の小供（チルドレン・オブ・インダストリー）である。……道路によつて接續し、地球上の他の人類の生息する地方と容易に交通することのできるわれ等の都市は、數世紀間の成長である。さうしてこれ等の都市における凡ての家、凡ての工場、凡ての商店は、その價値、その眞實のレーゾン・デートルを、幾千或は幾百萬の人々が集合してゐる地球上の一點にあることの事實から享けてゐるものである。……誰れが自ら進み出て、この尨大なる全體のうちの最少の部分に手を置いて、これが私の造つたものであるといふことのできる權利があるか！……家も街も、運河も鐵道機械も藝術も藝術の勞作も、これ等のものは悉くこれ等の島に住む人々及び數千哩も彼方に住む人々の、過去及び現在における幾世紀の努力の結合によつて造られたものである。（3）』

今日の文明の凡ての奇績はみな幾世紀間に亘つて幾百千萬人の人々の努力の結晶――社會的産物である。これがクロポ

トキンの立場であります。

『かくして問題はたゞパンの問題だけではない。それは人間活動の全局面を包含する。けれどもそれはその根底において社會經濟の問題をもつてゐる。さうしてわれ等は次のごとく結論する。生産及び社會の凡ての需要を滿たすべき手段は、凡ての人々の共同の努力によつて造られたものであるがゆゑに凡ての人々の處分の自由に委せられるものでなくてはならぬ。……凡ての人々は富の生産者並に消費者として同一の立場に立たなくてはならぬ』(4)

かくして凡ての産物が凡ての人々の共同の努力によつて造られたものである。それゆゑに凡ての人々が生産者として並に消費者として平等のものでなくてはならない――共産主義――自由共産主義が合理的であるとするのがクロポトギンの共産主義の根底であります。然り、自由なる共産主義 free Communism であります。彼れの歴史的社會觀は一面に相互扶助が歴史の精神、進化の傾向であることを主張するとゝもに、また個人の自由の要求が進化の傾向、人間生活の要求であることを主張します。從つて彼れの謂ふところの「全體なるものには決して中央機關――精神をもつてゐるものではない。(5) 彼れは個人的自發力の發達が相互扶助の精神とゝもに歴史の一大精神であることを論證せんとするものであります。(6) 以上がクロポトキンの無政府主義の大體であります」。

(1) Kropotkin, Anarchism :Its Philosophy and Ideal, P.20
(2) Anarchist Communism, P.P.14-5.
(3) ibid, P.15-16.
(4) ibid, P.18
(5) Kropotkin, Anarchism: Its Philosophy and Ideal, P.5-6.
(6) Kropotkin, Anarchist Morality, P. 23.

（八）

クロポトキンが人間の世界の凡ての勞作、建造、知識をもつて全人類の勞働の結果であり、從つて何れの個人によつても造られたものでないとすることは、因果關係の論理において肯定せらるゝところであるにしても、この點から出發して共產主義に到達するためには各人の絕對的平等觀を前提とするものでなくてはならない。各人の勞働の結晶によつて現在の世界の財產または凡ての「奇蹟（マァベル）」が造られたものであるにしても、その各人の勞働の價値が平等のものでないとすれば、それをもつて直に共產主義に結び付けることはできない。クロポトキンは凡ての人々の勞働または才能が悉く平等であるとするがごとき妄想の所有者でないことは勿論であります。彼れは一方において各人の「勞働の結晶」の力を讃美してゐるにもかゝわらず『マィヤァやグローヴやジュールの功績が凡ての資本家の功績よりもより偉大である』ことを認めてゐる(1)のみならず、革命のごとき大事業が少數者によつて行はれるものである事を說きます。(2)かくして彼れは少數者の才能とそれの人類に對する特別なる寄與を認めざるを得ないのであります。彼れ自ら凡ての人人が能力においても寄與においても平等でないことを肯定せざるを得ないのであります。それゆえにクロポトキンがその共產主義の根底として論ずるところ――『生產及び社會の凡ての需要を滿たすべき手段は凡ての人々の共同努力によつて造られたものであるがゆえに……凡ての人々は富の生產者並に消費者をして同一の立場に立たなくてはならない』――の論理は明に謬妄であると申さなくてはならない。彼れの論理を正しく推擴すれば、より多く生產したるものにはより多く與へ、より少く生產したるものにはより少く與へることゝならなくてはならないのであります。こゝに彼れの共產主義の第一の破綻が存在します。

彼れの共產主義の第二の破綻はその共產論と個人的自發力とを結合することによつて生じます。彼れは共產主義にお

いて個人的自發力の發展と保護とが行はれるものであることを主張します。この個人的自發力は實に彼れの共産主義的無政府主義の要素の一つであります。けれども各人の自發力は機會の平等と生活力の增進とさうして敎育とによつてえらるべきものである。從つて先づ才能を保護し、より多く勞働したるものにはより多く與へなくてはならないのでありあます。從つてそれは機會の平等の要求であつて人間の絕對的平等であつてはならない。また從つて共產主義であつてはならない。彼れはこの矛盾に答へるために、人間は習慣的に勞働を要求するものであることを述べてゐます。彼れはこう申します。『勞働は人間の習慣であり、怠慢は人工的の成長である』(3)と。けれどもこのような說明は、彼れがあまりに人間性について樂天的であることを曝露することの以外には何等の權威にも價しないものであると思ひます。

彼れの無政府共產主義の第三の破綻は無政府主義と共產主義とを結合するの點から出發します。彼れに從へば共產主義においては政府なるものが無用である。『資本家と勞働者との區別のないところにおいてはかゝる政府は無用である。』彼れはこう申してゐます。(4) 彼れにおいては、政府とは資本家の機關であり、共產主義の敵であり、所有の維持者であります。けれども共產主義は所有に先つてゐます。資本主義に先つてゐることは勿論であります。われ等の部落生活の時代において共產主義が行はれ――最初は無意識的に後に意識的に――ことは、今日においては疑のない事實であるとされてゐます。(5) 政府はこの時代においても存在してゐます。卽ち所有なき時代において、政府なるものは存在したのであります。酋長政治がこれであります。それゆえに政府とはたゞ所有の擁護者であるとなすことは明白なる誤謬であると申さなくてはならない。政府は實に「所有」の前に存在したものであります。彼れの政府に對する見解はバクーニンのそれのごとく常に重大なる偏見に陷つてゐます。政府とは如何なる場合においても特權の擁護者、從つて民主々義の敵、自由の敵、正義の敵であるとするのがクロポトキンの政府觀であります。彼れはこう申します。『君主專制は奴隷制度と一致する。代議政治は資本の支配と一致する。ともに階級支配である。……

非資本主義的組織は無政府組織を包含してゐるものである』(6)と。けれどもこの政府觀は、バクーニンの場合におけると同じく、今日の國家、昨日の國家、一昨日の國家には當て箝めることができるにしても、明日の國家、明後日の國家に當て箝めることの理由となるものではない。彼れは如何にしてその政府觀をソーシャル・デモクラシーの國家に當て箝めようとするのであるか。それゆえにヘッケルがその「ロシア社會學」のうちにおいて、クロポトキンの社會觀、政治觀がロシア特有の空氣の產物であると述べてゐること(7)は卓見であるといはなくてはならない。

(1) Anarchist Communism, P.15.
(2) Revolutionary Studies, P.5.
(3) Anarchist Communism, P.30.
(4) Anarchist communism, P.8.
(5) Spargo, Socialism, P. 101-2.
Lewis H. Morgan, Ancient Society.
F.Eengels, The Origin of Family, Private Property, and the State.
(6) Anarchist Communism, P.8.
(7) Hecker, Russian Sociology, P.248.

(九)

既に述べたるごとく共產主義は必然に無政府主義を伴ふものでもなく、政府なるものは常に所有または特權の擁護者として存在してゐるものではない。それのみではなく、共產主義なるものは政府なくして實行せられることは全然相像すべからざるところであります。政府あるも實行の困難であることは勿論であるにしても、政府なくして共產主義を想

像することは更に一層困難――困難といふよりは不可能であります。ベルトランド・ラッセルに從へば人間の生活を指導すべき衝動は二つに分れます。創造の衝動と所有の衝動とであります。所有の衝動の道德的批判は暫らく別問題とする。けれどもこの所有の衝動が、凡ての人間生活を規律する最も根本的な力であることの事實を否むものは人間性の研究についてあまりに樂天的であるとともにまた過去における人間の歷史の儼然たる事實を無視してゐるものであるといはなくてはならない。既に人間の衝動としての所有の慾求の事實を否むべからざるものであるとすれば、この慾求、この衝動を抑えて共產の道德に入らしめることは、決してたゞ人間に所謂自由を與へることによつて――組織と指導と力とを想像することなくして實現せらるべきものでないことは自明の理であります。然り、政府なくして共產主義の理想の實現せられるといふがごときことは怠慢なる思想家の空想であるに過ぎない。クロポトキンはこの點について次のように述べます。

『勞働者がその勞働を雇主に賣つてゐる時に、彼れは彼れの生產したる價値の或部分か雇主のために不當に奪ひとられてゐることをよく承知してゐる。彼れがその勞働を賣る時に――それでなくては次の過に彼れ及び彼れの家族は飢ゆるのほかなきためにさうすることを餘儀なくされるのである――それを自由契約と呼ぶことは悲しむべき滑稽である。近代の經濟學者はこれを自由と呼んだ。……人間の四分の三がこの種の契約に入ることを餘儀なくされてゐる間は、力は勿論必要である。……われ等は自由に契約されたるものを實行するために力の必要を見ない。』(1)

「自由の契約は强制の必要がない。」彼れはこう申すのであります。果して然らば資本家と資本家との契約、勞働者と勞働者との契約は、一切何等の滯りなく何等の間違なく、何等の爭ひなくして實行せられるものでなくてはならぬ。けれども人間社會のあらゆる――あらゆるとはいへないまでも――事實はクロポトキンに裏切つてゐるではないか。然り共產主義において政府が無用であるとすることは一切空想であります。それは無政府主義にゆくことの要求ではなくして

却てその反對であります。その反對に政府の需要をして益々大ならしめるものでなくてならぬ。だからバクーニンがベルンの大會において、共産主義を罵つて、共産主義とは社會のあらゆる勢力を國家の手に集中するものであると論じたことは極めて傾聽に價するところであると思ひます。ロシアにおけるボルシエヴヰキの共産主義は最も端的にこの事實を裏書きしてゐるではないか。

(1) Anarchist Communism, P. 29-30.

(十)

共産主義も、コレクチヴキズムも、その何れにしても無政府主義となることはできない。無政府主義となることのできないものであるばかりではなく、それは益々政治を需要するの思想であります。無政府主義となることのできるものは、たゞ個人主義においてのみこれを求むることができます。マツクス・スチルネル(1)の無政府主義なるものはこれであります。スチルネルは自我の崇拜者であります。彼れはエゴウをもつてあらゆるものゝ中心であると觀念し、あらゆるものゝうちの權威であると觀念し、自我をもつて最高の裁判者であるとなしてゐます。それゆえにスチルネルにおいては自我（ダス・アイクネ）は先天的に自由なるものであり、從つて彼れにおいては義務なるものを認めることはないのであります。また從つて自己よりもより以上の權威を認めることは不可能のことであり、それは自由を束縛するものであり、自我を迫害するものであらねばならぬ。――それゆゑに彼れは國家を否認します。あらゆる種類の國家を否認します。特權階級の國家を否認することは勿論、あらゆる集合意思なるものを否認するのであります。(2) こゝにおいてかスチルネルの無政府主義は極めて徹底的であると申さなくてはならない。けれどもそれはたゞ空想においての徹底であるに過ぎない。空想においての徹底は事實においての不徹底である。彼れは政治上の絶對的自由――自由といふよりは無政府を要求す

ると共に社會上または經濟上においての自由を要求します。けれども彼れの主張するがごとくに自我なるものが絶對的に自由であり、權利は權力であり、生存競爭は相互扶助に優越せる人間生活の權威ある規律であるとすれば、その社會は所有の衝動が實際生活を規律する社會でなくてはならぬ。從つて所有の一方における堆積となり、他方における貧困となり、社會上の自由なるもの〻存在すべきものでないことは見易きの道理であります。獨り理論のうへにおいて見易きの道理であるばかりではない。それは個人主義的經濟組織の歴史が端的にこれを證據立て〻ゐるのであります。然り、レーセエ・フエールは資本主義の哲學でなくてはならぬ。人間生活の社會的不公正なるものは主としてこのレーセエ・フエールから生れてきたものであることは歴史の證據立て〻ゐるとほりであります。その結果はどうなるか。財産の蓄積は權力である。最も根强き權力である。それは社會的權力である。けれども社會權力が政治的權力となるものであることは現代の資本主義の諸國家においては何人もそれを疑ふものはない。繰返していへば個人主義的無政府主義なるものは社會的不公正となり、さうしてまた直に政治的不公正となるものであります。

(1) スチルネルは一八〇六年バイロイトに生れ、一八五六に逝

(2) Stirner Der Einzige und sein Eigentum.

(Walling, Larger Aspect of Socialism.)

(十一)

凡ての無政府主義はそれがあまりに人間性の研究について樂天的であることにおいて第一の誤謬をもつてゐます。またそれの第二の誤謬は、凡ての無政府主義が政治についてあまりに悲觀的であることから出發します。彼等は人間性についてもつと深刻なる研究を必要とするものであると共に、政治についても、もつと正しき理解に入らなくてはならない。クロポトキンに從へば無政府主義は近づきつ〻あります。けれども無政府主義は決して近づきつ〻あるものでないのみならず、人間の凡ての歴史は無政府主義の主張に逆行してゐるのを見ます。歴史の永遠に證據立て〻ゐる事實はたゞ一つ――デモクラシーの勝利がこれであります。(大正八年五月十三日)

レビュー　オブ　レビュース

野村隈畔氏『左右田博士の「文化主義」を評す』

□

吾々は嘗て野村隈畔氏をネオ・アイディアリスムの闘將として多くの尊敬を拂てゐた。往年氏が未だ其名を爲さゞる當時、第三帝國の誌上に於て『戰とは何ぞや』といふ問題に就て稻毛詛風氏と論戰した事があつたが頴脱すべき錐は既に其時嚢中において鋭尖を顯はしてゐた。――吾等は暫く鋒を顯はさなかつたその鋭き針の跡を最近の中央公論に見出し得た事を限り無き喜びとする。氏は左右田博士の提唱する『文化主義に對して、先づ強く深く針の尖を刻みつけてゐる。

□

氏は言ふ『文化價値』は批判哲學の立場から言へば、一種の『ア・プリオリ』としてのイデーであり、當然であり、極限概念であるけれども、吾々が有する具體的の文化そのものから見て、それは如何に解すべきものであるか。これは文化そのもの丶意義によつて理解されると思ふが、文化は價値實現の過程であるから、文化の歸趣、卽ち其高昇的過程の極限に立てるイデーが文化價値であると言へば充分に理解し得られる。然し、これは文化を價値實現の過程と見て、その終局に立つべき或るものを豫想したのが文化價値であり、或は豫想された文化價値を實現して行く過程が眞の文化であるといふ事に理解され易い。』と。吾々は此言葉を以て左右田博士の文化主義に徹底的な解釋を附したものであると信ずる。氏は博士の文化主義が同時に人格主義である事を肯定し、而して更に一歩を踏み出して、人格そのもの丶意義にして明瞭にあらざる限り、依然として文化價値の抽象的なる事を指摘してゐられる。然り、人格卽文化といふ論理は、素より吾々の文化における、實踐的理想に相違ないが、然し人格其もの丶根本要求を具體的に表現すべき人格そのものを體驗的に把握しなければ、そはそもそも何事を意味するか一向解らないではないか。

□

最後に氏は、デモクラシーに對する左右田博士の『デモクラシーは唯貴族主義や官僚主義に對してのみ意義を有し、從て、それは他の主義と共に相對的な感情論に立脚して何等普遍的な論理的根據を持てゐない』といふ解釋を根本的に批難して、『彼等が盡く其對照となるべき主義の滅落するものなりとすれば『文化主義』の竟に爲す所を知らざる所以を明にしてゐる。吾等は野村氏の個人主義に對しては多くの理解を有するものであるが、野村氏の『國體主義は滅落しても個人主義は殘る』といふ定案の中に含まれたる國體主義といふ言葉に對しては、吾等は猶其說明の甚だ不充分なる事を信ずるものである。

□

吾々は野村氏の『文化主義』の批評を以て最近の日本の思想界に於ける甚だ喜ぶべき收穫であると信ずる。而して氏と共に徒に抽象的の名辭に隱れて、其正體を顯はし得ざる博士の『文化主義』を以て畢竟其提唱の無意義なる事を信ずるものである。(S・O)

マルクス傳
——社會運動の人々(2)

尾崎士郎

『一』

『親愛なるリーブクネヒト君足下。
私の電報は歐洲社會革命黨が恐るべき損失を蒙つたといふ驚くべき事實を既に貴方に報道し終つた事を信じます前の金曜日倫敦において著名なる一人の醫師は――滋養分によつて其身體を維持し得るならば再びその健康を恢復する事が出來るであらう、と言ひましたけれども本日午後二時において此醫師の言葉は全く無効に終りました。――私は涙にみたされた彼の家庭を見ました。チエルンは私を二階に招いて言ひました。『御主人は半ば眠てゐられます』と。けれども、あゝけれども、愛するリーブクネヒトよ。私が上へ行つた時は彼は既に永久の眠りに入てゐました。十九世紀後半の最大思想家は既に其考ふる事を中止してゐました。私は寢臺の上に横はつた彼を見、同時に死のために一層の嚴めしさを增した彼の顏を見ましたけれども、私は尚此天才が其高遠卓絶なる思想を以て今迄盡瘁してゐた世界の勞働運動から遠つたものと信ずることは出來ません。――』と。是はマルクスの盟友フリードリツヒ・エンゲルスが倫敦よりウイルヘルム、リーブクネヒトに宛てゝ送つた手紙の一節である。吾々は彼の此手紙を透して世界の勞働運動史に貢献したるマルクスの地位と其能力とを判定する事が出來る。カール・カウツキーは『マルクスを征服するものは唯其學說の實行者あるのみ』と言つたけれども、事實においてマルクスを征服するものは――尠くとも吾々の判斷し得る限りにおいてはマルクス其自身を離れて無い。洵にマルクスの一生はその evolutionary な部分と Revolutionary な部分との錯雜交結

するものであると言て差支ない。——私は今異常な史的興味からマルクスの生涯史に筆を執らうとする。

『二』

普佛戰爭は獨佛の勞働者にとつて明に一つの大いなる恐慌であつた。佛國勞働者は日耳曼勞働者と同じく、此戰爭に抗議したけれども彼等は是に滿足する事は出來なかつた。普國侵入軍の進んで巴里を圍む時において食に飽いたる幸福なる多くの愛國者は直ちに之を敵軍に交附せんとしたけれども平生祖國を愛せざる勞働者は反て之が防衞に盡した。卽ち彼等はThier並びに其同僚の愛國者の狡計によつて放棄せられたる其共和制を防護した。

そして佛國が其勞働階級の武器を以て起たんことを恐れて勝利者たる獨逸人の足下に拜跪すると共に、勞働階級共和政救護を目的として蜂起した。時に一八七一年三月十八日である。

かくてコムミユーンは來た。此望無くして而も必要なる共和政の敵、卽ち勞働階級の敵に對する奮鬪を事情の容す限り良好に遂行せしむるの事業は、率然として萬國勞働者同盟の頭上に落下して來た。かくて、コムミユーンは優勢なる武力によつて鎭壓せられた。その結果、當時文明世界の恐怖たる萬國勞働者同盟は到る處に法律の保護を奪はれた。

コンミユーンは如何なるものであつたか。——その奮鬪と滅落とは何を意味したか。そのすべての解釋は萬國勞働者同盟の設立者の一人として、同時に此一揆に加はつたカール・マルクスによつて書かれたる "The Civil War in France" によつて爲されるであらう。

萬國勞働者同盟はコムミユーン沒落の後全く其地位を一變した。外においては實際運動の戰場に全く鎖され、內においては黨派の相違と空想的陰謀とが漸くその頭を擡げて來た。その時におけるマルクスの位置は言ふまでもなく同盟の主腦者であつたが、その事務と責任とは次第に增加して來た ——此時恰も强烈に彼の頭に動いたる意識は彼の宿年の希望たる『資本論』の完成であつた。此處において彼はバクーニン一派との分離を遂げたる後、其本部を紐育に移すべき事を提唱し、一八七三年におけるヘーグ大會は之を可決した。此一事は暫く彼を社會的批難の的たらしめたけれども、何れにもせよ彼は之を以てその一身を科學的事業に捧ぐるを得、その宿望たる資本論のために全力を注ぐ事が出來る樣になつた。此間においてマルクスの事業は日一日と增加して來たが、彼は尙各國、殊に獨逸の勞働

運動に對する注意を忘れなかつた。

一八七五年、ラサール派とリーブリネヒト派との連合大會が開くる時に當て彼は長文の書を送りその綱領につきて論ずる所あり、當時マルクスの意見は、兩派連合の機會を逸する處あるが爲めに、直ちに採納せられなかつたけれども、社會黨鎭壓法の廢止後、エルフエルト大會における綱領改正の際には彼の意見は全く採用せられた。

かくて過度の勞働によつて得たる病は元來强健であつた彼の體軀を銷磨し、ために、彼は一八七〇年代において或はカルルスバツドに、或は佛國南部に、其病を養はざるを得なかつた。けれども群り到る家庭の不幸は遂に死を以て彼を壓服した。

一八八一年十二月二日、彼の妻――彼の友人而して彼の同志であつた夫人チエンニーは死んだ。――彼女の死は同時に彼の死であつた。

かくて同じき年の三月十四日、彼も亦忽焉として死の床に就いた。

『三』

彼の大著資本論の第一卷が出たのは一八六七年である。是れ亦凡ての大事件の如く其眞價は容易に世に認められなかつた。然し乍ら其勢が燎原の焔となるまでにはあまり多くの時間を費さなかつた。恰もダアキンの『種の起源』が生物學における と等しく、マルクスの『資本論』は今や終に社會學、政治學を支配するに到つた。

けれども事實においてマルクスの完成したるものは僅に資本論の第一卷に過ぎなかつた。

物語の牡獅子は六匹の子を産む事が出來なくて唯一匹を産んだ事を以て猫に笑はれた時傲然として答へて言つた。『然り、唯一匹に過ぎないけれども、それは獅子だ』と答へた。まことにマルクスの産んだ資本論第一卷は牡獅子が産んだ唯一匹の獅子である。

其他の卷はマルクス死去の當時、尙未だ完成せられなかつたけれども略々印刷に附するまでに到つてゐたので彼の分身たるエンゲルスは彼の希望に從て、之を校訂して世に公にした。

『資本論』第一卷出版の年を隔つること三年、一八七〇年、普佛戰爭は、ビスマルク鐵血政略の當然の結果として起つた。比時、マルクスは氣象學者が空氣の流動を觀察する如く、政略の運動と、事件の發生とを一定の法則によつて推察する歷史研究者の眼光を以て終始時局を觀察じた。

マルクスは當時獨逸社會民主黨の態度に全然贊意を表し

セダン陷落の後、王朝的愛國者が其假面を脫却して侵略的戰爭の實を顯はすや彼はブランズヰックにおいて開かれた同黨代議員會に一書を送り、書中詳に時局の眞相を暴露し、侵略戰爭の結果を的確に指示した。此書はブランズヰック宣言の名によつて公にせられた。

『四』

マルクスをして政治界に誘出したるものは言ふ迄もなく伊太利戰爭であつた。佛蘭西皇帝ボナパルトは其漸く危險に瀕せんとする王權を鞏固ならしめんと欲し、伊太利の自由のために墺太利に向て戰を宣し、かくてクーデターの皇帝は忽ちにしてデモクラシーの辯護者と化した。當時倫敦に於ける獨逸亡命者は雜誌を刊行して頻りに佛蘭西帝國の野心と慾望とを摘發した。マルクスも亦旺に其雜誌に寄書して萬丈の氣焰を擧げた。軈て瞬時にして勞働運動にとつて好適の時期が迫つて來た。從來迄其獨立の運動能力を奪はれてゐた勞働運動は今や全く獨立したる運動として顯はるるの方途を與へられた。當時英國においてはチャーチスト黨は業に既に其滅落の時代を迎へ、ブルヂョアによつて立てゐた勞働組合は最早進步的の勞働者を滿足せしむる事が不可能になつて來た。

佛蘭西に於ては流血の悲慘を見たる六月戰爭の後において勞働運動は一時全く衰滅したるが如き形勢を示したけれども古き革命の血は今や再び彼等の胸奧に洶湧して來た。獨逸においては、ファーディナンド・ラッサルに依て促進せられたる獨立の勞働運動が漸く其基礎の安固ならんとするの傾向を示して來た。此時に於てマルクスは今や諸國に分離したる勞働運動を統一して其根本に International な性質を含有せしめなければならないといふ事を痛感して來た。

一八六三年四月廿八日波蘭に對する同情の會合が倫敦に開かれ、其會合の席上に於て、The Internatihnal Working Men's Association を設立すべき議案が通過した。それより三ヶ月の後、再び波蘭に對する同情會が倫敦に開かれた。その席上において社會問題が旺に討議せられ The International Workingmen's Association" 設立の議案が再び可決せられた。かくて、明くる年の四月、勞働者の代表者は巴里より來て獨逸、波蘭、英吉利、及び阿米利加の代表者と協議會を開き國際勞働者同盟設立の目的を以て、國際勞働代表委員會を召集すること、及び之に要する準備をマルクスに托することを決議した。

其後五ヶ月を經て、一八六四年九月廿八日、國際勞働者

同盟 "The International Workingmens Association" は倫敦において設立された。マルクスは進んで此新組織の宣言、綱領、會則を起草したけれども、其主たる目的は之を戰鬪機關となすに非ずして、勞働階級解放運動に一箇の中心點を與へんとするに在つた。而して此國際勞働者同盟の設立は實に十六年前、共産黨宣言によつて全世界の勞働者の前に叫ばれた彼れの『萬國勞働者よ、團結せよ』といふ訴への一部の實行であつた。

『國際勞働者同盟』は復古黨によつて陰謀家の巣窟と呼ばれてゐた。而して實際においては此團結程非陰謀的な團體は嘗て無かつたと言つて良い位であつた。若し之を目して强ひて陰謀と言ふならば、そは言ふまでもなく勞働運動の陰謀であつて、自然界の如く、人類の歷史の如く公明なる白晝公然の陰謀であつたのである。

マルクスは曩に倫敦亡命の初期において、意力と獻身的行爲とによつて世界的革命を成就し得ると空想した革命煽動家と戰つたのであるが、その當時に彼の敵の對照であつたウイリツピ一派は、此處に新らしきバクーニン一派となつて『國際勞働者同盟』の中に再現し、マルクスは又此處に前と同一の戰を戰はざるを得なくなつたのである。

『五』

一八四八年六月以後――巴里における六月戰爭が恐れ、戰ける紳士閥に對して、勞働階級が既に戰鬪力を有する年齡に達せるを示したる後、革命運動は次第に其高度の熱を失ひ始めて來た。

九月九日、Robert Blum は維納において戒嚴令の下に銃殺せられ、同日 Wrangel は伯林に入て臨戰區域の布告を發した。けれども明くる年の春、普魯西王を始めとして其諸侯が憲法を拒絶するや革命の波は再び起つた。

革命黨は干戈に訴へて最後迄決戰すべきか、若しくは復古派によつて鎭壓せしめらるゝか、二者何れかを選ばなければならなくなつた。

而して、ペンの時は瞬間にして去つて軈て劍の時が來た。

その時エンゲルスは無効なるを知りつゝも、バーデン及びパラチネートに赴いて自ら憲法運動に參加し、マルクスは急遽巴里に赴いて智識階級の急進派の紳士閥打破の運動を目擊した。けれども此運動も亦其根柢に於て誤たざるを得なかつた。何となれば勞働者の味方を有せざる中等階級は全く價値と權威とを有せざるものであるからである。而

して勞動者の血は既に或は一八四八年六月銃丸の下に流出し、或は乾燥したる斷頭臺、（ドライ。ギロチン）と稱せられた囚人殖民地において涸渇し盡した。——果して此運動は失敗に歸した。一八四九年の『六月十三日』は唯徒に急進的知識階級の無力を表現したるに過ぎなかつた。

かくて失敗したる運動の主腦人物たるルドルー、ローランは『六月戰爭』の後共同黨ルイ・ブランの後を追て倫敦に赴いた。マルクスも亦政府の命によつて佛國滯在を禁ぜられて倫敦に赴いた。南船北馬七年を經過して、彼は始めて此處に暫く其足を留めた。けれども安寧と幸福とは彼のために竟に來なかつた。

マルクスは倫敦において世界何れの地においても望見する事の出來ない政治上、並に商業上の活劇を觀察してその思ふが儘に著書の材料を得るの便宜を得た。『資本論』は實に斯の如き狀況の下に於て得られたる收獲であつた。

一八五二年竟に『共產主義同盟』は解散した。共產主義同盟の解散後、マルクスは科學的硏究と新聞寄稿とに其一身を捧げ、『ニューヨルク・トリビューン』の寄書家として、絕えず同紙上に、政治經濟に關する大論文を出し、一八五九年其著『經濟學の批評』を公にした。是れ彼の價値論の始めて世に出でた第一步である。

『六』

共產主義同盟が獨逸亡命者によつて巴里に設立せられたのは一八六三年である。それはマルクスの入會前において は多少の陰謀的臭味を帶びた結社であつたが彼の入會と共に其性質を一變した。當時彼と共に其中に在つたエンゲルスは語て言つた。『唯事情已むを得ざるがために秘密結社としたけれども、此同盟は今や共產主義傳道の單純なる一機關となつた。而して、これこそは實に獨逸社會民主黨の第一組織であつた。此同盟は獨逸勞働俱樂部の在る所には必ず成立した。英國、白耳義、佛蘭西、瑞西における獨逸人俱樂部の殆んど全部と、獨逸における多くの俱樂部との主なる會員は皆此同盟に加入した。而して、此同盟は一方において獨逸勞働運動の勃興に與て力あつたと共に他方において英人、白人、匈牙利人、波蘭人の入會を許し、殊に倫敦に萬國勞働者大會を召集することによつて勞働運動を萬國的にするの必要を切言し、且之を實行に現はしたる最初のものであつた』と。

共產黨宣言は二月初旬に發表せられた。（創刊號『新ラインン新聞を起すまで』參照）同月二十二日、革命の噴火口は十八ヶ年靜止の後再び玆に爆發した。革命は遂に來た。示

威運動は到る處に行はれた。

白耳義政府は從來幾度びか普魯西政府よりのマルクス放逐の請求を斥けたけれども玆に到て大いにおどろき直ちにマルクスを捕へて之を國境に護送した。

マルクスは佛國州政府の一員たる其友フロコンの招きに應じて急いで巴里に赴いた。巴里において彼は其最善の力を盡して革命を助けたか、彼は更に騷擾を擴大せんとするエルヱー Herwegh の計畫には斷乎として反對した。間も無く彼は獨逸よりの吉報に接した。彼の革命的活動の舞臺は今や其本國に展開せられた。三月、彼は五年間中絕したるライン新聞再興の計畫を抱いてコローンに歸つた。

新ライン新聞は非常な勢を以て竟に生れた。然し政府の黑い手は軈て此芽生を剪取てしまつた。

『七』

マルクスの生れたのは獨逸古都の一として知られたるトレフエス、時は一八一八年五月五日、遠き羅馬文明の記念と近き佛蘭西革命の痕跡との間において一猶太人の家に生れたる子供が卽ち彼であつた。

――先づ暫く其背景について語らしめよ、時はライン諸州が普魯西領となつたる後四年であつて、當時新領主普魯西は『神聖同盟』に役せられ倉皇として佛蘭西の異端邪說を一掃し代ふるにキリスト敎的獨逸思想を以て掩はんと努めてゐた頃であつた。

マルクス生後幾干もあらずして、猶太人はキリスト敎に改宗するか、公職を扱ふ公事と全く關係を絕つか二者其一を選ぶべしといふ勅令が下つた。優秀なる法律家であつたマルクスの父は涙を呑んで此勅令に屈した。彼は家族と共にキリスト敎の信仰を採用したが其後二十年マルクスの成人するや彼は其の著『猶太人問題』において此暴逆なるプロシア政府の行爲に對して第一の論駁を試みた。而して彼の全生涯は論駁にして又復讐であつた。

マルクスは旣に其小學時代において儕輩の愛慕畏怖の標的とされてゐた。彼の愛慕せられたのは常に率先して惡戲の仲間入をしたためであり、彼の畏怖せられたのは彼が善く深刻なる諷刺詩を作て其敵を嘲笑の渦中に投じたるがためである。彼は普通の課程を終つた後、最初はボンヌ大學に、次はベルリン大學に入つたのであるが、彼は先づ父の意を滿たすために暫く法律を學び、後自己の意を滿さんがために歷史及び哲學を硏究した。

一八四二年、彼がボンヌ大學の哲學講師となり、其思想上に一大變轉時代を經過して、彼の將來の運命に新らしい安定點を築き、同年ライン新聞に携り、翌年同紙が發賣禁止になつて、彼の短かからぬ放浪の生涯が始まる迄の事は此處に省略する。(四月號『新ライン新聞を起すまで』參照。

一八四八年のカアル・マルクス

甲野哲二

(一)

カアル・マルクスがエピキロスの哲學に關する論文で、イエナ大學からドクトル・フイロソフイの學位を受けたのは、一八四一年四月十五日の事である。學者的であつた彼は、學問生活を繼續する爲に大學の教員を志望して居たが先輩ブルノー・バウアーが其宗教上の著作（Kritik der evangelischen Geschichte der Synoptiker）の爲にボン大學の教壇を去るに至つたので斷念するの止むなきに至つた。

かくてマルクスは新聞へと志すに至つた。ライン新聞の記者として、彼は始めて、自己の生活を送ることになつた。一八四八年のカアル・マルクスに就て語るには、このライン新聞以來の彼が放浪生活の大體を知らなければならない。

(二)

ライン新聞は、其地方に於ける有産階級中の最も急進主義者が其思想宣傳の爲に、發行した日刊政治新聞であつたが、一定の思想の代表機關ではなかつた。然し其内には多くの不平分子が集つて居た。ブルノー・バウアー、フリードリツヒ・コツペン、マツクス・スチルナー、モーゼス・ヘツス、ゲオルク・ヘルウエー、カアル・マルクスを其寄稿家の内に數へることが出來る。マルクスはこれ等の人人の内最も年少のものであつたらしい

カアル・マルクスの文章と其ジャーナリストとしての才能とが認められる樣になつたのは彼の入社以後間もなくであつた。一八四二年十月には、彼は編輯長に任ぜられた。マルクスは其職に就くと直ちに、言論の自由の爲に、嚴酷な當局の檢閲に對して論理鋭く攻撃の筆を振つた。全獨逸は其筆端の華麗と大膽とに驚異の眼を見張つた。彼は實にドイツ政治評論界に表はれた彗星であつた。

攻撃の猛烈さに驚いた當局が新聞社に對して警告を發したのは、マルクスが編輯長就任後一二週を出でなかつた。然し、マルクスの態度は改たまらず。當局の壓迫は益々其度を加へて行つた。一八四三年一月廿八日のライン新聞の

第一段には、撿閲官の命令に依り、四月一日以後其發行を繼續することの不可能なる旨の公告が出た。越えて二月十七日の株主總會は編輯長を辭任せしむることを決定し、更に、當局に對して、懷柔運動をしたのであるが、すべては功なくして終つたのである。マルクスが其社を去つた數日後の三月廿三日ライン新聞は、其最終號を出すに至つたのである。「急進主義の假面は振り落され、絕大な專政主義は素顔のまゝに全世界の眼前に表はれた」とマルクスはアーノルド・ルージュに書き送つて居る。

(三)

アーノルド・ルージュは若きヘーゲリアンで詩人であつた。彼は一八三八年以來彼の友人と共に、ハレ年報 Hallesche Jahrbücher für deutsche kunst und Wissenschaft と言ふ文學、哲學に關する價値ある年報を出して居た。年報の論調は頗ぶる急進的のものであつたので常々當局や保守主義者の注目する所であつた。年報はハレで編輯せられ、ライプチッヒで發行せられた。と言ふのは、プロシア官權の干渉を避ける爲であつた。けれども、政府は、ライプチッヒで出版することを禁止し、ハレに於て出版し其檢閲に服せねばならぬと命令した。ルージュは一人ドレスデンに移つて、一八四一年獨逸年報 Deutsche Jahrbücher と言ふ新しい名前が其第一號を出したのである。この年報には、ルージュ、バウアー、フォイエルバッハ、マルクス等も寄稿した。其誌上の詩は、最も急進的で吾々は彼等の內に、ハイネ、ホフマン、フォンファラースレーベン、ゲォルク、ヘルウエー等を數へることが出來る。この獨逸年報は、其論調の爲に、一八四三年サキソン政府の爲に、禁止せられたのである。

(四)

ルージュは其年報の復活を考へて居た。彼は、ツーリッヒから其年報を出したい希望であつた。然し、マルクスは寧ろパリから其年報を出すことを望んだ。と言ふのは、マルクスが其ライン新聞時代に、ローレンツ、フォン・シュタインの「佛蘭西社會運動」に就て、批評の筆を振つたことがあるが其からフーリエー、サン・シモンの社會主義に興味を持ち始め更に深い研究を積む爲に、巴里を便宜としたからである。ルージュはマルクスの考に贊成して、先づパリに赴き獨佛年報發行の爲に、準備をして居た。マルクスは、數ケ月後之に加はる筈であつた。

四つ年上のイエニー・フォン・ウエストファレンと結婚

したマルクスは、ライン流域のビンゲンに新婚旅行をした後に、其夜にパリの都へと行つたのである。マルクスは、歡迎せられた。彼は早くもハインリツヒ・ハイネ、ミカエル・バクニン、ヨセフ・プルードン、カツベ等を、其會員とする急進主義者の一團中の有力者となつたのである。

(五)

マルクスは、サン・シモンの社會主義に大なる興味を感じた。プルードンが嚴正な批判的態度でサン・シモンの學說に對したのは、マルクスが其學說を理解するのに、大邊便利であつた。そして、彼等の論爭は、マルクスにも、プルードンにも有益なものであつた。マルクス自身もプルードンの思想に價値を認め彼をフォイエルバツハに比して居る。一八六五年のベルリンの社會民主主義誌に、寄せた、手翰中に言ふ。「プルードンのサン・シモン、フリーエーに對する關係はフォイエルバツハのヘーゲルに對するそれである。ヘーゲルに比すれば、フォイエルバツハは甚だ貧弱なるを感ずる。然し乍らヘーゲル以後にありては、彼も亦一時期を劃すべき思想家である」と。

(六)

かゝるアトモスフィヤーの内にあつて、マルクスとルージュとが獨佛年報の二册分合册を刊行したのは一八四四年の初めである。其寄書家として吾々は、マルクス、ルージユ、ハイネ、バアクニン、ヘルウエー、フォイエルバツハ、エンゲルス等を揚げることが出來る。かゝる一代の俊才を集め得た年報も僅か一回の刊行のみで終つたのは、吾々の極めて遺憾とし不可思議とする所であるが當時、佛國の寄書家に有力者を得ざりしと、財政の窮乏甚だしかつたことに加へてルージュはマルクスが社會主義を信ずるに至つたことに飽き足らなかつたと言ふことが其大きな原因となつて居るのである。

マルクスは、獨佛年報に二篇の論文を寄せた。其一は、ヘーゲルの「法律哲學」の批評に對する序論で著しく政治評論的色彩を加へたものでその全篇に渉つて、フォイエルバツハの影響を見るのである、けれどもこの論文に於ても彼の獨立の思想を見ることが出來る。そは、唯物史觀又は經濟的史觀である、而して唯物史觀がマルクス學說中の最も重要なものであるのはマルクス研究者の均しく認むる所である。

其二は、ブルノー、バウアーの猶太人問題に對する批判である。マルクスに就ては猶太人の問題はバウアーの言の

如く宗教の問題にあらずして、經濟問題である。而して、猶太人の社會的解放は彼等を實際的猶太主義卽ち商業主義と金貨とより解放するによつて得るとなしたのである。

(七)

一八四四年九月は、マルクスに取つて、忘れ難き時である。彼の一生の親友、一生の協働者フリードリツヒ・エンゲルスと初めて會へる時である。エンゲルスとマルクスとは、マルクスがライン新聞時代既に文通があつたのであるが、面接したのは、この九月を以て、始めとする。

エンゲルスは千八百二十年十一月廿八日ラインのバーメンに生れた。長じて商業界へと進んだが其學問を捨てなかつた。そして、彼がベルリンの徒丁時代、軍務服役の時代の餘暇はずつと哲學の研究に費された。彼も亦時代の子である。彼も亦若きヘーゲリアンたることを脫れなかつた。

一八四二年エンゲルスは、其父の經營せる製造工場と地位を得て、英國に向つた。思想問題等に注意を怠らなかつた彼は、チヤーチストの運動に多大の興味も覺え、年老いたロバート・オーエンと交を結び其の「新道德世界」に寄稿したのである。一八四二年から四四年までエンゲルスは英國の產業狀態を深く研究し、一八四四年其故鄕バーメンに歸つてから、其研究の成果を「一八四四年に於ける英國勞働者階級の狀態」として、四五年獨逸に於て出版したのである。

(八)

マルクスとエンゲルスとが親交を結ぶに至つたのは、極めて自然である。彼等の思想は最もよく、これ等の事情のあるべきを表はして居る。マルクスは、既に、佛蘭西初期の空想的社會主義の行きつまれるを觀破して居つたことは其獨佛年報に寄せた論文を見るも明かである。エンゲルスも亦「英國勞働階級の狀態」に於て、チヤーチスト運動並にオーエン流の社會主義が勞働者階級の幸福增進の爲に、よく爲す無きを見たのである。

されば、一八四四年の秋、エンゲルスが其故鄕バーメンに歸省の途次パリにマルクスを訪ふた時、既に、其根本思想の合致を見出したのである。而して、空想的社會主義に對する斯る見方こそ、彼等の大事業の一なる共產黨宣言の根本思想であるのを知るのである。

マルクスとエンゲルスとは、エンゲルスがバーメンに歸る前に青年ヘーゲル派に對する態度を定めた。ブルノー・バウアー、マツクス・スチルナー、ルトウヰヒ・フォイエ

ルバッハこれ等のマルクスの知友が青年ヘーゲル派であつた。この事は、一八四五年「神聖家族」の刊行に依て、なされたこの書は、マルクスとエンゲルスとの共著ではあるが、エンゲルス自らの言ふ所に依ると、殆んど其全部をマルクスの筆であるとして居る。此著に依つて彼等はヘーゲル派の唯心論より明白に分離することになつたのである。

其重要な思想はマルクスに於ける唯物史觀の原理の經路を語るものである。獨佛年報に表はれた思想よりも、一層積極的に、唯物史觀を力說して居る。佛蘭西革命の經濟的原因を指示せる所に於て、佛蘭西革命時代の個人が古代の個人と異るは、彼の經濟的產業的狀態が相異する爲であると、なして、歷史に於ける經濟的要素の重要なるを指示して居る。而して、この著は、フォイエルバッハの說を批評して居るけれども、まだ全篇を通じて、彼の影響の著しかりしものがある。

(九)

獨佛年報の失敗後間もなく佛國在住の自由思想の獨逸人の購讀を目的とした急進主義の一雜誌「フォアウエルツ」が發行せられた。發行者は俳優のヘンリー・ベルンシユタインで初期の寄稿家はハイネ、ヘルウエー、ヘツス、バアクニン、アーノルド・ルージユ等であつた。

マルクスもこの雜誌に加つて、直ちにプロシア政府を攻擊したのである。プロシアの官僚は、其猛烈な攻擊に默することが出來ず、遂に佛國政府に、其雜誌の禁止と記者の追放とを要求したのである。時の佛國首相ギゾーは一八四五年一月「其要求に應じた」。

マルクスはブルッセルに逃れた。

近世社會主義の眞實の發生地は實にこのブルッセルである。

—（未　完）—

近世社會主義の誕生は、一八四八年の共產黨宣言がそれであると見るのは極めて、妥當であると思ふ。而して、一八四八年の事を語るには、マルクスの準備時代を語らればならぬ。私がマルクスの大學卒業からの行動を大略語つた所以である。其最も貴重な材料を John Spargo, Karl Marx: His Life and Work に得たことを附け加へて置く。

Claraの言葉

關　未　代　策

私はMiss Claraです。私は一八一九年四月三日——恰ど櫻の花が咲きそめる頃、この世界に生れおちました。併し私がこの世界に生れることに就いては、未だ嘗つて只のいち度だつて希望したことはありませんでした。明かに私は私の父と私の母との偶然的所産なのです。ですから、私と私の親とは最も近い血統的關聯が在る以外に、何等の意味も有たないのです、そうして私が凡べての青年の瞳を、殆んど狂的に輝かせる所謂年頃まで厄介になることを他にしては……。

私は先づ疑ひます。私がまだ眼をみ開かない間に——些しも意識しない前に、この私が他の人手に移されて、私以外の凡べての世界の人々が私と何等血統的傳統の無い人々を父とし母と呼ぶ時は、私は未來永劫に眞の父も母も（それが大して尊敬すべきものでも無いが）識ること無しにこの世界から消え逝くことを餘儀無くされるでせう。故に、私は私の父が私の父であり、私の母が私の母であるといふことに對しては、そこに多分の疑問をさしはさまねばなりません。けれども私は幸ひにして、世に有名なるソシアルデモクラットの父と、そして私の父を感心させるほど美しい母とを私の親としました。斯くして私は明晰な頭腦と美貌とを傳統されました。そもそも私が母胎に在る時代、私を命名するにデモ子とか、ロウザ子とか或はクララ子とか、私等の高天原にはいとも適はしからぬ名が論議されました。そうして終に「クララ」が私のこの世に生きる間の名として定められました。クララとは獨逸に居る伯母さんのクララ・ツエトキンの名とおなじことに於て光榮とします。

私が呱々の第一聲をあげたところはS高臺にあるH病院の暖い南室でした。かなり昇つた朝の陽光が、窓に置かれたヒヤシンスの紅い花に流れてゐました。私は此處に二週間の時日を過ごしました。私の瞳の前には幾つかの動くものがありました。併しそれは南極のペンギン鳥に似た洋服の紳士と、眞白な布に包まれてゐるガブリエルに限られてゐます。これら幾つかの蠢動する物は、私を抱擁してゐる私の母と、毎日いちどづゝ笑顔を見せにくるラヂカリストの私の父と大した相違が無いので、ハテは人間の一種だなと默頭(うなづ)かれました。二週間は恁うして過ぎたのです。

二週間の後、私は○町の私の父母の家に初めて乗り込みました。私は母に抱かれて電車に乗りました。淡い夕陽が窓から莫迦に軟かに這ひ込んでゐました。私の前には疲勞し過ぎるほど疲勞した勞働者といふ人間が佇つてゐました。肉屋の店頭に下げられた牛肉のやうにグダッとぶらさがつてゐました。彼れは朝早くから十時間も十五時間も勞働して、いま貧民窟に歸らうとしてゐるのだナと想像されました。小半里も來たとおもふところ、電車の進行と逆に、素敵に大きな甲蟲が一目散に吼りをたてゝ、驅つて來ました。驚くまいことかこの甲蟲の中には、H病院の壁のやうに白い顏の所有者が鎭座ますではないか。彼女の首と腕と指とは眩いほど輝く寶石と貴金屬で飾られてゐます——恰度南洋の土人どもが鳥の羽やなにかで飾りたてるやうな意味で。これは資本家と名づけられるものだ相です。さては例の甲蟲こそおほく資本家の所有で、自働車といふ人間をひきころす文明の利器であると、私は瞬間に知識しました。ソコでこれも矢張人間の一種であるなと想ひました。併し、果して、それは人間の右翼に屬するか將た又左翼に屬するかを考察する暇なく、私達親子の——借物ではあるが——翠綠に包まれた家に到着しました。

ソレは五月一日の勞働記念日でした。私は母と日比谷公園の躑躅を觀ました。恰もこの日は勞働者にとつて月に二回の休日のひとつであつたのです。けれど勞働者は一人として私達の瞳に映じませんでした。彼等は公園に遊ぶには餘りに疲れ過ぎて居り、餘りに貧乏過ぎて居ました。歩く者は、未だ遊戲の他に汗を流したことの無い資本家ばかりでした。私がこの世界に現はれて、最初にして最高の驚きを與へられたのもこの日でした。前世紀の遺物として博物館に陳列されてゐる參考品の歩くのを看ました。兒供等は戲れの手を休めて羨望の眼を集めます。彼れの胸は勳章といふヒカ／＼光る物で充されてゐるのです。彼れの帽子には私の牛乳瓶を洗ふハケのやうなものが勇しく樹てられてゐます。私は言ふも戰慄されますが、彼れの腰には劍と稱する○○庖丁がくつゝいてゐるのです。私ははじめ道化役者かしら、それとも淺草の輕業師かしらと小首を傾けました。靜かにお聽きなさい、それは○○といつて○○を殺す人間なのです。

不幸にして私は、この恐るべき世界に暫くの間生きるべく運命づけられたのです。

（クララ女史は、M氏のたゞひとりの愛孃です）

□當世學者氣質

□學者と名のつくものに粗末なものゝ少くないことは今日に始まつたことではないにしても、近頃「學者流行」の結果は、お粗末低級な學者もまた屢々流行してゐるようである。

□三田學習院といへば慶應義熟のことであることは誰れにも分る。その三田學習院から新に博士になつた田中萃一郎君なぞも當世學者列傳中にはどうしても見逃しにならないお方である。彼れがこの正月に「東京日日」で書いた「普通選擧尙早論」なるものゝ馬鹿氣てゐたことは既に數多の人々に指摘されてゐるところであるからこゝには繰返していはない。たゞあの程度の學問と論理能力では、「普通選擧尙早か？法學博士尙早か？」といふ人のあるのも尤な次第だ。

□その「法學博士尙早」の田中君が最近に大阪毎日に寄せた「デモクラシーの限界」といふ論文を讀むだものもあらう。例のマロックの The Limit of Pure Democracy の飜譯、抄譯或は紹介である。その書物は拙者も一讀したものだがお話しにならないほど低級なものだ。イヤ例の北昤吉君でさへ引導を渡したマロックの紹介を十數回に亘つてしようとするものゝ馬鹿サ加減、學者と名のつくものでさへあればどんなトンマな奴でも有りがたがつて先生呼ばわりをする今の新聞記者の幼稚さ加減。無冠の宰相もあつたものか。

□田中「尙早博士」に次いで近頃人目を驚かせたのは中島玉吉といふ博士だ。この人の專門は何か知らないが博士だといふから學者の部類であらう。東西兩朝日にはこの「學者の部類」の博士さんの「米國とデモクラシイ」とか何とかいふような「大論文」が續きもので出た。それは今年の正月頃だつたらう。さうして學者と名のつくものに如何にトンマな奴のあるかといふことを天下に證明したわけだが、この點においては朝日新聞の大功績だ。

□法學博士にいろ／＼の品物のあることはこれだけでも分つたわけだ序にもう一人法學博士をもつてくる。中田薫といふ博士もあるさうだ。中央公論の五月號にこの人の「我國とデモクラシイ」といつたような論文が出てゐる。それによるとデモクラシーには政治的法律的の二通りがある……無論吉野博士の分類を摸倣したものだらうが……エライ「デモクラシー」もあつたものだ。今にもつと詳しい分類術上の「デモクラシー」――は法上のデモクラシーだとか公法上のデモクラシーとか「英法的デモクラシー」「佛法的デモクラシー」「獨法的デモクラシー」「日本的デモクラシー」「和魂漢才的デモクラシー」といふようなものも出てこよう。いやもう出てゐるのだ。法律的デモクラシーはイカン、政治的デモクラシーは宜しい。中田博士はこう主張してゐます。つまりデモクラシーにもイヽやつと惡いやつとある。法律的デモクラシーはイケナイといふのが中田博士の大發見だ。「和魂歐才的デモクラシー」でなくてはイケナイといふのです。　博士にもいゝのと惡いのがある世の中だからデモクラシーにもいいのと惡いのがあるといふのだらう。然りデモクラシーの內輪揉めだ。さうして學者の現實暴露だ！（閑外生）

編輯室と校正室

◆五月十五日のことである。青年會館で勞働同盟會とかいふものゝ演說會があつたので一寸立聽きをやつて見ました。イヤその亂雜なことゝきたら御話しにならない。

◆先づ制服の巡査が五、六十人ばかり控えてゐる有樣は宛然たる戒嚴令下の演說會である。その仰々しい演說會で何ごとが議せられてゐたか。「最低賃銀一圓！」幹部らしい男からこういふ提案が聞えてくる。一圓では米が二升だ。それで勞働者は生活ができるか。それで勞働者はエクスプロイテーションを免れることができるのか。

◆穩健か腰拔か、それともまた最低賃銀といふことの意義を知らないためなのか。アキレタものではないか。

◆そのまた會長とか議長とかいふものが「一身を犧牲にして」とか、私は「勞働運動に一身を捧げた」とか、あまり捧げるほどの「一身」でもないものを無暗ヤタラに勿體ぶつてゐたのは腹の底が見えて聽いてゐられない。

◆最も不思議なのは臨席の警察のお方である。ある一人の男が立上つて直接行動と「ジエネラル、ストライキ」とを主張し滔滔として論じ立てゝゐるのにそれには風馬牛の有樣でゐるではないか。「丁酉倫理」が「政治的サンヂカリズム」で發賣禁止になつてゐる世の中に、青年會館ではサンヂカリズムの宣傳も差支ないと見える。

◆それにしても當日の演說會で異彩を放つたのは和田むめを君の演說であつた。かくして日本のロウザ・ルクセンブルヒやベサントがだん／＼に出てくるわけだらう。

◆小川平吉さんの名前で政友會の外交辯明書が出た。山東問題は大隈內閣失政の結果面倒になつたのだといつてゐる。それも間違ひではないが、大隈內閣だけを攻めるのはどこまでも黨派的根性だ。寺內內閣對支の失政についてもゝう少し批判的良心を出してはどうか。

◆日本の社會主義中一番の學者であるといはれてゐる高畠素之君はこの頃またロシア語を大成し近くロシア語からの飜譯ものを出すとのことだ。

◆語學といへば社會主義者の間では一犯一語といふ話がある。ツマリ一度監獄に入ると外國語一つを覺えるといふことだ。だから大杉榮君は六犯六語だと。

◆資本及勞働問題研究會とかいふ交詢社資本閥の機關があるがその會から出した書物を見るとヘンダアソンの「The Aims of Labour」を「勞働の目的」と譯してゐる。勞働の目的では丸で純然たる經濟學の議論となるではないか。無論これは「勞働黨の目的」と譯すべきものだ。

◆いろ／＼な雜誌のでるのは結構だ。そのうちの一つに「改造」といふのがあるが、それ自身から先づ改造の必要がある。惡口をいふ人があつた。

◆例の佐藤鋼次郎だとか建部遯吾だとか田中萃一郎だとかいふ軍閥やその御用の連中が國民外交會とかいふものを造つたさうだが一層のこと正直に軍閥外交會とでも名乘つたらよささうなものだ。國民外交會では國民の方が迷惑するから

◆寶文社では今度社會主義叢書とかいふものを企てその第一篇に尾崎士郎茂木久平兩氏合著社會運動者評傳を出すさうだ。

過激主義と民主主義

ヂョン・スパルゴウ

こゝに譯出するはヂョン・スパルゴウの新著「ボルシエヴキズム」であります。彼れはソーシャル・デモクラシーの立場から過激主義を批評してゐます。この書物は今年三月紐育で出版されたものです。何れ全譯を出版したいと思ひます。(K)

過激主義(ボルシエウヰキ)の辯護者及び支持者達は、ペトログラードにおけるボルシエヴキの暴動の成功が殆んど血を見なくして行はれたといふことの事實を金科玉條とする。けれどもそれが軍事的のクウデタア卽ち暴力が人民の大多數の意思のうへに勝利を占めたといふ根本の事實を晦蒙にすることは許されるものではない。それは民主主義に對する罪惡である。受身であり、疲れてをり、迷ふてゐた人民が、憲法會議を待つことに滿足してゐたことの事實はボルシエヴキの罪惡をして益々明白とします。われ等をしてこの事實を簡單に考量せしめよ。憲法會議の選擧期日までは二週間に足りない時であつた。この偉大なる民主的會合の代表者の選擧戰は既に進行中であつた。それは如何なる國にも前例なき最も民主的憲法會議になるべきものであつた。何となればその議員はロシアにおける全人民によつて選擧せられたものであり、凡ての男も女も選擧權を與へられてゐたからであります。投票は平等、直接、普通、秘密であつた。

そのうへにその國民の偉大なる民主的改造がその當時において實際に進行中であつた。新らしき組織のセムストウォに、地方の自治的民主的政治團體の建設は急速に進行中であつた。昔のゼムストヴォは非民主的であり、さうして勞働者を代表してはいなかつた。けれども新しきゼムストヴォは普通、平等、秘密、直接投票によつて指名且つ選擧されたる代議士から成立つてゐたのであります。昔のゼムストヴォがその權力を著しく制限されてゐたのに反して新しきゼムストヴォは普通の地方政府の凡ての機能を與へられてゐました。

それと同時に憲法會議の議員の選擧についての實際の準

備が實際に行はれておつた。社會黨は無教育の選擧民に如何にして正しくその投票をなすべきかの方法を教へるために特別の努力を費しておつた。假政府もまたできるだけ速に選擧に對する準備を進めておつた。全國を通じて中心地方に、選擧を適當に行ふ準備としての勞働者の訓練をなすために特別の建物が建てられた。就中多年の間主張された土地の社會化の大問題は今やその解決が殆んど完成したといつてもさしつかえないところの舞臺にまで達してゐたのであります。國民勞農會は社會革命とともにこの問題について農民運動の願望とその指導者の最善の思想とを代表したる法律を作つておつた。その法律は大臣會議において贊成をうけさうして既に直ちに公布される準備のもとにあつた。チエルノフ、ラキテニゴフ、ヴクヒリアエフ、マスラウのやうな農民の指導者たちはこの法律を作るために非常な努力を費しました。その法律は無政府を避けることを目的とし、さうして、土地が農民によつて個人々々に奪ひとられるかはりにその問題が科學的に處理されること即ち土地が農民團體及び奪略されたる農民の間に正當に分配され、さうして宏大なる地所は協同的に組織され且つ支配されることを目的としてゐたものであります。

凡てこれ等のことは過激派も承知してゐました。何となればそれは常識であるからであります。過激派の辯解者の多くの人たちの主張――革命の目的を實現しその理想を實際と化するためには他に有効な方法がないといふ理由のもとに過激派が自暴自棄の戰術に訴へることゝなつたといふ主張は眞理ではないのであります。その正反對が眞理であります。過激派の暴動は、その首領等が、假政府が勞働階級の組織の大多數及び指導者と協力して革命の綱領を忠實且つ賢明に實行してゐるのを見たために、その指導者によつて俄に起されたものであります。

過激派は革命の理想を要求してはゐなかつた。何となれば彼等はこれ等の理想に反對しておつたからであります。ヘルゼンからケレンスキーに至るまでの凡ての爭鬪のうちにあつてロシアの革命運動は先ず何よりもさきに政治的民主主義を要求しておつた。今や政治的民主主義が實現された瞬間に過激派はこれを仆しさうして他のもの――即ち一億八千萬の國民のうへに僅に二十萬以下の少數黨の覇權を樹立することを求めておつたのであります。この目的については少しの爭ひの餘地もない。それはレーニンによつて極めて正直に述べられてゐます。丁度專制政治のもとにおいて十五萬の貴族的地主によつて一億三千萬のロシアの農民が支配せられてゐたごとく二十萬のボルシエヴヰキ黨が

その第四階級の意思を全人民のうへに强制しつゝある。けれどもこの度は全人民の利益のためである(1)』

註(1)、The New International, April.

レニンの數字は恐らくはボルシエヴヰキの數を誇張してゐるであらう。けれどもそれを正確なものであると想像しても宜しい。正しき判斷をなす何人か、ロシアの革命運の歴史の何ごとでも承知してゐながら、十五萬の支配階級の代りに二十萬の支配階級が一億八千萬の人民を支配することが、あんなに多數の生命を犧牲にすべき目的物であると信ずることができるか？健全なる且誠實なる何人かこのボルシエヴヰキの首領自身によつて述べられた階級支配が、憲法會議の綱領がその政治的民主主義基礎たる普通、平等直接、秘密、且つ凡てを決定する投票權のうへに立つてゐる憲法會議のなせるがごとき革命の理想の實現と相接近してゐるものであると信ずることができるか？われ等は決してレーニンの主張卽ちボルシエヴヰキは「全人民のために」その全人民のうへに彼等の意思を强制してゐることにおいて、この少數者の支配階級による新らしき支配階級が古るき制度のそれと異るものであるとするの主强を忘れてゐるものではない。如何なる支配階級かこの主張をなすことに失敗したか？凡ての革命時代を通じて、凡ての露國皇帝が、彼等はたゞ農民の利益と幸福に對する憂慮によつてのみ行動するものだとする殊勝な常套語を使つてきたことはそれの習慣としてきたところではないか？

レニンのような天與の聰明な人物が彼れのごとく道德と聰明とに反對したる辯解をもつて彼れの政策の辯明となしゐること、さうして自ら急進的革命運動者であると稱してゐる男女の諸君が默つてこれを承知してゐることはボルシエヴヰキ精神の淺薄なる性質についての奇妙なる例證であります。何年か前にアメリカのある著名なる資本家が大眞面目になつて、彼れや彼れのやうな人々は、神の代理者であり、「人民の幸福のだめに」產業を支配するの權能をもつてゐるものであると聲明したことがある。いふまでもなく彼れの天眞爛熳な要求はこの國における凡ての急進論者の嘲笑を挑發するに至つた。けれども私が一般の聽衆に向つて、レニンは二十萬の勞働者がロシアを支配する權利のあることを主張するものだと述べた時に、一つの例外もなしに、あるボルシエヴヰキの辯護者——大體社會主義者またはIWWの會員である——が、「然り、けれどもそれは人民のためにだ」といふ辯解をなしてゐることは不思議なことであります。

若しもボルシエヴヰキ革命の理想の實現されることを要

求したとするならば、彼等の暴動直ぐ前に存在した狀態が彼等をして假政府及び豫備議會を支持すべき國民的役務に就かしむることを要求してゐたことを承知したであらう。彼れのごとくによく進行しつゝあつた綱領の成功を脅かすべき何ものをも許容することはできなかつたであらう。實際においてこの綱領を破壞すべき決心が彼等の刺激的の動機であつたのである。彼等は政治的民主主義を恐れ且つ反對したばかりではない。彼等はまた等しく産業上の民主主義にも反對したのであります。この經濟生活上の民主主義は世界の凡ての社會主義運動が常にそれの目的であることを承認したものである。私の見るところでは、彼等は政治的覇權と産業的覇權を結合せしめてゐます。彼等は民主主義を要求したのではなくして權力を要求したのである。彼等はその權力を要求したことは、平和をさへも要求したことではない。(つゞく)

マクドナルド『戰後の社會主義』

マクドナルドは英國獨立勞働黨の首領である。昨年の總選擧でロイド・ヂョーヂから蹴落されたが本人は元氣益々盛んであります。『わが勞働黨はその會員においても道德的權威においても、空前のものである。』彼れはその新著「戰後の社會主義」のうちでこう申してゐます。

この書物は社會主義と戰爭、社會主義と國家、勞働組合の組織、勞働者の政治的獨立、社會主義者の議會、社會主義の綱領、國際政策、帝國主義的資本主義等の數章から成つてゐます。凡て國家社會の主義の立場から書いてゐます。一讀に値することは勿論です。(R. Macdo nald, Socialism after The War)

社會主義、民主主義、過激主義著書考

GENERAL WORKS: THE FOUNDERS OF SOCIALISM

Blanc, Louis: *Socialism.* An English edition was published in 1848.
——— *Organization of Labor.* English edition in 1848.
Booth: *Saint-Simon and Saint-Simonism.*
Cabet, Etienne: *Le Vrai Christianisme,* 1846.
Feuerbach, Friedrich: *Die Religion der Zukunft,* 1843-5.
——— *Essence of Christianity.* An English translation, 1881, in the "English and Foreign Philosophical Library."
Fourier, F. C. M.: *Œuvres Complètes.* 6 vols. 1841-5.
Gammond, Gatti de: *Fourier and His System,* 1842.
Gide, Charles: *Selections from Fourier.* An English translation by Julien Franklin. 1901.
Godwin, William: *An Inquiry Concerning Political Justice,* 1796.
Kingsley: *Cheap Clothes and Nasty,* 1851.
Morrell, J. R.: *Life of Fourier.* 1849.
Morris, William: *Works of; Chants for Socialists,* 1885.
Owen, Robert: *An Address.* etc., 1813.
——— *Address,* etc., 1816.
——— *An Explanation of the Distress,* etc., 1823.
——— *Book of the New Moral World,* etc., 1836.
Proudhon, Pierre Joseph: The Works of. English translation by Tucker. American edition, 1876.
Saint-Simon: *New Christianity.* An English translation by Rev. J.E. Smith, 1834.
Well, G.: *L'Ecole Saint-Simonisme—son Histoire,* etc., 1896.
Weitling, William: *Garantieen der Harmonie und Freiheit,* 1845.

GENERAL WORKS: MODERN DISCUSSION

Bebel, A.: *Woman, in the Past, Present, and Future.* An English translation appeared in London in 1890.
Bernstein, Edward: *Responsibility and Solidarity in the Labor Struggle,* 1900.
Brooks, J. G.: *The Social Unrest,* 1903.
Ely, R. T.: *French and German Socialism,* 1883.
Ensor, R. C. K.: *Modern Socialism.* A useful collection of Socialist documents, speeches, programs, etc.
Graham, W.: *Socialism New and Old,* 1890.
Guthrie, W. B.: *Socialism Before the French Revolution.* 1907.
Guyot, Y.: *The Tyranny of Socialism,* 1894.
Jaures, J.: *Studies in Socialism,* 1906.
Kautsky, K.: *The Social Revolution.* An English translation by J. B. Askew.
Kelly, Edmond: *Twentieth Century Socialism,* 1910. The most noteworthy of recent American contributions to Socialist thought.
Kirkup: *A History of Socialism,* 1909. A concise and authoritative narrative.
Koigen, D.: *Die Kultur-ausschauung des Sozialismus,* 1903.
Levy, J. H.: *The Outcome of Individualism,* 1890.
MacDonald, J. R.: *Socialism and Society,* 1905.
——— *Character and Democracy,* 1906.
——— *Socialism,* 1907.
——— *Socialism and Government,* 1909.
Mill, J. S.: *Socialism,* 1891. A collection of essays, etc., from the writings of John Stuart Mill touching on Socialism.
Rae, J.: *Contemporary Socialism,* 1908.
Richter: *Pictures of the Socialist Future,* 1893.
Schæffle: *The Impossiblility of Social-Democracy.* 1892.
——— *The Quintessence of Socialism,* 1898.

Sombart, Werner: *Socialism and the Social Movement,* 1909. Widely read, both in the original and in the English translation.
Spencer, Herbert: *The Coming Slavery,* 1884. A reprint from *The Contemorary Review.*
Stoddard, Jane: *The New Socialism,* 1909. A conveninent compilation.
Tugan-Baranovsky, M. I.: *Modern Socialism,* 1910. A systematic and scholary résumé of the doctrines of Socialism.
Warschauer, O.: *Zur Entwickelungsgeschichte des Sozialismus,* 1909.
Wells, H. G.: *New Worlds for Old,* 1909.

MARX AND ENGELS

Aveling, E. B.: *The Student's Marx.* A handy compilation. 1902.
Boehm-Bawerk: *Karl Marx and the Close of His System.* An English translation was made in 1898.
Engels, Friedrich: *Die Entwickelung des Socialismus von der Utopie zur Wissenschaft,* 1891.
Socialism—Utopian and Scientsfic, 1892.
——— *L. Feuerbach und der Ausgang der Klassischen Deutschen Philosophie,* 1903.
——— *Briefe und Auszuge von Briefen,* 1906.
——— *Friedrich Engels, Sein Leben, Sein Wirken und Seine Schriften,* 1895.
Marx & Engels: *The Communist Manifesto.* There have been many editions; that of 1888 is probably the widest known for its historical Introduction.
Marx, Karl: *The Poverty of Philosophy.* An answer to Proudhon's *La Philosophie de la Misère.* An English translation was made by H. Quelch, 1900.
——— *Enthullungen uber den Kommunisten Process zu Köln,* 1875. Engels' Preface gives an account of the origin of the "Society of the Just."
——— *Die Klassenkämpfe in Frankreich,* 1848-50.
——— *Revolution and Counter-Revolution in Germany in* 1848. An English translation appeared in 1896.
——— *Capital.* 1896.
——— *The International Workingmen's Association.* Two addresses on the Franco-Prussian War, 1870.
——— *The International Workingmen's Association—The Civil War in France.* An address to the General Council of the International, 1871.

THE INTERNATIONAL

Dave, V.: *Michel Bakunin et Karl Marx,* 1900.
Engels, F.: *The International Workingmen's Association,* 1891.
Froebel, J.: *Ein Lebenslauf*—for an account of Marx vs. Bakunin.
Guillaume, J.: *L'Internationale: Documents et Souvenirs,* 1905.
Jaeckh, Gustav: *L'Internationale.* An English translation was published in 1904.
Jæger E.: *Karl Narx und die Internationale Arbeiter Association,* 1873.
Maurice, C. E.: *Revolutionary Movements of 1848-9,* 1887.
Testut, O.: *L'Internationale—son origine, son but, son principes, son organisation,* etc. Third edition. 1871. A German edition translated by Paul Frohberg, Leipsic, 1872.
——— *Le Livre Bleu de l'Internationale,* 1871.
Villetard: *History of the International.* Translated by Susan M. Day, New Haven, 1874.
Ein Complot gegen die Internationale Arbeiter Association, 1874, gives a careful version of the Marxian side of the Bakunin controversy.
"International Workingmen's Association"—"*Procès-verbaux, Cougrès à Lausanne,*" 1867.
Troisième Congrès de l'Association Internationale des Travailleurs, Brussels, 1868.
Manifeste aux Travailleurs des Compagnes. Paris, 1870.
Manifeste addressé à toutes les assoociations ouvrières, etc. Paris, 1874.
International Arbeiter Association Protokoll. A German edition of the Proceedings of the Paris Congress, 1890, with a valuable Introduction by W. Liebknecht.

FRANCE

Jæger, Eugen: *Geschichte der Socialen Bewegung und des Socialismus in Frankreich,* 1890.

Jaurès, Jean: *L'Armée Nouvelle—L'Organisation Socialiste de la France,* 1911. The initial installment of the long-promised account of the Socialist state.
Lavy, A.: *L'Œuvre de Millerand,* 1902. An appreciative history of Millerand's work. Contains many documents, speeches, etc.
Peixotto, J.: *The French Revolution and Modern Socialism,* 1901.
Von Stein, Lorenz: *Der Sozialismus und Communismus des Heutigen Frankreichs,* 1848.
Weil, Georges, *Histoire du Mouvement Socialiste en France,* 1904.

BELGIUM

Bertrand, Louis: *Histoire de la Démocratie et Socialisme en Belgique depuis 1830,* 1906. Introduction by Vandervelde.
——— *Histoire de la Coopération en Belgique,* 1902.
Bertrand, Louis, et al.: *75 Années de Domination Bourgeois,* 1905.
Destree et Vandervelde: *Le Socialisme en Belgique.*
Langerock, H.: *Le Socialsme Agraire,* 1895.
Steffens-Frauweiler, H. von.: *Der Agrar Sozialismus in Belgien,* Munich, 1893.
Vandervelde, Emile: *Histoire de la Coopération en Belgique,* 1902.
——— *Essais sur la Question Agraire en Belgique,* 1902.
——— Article on the General Strike in *Archiv für Sozial Wissenschaft,* May, 1908.

GERMANY

Bebel, August: *Die Social-Demokratie im Deutschen Reichstag.* A series of brochures detailing the activity of the Social Democrats—1871-1893.
——— *Aus Meinem Leben,* 1910. An intimate recital of the development of Social Democracy in Germany.
Bernstein, Edward: *Ferdinand Lassalle und Seine Bedeutung für die Arbeiter Klasse,* 1904.
Brandes, Georg: *Ferdinand Lassalle: Ein Literarisches Charakter-Bild.* Berlin, 1877. An English translation was published in 1911.
Dawson, W. H.: *German Socialism and Ferdinand Lassalle,* 1888.
——— *Bismarck and State Socialism,* 1890.
——— *The German Workman,* 1906.
——— *The Evolution of Modern Germany,* 1908.
Eisner, K.: *Liebknecht—Sein Leben und Wirken.* 1900. A brief sketch of the veteran Social Democrat.
Frank, Dr. Ludwig: *Die Bürgerlichen Parteien des Deutschen Reichstags,* 1911. A Socialist's account of the rise of German political parties.
Harms, B.: *Ferdinand Lassalle und Seine Bedeutung für die Deutsche Sozial-Demokratie,* 1909.
——— *Sozialismus und die Sozial-Demokratie in Deutschland.*
Hooper, E. G.: *The German State Insurance System,* 1908.
Kampfmeyer, P.: *Geschichte der Modern Polizei im Zusammenhang mit der Allgemeinen Kulturbewegung,* 1897. A Socialist's recital of the use of police.
——— *Geschichte der Modernen Gesellschafts-klassen in Deutschland,* 1896.
Kohut, A.: *Ferdinand Lassalle—Sein Leben und Wirken.* 1889.
Lassale, Ferdinand: *Offenes Antwortschreiben an das Centrail-Comité zur Berufung eines Allgemeinen Deutschen Arbeiter Congress zu Leipzig,* 1863.
——— *Die Wissenschaft und die Arbeiter,* 1863.
——— *Matcht und Recht,* 1863. A complete edition of Lassalle's works was published in 1899, under the title "Gesamte Werke Ferdinand Lassales."
Lowe, C.: *Prince Bismarck: An Historical Biography,* 1885.
Mehring, F.: *Die Deutsche Sozial—Demokratie—Ihre Geschichte und Ihre Lehre,* 1879. Third edition. A compact narrative.
Meyer, R.: *Emancipationskampf des Vierten Standes,* 1882.
Naumann, Friedrich: *Die Politischen Parteien,* 1911. History of German political parties. A Radical account.
Schmoele, J.: *Die Sozial-Demokratische Gewerkschaften in Deutschland seit dem Erlasse des Sozialisten Gesetzes,* 1896, etc.
Sozial-Demokratische Partei-Tag-Protokoll. Annual reports of the party conventions.
Documente des Sozialismus. An annual publication edited by Bernstein.

ENGLAND

Arnold-Foster, H.: *English Socialism of To-day,* 1908.
Barker, J. E.: *British Socialism,* 1908. A collection of quotations.
Bibby, F.: *Trades Unionism and Socialism,* 1907.
Blatchford, R.: *Merrie England,* 1895.
Churchill, Winston: *Liberalism and the Social Problem,* 1909.
Engels, F.: *The Condition of the Working Classes in England in 1844,* 1892.
Fay, C. R.: *Co-operation at Home and Abroad,* 1908.
Gammage, R. G.: *History of the Chartist Movement,* 1894.
Hardie, Keir: *From Serfdom to Socialism,* 1907.
Hobhouse, L. T.: *The Labor Movement,* 1898.
——— *Liberalism,* 1911.
——— *Democracy and Reaction,* 1904.
Hobson, J. A.: *The Crisis in Liberalism,* 1909.
Holyoake: *History of Cooperation,* 1906.
Knott, Y.: *Conservative Socialism,* 1909.
Lecky, W. E. H.: *Democracy and Liberty,* 1899.
MacDonald, J. R.: *The People in Power,* 1900.
——— *Socialism To-day,* 1909.
Masterman, C. E. G.: *The Condition of England,* 1909.
McCarthy, J.: *The Epoch of Reform,* 1882. For Chartism and the reform movements of the nineteenth century democracy.
Money, Chiozza: *Riches and Poverty,* 1911.
Webb, Socialism in England.
——— Industrial Democracy.
——— The History of Trade Unionism.

BOLSHEVISM

Spargo, Bolshevism.
Lenine, Soviets at work.
———, sozialismus und krieg.
Walling, Russia's Message.
Ross, Russia in Upheaval.
Trozky, Our Revolution.
——— Bolshevik and world peace.
Vandeveld, Trois Aspects de la Révolution Russe.
Chesnais, La Révolution et la Paix.
——— Les Bolsheviks.
Sack, The Birth of Russian Democracy.
Litvinov, Bolshevik Revolution.

福田博士とソーシャル・デモクラシー

室伏高信

「黎明講演集」の第三輯を買ひ求めて法學博士福田德三先生の講演筆記『如何に改造するか』といふ長篇を讀みました。例によつて痛快なる論斷と骨を刺すような皮肉をもつて、私と吉野博士の說を粉碎しようとされてをります。博士自身の言葉を借りていへば、「室伏發行、吉野裏書、福田宛の手形」に對して「不渡りの宣告」をされてをります。何故にその手形は不渡りであるか。その罪が私にあるのか。博士にあるのか。福田博士のごとき當代第一流の學者に向つて論戰を交へることは、博士にとつては迷惑であり、私のような一書生にとつては光榮至極であります。特に福田博士は私の平常最も尊敬する先生でありますが故に、先生の說に對して彼是れと申すことは成るべくこれを避けたいと思つてゐますが、こゝに問題となつてゐること自身が今日の日本、日本だけではない。全世界の政治的、社會的、產業的新文明、新生活、新秩序の基調をなすところの大問題でありますから、博士の迷惑をも顧みず、こゝに問題となつてゐる點――ソーシャル・デモクラシーについて私の考を明らかにしたいと思ひます。重ねて御示敎をえば何よりの光榮であります。(大正八年四月三十日朝)

(一)

社會民主主義は資本主義に對する反對毒である……ソーシャル・デモクラシーに對する福田博士の意見は凡てこの立場から出發するものであるといつても差支ない。(中央公論大正八年一月號參照)その反對毒といふことの意味が、毒をもつて毒を制するといふの意味であることもまた福田博士の論文において明らかにされてゐます。(中央公論同上「資本的侵略主義に對抗、眞正のデモクラシーを發揚」)それゆゑに福田博士は資本的侵略主義に反對するとともにまたその所謂アンチドートたるソーシャル・デモクラシーにも反對するものであり、さうしてこの二つのものゝ中間に立つことを主張します。この二つのものゝ中間に福田博士は彼れ自身の立場を發見します。この立場をもつて「眞正のデモクラシー」であるとなします。從つて資本主義もその謂ふところの資本主義のアンチドートたる社會民主主義もまた「眞

正のデモクラシー」でなくして虚僞のデモクラシー Pseudo Democracy であるとなします。このうち資本主義的民主主義が虚僞のデモクラシーであるといふことは、社會的民主主義者の一致した觀察であり、從つてこの點については、私の立場と福田博士の立場との間に何等の相違もないことでありますからこゝに何ごとも述べない。たゞソーシャル・デモクラシーが眞正のデモクラシーであるかないかの問題については私と福田博士との間には越ゆべからざる隔りがあります。然らば福田博士は何故にソーシャル・デモクラシーをもつて虚僞のデモクラシーであるとなすか。

福田博士がソーシャル・デモクラシーをもつて虚僞の民主主義であるとなしてゐることには二つの論據が擧げられてゐます。その一つはソーシャル・デモクラシーが全體の人民のうへに立つものでなくして單に一つの階級即ちプロレタリアートのうへに立つものであるからこれは眞正のデモクラシーではなくして虚僞のデモクラシーであり、またはは單にプロレタリアン・デモクラシーといふ形容詞づきのデモクラシーであるとなすの點であります。福田博士自身の言葉をかりていへば、ソーシャル・デモクラシーにおいての demos 即ち人民とは全體の人民でなくして單に勞働階級に屬する人民のみを指してゐるものであるとなすの點からこのソーシャル・デモクラシーをもつて全體の人民のためのデモクラシーでなくして單に一階級のための、一階級によつてのデモクラシーであるとなすの點であります。その二つはソーシャル・デモクラシーが單に一つの手段であるにすぎないとなすの點であります。即ちある目的を達するための一手段としてのみソーシャル・デモクラシーが存在するとなすの點であります。福田博士自身の言葉をかりていへばソーシャル・デモクラシーは單に二階へ登るための梯子段であるにすぎないとなすの點であります。(中央公論前掲論文及び黎明講演集第三輯「如何に改造するか」)私はこの二點について先づ批評を加へなくてはならない。

(二)

福田博士がソーシャル・デモクラシーをもつて單に勞働階級 Arbeiter Klasse のデモクラシーであるとなすことにも二つの論據があります。その一つは獨逸社會民主黨の宣言中の文句であり、他の一つは共産黨宣言の最後の一句即ち各國の勞働階級よ結合せよといふ有名なる一句でありま す。この二つのものがこの點についての福田博士の論據の全部であります。先づ獨逸社會民主黨の宣言にして福田博士の擧げてゐる數句の獨逸文についてみます。(黎明講演集

第三冊七二――三）それが獨逸社會民主黨のどの宣言であるかは福田博士の論文のうちには書かれてゐないのであるが一讀してエルフルトの宣言であることは明白であります。このエルフルトの宣言は獨逸社會民主黨の宣言として最も著名のものであるのみならずこの宣言は一八九一年以來今日においても尙ほ獨逸社會民主黨の綱領とされてゐます。福田博士の擧げられてゐるものはその宣言のうちの一部分であります。それには勞働階級の解放はたゞ勞働階級によつてのみ行はれるものであると述べておるのみならず社會民主黨の目的は勞働階級の鬪爭に自覺的の結合を與へんとするものであることを述べてゐます。それゆゑに福田博士がこの宣言を楯としてソーシャル・デモクラシーが單に勞働階級のうへにのみ立つものであるとなすことには一應の道理があるやうにも思はれます。けれどもその福田博士の擧げてゐる個條においてさへソーシアル・デモクラシーにおいての解放とは、單に勞働階級のみではなくして Nicht bloss des Proletariats 全人類 Gesamten Menschengeschlechts の解放といふことであることが明らかにされてゐます。卽ち福田博士が彼れ自身の議論の論據として時に指摘してゐる材料のうちにおいてさへソーシャル・デモクラシーは決して單に勞働階級の解放のみを目的とするものでなくして全人類の解放を目的とするものであることが裏書きされてゐます。然らば何故に此全人類の解放をなすために獨逸のソーシャル・デモクラシーは單に勞働階級によつてのみこれが實行を期するのであるか。この點も福田博士が彼れ自身の論據として擧げてゐる材料卽ちエルフトの宣言のうちに辯明されてゐます。それによる時は、勞働階級以外の他の階級は相互に利害が相衝突してゐるにもかゝわらず生產手段の私有の主義を支持し、さうして現在の社會的秩序を維持することに共通の利益をもつてゐるからであります。（前揭福田博士引用エルフルト宣言參照）これによつてみれば獨逸社會民主黨の目的が單に勞働階級なる一階級の解放を目的とするものでなくして全人類の解放を目的とするものであり、その全人類の解放のために勞働階級の結合を要求してゐるものであることが明瞭となります。卽ち福田博士がその博士自らの主張――ソーシャル・デモクラシーは單に勞働階級の民主主義であるといふ――を證據立てるために引用してゐるエルフルトの宣言が却つて福田博士の論據を轉覆すべき反對材料となつてゐるのであります。

(三)

それのみではない。福田博士の引用してゐるエルフルト

の宣言は、單にエルフルトの宣言の一部分であり、その一部分は福田博士の主張を證據立てるためには比較的に便利であると思はれる點であり、少くとも多少の疑問を殘すだけの餘地がないではない。けれども福田博士の引用したる部分は、福田博士にとつて最も都合よき部分であり、その都合よき部分のみを示してエルフルトの宣言の如何なることを意味してゐるかを論明しようとすることは、少くとも公平な態度であるといふことはできない。またそれによつて見ても、福田博士の論據が薄弱であることの反證ともなります。何故にしかいふか。福田博士は、そのエルフルトの宣言を引用して社會民主主義と勞働階級との關係を論ずるについて最も重要なる一項を省略してゐるからであります。卽ち福田博士の引用したる部分の後にエルフルトの宣言中には次のごとき一節があります。

『それ故に獨逸社會民主黨は新階級的特權及び權利のために戰つてゐるのではない。階級的政治を廢滅し、さうして階級それ自身をさへも廢滅するために、また性的並に階級的區別なき權利及び義務の一般的平等のために戰つてゐるものである
(拙譯)(エルフルト宣言第九句參照)

然り獨逸社會民主黨は勞働階級のための權利または特權のために戰つてゐるのではない。勞働階級の、勞働階級によつての、勞働階級のための民主主義ではない。エルフルトの宣言によつて明白に述べられてゐるとほり、それは凡ての階級政治を廢滅し、權利及び義務の一般的平等のために戰つてゐると宣言されてゐるものであります。それは單に宣言に止まつてゐるのではない。エルフルトの綱領であり、また獨逸社會民主黨の現在の綱領であるところの具體的の政治目的について見れば一層明瞭となります。その第一條においては普通選擧を主張してゐます。

この主張は今日のエーヴエルト、シヤイデマンの政府によつて維持せられ、獨立社會黨によつて維持されてゐます。卽ち勞働階級のための選擧權の要求ではなくして全體の人民のための選擧權の要求であります。この普通選擧の要求と、ロシア・ボルシエヴキキの憲法とを比較して見る時は、獨逸社會民主黨が決して勞働階級のためのディクテータアシツプを要求してゐるものでないことが明瞭となります。卽ちボルシエヴキキの憲法においては單に勞働階級にのみ選擧權を與へてゐるのに對し、獨逸社會民主黨の立場は、全體の人民――ブルジヨアにも選擧權を與へて、勞働階級またはブルジヨアの民主主義である代りに「全人民の民主主義」を要求してゐるのであります。その第二條においても人民によつての直接立法、自治、官吏の選擧を要求し、第三條においては全人民による一般的軍事服役を要求し、第七

條においては一般的教育の强制を主張してゐます。これによつて見ても彼れの求むるところは勞働階級のための政治、勞働階級のための國家、勞働階級によつての産業、敎育、軍事の要求ではなくして全人民の、全人民によつての、全人民のための政治、國家、産業、敎育、軍事の要求であることは明瞭であります。それゆゑに福田博士がこのエルフルトの宣言を楯として獨逸社會民主主義が單に勞働階級の民主主義であるとなし、更にソーシャル・デモクラシーなるものが單にプロレタリアン・デモクラシーであると論ずることは明らかに見當違ひの議論であると申すのほかはない。

(四)

その次に福田博士の引用されてゐる根據は共産黨宣言であります。その共産黨宣言の終りには各國の勞働者よ結合せよといふ有名なる一句があります。それによる時は、ソーシャル・デモクラシーは單に勞働者の結合のみを目的とするもの〻ごとくにも見えますけれどもこの勞働者の結合といふことは決してソーシャル・デモクラシーの目的とするところではない。それはたゞソーシャル・デモクラシーに到達する一手段であるに過ぎない。それが手段であるに過ぎないことは、共産黨宣言を一讀するもの〻何人も承服するところであります。その宣言においては勞働者が權力を掌握することを主張してゐるにしても、それはたゞ全生産が人民全體の手に支配せられるまでの一過程において要求されてゐるに過ぎないものであります。勞働階級のための民主主義を要求するのではなくして全體の人民のための民主主義を要求してゐるのであります。それゆゑにこの共産黨宣言の作者の一人たるエンゲルスは、この共産黨宣言の序文のうちで、勞働階級の解放は、同時にまたこれを限りに、汎く社會を、凡ての利己的利用、壓迫、階級的區別、及び階級鬪爭から解放することによつてのみ行はれることを主張してゐるのであります。卽ちソーシャル・デモクラシーは一方において階級的自覺を要求し、また階級鬪爭の必要を力說してゐるにしても、その階級的自覺の要求は、エンゲルスのいつてゐるとほり、たゞ階級的區別を撤廢するための戰術であるに過ぎないものであり、また社會民主主義の力を傾けつ〻ある階級鬪爭にしても、階級鬪爭 Klassen Kämpfe そのものが目的ではなくしてこれを廢滅することが目的であります。然り、エンゲルスが述べてゐるとほり人類の歷史は階級鬪爭の歷史であつたともいふことができます。その階級鬪爭を廢滅するためにソーシャル・デ

モクラシーが必要とされるのであります。

（五）

この點を最も明白に説明してゐるものは正統マルクス主義の理論家としてのカール・カウツキーであります。彼れはその書物のうちにおいて次のやうに述べてゐます。

『けれども勞働階級は凡ての狀態のもとにおける民主主義的組織を要求するものでなくてはならぬ。……それ（勞働階級）は社會階級のうちの最低のものである。それは凡ての人が政治上の權利を得たる場合でなくては政治上の權利をうることはできない。他の階級は何れも或る種の事情のもとに特權階級となることができるが勞働階級は特權階級となることはできない。それゆへに階級自覺ある勞働階級のうへに立つソシヤル・デモクラシーはブルジョア・デモクラシーよりも遙かに多く民主主義的努力を誠實に支持するものである。』（Kautsky, Parlamentarismus und Demokratie參照）

私は次に社會民主主義運動の權威たるウヰルヘルムリーブクネヒトの解釋を擧げます。

『社會民主主義の目的とし且贏ちうべき政治的權力はその敵が論ずるごとく勞働階級の霸權の樹立を目的としてゐるものではない』（W. Liebknecht, no compromise, P, 30.）

獨逸社會民主黨の有名なる選擧宣言（一九一二年）においても社會民主主義の要求について次のように述べてゐます。

『現在の秩序はより高き秩序卽ち社會民主黨が常に戰つてきた社會主義的秩序によつて置き換えられます。然る時に全人民の協同責任が完成せられ、さうして人生が凡ての人に對してより多く幸福のものとされるのである』

ベルンスタインもまたソーシャル・デモクラシーは人民の政黨となることができる旨を述べてゐます。英國のソーシヤル・デモクラシーの一代表者であり、またゼ・インタアナショナルの一支部としてのソーシャル・デモクラチック・フエデレーションの宣言においても次のように述べられてゐます。

『勞働階級は自由を獲得する最後の階級であるが故に、それの解放は人種、民族性、宗教または性の區別なき全人類の解放を意味するものである。』

この宣言によつても明らかであるごとくソーシャル・デモクラシーが勞働階級の解放を目的とすることは勞働階級の利己心のためでもなく、その勞働階級のための新らしき特權を獲得することを目的とするためでもなく全人類の解放を目的とするのであります。詳かにいへば政治的民主主義と稱せられてきた個人主義的ブルジョア的民主主義においては民主主義の名において資本家の霸權を確立する事となり、産業革命に伴つて勞働階級は社會の最下層の階級に引落さるゝこととなつたのであります。その結果は謂ふ

ところの政治的民主主義においては勞働階級以外の他の階級のみが自由を享有することができたのに對して勞働階級は資産階級によつてのエクスプロイテーションのために極めて悲慘なる奴隷狀態に墜落することゝなつてゐます。即ちその民主主義は勞働階級を除外したる民主主義であり、全人民に對して平等の機會と自由とを與へたものではないのであります。從つてその民主主義――ブルジョア・デモクラシーは眞實なるデモクラシーではなくして虚僞のデモクラシーであり、デモクラシーの名によつて一部の階級に特權を附與し、覇權を掌握せしめてゐるにすぎない、眞實にデモクラシーを主張するものはこの虚僞の民主主義に對して反對することは當然であります。ソーシャル・デモクラシーはこの要求によつて生れてゐます。從つてこのソーシャル・デモクラシーは勞働階級の解放を目的として立ちます。けれどもこの勞働階級の解放といふことはたゞ勞働階級だけを目的とするものではなくして勞働階級の解放によつて全人類の解放が完成されることを目的とするものであります。何となればその他の階級は既に解放せられてただ勞働階級のみが奴隷狀態にとり殘されてゐるからであります。いふまでもなく特權を剝奪することは、その剝奪されたる階級の利己心にとつては不利益であるにしてもかゝる一部の特權を成立せしむることが民主主義と兩立するものでない以上これを剝奪することは民主主義に反逆しないのみならず民主主義の精神の當に要求するところであると申さなくてはならない。勞働階級の解放といふことはこの勞働階級以外の他の階級の特權に反對することであり、凡ての人民に平等の機會と自由とを與へんとするものであります。從つてソーシャル・デモクラシーは眞實なるデモクラシーであると申すことができます。何となればソーシャル・デモクラシーは勞働階級のための特權の要求ではなく凡ての特權と利己心とを排斥し、從つて勞働階級の特權と利己心とをも排斥するものであるからであります。またソーシャル・デモクラシーのみ眞實のデモクラシーであると申すことができます。何となれば勞働階級の解放によつてのみデモクラシーが存在し得られるからであります。

(六)

ソーシャル・デモクラシーが單に勞働階級の民主主義であるとなすものは決して獨り福田博士だけであると申すのではない。例へばウォーリングがその書物のうちにおいて指摘してゐるところによれば英領コロンビアの社會黨の機關紙ウエスタアン・クラリオンは次のやうに述べてゐます。

『われ等はデモクラシーの傾向をもつてゐるものではない。われ等の要求するところのものは勞働階級の專制をうることである』と。(Walling, Soialism as It Is, P.332) 法學博士吉野作造氏もまた全然福田博士の意見に賛同してゐます。(中央公論大正八年四月號『余の選擧論の批評について』)

けれどもこれ等の見かたはソーシャル●デモクラシーが勞働階級の自覺と階級闘爭によつて實現せられることの事實をもつてそれが直ちにソーシャル●デモクラシーであるとなすの誤りであります。さうして勞働階級が解放せらるべき最後の階級であることに氣づかざるの誤謬であると申さなくてはならない。勞働階級が解放さるべき最後の階級であることを知るものは、その勞働階級の解放が全人類の解放であることを承知します。勞働階級が解放せられ從つて全人類が解放せられた時に始めて眞實なるデモクラシーが出發します。これがソーシャル●デモクラシーであります。またこれのみがソーシャル●デモクラシーであります。このソーシャル●デモクラシーに到達するために勞働階級の自覺と階級闘爭とが必要とされます。けれどもこれ等のもの——階級闘爭のごときものは、ソーシャル●デモクラシーそのものではなくしてそれに到達すべき一道程であるに過ぎない。ソーシャル●デモクラシーであるためにはエンゲルスの述べてゐるとほり階級闘爭そのものからも解放されなくてはない。即ち階級闘爭のなくなつた時にソーシャル●デモクラシー Sozial demokratieが存在します。福田博士の見解は明らかにソーシャル●デモクラシーに到達するための手段とソーシャル●デモクラシーそのものとの混同であります。それ故に福田博士が私の說を批評して『室伏君は手取り早く御讀みになつて、社會主義は全人類のクラシーであると早合點して居られる』といはれたことは却て福田博士の早合點であり、福田博士自身がソーシャル●デモクラシーに到達する一手段をもつて直に「手取り早く」それをソーシャル●デモクラシーそのものであると「早合點」したものであると申すのほかはない。

(七)

プロレタリアートが解放せられた時に凡てのものが解放せられたことゝなります。凡てのものゝ解放せられた狀態を名けてソーシャル●デモクラシーと稱するのであります。

私は最後に、近頃私の手にした社會の民主主義についての書物の一節を引用します。

『社會民主主義とは人民の側においての機會の公道に對する慾望の表明である』(S. P. Orth, Socialism and Democracy in Europe, P. 264.)

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部	十八錢五厘
半年分	一圓 税共
一年分	一圓八十錢 税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金 ▲郵券代用一割増
▲送金は可成振替 ▲外國行郵税十錢

大正八年五月廿八日印刷納本
大正八年六月一日發行

東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館
編輯兼發行兼印刷人 尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所 株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館
發行所 批評社
振替東京四五三四六

廣告

半頁	三等	二等	一等
十六圓	三十圓	四十圓	六十圓

但二等以上の半頁以下は御斷り

大賣捌

▲神田 東京堂 上田屋
▲京橋 東海堂 北隆館 良明堂
▲日本橋 至誠堂

室伏高信著

最新刊

定價八十五錢　送料四錢

本書は民主主義叢書の第一篇として發行されたものである。著者苦心の諸作——第三階級民主主義とソーシャル・デモクラシー、社會主義の煩悶、社會主義と民主主義、社會主義の陷穽、過激主義に就て、過激主義と民主主義、リンコーンの民主主義、デモクラシーの新理想——を集めたもの、現代の政治的及社會思想を理解せんとするものは先づ本書を讀んで然るべくと思ひます。

發行所　東京市京橋區元數寄屋町三ノ一　振替東京四五三四六番　批評社

大賣捌所　東京堂、上田屋、北隆館、至誠堂

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正八年五月廿八日印刷納本　批評　六月號（第四號）　定價金拾八錢　批評社發行

THE CRITICISM

批評

七月號(第五號)

批評社

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年六月二十九日印刷納本 大正八年七月一日發行

(定價金拾八錢)

「批評より」

◆例によつて「批評」から一言します。先づ自家廣告から先きにすると、「批評」はあらゆる點において不行屆でもあり、財力においても可成り涸いてゐる方でありたゞ一つの部屋が編輯室でもあり、校正室でもあり、營業室でもあり、一人の小僧さへ使はずにやつてゆきます。その意味において「批評」は雜誌界の第四階級だともいへます。

◆けれどもその編輯室は貧しくとも、「批評」の精神は滾々として流れ盡きない

◆何ものが壓迫しても、何ものが干渉しても時代精 を動かすことはできない。「批評」はその時代精神の最も博大なる表現者として立つ。だから何ものも「批評」を動かすことはできない。たゞ「批評」のみ人心を動かすことができる。――「批評」はさう信じてゐることに何の誇張もないことと信じます。

◆勞働問題は政治家の眠つてゐる間に問題の中心となつてきました。勞働運動は隨所に起つてきました。それにもかゝはらず、この膨湃たる勞働運動の機運に對して、その精神的の指導者として、それに光を與へるものの現はれてゐないことは、われ等の最も物淋しく感ずるところでなくてはならない。

◆友愛會。それもよし、されどそれもあまりに貧しいではないか。信愛會。それはたゞ資本主義の巧言令色であるに過ぎないではないか。

◆資本と勞働研究會。それはたゞ交詢社的紳士階級が現代に對して如何に無理解であるかを物語るべき、さうして遊戲的、道樂的精神の暴 であるに過ぎないではないか。然らば何ものか餘される。

◆何ものもない。何ものもあまされてはゐない。あまされたるものは、勞働者の深刻なる精神と、さうして新世界の理想のうちに堅い信念をもつてゐる、若き人々のみである。

◆若き人々は、最早や彼等の自己を信じなくてはならぬ。勞働者もまた自らの力を信じなくてはならぬ。新しき時代は勞働者がその力を自覺し、さうして若き人々がそれに理想を與へることによつて導かれる。その新時代の曙光が既に見えて見えてきたのであります。

◆本號には先づ卷頭に「國家社會主義の批評」を揭げました。それから國家社會主義者としてラサール傳、森恪氏の支那研究、田中純氏の「心と心の結合」倉橋氏の「婦人勞働組合」などを載せました。

◆本號に揭載されてゐるベルトランドラッセルの「自由への諸道」は最近に手にしたばかり、恐らく日本において最初に受取られたものだと思ひます。それの緒論を取敢へず本號に譯出しました。

◆ラッセルの思想には驚くべき深刻味がある。「批評」は日本におけるラッセルの最も適當なる紹介者としての任務を盡すであらう。

◆前々號にラッセルの「社會主義の陷穽」を載せたことは讀者諸君の御承知の通りです。次號には彼れの長篇論文「マルクス社會主義」を譯出します。それが如何に價値あるものであるかは、本誌の誇りある豫告であります。

◆本誌をして常に時代の先驅者として立たしめよ(k)

批 評

七月號　目次

ヘンダアソン

ヘンダアソンは英國勞働黨のうちで最も卓越した指導者である　今年五十五歳の働き盛りである。勞働黨の議員として初めて内閣に列したものは彼れである。けれども彼れは彼れの後任者として内閣に列してゐるヂョーヂ・バアンスのやうに勞働黨に裏切つてまでも内閣に止まつてゐるような男とは全然質が違つてゐる。ロシア問題で意見を異にすると忽ち内閣を去り、ロイド・ヂョーヂの强敵として立つてゐる。ゼ・インタアナショナルの復活は彼れの功績であるといはれてゐる。昨年の總選擧に彼れは落選したが實は彼れに對する政府の壓迫は大したもので彼れはその選擧區で一度も演説することさへ許されなかつたほどであつた。今はその地位をアダムソンに讓つてゐるが次の總選擧は必ず「ヘンダアソンの英國」を齎らすであらう。

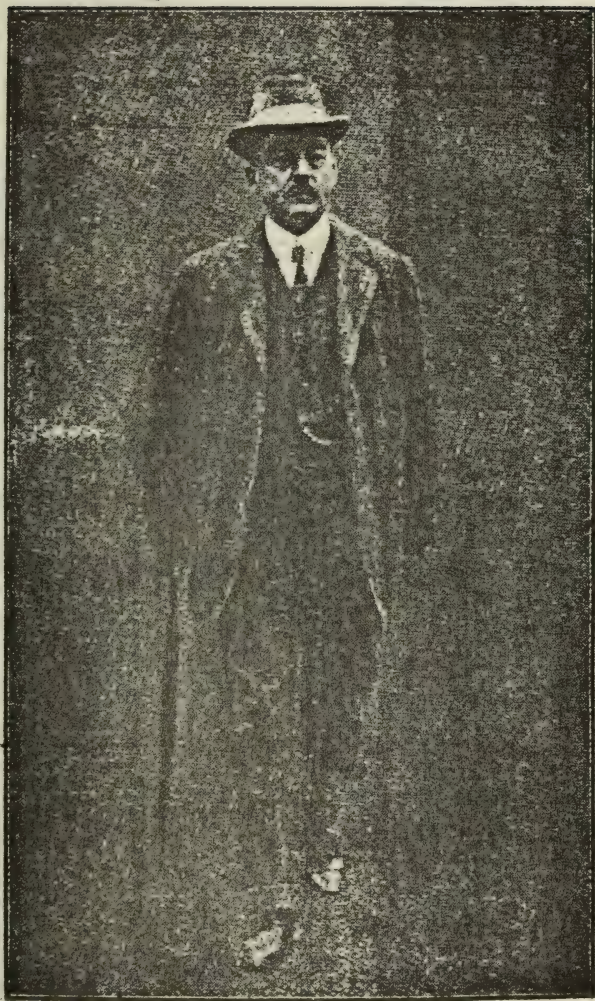



Photo by Paul Thompson

ARTHUR HENDERSON

批評

急進せよ

政治も急進せよ。社會も急進せよ。われ等は今やあらゆる方面において急進しなくてはならなくなつた。それはわれ等が急進主義者であるからではない。日本が後れてゐるからである。あらゆる方面において日本の後れてゐるものであることは明白である。その明白さが巴里の講和會議——世界的のお付合ひに、之を機會として益々明白となつた。この明白さを疑ふものがどこにあらう。それを知りつゝ溫情主義とは何のことか。それを知りつゝ制限選擧とは何のことか。われ等は最早やそのようなものは紙屑籠に抛り込んでしまはなくてはならぬ。さうして最小限度のデモクラシー、然り、普通選擧と勞働組合にまではゆかなくてはならぬ。何ものがこれに反對する。反對するものこそ日本の進歩、日本國民の抑へがたき進歩の衝動を踏みにじらんとする奇怪なる人々ではないか。

　われ等は最早や急進しなくてはならぬ。徐行するにはわれ等はあまりに後れすぎてゐるではないか。われ等は急進して世界とともに歩かなくてはならぬ。世界とともに呼吸しなくてはならぬ。

「訓練」された新聞紙

朝鮮問題はいよ／＼艱難に向つてきたやうである。よく「訓練」されたる新聞紙はこの問題については凡て沈默を守りつゝある。寺内内閣の時には言論の自由を叫んだ新聞紙もこの頃はたゞ「訓練」に甘んじて誰れ一人言論の自由をさへ叫ぶものがなくなつてきた。民心を反影とするものとしての新聞紙は、今や日本には與へられてゐない。然り、日本には眞實なる意味の新聞紙がなくなつてしまつてゐるのである。

言論の自由

あらゆる自由のうちにおいて、われ等は先づ言論の自由を求めなくてはならぬ。言論の自由のないことは、その反面において、陰謀、惡虐、壓迫の事實の隱されてゐることを意味する。善良なる社會においては、言論を迫害すべき何等の理由もない筈である。われ等は快よく租税を負擔するとともに、權利としての言論の自由を要求しなくてはならぬ。

新著批評

■ラッセル

「社會主義、無政府主義、サンヂカリズム」

■ベルトランド・ラッセルの書物は日本においても可成り多く紹介されてゐます。「批評」五月號では彼れの「政治的理想」の一章を全譯して紹介しました。その他「社會改造の原理」、「神秘主義と論理」なぞも汎く讀まれてゐるやうであります。

■最近に彼れの手に成つたものとしては「社會主義、無政府主義、サンヂカリズム」(Proposed Roads to Freedom. Socialiam, Anarchism Syndicalism.)の一書があります。

■この書物は彼れが昨年入獄する前に書き了つたものであるが出版されたのは今年の一月出獄の後であります。このことは自序中に書かれてゐます。

■倫敦タイムスはこの書を批評して「異常の人によつての異常の書物」と批評してゐます。この書物の價値はこの批評によつても分ります。內容は「マルクス及社會主義」、「バクーニンと無政府主義」、「サンヂカリストの謀叛」を初めとして凡て八章から成つてゐます。

■この書物の內容は「批評」によつて順次紹介します。(Published by Henry Holt and Company New York)

■ヴアンダアヴエルト

「社會主義對國家」

■エミール・ヴアンダアヴエルトは白耳義社會黨の首領としてこの戰爭中に最も熱烈なる愛國心を發揮してゐます。今は國際勞働委員會の花形として活躍してゐます。

■彼れの近著としては「ロシア革命の三局面」(Trois Aspects de la Revolution Russe)と「社會主義對國家」(Le Socialisme Contre L'Etat)の二つがあります。後者は昨年の出版にかゝり、「自治的行政」、「社會主義と租稅行政」、「生産手段の社會化」、「勞働階級の活動」その他から成つてゐます。

■ノルマン・エンゼル

「英國革命と米國民主主義」

■ノルマン・エンゼルの近著「英國革命と米國民主主義」は恐らく最も興味ある書物の一つであらうと思ひます。社會改造について何ごとかを求めるものは此書から敎へられることが多いであらう。(N. Angel; British Revolution and American Democracy)

社會主義運動の先驅者を以て任じ來れる賣文社は社會主義の純科學的研究を欲する人士の爲めに最良書たるを確信して本書を提供す

福田德三博士序
高畠素之譯
カウツキー著

マルクス資本論解説

第四版出づ

現世界に汪流せる第四級民的思想の背景を爲せるは社會主義にして**マルクス**『資本論』は實に社會主義の科學的基礎たり。而も『資本論』は難解にして學界の秘庫と云はれしが、本書原著出でゝ初めて其鍵鑰は與えられたり。原著者**カウツキー**氏は『何人も彼に勝りて社會主義を解説せるものなし』とまで呼ばれし世界に於ける、現存社會主義學者の最大權威にして、本書は實に彼が多年の心血を注ぎしもの其の咀嚼主義に依る獨特の解説法は『資本論』原作を讀まずして其堂奧に參せしめ原作を讀みたる者に未だ達せざる新見地を展開せしむ。譯者は日本に於ける最も眞面目なる**マルクス**研究者の一人たる自信に基き反譯者としての完全なる責任を以て譯出に從事せり。福田博士の序文は二十頁の長論文にして文中左の數節あり『河上博士や高畠君が今十年前日本に生れざりしは實に日本に取つて大なる損害であつた』『一見亂暴者の如く見ゆる高畠君に斯の如き細心、綿密、忠實の隱し藝ありとは實に意想外であつた』『此序文は唯賴れたからオイソレと書いたのでないことは讀者に諒察を願いたい』

本書譯者は今又學界の注目裡に**資本論全譯**に着手せり。蓋し本邦出版界最難事業の一ならん。第一卷は分册とし其第一册は九月中に刊行の豫定。

賣文社出版部
東京有樂町一ノ四
振替東京四五七七四
定價二圓五十錢
送料十錢

國家社會主義の批判

室伏高信

(一)

國家社會主義 (1)State Socialism, Staats Sozialismus は獨逸に生れたものとされます。その獨逸における國家社會主義の父はロード・ベルトスであるとされます。その意味においての國家社會主義とは現存の國家に生産手段を集中することの主張であります。ビスマークの國家社會主義、シュワイツエルの國家社會主義、ワグナアの國家社會主義とはそれであります。それは産業の民主化を要求するものでもなく、社會的民主主義を要求するものでもなく、現存の國家、現存といふよりは官僚的、軍國的、階級的の國家に生産手段を集中するの企であつたものであり、餘剰價値が資本家の手に集中せられる代りに國家に集中せられるものであり、從つて勞働のエクスプロイテーションが資本家によつて行はれることの代りに國家によつて行はれることになります。これによつて勞働者の奴隷狀態には何等の變化が行はれるものではなく、勞働者の解放は素より不可能であります。勞働者が今日までの資本家の權力によつて支配せられる代りに國家——階級的國家の權力によつて兵卒化されることであります。だから謂ふところの國家社會主義とは國家社會主義ではなくして國家資本主義 State Capitalism であります。この關係を最もよく明らかにしてゐるものとしてはヴヰルヘルム・リーブクネヒトを擧ぐべきであります。

(1)日本の國家社會主義の機關雜誌は國家社會主義に對して National Socialism といふ英語を當て箝めてゐます。その意味は State Socialism といふ言葉が外國においては凡て社會改良主義の意味に使用されてゐるからこれと區別するためであると申してゐます。けれども State Socialism といふ言葉か凡て社會改良主義の意味に用ゐられてゐるとするのは獨斷である。その反對の例は幾つもある。また National Socialism, National Sozialismus といふ言葉はハインドマンによつて始めて使用されてゐるのではない。(ハインドマンは社會民主々義同盟から分離して National Socialist Party といふものを創立してゐる。)レエの「コンテンポラリー・ソーシャリズム」は一八八四年に第一版を發行してゐるがレエは其うちにおいて既に National Socialism といふ言葉を使つてゐる。(Rae, Contemporary Socialism P.124) 彼れはラッサーレの社會主義を評してかう申してゐるのである。即ちマルクスの international Socialism に對してラサーレの社會主義を National Socialism と申してゐるのである。從つてそれは The international に反對するものとしてゞある。さうして一八七四年のゴータの宣言はこの National Socialism の滅落であるとされてゐるす。その意味においての National Socialism は決してマルクス主義ではない。また、ハインドマンの National Socialist Party のできたのはチムメルワルド決議に反對するがためであつたからそれも著しく保守的なものとして生れたものであることは勿論であります。

(二)

いふまでもなくヴヰルヘルム・リーブクネヒトは獨逸における、さうしてまた世界における最も偉大なる社會民主主義 Sozial Democratic の指導者の一人であつたとともにビスマークの謂ふところの國家社會主義の最も熱烈なる反對者の一人であつたのであります。彼れはその名著(1)のうちにおいてビスマークと社會主義との關係を批評して次のやうに述べます。

ビスマーク公は私に「北獨新聞」の主筆となることをすゝめたことがある。またマルクスに對しても「スターツ・アンツァイゲルの主筆となることをすゝめたことがある。この二つの場合ともに、彼れは隔意なく社會主義を主張することの充分なる自由を提供したものである。けれどもこのことはビスマークが社會主義を愛したがためでもなく、また社會主義の知識をもつてゐたがためでもない。彼れはその時に社會主義について何ごとをも理解してゐなかつたし、また死に至るまで社會主義を理解するに至らなかつた。……彼れは常に社會民主主義をもつて國家の存在と兩立することのできないものであると考へてゐた。ビスマークはブルジョア自由主義の反對黨、就中進歩黨を打破し解體せしめるために社會主義を必要としたのであるこのこと自身が、彼れの社會主義の眞實なる性質について何の考へをもつてゐなかつた證據である。(2)

ヴヰルヘルム・リーブクヒネトはまた社會主義とこの謂ふところの國家社會主義とが決して兩立するものでないのみならず、獨逸の國家社會主義なるものが社會民主黨の存立に危險を及ぼすべき敵であること、さうしてそれの外形が社會主義に類似するところがあるに拘らずそれは全く欺僞的のものであるとして次のやうに述べます。

……國家社會主義は、實際は國家資本主義であるに過ぎない。さうして外形の類似と人氣言葉とによつて容易く僞瞞される人々の眼を眩まし誤解に導くものである。獨逸の國家社會主義、もつと正確にいへばプロシアの國家社會主義、それの理想は軍國的、地主的、警察的國家であり、何事よりも民主主義を憎惡するのである。……民主主義は彼等の敵である。(3)

共産黨宣言においてはこれ等の國家社會主義と稱するものについて次のやうに述べてゐます。

貴族主義は人民を糾合するために勞働階級的慈善袋をその旗幟として振りかざした。けれども人民は彼等(貴族主義)の後足に封建的紋章のついてゐるのを知つた。(4)

ビスマーキアン國家社會主義とは、共産黨宣言においては、たゞ慈善袋 Alms-bag であるに過ぎないとされてゐるのであります。エンゲルスはこの點について次のやうに述べてゐます。

それ(國家)が生産力を奪取すればするほど益々實際に國民的資本家となり、市民階級はそれをして益々エクスプロイテーションを行はしめる。勞働者は賃銀取り――プロレタリアートとして殘る。(5)

ヂョン・スパルゴウもまたこの點について次のやうに述べてゐます。

社會主義者の國家の組織は政治的に民主主義的でなくてはならぬ。民主主義を伴はざる社會主義は光なくして陰の成立せぢるごとく成立せざるものである。世襲主義や政府の所有の計畫に適用される場合に、致命的の原則、デモクラシーが缺けてゐるとすれば、「社會主義」といふ言葉は誤用(ミスノーマア)である。....鐵道國有のロシア、飲料その他を專賣にしてゐるロシア(革命前のロシア)は北米合衆國よりも社會主義に接近してゐるのではない。同一のことが鐵道國有の獨逸(革命前)にも當嵌めることができる。ある一點において、外觀的に社會主義に類似してゐるにしてもそれは著しく相違したものである。....彼等は民主的でない。社會主義とは產業民主主義に結合したる政治的民主主義である。(6)

スパルゴウの說明も極めて明瞭であります。社會主義はその外觀の如何によつて成立するものではない。そのうちに包容するもの――デモクラシーの存在するものでなくては、社會主義なるものは存在することを許されるものではないと申すのであります。ウォーリングもその國家社會主義についての近著のうちで次のやうに述べてゐます。

若しも謂ふところの社會主義者の政策がビスマークのそれのやうに非民主的のものであるとすれば、それは全然國家社會主義ではない。それは支配階級のためにする、國家の古るき使用に過ぎないものである。(7)

カール・カウツキーは國家社會主義と社會民主主義との關係を論じて次のやうに述べてゐます。

それ(國家社會主義)は國家それ自身の誤解から生れる。....勞働のエクスプロイタアとしては、國家は如何なる個人的の資本家にも優るものである。....財產所有階級が支配階級である間は、產業及び資本家機能の國有は資本家や地主を害するものではなく、また彼等が勞働階級をエクスプロイトする機會を減少するものではない。

國家はプロレタリアート、勞働階級が支配階級となるに至るまでは、資本家組織を止めるものではない。(8)

カウツキーは他の論文において更に一歩を進めて、國家社會主義とはたゞ國家の干渉といふことの名稱であり、即ち國家の職能の擴大であるといふことに過ぎないのであると述べてゐます。さうしてその謂ふところの國家社會主義においての政府なるものが民衆と沒交渉の政府であることに特質をもつてゐるものであることを述べてゐます。(9)このヴキルヘルム・リーブクネヒト及びカール・カウツキー等の批評はまた移して日本に於ける一派の人々の國家社會主義論にも當て篏めることができる。日本において國家社會主義を主張する人々は軍閥の一派または官僚の一派であります。その一派の人々の國家社會主義とは現存の國家――官僚的であり、貴族的であり、軍國的であり、そのうへ資本主義的でもある日本――に生産手段を集中しようとするのであり、それのみならずこれによつて政治的自由主義の諸政黨を壓迫せんとする政略から生れいでゝゐるものであるから、彼等の謂ふところの國家社會主義とはビスマーキアン國家社會主義であり、從つてデモクラシー撲滅においての社會主義でめり、ヴキルヘルム・リーブクネヒトのいつてゐるとほり、それは國家社會主義ではなくして國家資本主義であるに過ぎない。それは人氣言葉を掲げて世間を僞瞞するものであり、その僞瞞によつて彼等の理想、デモクラシー撲滅の理想を實現せんとするものであるに過ぎない。(10)獨り獨逸――革命前の獨逸とさうして日本における一派の人々の謂ふところの國家社會主義が一切僞瞞的のものであるといふのではない。理論として、一般的に、階級的諸國家に生産手段を集中することはたゞ國家の專制權の擴大、國家といふよりはそれ等の諸國家の支配階級の手に專制權を擴大することであり、社會の征服被征服の關係を益々明白にするものであり、さうして社會主義とは正反對の方向と精神とをもつて生れいでゝゐるものである。然り、國家資本主義と社會主義とは明白にこれを區別しなくてはならない。繰返していへばビスマーキアン國家社會主義なるものは社會主義ではなくして資本主義である。國家資本主義である。從つてまたヴキルヘルム・リーブクネヒトのいつてゐる

とほり、それが社會主義の敵であることも勿論であると申さなくてはならない

(1) Wilhelm Liebknecht, No Compromise, No Political Trading.(Kerr edition)

(2) ibid., P.16

(3) ibid., P.15

(4) communist manifesto, PartIII, Feudal Socialism

(5) F.Engels,Socialism: Utopean and Scientific, P. 123

(6) John Spargo,Socialism,P.287-8

(7) W.E. Walling, State Socialism,P.XXIV

(8) Kautsky,The class Struggle, (kerredition),P.109-10

(9) Kautsky, Vollmar und der Staatssozialismus

(10) 高畠素之氏等新賣文社一派の國家社會主義は自らマルクス主義を標榜してゐるからこれをビスマーキアン、ステート、ソーシャリズムであるといふこととはできないにしても、若しもそれが現存の日本の國家に生産手段を集中するの主張であるとすればそれもまた國家社會主義でなくして國家資本主義であり、軍閥連や官僚一派の國家社會主義論と何等選むところがないわけである。その點はまだ私の詳にしないところであり、また國家社會黨の諸君の説明もまだ徹底したのでないからそれ等のことはこゝに批評することを避ける。けれども苟くも國家社會主義を標榜してゐる以上この點を明確にすることはそれ等の人々の責任、そのヴアイタルのものでなくてはならぬ。

(三)

デモクラシーとは社會主義と全然相矛盾するものであるかのごとくに説くものがあります[1]ワグナアやフォン・シ

ユワイツエルの詭辯――デモクラシーとはどこかブルジョアのものである。さうして社會主義はブルジョアの社會に反對してゐるものであるから、從つてそれは反民主主義的でなくてはならないといふ詭辯は、フォン・シユワイツエルの時代において多くの人々を混亂させたに相違ない。」ヴキルヘルム・リーブクネヒトはかう申してゐます。ワグナアやシユワイツエルばかりではない。デモクラシーの敵と、さうしてデモクラシーについて淺薄な理解しかもつてゐない人々は屢々デモクラシーをもつて社會主義の敵であると稱します。さうしてデモクラシー撲滅をもつて社會主義運動に必要なことであるかのごとくに論ずるソフキストと淺薄家とは到るところに存在します。獨逸においてこの種の人々が國家社會主義を標榜する人々の間にあつたのみではなく、社會民主黨の側にもあつたがごとく(1)日本においてもまた同じやうな事例を見ます。これ等の誤解はデモクラシーをもつて單に政治的のものであるとする謬想からと、さうして社會主義をもつて一切政治と無關係なものであるとするの謬想から生れます。社會主義と民主主義との關係については私の立場は極めて明白になつてゐます。(2)エドワード・カアペンタアは嘗つて社會主義のみ民主主義でおると申したことがあります。(3)そのことは社會主義が民主主義の全部であると申したのではない。社會主義と他の保守主義または自由主義とを比較して、社會主義のみ現代においてはデモクラシーであると申したのであります。もつと詳にいへば保守主義は封建主義 feudalism であり、自由主義は商業主義 mercantilism であり、さうした社會主義が民主主義であると申したのであります。社會主義が民主主義そのものであるとすることは素より誤りである。また民主主義が社會主義そのものであるとすることも誤りである。」社會主義と民主主義とは決して同一物ではない。民主主義とは精神であります。社會主義とはそれの一組織であります。デモクラシーの一組織として社會主義なるものが存在しえられる。それゆゑにデモクラシーを排斥して社會主義を主張するといふことはそれ自身において矛盾である

この點を理解しえられざる人々は、その人が如何ようの catch-word によつて彼等自身を世間的に巧みに標榜すると

も、その人々は決してデモクラシーを理解したものでなく、デモクラシーを理解せずして社會主義を理解するといふことは尙ほ更ら不可能のことであります。ヴヰルヘルム●リーブクネヒトは次のやうに述べます。

……デモクラシーは特に政治的のものではない。われ等は、われ等が單に社會主義の政黨でなくして、社會民主主義の政黨であることを決して忘れてはならない。何となればわれ等は社會主義と民主主義とは分割すべからざるものであることを承知してゐるからである。(4)

社會主義が單に經濟運動であるとすることの誤謬であるごとく、デモクラシーが單に政治的のものであるとすることもまた驚くべき誤謬であります。デモクラシーが單に政治的のものであるとすることは過去四分の三世紀におけるデモクラシーの思想の進化について一切盲目の人々であるに過ぎない。それでなければデモクラシーを排斥するための戰術としての立場をとつてゐる人々であるに過ぎない。その何れにしてもデモクラシーについて何等の深き理解もない人々である。現代においてのデモクラシーは如何なる時代においてのデモクラシーとも異るものではないにしてもそのデモクラシーが現實のまたは國家に要求するところはその國家または社會の狀態によつて異るものではなくてはならない。封建主義の榮ゆる時にデモクラシーはそれと戰はなくてはならぬ。資本主義の榮ゆる時にデモクラシーはまたこれと戰はなくてはならぬ。それゆゑに現代においてのデモクラシーの求めるところは決して獨り政治的ではない。社會的民主主義こそ現代を表徵する民主主義である。この點は私の屢々繰返してきたところであります。ヴヰルヘルム●リーブクネヒト——然り、ベルンスタインのレヴヰジョニズムの反對者としてのヴヰルヘルム●リーブクネヒトは次のやうに述べます。

社會主義と民主主義とは同一物ではない。けれども彼等はたゞ同一なる基礎的思想の別個の表現であるに過ぎない。……民主主義と伴はざる社會主義は虛僞の社會主義である。丁度社會主義を伴はざる民主主義が虛僞の民主主義であるごとく。(5)

この社會主義と民主主義との不可分の關係において社會民主主義が存在します。現代の民主主義とはわれ等の慾すると慾せざるとにかゝはらず社會民主主義であり、それとともに現代の社會主義もまた社會民主主義であります。イリー教授に從へば、社會民主主義とは、社會主義に民主主義を加へたものである。(6)その言葉は決して適當な表現ではない。社會民主主義とは社會主義と民主主義との不可分の關係において成立するものであります。從つて社會主義から民主主義を分離せしめようとする運動は一切反社會主義的のものであると申さなくてはならない。ビスマーキアン國家社會主義とはこれであります。ビスマーキアン國家社會主義が警察國家の主張または單に慈善袋であるとなされてゐることは、それが民主主義を排斥するがためであります。民主主義を排斥することはまた社會主義をも排斥することであります。民主主義を排斥して社會主義を主張するといふことはありえない。民主主義を主張することによつてのみ社會主義を主張することができます。これが社會民主主義の主張であります。さうして社會主義の主張であります。それゆゑに社會主義を主張するためには同時に民主主義を主張するものでなくてはならない。(7)

(1) No Compromise, P. 16
(2) 拙著「社會主義と民主主義」第一章及第八章。同上「デモクラシー講話」參照
(3) E. Carpenter, The Healing of Nations, P.64
(4) No Compromise, P.16
(5) ibid.,P.28
(6) R,T.Ely, Socialism and Social Reform,P.85
(7) 日本の國家社會主義者のある一人は私の「社會主義と民主主義」を批評して、民主主義とは凡て政治的のものであると述べてゐる(「國家社會主義」第二號參照)が、若しその人が民主主義の排斥において國家社會主義を主張するものだとすればそ

の國家社會主義はヴヰルヘルム・リーブクネヒトの所謂「警察國家」の主張であり、國家資本主義の主張であり慈善役的社會主義であるに過ぎないこととなる。

(四)

國家社會主義または社會主義と民主主義との關係を明らかにし、さうして社會主義が常に民主主義を伴ふものであり、民主主義を伴はざる國家社會主義――ビスマーキアン國家社會主義が社會主義と兩立のできないものであるとすることは、必ずしも凡ての國家社會主義が社會主義と兩立のできないものであるとすることは、必ずしも凡ての國家社會主義が社會主義と兩立のできないものとすることではない。この點を明らかにするためには、われ等は進んで社會主義と國家、社會民主主義と國家との關係について考へなくてはならない。

(五)

「勞働者には國境がない」(1)

共產黨宣言のうちにおいてかう述べられてゐます。また續いて次のやうに述べられてゐます。

「われ等は彼等(勞働者)から彼等のもたないものを取ることはできない。」

この共產黨宣言の起草者の一人であるエンゲルスは次のやうに述べます。

國家は廢止されるのではない。死滅するのである。The State is not "abolished". It dies out.(2)

これ等の點は決してたゞの片言隻句ではない。共產黨宣言にとつても、またエンゲルスの立場にとつても、極めて重要なる部分であります。然らば社會主義は凡ての國家を否認するの主張であるか。國家の廢滅は社會主義の理想で

あるか。この點を明らかにする爲には社會主義の國家觀について考へて見る必要があります。「勞働者には國境がない」といひ、「國家は死滅する」といふ意味においての國家とは如何なる意味の國家であるか。先づ共產黨宣言について見ます。

政治的權力は一つの階級が他の階級を壓迫するために組織されたる權力であるに過ぎない。(3)

卽ち政治的權力とはたゞブルジョア階級が他の階級たる勞働階級を壓迫するための組織であるに過ぎないと申すのであります。この點を一層明白にしてゐるのはエンゲルスであります。彼れは次のやうに述べます。

また近世の國家はブルジョアの社會が他の侵入に反對して資本家的生產方法の外部的狀態を支持するための組織であるに過ぎない。……近世の國家はその形の如何にかゝはらず、主として資本家の機關、資本家の國家、全國民資本の人格化である(4)……古代の國家は奴隷所有者としての市民階級の國家である。中世においては封建諸侯の國家である。われ等の時代においては所有階級(ブルジョアジイ)の國家である。(5)

卽ち近代の國家とはブルジョアジイの國家であるといふのであります。彼れの反對する國家とはこのやうな國家であります。この點において社會主義者の國家觀は頗る多くの類似點を無政府主義者の國家觀との間にもつてゐることを知ります。(6)けれども凡ての國家がみなブルジョアの國家であるとなすことは素より間違であります。エンゲルスもまたこの點を承認してゐます。古代の國家が奴隷所有者としての市民階級の國家であり、中世の國家が封建諸侯の國家であつたことを認めてゐるエンゲルスは今日までの世界においてブルジョアジイの國家にあらざる國家の成立したことの事實を認めたものであり、從つてブルジョアジイ以外の國家の成立の可能性を認めたものであり、また從つて彼れは國家の進化を承認してゐるものであります。既に國家の進化を承認してゐるとすれば、その進化はやがてまた將來に期待されるものでなくてはならない。然らば何故に國家は死滅するものだといふのであるか。エンゲルスが

國家に對し深い憎惡の心をもつて「最後にそれ(國家)が眞實に全體の社會を代表することとなればそれはそれ自身を不必要のものとするのである」といつてゐることは如何なる意味であらうか。「かくして階級反目のうへに立てられたる社會は國家を必要としたものであつた。」エンゲルスはかう述べる。さうしてまた次のやうに述べます。

けれどもかくすること(勞働階級が權力を掌握すること)において、それ(勞働階級)は勞働階級としてのそれ自身を廢滅し、凡ての階級的差別、階級反目を廢滅し、さうしてまた國家としての國家を廢滅するものである。(7)

然り、エンゲルスが廢滅すると稱する國家とはたゞ國家としての國家、ブルジョアの國家、壓迫の機關としての國家であるに過ぎない。彼れは決して凡ての國家を廢滅しようとするのではない、たゞブルジョアジイの國家、階級的の國家を廢滅しようとするまでのことであります。この點に社會主義と無政府主義との區別が横はつてゐます。繰返していふ、社會主義は決して凡ての國家を廢滅せんとする主張ではない。

(1) Communist manifesto, (kerr edition) P. 38
(2) Engels Socialism; Utopean and Scientific, P.129
(3) Communist Manifesto, (kerr edition) P.42
(4) Engels, Socialism;Utopean and Scientific' P.123
(5) ibid., P.124
(6)「批評」六月號拙稿「無政府主義の批判」參照
(7) Engels, Socialism Utopean and Scientific P.128

(六)

社會主義の排斥する國家はたゞ壓迫の機關としての國家、一階級の機關としての國家である。從つてそれは凡ての國家に適用されるものではない。凡ての國家が必然的に階級國家でない限り、これが廢滅を主張することは社會主義の要求する範圍であると申すことはできない。社會主義は決して國家を否認するの主張ではなくして國家を需要する主張であります。

「マルクスに還れ」

ソレルはこう申してゐます。その立場からサンヂカリズムを主張してゐます。けれどもそのマルクスは共產黨宣言のうちで次のやうに述べてゐます。

共產黨の直接の目的は他の勞働階級の諸政黨のそれと同一である。卽ち勞働階級を一つの階級に組立て、ブルジョアの優越權を轉覆し、勞働者によつての政治的權力を征服することである。(1)……勞働階級が先づ第一に政治的優越權をえなくてはならないとすれば、また國民中の指導的階級とならなくてはならないとすれば、更にまたそれ自身を國民に組織しなくてはならないとすれば、それはその點においてそれ自身國民的である、ブルジョア流の用語の意味ではないが。(2)

共產黨宣言においては、それが國家を必要とするものであることについて更に次のやうに述べてゐます。

勞働階級はブルジョアジイの手から次第に凡ての資本をもぎとり、凡ての生產機關を國家卽ち支配階級として組織されたる勞働階級の手に集中するために、その政治的優越權を使用するであらう。(3)

共產黨宣言はまた社會主義の實行のために具體的の要求十ケ條を揭げてそのうちにおいて社會主義と國家との關係を次のやうに規定してゐます。

5、國家資本による國民銀行及び獨占の手段によりて國家に信用を集中すること。

6、交通及び運輸の手段を國家の手に集中すること。

７、國家の所有する工場及び生産機關の擴張。(4)

これによつて見ても、マルクスの社會主義が決して國家を否認するの主張でなくして却つて國家——勞働階級の國家の機能の擴大を要求してゐるものであることが益々明白となる次第であります。エンゲルスも次のように述べます

勞働階級は政權を掌握し、さうして生産手段を國家の財産に轉ぜしめる。(5)

それゆゑにギルド・ソーシヤルズムの主張者としてのベルトランド・ラッセルがその最近の著述のうちにおいて國家（ステート）社會主義（ソーシヤリズム）はマルクス及びエンゲルスの提議の結果であると論じてゐることは決して事實を不當に批評してゐるものであるといふことはできない。(6)

カウツキーもまた政府の獨占が個人的獨占よりも非常に利益のあるものであることを述べてゐます。(7)

(1) Communist manifesto, P.30-1
(2) ibid., P.38
(3) ibid., P.40-1
(4) ibid., P.41-2
(5) Engels, Socialism, Utopean and Scientific, P.127
(6) B.Russell, Proposed Roads to Freedom, P.17
(7) Walling, State Socialism, P.XXXV 参照

（七）

われ等は更に進んで社會主義が國家に對して實際に如何なる態度をとつたかを見なければならない。先づ一八七〇年に獨逸の社會民主黨はベーベルの提議に従つて國家はその掌中に國土、教會領の土地、自治領の土地、鑛山及び鐵

道を收めなくてはならないといふ條項を通過してゐます。ラヴリオラはこの點を攻擊して獨逸社會民主黨は國家資本主義の政黨であると申してゐる位ゐであります。(1)ゴータの第二回會議においては鐵道國有が主義として贊成せらるきものであることを宣言してゐます。ヴォルマアは社會民主主義が國有の主義に反對すべき理由のないことを指摘してゐます。(2)ヴォルマアの攻擊者としてのカウツキイもまた森林や、水力や、道路組織や、學校などの國家的管理を主張してゐます。(3)「獨逸帝國議會における社會民主主義の一團は絕えず藥劑の國有を主張してきた。彼等はまた個人的保險組織に對する政府の管理を主張した。……社會民主黨は國家の活動の擴大をさうして地方的獨占を中央政府の獨占に移すことのために運輸事業に干涉した。……一九〇〇年のマインツの會議において社會民主黨は鐵道國有に贊成した。」(4)かういふ事例を列擧すると限りないほど澤山にある。また試みに英國について見る。英國の社會民主主義同盟は一九〇六年の決議において鐵道、船渠、運河の國有を主張してゐます。獨立勞働黨は一九一一年の決議において彼等の目的が社會主義の國家を組織するにあることを宣言してゐます。フランスにおけるマルクス派正統社會主義者としてのゲードもまたフランス代議院における討論において生產手段の國有を主張してゐます。(5)

(1) Labriola Karl Marx. P.255
(2) Walling, State Socialism, P.HXXXIII
(3) ibid., P.XXXIII
(4) ibid.
(5) J.Guesde, Collectivism

かくして社會主義の中流は決して國家を否認するの主張でないのみならず、主として國家に生産手段を集中することの主張であります。即ち國家的（または公共團體的）コレクチヴヰズムの主張であることを知ります。その意味は素より凡ての社會主義が國家の手に生産を集中するの主張であると申すのではない。英國におけるギルド・ソーシャリズム Guild Socialism のごときものは素より地理的團體に生産手段の支配を一任することに反對します。フランスのサンヂカリズムが國家に反對するものであることも勿論であります。けれどもこれ等の事實は社會主義の中流が國家團體主義の主張であることの事實を裏切るものではない。從つて社會主義は決して國家社會主義に反對するの主張でないのみならず、國家社會主義――眞實なる意味においての國家社會主義を要求するものであることを認めなくてはならない。ギルド・ソーシャリズムの主張者であると自ら稱してゐるベルトランド・ラッセルでさへ(1)瓦斯や、道路や水や、關税や、軍隊や海軍のごときものは地理的團體によつて支配せらるべきものであることを認めてゐます。(2)それゆゑに國家社會主義をもつて社會主義から隔離する考方は決して社會主義を理解してゐる人々の許すところではない。またステート・ソーシャリズムをもつて常に反動的のものであると主張することは、眞實なる意味においての國家社會主義を理解してゐるものであるといふことはできない。このことを理解するためには、國家社會主義と稱せられるもののうちに、二つの嚴格なる區別を設けることが肝要であります。ビスマーキアン國家社會主義とさうして眞實なる意味においての國家社會主義との區別がこれであります。ビスマーキアン國家社會主義が國家社會主義でなくして國家資本主義であることは既にこれを述べました。何故にそれが國家資本主義であるか。それがデモクラシーを排斥するからであります。政治的デモクラシーを排斥し從つて産業的デモクラシーをも排斥することによつて國家の手に生産手段を集中することは、たゞ國家の權力の擴大であり、壓迫の擴大であり、エクスプロイテーションの擴大であり、即ち國家的資本主義の要求であるに過ぎないことは既に述べたとほりであります。眞實なる意味においての國家

社會主義とはこれとは正反對であります。それはデモクラシーと結合するものであります。即ちデモクラシーの行はれる國家の手に生産手段を集中することによつてする社會主義――ステート・ソーシャリズであります。それゆゑにビスマーキアン國家社會主義がオートクラシーの要求であるに對して眞實なる意味においての國家社會主義はデモクラシー、然り政治的、社會的、産業的、民主主義の要求であります。また前者が遂に資本主義そのものであるに對して後者は社會主義そのものであります。それゆゑに獨逸における所謂國家社會主義の熱烈なる反對としてのヴヰルヘルム・リーブクネヒトもまたデモクラシーの行はれつゝある瑞西においてのそれが決して獨逸におけると同一のものではないことを承認せざるをえなかつたのであります。リーブクネヒトは次のやうに述べます。

> われ等は獨逸において、他の黨派と提携して政府の局に當るべき民主主義的組織をもたない。瑞西においては政府は殆んど管理(アドミニストレーション)以上のものではない。さうして人民によつて選まれたものである。州の政府の一員としての社會民主黨員は一般會議における社會民主黨員と殆んど異るところがない。從つて瑞西におけるわれ等の同僚は躊躇するところなく穀物やブランデイを政府の獨占事業とすることに投票することができた。……スランスにおける事情もこゝ(獨逸)におけるとは稍や異る。數年前社會主義者ヂョウレイは立法府に穀物賣買についての法案を提出した。それは外形においてはカニッヽ伯によつて獨逸帝國議會に提出されたるものと殆んど選むところなきほどのものである。けれども內實の相違は莫大なものである。(3)

眞實なる意味においての國家社會主義と國家資本主義との區別はヴヰルヘルム・リーブクネヒトによつて既に承認されてゐたところであります。今や獨逸の革命とともにビスマーキアン國家社會主義はこの世界から滅亡し去つたといふことができます。それにもかゝはらず、眞實なる意味においての國家社會主義は社會主義の中流をなしつゝあります。(4)

(1) Bertrand Russell, Proposed Roads to Freedom, P.XI

(2) B.Russell,Political Ideal, P.94

(3) W.Liebknecht, No Compromise, P.43.4

(4) この意味においての國家社會主義の主張として最も代表的のものはラムセエ・マクドナルドであると申すことができます。

彼れの著書としては左の數冊があります。

R.MacDonald,Socialism and Government.

——Socialism and Society

——Socialism after the War

——Socialist Movement

——people in power

——Socialism To-day

（九）

それ故に眞實なる意味においての國家社會主義とは民主主義的國家社會主義でなくてはならない。従つてソーシャル・デモクラシーと一致するものでなくてはならないことになります。（六月十五日）

尚ほ國家社會主義を批判するためには（一）社會主義においての國家とは如何なる國家であるか（二）國家社會主義とギルド・ソーシヤリズム及びサンヂカリズムとの關係を述べなくてはならないがこの點は他の機會に讓ります。

過激主義と民主主義（二）

ジョン・スパルゴウ

如何に苦心同情して露國革命を研究する者も明確なるボルシェビィキ運動及綱領の根柢に横て居る道德的又は政治的の偉大なる理想又は主義を、發見するに苦しむであらう。

露國に同情する者――社會主義者は――皆必ずや此の寛大なる批評の眞實ならむ事を欲するであらう。其の認容が露國歴史の最も不祥なる部分を輝やかしむると同時に國際社會主義運動をば其の恥づべき非難より免かれしむるのである。然し事實は如斯き理論と全く矛盾して居る。ボルシェビィキは妥協や協調するの不可能なる熱狂的理想主義者には非ずして、當初より嚴密な枉げ得ざる理想主義を嘲笑して居り妥協や提携や政策上應變の處置を成す事限りなく、又斷えず政略上の功利に依り其の立場を變更した。彼等の眞意とする所は、他の目的には非ずして一に繫がつて「權力の支配」にある、彼等は極端の臨機應變主義者である。彼等は政治上有益なる場合には如何なる社會或ひは民主的主義をも問はず放棄すれども、權力取得の爲めならば如何なる專制君主的なる手段、主義、計畫をも採用するに躊躇せぬ。吾々は過激主義の標語(モットー)をば有名なるホーレースの詩と解釋するを得る。卽ち「出來得べくむば正直に權力を得よ、然らざれば如何なる手段に依るも可なり」と。

勿論如斯き判斷は過激主義にのみ適用し得る、卽ちボルシェビィキと他の社會主義者とを明確に別つ特別な獨特の手段及思想にのみに。彼等も亦社會主義者や革命黨員の如く或る偉大な理想に依り激勵せられて居ると云ふ事は言をまたぬ。が然し過激派が全く社會黨と分離し別個の黨派を形成せるが如く根本的に露國の多くの社會主義者とは異つて居る。此の分離を惹起せしめしものこそ、過激主義の眞髓とする所にして決して一般に懷抱せられて居たる理想ではない。先づ始めに此の根本的事實を完全に了解するに非ずむはボルシェビィズムを了解するは不可能である。

如何なる犧牲に依るも獲得し、無慈悲に適用する、小數無產階級に依る支配權は革命運動の明白なる形式としての過激主義の根本原則である。勿論過激派の首領は下劣な誇りの爲めに權力を獲得せむとするのでは無く又彼等は大多數の人が吾人に信ぜしめむとする程利己的なる山師では無い。彼等は深く誠意より社會經濟上の自由、正義等の目的は、社會民主主義に據るよりも遙かに容易に過激主義に依り獲得し得べしと信じて居たのである。乍然尙ほ彼等の抱懐せる所謂社會の理想なるものは、ボルシェビィズムに少しも關與せず、と云ふ事實は依然として存在して居る。此等の理想は社會主義的理想である。過激主義は明白なる組織及綱領であり、其の眞髓とする所は、國家の有產階級や軍人の支配者が、普通無產階級に爲すと同樣なる方法を以て、無產階級が社會の他の階級に對し權力を嚴酷に振ふ所に存するのである、過激主義は單に昔日の皇帝の統治に變つたものに過ぎぬ。

此の批評の公正にして正統なる事はボルシェビィキ自から指示して居る。彼等は立憲主義の擁護者としての態度を取つてケレンスキー政府に、憲法制定會議の選擧をば速かに開會せざるを難じた。然るに彼等が政府の支配權を掌握するや憲法制定會議をば遲延なさしめ、軍隊の力に依り壓迫したではないか。彼等は有產階級の野蠻の一形態としての主要なる罪刑の甚だしき恐怖であるとして、ケレンスキーが重大なる叛逆の場合軍隊內に於ての死刑復活に對し、攻擊した。然るにも拘らず彼等が實權を振ふに及むで民事及政治犯に對しては主要刑罰を制定し人民に感銘せしむる手段として絞刑や笞刑を制定したではないか。彼等は軍隊を建設せむとしたり人に戰を煽動するケレンスキーの軍國主義を甚だしく攻擊した然し事實を評すれば彼等以上に却つて彼等は徵兵を賴みとして居つた。彼等は亦ケレンスキー及其の同僚をば言論、手段の自由に干渉なす事を責めたが、然し彼等が實權を掌握するに及むでは、專制制度時代と何等擇ぶ所無き方法を以てあらゆる反過激派の新聞や會合を嚴禁し、革命以前の秘密方法に、復活せむ爲め社會黨や團體を組織なすの止むなきに至らしめた。

總て此等の事否此等以上の惡き事の證左は決定的のものであり疑問の餘地なきものである。其等は過激派政府の記錄や、出版物や國際社會主義局に公報したる露西亞の大社會主義黨の報道の中に記載せられて居る。彼等が以上述べたる如きものにあるもせよ、又た無きにもせよ、ボルシェビィキが、過激主義の心醉者である同情家の善意に評してるるごとくにジョン、ブラウンや、ウィリアム、ロイド、ガリソ

ン型の純粋な理想主義者で無いと云ふ事は明かだ。恐らくは他日、大心理學者が、彼等が嫌厭非難して居るものを爲し居るにも拘らず、却つて過激主義を悦むで辯護なさむと欲する吾が國人の心裡狀態を、明確ならしめむとする仕事に着手するであらう。吾國の過激主義に味方を爲す如何なる男女も實際に於ては、皆平和主義者であり又徴兵反對論者であるにも拘らず、多くの人は大抵軍務に對して少しも抵抗しない從順な反對論者なる事が覺り得るであらう。實際彼等は皆、手段、集會演說の自由の力強き擁護者である。少數無政府主義者を除き彼等の大部は殆ど一般的に急進な政治民主々義の主張者である。彼等一般多くの人々の樣に高尙な精神を所有せる聰明な男女が如斯き信念を支持し、あらゆる者に酷く決然と反對爲し居る過激主義者を是認する事が出來るであらうか。又如何にして、亞米利加の徴兵制採用をば罵倒し、「民主々義は亞米利加に於て死せり」と云ふ事を意味すると稱し、其の口の未だ乾かざるに過激主義者に依り徴兵の强制せられ居る露西亞民主々義の誕生をば絶叫する事が出來ようか。又如何にして北米の民主々義が選擧の如く不完全なりと非難なす一方已に獲得せる平等の選擧權を殊更ら破壞せむとする露西亞の人々を賞揚したり辯護したりする事が出來ようか。如何にして彼等は戰時中に出版や集會の自由を要求し、吾が米國に於て耐へなければならなかつた樣な如斯き制限を難ずると同時に、ザーの夫れよりも劣れる方法を以て出版や公衆の會合を禁壓して居る、夫等に對し責任のある露國の人々を賞揚する事が出來やうか。一般急進精神には論理的批判力が無いのであらうか。又結局過激主義を斯くの如くに仕上げ、又あらゆる反抗示威運動に專心從事して居る人々は、暴動の刺戟を必要とする單純な躁急な定りなき精神の所有者であると云ひ得る筈があらうか、又幾何の者が性的錯亂や宗教的迷信や同樣な原因に依り惹起されたる輕微の神經衰弱の犧牲となつたであらうか。

（二）

過激主義者の統治は恐怖時代として始められた、吾人は、特別の狀態にあつたペトロ、グラードに夫れが課せられたるが如く、他の露國民の上にも容易に課せられたと思ふやうな誤謬に陷入つてはならない。ペトログラードに於ては此のクーデターが殆ど血を見る事なく容易に實行せられたのは、多大の報酬契約の締結せられたる、守備隊よりの派遣軍、プレチブラヂェンスキ、とモミヨノフスキィ聯隊及び波羅艦隊よりの派遣軍等の應援に依りたるが故である。然

し他の多くの所にあつては過激主義者の統治は殺伐な、職慄せしむる樣な手段で行はれ、決して如斯き溫和なる方法に依り行はれたものでは無い。例へばサラトフに於て遂行せられたる反對革命の過激主義に對して行はれたる方法の敍述が此處にある。

それは革命運動に永らく貢獻し「自由露西亞各人の友なり」との尊稱を得たる斯の有名な、露國革命家インナ、ラキトニコフが實際に目撃した有力な敍述である。

「此處に如何に過激主義者のクーデ・ターがサラトフに於て行はれたるか次のやうに記述してある。私しは此等の事實を親しく目撃した。サラトフは一大大學であり知識の中心であつて多くの學校や圖書館や市民の知的向上を圖らむが爲めの種々なる會がある。サラトフの州會は露國に於て最も善き一つである。社會革命黨に依り數年間社會革命主義の宣傳の行はれ居りし事とて、此地方の農民は廣く覺醒し好く組織せられて居る。市政當局者及び農民委員は社會主義者より成立して居た。住民は能動的に憲法制定會議に對する選擧の準備をなし候補者名簿をば編み候補者傳記を研究すると同時に各派の綱領をも考究して居た。十月二十八日、(歐暦十一月十日)の夜ペトログラードよりの命令に依りボルシェビィキのクーデターがサラトフに勃發した。多くの人民にとつては未知の守備兵、老弱な勞働者の團體。そして其の指揮者の能力は夫れまで市の公共的生活に何等の任務をも有せざりし、ある知識階級の人々等が軍隊として其の道具となつたのである。事更其れは軍隊のクーデターであつた。平等、直接、秘密の普通選擧に依り選擧せられたる社會主義者の居る市公會黨は、軍人に依り包圍せられ、機關銃の砲列は前面に敷かれ砲撃は開始せられた。砲撃は終夜續いた、或る者は傷き或る者は殺され市の裁判官は逮捕せられた。やがて間もなく宣言書は嚴かに發表せられ、住民に、「國民の敵」、「反革命論者」は顚覆せられサラトフの主權は勞働者並に兵卒を代表せる勞兵會の掌中に歸しつゝある、と告げられた。」

當路者の顚覆せられ而して過激主義者が赤衞軍や他の方法に依り彼等の權力を確立し得る地位に立つや、直ちに彼等は舊專制政治に知られ居たるあらゆる壓制や暴壓の手段に依頼するに至つた。彼等は社會黨中彼等に反對する黨の新聞を禁止し又或る場合には器械の設備を沒收し記者を放逐し、彼等自からの新聞となした。暴動の數日前にラボーキー、プットに於て發行したる「戰友に」の中に於てレーニンは、ケレンスキーが出版及び集會の自由を支持して居たと云ふ事を告白して居る。其の文章はケレンスキー治下に關する報知の爲めのみならず過激主義を判斷し得る標準たらしむるが故に引用するの價値を有して居る。レーニンは次の如く書いて居る。

「獨逸人はたゞ一人のリープクネヒトを有し居るのみにして新聞紙も無ければ會合の自由も無く又委員會も無い。彼等は國民のありとあらゆる富豪の百姓を含む階級卽ち非常に團結の鞏固なる有産階級の帝國主義者も含むで居るが、此等の階級の激烈

なる敵意を冒して、働き倚ほ擾亂に乘じて何事か起さむとして居る。然かるに吾等は、數十の新聞紙、會合の自由を有し、大多數ゝ委員會を有し又無産階級國際主義者中最上の地位を占めて居る、如何にして吾等は擾亂を惹起せむとして居る獨逸の革命論者に、加擔なす事を拒絶するを得やうか。」

一千九百十七年十一月に、ケレンスキー政府に反して革命擾亂を惹起する爲めに露國人を必要としたのは獨逸の社會主義者ではなく、一方に於てレーニンが嘲笑したる社會主義者の多くであり、他方に於ては獨逸の參謀本部であつたと云ふ事は全くの些事である。而して重大な所はケレンスキー政府の治下にあつてボルシェビィキを含む露國の勞働者は「總ての無産階級國際主義者中最も善き地位を占めて居り」「數十の新聞紙又は會合の自由がある」と云ふ事をレーニンが承認して居る一事である。

過激主義者反革命の起てる數日前にレーニン自身が如斯きものを書き乍ら、ケレンスキー政府の國民の自由を抑壓なすと云ふ事が、過激主義の擾亂を起す重大な原因なりとはどうしたと云ふ事なのだ。ケレンスキーの寛容と相對立して過激主義者の利己的な暴虐方法は際立つて強い對立を爲して居る。多くの反過激派社會主義の機關は抑壓せられ、過激派當局の忌避に觸るゝ新聞は停止せられ、發行せる新聞は全部沒收せられ記者は獄に投ぜられ全く帝政時代と同樣である。社會革命黨は日々異りたる名稱の下に異りたる場所に彼等の新聞を發行するの必要に迫られた。

此處に又インナ、ラキトニコフの國際社會主義局に報ぜる公報の中に其の證左となるべきものがある。

「反過激派の新聞は總て沒收せられ又撿擧せられ各地方に送達すべき方法は皆奪はれてしまつた。彼等の編輯局や印刷工場は掠奪せられた。革命裁判所を創立してより後は過激派の忌避に觸るゝ論文を掲ける新聞記者竝に其の支配人を審判し、修正を宣告せられ然らざれば投獄或ひは其の他の方法に處してしまつた。無數の建物は絶えず掠奪された。赤衞軍が捜索に來り、書類を破棄し、屢々建物中にあつた物は失はれた。かくてガレルナィや街二十七番の社會革命黨中央委員會の家具や。リィティニヤ街二十二番のディエロ、古ダ紙やボルヤ、ナロダ紙の事務所は數度掠奪を被むつた。然し中央委員會は毎日新聞の發行を繼續し帝政時代の如く日々名稱を變更して其の宣傳を續けた。」

インナ、ラキトニコフの云へるヴォルヤ、ナロダ紙は社會革命黨の機關紙であつて數度襲撃せられた。例へは一千九百十八年一月黨の首領の報ずる所に依れば過激派赤衞軍より派遣せられたる一隊が該紙の事務所に闖入し種々の掠奪したる後數人を捕縛したとある、(一千九百十八年一月三十一日倫敦ジャスティース)、又他に社會主義者の證左がある。

(つゞく館生譯)

自由への諸道

（社會主義、無政府主義、サンヂカリズムの批判）

ベルトランド・ラッセル

こゝに譯出するものは今日世界の思想界の驚異とせられてゐるベルトランド ラッセルの最新著(Proposed Roads to Freedom: Socialism, Anarchism, Syndicalism)の概論であります。

人間が今日まで存在してきたやうな破壊的さうして慘忍な混亂の社會よりももつと善き人間の社會の秩序を空想的に考へる企は決して近世になつてからのことではない。少くともそれは爾後の哲學者に手本を示したプラトウの「共和國」からのことである。理想の光をもつてこの世界を眺めるものは、彼れの求むるものが智力であらうと、藝術であらうと、愛であらうと、或は單に幸福といふことであらうと、またはこれ等の凡てであらうと、人々が無用に縛けてゆく害惡のうちに大なる悲しみを感じなくてはならぬ。さうして——若し彼れが勢力ありエネルギーに滿ちてゐる人であるとすれば——人々をしてその創造的幻想を靈感せしむる善(グッド)の實現せんとする熱切なる願望を抱かしめるに至らなくてはならぬ。この願望こそ社會主義や無政府主義の先驅者を動かした最初の力であつたのであります。この點においても何も新らしいことはない。社會主義や無政府主義について新らしいことはその理想が現在の人々の慘苦に密接な關係をもつてゐることである。その人々の慘苦が孤獨な學者の希望をして有力なる政治運動たらしむるに至つたものである。社會主義及び無政府主義を重要なものとするに至つたのはこの點である。さうしてこれ等のものか現在の社會的秩序のうへに、自覺的或は無自覺的に榮えてゐる人々に、危險を感ぜしめるに至つたのもこの點である。

大多數の人々は平常の場合には彼等の狀態もまた全體の世界の狀態をも思索し批評することなくして過ぎ去るものである。彼等は彼等自身が社會のある部分に生れたことを知りさうして現在の直接の要求といふことのほかには何ごとをも考へることの努力をもしないでその日〳〵の與へるものを受取つてゐるのである。殆んど野にある獸のごとくに本能的に、多くの先きの考もなく、また充分な努力をなせば彼等の全體が變化し得られるものであるといふことも考へることなしに、瞬間的の必要に滿足を求めてゆくのである。ある種の人達だけは個人的野心に動されて思索や願望についての努力をもするし、またそれが必然的に彼等をして社會のうちにおけるもつと幸福なものとなすに至るものである。けれども彼等とてもその自らのために求める利益を全體の社會のために眞面目に立入つて考るものに至つては殆んど稀である。彼自身の生活に如何なる關係をおよぼさうとも多數の人々が、害惡と苦惱とのために耐ぶべからざる狀態におかれてゐるのをみて人類全體のために愛情をもつてみるものは殆んど稀でありまた例外的の人々であるにすぎない。これ等の少數の人々は同情的の苦惱にかられ、初めは思想に後は行動によつて現在におけるよりも人生がより多く豐かになり、もつと快樂に滿ち且つ害惡の少なき新社會制度を求めるに至るのであります。けれども過去においてはこれ等の人々は原則として彼等の救はんとした害惡、この害惡の犧牲となつた人々に對して何ものをも與へることはできなかつた。……けれども教育の普及と勞働階級の間における快樂の標準の向上とによつて近代の世界においてはこれ等の急進的の改造に對して以前よりも有利な新狀態を産むこととなつてゐます。就中この要求の代表者となつたものは社會主義者……であります。

社會主義及び無政府主義はよき社會に對する理想をもつ廣汎なる平民運動の結合であります。これ等の諸理想は最初は孤獨なる著述家によつて書き出されさうして勞働階級の有力なる部分に世界の實際的の問題における彼等の指導として受とられることとなつてゐます。社會主義についてはこの點は明白であります。けれども無政府主義についてはある條件においてのみ眞實である。無政府主義はそれ自身として普及された信條ではなかつた。それが人氣を得たのはサンヂチリズムのある形においてのみであつた　サンヂカリズムは、社會主義や無政府主義とは違つて最初は思想の結果ではなく組織の結果として産れたものである。勞働組合の組織が最初に産れ、さうしてサンヂカリズムの思想が進歩したフランス勞働組合の意見においてこの組織

に適用せらるゝものとなつたものであります。けれどもこの思想は主として無政府主義から生じ、さうしてこの思想をうけてゐる人々は大部分無政府主義者である。斯くしてわれ等は過去の不安全なる生活のもとにおける孤獨的個人の無政府主義に對してサンヂカリズムを市場における無政府主義と申すことができます。この見解をとるときは無政府主義的サンヂカリズムについてもわれ等は社會黨におけるごとく、これを理想と組織の結合であると申すことができます。

　社會主義と無政府主義とはその近世的の形においては第一回國際社會黨の分裂において極度の戰ひをなしたマルクス及びバクーニンの二人の立役者(プロタゴニスト)から發生したものであります。われ等はこの二人についての研究からはじめます。初めはかれ等の主張について、後はかれ等の築きまたは靈感させた組織について。從つてわれ等はもつと近代における社會主義の蔓延について、またサンヂカリズムについて、およびそのフランスの外における或種の運動——アメリカにおけるI・W・W、英國におけるギルド・ソーシャリズムについても研究しなくてはならぬ。この歴史的の研究から出發して未來における切迫した諸問題の考究をなしさうして社會主義の目的が達せられることが幸福であるか無政府主義の目的が達せられることが幸福であるかを批判するであらう。

　私の考へでは純粹な無政府主義……は現在においては不可能でありしさうしてもしそれが適用されても一二年以上は維持されることがないであらう。マルクス派社會主義およびサンヂカリズムもまた最も實行的な組織であるとは思はない。おそらくはマルクス派社會主義は國家に對して餘りに多くの權力を與へることとなるであらう。また國家を廢滅することを目的とするサンヂカリズムは別箇の生産團體の競爭を停止するために中央權力を再造するのほかなきことを知るであらう。私の考案ではギルド・ソーシャリズムが最も實行的であると思はれる。それは諸民族の間に聯合が奬勵されると同じ理由で諸トレーヅの間に聯合の組織を當て嵌めることによつて國家社會主義者の要求にもまたサンヂカリスムの國家に對する恐怖にも通づるものである。

…………　…………………

　進歩的運動の指導者等が一般に異常なる非利己的な人人であることは彼等の經歴を考へることによつて明白である。彼等は大なる權力の地位にある人と同じく有爲有能の人物であるにかゝはらず、彼等は時事問題の煽動者とはな

らず、また富をも造らず、その同時代の人々の多數の喝采をうけようともしない。それ等の報償をうける能力のある人々、またそれをうける人達と同じやうに艱難な働きをしてゐる人々、さうして自ら好んでこれ等のものをうけることの不可能の地位を選んでゐる人々、これ等の人々は單にその一個人の發達といふことよりももつとより以上なる人生についての目的をもつてゐるものと判斷しなくてはならない。縱令利己的なものが交入してゐるにしても、彼等の基礎的の動機は利己以外のものでなくてはならぬ。社會主義や無政府主義やサンヂカリズムの先驅者達は大部分牢獄に投ぜられ、追放の刑に處せられ、且つ貧困の生活を送ることを自ら進んでうけたものである。何となればそのプロパガンダを止めなかつたためである。さうしてこの行動によつて彼等を靈感させた願望が彼等自身のためでなくして人類のためであつたことが證據立てられてゐるのである。

　それにもかゝはらず、彼等の生活の基底を決定させるものが人類の幸福といふことであるにかゝはらず、彼等の演說や文章の末には、憎惡といふことが愛といふことよりも顯著である。忍耐強き理想家は、樋に彼れがこの世界に幸福を齎らさんと努めてゐる時に遭遇する反對と失望との爲めに憎惡の念を起すこととなるのである。彼れの動機が純粹であればあるほど、また彼れの福音が眞實であればあるほど、彼れが反對に遭つた時には、彼れの憤懣は一層大きくなるものである。彼等は時には群衆の冷淡に對してもまた現狀維持論者の强き反對に遭つた時においても哲學者的の忍耐の態度を示すことがある。けれども彼れがどうしても勘忍することができないのは、社會の改革について彼れ自身と同じ希望を表明しながらこの目的を達するに同一の方法をとらない人々についてである。彼れの信念のために迫害を排斥せしむるに至るその深い信仰が、彼れをして、それを拒否する人達が不正直であり、またその目的に裏切つてゐる、ある卑しき動機によつて動いてゐるものであるとするの信念をして明確ならしむるに至るのである。それからして分派が生れる…………。

　急進的の改革者が何故に普通の人々によつて誤解されるかの理由は、彼等が現在の社會をそれの組織に敵をもつて外部から觀察するからである。彼等の大部分はその隣人よりも人間の性質のうちに善良なものゝ存在することを信じてゐるものであるにしても、彼等は現在の社會制度から生ずる慘酷と迫害とについてよく自覺してゐるのである。

　多くの人々は本能的に全く違つた行爲の方則をもつてゐる。一つは彼等の關係する人々を伴侶とし、同僚とし、友

人とし、或はまた群衆中の一員として考へることであり、他の一つは彼等の關係する人々を敵人として、或は社會に對する危險として取扱ふことである。急進的の改革者は彼等の注意を後者の階級、群衆が惡感を抱く階級の行動に集中する。この階級は勿論戰爭上の敵または罪人をも含む。主として自己の特權と安全とのために現在の秩序を維持せんと考へてゐる人々の心には、それは政治的または經濟的の大變化を主張する凡ての人、またはその貧困やその他の理由によつて危險なる程度の不滿足を感じてゐる凡ての階級を包んでゐます。……。

階級戰爭は國民間の戰爭のごとく相互に眞實なるものと眞實ならざるものとを含んでゐる。交戰中の國家の市民は、彼れがその自國民について考へてゐる時に、彼等をその知れる人として、友人として、親戚として、さういつた扱方をするものである。彼にとつては全體としてそれ等のものが親切な溫和な人民として見える。けれどもその敵國人に對してはその反對の考方をするものである。……革命的賃銀勞働者の立場から資本家を見ることもこれである。彼等は資本家に對しては非難好きでありまた誤つた判斷をなすものである何となれば彼等の見解の基くところは彼れが知らないことまたは習慣的に無關係でゐるところに立つてゐるからである。けれども外部からの見解は內部からの見解と同じく眞理である。完全な眞理のためには相方が必要である。外部からの見解を高調する社會主義者は非難好きではない。けれども資本主義が彼等のうへに課する無用なる悲慘の狀況のために狂氣となつてゐます。

私は讀者をして私のこれから研究しようとする運動が如何に傷ましいものであり、また憎むべきものであるにしてもそれが傷ましいことでもなく憎むべきことでもなく、却てその本源において愛であることを知らしめるために、私のこの研究の初めにこれ等の點についての總括的の考究をなしたのである……。（室伏生抄譯）

社會主義と民主主義

社會主義とは民主主義の一組織である——著者室伏高信氏はこういふ立場から本書を書いてゐます。社會主義、民主主義またはこの二つのものの關係を科學的思想的に知らうとするものに本書を奬めることをうるは「批評」の喜とするところである。（批評社發行）

心と心の結合

田中純

M君――

また退屈な梅雨期が近づいて來る。此の手紙が活字になる頃には、君も僕も、あの堪らない慵さに、閉ぢこめられて居るのだらう。本統にいやな氣がする。

全く、堪らなく慵い生活だ。昨日も里見君に會つた時に、彼もさう言つて居た。「何か本統に面白いことはないかねえ」と、二人は同じやうに言ひ合つたのだ。里見のやうなお金持も慵がつて居るし、僕のやうな貧乏人も矢張り慵さに惱んで居る。して見ると、この慵さは、人間の貧富を超越して居るものらしいし、また、その人の生活の急がしいか急がしくないかにも超越して居るものらしい。急がしいと言へば、僕だつて可なり急がしい生活をして居るのだからね。

が、今こんな泣き言を言つて居たつてしようがない。兎に角僕は、かうした慵い氣を拂ふやうな心持で、近頃久しく行つたことのない音樂會と云ふものに行つて見た。それは君も、多分新聞の廣告か何かで知つて居ただらう。あのピアストロ、ミロヴヰツケ、イゼンマン夫人の三人の演奏會だ。演奏會は三日間であつたが、僕は二日しか行けなかつた。

なるほど、ピアストロと云ふ人は、世界で幾人とかしか居ないヴァイオリストだと、眞面目な專門家に評されて居るだけに、全く驚歎すべき藝術家だと思つた。私は實際、全身に汗を覺えるやうな心持で、終始彼の演奏に惹きつけられて居た。ミロヴヰツチと云ふ人のピアノも立派なものださうだが、何分石油鑵でも叩いて居るやうな音も出るひどいピアノなので、とても聞いて居られない氣がした、ただ、三日目に彈いたボロヂンの At Convent だけは、石油鑵を超越して、私の心に迫つて來た。イゼンマンと云ふ人のソプラノは、相當に聲量もあるし、音程も可なり廣いや

うではあつたが、何うもしつくりと來ない。何處かに、不純なもの〻影が、彼女の演奏の全體につきまとつて居て、それが自分の觀照の妨げをして居た。そして、それを聞いた後は、非常に漠然とした感情ではあるが、女と云ふものは困つたものだと云ふやうな、女性全體に對する或る反感を禁じ得ないのであつた。

何時か、ケーベル博士であつたか誰だかが、演奏者の姿を見ながら音樂を聞くことは非常に不愉快である。顏も見えず、姿も見えないところから、たゞ音だけを聞いて居ることが出來たらどんなに好い氣持だらうと云ふ意味のことを言つて居られたのを聞いたが、これには僕も全く同感だ。僕等はたゞ、作者の心に耳を着けて、その心を聞き度いのだ。作者の心と聽者たる自分の心が、全く純一に、一つの音を聞くことを望んで居るのだ。しかし、實際に音樂を聞く場合には、何時も、この二つの心の間に、さま〴〵な仲介物が入つて來て、その交歡を妨げる。純粹な器樂の場合ならば、その仲介物はたゞ演奏者の技巧の拙のみで濟む。しかし、聲樂に於ては、必ずその間に演奏者の心理が多分に入つて來る。その演奏者の心理が純一で、常に作者を同じやうな心持を頒ち持つて居る場合は可いが、それがうらはらにでもなつて居やうものなら、全く助からない。イゼンマン夫人の獨唱も、かうした助からないもの〻一つだつた。

しかしM君、僕は今君に、音樂會のことを知らせるつもりで、筆を執つて居るのではない。僕が君に書き度いことは、君に訴へたいことは、僕等の心が、何故からお互ひに離ればなれになつて居るのだらうと云ふことに就てゞある。

芝居を見に行つた歸りには、屹度人間が厭になる。誰を見ても、厭な、近づけない人間のやうな氣がする。しかし可い音樂を聞いた後には、屹度人間が好きになる。誰とでも握手したいやうな氣持になる。――これは、誰かゞ私に言つた言葉であるが、私にもよくそんな氣がすることがある。私はその心理に就ても考へて見た。

つまり、芝居と云ふものは、大體に於て、吾々に問題を與へて呉れ、吾々の心持を複雜にはして呉れるが、決して純一にはして呉れない。しかし音樂に於ては、吾々はただ、その作曲者の感情と一つにならうとする。極めて純一な、赤裸々な感情に於て一つにならうとする。そして、好い作者、好い演奏者は、必ずその心持を與へて呉れる。恐らく吾々は、その純一になつた心境に於て、誰とでも握手したいやうな氣持を覺えるのであらう。そして、今日の芝居の見物に割合に多く老人や壯年者が居るのに反して、音樂

會の聽衆の大多數が、ごく若い青年や少女であると云ふ事實も、かうした心理の反映の一つではないかと思はれる。そして、今日の淺草邊の拙い歌劇などが、驚く程多數の年少な觀客を持つて居ると云ふ事實なども、相當な心理的根據を持つて居るやうに思ふ。

實際、今日の吾々の心は離ればなれだ。誰の心も孤獨である。あらゆる人と、緊密に結び着き度い欲求を充分に持ちながら、而も吾々の心はお互ひに遠く離れて居る。結合したい欲求を持つて居れば居るほど、その人の心は孤獨であり、不幸である。

吾々は何うして、此の離ればなれになつた孤獨な心から、結合の歡喜を見出すべきであらうか？

ツルゲーネフの「その前夜」の中で、自分達の孤獨を訴へる男に對して、一人の青年がかう云ふ意味のことを答へる「君はただ戀をすれば可いのだ。人間を戀すれば可いのだ。若い女を戀すれば可いのだ。君のやうに、幾ら自然を見つめて居たつて、自然はそれに答へては吳れない。しかし、戀すれば、人は必ず答へを得る。君を孤獨から救ふものは、たゞ戀があるばかりだ」と。しかし、君はこの答へに滿足することが出來るか？　それは恰度、熱のあるものに酒を飮めとすゝめるのと同じである。酒に醉つて居る間は、熱を感じないだらう。それは、一つの熱が他の熱を追ひ越すからである。しかし、その醉からさめた時の彼は、醉はない時よりも一層はげしい苦しさを感じなければならないからだ。戀が孤獨を救ふと云ふ說も、これと全く同じである。本統に自分の孤獨を知つて居るものに取つては、戀は更にはげしい孤獨の源たるに過ぎない。

結局は、誰でも皆一人ぼつちである。あらゆる人の心が離ればなれである。その一人ぼつちの現實を、最も強く摑んで居る人、最も徹底的に知つて居る人のみが、本統の意味での幸福人ではないだらうか？　固く自分一人を守つて、幸福を自己以外のものに求めないものこそ、本統の至福人ではないだらうか？

しかし、M君――

かうした今の僕の心境と、君たちの心境――一種の社會運動に精根を涸らさうとして居る君たちの心境との間には、可なりな隔りがありはしないか？　いや、僕自身だつて、決して今言つたやうな獨善的な心境に常住して居るのではない。僕自身も、矢張り多分に、君たちの社會革新家的慾求を Partake して居る。その二つの心境の隔りを、僕は、何を以て埋めたら可いのか？

それは僕だつて、僕自身を幸福にする爲めには、僕の環

境を、周圍を、幸福にしなければならないことを知つて居る。しかし、また一方から言へば、自分自身を幸福に出來ないやうな人間が、何うして、自己以外の人々を幸福にすることが出來るかと云ふ反問も出て來る。一體何處に、僕自身の幸福を得られる道があるのか？　その道さへ、その方角さへ解らない人間に、何うして他人の幸福や、社會の幸福に口を入れる權利がある？――かうした疑問が、僕には次から次へと起つて來るのだ。

しかし、それは要するに僕一人の問題であつて、他人の問題ではない。だから僕は、君たちを自分と同じやうな懐疑家にしようとは決して思はない。たゞ、勞働問題や社會運動に沒頭して居る人に、僕が最も端的に告げたいことは、君等は何うして、現代の離ればなれになつた人々の心、互ひに無理解になり、互ひに無同情になりつゝあるこの孤獨なもの同志の心を、何うして結び着けようとするのかと云ふことである。

善美な社會的機構や、合理的な政治組織を造り上げることは素より可いことである　しかし、それらの社會的機構や、政治組織を作り上げる上に、個人々々のこの心の結合と云ふことが、どれ丈け注意されて居るか、どれ丈け計算に入れられて居るかと云ふことを、僕は先づ問ひ度いのである。

善い社會組織が出來れば、その社會に住む個人々々の心も、必ず善く結び着くと言ふのか？　それならば、吾々は先づさうした社會組織の出來上るのを辛棒強く待つて居やう。しかし、かうした心と心との結合の可能性がない、或ひはそれが問題外とされて居るやうな社會運動ならば、それはむしろ無い方が可い。

物質的な平等や公平をのみ期待して、精神的な幸福や向上を度外視した社會運動は、無いよりは可いが、しかし吾々は、それに餘り多くのものを期待することは出來ない。

M君――

こんな事を書いて居るうちに、僕の口吻が變に理窟つぽくなつたことに氣附いた。これも矢張り、頭が變になつて居るせいだらう。

兎に角、個人々々の精神的慰樂や、心と心との結合を基本としない一切の社會組織に對する企てが、僕等に取つて可なり無意義に見えることを語れば可いのだ。僕には、その外に他意はない。いづれ他日、頭の可い時に、この問題に就ての詳しい意見を述べることにしよう。

フエルデイナンド・ラサール

――社會運動の人々(3)――

尾崎士郎

(一)

世界の社會主義運動史上に於て最も重要なる位置を占むる者はフエルデイナンド・ラサールである。ラサールの運動を出發點として社會主義は總てに亘て實際的な形を帶びて來た。學術の堅砦から飛び出でゝ平原の戰を戰ふべき途を開かれて來た。ラサールを產んだ當時の獨逸は全部的な意味に於て世界の社會主義運動に最も多くの貢獻を爲して來たものであるといふ事が出來る。マルクス、エングルス、ラサール、ロドベータス等の名前は決して獨り獨逸のみが私すべきものではない。

(二)

Ferdinand Lassalle は一八二五年ブレスラウに生れた。彼の父は猶太人の血統を引いた富豪であつた。而して、彼の父は彼をして常に實業界の人たらしめんと欲し、ライプチヒの商業學校に入學せしめたけれども、彼は商人たる意無く、自らブレスラウ大學に轉じ、更に伯林大學に轉じた。

一八四五年、彼は伯林大學を卒業した。而して、卒業すると同時にヘーゲル學派の見地よりする、希臘の哲人ヘラクリタスの事に關する大著述に從事したけれども、幾干も無くして彼は此事業に今迄捧げて來た過大の興味を失てしまつた。

軈て彼は鄰國巴里に赴いた。而して此地に於て彼が最も深く交つたのは、當時第一流の詩人として謳はれてゐた彼の同國人たるハイネであつた。ハイネは太だラサールの人物才氣に服した。ハイネ 此時彼を紹介したる文章の一節を紹介する。『――彼は新時代の產物である。故に謙遜、自

制の外貌すら有しない。唯彼は現在に於ける自已當然の地位と怡樂とに向て努力する。』と。此一句は彼の伯林に歸臥してからの生活は彼の總てを語るものである。洵に彼が伯林に歸臥してからの生活は彼の生涯史を通じて最も強く光り輝くものであつた。

而して、伯林における彼の生活を語らんが爲めには、主として注意をハッフエルト伯爵夫人事件に注がなければならぬ。ハッフエルト Hatzfeldt 夫人は其主なる伯爵の敗倫の行爲に堪へ得ずして數年之と別居し、當時は財產並びに育兒の問題に就て彼の殘忍暴戾なる夫と法廷に於て爭ひつつあつたのであるが、熱血に富めるラサールは自ら奮然として起て此訴訟事件を引受けた。それより彼は特別に法律の研究を始めたのであるが、彼の非常なる熱心と根氣とは三十六ヶ所に亘る法廷の爭を經たる後、終に伯爵をして夫人に甚だ有利なる條件を承認せしむるに到つたのである。

此事件は幾度か小なる疑獄を生んで、屢々ラサールを危地に陷れたのであるが彼の才氣はよく是等の危難から自由に其身を免かれしめた。

ラサールとハッフエルト夫人との關係は此一事件を界線として愈々密接の度を加へ、その死に及ぶまで續いたのであるが、此關係は確に彼の社會的地位を高むるに不利であつた。

(三)

一八四八年の革命當時は、彼はラインに於けるマルクス派の社會民主黨に屬してゐた。當時に於ける彼の運動は僅に地方の一部に止り、甚だ狹少なるものであつたけれども、ヂュッセルドルフに於て地方官憲に抵抗したる廉により捕へられて六ヶ月の禁錮に處せられた。彼の法廷に於ける辯論は彼の政治上の大演說の最初のものであつて、且最も社會的に有名なるものであるが、其辯論中、彼は其所信を大膽に告白して曰はく『予は自ら社會民主的共和主義者たることを確信して公言することを快しとする。』と。

一八五八年に及ぶまで、主として彼はラインに留り、伯爵夫人の訟訴事件と、前年企てたるヘラクリタスに關する著述とに一身を委ねたのであるが、前者は五四年に勝利を得、後者は五八年に出版せられた。此前年より引續いて彼は一八四八年の革命運動の爲めに、長く伯林の部に出入するを禁ぜられたのであるが、一八五九年、荷馬車の馭者に扮して密かに伯林に歸り、後フムボルトの勢力を通じて國王政府より伯林住居の許可を得た　而して同年彼は更に『伊太利戰爭と題する小册子を發行し、六一年には伯爵夫人事件によつて得たる法律上の智識によつて System ofAcquired

Right と題する大著を出した。

(四)

ラサールの社會運動は一八六二年に始まつた。革命的ラサールが始めて其鋭鋒を顯はしたのは此時を以て其第一歩とする。

當時はヘーゲルの獨逸よりビスマルクの獨逸に移るの過渡期とも言ふべく、――更に詳言すれば、永らくの間哲學空理に於て急先鋒であつた國民が、漸く、戰爭、政治、產業等の實際の國民生活に於て牛耳をとらんとしつゝあるの時期である。

此時に於て獨逸改造の成否は一に繫て普魯西陸軍に在つた。プロシアの新らしき支配者は能く此間の消息を洞見して、彼の有名なる軍備擴張案を議會に提出したけれども、議會は之に向て激烈に反對し、玆に四年有餘に亘る兩者の大抗爭を惹起した。ラサールは此大抗爭の眞中に飛び出した。卽、彼は一八六二年 On the Nature of a Canstitution と題する演說に於て其意見を公表したのであるがそは自由主義者の其とは全く反對のものであつた。彼の言ふ所に從へば、『憲法は紙上に記されたる原則、文書を言ふには非ずして、當時における最强の政治的諸勢力の表明が之である。國王、貴族、中等階級、勞働階級は言ふまでも無くプロシア政體中の四大勢力であるが、此中最强なるは軍隊を有する國王なるが故に、軍隊は實に現在に於ける生ける憲法の基礎でなければならぬ。從て斯の如き根據の上に立てる政府に對する鬪爭に於ては言語上の抗議は全然無効である。』と。

彼の斷言は一時彼をして批難の中心たらしめた。然し乍ら、彼は其第二回の演說 What Next において更に其論鋒を進めて言つた。『斯の如き政府に抗する唯一有効の手段は政治の實際をありのまゝに表明するために、議會の召集に應ぜざることが之である。議會が其召集に應ずるは卽ち政府の行動に適法の假面を與ふるものである。若し議會にして之に應ぜずとせば、今日の時代に於て專制政治は到底不可能なるが故に政府は竟に屈服せざるを得ないであらう』と。

ラサールは是等の演說によつて、正義の要求を威力の要求の下におくものである。といふ非難を招いたのであるが、彼は其後小册子 Might and Right を著して之を辯じた。其中に曰はく、『前の演說は自己の意見を發表したるに非ずして僅に唯歷史的に事實を解說し、刻下の形勢の眞相を明にしたるに過ぎない。』と。而して彼は更に又宣言して曰は

く、『プロシアに於ては權力と毫も關り無き民主黨の外絕えて一人の正義を語るの權利を有する者はあるまい。民主主義者にして始めて一人 Right たるを得べく、又能く Migh たるを得べきものである。』と。

以上の彼の言說が事實の上に何等の影響を及ぼし得なかつたことは改めて喋々を要するまでも無い。然し乍ら、之が發表は終に彼をして從來の進步黨と提携する能はざるの動因を構成し、全く別個の新らしき進路を開拓するの餘儀無きに到らしめた。

(五)

一八六二年、彼の試みたる演說は、貧者を煽勵するものなり、といふ理由の下に告發せられた。彼の此時の辯論は Science and the Workers と題して刊行されたものであつて實に驚くべき雄辯であつたにも關らず彼は終に四ヶ月の禁錮を宣告せられた。然るに彼は此判決に服せず、直ちに控訴し、第二審の判決に於て罰金十五磅に輕減せられた。

此第二回の裁判はラサールの名聲をして世間に嘖々たらしめた。是より先き一八四八年の民主革命運動の結果、獨逸勞働者の迷夢は漸く徐々に醒め來り、彼等は到底進步黨の微溫的政綱を以てしては到底滿足する能はざることを知るに到つた。此時に於て突如として顯はれたるラサールの演說筆記は大いにライプチヒ勞働委員の心を動かした。彼等は一八六三年二月、ラサールに向て其意見を聽かん事を要求するに到つた。要求に應じてラサールは直ちに長篇の公開狀を送て之に答へた。此公開狀は勞働者の政治、社會、經濟的政綱を最も明確に指示したるものであつて、卽ち彼が曩に『勞働者の政綱』において述べたる、新時代における勞働者の據て進むべき政治、社會、並びに經濟的原則を遺憾無く說示したものである。

(1) 勞働者は自ら獨立したる一政黨を組織すべく、其政黨は勞働階級の進步、改善を以て主なる目的とし、移民、職業、言論、集會の自由の如き政治的綱領を第二位に置くものたるべきこと。

(2) Schulzeの計畫は此目的に對して不適當なること。

(3) 賃銀鐵則が現在に在ては一切の進步改善を無効ならしむること。

(4) 國家は勞働者をして、其勞力の全生產を得せしむるために生產組合を設立すべきこと。而して、其國家は普通選擧の上に立て眞に人民の代表たるべきこと。

此公開狀が、微溫的なる社會改良說に飽き果てたる勞働者に多大の感銘を與へたことは言ふまでも無い。ライプチヒ委員は此公開狀に對して極めて熱心なる贊意を表し、ラサールを招いて、勞働者の集會において演說するの自由を

與へたのであるが、此集會における贊否の割合は實に七に對する千三百の差で其大多數が彼の說に贊成した。

(六)

引續いてライプチヒ委員はフランクフォルトに勞働者大會を開いたが、此時の光景は更に一層彼をしてアンビッシヤスならしめた。

彼は其集會の第一日に於て、四時間に亙る長廣舌を揮つた。其始めに當ては非常な妨害のため彼の雄辯は屢々中斷せられたけれども、其熱烈火を吐くが如き雄辯は竟に彼の妨害者をして熱心なる聽衆と變ぜしめた。雷の如き拍手は論旨の進むと共に增加して來た。

其後二日を經て彼は更に第二回の演說を試みた。此集會において彼の意見は四十對四百の大多數に依て採用せられた。其翌日彼は此全勝の勢に乘じてメインツの集會に臨んだ。此處に於ても彼の勝利は著しく七百個の勞働者の投票は擧げて彼に向つて投ぜられた。

是等の勝利が彼の運動に非常な力を添へたことは言ふ迄も無い。彼は一八六三年五月廿三日The Universal German Working Men's Association の名の下に一政黨を創立したのであるが、其政綱は極めて簡單である。即ち唯普通選擧の一あるのみである。曰はく

——獨逸勞働階級の社會的利害の、議會に於ける正當なる代表と、階級的反目の絕滅とが、平等且直接の普通選擧によつてのみ實現せらるべきを確信し、本同盟は平和適法なる手段——特に輿論の喚起によつて普通選擧制の實行を期す。』

かくて此時迄一個の論客に過ぎなかつたラサールは、今や五年の任期の下に新らしき政黨の總理に選ばれた。新運動の首領になつた。

見よ其將來は光榮の波濤によつて包まれんとしつゝある——

黨員の數は年と共に增加して來た。而してラサールは過勞の結果、健康を損じて一時瑞西に轉地療養をするの止む無きに到つた。九月半、彼の伯林に歸るや直ちに最も彼の畏敬の中心たるライン地方遊說の途に上り、玆に再び其運動を開始したのであるが此運動の最大危機は實に此秋より翌年の春に到るの間であつて、彼の此間に於ける勞働は實に人間以上であつた。或は約三ケ月間にシュルチェ攻擊の大著を草し、或は伯林、及ラインの法廷に立て壯快、熱烈、なる辯論を試み、或は複雜なる黨務を指揮して、奮鬪頻りに努めた。

斯の如き激闘の中にあつて彼の心身は疲勞困憊の極に達した。彼は例に依て其休養を溫泉に於て試みんとした。然し乍ら、ラインにおける同志の熱情無視し難く、再び衰へたる勢力を奮ひ起して一八六四年五月八日、伯林を發してライン諸州に向つた。斯くて彼は十四日にはゾーリンゲンに於て、十五日にはベルメンに於て、十八日にはウエルメースキーヘンに於て懸河の如き熱辯を揮つた。――彼の往く處、勞働者は唯歡呼の聲を以て之を迎へた。

同年五月二十二日 The Universal German Working Men's Association 創立一周年記念會はロンスドルフに於て開かれたが、同志の熱情と昂奮とは此時に於て正に絕頂に達した。當日の狀況を知り、其群集の歡呼の聲に包まれた革命兒ラサールの得意に就て語らんが爲めには、ラサールが自らハッチフエルト伯爵失人に書いて送つた手紙の一節に依るを便宜とする。

『――私は斯の如き光景は、新宗敎開基の際でなければ到底見る事の出來ないものであると信じます』

洵にロンスドルフに於けるラサールの演說は、善く其時の聽衆の心理に應じたものであつた。彼の演說の要旨は、前にプロシア王がシレシア職工の不幸なる境遇に同情し、私財を以て之を救助すべき事を約束したること。猶續いてメインツの僧正フォン・ケツテレルが其の著において、ラサールの現經濟組織の批評に同意を表したることを捉え來つて、巧に其演說の一材料とし、『私等は、勞働者、人民、僧正、並びに國王を强制して、此等の原則の如何に眞理であるかといふことを證明せしめた』と論究した。

ライン地方の勞働者の間に汪流したるラサールに對する斯の如き熱情は、或は多く問題とするに至らぬものであるかも知れない。然し乍ら、希くば吾人をして此光景の歷史的なる意義に就て語る所あらしめよ。そは他なし。吾等は、此處數世紀の間において、此時始めて遺傳的墮落、無感覺より解放せられたる獨逸勞働者を見たるが故である。――上層階級の間には變化がある。けれども下層の勞働者は、其度每に、唯勞働し、唯强奪せらるゝの運命より有してゐなかつた。然し乍ら、今日此虐げられたる鐵鞭の子が其鎖を放て自由な土地を、伸びやかな足どりで步む時が來た。――此の空氣の下に生れたるラサールが全く勞働運動の指導者となり得た事は、然く異とすべきではないに違ひない。

一八六四年、八月廿八日の朝、ゼネバの近郊、ヤルージュに於て有名なる戀決鬪が行はれた。其結果、ラサールは重傷を受け、同月三十一日終に永眠してしまつた。――彼の葬儀はハッテフエルト伯爵夫人によつて營まれ、殉道者として、同志の宗敎的性質を帶びたる尊信によつて酬いられた。

◇福田博士とベルトランド・ラッセル

◆「ベルトランド・ラッセルは英國の福田なり」とは左右田喜一郎博士の言だと福田博士自ら解放の創刊號に廣告せられて居る。

◆福田博士は高等商業學校の敎授、ラッセルはケンブリッヂ大學の敎授だ。高商も大學に昇格するさうだから何れも大學の先生たることにはあやまりはない。

◆ラッセルは哲學の大家、福田博士は經濟學の大家で共に大家である所も東と西とこそ異ろが事實にあやまりはない。ラッセルは福田博士が推稱し、福田博士は日本の多くのものより稱讃の聲をかけられてゐるのも事實だ。

◆かく言ふ筆者そのものも大の福田博士好きだ、毎月の雜誌に出るものを讀むのに第一には自分のもの、第二には博士のものを讀む位の讀者だ。

◆然し「ラッセルが英國の福田」と聞いて妙に感じた。これを飜譯して見ると福田博士は日本のラッセルだと言ふことになる。兩者共に自分のすきな人々丈けになんとなく妙に考へさせられた。論理主義者の左右田博士の言としては聞えぬと思つた。

◆福田博士の言によるとラッセルと福田博士との同一なりと斷定したのは、英國の僞デモクラシーや資本侵略主義の攻擊が殆ど其論調を同じくしてゐるからだとの事だ。

◆唯だ異ふ所はラッセルは牢屋にぶちこまれ、福田博士はクサイ飯も食はずに我論壇の勇將として奮鬪して居られる其ことだらう。但し福田博士も牢へぶちこまれる覺悟で其言論を問はせたと言ふのだからこの差異も五十歩百歩かも知れない。

◆然し日本人たることの光榮とすべきは福田博士がそんな論調で然も牢へぶちこまれる覺悟でも牢へぶちこまれなかつたことである。これ誠に聖代の盛事である。

◆だがだ。ラッセルと福田博士と同一だといふの論理がなり立てば切角西南獨逸學派できたえた左右田博士の論理主義は破滅だ福田博士とラッセルとは洵に資本主義を攻擊してゐるのは事實だ。

◆けれども福田博士は我國で敵國ではあれ獨逸の最も受けがよく、英國の不評のときに英國を攻擊したのだ、ラッセルがその自國において獨逸を憎むこと白熱に達した頃自國のデモクラシーの假面を攻擊したのとは少しく其立場を異にしてゐる。

◆福田博士は社會民主々義の資本主義の反對毒（アンチドート）だとして、我國の立場としては、資本主義と社會民主主義との間を行けと論じてゐる、言ふ意味はこれを眞正面から解釋すれば博士の生存權の社會政策へ行けと言ふにあるのだらう。

◆然るに我ベルトランド・ラッセルは、英國は社會民主主義と資本主義との間を行けなどとは言つて居ないのは其「政治的理想」なり「社會改造の原理」なりを讀んだ人の直に氣が附くことだらう。

◆福田博士の立場が極めて、其意味を眞正面から見るときに、どつちつかずの所があるに反して、ラッセルは、資本主義の廢止、從つて勞銀勞働の撤廢を主張して居る。其主張はオレーヂ、ホブソン、コール等のギルド・ソシアリズムの立場にあるのだ。

◆博士とラッセルの立場は斯くの如く明かに異つて居る。其異り方はラッセルが牢へぶちこまれ、福田博士が覺悟をしても牢にぶちこまれなかつた位のものではない。

◆だから「ラッセルは英國の福田なり」と言ふことは明かに態度の異ふラッセルに取つて迷惑だらう。ラッセルは日本語がよめなからうから彼に代つて一言して置く。（哲　二）

一八四八年のカアル・マルクス

甲野哲一

(十)

「親愛なるマルクス君
　今恰度諸方へ聞き合せをして漸くコローンから君の住所を知つたので、この手紙を書く。僕は君の追放の事を知ると直ぐ君の諸費用を吾々同志の者が負擔しなければならぬと思つたので迅速に義捐金を集める必要を感じた」そして其事は具合よく進行して行つた。同封の金が君のブルュッセル生活の費用に足るかどうかは判らないけれども、自分の英國での給料は半分にしても近日中に取れる譯だ。その金は全部君に提供することが出來る。僕は當分の間其金がなくてもやつて行けるし、親父は又幾分か補助して吳れるだらう。何にしても君の困窮を見て喜んで居る樣な人間に滿足を與へ度くはない。
『少し外の事を書かう。クリーゲがこの手紙が君の所へ着く頃君を訪問するだらう。彼は有名な煽動家だが、フォイエルバッハの事に就いて色々の事を語るだらう。僕は君がこの地を去つた日にフォイエルバッハから手紙を受取つた、それは僕が前に手紙をやつたからである。彼は其著作で共產主義を宣傳するときに共產主義の問題に觸れる前に、先づ以て宗教的遺物を一掃しなければならぬと言つて居る。バイエルンではあまりに實生活から遠ざかつて居るので徹底するところまで來ることが出來ぬらしい。またもし彼が共產主義者であるにしても、如何にして其信念の上に活動するかが問題だ。然してこの夏彼がヲイッへ來ることが出來ればそして、ブルュッセル近くに來ることが出來れば、僕等は直ちに彼を僕等の方へ引き寄せよう。
『こゝエルバーフェエルトも變つたものだ。僕等は昨日町の第一のホテルの大廣間で第三回目の共產主義者會合を行つた。第一回目は四十人、第二回が百三十人、第三回が二百人の人が集つた。プロレタリアは勿論銀行家から乾物屋に至るまでエルバーフェルト並にバアメンの全部の代表と見てもよい。ヘッスは一場の講演をし、ミュラーとプュトマンの詩は、シェレーの拔萃と共に朗讀せられた。後の討論は一時までも續いた。それは不可思議な程の成功であつた。人々は共產主義の外は何事をも語らず私達の贊成者は日々に增して行く。それで警察も大概の場合馬鹿にされて居るので、手の出し樣もない譯だ、事務官長はベルリンに行つた。然し禁止はされても僕等は、これから逃れることが出來る、吾黨の爲に書かれたすべてのものは、熱心に讀まれるのだから。』
　これはエンゲルスが其故鄕バーメンからブルッセルのマルクスへ遣つた手紙の一つである。日附一八四五年二月二十二日とある。この手紙は、エンゲルスの友情と其時代の共產主義運動を語るので私達には極めて興味の深いものである。

(十一)

マルクスは「獨佛年報」に於て、エンゲルスは「英國に於ける勞働者階級の狀態」に於て急進的勞働運動の事に就いて書いて居るが今日彼等二人は勞働者運動の組織の經書を立てた。マルクスは當時唯物史觀を充分に建設し、前年パリに於て企てた後期ヘーゲル哲學批評の著作に從事して居たがこの仕事は六週間の英國訪問に依て妨げられた。

エンゲルスは商用と其書齋の移轉の爲に、マルクスを伴つて英國に向つた 一八四五年の夏、マルクスは初めてリカルド派の英國急進思想家の經濟書を手にすることが出來たのである。エンゲルスは既に英國經濟學の批評を書く積りで「獨佛年報」へも其一部の論文を出した位である。マルクスは其訪問中エンゲルスが其研究の爲に作つたノートを讀み更にエンゲルスの書齋並マンチエスター其他の圖書館で多くの書を耽讀した。實にリカアディアン・ソシアリストの經濟書はマルクスの經濟思想の上に大なる影響を及ほしたものである。

ブルュッセルに歸つたのは一八四五年の秋である。エンゲルスとマルクスとは後期ヘーゲル哲學の批評を完成しようとした。其書は大部の原稿を以て書かれたが遂に其出版となるまでに至らなかつた。

暫らくは彼等兩人は其久しい以前から考へて居た仕事に從事した。彼等はブルュッセルの急進的民主々義者と連絡を取り、マルクスは民主々義協會の頭會長の椅子を得たのである。彼等は勞働組合の一種である「獨逸勞働者倶樂部」を設立し、急進主義の獨逸人の發行した週刊の急進新聞ドイッチェ・ブルュッセレル・ツァイツンクの編輯を司つた。

マルクスとエンゲルスとは、この新聞又は他の雜誌等に投稿して、プロレタリア運動に氣勢を添へたのであるが、マルクスは多くの時を經濟學の研究に費し、歐洲諸國の急進主義の首領等と通信し、時には、講演もし、勞働者に經濟學の講義もした事がある。

(十二)

ブルュッセルの獨逸勞働者倶樂部員の中には、有名な仕立屋で共産主義者のウヰルヘルム・ワイトリングが居た。ワイトリングは才能の優れた人で第十九世紀の最大の煽動家の一人である。彼は一八〇八年に貧家に生れた爲に、後の學問は一切獨學であつた。三十年代初めに彼は共産主義を奉ずる樣になつたのであるが、それはフーリエの親友にして其弟子のアルバート・ブリスバーンの影響に依ると言ふ。

一八三八年この貧しい仕立屋はパリの革命秘密結社から其處女作「現在の社會と理想の社會」を出して、フーリエ主義とサン●シモン主義との混同の樣な共産主義の學說を唱道したのである。彼のもつと重要な著述は、「調和と自由との保證」であつて當時多くの注意を集めて、彼をして急進的又は革命的運動に興味を持つて居る勞働者の心に其時代の著述家中最も優越な地位を得さしたのである。マルクスもパリのフォアウェルツで其書を大分に稱讚して居る。然し之れはワイトリングが勞働者を一階級と認めて、之に對して其著述をなしたと言ふ點に止まるのである。

ワイトリンクはスウォスで永い禁錮を解かれた後にブリュッセルに來た。そして、彼がマルクス並にエンゲルス獨逸勞働者俱樂部と近くに至つたのは極めて自然である。けれども衝突の起つたのは、それから間もなくであつた。ワイトリングは其人格に於ても學說に於ても、舊い空想的社會主義的であつた。マルクスの排擊したのはこの點である。陰謀的行動に對するマルクスの猛烈な攻擊であつた。

(十三)

ブルードンが其名著「貧困の哲學」を著はしたのは一八四六年である。ブルードンとマルクスとは友人であつたが、マルクスのパリを去つてから其間は深いものではなかつた。ブルードンは其書の刊行せらるゝ前にマルクスに其批評を待つ旨を書き送つたが、マルクスは一本を手にするや佛文を以て其批評をものした。表題は「哲學の貧困」と云つて一八四七年パリ並にブリュッセルで發行せられたが、この書の爲に兩人の友情は破壞せられてしまつた。

マルクスのこの書は論爭的著作中の傑作で絢爛と魅力とを充分に備へて居た。此書の重要は第二にブルードンの學說を排擊すると共に、一八四五年の夏の英國旅行に得た多くの經濟思想のよく表はれて居ることである。これより以上の重要な點は唯物史觀の表はれである。私達は、こゝに歷史は經濟的發達に依て見ねばならぬとする思想を見ることが出來る。マルクスは人類は生產方法の變化に從て、すべての社會的關係を變更する、「手臼は封建的領主の社會を蒸氣臼は資本家の社會を造つた。物質的生產に應じて社會的關係を建設した、同じ人達は亦其社會的關係に適應した主義、觀念並に範疇を作れる人である。……故にすべて斯くの如き觀念並に範疇は歷史的の而して、一時的の產物である」となしたのである。

「哲學の貧困」は豫期の通りに急進主義者の間に人氣を博し、其著者の名は益々加はつた。暫くの間マルクスはブル

ュッセルで獨逸勞働者倶樂部の仕事に忙はしかつた。サン•シモン主義並にフーリエ主義の舊運動は既に振はず、たゞカッペ及びクイトリングの共產主義のみ勞働者の希望をつないで居た。

(十四)

當時の社會運動は大體その要素より成立つて居たのである。其一は空想的社會主義を主張するカベー一派で、其二は隱謀的革命主義のワイトリングの一派であり、其三は以上の兩派共に滿足せざる一派であつて其首領たるべき人を缺いて居たのであるが、この第三の黨派に屬する人々は後に國際的連絡を保つことゝ爲り、支部を歐洲諸國の主要都市に置き、本部をロンドンに置いて居た。ロンドンに於ては既に一八四〇年より組織された「勞働者教育協會」があつた。其創設者は、カアル•シャパー、ハインリッヒ•バウアー、ヨセフ•モルの三人の獨逸亡命客であつた。一八四七年の春ヨセフ•モルはブルュッセルにマルクスを、旅行先のパリにエンゲルスを訪問して、マルクス並にエンゲルスの主義とする所に依て其運動の改造をして吳れと申込んだ。

そこでマルクスは其立場を明にして、一定の革命的の目的と手段とに依る無產階級の政治的運動を要求した。勿論其内には、海外に、空想的社會主義の說に依るユートピアの建設を排し、他方陰謀と暴動の計畫に反對したのである。かくて、モルの提案はマルクス並にエンゲルスの思ふ所と一致したのである。其結果一八四七年の夏ロンドンの勞働者教育協會本部の一室に屬する社會主義の總會が開かるゝことゝなつた。

マルクスは、此總會には未だ出席はしなかつたが、エンゲルスはパリの同主義者を代表して出席し、マルクスが後に至つて其大著資本論第一卷を捧げた友人ウヰルヘルム•ウヲルフも亦之に連らなつたのであつた。總會の席上ワイトリングの一派は其隱謀的革命主義を持してマルクス主義に反對したのであるが、エンゲルス並にウヲルフ等の盡力に依て遂にマルクス主義を採用するに至り、其名稱を「共產主義者同盟」となしたのである。

此總會に於てはマルクス主義は勝利を得た。けれども、マルクスの主義は此時未だ充分具體的のものと爲つて居なかつた爲に、次の會議に於てマルクスの出席を請うて其說明を求めることとなつたのである。

(十五)

第一回の總會が終つてから間もなくカベーは其「イカリ

ア旅行記」等にて發表した、理想鄕を北米テキサス州に建設するの案を發表し、盛に同志を求めつゝあつたが、一時大いに勞働者の注意を惹き其贊成者四十萬と稱したのである。一八四七年九月ロンドンに渡米の折柄カベーは「勞働者教育協會」の會員に向つて其贊成を求めたが彼等は三個の理由を以て之を斥けたのである。私達はこゝにマルクス主義の著しき影響を見ることが出來る。

斯くて共產主義者同盟の第二回總會は同年十一月末に開かれ、マルクスはエンゲルスと共にブルュッセルより來りて、此會議に臨み、其意見を開陳したのである。而して、彼の理論上並に實際運動上の綱領は出席者の贊同を得た爲め總會はマルクス並にエンゲルスに彼等の主義に基く一の宣言書の起草を依賴することを決議したのである。マルクスはこの時よりこの同盟の首領を以て目さるゝに至つたのである。

マルクスは再びブルュッセルに歸來したか、十九世紀の最大事件たる「共產黨宣言」は一八四八年一月末に獨逸文にて脫稿せられ、ロンドンの印刷所に送附せられたのであるが、其最初の一部が出來上つた其日は佛國二月革命の勃發した二月二十四日である。斯くてカアル•マルクスは其共產著者エンゲルスと共に永久に傳へらるべき名譽を得たのである。

(十六)

『「共產黨宣言」は無資產階級に向つて思想及び行動の指針を與へ主義及び政略の根本原則を供給したるものにて、マルクス及びエンゲルスは此宣言の起草以外何事をも爲さざりしとするも、彼等は之によりて永遠に傳へらるべきものである』

ウイルヘルム•リープクネヒトは斯くの如く共產黨宣言を批評して居る。

一八四八年當時の共產主義は最早歐洲諸國に於て一の勢力と認められた。而して共產主義者は全世界の眞表面に立つて其見解目的及び傾向を發表すべき適當の時期であると信じたのである。かゝる二つの理由から共產主義者は共產黨宣言を必要としたのである。私はこゝに斷つて置かなければならぬことはエンゲルスが共產黨宣言の英譯に寄せた序文中の一節である。事は、何故に當時社會主義者宣言と言はずして、共產黨宣言となせしかと言ふ點にある。私はエンゲルス自身の言葉を引用するであらう。「共產黨宣言が執筆せられた時、私達は之を社會主義者宣言と呼ぶことは出來なかつた。一八四七年當時にあつて社會主義者とは一方に於ては、諸種の空想的體系を信ずる一派――卽ち英國

に於てはオーエン主義者、佛國に於てはフーリエ主義者であつて、兩者共一派をなすのみで段々と衰運に向ひつゝあつたのである。――であり、地方には、すべての彌縫策を以て資本と利潤とを害することなく社會的害惡を除去せんとする多くの社會的僞善者を言つたのである。而して兩者の場合共に勞働者階級以外のものに依つてなり、其支持者は有識階級であつた。……斯くの如く一八四七年に於ては社會主義は中産階級運動であり、共産主義は勞働者階級の運動であつたのである。大陸諸國に於ては社會主義は少くとも尊敬せらるるものであり、共産主義は之に反して居たのである。而して、吾々の考は初めより勞働者階級の解放は勞働者階級自らの行動に依らねばならぬと言ふにあつたので、二つの名前の內何れを採るかと言ふ疑問の餘地はなかつたのである。」斯くの如きエンゲルス自身の言葉を聞けば讀者は當時の共産主義と云ふものは實に近世社會主義のことであることを知るであらう。

然り、共産黨宣言の出現は近世社會主義の出現であり。共産黨宣言に於ては近世社會主義の一大理論的根據たる唯物史觀が力說せられ、社會主義の政策、從來の空想的社會主義に對する批評等に依て其根本思想を知ることを得る社會主義文獻中最大なるものの一つである。けれども私達は共産黨宣言が斯くの如きエポック・メーキングの文書で偉大なる價値を有するものであると同時に、斯のカアル・カウツキーが其獨逸本に寄せた序文の一節を記憶せねばならぬ。

「過去六十年は此の共産黨宣言の影響なくして過ぎ去ることが出來なかつた。其の發布の當時を觀察し之れに適合することの正しかつたに應じ、又た時の推移と共に陳腐に歸すること多からざるを得ない。されば此共産黨宣言は今や一の歷史的文書と看做すべきもので、其當時の狀態を知るには、倔强の史料であるが、最早現今に於て吾々を指導するものと見ることが出來ない。」斯くの如き共産黨宣言はマルクス及びエンゲルスの合著になつたものである。

（十七）

「人類は其生活の社會的生産に依つて、一定の、必然的の、彼等の意志より獨立したる關係卽ち彼等の物質的生産力の一定の發展階段に適應する生産關係に入り込むものである。而して此等生産關係の總和は社會の經濟的構造をなすものであるが、之が卽ち社會の眞實の基礎であつて、此基礎の上に法制上及び政治上の上部建築が建立され、社會意識の形態も亦之に適應するものである。物質的生活の生産方法なるものは社會的、政治的、及び精神的の生活過程をば凡て決定するものである。人類の存在を決定するものは、其意識に非ずして、寧ろ之に反し、人類の社會的存在が其意識を決定するものである。社會發展の一定

の階段に於ては、社會の物質的生産力は、そが從來其範圍内に活動し居たる所の當時の生産關係、又は只其の法制上の表現に過ぎざる所の所有關係と衝突することと爲り、かくて生産力發展の形式たりし生産關係は、變じて生産力の發展を束縛するに至る。こゝに於てか社會革命の時代が來るのである。經濟的基礎の變動に伴ふて、巨大なる建築物の全部が、或は急激に或は徐々に變革するのである。……一の社會組織は總ての生産力が其組織内に於て發展の餘地ある限り十二分の發展を爲したる後に非ざれば、決して顚覆し去るものでない。又新たなる、より高度の生産關係は、古き社會の母胎に於て孵化さるるに至らざる以前に於ては決して發生し來るものでない。」

マルクスは一八五九年に出版した「經濟學批評」の序文に於て斯くの如く其歴史觀を述べて居るが、そは、既に共産黨宣言の根本思想であつたのである。共産黨宣言に於ける社會主義の政策、空想的社會主義に關する批評に就いては、洵にフリードリッヒ・エンゲルスが一八七二年版の共産黨宣言の序文に言つた樣に時の推移と共に變化しなければならぬのである。けれどもエンゲルスが生物學に對するダーウィン説なりと言へるマルクスの唯物史觀の價値は今日に至るまで充分に認められて居るのである。

（十八）

斯くの如き重大な價値を社會思想の上に有する共産黨宣言の史觀は、其第一節に於ける次の文章を以て始まつて居る。

「總て過去の歴史は階級鬪爭の歴史である。自由民と奴隷、貴族と平民、領主と農夫、同業組合の親方と職人、簡單に言へば壓制者と被壓制者とは古來常に相反目して、或は隱然の或は公然の絶ゆることなき爭鬪を續けて居る。而して何時も全社會の革命的變革を以て、或は相爭ひつゝある兩階級の共倒を以て、其局を結んで居る。

「初期の時代の歴史を繙かば、吾々は殆ど到る所に於て、社會が種々なる身分の者に全然區分され、社會的地位に多樣の等差あることを發見するであらう。古代羅馬に於ては貴族、騎士、平民、奴隷があり、中世に於ては、封建諸侯、家臣、同業組合の親方、職人、農夫があり、且此等階級の殆ど各々於て、更に猶それぞれの等級があつた。

「封建的社會の崩壞より產れ出でたる近世の町人的社會も階級の對立を廢した譯ではない。そは古きものの代りに、只新たなる階級と新たなる壓制の手段と新たなる爭鬪の形式とを、有せしのみである。

「乍併吾々の時代、卽ち有產者本位の時代は、その階級の對立を簡單化せることを以て特徵とする。全社會は愈々益々、二個の敵視せる二大陣營に、互に間近く對峙せる二大階級に卽ち有產者と無產者とに分裂しつゝある。」

而して、共産黨宣言は封建制度は、如何にして倒れ、之に代りて近世資本主義制度は如何にして起りしかの原因を社會の生産力と其經濟組織の關係に之を得たのである。卽

ち近世資本主義制度が之を基礎として起つた生産手段並に交通手段は既に之を封建制度中に見ることが出來る。これ等の生産手段並に交通手段が一定の階段に達すると其當時に於ける封建制度の經濟組織を以てしては、其生産力に對して適應することが出來ないのである。而して、この生産力と生産組織との不調和こそ近世資本主義制度を創造したものである。かくて自由競爭の資本主義は封建制度に勝利を得た。然し資本主義も亦經濟發展の過程である。資本主義制度の生産力が增大するに從ては其制度を危くして行く。吾々は之を詳論して行く必要はない。週期的に起る恐慌は之を立證して餘りあるではないか。

それのみではない。資本主義制度は其鬪爭的性質の結果として、社會階級を單純化してしまつた。有産階級と無産階級とは之れである。無産階級は實に資本主義の崩壞を現實すべき一の主要動力である。斯くて資本主義は自ら入るべき墓を掘つて居る。而して資本主義の崩壞は新しき社會組織への必然的變革であり、資本主義の崩壞とプロレタリアの勝利とは必然的の運命である。

(十九)

斯くて其第一節を終つて居るが吾々は實に其中に近世社會主義の理論的根據を見出すことが出來るのである。其一は、唯物史觀であり、其二は階級鬪爭論であるが、これ等のものは、マルクスの後の著書「經濟學批評」「資本論」殊に其後者に依つて大成せられた餘剩價値論と共にマルクス社會主義の理論的體系をなすものである。この三つのものの社會主義に對する重要はこゝに詳說するまでもない。

斯くて共産黨宣言は、其節を改めて、無産階級と共産主義との關係を論じて居るが、共産主義の他の勞働階級の團體と異れる所はたゞ次の如き者である。即ち各國の無産者階級の國民的鬪爭に於ては共産主義者はすべての國民性より獨立して、全體のプロレタリアの共通利益を第一とするのである。其二はブルジョアに對する勞働者階級の鬪爭に於て通過すべき發展の諸階級に於ては共産主義者は常にすべての所に於て運動の利益を全體として代表するのである。

(二十)

共産主義運動は他の社會運動と異つて、多數者の爲にする多數者の社會運動である。そは社會の多數の幸福の爲に無産階級の運動を主眼とする。

「萬國の勞働者よ團結せよ」と絶叫した一八四八年のカアル・マルクスは社會運動に從事する人々や、社會思想の研究者に取りて無限の愛慕と尊敬とを拂はるるに違ひないと思ふ。(をはり)

現代人物傳(二)

◇吉野作造氏

◇法學博士吉野作造氏の名聲は近頃になつてから稍々下火となつてきた觀がないでもない。けれどもそんなことはどうでも宜しい。その人物の立派なことにおいて、さうして福田博士のようにツムジ曲りでない點において、吉野博士の人としての立場は、實に鮮に秀れてゐる。◇吉野博士の政論家としての立場はどこにあるか。政治的民主主義——これが吉野博士の全部である。吉野博士の言葉でいへば民本主義がこれである。その何れにしてもブルジョア臭のあるものであることは勿論である。こゝに吉野博士のデモクラシーの保守的の性質が存在する、吉野博士をデモクラシーであるといへるにしても、そのデモクラシーは慥にデモクラシーの最右翼に立つてゐるものでなくてはならない。たゞに右翼に立つてゐるのみではなく、その「民本主義」は以つて時弊を救ふとはできない。何となれば時弊の根底に横はつてゐるものは資本主義であるからであります。從つて現代の民主主義とはこの資本主義に對して正道に坐を占めるものでなくてはならないからであります。

◇正面に坐を占めるといつても、それが福田博士のいふように——いや福田博士だけではないソーシャル・デモクラシーの凡ての敵がいふように——ソーシャル・デモクラシーは決して勞働階級の覇權の要求ではない。それにもかゝわらず、吉野博士までが福田博士のこの謬說に賛成してソーシャル・デモクラシーは全人民のクラシーではないなぞといつて居られることは、聊か博士のために惜まないわけにはゆかない。

◇特に吉野博士が中央公論六月號で發表した「民本主義、社會主義、過激主義」といふ論文で、社會主義とは共產主義であると無條件に獨斷されてゐることには、更により多く博士の爲に惜しむべき理由があります。

◇さういふわけで吉野博士の說には感服のできないところが多い。隨分無責任なこともいつてゐられる。慨していへば、對內的關係においては、福田博士よりも保守的であり、また理解にも乏しい。

◇けれども博士の何れかにデモクラチックなところがある。彼れは決して勞働者の友ではない。また勞働者の友となりうるだけに、彼れの思想は深く刻み込まれてもゐない。けれどもデモクラチックの性情は彼れの生れながらにして具有するところであらう。彼れは天性の政治的急進主義者（ポリチカル、ラデイカリスト）である。然り、彼れはポリチカル、ラデイカリストである。夫より右でもなく又左でもない。

◇ラデイカリストの心理は反抗の心理である。それとともに彼れ自身に徹底したイズムをもたない。その點が吉野博士において最もよく窺ふことができる。

◇私は既に吉野博士が福田博士より國民生活の內面について保守的であるといふた。けれども一度外政問題になるとその地位は忽ち轉倒せられる。吉野博士の外交問題についての觀察は極めて鋭利であり、極めて徹底的である。彼れはその對內關係においては「政治的」を一歩も出ることができないにもかゝわらず、對外問題については立派なソーシャルデモクラシーの態度少くともそれに近いのである。

◇內政問題において微溫的な博士は、外政問題については勇氣に滿ちてゐた福田博士の外交論とは比較にならないほど立派である。(Demos)

米國婦人勞働組合の發達

倉橋藤治郎

米國に於る婦人の勞働組合運動は大體此戰前迄を四期に區別する事が出來ます、卽ち

第一期　一八二五年乃至一八四〇年、組合組織運動の萠芽期

第二期　一八四〇年乃至一八六〇年、勞働改善問題に興味を有つ團體の發達及び組織ある行動の開始期

第三期　一八六〇年乃至一八八〇年、純勞働組合の發達及び婦人參政權運動の擡頭期

第四期　一八八〇年乃至一九〇八年、ナイツ、オブ、レーボア(Knights of Labor)の教育的効果及びアメリカン、フエデレーション、オブ、レーボア(American Federation of Labor)のリーダーシツプの下に於る近年の發達準備期

此の區劃は亞米利加工業研究局(American Bureau of Industrial Research)によるのでありますが、其の後戰爭前より今日に至る迄は第五期として此次に區別すべきであります、以下米國勞働者の勞働統計局の編纂せる合衆國婦人及び小兒勞働者狀態報告摘要(Summary of the Report on condition of Woman and Child Wage Earners in the United States, U.S. Dept. of Labor, Bul. No. 175, Dsc., 1915, Wash., D,C,U,S,A,)其他二三の冊子に所々自分の見聞を加へて合衆國に於る婦人勞働組合の歴史の梗概を紹介し度いと思ひます。

第一期(一八二五—一八四〇)

此の第一期に於ては未だ今日云ふ所の婦人勞働組合は存在せず、トレード、ユニオンの名は苟くも職業婦人が團結的行動をなす場合、夫れが組織化されたると否とを問はず、廣く散漫に使用されたのであります、而して團結的行動と云へば殆んどストライキでありました、卽ちストライキの如き突發的事件に際して團結する事が其頃のトレード、ユニオンであつて今日の如く組合勞働者の常設團體と限られた譯でなかつたのであります。

此時代の婦人勞働者中ストライキを最も頻繁に行つたのは紡績工女であつて、一八二八年七月ニユージヤージー州パターソン市(今日は米國絹織物の中心地となつて居る)の紡績工女達が晝飯時間が正午十二時から午後一時に變更された事を不服として同盟休業したのが最も古い記錄であります、女工達は此新規定を忌避して或日十二時に歡呼の聲を擧げると共に工場を飛出して午後休業の止むを得ざるに至らしめ、翌日遂に父兄を動かして同市大工、煉瓦工、機械工等に迄ストライキは傳播したのであるが、此罷工は結局失敗に終り且つ此れを機として何等勞働者間の組織を見る

に至らなかつだのであります。

同年十二月ニユーヘンブシャイア州ドヴァの紡績工女は新工場規則を苛酷なりとして更に大規模なるストライキを決行しました、此罷業も失敗に歸しましたが組合組織のアイデアは此間に培養され、一八三四年再び同地方紡績工女が賃銀値下に反對して罷業せる時、地方の新聞紙は『少女等は會社(Cocheco Manufacturing Company)の强制する條件に從はずして相互支持の必要の爲めにトレード、ユニオンを組織せり』と報じたのであります、當時工女等の最も反抗した條件は『如何なる團體と雖も業務の妨害をなし會社の利益を害する如きものに加入するを許さず』と云ふのでありました、會社當事者はトレード、ユニオンの組織を惧れたのであります、婦人職工間にトレード、ユニオニズムの普及を防止するには極端なる壓制的宣誓を彼等に强ひるに在りとしたのであります、而して其結果は吾々が常に歷史上の總ての進步變遷の跡に見るが如く、却つて婦人勞働者の勞働組合運動を豫期以上に促進したのであります、尤も此ストライキ其者は失敗に歸し、當時成立したユニオンも何うなつて終つたか今日之を確め兼ねるのであります。

同年ローウエルに於ても紡績工女は賃銀値下に反對してユニオンを組織し、其の他各地紡績工場に於て婦人勞働者はストライキの場合にユニオンを組織する事を例としたが、總て常設的な組織あるものとは認め難いのであります、罷業の目的を遂する爲めの臨時的團結であつて、從つて罷業が成効するも失敗に歸するも、ユニオンは自然消滅に歸したのであります。

History of Women in Industry in the United States(PP. 62—63) によれば、當時紡績女工等の就業時間は隨分長かつたのであります、卽ち一八二六年頃には十五乃至十六時間の勞働時間ほマサチユーセッツ州ウエアに於て一般であつたとウイリアム、グレー氏によつて報告されて居ます、又同州ツオール、リヴアでは一八三〇年頃紡績工女は午前五時又は黎明と共に始業し午後七時半又は夏期は日沒時に至つて終業し、其間朝食晝食の各半時間を差引いて勞働時間一日正味十三時間半に上り、又一八三二年中ニユー•ヘンプシャイア、ロード•アイランド、及びマサチユーセッツ等では十三時間を普通とし、カネチカウト州のイーグル•ミル、グリスウオールド等では十五時間十分の實際從業時間が實行されて居りました。

又ニユー•ジャージー、及びペンシルヴエニア各州でも隨分長時間の勞働が行はれた事は、一八三五年ニユー•ジャ

ージー州バターソン市の綿絲紡績工女達が一日十三時間半の就業時間を十一時間に減ぜん事を要求してストライキし、又一八三三年ペンシルヴエニス州マナヤンクの紡績工女は食事時間を除いて十三時に亘る長時間の勞働に就て抗議した事等によつて之を知り得るのであります。

斯の如く婦人勞働組合の運動は紡績工女に最も著しかつたのであるが、勞働組合的行動に出でた年代を云へば、一八二五年及び一八三一年ニューヨークの裁縫女工達が賃銀値下及び其不當なる事に激昂し、自衞上之に抗議せんが爲め集會をした事などは餘程早い出來事であります、後の場合は罷業女工千六百人、罷業期間四五週間乃至夫れ以上に亘り、其の後尠なくとも六ヶ年間裁縫女工が互惠又は救濟組合の件に就て集會せる事實を調べ得るのであります、尚ほバルチモアやフィラデルフィアでも裁縫女工の機關の成立を見たが何れも臨時的のものでありました。

之等に比較すると千八百三十三年マサチユーセッツ州リン市の靴裁縫女工が組織したユニオンは其當時のものとしては餘程進歩したものであつて、約一千人の女工を糾合し、組合員は一ヶ年五十仙の組合費を醵出し、賃銀にユニオンのスケールを固執して遂に雇主をして之を採用せしめたのでありますが、然し夫れも數ヶ月の後或は組合賃不納の爲め或は規定以下の賃銀で仕事をする者が總組合員の四分の三以上に上つた爲め、遂に組合は解散するに至つたのであります。

要するに此時代の婦人勞働組合は實驗的のものでありまして、後年の如き勞働組合行動が婦人勞働者間に根強く發達する迄には尙ほ第二期第三期の時代の數十年の修練と敎育とを必要としたのであります、男子組合勞働者が此時期に於て婦人勞働者に對して採つた態度は、婦人勞働者が其産業に占むる地位如何により、卽ち婦人が從來男子專有の産業に競爭者として入り込まんとする時には男子勞働者は猛烈に之に反對したのであるが、一旦婦人が其産業に相當の地位を獲得し最早動かすべからざる要素となつた時には、男子勞働者は賃銀標準の低下を防がん爲め婦人勞働者の團體を後援したのであります。

第　二　期（一八四〇―一八六〇）

此時代も大體前期同樣實驗の時代であつて、唯前期に比較して更に屢々組合の成立を見たのでありますが、夫等の組合たるや今日の勞働組合の如く目的のリジッドなものでなく、範圍の極めて漠然とした實行性の乏しいものでありました、尤も之は一には時代の反映であります、此時代は所謂 A period of enthusiasms and theories であつて社會的

秩序の改造に關する計畫を以て充滿し、改革者の思想は可成り漠然たる人情論 Inmanitarianism 的色彩が濃厚であつた、從つて婦人勞働者も此時代思潮に影響せられて、自ら勞働改良協會 Labor Reform Association 等の如き團體が此時代の特色と云はれる程盛んになつたのであります、職業の種類から云へば織物紡績工業の女工を主とし尚ほ帽子、靴、裁縫等の勞働婦人を包含し、性質から云へば著しく教育的であつて、且つ前述の如くヒューマニタリアニズムの調子を帶びて居るのであります、又地方から云へばローウエル、マンチエスター、ドヴア、フォールリヴア等のニューイングランド地方を主として尚ニューヨークに及び、就中ローウエルが運動の中心でありました。

然し又ストライキも度々行はれ、屢々賃銀値上げ及び勞働時間短縮に成効したのであります。

婦人勞働改良協會 Female Labor Reform Association

此時代の特色と云ふべき婦人勞働改良協會はローウエルの夫れを最初で且つ最も有名なるものとします、此ローウエル婦人勞働改良協會は一八四〇年頃同地方の紡績女工が賃銀値上及び時間短縮を要求せる運動の結果の産物として一八四五年一月に生れたのであるが、其成立及び發達に就ては會長サラー・バグリー女史の獻身的努力に待つ所甚だ多いのであります、女史は自身亦十年以上ニュー、イングランド地方の紡績工場の工女であつた經驗があり、非常にチヤーミングな有能な婦人であつたと云はれて居ます、女史は單にローウエルと限らず此時代の職業婦人組織運動の急先鋒であつて、屢々全國大會に婦人勞働者を代表して出席し、よくローウエルをして婦人勞働改良協會運動の中心地たらしめたものであります。

ミス、バグリーの如き格好のリーダーを獲たローウエルのユニオンは直ちに組合員數四五百人に達し、婦人勞働者數千人の署名を以て一日十時間勞働の制定を立法官に陳情せるに止まらず、ミス、バグリー等の幹部は一八四五年マサチユーセッツ州立法委員會に出頭して紡織工業の就業者狀態を說明立證したのであります、此出來事は第一に合衆國が成年者に對する勞働狀態には政府としての調査を行なへる最初のものとして、第二は其が全然婦人勞働者の陳情に基ける點に於て米國婦人勞働史上著名なのであります、然るに該立法委員會議長は此問題に甚だ冷淡であつた、爾も偶然彼れはローウエルの選出であつた、玆に於てローウエール婦人勞働改良會は彼れが排斥を企て遂に數ヶ月後の次期選擧期に彼を落選せしめたのであります、マサチユー

セッツ州が勞働に關する立法に於て進步せる裡面には此協會の活動亦預かつて力ありと云はれるのであります。

十時間勞働法

之等團體の運動如何に拘はらず又法律の制定如何に關せず、マサチユーセッツ州は工場從業時間の短縮に就て常に他州に先鞭を着けて居ます、例へば同州が十二時間制を採用せる時他のニユー●イングランド諸州の紡績工場は十三時間制であり、他州が十二時間制に進める頃、此の州は既に十一時間制に移つて居ました、殊に他州では例令時間制を制定するも、工場主は勞働者との間に契約を締結する時は規定以上の長時間勞働をなさしめ得ると云ふ此種法律の特例を惡用して法律を死文に終らしめたのでありますが、流石に此州は勞働問題運動者の腰が強くてよく法律を實行せしめ得たのであります。

婦人勞働改良協會はついでニユー、ヘンプシャー州のマンチエスターの綿絲紡績女工により、且つローウエルの協會の助力によつて成立し、爾來婦人勞働狀體の改善の爲に或は公開演說を催し或は其他の方法により、一年經たない間に約三百人の正會員を有し、殊に十時間勞働の制定に就て他のあらゆる團體より更に大なる努力をなし、遂に一八四七年ニユー、ヘンプシャイア州をして合衆國最初の十時間勞働制度實行者たらしめたのであります、此頃よりマンチエスターの勞働者は從來男女各別に集會せる例を更めて男女會合を共にする事になりました、婦人協會の幹事は此れに就て『男工は吾々を除きて何事をもなし難く吾々も亦男工と離れて何物をも成就し難しと思惟し行動を共にするに至れり』(History of Womanin Trade Union, P. 79)と述べて居ます。

ニユー●ヘンプシヤイアの一八四七年制定せる十時間制度は其の後六年間ローメン、ペンシルヴエニア、ニユー●ジヤージー、ロード●アイランド等の各州に於て踏襲さるゝに、至つたのであります、然し此れ等の十時間法は工場主と勞働者とが契約をなす時は換言すれば勞働者が同意する時は時間を延長する事が出來る除外例を認めて居ました、從つて工場主は此契約に同意しない職工を雇はない事にし、自然十時間以上の長時間勞働を餘儀なくせしむる形となり、甚しきはブラック●リストを作製し長時間勞働を承諾しない工女等の姓名を發表して彼等をして糊口に苦しましめ、壓制屈服せしめたのであります、卽ち法律で十時間制度を定めた事は大成功であつたが、其運用の實際を見ると死文に等しかつたのであります。

此等ニユー イングラン諸州を除いてはニユー、ヨーク市

に於て一八四五年組織せらたる婦人工業協會(Female Industrial Association)があつて、裁縫、製本、レース、縫飾(フリンヂ)、縫取其他各種類の女工を網羅し、又フィラデルフィア市では婦人勞働改良家が勞働問題に關する講演を試み全國勞働會議に代議員を送り、主として教育的に有効なる運動を試みたのであります。

ピッツバーグの女工罷業

此時代の特色は前述の如く孝人勞働婦良會であり又其のヒユーマニタリアニズム的な點にありますが、ストライキも亦屢々行はれ、且度々成功したのであります、殊に有名なのは一八四八年ペンシルヴエニア州ピッツバーグ市地方の綿絲紡績工女の企てたる夫れであつて時間、給料及び勞働條件の改善に關し約六年間に亘つて斷續罷業したのであります。

一八四〇年代の初めに此等の女工は賃銀値上及び商店注文法(Store-order System)の廢止に就て罷業し

一八四三年には賃銀据置の儘勞働時間延長せられしに反抗して罷業せるも失敗し

一八四四年には賃銀減額に對抗して罷業し

一八四五年には賃銀改正運動を放棄すると共に全力を擧げて一日十時間勞働制採用に就て盡力し、やがて彼等女工達は十二時間制の工場に復歸はしたが、其復歸に際し雇主達より今後十時間勞働運動の繼續に對して何等反對をなさざる旨の言質を得

一八四八年七月四日には遂に法律によつて十時間制を確認せらるるに至つたのであります、然し當時工場主側は不當な權力を有つて居て此法律通過後も尙ほ言を左右にして之を實施せず、法律が特別契約の下に於て十時間以上勞働の除外例を求めたるを奇貨として、十二時間の勞働を固執する女工達を解雇し、之に對してストライキ頻繁に行はれ、中には暴動に變じた場合も一度でなかつたのであるが、遂に女工側の目的が貫徹されて十時間制度が一般に採用せられました、然し工場主は犬糞的に賃銀六分の一を値下して罷業工女に報復したのであります。(つゞく)

レビュー オブ レビュース

福田徳三博士 『解放の社會政策』

一

福田博士は自ら稱して日本のベルトランド・ラッセルなりといふ。ベルトランド・ラッセルが唯僅に英國に於て、學者らしからざる痛快味を有する學者であることを知るのみに止つてゐる予は、其學說が如何なるものであるか、其英國における社會的影響が如何なるものであるか、といふ事については全く無智である。唯知れる福田博士と知らざるラッセルとを比較するに當て、予の頭に第一に響く矛盾は、英國の福田徳三たるベルトランド・ラッセルが自ら社會主義者なり、と公言してゐるにも關らず、日本のベルトランド・ラッセルたる福田徳三博士が嘗て社會主義者である、と公言したことを聞かざることである。雀と雖も海中に入れば蛤となる。——觀じ來れば英國のラッセルが日本に來て社會主義を消極的に否認する學者になつたことは夫れほど注意すべき事ではないかも知れない。

二

福田博士の『解放』創刊號の巻頭に掲げられたる『解放の社會政策』なる論文は、あらゆる意味において日本の最近の論壇が獲たる最大の收獲の一つであられぱならぬ。而して、此論文の基礎を爲してゐる思索が、ラッセルの著述によつて力づけられたといふ事を聞く時において、吾等の興味は一層深からざるを得ない。

尠くとも『解放の社會政策』なる標語は福田博士によつて呼稱せられたる最も新らしき内容を有する標語である。

博士に從へば、『國と國との戰爭、階級と階級との間の鬪爭は決して理性と自覺とからのみ起るものでは無い。理性と自覺とは唯後天的に援助者として擔ぎ出されるに過ぎない。戰爭と鬪爭とを惹起す根本の力は衝動である。』而して、『此衝動から起り、パッションから起る戰爭や鬪爭を理性と自覺とによつて、防止し得べしと考ふるは愚である。』

『戰爭を杜絶し、鬪爭を根絶せんがためには單に理性の生活を改造した丈けでは駄目である。改造せねばならぬものは實にパッションの生活是れである。而して、斯の如き論據から博士の所謂、生存權の社會政策が芽を萠え出す。曰はく、——『吾輩が生存權の保障を社會政策の第一義とすべし、と云ふは主として其心理的作用を考へて主張するものである。國に生れ、社會に活くる限りの者は權利として其生存を保證せらるるといふ事は心理上大なる安心を與ふる事と信ずる。此安心を與ふる事は、卽ち現在の苦痛を著しく緩和する所以である。これが吾輩の主張する生存權の社會政策の特徴である。』と、かくて博士の年來の主張たる生存權の社會的政策なるものは、今日此處にベルトランド・ラッセルの書を讀む事に依て、新らしき解放の社會政策を產むの導因を造つた。——其解放の社會政策による時は、我物と思へば輕し傘の雪、で如何に激しい力作でも、自己の創意により、且其事自身を目的として營む時は、疲勞は生ずるが苦痛は必ずしも伴はない。——ベルトランド・ラッセルが『企業は創造を意味す』と叫んだのは、彼が社會主義者であるといふことを前提とする所に多くの意味がある。日本のベルトランド・ラッセルは何が故に、最初は脫兎の如く二元的立場を固執して、最後に處女の如く宗教的な精神主義に歸依せざるを得なかつたのであるか。(士郎)

◇編輯室と校正室

◆國際勞働會議に出席する女の顧問に適當なのがあるとかないとか色々の取沙汰がある。先づ山川菊榮女史でもやつたらよからうではないか

◆女史は日本の勞働狀態に通じないといふ說もある。けれども日本の勞働狀態になぞば通じなくても宜しい。七八十年前の西洋の勞働狀態を知つてゐさへすればそれが直に今日の日本に當て篏まるではないか。だからそんなことは西洋の勞働委員の方でよく心得てゐてくれる。日本でさう心配しなくてもいゝわけだ。

◆明治の初年に福澤先生が西洋事情を書いた。その當時日本人が西洋に驚いたよりも、今日の日本が、國際勞働問題で西洋に驚いたことの方がより多く深刻であらう。西園寺さんもどうせ外交には失敗だし、また成功するだけの腕もあるまいから、先づ歸つて「新西洋事情」でも書いてはどうか。

◆河上博士の「社會問題研究」も六月號を休んだ。何のために休んだか。當局の干涉があつたからだといふ人もあるがマサカそんな頑迷な當局でもあるまい。ナゼつていふのか。それは「平民內閣」ではないか。

◆その河上博士は今でこそソーシャルデモクラットとなつてゐるが、大學を卒業した頃には三井物產に入らうとして運動したこともあるさうだ。さうして競爭の結果同窓の尾崎敬義君に負けたといふことだ。

◆負けたことが博士には幸福であつたらう。三井あたりに入つたところで今頃たかだか支店長位ゐであつたらうではないか。

◆「解放」といふ雜誌が生れた。流石に福田博士を主筆とするだけあつて立派な勢で出てきた。みないゝ。三號からは文藝の方面に富田碎花君のやうな新人が活動するさうだから一層いゝものができるであらう。

◆福田博士の「解放の社會政策」を面白く讀んだ。堺利彥君の論文も面白く讀んだ。たゞ惡口をいへば、矢野恒太君の資本主義萬能論、さうして資本家的常識論には少しウンザリさせられた。

◆友愛會を代表——イヤ日本の勞働階級を代表するといふ觸れ出しで巴里まで牧野さんのお伴を承つた鈴木文治君も近々歸國するさうだ。この原稿が印刷されるまでには歸國してゐるのも知れないが、歸ると一悶着起らずにはゐないといふ話だ。

◆その悶着といふのは、友愛會の中、中と外と呼應して友愛會乘取りを計畫してゐるものがあるからだとのことである。それもよからう。だが成らうことなら內輪同士の喧嘩はやめて、工業俱樂部の連中とでも對抗してはどうか。

◆勞働運動といへば勞働同盟會といふものは至極微溫的なものゝように思つてゐたが、實際は大杉榮君が指導者だといふ話がある。

◆實際はどうか知らないが。大杉君は日本社會運動者のうちで一番に實際的であるやうだ。——思想は非實際的だが。

◆國家社會黨の講演會には聽衆よりも探偵の數の方が多かつたといふが、ツマリ民衆よりも探偵の方が「自覺」してゐるからであらう。

◆この夏には平民大學の方でも講演會をやつて氣焰を擧げるさうだがこの方も探偵だけ「自覺」してゐるやうなことはないかと今から無用の心配をしてゐるものもある。

◆よせばいゝのに佐藤中將一派の軍閥連が國民外交會をよく／＼やるさうだが、さうなれば國民の方で軍閥外交會でもやる外はあるまい。（一記者）

關稅問題より見たる支那改革案

森　恪

次に掲出する評論は過去四十ヶ年以上に亘て、支那に於ける商況を研究する者の手に成つたもので、前稅關委官エフ、イー・テイラア氏の手に依て編輯せられたものである。現在の日本にとつては甚だ興味深きものであると信ずるが故に左に抄譯する。

『一』

曾て支那に在留したる者、或は支那に特殊の利害關係を有する者を除外すれば、後に殘つたる多數の者は、支那海港稅關署の告示を見て、必ずや、一八五四年に設置せられたる關稅が、一八五六年以後、一つの法律となつて常に一英國民の自由の下に在つたといふ事實を理解するに苦しむであらう。

一八五八年に於ける天津條約に追加せられたる貿易條例の第十一條は、支那政府に依て選拔せられたる外國貿易檢閲長官に依て自由に其『懲稅行政』上の援助者たり得ると思考する英國人を選ぶべし、といふ盟約を爲された。

凡そ、稅關公務の奇現象ともいふべきは其委員に取て支那人に對する智識の獲取、並びに稅關規則の研究が必要なものである事は言ふまでも無いが、一般經濟學並びに商業事項に對する研究が全く閑却されてゐる事である。

曾て一日本稅關總檢閲官は其大臣の後援の下にシュイ・ウー・チイウをして運輸省の上に苛酷なる租稅を附せん事を要求した事があつた。此租稅は極めて僅少な額を政府に提供しをるものであつたから、唯に內國の商業を抑止するばかりでなく、更に進んで輸出をも減じて商品の運動に束縛を加へ、而して進んで此策を實行せんとするに在るのである。斯の如く新奇にして且有望なる事業に對して課稅するは、決して輸入防止の爲め援助を與ふるものに言ふ事は出來ない。而して、支那に於て都市より都市へ輸送せらるゝ郵便小包に課稅せらるゝが如き財政々策は他國の決して取らざる所

である。

『二』

輸出増加は支那に於て最も重要なるものである。今日見解狹きものが徴税公務を指揮する事は極めて憂ふべき現象と言はねばならぬ。

一八九八年に支那政府は英國大臣と盟約して英國が優勢なる間は税關總檢閲官は英國人たるべき事を規定した。この事實は、或方面に於ては優勢なる國が總檢閲官の地位を占むる事を得るものである、といふ事を思惟せしむる最も有力なる反證となつた。然るに現今に及んでは代理總檢閲官は日本たらざる可らずと欲求し來れる日本が、今や其對支貿易の發展に乘じて總檢閲官も亦日本人たらざる可らず、と要求するが如き場合に吾人は遭逢したではないか。斯の如く日本の貿易が優勢となつて來たのは主として戰亂に依て生じたる現象なることは言ふ迄も無いが、尠くとも日本は將來に於て、第二位を占むべく、又其商取引も漸次増加するに相違ない。

一九一七年に於ける日本並びに朝鮮の對支貿易額は合計三億四千八百萬に達し、英國は香港、印度、及び英領植民地を加へて漸く六千六百萬の優越を示せるのみであつた。若し夫れ英國原産品ならざるものにして、香港より出せるものを英國取引額中より除外し、香港取引に於ける日本産品を日本の部に換入する時は、過去に於ける英國の優越は疑ふらくは消滅せざるを得ないであらう。

若し斯の如き狀態の下に在て猶英國政府が税關の支配權を自己のものと爲さんとする時支那が一般商業の發展、徴税增加、更に其最高能率を果して眞に欲するか、否かは疑問である。

『三』

次に掲ぐる所の表は一九一七年度の税關取引統計表より引用せるものであるが、日本の對支取引が英國のそれより以上なりと云ふ前文を良く説明するものである。

	英國アイル・オブ・マン立法院合計		同
香港	二七四、四四五、四三四		
シンガポール	三、五五二、六四四		
其他			
英領印度	三三、九三九、五七一	日本	三三七、四四〇、七一〇

大英國	七八、〇七八、九九四		
加奈陀	二、七八〇、八六九		
オーストラリヤ其他	一、六三三、五七五	朝鮮	二〇、三六一、九四〇
南亞弗利加	五七、七三〇		
計	四一三、四六七、七一七		三四七、八〇八、六五〇

香港に於て測定せる所に依れば一九一七年度に於ける支那と日本の貿易は三十パーセント即ち三千二百萬であつたといふ。然し乍ら此の測定は信ずるに難く、吾人は、より以上に精確なる計算をしなければばならない。只簡單なる方法は支那の外國取引の合計より香港との取引を差し引き其殘餘を各國に充てゝ其割合を檢し、然る後に各國の直接取引と香港經由取引との割合を檢すべきではあるまいか。

然し乍ら、此方法に依ては日本及び米國の失を確むる事は不可能である。卽ち此の二國は支那との取引に對し香港を經由しないのである。吾人は統計に依つて香港の取引の半ば南部港に屬する事を知る。故に日本及び米國に對する計算には南支那に對する取引のみに限定せらるゝが如き事があつてはならぬ。吾人は日本の直接取引の割合は輸入五十三パーセント輸出三十パーセントなる事を發見した。然して此の割合を南支那と香港との取引に充用すれば、日本の取引は上記の三十パーセントを遙かに凌駕して七千七百萬を算するのである。然し此の計算も未だ確實なるものとする事は出來ない。――斯かる重大問題に對しては一九一七年度の日本公務統計表を合照しなければならない。統計表は次の如きものである。

輸出

日本より香港へ	五七、一七六、二一〇圓
朝鮮より香港へ	二〇、一〇八圓
臺灣より香港へ	三、一四二、三九一圓
計	六五、三三九、二〇九圓

輸入

青港より日本へ	一、八〇三、八〇五圓
香港より朝鮮へ	九〇、二六九圓
香港より臺灣へ	六一、八九〇圓
計	一、九五五、九六二圓
總計	六七、二九五、一七一圓

以上の數字は豫想外に小さいけれども恐らく故意に小さくされたるものと見て差支無い。支那稅關

統計表の示す所によれば日本より支那に對する直接輸入は、英國アイル・オブ・マン立法院合計（一は一圓九十八錢に當る）にて三二一、五六六、三九一、卽ち四三八、九〇〇、四四四圓なれ共、日本の表によれば三一八、三八〇、五五〇圓に過ぎない。これと同樣にて支那より日本に對する輸出は前記立法院合計にて一〇五、七七三、八一九卽ち二〇九、四三一、一三一圓なれども日本の表によれば一三三、二七一、〇三六に過ぎない。

前者に在つては日本の統計數字は支那の其れに比して五十七パーセント小さく、後者は三十七パーセント小さいのである。今兩國の表を比較すれば玆に非常なる相異がある。而して支那の表の日本に表に比すればより以上に信賴するに足るべきは言ふ迄も無い。香港取引に於ける日本の割合は統計表の上に於ては實際より小さいけれども研究の目的は達せられたといふべきである。日本の支那に對して行ふ所の取引は多く輸出であつて、其の價格は支那の港に達して高められ而して後稅關記錄に登記されたものであらう。

『四』

支那に於ける日本の活動狀態に就ては猶其注意を喚起せんが爲めに、續いて數言を費す事とする。支那に對して好意を有する者は其の商業及び富源を自己の手に依て發達せしめ、進んで外國の手より解放せらるゝ事を望みつゝあるといふ。而して、數ヶ年以前、彼等は日本の蠶食的態度を憤慨した。然し乍ら、支那は現在に於て愈々明瞭に自國を支配するの能力無き事を示してゐるではないか。然し乍ら一面これは人口の增加より生ぜし特殊なる道德標準に依れるものであつて、此の惡弊は只だに支那のみならず殆ど全亞細亞諸國の持癖である。彼等は多大なる國民的誇りを有すれ共吾人の所謂愛國心には缺くる所がある。其の理由は生存競爭のため各家族が他の家族と鬪爭するために團結し、相互扶助を行ひ、競爭の餘りに激甚なるが爲め愛他的精神を失へるが爲めであると思はるる。其の結果は今日見る內攻として顯はれた。支那陸軍總長は其の國を益する政治的問題を閑却し只だ擲機的遊戲に努力して、不幸な人民を費して

多大なる幸運を逃がしつゝある。然して此の不幸なる人民は何等賠償さる事なくして其役を强要せられ横暴に服從せしめらるゝのである。其の入隊勸誘は支排極めて不規則なる俸給によるよりも淫蕩的歡樂の豫約に依つて行はれたものであらう。所謂政府側よりは人民をして大戰の提供せる好運を獲得せしむる爲些細の援助をも爲さなかつた。之は日本に對する好對照なりと言ふべきである。

『五』

日本人は又國民性から論ずるも成功に値するものと言て差支ない。實に其の精力企業には驚くべきものがある。滿洲に彼等が行ふ主要產業はこれを良く示すものである。彼等は鐵•銅•鉛•石炭の諸山を開き鐵道を敷設した。又一方に製粉場、石油工場、鋸工場、精米場、釀造場、漂白場、電燈事業、瓦斯事業、石鹼蠟燭工場等、価煉瓦、セメント、染料、硫酸、硫化アンモニウム、グリセリン、膠、澱粉等及び其他外科用器具、燃熱器、坩堝、自轉車等の製作に從事しつゝある。彼等は又精糖工場を設立した。山東省に於いては桑を輸入して養蠶事業を發達せしめ、又最大支那煙草會社と合併して煙草の質の發展を計つた。朝鮮に於ても同じく活動を示しつゝある。若し日本にして一層先見の明ある他國の活動を疾視せず、實際に於て開放主義を執り、獨占せんとする事にのみ汲々たる事なくんば必ずや世の非難を蒙らずして支那開拓の大事業を成就し得るに相違ない。若し支那の大なる富源が開發せらるゝ時は支那は勿論各國に取つても非常なる利益である。支那が充分に發達せる時は必ず民族の覺醒する時である。而して其の後見期間は長短に係はらず切迫しつゝある。而して斯かる時に在つて經濟學徒の偏狹なりと目する今日の稅關總檢閲職及びシュイ•ウーチウは其の永續を許さるべきかは疑問である。

租稅改正協議は明かに日本人が各種の方面に其の利益を增進せんとしつゝあるを示してゐる。十四列强の代表委員は支那に特別稅の終局的改正は未だ決すべからずとなして假課稅を許容した。然るに一列强、卽ち日本は之を拒絕して、ために建案は實行せられなかつたのである。日本代表員は綿製品の或者を英米のそれより利益ある區別を爲

さんと努力した。其結果は單純である。卽ち日本は日本の爲めに働き、支那に於いては英國よりも其の政府及び商人は活動しつゝあれば、商況が英國のそれを凌駕するとも何等の不思議もない事である。然して日本は外人に依つて支配され又關係ある政府部體の施政に對して尙一層の發言權を有する權利あるものと思考しつゝあるものである。

「六」

凡そ時代に伴はざる法規にして健全に成長すべき理由が無い。支那に於ける外國貿易の變化は、稅關に於ける改修せられたる公務執行手段の出現を促した。而して今日に於て顯著なる支那の保守主義は近代的方法に代なければならなくなつた。然り而して、總ての變化は當然、必要に內部より起るべきものである。海港の正しき數の調査の爲に、代表委員を作り、又上官に承認せられんとしつゝある目擊證を防止せんが爲め、周密なる注意を拂はねばならぬ。若し然らざれば凡ての證據は無價値となる。卽ち獨裁政治は批評的部下の取扱が慘酷となり易く、而して部下は機會さへあらば退職せんとしつゝあるものなれば公務修整のため其の行動を偏せしめんとは欲しないのである。稅關公務は保存すべき價値あるものであるが何等かの改修を行はなければ、來るべき十ケ年間には其の狀態は必ずや一大變化をするであらう。

先づ第一に實行さるべきは一長官支配の無責任を廢し一の省局を以て之に代ふべき事である。他の國民が其の公使館の援助を獲得し得る時に、尠くとも英國民のそれの如き一大團體が、一個人の移り氣に對し其の是非を論じ得ざるが如きは決して正當なる事ではない。

稅關委員の不當なる取扱に對する評論は、其の個人的不滿より生じたるものでなければならない事を證せんがためには、例證のために戰線より歸任したる者に對する處理手段を示すに若くは無い。見よ、歐洲に於ける大戰宣言に依て多數の軍籍ある稅關委員は袖を列ねて支那を去つたではないか。而して、此處に說明の必要あるは戰線より歸任せる者は、自己、妻、及び三人の子又は從者に對する旅費の半額を支給された事である。助手として支那に來れる初任者は、其旅費及び諸雜費

として百磅を支給された。然るに戰線よりの歸任者は何等の支給をも受くる事なく、貯へる者は家族を引連れる事が出來なけれども、然らざるものは如何する事も出來なかつた樣な狀態である。依て此等の者に對して何等かの好遇を爲さゞるべからずとして各部の者が集合し、百磅を支給さるゝ初任者は何の智識もなく、一方戰線より歸任せる者は稅關公務に通じ支那人に親しきなれば好意を持たざるからずと爲して總檢閱官に提言した、總檢閱官は久しく彼等の俸給を節約してゐたのであるから其の旅費を支辨する事決して難からずと看做されても差支ないのである。然し總檢閱官の讓步せし點は只だ資金なきものに對しては返濟契約書の下に貸與せんと云ふに止まつたのである。爲めに此の讓步は只だに感謝されなかつたばかりでなく、或者はこれを不當なる慈善なりとして憤慨した。歸任者の悲運はその歸任旅費の不給與に止まらず、尙幾多の不利益が續出したのである。歸任者は其の地位に於て低下し以前に自己より以下に在りし者に凌駕せらるゝに至つた。のみならず、七ヶ年毎に算へらるゝ退職許可にも其の戰線在留期間は算入せられず、しかも次の休暇には此の在期間が休暇として差し引かれたのである。卽ち其の戰線に於ける服務期は稅關服務の時間として算へられなかつたのである。獨逸に對して斯く鬪ひ其の同僚よりして尊敬と賞讚とを博せし歸任者に對して何を以て總檢閱官が斯くの如き敵意ある處置に出でたのであるかは察知するに頗る難いと言はねばならぬ。彼等に對し特別昇進を行ひしとて何人も之を嫉視せざるべく、總檢閱官は一九一七年以後此の歸任者が稅關勤務中の奮鬪を支那の爲に行ひしことを忘却せるものゝ如き態度である。斯くの如く歸任者の俸給を節約し、旅費を支給せず、退職期を延期し、慈善的行爲を爲さんとして返つて惡感情を誘出せし爲め終に今日の如き稅關勤務の粗雜不統一を來すに到つたのである。

『七』

一方輸入公務に在ては、其物品の原產地に於ける價格に通曉する者は存在しないのである。支那は他國の如く評價課稅に自由ならず、常に海關稅に束縛せられつゝあるのである。而して、其結果

として税關に對しては特別なる通狀を作製するが如き商人は必ず謹直なる者よりも、多くの利益を得るのである。商人は輸入税金表に準じて税金を支拂ふべきか或は許可の下に物品輸入の契約せる其の條件に基きて爲すかゞ判明せずと云ふ非難がある。若し夫れ後者を執るが如き場合には輸出公務關係に對する費用をも算入しなければならない。卽ち技手支拂延期利益、其他の條項等がこれである。さればこの方法は輸入課税の當を得たる手段とする事は出來ない。其の口述の些細なる相異にても、租税額に多大なる變動を來すものである。而して尙荷造が再度行はれし如き場合には其の判別は愈々困難となり例證は無効となつて第二到着港にて再び課税せらるゝが如き事がある。若し税關にして輸入に對して能率統率力を有するならば、國內に外國產品の發見せられたる場合はそれを到着時に課税せしものとして自由に往來せしむれば頗る其の當を得たる處置と思はるるのである。斯くの如き不公平なる變則的處理は其の課税の僅少なる場合には重大事故ではないが、一朝にして支那人が科學的海關税を許容せられたる時は商業上の大妨害となるものである。

萬事の適用は税關に於ては頗る遲々たるものがある。殊に再輸出の場合には此の弊甚だしく、これは主に外國及び支那の二重記錄制度に起因するものである。而して支那商務官は長年月に亙つて成績よく行はれたる税關公務に對し其の部下を物品の往來、租税の徵集登錄に税關署に使用する事を不必要なりと觀じたのであらう。然れ共斯くの如き委員の任命は彼に利益を與ふるが故に此の制度は持續せられたのである。元來支那の帳簿なるものは極めて御役目的なるものであつて從つて不精確なること多く、再輸出の同一なる事の判定は屢々多大なる遲延を來たしてゐる。而してより以上の制度と云ふは輸入者の控帳簿の適應を招來する事であつた。しかのみならず斯くの如き杜撰なる委員に支拂はれし金額は必ずやより以上の能率的方面に、税關に依つて使用され得しものである事は勿論である。又税關署には計算署、部門的電話等の如き近代的勞力節約機關の設備無きことも注目に値するものではないか。詐欺的行爲の調査にも屢々法の强要に依つて正直なる商人に保護を與ふべき筈なるに、却つて迷惑を掛くるが如き事が頻發してゐるのである。

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部 十八錢	五厘
半年分 一圓	税共
一年分 一圓八十錢	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金 ▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替 ▲外國行郵税十錢

大正八年六月廿九日印刷納本
大正八年七月一日發行

東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館
編輯兼發行印刷人 尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所 株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館
發行所 批評社
振替東京四五三四六

廣告

半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田 東京堂 上田屋 ―
▲京橋 東海堂 北隆館 良明堂
▲日本橋 至誠堂 ―

大正八年六月二十九日印刷納本

室伏高信著

最新刊

（定價八十五錢　送料四錢）

社會主義とは民主主義の一組織である。民主主義なくして社會主義なるものはない。けれどもまたこれとともに社會主義と無關係に民主主義を主張することは時代錯誤である。從つて社會主義を理解するためには民主主義を理解しなくてはならぬ。民主主義を理解するためには社會主義を理解しなくてはならぬ――本書はかくの如き要求のもとに生れたものである。

■東京日日新聞曰く――最近の論壇に社會民主々義を高唱して最も華々しき活躍振りを示しつゝある著者の論文集にして、「社會主義と民主々義」「社會主義の煩悶」「社會主義の陷穽」「過激主義について」「過激主義と民主々義」「リンカーンの民主々義」「デモクラシーの新理想」「第三階級民主々義とソシアル・デモクラシー」の八篇を收む、何れも著者最新の執筆にかゝるもの、世界思想の最新傾向を窺はんとする者は必讀の要あり（六月十日掲載）

發行所　東京市京橋區元數寄屋町三ノ一　振替東京四五三四六番　批評社

大賣捌所　東京堂、上田屋、北隆館、至誠堂

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年八月一日印刷納本　大正八年八月一日發行

（定價金二拾二錢）

批評

八月號（第六號）

批評社

批評より

◆「批評」は「批評」の立場をどこまでも維持します。その「批評」の立場から無政府主義を論じ、國家社會主義を論じました。

◆今度はサンヂカリズムを論ずることとゝなりました。「批評」は素よりサンヂカリズムに反對します。その點については本號掲載「サンヂカリズムの批判」を御一讀して下さい。

◆マルクスについても可成りのものを載せた。マルクス傳は毎號連載することとしたいと思つてゐます。ラッセルの「マルクスと社會主義」を御一讀を煩はします。

◆夏には夏の讀みもの——涼しいものを撰むのが凡ての雜誌の流行です。それが人心に投ずるからであらう。けれどもわれ等貧民には夏休みの餘裕はない。例によつて例の通りの熱くるしい雜誌ができた。

◆たゞ旅行その他の都合から、秋花氏にしても森恪氏にしても何も書かれなかつたのは物淋しく思ひます。

◆この機會に御斷りして置かなくてはならないことは、前號に掲載された森恪氏の「支那改革案」についてゞある。あの原文は秘密出版(支那での)であつたものを森氏が支那旅行の土産としてもつてこられたもので支那にとつても日本にとつても有盛な論文であるが校正その他の手落ちのために活字になつたものに大變誤謬があり、森氏も甚だ迷惑されてゐる。その顛末を記るして森氏並に讀者諸君にお詫びします。

◆前號に出た「國家社會主義の批判」(室伏高信氏)について雜誌「國家社會主義」の方にそれの批評が載せられてゐる御批評の勞とその御深切に對しては深く御禮を申しますがあの論文は失禮ながら「資本主義」についての充分に徹底した書き方とは思へませんからこの機會に「國も家社會主義」の御批評に御禮をするとにこの點だけを申上げてをきます。

◆「批評」は雜誌界に輝く星としてありたくはない。たゞ眞執なる人々の友としてありたい。華やかなものが屢々世の誤解を招くことのあるごとく眞執なるものもまた屢々世の誤解を招く。

◆「批評」は人々の限りなき同情のもとに發行毎にその部數を増加してゆく。今や發行部數においても優に一大勢力である。健全なるものは遂に勝つ。

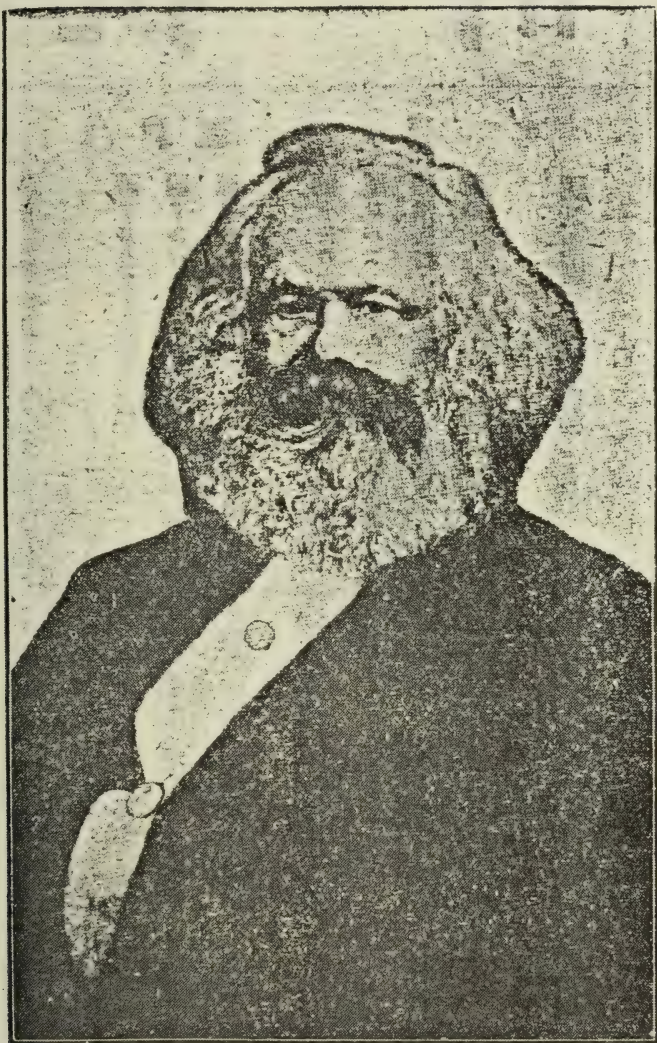
◆勝つものは屢々一部の人々の反感に價ひする。本誌に對して樣々の惡評をなす人もあるとのことなり。惡評あらば聽かん。正々堂々の言はわれ等もまた正々堂堂としてこれに答へん。

◆われ等は確信をもつて立つ。何ものもわれ等を妨ぐることはできない。若き「批評」は、生れて僅に半歳にして今や力となつた——さういふ確信は「批評」をして驕慢に導くものではなくしてそれを謙抑と自省とに導くものである。

◆時代の批評、時代の指導は、これを謙抑と自省の心に俟たなくてはならない輕薄と驕慢とは如何なる時代に於いても無用である。

◆人々の心は覺めつゝある。時代は流れつゝある。「批評」はその人々の心と時代の流れとのうへに、美しき光りとならん哉。

批評

八月號　目次

KARL MARX

サンヂカリズムの批判

室伏高信

『サンヂカリズム』Syndicalism, Syndicalisme といふ言葉の起つたのは極く近代のことである。(1) またその將來もたゞ將來そのものゝ問題である。サンヂカリズムの研究者として知られてゐるルイス・レバイン博士は一九一二年に公けにしたその書物のうちにおいてサンヂカリズムが如何なる將來をもつてゐるかはたゞ『未來の秘密』（ミステリー、オブ、フユーチユア）であるといつてゐる。その言葉は今日にてもそのまゝ用ゐられる。今日サンヂカリズムを奉じてゐるものゝ數は、勞働組合主義或は社會主義を奉じてゐるものゝ數に比べると決して多くはない。且つ私はこれをもつて重大なる缺陷を伴つてゐるものであると信じてゐる。けれどもその思想は既にフランスの國境を超えてゐる。伊太利は勿論、米國におけるＩＷＷは『アメリキヤン、サンヂカリズム』であると稱せられてゐる。(2) 英國においては、サンヂカリズムはサンヂカリズム自身として發達することができなかつたにしても、今日英國の勞働運動のうへに新らしき精神として熱心に主張されてゐる Guild Socialism がサンチカリズムの影響のうへに立つてゐることは明白である。だからサンヂカリズムは世界における勞働組合主義の新精神を代表あるものとせられる。コールの言葉に從へば、勞働組合主義は Sidneywebbianism からサンヂカリズムの方向へと進展しつゝある。(3) そのことの如何は別とするもサンヂカリズムが勞働運動のうへに與へたる刺激は實に莫大なものである。それゆえにサンヂカリズムについての研究は世界における勞働組合主義についての新研究でなくてはならぬ。

(1) Arthur Clay, Syndicalism and Labour, PP. 1-2

(2) Brooks, American Syndicalism 參照

(3) G.D.H. cole, The World of Labour, P. 3

(一)

ベルトランド•ラッセルはサンヂカリスムを社會主義及び無政府主義と比較して次のように述べてゐます『社會主義や無政府主義は最初に思想として生れ後に組織を發展せしめたのに對してサンヂカリズムは最初に組織から生れ後にこの組織に充當するの思想とし發展したものである』(1)と。このラッセルの見解については、私はそれと一致することはできない。サンヂカリズムもまた思想と無關係にして生れたものではない。けれどもそれを社會主義または無政府主義に比べると、ラッセルの言葉は著しく暗示的であることを認めないわけにはゆかない。それは如何なる思想のうちに芽ばえしたにしても、フランスの土壤のうちに生育したものであることは疑のない事實である。またそれの發達についてはフランスにのみ適用しえられると見るべき點も少くはない。(2)フランスの革命的傳統のごとき、その勞働組合の貧困であることのごとき、その國における政治的社會主義者が屢々勞働者に裏切つたことのごときは、フランスの勞働運動に特種なる事情であり、この事情のもとにサンヂカリズムが特別なる發達をしたこともまた學者の一致するところである。だからサンヂカリズムについて研究するためには、先づフランスの勞働運動について研究しなくてはならぬ。

(1) Bertrand Russell, Proposed Roads to Freedom, P. 58-9

(2) フランスの特種なる事情については下記參照 Adams, Groth of the French Nation; Berry' France Since Waterloo; Barrett Wendell, France of To-day

（二）

『サンヂカリズム』または『革命的サンヂカリズム』Le Syndicalisme, Le Syndicalisme Revolutionnaire といふ言葉が今日の内容を意味づけられるやうになつたのは今から十數年前のことであるに過ぎない。コールはそれを一九〇二年から同六年までの間であるとなしてゐます。(1) 蓋し一九〇二年はサンヂカリズムの淵叢としての新勞働總同盟 Confédération Générale du Travail が成立するに至つた年である。即ちそれまで存續してゐた勞働團體たる勞働總同盟と勞働紹介所聯合 Fédération des Bourses du Travail の二大團體が聯合して新に勞働總同盟を組織するに至つたのである。それがサンヂカリズムの淵叢でもあり支柱でもあることはいふまでもない。もつと遡つてフランスの勞働運動の歴史を一瞥すると、フランスにおける勞働運動は既に一八六〇年代即ちカルル・マルクスの『國際勞働者協會』成立の時代において活潑なる働きをなしてゐる。一八六八—七〇年には巴里における勞働組合 Syndicat の數は七十を數へた。さうしてそれ等の勞働組合の地方的聯合(2)さへも成立するに至つてゐたのである。一八七〇—一年の普佛戰爭はフランスにおける勞働運動を殆んど休止せしめるに至つてゐるが、その後間もなく(一八七七年)ヂュール・ゲードによつて復活せられるに至つた。(3) ゲードは純正マルクス主義の信奉者である。(4) この純正マルクス主義の信奉者によつてフランスにおける勞働運動の復活を見るに至つたことは極めて興味深いことでなくてはならない。一八七九年即ちマルセイユの勞働會議においてはコレクチヴヰズムを奉ずることが決議されるに至つてゐる。その決議は二十三に對する七十三の多數によつて通過されたものである。純正マルクス主義の大勝利である。けれども純正マルクス主義がフランスの勞働運動を獨占した時代は極めて短いものであつた。翌年(一八八〇年)には既に穩和派の分裂して一派 L'Union des Chambres Syndicales を組織した。それよりも重要なる變動はコレクチヴヰズムを奉ずる人々それ

自身のうちにおける分裂である。一八八二年のゲード派及びブルーゼ派の分裂がこれである。ゲード派が純正マルクス主義を奉ずるものであることは前に述べてきたとほりである。ブルーゼの率ゐる一派 Parti Ouvrier Révolutionnaire Socialiste はコレクチヴキズムを奉じてゐるにしても『改革』の成立を信ずる點においてゲード派と異り、マルクスの主義については殆んど注意を拂ふことがなかつた。(5) そのブルーゼ黨もまた一八八七年の黨組織(6)のことから反對者が現はれ、その反對者はアレマネの周圍に集合し、一八九〇年に一黨を組織するに至つた。この一派はブルーゼ派のあまりに『政治』に沒頭することを非難して立つたものであつて、ブルーゼ派の革命的分子を糾合してフランスにおける勞働組合の指導的精神となるに至つた。(7)

それ等の團體のほかに更に他の二つの社會主義の團體が存在した。ブランキイ黨と無所屬社會主義者の一團とがこれである。ブランキイ黨(8)は共産主義の社會を理想とするものである。無所屬社會主義者はマロンによつて始められたる研究會の流れであり、フランスにおける社會主義者中の重要なる一分子となつた。そのうちにはヂョウレスやミルランやヴイヴィアニのような人々がゐた。けれどもこの二つともに、政治上の手段によつて社會主義または共産主義を實現せんとするものであつた。

(一) G.D.H. Cole, Self Government in Industry, PP. 304-5

(二) この地方的とは Chambre Fédérale des Sociétés Ouvrières de Paris を指す。

(三) Levine, Syndicalism in France, P. 49

(四) ゲード(Jules Guesde)はフランスにおける正統マルクス派の首領である、革命的手段によつて政權を獲得しコレクチヴズムを實行せんとするものである。彼れは一八八六年に『改革』主義を難じて次のように述べてゐる『改革を積みかさねることは虚僞を積みかされることである』と。彼れの著書としては次のようなものがある。

Guesde, Le Socialisme au Jour le Jour; Guesde, Le Programme du Parti Ouvrier. Guesde, collectivism（英譯）

（五） Levine, Syndicalism in France, P. 57

（六） ブルーゼ(Paul Brousse)の一派は一八八七年に巴里市會に七人の議員を送つた。それが原因となつてアレマネ(alleman-ane)の一派が分裂することゝなつたのである。

（七） Levine, Syndicalism in France, P. 58

（八） ブランキイ黨はまた Comité Révolutionnaire Central としても知られてゐる。

（三）

ゲードやブルーゼはたゞ政治的社會主義の指導者であることに滿足してゐたものではない。ブルーゼは既にその一派の巴里會議（一八八三年）において彼れの黨員が勞働組合に參加すること並に勞働組合の未だ存在してゐない地方には新にそれを組織すべきことの決議を通過してゐる。ゲード派もまたローンネの會議（一八八二年）においてブルーゼ黨と同樣の決議をなし、且つそのルウベエの會議（一八八四年）においては勞働組合の國民的聯合を決議してゐる。この年（一八八四年）はフランスの勞働運動にとつて一新紀元を劃するものとされてゐます。コールはこれを一八七一年及一八七六年の英國に比すべきものであるとなし、またフランスにおける勞働組合主義の歴史はこの時から始まるとなしてゐます。(1) 從つてサンヂカリズムの歴史にとつても重要な年でなくてはならない。その年にフランスにおいては、勞働組合 Syndicat が法律によつて公認せらるゝに至つたからである。(2) この勞働組合の公認がフランスにおける勞働組合運動の勃興を促したことは勿論である。(3) その結果として現はれたものは先づサンヂカの聯合運動である。(4) 一八八六年十月リヨンにおける勞働組合（サンヂカ）の總會議は、所有階級の侵略を防ぎ且つ進んではその所有階級に侵撃

するために勞働階級があらゆる手段を盡して結合すべきものである旨の決議を通過した。(5) こゝにゲード派の理想が實現せられるに至つたのである。けれどもゲード派の理想の實現によつて生じたものは、またゲード派の機關となるの結果を致した。卽ちそれはゲード派(フランス勞働黨 Parti Ouvrier Francais) の政治及び選擧の道具化するに至つてしまつたのである。(6) けれども一八八七年になつてゲードの反對者によつて重要なる運動が具體化された。巴里勞働紹介所 Bourse du Travail の設立がこれである。この巴里における勞働紹介所の設立は引續いて諸都市における摸倣となつた。革命的勞働運動者としてのアレマネの一派がこの間に勢力を張つた。一八九二年には勞働紹介所聯合 Fédération des Bourses du Travail が組織されるに至つたのである。この勞働紹介所こそ實に近世フランス勞働運動の核子をなしたものであり、またサンヂカリズムの初期における中心をなしたものでゞもある。それは前にも述べたとほり、ゲードの率ゐる『勞働組合國民聯合』と相對抗したものであつたが、總同盟罷工について『勞働組合國民聯合』が政治的ゲード派たる『フランス勞働黨』とその立場を異にすることゝなつてから、(7)『勞働組合國民同盟』もまた分裂するの止むなきことゝなり、さうして一九九四年に勞働紹介所聯合と合同するに至つた。その翌年になつてゲード派は『勞働組合國民聯合』のうへに全然その勢力を失墜することゝなつた。卽ち一八九五年のリモーヂの會議においてそれの中央機關が廢止されて、新らしい團體の基礎が成つた。この新團體とは勞働總同盟 Confédération Générale du Travail のことである。それは七百の勞働組合(サンヂカ)のうへに立脚するものであり、政治的社會主義の諸團體とは全然獨立したものであることを宣言してゐる。(8) それは豫定のごとくにその運動を進めることはできなかつた。七百の團體のうちで實際に會費を支拂つたものは三十二團體に過ぎなかつた。それの一年の收入は僅に千五百五十八法にしか過ぎなかつた。だからコールはこれを批評してこの時代の勞働總同盟は實際に無能者であつたといつてゐる。(9) それの委員會でさへ自らその弱點を自白しなくてはゐられなかつた。(10)『勞働紹介所聯合』はこれに參加しないのみではな

く、却つてこれに反對したけれどもそれの實勢力の如何にかゝわらず、サンヂカリズムの支持者としての『勞働總同盟』の地位の重要なものであることの事實は決して閑却しえられるものではない。かくして一八八五年から一九〇二年に至る七年間フランスにおいてはサンヂカリズムの支持者としての二つの勞働團體が存在した。勞働總同盟(C.G.T.)及び勞働紹介所聯合がこれである。さうしてこの二つの團體もまた一九〇二年になつて合同し、こゝに新らたなる團體として『勞働總同盟』C.G.T. が成立するに至つたのである。それがサンヂカリズムの支持者であり、淵叢であることは既に述べたとほりであります。このサンヂカリズムの淵叢としての『勞働總同盟』の實勢力は記述する人によつて相違があるが、コールは一九一三年の著書においてこれに屬するものゝ會員を五十萬人と計算してゐる。(11)

(一) Cole, The World of Labour, P. 63
(二) フランスにおいて勞働組合の公認されたのはワルデツク・ルツソウ(Waldeck-Rousseau)によつてゞある。
(三) この法律は一面において勞働組合の勃興を促したことにも、また他面においてこの法律に對する勞働組合の反對を招致した。反對を招いたのはそれの第四條である。卽ち第四條によると勞働組合はその指導者の氏名及住所地方を官廳に屆出の義務を負ふものとされゐるために、勞働者はこれをもつて所有階級及び警察が勞働者を支配する方法であるとなしたのである。
(四) この時代のフランスの勞働團體は紛爭を事としてゐる有様であり、ゲードは無政府主義者を排し、ブルーセ一派はゲードを排斥し、アレマネはまたブルーセ一派を排斥するといふほどであつた。
(五) Congrès National des Syndicats Ouvriers, compte Rendu, PP. 344-5
(六) Pelloutier, Histoire des Bourses du Travail, P, 85
(七) ゲード派はその二年前卽ち一八九〇年リーユの會議で總同盟罷工に反對したが、これに對し一八九二年の『勞働組合

『國民聯合』はマルセーユの會議で總同盟罷工に贊成した。

（八）『勞働總同盟規約』第一條參照

（九）Cole, The World of Labour, P, 68

（十）一九〇二年に『勞働總同盟』の聯合委員は『勞働總同盟』の組織の結果が無意味であつたことを述べてゐる。

（十一）レバインは一九一〇年にこのC、G、T、の會員を三十五萬七千八百十四人と計算してゐる。プウヂエは一九〇九年にそれを二十九萬五千人と計算してゐる。ヂユオウは一九一三年に六十萬と計算してゐる。

（四）

サンヂカリズムについて知るためには、それの淵叢としての『勞働總同盟』C、G、T、について知ることが必要である。C、G、T、が一八九五年に初めて組織せられたことは既に述べた。このC、G、T、の組織とゝもにフランスの勞働組合主義はこゝに一轉機を劃することゝなつた。革命的サンヂカリズムの發達がこれである。その思想は決してC、G、T、とゝもに生れたものではなくして遠くその源をマルクスの『國際勞働者協會』または大革命に發してゐるものであるにしても、(1) それがフランス勞働團體の間に勢力の礎を築くことゝなつたのは一八九〇年後卽ちC、G、T、及びF、B、T、の成立に伴つてゐるものである。レバイン博士は一八九五年から一九〇二年の間に革命的ザンヂカリズムが確乎たる且つ完全なるものとなつたことを指摘してゐる。(2) セーラツクはリモーヂの會議を批評してそれは革命的サンヂカリストが勞働組合政治派 Parti Syndical Politicien に打勝つたものであると述べてゐる。(3) C、G、T、創立に與つたものについて見るも、その一派はアレマネ派であるが他の二つの要素はブランキイ派及び『非社會主義者』の一派である。何れもフランス勞働運動の左翼を代表するものであり、また何れも革命主義を奉ずるもので

あり、政治的社會主義者と相對立するものである。就中『非社會主義者』の一派は勞働組合を政治組織に結合することに反對するものであり、それ等の主張は最初のC、G、T、の規約の第一條のうちに明らかにされてゐます。(4) セーラックはこの最初のC、G、T、の目的について次のやうに述べてゐる『勞働總同盟は勞働者の完全なる解放のための戰において、經濟的領域において及び鞏固なる協同によつて、勞働者を結合する目的をもつてゐるものである』(5)と。一八九六年のトウルの會議においては、C、G、T、の革命的傾向は益々明白となつた。この會議においては總同盟罷工の主義が大多數によつて通過されたのである。ゲエラールはこの會議における總同盟罷工のチャムピオンであつた。彼れは政治的社會主義を罵つてそれはたゞ怪獸(キメラ)であるに過ぎないとなしてゐる。さうして總同盟罷工(Grève Générale の必要を力說した。彼れの演說は大喝采をうけた。總同盟罷工とは彼れにおいては革命それ自身であつたのである。彼れはかう述べてゐる『平和的であるにせよ否らざるにせよ總同盟罷工は革命であらう』と。トウルウゼの會議においては、また總同盟罷工が『革命と同一であること』を宣言してゐる。(7) それのみではなく、二人の無政府主義者たるプウジエ及びデレサールの提案に從つて新にサボタージュ(8)及びボイコットの方法を採用することゝなつた。一九〇一年のリヨンの會議はこの革命的態度をして更に一歩を進めしめた。(9) それの委員會は總同盟罷工を實現すべき最もよき機會であることを宣言し、且つ總同盟罷工が成功すべき最もよき機會において實行すべき時機がきたことを宣言した。(10) それのみではなく、その總會議においては、總同盟罷工が單に勞働者の狀態を改良するに止まるものでなくして、それの目的は勞働階級の『完全なる解放』であることを宣言してゐる。(11) ゲエラール(12)はリヨンの會議に與へたる報告のうちにおいて次のやうに述べてゐる『勞働總同盟は社會組織を變革すべき革命の機關として運命づけられたものである』(13) と。この言葉は勞働總同盟の性質を最もよく道破してゐるものといはなくてはならぬ。

かくして最初の勞働總同盟は政治的社會主義の一派と分れて革命的サンヂカリズムの機關となるに至つたのである。

それとゝもに『勞働紹介所聯合』もまた革命的サンヂカリズムの機關となるに至つたことはこれまた注意せらるべきことである。勞働紹介所の歴史については前に既に大體これを述べた。それは一八九四年に三十四であつたものが、一九〇二年には九十六に進んでゐる。この一八九四年は實に無政府主義者としてのペルウチエ(14)が勞働紹介所聯合の指導者 Secretary となつた年である。これより先き、勞働紹介所は既に一八九二年の第一回會議において政府の干與から獨立することの決議を通過してゐるが、ペルウチエが指導者となるに至つてそれは全然革命的サンヂカリズムの機關となり、支持者となり、先鋒となるに至つたのである。ペルウチエは勞働紹介所の支柱であり精神であるとされてゐる。彼れは巴里に出でゝから(一八九三年)無政府共産主義 Anarchist Communism(15)の影響をうけてその主義を奉じ、勞働紹介所聯合の指導者に擧げられてからそのあらゆる精力をこれに捧げた。フエルナン●ペルウチエの精神は勞働紹介所の精神——革命的サンヂカリズムの精神そのものとなつた。さうして一八九四年から一九〇二年に至る間にこの勞働紹介所聯合はフランスにおける最も有力なる勞働組合團となつた。ペルウチエはその會員を二十五人と計算するまでとなつた。(16)かくしてこの二大團體——C、G、T、及びF、B、T、——は政治的社會主義に反對して革命的サンヂカリズムを支持する二大柱石として存續したが、一九〇二年に相合して新らたなる『勞働總同盟』Confédération Générale du Travail を組織し革命的サンヂカリズムの精力を集中統一したことは前に述べたとほりであります。

(一) Levine, op. cit., P. 63

(二) ibid., P. 91

(三) ibid., P. 71

(四) この勞働總同盟規約第一條には次のように規定されてゐる『勞働總同盟を組織する各分子は凡ての政派のほかに獨立

するものである』と。

(五) Seilhac, Les Congrès Ouviers, P. 286(Levine, OP. cit.)

(六) ibid., PP. 331-2

(七) Levine, OP. cit. P. 95

(八) サボタージュ Sabotage はストライキが行はれない場合またはそれを行ふことの不利なる合場に行はれる直接行動の一種であつて普通に徐行同盟と譯されてゐる。

(九) フランスにおけるサンヂカの數は(一八九五年)二、一六三。(一八九六年)二、二四三。(一九〇〇年)二、六八五。(一九〇一年)三、二八七。その會員數は(一八九五年)四一九、七八一人。(一八九六年)四二二、七七七人。(一九〇〇年)四九二、六四七人。(一九〇一年)五八八、八三二人である。

(十) この宣言によると總同盟罷工が一般勞働者に充分に理解されゐるとなしてゐる。

(十一) XII Congrès National Corporatif (Lyons, 1901) PP. 177-8

(十二) ゲエラール(Guérard)は勞働總同盟の Secretary であつた。

(十三) XI Congrès Corporatif (Lyons, 1901 29 (Levine, OP. cit.)

(十四) Fernand Pelloutier (1867-1907) は 家の家に生れ最初はゲード派に屬してゐたが巴里に出て無政府共產主義の思想に接してから無政府主義者となつたセーラツクは一八九七年彼れを評して『若くして賢明なる且つ教育ある人・・・勞働紹介所聯合の急激なる發達は主として彼れの力である』と述べてゐる。彼れが勞働紹介所聯合のセクレタリーとなつたのは僅に二十餘歲の時である。

(十五) 無政府共產主義については拙稿『無政府主義の批判』(『批評』六月號掲載)參照

(十六) レバインはこの計算をもつて誇張されたものといつてゐる。(Levine, OP. cit., P. 89)

（五）

以上述べてきたところによつてサンヂカリズムの歴史はその概略を窺ふことができる。それによつても知られるとほり、サンヂカリズムは先づフランスにおける勞働組合のうちに發育したものである。最初はたゞ勞働組合主義であるに過ぎなかつたものである。それをして革命的サンヂカリズム――サンヂカリズムに導いたものは主として無政府主義並にフランスにおける政治的事情である。先づ國際勞働者協會の歴史に遡つて見るに、一八六九年のバールに於ける會議においてフランスの代表者等は勞働組合(サンヂカ)の組織を必要なりとし次のように述べる『勞働組合(サンヂカ)の聯合會議をもつて政府に代へ、その各團體代表者の委員によつて勞働の關係を規律し――これをして政治に代らしめる』と。(1) この會議において既にサンヂカリズムの思想は生れてゐたといふことができる。またそれとともにフランスの勞働運動は既にこの『ゼ、インタナシヨナル』の時代において無政府主義を伴つてゐたことを示してゐるものである。普佛戰爭後、フランスにおける勞働運動が正統マルクス派たるヂュール・ゲードによつて復活せられたことは既に述べたとほりであるが、この復活は同時にプルードンの相依論 mutuellisme の復活をも伴つた。(2) さうして正統マルクス主義または政治的社會主義によつて勞働運動が支配されてゐた間は、無政府主義は屛息してゐるのほかはなかつた有様であつたが、政治的社會主義の不信用は無政府主義の思想を支持せしめるの原因をなすに至つた。政治的社會主義の不信用は先づそれの限りなき紛爭に一原因をもつてゐる。このフランスにおける政治的社會主義の紛爭については既に述べたとほりである。その政治的社會主義の紛爭はまた同時に勞働組合(サンヂカ)の内部を攪亂した。ゲード派もブルーゼ派も、みな勞働組合をもつてその政治上の機關となし、選擧の團體として利用することとなつた結果は勞働組合は常に不安の狀態におかれ、それの自然の發達もまた妨げられるに至つたことは避くべからざるの數である。そのうへに更に勞

働組合をして『政治家』から遠ざからしめる事情が生じた。それは知識的社會主義者の勞働者に對する反逆である。即ちフランスの社會黨には『二つの翼』(ツウ、ウヰングス)があつた。(3) その一つの翼は勞働者であり、他の一つの翼は知識階級である。これがピエール・デュポンの謂ふところの『二つの翼』である。辯護士も新聞記者も醫者も教師も、これ等のものが多く政治界に入つた。就中社會黨に參加したものにして社會的地位を高めたものが少くなかつた。けれどもこれ等の知識階級と勞働階級とはその利害において全然一致するといふことのできないために、この二つの翼の間には常に爭ひが絶えなかつた。(4) 知識階級の側は主として政治によつて勞働者の狀態を改革せんとするものであつた。これ等の知識階級の政治的運動は着々効を奏し、ゲエラールの會議で述べたところによると、三萬六千のコムミユーン Commune のうちで政治的に征服されないものは僅に百五十に過ぎないとされてゐる有樣であつた。それにもかゝわらずまたゲエラールの指摘してゐるところによれば代議院のうちには僅に三人または四人の『眞實なる社會主義者』が存在してゐるに過ぎないとされてゐます。(5) 然りその他のものは『虛僞の社會主義者』Pseudo-Socialist であるといふのであります。ゲエラールの批評はミルラン、ブリアン、ヴィヴィアニ等の行動によつて裏書きされた。彼等は社會主義者として地位をなし、宰相となり、大臣となつてから、忽ち勞働者に背いたとされる。就中ミルラン (6) の變節的行動は深くフランス勞働者を失望せしめた。またブリアン (7) は一八九二年には總同盟罷工の最も熱烈なる主張者としてペルウチヱとともに並び稱せられたが、彼れが內閣に入るや、軍隊をもつてストライキを鎭壓するがごとき反覆的行動をとつた。政治的社會主義者のかゝる行動は、勞働者をして無政府主義に導かずしては置かなかつたのである。一八九四年に勞働紹介所聯合が無政府主義の宣傳者としてのヘルナン・ペルウチヱを擧げてセクレタリーとなしたことのごとき、また一八九五年に勞働總同盟が政黨との關係を排斥して組織せられるに至つたことのごときはこの事實を明白に裏書きしてゐるものでなくてはならない。實に勞働總同盟が總同盟罷工の主義を高調してゐる間にペルウチヱは勞

働紹介所運動の主動的精神となつた。(8) ペルウチエの無政府主義はまた深く勞働總同盟のうちにも浸潤するに至つた。(8) いふまでもなく勞働總同盟のうちには、改革派なるものもあり、それ等のものは素より無政府主義の思想に反對した。ニールのごときはその急先鋒である。彼れは勞働總同盟のセクレタリーを辭任する時に、勞働組合は最早や無政府主義を必要としないものであることを述べてゐます。(10) また改革派の宣言に署名したもののうちには ニールを初めとしてコルチィエやルナールやゲエラールのごとき人々がある。けれどもそれ等の改革派の勢力は微々たるものであつた。無政府主義の思想は深く勞働總同盟のうちに注入された。だからレバインはそのサンヂカリズム研究のうちで次のように述べてゐる『無政府主義はサンヂカのうちに入つてからそれの革命的轉化のために重要なる働をなした。彼等の勢力はあるものによつて歡迎され、ある者によつて悲しまれた。けれども凡ての人々によつて承認せられた』と。(11) プウジエやグリフユエルが無政府主義的サンヂカリズムの主張者であることは勿論である。

（一） James Guillaume L'Internationale, Documents et Souvenirs(Paris, 1905), Vol. I, P. 205 (Levine. OP. cit., P. 43)
（二） Levine, op. cit., P. 44
（三） ピエール・デュー ポン(Pierre Dupont)の歌(Levine, OP. cit., P. 203)
（四） Levina, OP. cit., PP. 203-4
（五） Seilhac, Congrès Ouviers, P. 331
（六） ミルラン(Milland)はワルデツク・ルツソウ内閣(1899-5) に商工大臣となつたゝめにゲード等はこれをもつて階級闘争主義に裏切るものであるとして攻撃しフランス社會黨合同の形勢は忽ち轉覆せられた。
（七） ブリアン(aristide Briand)は大戰中ヴイヴイアニの後に首相となつた人である。
（八） Cole, The world of Labour, P. 67

（九） ibid., P. 90
（十） ibid., P. 89
（十一） Levine, Syndicalism in France. P. 159

（六）

レバイン博士は、サンヂカリズムの發展を指導した理論家として二つの種類を區別してゐる。その一つは實際にサンヂカリズムの指導者としてF、B、T、またはC、G、T、の運動に參加したものである。ペルウチエ、ブウジエ、グリフユエル、ニール、デレサール、イーヴトウなぞがこれである。その二つは知識階級の一派であつて主として月刊雜誌 Mouvement Socialiste 及び週刊雜誌 La Guerre Sociale の周圍に集まつてゐる理論家である。(1) ペルウチエやブウヂエやグリフユエルやニールなぞのことについては既に述べた。イーヴトウやデレサールのごときもまた無政府主義者であることは勿論である。ブルツクスの口調を借りていへば、彼等はともに無政府主義の歴史のうちに輝くものであるとせられる。(2) 後者に屬するものとしてはソーレルを初めとしてラガルデル、ベルト、ハアヴェ等の數氏を擧げることができます。ベルト (3) は國家に對して強い反感をもつてゐた。彼れは國家をもつて最高の寄生虫 le Parasite Par excellence であると論じてゐる。彼れはまたこういふ『國家とは偉大なる不生產者である』と。(4) 彼れにとつては國家は敵であり、議會も政治も、さうして民主主義そのものまでも敵である。(5) ラガルデル(6)もまた『民主主義と勞働階級と間の爭鬪』を信じてゐたものである。彼れはいふ『今日は人々が國家の創造力及び議會主義の魔力を信ずることが益々稀薄となつた。………サンヂカリズムは自己滿足でなくてはならない』と。だからコールはラガルデルのサンヂカリズムを批評して次のように述べる『………それゆゑにラガルデルのはサンヂカの活動の範圍に

おいては全然無政府主義と一致するものである』と。(7) ギュスターヴ・ハァヴエはサンヂカリズムの理論のうへには多く關係するところがなかつたが、彼れは軍隊及び愛國心の猛烈なる攻擊者として知られてゐる。ヂョーヂ・ソーレル(8)はサンヂカリズムの最も代表的な理論家であると稱せられてゐる。彼れは自らマルクスの信奉者であると稱してゐる。彼れは新マルクス主義者 neo-Marxist と稱せられてゐる。如何にも彼れはマルクス主義の最も重要なる一ヶ條——階級鬪爭(クラッセン・カンフ)の主張を受入れてゐる。たゞに受入れてゐるばかりではなく、他のサンヂカリストと同じく彼れもまた進擊的階級鬪爭主義の主張者である。けれども彼れはマルクス主義の他の重要なる部分を斥けてゐる。この點において彼はベルンシタインの改革派的修正主義に對して革命的修正主義 revolutionary revisionism の主張者であるとされます。唯物史觀の反對者としてのソーレルは myths の信仰のうへに彼れの社會革命を描きいだしてゐるのである。彼れにおいては社會革命は必然的のものではなくして可能的のことまたはありうべきことであつたのである。それゆゑに彼れをもつてマルクス主義者であるとなすことは、マルクス主義についてのあまりに妥協的なる取扱ひであるとされるのは當然であるといはなくてはならない。だからレバインがソーレルの企て——マルクスとベルグソンとの結合の——を批評して、『彼れはマルクスの精神を特別な且つ自身勝手な方法で解說する』といつてゐるのである。(9) レバインは更に一歩を進めて次のように論ずる『ソーレルはマルクス門下であることを主張するが、彼れは寧ろより多くプルウドンと一致するものである。彼れは屢々プルウドンの著書を引用し、且つその意見就中道德上の意見を受入れた』と。(10)

(一) "La mouvement Socialiste" はラガルデルを主筆とし一八九〇年に生れた。サンヂカリズムの機關雜誌である。La Guerre Sociale はハアヴエを主筆とする。

(二) Brooks, American Syndicalism, P. 172

（三）ベルト（Edouard Berth）は一九一〇年まで常に Mouvement Socialiste の寄稿家であつた。その著書には Le Nouveaux Aspects du Socialisme なぞがある。

（四）Berth, OP. cit.

（五）Brooks, American Syndicalism, P. 171

（六）ラガルデル（Hubert Lagardelle）は『社會主義運動』の主筆としてソーレルやベルトが新君主々義の雜誌を發行しようと企てた後においてもこれを續けた。

（七）Cole, World of Labour, P. 91

（八）ソーレル（Georges Sorel）の著書は次の如し。

（a）Reflexions sur la Violence（英譯 Reflections on Violence）

（b）La décomposition du Marxisme.

（c）Introduction à l'Économie Moderne.

（d）Les Illusions du Progrès

（九）Levine, OP. cit., PP. 150-1

（十）ibid., P. 153

（七）

サンヂカリズムは階級鬪爭を高調する。さうして所有階級に對する勞働階級の自覺と一致と鬪爭とを要求する。この點においては、社會主義とサンヂカリズムとの間には何等の相違點もない。けれどもこの目的を達する手段に至つてはその間に嚴格なる區別がなくてはならぬ。社會主義は決して政治を否認するものではない。(1)それに反してサン

チカリズムは『直接行動』の支持者である。直接行動 Direct action とはたゞ議會主義 Parliamentarism に反對するだけの意味ではない。あらゆる政治的または國家的行動に反對するものである。いふまでもなく直接行動は、總同盟罷工にしてもサボタージュにしてもラベルにしてもボイコットにしても、それは社會革命の武器であり、階級鬪爭の手段である。就中總同盟罷工に至つては革命それ自身であるとなされてゐる。(2)それの目的とするところは單に勞働條件の改善ではなくして勞働者の完全なる解放であるとせられる。(3)その勞働者の完全なる解放とは、一面において資本家制度の完全なる轉覆を意味するものとされてゐるのであるが、またそれとともに、それが『經濟的の手段』であることを注意しなくてはならない。即ち政治的手段と相對立するものであることを理解しなくてはならない。否、政治的手段と對立するといふだけではない。政治的手段の排斥において、經濟的行動としての『直接行動』が存在したのである。レバインはこれを批評して、直接行動とは勞働者それ自身の行動であるとなしてゐる。またその點を解説して彼れは直接行動とは一切の中間的の介在 intermediary を否認するの主張であることを述べてゐます。(4)その立場からしてサンヂカリズムは政黨を――社會黨をも排斥し、民主主義それ自身をも排斥し、普通選擧をも排斥する。ソーレルは民主主義の猛烈なる反對者である。(5)彼れは民主主義をもつて單に『總意』の假說のうへに立てられたものに過ぎないものとなしてゐる。然りソーレルは總意をもつて假說であるに過ぎないとなしてゐるものである。獨りソーレルばかりではない。一般的信條 common creed を排斥することはサンヂカリズムの要素である。彼等はこの立場から政黨――勞働黨または社會黨をも排斥するのである。彼等は彼等以外のものと何等の共通なるものの存在することを認めない。彼等はたゞ勞働者であるがゆゑに協同する。『階級は自然の區劃である。けれども政黨は人工的且つ理智的のものである。』(6)彼等はこう主張する。さうして政黨をもつて common creed のうへに立つものとしてこれに反對するのである。また民主主義に對してもそれは政黨と同じく common creed のうへに立つものとしてこれ

に反對するのである。彼等はいふ『民主主義は階級を混交するものである』と。(7) ラガルデルはこれに對して國家の存在する間はこれを利用すべきものであるとなし、また政治的民主主義もその存在する間はこれを利用すべきものであるとなしてゐるにしても、それが既に用をなした時には、最早や破壞すべきものであるとなしてゐる。(8) 彼等は國家と財産(Patrie, Proprété)とを同一であるとなすものである。(9) 所有階級に反對するサンヂカリズムは、國家をもつて所有階級そのものであるとしてまたこれに反對するものである。卽ち彼等にとつては、國家とはたゞ資本家階級の政治組織であるに過ぎないのである。10 彼等はたゞ今日の國家に反對するのみではなくして明日の國家、或は勞働者の保護者としての國家にも反對するものである。(11) この點においてサンヂカリズムと社會主義との間には嚴格なる區別がなくてはならない。社會主義とは凡ての國家に反對するものでなくしてたゞ壓迫の機關としての國家、『國家としての國家』に反對するものであるに過ぎない。(12) それは民主主義を排斥しないのみならず、民主主義においてのみ社會主義を發見せんとするものであるからである。(13) この點においてサンヂカリズムの一致するものはたゞ無政府主義があるのみである。バクーニンは財産と國家とを同一視する。さうして財産に反對するとともにまた國家に反對する。この點はベルンの會議(一八六九年)におけるバークニンの演説によつて明白である。(14) クロポトキンも凡ての國家をもつて支配階級の國家であるとなし、また從つて凡ての國家、——民主主義それ自身をも排斥する。(15) だからこの點においてわれ等はサンヂカリズムと無政府主義との間に何等の區別をも發見することはできないのである。そのサンヂカリズムの組織として見るべき『經濟的聯立主義』にしても、既にバクーニンの思想のうちにこれを發見しえられるではないか。

(一) 拙著『社會主義と民主主義』參照

(二) 勞働總同盟の Toulouse の決議參照

(三) XI congrès National Corporatif (Paris, 1900) P. 198 (Levine, OP. cit. P. 10)

(四) Levine, Syndicalism in France, P. 126

(五) Sorel, Illusions du Progrès, P, 59

(六) Cole, World of Labour, P. 86

(七) 同　上

(八) ibid., PP. 86-7

(九) ibid., P. 92

(十) Levine, OP. cit., P. 129

(十一) ibid., P. 114

(十二) Engels, Socialism Utopean and Scientific, P. 128

(十三) W. Liebknecht, No Compromise No Political Trading, P. 28

(十四) George Plechanoff, Anarchism and Socialism, (Kerr edition) PP.

（八）

サンヂカリズムはバクーニンやプルウドンやクロポトキンの無政府主義そのものではないにしてもまた一種の無政府主義、新無政府主義である。この點について最も興味深い説明は勞働紹介所のセクレタリーとしてのイーヴトウがトウルーゼの會議(一九一〇年)において述べた言葉である。彼れはこういふ『私はサンヂカリズムと無政府主義とを混同したものとして非難せられた。けれどもそれは私の誤りではない。………私はサンヂカリズムの全部を無政府主

義のうちに發見するものである』(1)と。私はイーヴトウに全然同ずるといふわけではない。けれどもサンヂカリズムを理解するためにはそれが先づ無政府主義であることを知ることは第一に必要且つ基底的のことでなくてはならない。既にこの論文の冒頭において述べ置いたとほり、サンヂカリズムはフランスの勞働組合のうちに受入れられたる無政府主義である。その事實はまた直にサンヂカリズムそのものの本質である。サンヂカリズムはベルトの喝破したとほり、勞働組合そのものの實行のうちに存在するものである。(2) サンヂカリズムはソーレルやラガルデルやベルト等の理論から生れたものではなくしてフランス勞働組合のうちに實現せられた無政府主義そのものにのみ體現せられるものである。卽ち要素は一方に勞働組合である。他の一方に純粹無政府主義である。その二つのものの結合において、新らしき無政府主義、サンヂカリズムが生れたのである。コールはこれをもつて無政府主義と勞働組合との結合であるとなしてゐる。彼れに從へば無政府主義はサンヂカリズムの父であり、勞働組合はその母である。(3) けれども勞働組合が母であることの事實は、決してサンヂカリズムが一種の無政府主義であることの事實と矛盾するものではない。バクーニンのコレクチヴヰズムが無政府主義であり、スチルネルの個人主義が無政府主義であり、クロポトキンの共產主義が無政府主義であるごとく、勞働組合の胎内に養育されたサンヂカリズムもまた一種の無政府主義であることを、その勞働組合の胎内に養育されたことの事實によつて、奪いとられるものであつてはならない。然りそれは一種の無政府主義――組織的無政府主義である。英國における "The Syndicalist Railwayman" の第一號（一九一一年九月）においては、サンヂカリズムをもつて組織的無政府 Organized Anarchy の主張であるとなしてゐるのであります。(4) 繰返していふ。サンヂカリズムは組織的無政府主義 Organized Anarchism である。

（一） XVII Congrès National Corporatif (Toulouse, 1910), P. 229 (Levine, OP. cit., P. 200)

（二） Les Mouvement Socialiste (May, 1908), P. 390

（三） Cole, World of Labour, P. 309

（四） Bertrand Russell, Proposed Roads to Freedom, P. 70

（五） 法學博士河田嗣郎氏はサンヂカリズムと無政府主義とが一致しない理由として、無政府主義は一切の文明を呪ひ、且つ徹頭徹尾否定的のものであるとなしてゐるが、それは無政府主義と虚無主義との混同であつて何等價値なき批評である（河田氏著「社會問題及社會運動」三八七頁參照）

（九）

サンヂカリズムとは『組織的無政府主義』である。他の言葉をもつていへば『經濟的聯立主義』Economic Federalism である。このことを説明するためには階級鬪爭に立戻つて考へなくてはならぬ。いふまでもなく階級鬪爭はサンヂカリズムの一要素である。けれどもソーレルの階級鬪爭説がマルクス説そのものとせられるごとく、單に階級鬪爭といふことだけであつては、社會主義とサンヂカリズムとの間に何の相違點もないこととなる。それにもかゝわらず、社會主義とサンヂカリズムとの間に嚴格なる區別の設けられるのは何のためであらうか。それには近代の社會主義が著しく妥協的となつたことを前提としなくてはならない。フランスのゲートでさへこの傾向から免れることはできなかつた。獨逸においてはベルンシタインの修正主義がこの傾向を代表してゐる。(1) 彼れの修正主義は その後 彼れ自らこれを捨つるに至つたが、(2) 實際運動のうへにおいては、彼れの修正主義は却つて益々その勢力を及ぼしてゐる。この社會主義の妥協的傾向に反對して、『マルクスに還れ』と叫んで現はれたものがソーレルのサンヂカリズムである。卽ちサンヂカリズムにおいての階級鬪爭なるものは著しく革命的である。否、革命そのものである。彼等は階級鬪爭と革命との間に區別を設けることをしない。階級鬪爭をもつて革命そのものと意識してゐるのである。絞取者と被絞取

者との間には平和の餘地のないものであるとするのがサンヂカリズムの立場であるからである。(3) けれどもこの點においてよりも、社會主義とサンヂカリズムとの區別を一層明白にしてゐるものは、サンヂカリズムにおいての階級鬪爭の手段が純然たる經濟的手段であることである。(4) 總同盟罷工にしても、サボタージュにしても、ボイコットにしても、ラベルにしても、それ等のもののみは純然たる經濟的手段である。この經濟的手段が政治的手段の排斥において行はれてゐるものであることは既に述べたとほりである。また從つてそれが無政府主義である所以であることも既に述べたとほりである。かくしてサンヂカリズムはその階級鬪爭のうへにおいても、既に革命主義であり、また經濟的主張である。この立場は手段としてのサンヂカリズムのみに止まるものでなくしてまた同時にサンヂカリズムの目的にも適用せられるものである。サンヂカリズムは素より資本主義に反對する。この點においては社會主義、サンチカリズムみな同じである。然らばこの二つのものは何れの點において異つてゐるか。社會主義の立場はコレクチヴキズムの要求である。さうして民主主義的國家社會主義に歸着するものである。(5) これに對してサンヂカリズムは無政府主義となり、『勞働者には國家なし』の立場を過去、現在、將來に適用するものである。さうして經濟的獨立主義に歸着するものである。この點をもつて明白にするためにはサンヂカリズムの組織并に目的について、更に一歩を進めて考へることが必要である。

(一) E. Bernstein, Evolutionary Socialism 參照

(二) Hyndman, Future of Democracy. P. 189

(三) Cole, World of Labour, P. 120

(四) マルクスは政治的手段を用ゐることに反對してゐない。(拙者「社會主義と民主主義」第一章參照)從つてソーレルのマルクスに還れといふことは眞のマルクスに還る所以ではない。

（五） 拙著『社會主義と民主主義』第一章參照

（十）

サンヂカリズムの目的とするこそ――彼等は今日の資本家組織に代ゆるに如何なる組織をもつてしようとするのであるか。サンヂカリズムが單に革命遂行の一手段でないとすれば、この點もまたサンヂカリズムの内容のうちに含まるべき、その最も重要な點であることは勿論である。英國におけるサンヂカリズムの一機關雜誌はこの點についての次のように述べてゐる。

『サンヂカリズムもコレクチヴヰズムも無政府主義も現在の經濟狀態及び主要なる事件に對する現存の私有制度を廢止せんとすることを目的とする。けれどもそのうちコレクチヴヰズムは萬人の所有をもつてこれに代えんとし、無政府主義は何人も所有せざることを主張し、サンヂカリズムは組織的勞働（Organized labour）によつての所有を主張する』(1)

この説明は極めて巧妙なるもののように見える。けれどもそれには重大な誤謬が含まれてゐる。サンヂカリズムは決して所有（Ownership）の主張ではなくして支配すること（Control）の主張である。われ等は先づフランスにおけるサンヂカリズムの淵叢としての『勞働總同盟』（コンフエデラシヨン、ゼネラール、デユ、トラヴアイユ）の説明を聽かなくてはならぬ。勞働總同盟はその勞働紹介所聯合と合同する前年即ち一九〇一年のリヨンの會議において、サンヂカリズムの組織幷に目的について數ケ條の質問をその勞働組合に發した。これに對する報告が發表されたのが翌年のモントペリエの會議である。それには樣々の報告があつた。その報告は末節においては樣々の異説があつた。ある報告の重しとするところは他の報告の輕しとするところであつた。けれどもその主要なる點においては一致してゐた。それに從へば、勞働組合（サンヂカ）は先づ單位である。社會の細胞としてサンヂカが考へられる。そのサンヂカは生産手段を支配する單一または同一の trade の生産者の集合であ

るけれどもサンヂカは財産の所有を主張することなく　財産は社會的または集合的のものであり、サンヂカは之れを支配するのみである。サンヂカとサンヂカとは勞働紹介所または總同盟によつて結合する。そのうち總同盟は間接的である。サンヂカリズムの社會における經濟的活動の中心は勞働紹介所　Bourse du Travail である　勞働紹介所は凡ての地方的利害を統一し、地方と他の社會との結合の核子となる。それは地方的中心としては經濟生活に必要なる統計材料を蒐集もし、生産の適當なる分配についても活動する。一地方と他の地方との核子としては、その間における生産の交換を便利にし、また外部からの原料品の輸入をもなすものである。從つて勞働紹介所はその性質のうちに、地方的 local の性質と生産的自治團體 Industrial Autonomy としての性質とを具有してゐるものである。これに對して總同盟は主として國民的または國際的の働きをなすものである。卽ち國民的には主としては一般的報道その他の役目に服するのである。以上述べたところがモントペリエの會議における報告の概要である。(2) これによつて見れば、サンヂカリズムの目的とする社會の輪廓は大體において明らかである。サンヂカはその社會の單位である。そのサンヂカとは産業的自治團體である。その自治團體は勞働紹介所及び勞働總同盟の機關を通じて社會的に結合するものである。この組織においては國家なるものは必要ではない。勞働紹介所または勞働總同盟のみ必要とせられるのである。卽ちその要求するところはコレクチヴヰズムでもなくまた民主主義でもない。産業的自治團體とその聯立とによつて新社會を組織せんとするものである。だらかその目的とするところは先づ純然たる經濟的社會である。次にはその社會は各生産團體の集合によつて成立する。またその生産各團體は自治團體である。その間における經濟的機關によつて各自治團體が連結する。こういふこととなる。卽ち經濟的聯立主義の社會を目的としてゐるのである。

（一）"The syndicalist Railwaymen", Sept., 1911. (Russell, proposed Roads to Freedom, P. 69)

（二）Levine, Syndicalism in France, PP. 133-6

（十二）

この點を明確にするためにはサンヂカリズムと勞働組合主義との關係を知ることが必要である。私は先づコールの說明を引用することが便利である。コールは勞働者組合を區別して次のように述べてゐる。

『概していへば、勞働者を組織すべき方法に三種類があります。第一は純粹なる Craft Unionism である。それは單一の生產過程または相互に他人の仕事のできえられる位ひに接近してゐる過程に從事する勞働者を一つの組合に結合するものである。これが多くの小さい職工組合例へば鑄鐵工組合や煉瓦工組合なぞの結束物である。（コールは第二に Occupational Unionism なるものを計へてゐる。さうして第三のものとして續いて次のように述べてゐる。）第三の組織が考へられる。なされたる仕事によつてゞはなく、產業の實際上の構成の區別に從つての組織である。特定商品の生產に働く凡ての勞働者を一つの組合に組織する……組織の基礎は人々の屬する Craft でもなくまたその人々を使役する雇主でもなく、彼れが從事する Service である。これが產業組合主義 Industrial Unionism である』(1)

この二つのものを最も明白にしてゐるものとしてはアメリカの勞働組合聯合（American Federation of Labour）とI、W、W、（Industrial Workers of the world）の二つを擧げることができる。卽ち勞働組合聯合は職工組合主義を代表し、これに對してI、W、W、は產業組合主義を代表してゐるものといふことができる。前者は熟練工の組合である(2)に對し後者はかゝる區別を認めてゐない。前者の目的とするところは勞働條件の改善であるに對し後者は勞働者の手に產業を支配することを要求する。前者は a fair day's wages for a fair day's work を旗印としてゐるに對して後者は賃銀制度の撤廢を要求する。(3) それゆえに前者が平和的であるに對して後者は革命的である。後者においては、勞働者と資本家との間に何等の共通點をもつてはゐない。前者は今日の經濟制度の是認を前提としてゐるもの

であるに對し、後者は資本家制度の完全なる撤廢を要求するものである。この點は獨りアメリカン・サンヂカリズムとしてのＩＷＷの特質であるのではないことは勿論である。フランスにおけるサンヂカリズムの淵叢としての勞働總同盟もまた Craft Union ではなくして Industrial Unionism のうへに立つものである。勿論その起原について見れば、サンヂカリズム Le Syndicalisme なるものは單に勞働組合主義として生れたものである。けれどもそれが今日の意味においてのサンヂカリズム卽ち革命的サンヂカリズム Le Syndicalisme Revolutionnaire となるに至つたのは、それが職工組合主義から一轉して產業組合主義に轉化するに至つたがためである。この轉化は徐々に行はれた。この轉化を正式に表明したものは一九〇六年アミアンにおける勞働總同盟の會議である。この會議においては、新らたに、勞働總同盟に、Craft Union を參加せしめないことを決議した。[4] 一九〇八年のマルセーユの會議においてもこの決議を裏書きした。さうして產業組合主義は勞働總同盟の旗幟となり實行となつた。ジュオウの述べてゐるところによれば、勞働總同盟のうちにおけるこの變化は極めて迅速であつた。『職別聯合は益々產業的聯合に變化して行つた』と。[5] イーヴトウもまたいふ『產業的聯合が職別聯合を侵蝕し、遂に必然的にこれを破滅せしめることの理由を了解することは容易のことである。一言にしていへば、產業上における絞取が擴大され且つ單純化されたために「熟練」の範疇が消滅したのである』[6] と。ラガルデルはいふ『サンヂカリズムは職業別組合主義をもつて「熟練」利己主義を極度に高めるものであるとして攻擊する。さうしてそれが「勞働階級貴族主義」を創造するものとして反對する』と。[7] かくしてサンヂカリズムの要求するところはこの產業組合主義である。職業別的職工組合に反對して產業組合主義を主張する。卽ち勞働組合主義の革命であるとともに資本主義の完全なる轉覆の要求であり、從つて勞働者の完全なる解放の要求である。卽ち資本家制度の是認のもとに勞働條件の改善を要求するのではなくして資本家制度を轉覆することである。總同盟罷工が單なる階級鬪爭の手段 Kampfmittel といふよりは革命そのものであるとせられて

る所以であります。卽ちサンヂカリズムは先づ勞働者の完全なる解放の要求として立つてゐることを知らねばならぬ。

（一） Cole, World of Labour, PP. 212-3

（二） アメリカ勞働組合聯合は會員三百萬と稱せられてゐるが(American Federationist, Jan. 1919)これに入會するためには五十弗乃至二百弗の入會費が必要とされてゐる。甚だしいのになると五百弗を必要とする。それゆえに一般勞働者はこれに入會することはできない。從つて勞働界の貴族主義だと稱されてゐる。

（三） Brooks, American Syndicalism, P. 86-7

（四） この決議の際には從來參加してゐたものについてはこれを觀過した。

（五） Jouhaux, Le Syndicalisme Francais, PP. 10-1 (Cole, world of Labour, P. 112)

（六） Yvetot, ABC Syndicaliste

（七） Lagardelle, Le Socialisme Ouvrier (Cole, ibid., P. 113)

（十二）

サンヂカリズムが『經濟的聯立主義』としての組織的無政府主義であることを明らかにするためには更に產業組合主義とコレクチヴヰズムとの關係について述べなくてはならない このことは素より簡單にこれを盡すことはできないが、一言にしていへば、コレクチヴヰズムは國家社會主義またはミニシパル•ソーシャリズムに歸着するものであるに對し、サンヂカリズムはかゝる地理的團體を基礎とするものでなく、また民主主義そのものに對して反對するものである。それは一般的信條 common creed を認めないからである。卽ちコレクチヴヰズムが一般的利害または一般的

信條を前提とするに對しサンヂカリズムはこれをもつて假設であるとして反對する。これをその組織または目的の點からいへば、コレクチヴヰズムは國家または都市なる地理的團體に生産手段を集中することを要求するに對して、サンヂカリズムはこれを多數者專制として反對する。例へば鑛業の支配または統制を國家その他の地理的團體に委ぬることは、その産業と關係なき多數の人々によつて鑛業が支配または統制せられることとなり、鑛業勞働者は依然として賃銀勞働者である。鑛業に從事する勞働者――生産者は、生産に關係なき人々によつて支配せられることとなる。從つて不自由である。その國家は壓迫の機關であり、奴隷國 Servile State であるとなすのである。これに對してサンヂカリズム自身の要求は、單に資本制度からの解放を要求するばかりではなく、國家からの解放を要求し、また民主主義からの解放をも要求するものである。さうしてそこに勞働者の自由を發見せんとするものである。從つてその要求するところは産業自治 Industrial Autonomy の主張である。一つの産業はその産業に從事する生産者によつて支配、統制せんとことを要求する。これがサンヂカリズムの基礎的要求である。即ち勞働者組合に對して生産者組合を要求するのである。この點において Guild に類似してゐるものである。その生産者組合としての各團體は素より完全なる自治團體であるとともに、それの自由なる聯合によつて社會を組織せんことを求める。こゝにサンヂカリズムとしての經濟的聯立主義が成立するのである。またその經濟的聯立主義が『組織的無政府主義』である所以である。(1)

(一) コールはサンヂカリズムの經濟的聯立がバクーニンの『コムミユーンの聯合』と同一である旨を述べてゐる(Cole, Self-government in Industry, P. 311)

(十三)

サンヂカリズムの性質が明白になつてきた以上、これに對する批評の中心點もまた明白である。それに對する批評の第一點は無政府主義そのものについての批評である。その第二點は經濟的聯立をもつて國家及資本制度に代へるとする點についての批評であるべきである。先づ第一點について見るに、サンヂカリズムの國家または政治に對する反

對は極めて不合理のものである。純粹無政府主義者の國家に對する態度が單に感情的であつて少しも合理的根據のないものであるごとく、サンヂカリズムの國家に對する反感に對してもまた合理的根據を發見することはできない。彼等は國家に對して常に固定した偏見をもつてゐる。彼等が國家と財產とを同一視してゐることは旣に述べた。その立場から國家とは常に資本主義的または官僚的のものであるとなしてゐるのである。この點は純粹無政府主義と一致するものであるとともに、また純粹無政府主義とともに重要なる誤謬に陷つてゐるものである。コールはこの點について次のように述べてゐる。

『サンヂカリストは將來の國家が、その凡ての主要特質において今日の國家と必然的に類似するもの、即ちそれが資本主義的、官僚的且つ壓迫的のものとして存續すべきものであるとなすことにおいて誤謬に陷つてゐる。(1)

今日の國家が資本主義の國家であることは、明日の國家もまた資本家主義の國家であることの理由とはならない。これを國家の歷史的觀察において見るも、共產主義の國家の存在した時代があり、封建的國家の存在した時代があり、さうしてまた資本主義の國家が相續いて起り、その資本主義の國家もまた旣に滅亡したもの——或はしつゝあるもの、例へばロシアのごときものもある。それゆえに國家をもつて必然的に資本主義または封建主義の機關であるとなすことはたゞ今日、昨日、一昨日の國家にのみ囚はれたる見解である。これをもつて一切の國家の性質を論ぜんとすることは國家の進化史を無視したものであり、それには何等の合理的根據もない。またサンヂカリズムが民主主義に反對する理由は、民主主義をもつて多數決主義、否な、多數專制主義であると見ることにある。けれどもこの意味においてのデモクラシーとはたゞサンヂカリズムによつて『製造』されたる『彼等の』デモクラシーである。デモクラシーとは多數專制主義ではなくして政治的、社會的、產業的機會均等主義、——社會主義、產業的、政治的自由そのものである。從つてデモクラシーをもつて多數專制主義なりと獨斷してこれに反對しその立場から無政府的經濟生活を要求することはこれまた何等の合理的根據をもつてゐるものではない。(つゞく)

(一) Cole, Self-government in Industry, P. 321

□編輯室と校正室

◆著作家組合ができた。それもやり方一つでよくもあり、惡ろくもあるとしても、先づできたことは結構だ。

◆けれどもそれに類してゐるので、もつと適切に資本と勞働との關係の對立してゐるものがある。新聞記者の生活がこれである。

◆知識階級と稱せられるものゝうちで一番に貧乏してゐるものは先づ新聞雜誌記者である。この物價騰貴の時代でさへ三十圓、三十五圓位ひの月給取りがこの方面にあることによつても分るであらう大新聞の記者といつて百圓の月給をとつてゐるものは極めて少ない。就中、時事新報なぞの記者待遇は言語同斷だ。

◆それに今日までは新聞記者のうちに昔流の『月給なぞはどうでもいゝ』といつた風があり、月給問題なぞを口にするのを恥ぢるといつた愚鈍な風があつたものだから、資本家はいゝ氣になつて、エクスプロイテーションばかりやつてきたものだ。

◆新聞事業は今日では純然たる營利事業——さうして儲かる事業である。新聞記者もまた疑ふかたなき勞働者である。その自覺のないものは彼れ自らの地位を知ることのできない人達だ。またその自覺ができたら新聞記者組合でもつくつてはどうか。

◆帝大助教授の深作とかいふ人が東京府の招きで府の吏員等に演說したとかいふところによると世界の大勢は君主主義に傾いてゐる。證據には米國なぞで大統領が大權力をもつようになつたとか途方もないことを述べたてゝゐるが府吏員も隨分馬鹿にされたものだ。

◆田中萃一郎博士が新聞記者に語つたところによると勞働時間は何んでも十四時間位はいゝさうだ。さうして精神勞働者は四時間位ひが適度だとのことだ。その田中君が雜誌「改造」に書いたところによると『社會主義は健全なる思想に非ず』とのことだがそれでは田中君御自身もアンマリ健全な思想の持主ではないらしい。だから田中君の「精神勞働」は「四時間」しか續きえられないだらう。

◆加藤憲政會總裁の演說は例によつて長つたらしい。長いのがいけないといふわけではないが、この夏の熱いのにデパートメント式の演說だけは勸辨してもらいたい。內治、外交、政治、社會、經濟財政、新聞記事、人身攻擊までありつたけの材料を並べての長演說をやるものだから、二度目にはもう種子無しで、東京でやつたことを大阪でやり、神戶でやるといつた有樣だ。加藤子の頭の空虛な證據である。一問題で一演說のできない政治家は、彼れが何等準備なきことを示してゐるものだ。加藤然り、原然り。犬養なぞは一昨日の政治家だ。

◆そのまた同じ演說を貴重な——それほど貴重でないかも知れぬが——紙面に幾度でも出す新聞紙も御目出たいではないか。そんな無駄をする位ひなら「太靈道」の廣告でも出した方がましだ。

◆加藤子が演說すると例の「小が平」さんが待つてゐたとばかりに反駁する。何んでも草稿を拵へて「小が平」さんが新聞記者の行くのを待つてゐるさうだ。新聞記者も流石に「小が平」さんの所へはあんまりゆかないらしいが、加藤と比べてはマアいゝ取組かも知れない。

◆永井柳太郎君が歸つてから曰く、日本の講和委員の態度には、憤慨するといふよりも恥かしかつたと。その通りだ。

マルクスと社會主義

ベルトランド・ラッセル

社會主義は、重要なる他の凡てのものと同じく、嚴格に定義せらるべき主義といふよりは寧ろ傾向(テンデンシイ)である。ある社會主義の定義は、多數の人々が社會主義的でないといふ部分を含み、また含まることの必要な他のものを除外するに相違ない。けれどもそれを土地及び資本の團體的所有の主張と定義することは、社會主義の要素に接近してゐることと思ひます。團體的所有とは民主主義の國家によつての所有の意味であつて、民主的ならざる凡ての國家によつての所有の主張を包含してゐるものではない。また團體的所有とは、無政府共産主義の理解してゐるやうに、團體内の男女の自由なる、即ち國家の構成に必要な强制的權力を伴はない、協同團體によつての所有の意味にも解することができる。ある社會主義者はこの團體的所有が慘憺たる革命によつて急激且つ完全に實現せらるることを期待してゐるに對し、他のものは漸次に、最初は産業に、後に他のものに、來たることを期待する。凡てのものに共通の點は、デモクラシーと、さうして今日の資本主義的組織の事實上の卽ち完全なる廢止とである 社會主義と無政府主義及びサンヂカリズムとの間における相違は、主としてそれ等のものが希望するデモクラシーの種類のうへにかゝつてゐる。正統社會主義者は、今日の組織のもとに顯れたる害悪は資本主義の消滅とともに消滅するものとなして、政治の範圍においては議會的民主主義に滿足してゐる。これに反して、無政府主義者及びサンヂカリストは凡ての議會機關に反對し、さうして團體の政治的事件を他の方法によつて規律することを目的とする。けれどもこれ等のものは、それ等が凡ての特權または凡ての人工的の平等を廢滅せんとするの意味においてはみな等しく民主主義的である。また等しく現在の社會における賃銀勞働者のチャムピオンである。この三者はその經濟上の主義についてはまた多くの共通點を

もつてゐる。それ等は等しく資本及び賃銀制度をもつて所有階級が勞働者を絞取するの手段であるとなし、また等しくある形または他の形においての團體的所有が生産者に對する唯一の自由の道であるとなしてゐる。けれどもこの共通の主義の構造の範圍においては多くの分岐があり、さうして嚴格に社會主義者と稱せられる人々の間にあつてさへ、非常に多數の分派が存在してゐる。

ヨオロッパにおける勢力としての社會主義はマルクスに始まつたといふことができよう。彼れの時代より先き、フランスにも英國にも社會主義論のあつたことは事實である。一八四八年の革命の間、フランスにおいて社會主義が暫時非常なる勢力をえたこともまた事實である。けれどもマルクス以前の社會主義者は空想的の夢に耽り、さうして強固なる政黨を創立することができなかつた。多數の人々を支配するに充分なる眞實または眞實らしき社會主義の理論的體系を組織し、且つ最近五十年間ヨオロッパの諸國に成長してきた國際社會黨運動の組織は、エンゲルスと共働せるマルクスの功である。

……………………………………

マルクス主義の最も重要なる點は次の三つに歸する。第一は唯物史觀と稱せられるものである。第二は資本集中の法則である。第三は階級鬪爭である。

(一)唯物史觀――マルクスは人間社會の凡ての現象が概して物質的狀態から發生するものであり、またこれ等の物質的狀態は經濟組織に體現されてゐるものであるとするの意見を支持した。政治組織や、法律や、宗教や、哲學や――凡てこれ等のものは、その概觀においては、それ等のもの丶發生した社會における經濟制度の表現であるとマルクスは解した。マルクスがたゞ意識されたる經濟的動機のみ重要な唯一のものであると主張したもののごとくに見做すことは不正である。それは寧ろ經濟が人格及び意見を形づくりかくして多くの意識に現はれるもの丶主要な源泉は政治や法律や宗教や哲學と關係のないものであるとなしてゐるのである。彼れはその主義を特に二つの革命に適用する。一つは過去の革命であり、他の一つは未來の革命である。過去における革命は封建主義に對する資産階級の革命であり、それはマルクスに從へば、就中フランス革命に現はれてゐるものである。未來における革命は資産階級に對する賃銀勞働者卽ち無産階級の革命である。それが社會主義共和國を作るべきものだといふのである。歷史の全運動は彼れに從へば、物質的原因が人間のうへに働く結果として、

必然的のものである。彼れは社會主義者の革命を豫言したほどに主張はしない。彼れは、革命の利益であることを考へたが、併しそれよりも遙に以上にそれを避くべからざるものであると考へた。資本主義組織の害惡を解說する場合にも彼れは同じくこの必然の意味を明らかにした。彼れは資本主義の罪惡を擧げたが、それによつて資本家を非難してはゐない。彼れはたゞ土地及び資本の私有が繼續される間は殘酷なる行動の存在することが必然性を固有してゐるものであると指摘してゐるまでゝある。けれども彼等の專橫は永久に續くものではない。何となればそれは最後にそれを轉覆すべき力を產出するからである。

(二)資本集中の理法――マルクスは資本主義の企業が益益大規模となることを指摘した。彼れはトラストが自由競爭に代ることを豫言した。さうして單一企業の量積が擴大されるに反して資本主義の企業の數は減少するものであることを豫言した。この經過のうちにおいては、たゞに營業の數が減少するのみならず、資本家の數の減少しなくてはならないものであると想像した。實に彼れは常に一つの營業は一人の人によつて支配されたかのごとくに話した。從つて彼れは人々が不斷に資本家の階級から無產階級に落され、さうして時の進むに從つて資本家が人數のうへにおいて益々微弱となるものであると期待した。彼れはこの原則を工業にばかりではなくまた農業にも適用した。彼れは地主の邸宅が益々大きくなつてゆくとは反對にその數が益々少數となつてゆくことを豫期した。この進行が益々資本主義組織の害惡と不平とを目立たしめ、さうして益々その反對の勢力を刺激しなければならなかつた。

(三)階級戰爭――マルクスは賃銀勞働者と資本家とを烈しき反對者として考へた。彼れは凡ての人がみな全然一方かまた全然他方であるものまたは間もなくさうなるものと想像した。何ものをも所有せざる賃銀勞働者が凡てを所有する資本家によつて絞取せられるのである。資本主義の組織が發達を遂げてそれの性質が益々明白となるに從つて、資產階級と無資產階級との對立は益々明確になる。相反對する利害をもつてゐる以上階級戰爭は餘儀ないことである。勞働者は次第に、最初は地方的に、次に國民的に、最後に國際的に、彼等の絞取者に反對して結合することを知るに至る。彼等が國際的に結合することを知るに至つた時に彼等は勝利者でなければならぬ。彼等は次に凡ての土地及び資本が共有さるべきことを命令する。絞取は止むに至る。富の所有者の專制は最早や不可能となる。さうして人間の社會には最早や如何なる階級もなくなり、凡ての人々は自

由となるに至るであらう。

……………………………………

マルクスの著作によつて二つの問題が起る。第一はこの歴史的發展の法則が眞實であるか？　第二は社會主義は希望すべきものであるか？　この二つである。この問題のうちの第二は第一とは全然獨立なものである。マルクスは社會主義は來らねばならぬものであることを立證すると稱したが何時それがきたが善きかについては殆んど關與するに至つてゐない。………實際の事實においては、時間はマルクスの理論に多くの弱點を證明した。世界の發展は、彼れの豫言が、彼れの異常なる洞察力のある人物であることの證明となつたものに庶幾い。けれども政治上の歴史も經濟上の歴史も正確に彼れの豫言したとほりではなかつた。國民主義は減退するどころか擴大して世界主義的傾向によつて支配されるには至らなかつた。大企業は益々大規模となり非常なる範圍において獨占の狀態に達したにしても、かかる企業における株主の數もまた益々增加して資本主義のもとに利益を有する人の數は絕えず增加するほどである。それのみならず、大商會は益々大規模となつたにしても、中規模の商會もまた同樣に擴大した。その間に、マルクスに從へば十九世紀前半の英國において辛うじて生活してゐた賃銀勞働者は、その率においては資本家よりも小さいにしても、一般の富の增加によつて利益をうけた。賃銀の鐵則は、文明國の勞働においては、誤謬であることが證明せられた。マルクスの書物に書かれてゐるやうな、資本家の勞働者に對する殘酷の實例を知らうとすれば、われ等の材料の多くを熱帶地方に行つて求めなくてはならぬ。でなければ少くとも下等種族が虐待されてゐる地方に行かなくてはならぬ。更に、今日の熟練職工は勞働界における貴族である。彼れにとつては、不熟練職工と同盟して資本家に對抗するか若しくは資本家と同盟して不熟練職工と對立するかは、問題である。屢々彼れは小範圍において彼れ自身資本家である。また若しも彼れが個人的にさうでないにしても、彼れの職工組合または共助組合が大體さうでなくてはならぬ。この結果として激烈なる階級戰爭は維持されるに至らなかつた。何ものも所有しない勞働者と凡てを所有する資本家との間におけるきつぱりした論理的對立の代りに、金持ちと貧民との間には數個の階級（グラデーションス）、眞近の等級（ランクス）が存在する。正統マルクス主義の本場でもありまた有力なる社會民主黨の發達した獨逸においてさへ、『資本論』の主義の受入れられたのは名ばかりであり、そこにおいてさへ、戰前における各階級の間における富の異常なる膨脹の結

果、社會主義者をしてその信條を修正し、革命的の代りに進化的の態度をとるに至らしめた。英國に長く住むでゐた獨逸社會主義者のベルンシタインは『修正派』の運動を始めた。それが遂に社會民主黨の大半を征服した。彼れの正統マルクス主義に對する批評は彼れの『進化的社會主義』("Die Voraussetzungen des Sozialismus und die Aufgaben der Sozial Democratie")のうちに述べられてゐる。ベルンシタインの著作は廣教會(Broad-church)の著作家等と同じように主としてそれ等の主義が開基者によつてはその信徒等のように嚴格に支持されてゐなかつたことを明らかにしてゐる。マルクス及びエンゲルスの著作のうちには、彼等の門徒のうちに成長した嚴格なる正教に當て篏めることのできない點が澤山にある。ベルンシタインがこれ等の門徒連に與へた批評は、既に説明してきたものゝ外には、革命に反對するものとしての斷片的行動の辯護から成つてゐる。彼等は普通に社會主義者の間に行はれてゐるような自由主義に對する過當の敵意に反對した。また疑もなくマルクスの教義である國際主義の刄を鈍くした。彼れはいふ。勞働者は市民となるとゝもに祖國をもつものであると。さうしてこの基礎のうへに立つて、彼れは國民主義の段階を辯護した。彼れはヨオロッパの諸國民がその文明のために熱帶地方に領土をもつことさへも支持した。かゝる主義は革命的熱情を減退せしめ、さうして社會主義を自由黨の左翼に轉ぜしめる傾向がある。けれども戰前における勞働者の益々繁榮する結果はこれ等の發展を餘儀なくせしめた。戰爭がこの狀態を變化するかどうかは未だ知ることができない。ベルンシタインは賢明な言葉をもつて次のように結ぶ。

『われ等は勞働者を彼等のあるがまゝに受取らなくてはならぬ。さうして彼等は共產黨宣言のうちに示されてゐるように一般に貧乏でもなく、また彼等の護者がわれ等を信ぜしめようとしてゐるように偏見と弱點とからそんなに解放されてもゐない』

ベルンシタインは正統マルクス派の內部からの崩壞を代表する。サンヂカリズムは外部から、マルクスやエンゲルスのそれよりももつと急進的且つもつと革命的であることを標榜する主義の立場からの攻擊を代表する。マルクスに對するサンヂカリストの態度は、ソレルの小著『マルクス主義の還元』("La Décomposition du Marxisme")及びより大著 Reflections of violenceのうちに見ることができる。ベルンシタインがマルクスを批評した點を贊成した後に、

ソレルは更に一歩を進めて別個の秩序についての他の批評を試みてゐる。彼れはマルクスの理論的經濟學がマンチエスタア派に極く近いことを指摘してゐる。彼れの青年時代の純正經濟學は、今日誤謬であるとされてゐるものが、彼れによつて受け入れられてゐるのである。ソレルに從へばマルクスの教義のうちにおいて眞に重要なるものは階級戰爭である。何人と雖もこの主張を生かしてゐる人は社會民主黨的正統派の文字に固着してゐるものよりも眞により多く社會主義の精神を活かしてゐるものである。階級戰爭の基礎のうへに立つて、フランスのサンヂカリストは、われ等が今日まで考へてきたよりももつと深刻なマルクス批評を開展した。マルクスの歴史的發展についての見解は大なり小なり事實に誤謬がある。………けれどもサンヂカリズムは、たゞにマルクスの事實についての見解を批評するのみではなく、また彼れの達せんとした目的並に彼れが推薦した手段の一般的性質についても批評を加へた。マルクスの思想はまだデモクラシーが存在しない時に形づくられた。マルクスの『資本論』("Das Kapital")の現はれた年は丁度英國で都市の勞働者が選擧權をえ、またビスマークによつて普通選擧が北獨逸に許されたその年である。マルクスは純正經濟學者と同じく、人々の意見は多少經濟的利己心によつてまたは寧ろ經濟的階級利害によつて導かれるものであると想像した。政治的民主主義の運用の長き經驗は、この點に關して、ヂスレリーやビスマークの方が、自由黨員や社會黨員よりももつと鋭き人間性の判斷者であることを明らかにした。自由への手段として○○を信任し、または政黨の力にたよつて國家を人民に奉仕せしめうる充分な機關であると信頼することは益々困難となつてきた。………

サンヂカリストは人々を黨派によつてゞはなく、業務によつて、組織することを目的とする。彼等はいふ、これのみ階級戰爭の眞實なる觀念と方法とを代表するものであると。從つて彼等は議會と選擧との媒介を通じての凡ての『政治的』行動を輕蔑する。彼等の推賞する行動とは革命的勞働組合によつての直接行動である。政治的行動に對しての産業的行動の喊聲は今やフランスのサンヂカリズム以外に擴がつてゐる。それはアメリカにおけるＩＷＷのうちにも、英國における産業組合員及びギルド・ソーシャリストの間にも發見せられる。………(室伏生抄譯)

『社會主義と勞働問題』

◇社會主義と勞働問題は現代の流行である。生活の上に根據を置く流行であるがベルグソンやオイケン、タゴール等の流行と同一視することは出來ない。せつぱ詰つた流行だ。

◇從てこれに對する議論も亦甚だやかましい。偉い人々が何とか仰せられる。溫情主義主從關係これ等の言葉は政權や全權を握つて偉い人々(?)から常に聞く所だ。

◇學者としては、まさか溫情主義とも言へぬと見えて如何なブルジョアの代辯者でも蚊のなく様な聲で社會政策を絶叫せられる。これを名附けて、健全社會政策とも言へよう。

◇「改造」と言ふ雜誌は、それ自らの改造を悟つてか、七月號には、勞働問題、社會主義批判號と言ふものを出して、八十幾頁かをこの問題の爲に費して、諸家の意見を募つてる。

◇先づ勞働問題の方から拜見して行く筆者は福田、河津、河田、桑田の諸博士と安部磯雄、阿部次郎の兩氏である、先づ輝いて居るのは、福田、河田の二博士と安部氏であらう。

◇福田博士は「勞働非貨物主義の公認」と題して、近頃になく、落ち附いて、書いて居られる。常々かゝる態度を持して貰ひ度いものだ。社會政策論に國體論などは無用、無用。

◇河津博士とは何れ帝大の先生位であらうか常識論で社會政策を推稱してるが其社會主義乎社會政策乎なんて書いた表題から見ても社會主義を退ける根本的理由位を聞けると思つた。

◇所が何處までも、實際的、通俗的な――先生によるとこれ等の言葉は、非論理、不徹底を意味するらしい――先生はそんな根本的理由などは、哲學的であるとして考へない。考へられぬのだと云つた人があつたがそれでは博士の面目にかかはるだらうて。

◇桑田博士は金持だそうだ。小さな聲で溫情主義を排せられる。それも其趣旨はよいがなどと、極めて心細い排し方である。この人は色々な社會問題の本をかくがこれでは、書く方はとにかく、かゝれる方は恐縮する。

◇社會主義批判を見ると、合計七人賀川、戸田、田島、田中、阿部、堺、杉森の諸士の執筆である。賀川豐彦、阿部秀助兩氏の論文が共に、唯物史觀の批判で一番よいと思つた。兩氏の篤實な態度に對して敬意を表する。

◇「社會主義は健全なる思想に非ず」とは近頃法博になつた田中萃一郎先生の御説である。其一節を讀むと「マルクスの新社會主義に至つては社會革命論にして祖國より放逐されて、外國に流寓したる亡命者の所説なり、世俗と相容れず、常に快々として樂まざりし不平家の所論なり」てなことを憶面もなく言はれる。

◇社會主義は「宗教の權威思想界を壓倒したりし中古に憧憬するの思想」だとして其一例として、クロポトキンの相互扶助論を掲げて居るに、至つては、批評する勇氣も出ない。

◇先生は、先頃普通選擧尙早論で盛名を歌はれたが、社會主義尙早論でも書かれたら、再び世の柏手を受けたかも知れない、惜しいことをしたものだ。

◇痛快淋漓「近世社會主義論」と言ふ名著の著者法博田島錦治氏は「合衆的報恩主義の提唱」てふ和洋折衷の議論である先生にするとすべての外來思想に對するには「吾が國在來の武士道」を以てこれに當れと言ふのだから凄じい。これを集合的とやるのにあるそうな。こんどはイリーの著書の様な種本がなかつたと見えて四五頁の原稿を書くのは大邊まごつかれたようだ。

◇今後共多忙の時だ保守主義の両面しつかり賴みますぜ。(T、K)

マルクスの生涯

ヴ井ルヘルム・リープクネヒト

一八一八年五月五日、ローマ文明の紀念と、さうしてライン地方から中世の屑(ラビツシ)を掃蕩しさつたフランス革命の新らしい遺跡のうちに立つてゐるトレエフエス――最も古るい獨逸の町――で、猶太人の家族に一人の兒、カール・マルクスが生れた。ライン地方がフロシアに領有されてからたつた四年を經たのみである。さうしてその新らしい主人等は異端フランス的に代ゆるに基督教的獨逸精神をもつてするための、『神聖同盟』の事業に忙がはしい時であつた。異教徒フランス人は獨逸ラインに全人類の權利の平等を宣言し、さうして猶太人から一千年間の迫害と壓抑の呪ひを除きさり、彼等を市民となし、人類となすに至つてゐたのであつた。『神聖同盟』の基督教的獨逸精神は異端フランス的平等精神を輕蔑して、古るき況ひの回繕を要求したのである。

その兒の生れてから間もなく、凡ての猶太人に基督教の洗禮をうけるかそれでなければ凡ての公職と公務とから辭するか二者その一つを撰むよりほかならしむるの布告が發せられた。

卓越せる猶太人の法律家であり、その地方法廷における公證人であつたマルクスの父は、この避くべからざることに服從を強ゐられて、彼れの家族とゝもに基督教に改宗することゝなつた。

二十年の後、その兒が一人前と成つた時に、彼れはその猶太人問題についての小册子のうちでこの暴行に對して最初の答(レプライ)を與へた。さうして彼れの全生涯は答(レプライ)であり、また復讐(レベンヂ)であつた。

『マルクスの父は偉大なる才能の人であり、また宗教、科學、藝術について十八世紀のフランス思想が徹底的に滲みこんでゐた。彼れの母は十七世紀に和蘭に住むだことのあ

る匈牙利猶太人の後であつた。彼れの幼時の友のうちにはエニー――後に彼れの妻――とエドガア・フォン・ウエストファレンとがあつた。マルクスに初めて浪漫的の趣味を吹込んだのは彼等の父――半スコツトランド種の――であつた。マルクスの父が彼れにヴォルテールと Racine とを讀んできかせたのに對し、ウエストファレンは彼れにホーマーとシエークスピーアとを讀むできかせたのである。さうしてこれ等の著作家こそ彼れの常に愛好する人々であつた。彼れは學校友達から愛されもし、恐れられもした――彼れは始終小供らしいいたづらをやつたゝめに愛せられた。また彼れは痛烈な、諷刺的な詩を書いて彼れの敵を嘲弄したゝめに恐れられた。それから彼れ普通の課程を經て大學――最初はボン後に伯林――に入り、そこで暫らくの間は父の希望に從つて法律を學んだ。また自らの欲するところに從つて歴史と哲學とを學んだ。』マルクスの娘がこう書いてゐる。

一八四二年、彼れはボン大學の哲學の講師とならうと企てた。けれども彼れの伯林時代の友人であり、またそこの講師でありさうして上級官廳と常に衝突の絕ゆることなかつたブルノー・バウエルは彼れに思ひ止まることを忠告した。さうしてブルノー・バウエルがその年強制的の規則に服從を餘儀なくされた時に、その計劃も自然終りを告ぐることとなつた。そのうちに、若きマルクスにとつてもつと豊沃の野が展開せられた――實際的活動の舞臺である。その時當キヤムハウゼンやハーゼマンの、反抗的且つ決然たる自由の感情に滿てるライン州の所有階級が、この二十四歳の青年――彼等がその異常なる才能を承認してゐた――との關係を求めた。彼等は一八四二年の秋にマルクスを主筆とする一新聞を起した。『ライン新聞』がこれである。

この新聞の編輯とそれの檢閲とは常に戰ひつゞけた。新聞檢閲は獨逸においては依然流行してをつた。『けれどもその檢閲（センサアシツプ）は『ライン新聞』を滅すことができなかつた。』エンゲルスはこう述べてゐるのである。人々を說服し支配するマルクスの驚くべき能力は旣にこゝに證據立てられてゐた。檢閲官は屢々見逃にした。それで伯林では立腹した。彼等は引續いて遣責をうけた。最後に檢閲官を使ひ盡してこまつた時に、その危險な新聞紙は二重の檢閲に附せられた。檢閲官のそれと、そのうへに州知事の檢閲とがこれである。けれどもかくても無效であつた。思想は胡蝶のように捕捉することのできるものではない。政府は力に訴へて、一八四三年三月、『ライン新聞』を禁止した。

これより少し前に彼れの幼さな友達であり、後にフロシアの反動主義の大臣となつたフォン・ウエストファレンの妹であり、さうしてチエスキットの教祖、基督教的社會煽動家フローレンコートの義妹であるエニー・フォン・ウエストファレンと結婚したマルクスは、巴里に居を構へ、そこでアーノルド・ルージユとゝもに『獨佛年報』を發行した。この年報のうちでマルクスはヘーゲルの法律哲學について、並に猶太人問題について長篇の論文を發表した。この二つによつて彼れが哲學――事實の根底並に社會主義にとつてはたゞ宗教學であるにしか過ぎない――の世界から超脫したことが明らかにされた。彼れは今やヘーゲル派哲學を卒えた。さうしてこの時からマルクスの發展と活動とは、われ／＼にマルクス主義として知られ且つ『資本論』のうちに模範的且つ完全に表現してゐるものに向つて一直接線に向けられた。

『獨佛年報』は僅の間しか續かなかつた。そのコッピイは今では殆んど手に入れることができない。それゆえにそのうちから次のような熱烈な若い精神を引用することは不適當なことではあるまい。

『私は今ま和蘭を旅行しつゝある。私が土地の及びフランスの新聞紙から承知する範圍においては、獨逸は泥土の中にはまりこみ、さうして益々そのうちへ深入しつゝある。和蘭においてさへ、人は國民的誇矜よりも以下の何ものをも感じない人であつても、尙ほ國民的耻辱を感じつゝある。最劣等の和蘭人でさへ最偉大の獨逸人に比べては尙ほ賢明な市民である。さうしてフロシア政府に對する外國人の意見！その意見は恐ろしいほど一致してゐる。何人も最早やこの組織とその簡單な性質について欺かれるものではない。だから新派の思想によつてある程度の効果があげられたのである。自由主義の美しい衣服がぬぎ捨てられて最も憎むべき專制主義が、全世界の眼に明らかに、その眞裸のまゝで現出された。

『反逆されてゐるにしても、これもまた神の啓示である。わが行政の性質は少くもわれ等の愛國心の虛僞を示してゐる。またわれ等にわれ等の面を蔽ふべきことを教えてゐる眞理である。汝は君は私を冷笑して且つ問ふ『それが何の役に立つのか？　汝は羞耻で〇〇を始めることはできない』と。私は答へる『羞耻はもう〇〇である。それが實に一八一三年に獨逸的愛國心を破つたフランス革命の勝利である。羞耻とは內部に向つた憤怒である。さうして若しも全國民が眞に自ら羞耻を感じてゐるとすれば、それは飛躍のためにうづくまつてゐる獅子である。私はその羞耻さへ獨逸に存在しないことを認める。これに反してそれ等の〇〇な人達は愛國者である。……』（一八四三年マルクスがルーヂユに與へた手紙）

この手紙は、この騷亂及び壓迫の時代において、マルクスが現前の戰に熱心であり且つ銳く將來を洞見してゐたことを示してゐる。彼れは既に革命の黎明の空氣を嗅ぎつけてゐたのである。（つゞく）

マルクス物語

一 マルクスの宣言

マルクスは一八五〇年九月の終り、共產主義同盟の中央委員を辭した。(この時、同盟の本部をコローンに移す事になつた。)中央委員を辭する時のマルクスの宣言——それは、キルリヒ、キンケル、バルテルミー等の多數派に對して明にされた態度——は極めて理義明白であつた。それは大要以下の如きものである。——

『卿等は人事を物質的に解釋することを止して理想的解釋をする。卿等は革命の動力を以て單に人間の意力に存すると認めてゐる。

吾等は主張する。『勞働者は數十年に亘る諸國民間の內亂を經て、社會の現狀を變化し、同時に勞働者自身を變化し、而して遂に勞働者の政權獲得に到達せしめなければならぬ。』と。

然るに卿等は徒らに革命的言辭を弄して『我々は一擧にして政權を握らざる可らず、然らずんば吾人の戰鬪を抛つべし』と言つてゐる。

此一言は如何にマルクスが革命的進化の理法を信ずる者であつたかといふ事を語るものである。——けれどもマルクスの此宣言は當然多數派の幹部を激昂せしめた。キルリヒはマルクスに對して決鬪を申込んで來た。

傲岸なるマルクスは侮蔑の態度を以て之を拒絕した。キルリヒとバルテルミーとはマルクスを卑怯者と罵倒した。此處に於てマルクス派の一青年シユラムは堪りかねてキルリヒを罵り返し、遂に其結果兩人が反對にベルギーの海岸で決鬪する事となつた。かくて武器はピストルと決定されたが、キルリヒは名にし負ふ射擊の名手であるに反し、シユラムはピストルを握る事が始めてゞあつた。それで此勝利はいふまでも無くキルリヒのものとなつた。——けれどもシユラムは頭をやられた丈けで一命に變りはなかつた。

二 マルクスの落第

マルクスは暫くニユーヨーク・トリビユーンの寄書家であつた。そしてその當時、同紙から受くる報酬が彼に與へられたる定收入のすべてゞあつた。

けれども一八六一年、アメリカに內亂が起つた。その內亂の結果、トリビユーン社は非常な影響を蒙て、其特徵の一つであつた『倫敦通信』を中止してしまつた。

かくて、マルクスの生活上の打撃は自らやつて來た。彼は『トリビユーン』を失つて以來倫敦で種々な小さい仕事――主として原稿生活をしてゐたが、何れも最低度に於て彼の生活を充すにも足らなかつた。

そこで、彼は竟に文筆の仕事に携ることの不可能なるを知て、肉體勞働をしやうと迄も企てる樣になつた。

一八六二年の末、彼は到頭生活難に堪へ切れなくなつて、或る鐵道會社の事務員の募集に應じた。けれども、この唯一の仕事も惡筆のために跳ねつけられてしまつた。――この慘憺たる生活の中に、資本論の第一巻か書き上げられた。

三　煙草のマルクス

マルクスが、非常な煙草好きであつたといふ事は有名な話であるが、彼は殊に葉巻が好きであつた。

青年時代に於ける此方面の彼の味覺は驚くほど正確なものであつたが、中年以後其自信は次第に崩れて來た。――といふのは、彼は生活難に苦しめられて安煙草を散々に吸つたからである。

彼が年老ひた頃、或る獨逸の客人が贈品として上等の葉巻を持て來た。そこで、リーブクネヒト其他の惡戲仲間がマルクスを驚かしてやらうといふので内々計畫をした。そしてマルクスか其室に入て來ると。直ぐに『宜い香りがする』といふので、リーブクネヒト一味の連中は、此處ぞとばかりに眞面目くさつて、『バナヽの上等です』と言つて、故意に貧民屈まで行て、やつとの思ひで探し當てゝ來た極下等の煙草を差し出した。

マルクスは直ぐそれに火を點じ乍ら『ウンこれは却々上等だ』と言つたので一同哄笑したそうだ。けれども、マルクスは事實を話された後に於ても決して自分の味覺を疑はなかつたといふ事だ。彼は年が年中、煙草を離さなかつたそうである。

四　マルクスと骨相術

マルクスが骨相術の大家で、また骨相術に就て非常に興味を持てゐたといふ事に就てはあまり多く知られてゐない。

新らしい青年等と始めて語る時、彼は極めて冷靜な態度を執て、其骨相を研究した。そうして、時々異樣な質問を發してはその男の頭腦を判斷して自ら興がつてゐた。時としては骨相學的試驗をやることもあつたそうだ。

五　無神論者

マルクスが無神論者であつたことは改めて此處に言ふまでも無い。然し乍ら、彼は自らが無信論者ではあつたけれども、決して他人の信仰を侮辱したり輕蔑したりすることはなかつた。こういふ立場からマルクスが職業的な無神論者を嫌つたことは言ふ迄も無い。

ジョン・ロージャースといふ倫敦の有名な急進的社會主義者が死んで、その葬式が行はれた時の事である。

マルクスは、多數の獨逸の社會主義者と共に、その席に連つた。

ところが墓地に着くと同時にマルクスは親戚の人達と共に、小さい禮拜堂の中に入つて行つて儀式を行ひすまして出て來た。

マルクスを除いた他の社會主義者連中は其主義の上から禮拜堂に入ることを嫌つた。彼等は斷じて堂の中に入らなかつた。そして、マルクスが出て來ると共に、嚴しく詰責した。

仲間の中の感情家ナウマンの如きは、マルクスを以て『主義を捨つる者だ』とまで激語した。マルクスは冷かな態度を以て之に答へた。

『僕は今日は友人の葬式に列して友人を慰めるために來たのだ。儀式などは素より問題ではない。ナウマン、君も平常から儀式なぞ何ても無いと言つてゐるではないか。何でもないなら態々無理に此處まで來てから堂に入ることを拒む必要は無いでは無いか。』と。

六　生活難と人間味

マルクスの生活難は其倫敦亡命時代に於てクライマックスに達した。

當時に於けるマルクスは自分の子供達をひもじい目に合はせないために自分はパンをすら喰はなかつたほどであつた。

當時、エニィから獨逸にゐる其友人に生活の急を訴へた手紙によると、何でも、家賃が滯てゐるために執達吏が來て、赤ン坊の寢床から、二人の娘の玩具までも差押えてしまつた。或る場合にはエニィの痩せ衰へた乳房から血がほとぼしり出た事もある。又マルクスがエニィの腕飾りなぞを質屋に持つて行つた時質屋の親父か貴重品に目を取られて、危なくもマルクスは窃盗犯で捕縛されかゝつた事もある。

それからマルクス一家は一八五〇年六月、ヂーンといふ諸國の亡命者の群れ集る町に引越し、其處で二つの室を借りて、寂寞たる淋しい家庭を造つた。然し此の思ひ切つて

慘めな生活の間に在りながら猶マルクスはその妻と手を取て、ゲーテの戀歌を合唱しなから室の中を踊り歩く様な事もあつた。

後にラファルグ夫人となつたマルクスの娘が若い時書き殘したものに次の如き言葉がある。

――『私等が未だ子供のころ、父はよく母の腰に手をあて、室内を行つたり來たりしてゐました。』

七 マルクスとビスマーク

マルクスは自分の生活の内情に就ては嘗て人に語つた事かなかつた。彼は左様いふ事が人に知れることを非常に恐れてゐた。特に彼はビスマークか彼の生活を知る事を非常に恐れてゐた。――そうして事實その恐怖には深い根據があつた。ビスマークはマルクスの貧乏を知つてゐたが、然し、彼が如何しても賄賂を取る人間で無い事を知つてゐたので進んで此方から下手に出て政府の御用新聞に對する通信を受け持たせやうと考へてゐた。その當時ビスマークの下に働いてゐた男でブッヘルといふのがゐた。此男は以前には社會主義者と共に行動し、現にマルクスと共に倫敦に亡命までした男であつたが、非常な才物で忽ち態度を變じてビスマークの配下となつたのである。此男はビスマークの命によつてマルクスに手紙を送つて來た。それは、『スターツ、アンツァイゲル』といふ新聞に倫敦の金融に關する通信を送つて來ないか、といふのであつた。そしてそれには何の條件も無い。マルクスの學問上の意見は毫も曲げるに及ばず縱横に評論して差支無いといふのであつた。――これはマルクスにとつて何の迷惑も無いわけである。寧ろ當時のマルクスとしては喜こんでその請を容るゝべきであつたかも知れない。けれどもマルクスは斷乎として之を拒絕した。

彼は非常な潔癖性で、僅と雖も斯の如き嫌疑を招く事を好まなかつた。殊にその申込の思ひ切つて自由な所に反て僞りがあり陷穽があると考へてゐた。

又一說には一八六七年の夏、ブッヘルが直接マルクスと會見して、手紙と同じき事を彼に勸告し、而も大膽に白紙の小切手を前に差出して若干でも欲しい丈けの額を書き込んで呉れと言つた事もあるそうである。けれどもマルクスの態度は前後を通じて寸毫も變らなかつた。

八 ユーモリスト・マルクス

マルクスの反對者の批評によると、彼は皮肉のわからぬ男であつた。けれども事實は彼が非常なユーモアに富んだ

性格の所有者であることを示してゐる。

彼が共產主義同盟から退いた後數年間、彼の生活困難は從前に少しも變るところはなかつたが、それにも關らず、彼は極めて靜かな滑かな生活を送つてゐた。彼はチエッカア（西洋の碁）が非常に好きで、晝は圖書館で勉強する代り、夜は是等の邪氣の無い遊戯に耽つてゐた。そしてこの方はよほど上手でもあつた。彼は勝てば非常に喜こんで陽氣になつたが敗けると散々に機嫌を惡くした。そして、そういふ場合には何時も下婢のチエルンに叱りつけられ、漸く中止するのが常であつた。その相手は大抵リーブクネヒトなぞであつたのでエニイ夫人は態々チエルンをリーブネヒトの處にやつて、

『毎晚夜更かしをされるばかりでなく、負けると機嫌が惡いから當分遊びに來ない樣にして吳れ』と賴み込む事さへあつたそうだ。

又、マルクスは善く冗談を言ひ、惡ふざけや馬鹿ばなしを好んだ。或時のごときは夜の二時ごろ、倫敦の町の中で、街燈を幾つも目茶苦茶に敲きこわし、巧みに巡査の目をぬすんで逃げたこともある。そうかと思ふと又非常に淸敎徒的な所もあつて、殊に子供や、女の面前に於て淫猥聞くに堪えざる言語を弄するものがある時は、彼は必らず顏を反けた。——要するに彼は子供の如き無邪氣さがあつた。從つて其性格の中に複雜な矛盾のあつた事は言ふまでもない。

九　マルクスの墓

マルクスの死に夫人の死が非常な影響を及ぼした事は言ふまでもない。

彼は夫人の死後間も無く死んだ。それは丁度一八八三年の三月十四日である。エンゲルスがリーブクネヒトに宛てた手紙によつて見ると、——二階にはチエレンが泣いてゐる。『如何したか』と聞くと『御主人は眠てゐらつしやいます』といふ。エンゲルスが急いで行つて見ると最早マルクスは死んでゐた。そうして彼の唇には子供の如き微笑が殘つてゐた。

それから三日の後、彼の死骸はハイゲートの墓地に葬られた。親友エンゲルスは、墓前で集つた人々を前にして、淚ながらに彼の生前の記臆を物語つた。

今マルクスの墓はその一家のものと竝べられ、單純な平石に次の如く文字が刻み込まれてゐる。

エニー・フオン・エーストフアレーン
（マルクスの愛妻　一八一四年二月十二日生
一八八一年十二月二日死）

カルル・マルクス

一八一八年五月五日生

一八八三年三月十四日死

ハアリイ・ロンゲイ

右二人の孫　一八七八年七月四日生

一八八三年三月二十日死

エレン・デムート

一八二三年一月一日生

一八九〇年十一月四日死

彼の一家は盡く此墓地に葬られた。

彼の三人の娘は夫々人の妻となつた。長女エニイは佛蘭西の社會主義者ロンゲイの妻となり、次女ローラは同じく佛蘭西の社會主義者ラファルグの妻となつた。三女エリノルは英國の社會主義者アヴエリンの妻となつた。然しエリノルの結婚は後に於て不幸の結果を招いた。

十　マルクスの資本論

資本論第一卷は、彼がその前に出版した、『經濟學批評』の不評判に激勵された結果生れたと見て宜い。從て『資本論』第一卷には前者に於て取扱はれた思索の大部分がそのまゝ用ひられてある。

資本論第一卷が完成せられたのは一八六二年の末の事である。その翌年、彼は、それを淸書して獨逸に持つて行き、其處で出版の手續をする計畫であつた。

然し、そのうちに『國際勞働者同盟』の運動が起つてそのために五ヶ年を費した爲め、其發行は非常に遲れ、一八六七年の一月漸く其第一卷が出版される運びになつた。

後は『資本論』が非常な勢で賣れることを信じてゐた。然し事實において其賣行はあまり善い方ではなかつた。彼は尠からず失望した。彼が其友クーゲルマンに送つた手紙は此間の消息を明にしてゐる。その一節に曰はく、

――『君であるから特に言ふのだが、私は第一卷の再版の出るのを待てゐる。さうすると私は直ぐに第二卷を書き始めるのだ。』

かくて、一八七〇年、彼は第二卷の原稿を書き始めた。すると急に或點に就て露西亞語を讀む必要が生じて來た。彼はその不健康にも關らず早速露語の獨修にとりかゝつた。そして旬月ならずして彼は之を完成した。

然し彼は到頭、第二、第三卷を書く事なくして死んだ。彼は最後の病床に於て娘のエリノルに對し、『あの斷片の原稿を纏めてエニゲルスに渡せ。さうすれば彼がそれを統一してくれる』と言つた。エンゲルスは果してその友人に對して信を守つた。

第二卷は一八五五年に、第三卷は一八九四年に出版された。（S・O）

ロバアト・オーウエンの社會主義

甲野哲二

「世はオーウエンの思想に歸りつゝある。オーウエンは勞働者はそれ自らの生活を統御する爲に生産を行ふ手段を創造せねばならぬとした。彼は或る一定の計畫に依て作られた一大團體の内にすべての勞働者を包含することを目的とした。彼の企ては失敗に終つた。けれども其考へが惡いのではなく職業的利益と部分的のものに對する寛容の足らざるにあつた。オーウエンは其時代の勞働者を以て天使であると夢想した、勿論其夢は誤りであつた。反動の勢は必然的に起た。勞働者達は、オーウエン主義者の失敗か其組織にあることを覺ることが出來ないで其思想を非難した。彼等は實際的であることを要求し、この精神を以て、勞銀の増加を目的とした熟練工の小さな組合を組織した。彼等は其職業を第一に考へ、彼等が一階級に屬するものであると言ふことを忘れたのである。成る程一時はこの職業的組合(クラフト・ユーニオン)でうまく行つた。彼等は組織のない雇主と交渉するのみであつた。けれども彼等は其同胞勞働者の多數を無視したものであつた、何となれば彼等の組織の第一原理の自助と相互防衛は一職業以外に及ぶことがなかつたからである。」(G. D. H. Cole and W. mellor! The meaning of Industrial Freedom. P. 14) トレード・ユーニオンの問題は、現今の英國に於て最も興味あり且つ重要な問題である。コールが「職工組合は國民的制度である」(Cole: World of Labour. P. 208) とした如く、今やウエッブか「職工組合は職工の雇傭條件の維持若しくは改善の爲の勞銀勞働者の繼續的團結である」(History of Trade Unionism. P. 1) とした職工組合以上に出でんとして居る。卽ち職工組合の産業管理權を主張するギルド・ソシヤリズムの議論が是れである。而して、そが唯心的傾向があることと、其コレクチビズムに反對し、又サンヂカリズムに反對することとは、從來の社會主義と異る所である。そして彼等はオウエンの思想に歸れと主張する故に、オーウエンの思想の一般を見ることは必ずしも無用のことであるまいと思ふ。

（一）

新しい時代は常に新しい思想を生む。近世社會主義の勃興も亦斯かる新しい時代の産物に外ならぬ。すべての國民生活に干渉の態度を採た十六・十七兩世紀のマアカンチリズムの反動として起つた自由放任(レツセ・フエア、レツセ・パツサア)の思想と政策とは

ハルグレーブ、ワットアークライト等の發明と共に、產業革命を第十八世紀の終末に當つて英國に齎らしたことはこゝに詳しく述べる必要はない。

十八世紀の終末から十九世紀の初めに起つた產業革命は實に、貴族階級に對する有產階級の勝利であつた。勝利のブルジョアーは產業界の全權を掌握して、思ふがまゝに勞働のエクスプロイテーションに從つた。「婦人は丸裸同樣になつて炭礦の中に働いた、母を慕ふ樣な幼い子供も地下の坑道の不潔な空氣の中で終日トロッコを押し、燒く樣な暑い綿絲工場の空氣の中で十五時間も働き、たゞ監督者の鞭に依つてのみ僅かに眠から免れる許りであつた。そして、勞働時間は老幼を問はず肉體の精力のあらん限りは繼續せられ、然も、人口の增加に必要な衛生設備の如き何物をも發見することが出來なかつた。」(1) かゝる狀態も契約の自由なる美名の下に行はれマンチェスター學派の經濟學者はこの狀態を是認し、勞働法規に反對する理由として、人口の法則と勞銀基金說とを考へ出したのである。

社會は進化する。古き個體の內に、我々は新しい個體の發生するのを知る。斯かるブルジョアー全盛の時代にあつて其中から發生したのは社會主義的思想であつた。「近世社會主義は其本質上一方に於ては現代の社會に有する有產者と無產者、資本家と勞働者との階級的反目、他方に於ては生產上の無政府狀態からの直接の產物である」(2) と科學的社會主義に就いて言つたエンゲルスの言葉は社會主義の初期に於ても同樣である。

斯る狀態を見て、心ある人達が人間の苦痛悲哀から免れる樣に思ひなやんだのは怪しむに足らない。人道主義的思想はこゝに於て起つて來た。英國社會主義史の第一頁を飾るものは、實にロバアト・オウエンの名である。(3)

---

(1) Sidney webb:- Historic Basis of Socialism. (Fabian Essays in Socealism P. 41)

(2) Engels:- Socialism, Utopian and Scientific Kerr Edition P. 47

(3) ユートピストとして英國にトーマス・モーアのあることは忘れてはならぬ。彼は一四七八年に生れ一五三五年に死した。彼の著書「ユートピア」はプラトーの「ポリタイア」に倣つて著はされたもので、カンパネラの「太陽の都」等と共に有名である。彼はこの著の中で當時の英國の社會狀態の批評をしたと言はれる。けれども、「モーアは屢々近世共產主義の父と稱せられたるも、而も彼のユートピアに對する愼重なる研究は彼其の人が現代的意義に於ける共產主義者たるを否定するもの」であるとせられて居る。(三田學會雜誌六月號、高橋敎授「トーマス・モーアのユートピアと其共產主義的思想」五八頁參照)故に普通英國社會主義史は、彼を除外して、オウエンから始まる。近世社會主義が經濟問題に其端を發せるとする見

解から出發すれば是非オウエンから始まらなくてはならぬ。

（二）

ロバート・オウエンはシャアル・フリーエ、サン・シモンと共に三大空想的社會主義者と言はれて居る。(1)「空想的社會主義者は社會の缺陷卽ち其痴愚、不公正なることを社會に示すことに依り、又、其希望と洞察とに依て建設せられた社會改造の計畫を教ふることに依て社會を一新することが出來ると考へたのである。彼は、人類が其力を知ると知らぬとに拘らず人類の上に社會的變革を齎らす事の因果を見ず、たゞ彼等の計畫の內在的合理性が民衆の覺る所となつて、實行の運びに至ると信じたのである。彼等は、文明の混亂と貧困と其計畫した新世界の秩序と幸福とを比較對照して民衆に示すことに依り、民衆が社會主義に其希望を繋ぐに至らんことを望んだのである。」(2) これ彼等の主義が空想的とせらるる所以である。科學的社會主義は一の發展階段である、民衆が是れを欲すると欲せざるとは、少しも社會主義の關する所でない、社會主義は必然的に來るべきものであるとするのである。

ロバアト・オーウエンは一七七一年五月十四日ノース・ウエルスのモントガマリーシェヤのニュウ・タウンの村に生れた。彼の父は、ニュウ・タウンで小さな馬具並に金物商を營み郵便局長をも兼ねて居た。オウエンは九歲までこゝで學校教育を受け、十歲のときにスタムフォードに赴き、こゝで彼は三四年織物商に勤め、後ロンドンの商店で少しの經驗の後マンチェスターに移つた。

彼のマンチェスターの所得は始めは、年額四十磅に過ぎなかつたが、其成功は急速なものであつた。年十九にして、彼は五百の職工を使用した紡績工場の管理者となつたが、彼の業務執行の才能と勤勉とは直ちに、この種の工場中最も有名なものの一とならしめた。そしてこの工場で始めて英國に輸入せられた米國の綿が絲になることとなつた。斯くてオーウエンはマンチェスターの Chorlton Twist Co. の支配人並に社員になつた、グラスゴウへの訪問中オーウエンはニュウ・ラナアクの紡績工場所有者のデール氏の愛孃と戀仲となつて、結婚することになつた。彼は、其組合員と共同して、デール氏が持つて居た、ニュウ・ラナアクの工場を六萬磅で買取ることになつた。

ニュウ・ラナアクの工場は千七百八十四年デールとアアクライトとが始めた水力を使用する工場であつた。工場に關係するものは凡そ二千あつて其中五百人はエヂンバラやグラスゴウの貧民又は慈善協會から來た、五六歲の小兒であ

つて、これ等の小兒の取扱は可成親切なものであつたが一般のものの狀態は非常に不滿足なもので、竊盜、泥醉其他の惡德は一般に行はれ、教育衞生は放擲せられ、大抵の家族は一室の内に住むで居た。

オーウエンは斯くの如き狀態を改善せんと企て、彼は大いに其住居を改良し、絶えざる努力と人格的感化とを以て彼等に秩序と清潔と節約とを教へた。彼は消費組合の如きもとを開いて優良な品を廉賣することに務め、又少年の教育は彼の最も力を注いだ所であつた。そして彼は、これ等の事業に成功したのであるが彼の組合員の中には、其費用の嵩むのを恐れて苦情を申し出るものがあつたのでオウエンは更に一八一三年一の組合を起して、其配當を五分に改定したのである。

(1) Engels: Socialism. P. 52.
(2) William morris & Belfort Bax: Socialism its Growth and Outcome. P. 158.

（三）

千八百十三年は又オウエンが著述家として起つた時である。彼の處女作「社會新論一名人格構成論」"A New View of Society or, Essays on the Principle of the Formation of the Human character" は實にこの時に於て出版せられたものである。そして、この著書に於て、最も其特色とせらるるものは其教育論である。それは實に個人は其環境に適應するものなりとする社會學者の所謂エチオロヂィ"Etiology"である。オウエンは實にエチオロヂィの創設者と言はれて居る。

有機體の環境を影響することに依つて有機體を變化し得べしとなす彼の學說の經濟學上に於ける地位は宛もラマルク說の生物學に於けるそれと同じである。人は其生れながらにして何等の善又は惡の性質を有するものでない。人は社會的環境（ミリユウ）に依つて其人格を構成せられ彼が惡なりと言ふのは、其環境が非難すべきものであるからである。かゝるオウエンが人格構成に於ける環境とは、ラ●プレーの如く自然的環境の謂ではなく社會的環境の謂である。而して社會的環境とは教育、法制又は思慮ある個人の行爲の產物であるが彼に依るとこの環境を變ずることに依つて個人は、變化するものとなしたのであるが、この說の缺點は人が環境の產物であるならば何故に人が其環境を變じ得るかと言ふ論理的矛盾である。けれどもオーウエンに取つては勞働者に享樂と美との家庭を與へんとした眞情から流露した尊き思想であつたのである。

斷かる說を其道德上から見るとすべての個人的責任の絕對的否定と言ふことになり、個人の行爲の非難、稱賛はすべて無意味に陷る、斯くてオーウエンは基督教の教義から脫れ出でて居る、この態度こそはオーウエン自らは、自然神教の信者であるから尙ほ無神論者として英國の社會に多く容れられざりし所以である。

オーウエンはかゝる思想を以て、其ニュウ・ラナアクの社會的事業を繼續し、今やそは其社會的施設は國民的意義を帶び來つて歐洲大陸にまで其盛名を走する樣になつた。ニュウ・ラナアクは社會的事業に從ふものゝエルサレムとなつた。知名の政治家、後に國王となつた人々なども其施設を見るとニュウ・ラナアクを指して來た。そして又オーウエンは工場法の主張者で其運動に力を盡し、千八百十九年其法案の通過を見るに至つたが其結果は彼の豫想を裏切つたものであつた。

（つゞく）

風聞記

■新聞印刷工のストライキは大分世間を驚かしたようだ。平生は生まかぢりの勞働問題なぞを受賣りしてゐた新聞社の首腦達も今度の事件ですつかりその無能振りを暴露してしまつた。

■その無能な點においては、或は資本家的精神の持主であるの點においては、彼等は他の資本家連と少しも違つてゐないものであることを明らかにした。

■職工側の組合は横山勝太郎君を會長としてゐるが横山君はとうとう逃げ出してしまつた。アマチユアを會長にするなぞが既に間違つてゐるのだ。モ少しは氣のきいた――勞働問題に通じた人もあらうではないか。

■また新聞協會の方では何んでも例の黒岩周六が牛耳を握つてゐるので彼れの言ふまゝに操縱されたらしい。智慧の分量からいへば止むをえないことである。といふほかはないが、東京の新聞がいつまで黒岩さんなぞに引廻されてゆくかと思ふと心細くもある。

過激主義と民主主義 (三)

ジヨン・スパルゴウ

レーニン、トロツキー、チノビエフ、及び其の他の過激派首領連は黨名を「共産黨（コンミユニストパーテイー）」と改稱するに決しました世に解せられて居る社會主義の立場とは非常に異なつてるのを知つたからであります。レーニン自身も此の黨を民主黨と呼ぶの誤りなることを率直に認めて居ります、其の言葉の中に「如何なる形式の權力をも否定する先驅者」と云ふ句があります、夫れよりしてレーニンの理想とする所は、虚無主義者やバクーニンの惡流を汲む無政府主義の其れと同樣に思ふは當らざるの甚しきものである。之は單に修辭上の文飾に過ぎぬ權力無くして組織せむとする無政府主義者の夢想を、恐らくはニコライ●レーニン以上に猛烈に批評し嘲笑した者はありますまい。

しかのみならずレーニンは勞兵會政府を樹立するには强固なる中央集權が必要であるとさへ考へて居りました。夫れは決して民主的の政府ではない、專制的なる小數支配階級に依るディクテーターシップでなくてはならぬとして居ました。彼等が憲法制定會議に裏切た方法こそ遺憾なく民主政治に對する過激派の敵意を現はして居る、此の國の過激派擁護者は之の點に關し孜々として二つの辨明文を振廻し彼等の行動を辯解し正當なるものにしやうとして居ります。

第一に假政府は惡意を持ち故意に憲法制定會議を開かしめざらむが爲め召集を遲延して居ると云ふ事。

第二に選擧より召集に至る迄、餘りに長く時が過ぎたる爲め召集の時に委員等は最早選擧民の眞意を代表して居なかつたと云ふ事。

此等辯明の第一に就ては過激派の擾亂の起る前トロツキーが繰返したる非難であるが、之は過激派のクーデターをして當然ならしめた事は明かであります。

直ちに分明る事であるか此の非難が間違でなく眞實であ

るならば、反革命が憲法制定會議の安全を保證する爲めの方法として遂行せられたとすれば反革命は益々正義なものになるばかりであります、が而し事實は之れに反し過激派は憲法制定會議を抑壓したのである。

如何なる論理を辿つたならば假政府が人々の要求する憲法制定會議の召集を遲延し而かも軍隊の力に依り反革命運動を全々壓迫したと云ふ事が、正しく且つ適當な事だと云ふ結論に到達することが出來るのだ？

第二の辯明に對しては前に露國に於て暫く議論せられた事であるが夫れは少しばかりの時日を誇張したものでなければならぬ。

此等のクーデターに就いては有產階級機關紙の報ずる處ではなく、露國に於て最も古き最大なる社會黨員の數百人に依り其の當時署名せられたる陳述書の明かに證明する處であります。

憲法制定會議に對する過激派の態度は選擧の豫想の變轉に從つて變つて行きました、最初は彼等のクーデターが非常に成功し農民都會勞働者の大部分に擁護せらるゝものと信じて居たるが故に該會議を熱心に擁護して居りました。ケレンスキー政府倒壞後の最初の法令により「國民の代表者」たる過激派は「憲法制定會議まで」全權を執行する旨布告を發しました。

之は過激派が憲法制定會議を最高の終極の主權者なりと做したる誓言に過ぬのである。國民代表者の大統領としてレ　ニンは動亂後三日に「憲法制定會議は十一月二十五日に開會する事」「あらゆる選擧委員、地方機關、勞働者、兵卒、農民の代表委員會は大いに努力し投票者の自由を保護し該會議の選擧を嚴正にすべき事」を布告しました。若し此の通りの態度が最終迄で保持されて居たならば。又彼等が選擧人の表決を忠實に承認したならば、何の不平も無いが彼等の當初の態度は終る迄で持續されなかつた事は證明の明かにする所であります。

社會革命黨の首領連は黨員に、彼等は憲法制定會議を破壞すべしと忠告を與て居りました。始も過激派の機關紙は憲法制定會議を嘲笑して居ましたが間も無く酷評し始めました、終に社會革命黨が議員大部分を選出した事が明になつた時に機關紙等はこぞつて「戰勝の國民は憲法制定會議を要せず」とか「新制度は創造せられたるが故に舊民主的機關は不必要となれり」とか唱導し始めました。此の新機關とは勿論過激派政府の勞兵會のことであります。

翻つて過激派の社會主義的立場を考察するに其の源をマルクス說に發して居ります。マルクスもエンゲルスも共に

「無産階級のディクティターシップ」が出現するに至るべき事を豫言して居りますが過激派は此の句を己のものとして居る。然し過激主義者はマルクスの徒ではない、彼等の社會主義は殆ど非マルクス派であります、マルクスヤ、エンゲルスが無産階級のディクティターシップ」の出現を豫言したのは彼等の學說の一部として云つた迄に過ぬ、其の學說とは、經濟革命が實際に行はれ殆ど大部の人々を無資産狀態に陷らしめ且つ産業及び商業の集中は一方には少數有産階級と他方には多數無産階級の對立を見るに至る樣な程度に發達すべしと云ふにある。

彼等は中産階級の滅亡を信じて居ります、彼等及び彼等の學徒にとつては中産階級の滅亡は發達の結果必然に起るものでなくてはならぬ、彼等は農業が同じ過程に進みつゝあるを實際に見て居ります。其の進化たる中遲々たるかも知れないが而し確實であり且つ此の進化のクライマックスとして必然に「無産階級のディクティターシップが行はるべしと信ずるに過ない、提言すれば無産階級は政治及び社會團體の大部分に勢力を進展して、行くであらうと云ふのであります、然し此は過激派の無産階級のディクティターシップを作らむとするの企畫とは全く異なつて居る、元來露國民の八十五パーセントは農民で占め諸外國に比し其の民度は遲れて居ります、而して無産階級のディクティターシップが樹立されたる曉には國民の一億八千萬人以上を、最も貧しき農民と無資産者の二十萬人が支配することになる處であります。

「若し吾等が今日無資産者のディクティターシップに際會したりとすれば」と云ふレーニンの言葉に依れば國民の六パーセントに依つて支配せらるゝ事になります。

此れより憲法制定會議の撰擇を略述致します。

憲法制定會議の開會を遲延したる爲め十二月ペトログラードに暴動が勃發した時に、過激派政府は「若し四百名以上の代表者が出席する時は一月十八日に會議を開くべし」と民衆に告げました、此の事を說論する爲めに該會議の擁護者は其の日に大示威運動の準備を致しました、一つには過激派の是れ以上此の事に干涉すべからざるを告げむ目的に出でたものであります、示威運動はモスコーにも起りましたけれど共に赤衞軍の爲めに蹂躪し去られあまつさへ數百人の死傷者さへ出しました。十八日には形式的に該會議は開かれました、けれども代表者が過激派の云ふ通りにせざる時は、過激派政府は我力を以て破壞せしむるに至るべしとは周知の事實でありました。園廓は武裝せる兵士に依て固められました。

レーニン、トロツキーの目的は勞兵會を以て最高の立法府たらさしむるにあり、憲法制定會議にして否決する事あらむか今一度クーデターに依るとも可なりとして居りました。

最初に過激派勞兵會執行委員長なるセベルドロフは「勞苦し奪略せられたる人々の權利の宣言を露國憲法の基礎と成さむ事を會議に要求しました、此の宣言の採用を要求するや議論沸騰し社會革命黨やメンシュビィキの首領は頑として論爭し始めました。そして該宣言を採用するは實際上國民の憲法制定會議の仕事を棄つるものにして國民の信任を裏切るものとしました、此處に於てか終に過激派は憲法制定會議は反革命なりとなし、社會民主黨は「勞働者の革命に對し有產階級の爭鬪を指導する」叛逆の黨なりとする」陳述書を發表して退去しました。勿論之は脅迫文である、大多數の議員は過激派の退散せる後、前より用意したる社會革命黨の宣言を迅速に可決しました。

憲法制定會議解散後直ちに赤衞軍の一隊は立憲民主々義なるココシュキシ、シンガリョウの二人を銃殺しました、前者は囚人として監禁せられ後者は海軍病院に入院して居たものであります、其の理由とする所は單に此等の人には有產階級であり從つて勞働者の敵であると云ふに過ない。後二日又事務所に會合せる二十三人の社會革命黨員は赤衞軍の爲めに捕縛せられてしまいました。世の中には決して遁がるゝ事の出來ぬ行動及び生命の終刻なる論理がある。

帝國帝政主義は避くべからざる方法の一產物であつた。總ての壓迫及び殘忍は專制主義を悟らむとする最初の決意及び勢力の避くべからざる抗ずべからざる結果より生ずるのである、唯一人に依る獨裁政治にせよ、階級中一團體に依るものにせよ、皆な窮極は壓迫中强制的な力に依らざるを得ないのである、此の手段方法が終局に於ては公正なるものとなるべしと信じレーニン、トロツキー、及び他の同僚は、總べての階級の平等な自由な選擧を基礎とする議會政治、過渡期に於ては無產階級に取つて危險なるものとし、憲法制定會議を抑壓したのであります、そして勞働者兵卒、農民の合同に依る新らしき形式政府即ち勞兵會と稱す政府を樹立せねばならぬと主張したのであります。が然し過激派の目的に相反したる他の目的が此等の中に發展して行つたら如何するのであるか、立憲主義に對する信念を持し、第一人者たらむとして立ち、其の目的が自分等と異なるを知るや直ちに武力を持つて破壞し壓迫したる者が自分等と全く異れる勞兵會運動の如何なるものも壓迫し、破壞するに躊躇するであらうか。丁度彼等の政見及び最初の

主義が是認せらるゝや憲法制定會議に拒否したる自由を何くむぞ勞兵會に與ふる事を欲したるぞ、當然の事ではあるが過激派はやがて勞兵會を自由に支配する事が出來ぬので此れを猛烈に壓迫するに至りました。

後に至り過激派は社會革命在黨と政治上の便儀より提起するに至りました、彼等は過激派の理由、綱領を信じたる結果ではない單に政治上の補助を必要としたる結果であつて彼等とも同じ目的よりして同盟したのであります、兩黨の差は深く根底を有して居るが故に長續きする筈のあるべきらない、間もなく相反目するに至りました。

斯くの如く彼等の臨機の政策たるや極端なものであつて彼等の目的に防害を及ぼすと見れば人にあれ新聞紙にあれ會合にあれ躊躇する處無く殺害し、掠奪し捕縛し、其の殘忍、壓迫の點に於てロマノフ帝政時代よりはるかに過ぎたるものがある、そして其の手段に至る迄甚だ相似て居てストリッピンや、フォン、プレエフとレーニン、トロッキーの統治には何等異る處がありません、帝政時代に帝の價値や虐政の代理人として働きたる、同じ人間が、尠からず過激派に於て同じ働きをして居ります。此等の點に關する過激派の記錄に就ては未だ完全に編輯するに至りません。

過激派文學の單純なる讀者は斯如き缺點を有せるものにせよ眞に勞働者男女の支配する政府なりとの特長を有するが故に啓發せざるべからずとするであらう。されどレーニン、トロッキー自身より勞働者ではないのみならず他の同僚も勞働者としては勿論中產階級としてゞさへなく帝政恐怖時代の使用人として世を渡り來つたものであります、又彼等は露國に於ける最も墮落したる罪人の或る者とさへ共同しました。

過激派の彼等の政令を建立せむとする爭鬪の跡を觀察する時、彼等の精神は反革命黨員に注がれたと云ふよりは寧ろ社會主義者に對し注がれて居るのを知ります、此は彼等自から確認してる事であります。

此の過激派の民主々義に對する職を概觀する時煽動的新聞雜誌記者が世に公にせるが如き物凄ひ空想的な話しを集めむと少しも企て居ない事を了解する事が出來ませう。

其の材料は信頼するに足る社會主義者の方面より出たものであつて大部分は過激派の公にしたる物の中より取つたものであります、之の壓政はロマノフ帝政時代に存在したる制度と異る處なく此の制度を廢さむが爲めには吾人々類の最も高尙な善良なる數十萬人の生命を棄たものである、社會民主々義の旗下に虐政は、專制政治期間に於けるが如き不名擧が建設せられたるのであります。

「をゝ自由よ、如何に恐ろしき罪惡が、汝の偉大なる名の下に行はれしことよ」！

（館淳之助抄譯）

米國婦人勞働組合の發達（二）

倉橋藤治郎

第三期（一八六〇――一八八〇）

此時代に入つて始めて今日ある如き勞働組合の運動が婦人勞働者間に實現せられました、然しながら此時代は一面經濟的に將た工業的に悲境、整理の時期であつて殊に一八七三年の恐慌後は婦人勞働組合も男子勞働組合の如く大打撃を受けたのであります、殊に紡績工女は從來ユニオン運動の急先鋒であつたが、此時代に於ては多數の低級移民が歐洲から輸入された爲めに、紡績工女の素質に大變化を來し、最早やユニオン運動に大なる勢力を有たなくなつたのであります、然し全體から見れば組合組織の運動は各種の工業に亙つて廣く行はれ、婦人勞働組合は從來曾てなき發達を遂げたのであります。

男子組合との提携

此時代に婦人勞働組合の組織された工業を數えると煙草裁縫、洋傘、帽子、紡績、印刷、ヷニス、洗濯、靴縫等の各種を擧げる事が出來ます。

就中靴縫工女はドータース、オブ、セントクリスピン Daughters of st crispin と稱せられる全國的組合を組織し一時中々活躍したのであります（此結社は後に一八九三年に至つて解散しました）

又印刷及び煙草工女等は全國的組合に加入するに至つたのであります、他の工業では中々男子が全國組合中に女子を包含する事に反對しました、從つて婦人勞働組合は偶々婦人組合のみのステート、オーガニゼーションを組織する數例を示せる外は、主として地方的ユニオンに止まつたのであります。

煙草製造業に於る婦人の勢力增進も亦此時代の產物であります、彼等は久しく男工によつて反對され排斥されたが一八六七年に至り、煙草製造者萬國組合（Cigar Maker's International (Union)）は到底婦人排斥の不能なるを認めて婦人を其の組合に加盟せしめました、然し地方々々のユニオンは尙ほ婦人排斥を續行するものが稀でなかつたのであります、此排斥が實際的に消滅し男工が女工を協調するに至つたのは此第三期の終り頃であつて、例へば一八七九年煙草製造者萬國組合會長アドルフ、ストラツサー氏は其年

報中に『吾人は婦人を此仕事より驅逐し難がりき、されど吾人は工場法により彼等の日々の仕事の分け前を制限し得べし、卽ち十八歲以下の少女を一日八時間以上從業せしめず及婦人勞働者は總て居殘り作業せしむべからざるなり』と云つて居るのであります。

裁縫女工は此時代の初期に於て從來曾て無き悲境に陷りました、恰も米國の南北戰役が終つて夥しい寡婦が此種の仕事に無理やりに割込んで來たからであります、フィラデルフィア、シンシンナチ、デトロイト、シカゴ、バルチモア、ニユー、ヨーク、ボストン等に於ては是等工女に同情せる後援者によつて一時的組合を組織したのであるが、長續きはせなかつたのであります。

此時代も活躍せるものの一は印刷女工であります。

彼等も最初は頻りに男工から排斥されました、殊に女工はストライキの裏切をし易いと云ふので反對されたが、然しながら一度女工が組合を組織するや彼等女工は極めて忠實なる組合勞働者でありました、彼等は最初女工のみの組合を組織し、次で一八六九年紐育第一、婦人活版職工組合(Women's Typographical Union, No 1, of New York)が全國組合の支那たる事を承認せられ、其の會長、オーガスタルイス Miss Augusta Lewis 女史が萬國活版職工組合 Internationa Typographical Union の幹事に任ぜられるに及び、婦人組合は男子組合と提携して勞働者としての共同目的に向つて同じプラットフォームに立つ事になつたのであります。

第三期を通じて最成功せる婦人組合は紐育州トロイの洗濯工女の夫れであつて、一八六六年には既に此組合は當時同盟罷業中の鐵鑄型職工を應援する爲め一千弗を寄附する實力を有し、一方彼等の賃銀、勞働時間、勞働狀態等は爾來約三年間に著しく改善されたのであります。

勞働組合に於る婦人の歷史(百六頁)は『當時トロイの洗濯工女は洗濯桶やアイロイを、かける臺の傍に立ち盡し又兩側に煮釜の沸騰る中で百度からの平均溫度に堪えながら、一週僅に二弗乃至三弗の給料を得たにすきなかつたが組合組織後は女工自身の勉强と組合が正當にして强硬なる態度を以て終始した爲め遂に一日十二時間乃至十四時間の勞働に對し一週間八弗乃至十四弗を收得するに至つた』と述べて居ます。

第四期(一八八〇―一九〇八)

米國の婦人勞働組合運動は此時期に入つて略々今日見るが如き形を整頓し、夫れと共に慘酷なる工場主の手から少女幼年工等を保護する法律が漸く完成せんとしたのであり

ます。

ナイツ、オブ、レーボアの指導

大規模なる男子組合にして男子と同等の地位、同等の權利を認めて婦人の入會を認めたのはナイツ、オブ、レーボア Knights of Labor を嚆矢とします、此組合は一八六九年フイラデルフイアの仕立物職工(カーメント、ウオーカー)の間に秘密結社(シークレット、ソサイテー)として生立し、一八七八年に至り之を更に廣く一般勞働者間に向つて解決する運動起り、次に婦人に向つて門戸を開いたのであります、此ナイツ、オブ、レーボアに包括されたる婦人勞働組合の數は尠たくないが、就中有力なのは縫靴工女組合であつて、彼等は既に前述のドーターズ、オブ、セント、クリスピンによつて相當の訓練を經て居る上、ナイツ、オブ、レーボアを組織せる男子職工に靴職工が尠なくなかつた爲め、其の指導の下に著しい發達を遂げたのであります。

此ナイツ、オブ、レーボアのリーダーシップの下に於る婦人勞働組合の活動及び其組合員數等に就ては今日確然たる記錄を徵し兼ねるのであるが、大體に於て

一八八一年九月始めて此團體の下に婦人組合の地方的會合開かれ。

一八八二年更に數個の婦人組合を加へ。

一八八六年五月に至つて絕頂に達し一ヶ月中に全部婦人より成る二十七の組合を加へ、婦人組合員數合計約五萬人に達し。

一八八八年には漸次勢力を失して一萬一千乃至二千人に減少し、爾來數年間にして全然失くなつて終つたのであります。

沈滯と次期の準備

一八九〇年より一九〇八年に至る約二十年間は之を一八九〇年より一九〇二乃至三年に至る小康期と、爾來一八〇八年に至る極端なる沈滯期とに分つ事が出來ます、前期の小康狀態は前來の引續きで、殊に男子職工が到底女子を工業勞働者の永久的要素として認めざるを得なくなつた事、卽ちコムペチシヨンよりはコオペレーシヨンによつて婦人勞働者を待遇せねばならなくなつた結果、從來男子組合へ女子の加入を拒否したのを歡迎するに至つた爲であります又後期に入りて婦人組合が慘膽たる不振狀態に陷つたのは婦人の組合運動が工場從業狀態を左右する迄强力となつた爲め、工場主等が此が撲滅を策し手段を講じて組合運動を迫害したからだと云はれて居ます、其の結果有力なる男子勞働組合の支持後援せざる限り婦人のみの勞働組合は多く瓦解したのであります、稍々强力となつたとは云ひ條組合

工女等は尙ほ工場主の威喝に對して敢然組合を背景として立つ迄の自信と勢力とがなかつたので、一九〇二年には一年に婦人組合の命ぜるストライキ三回に上れるに拘はらず其後は罷業著しく減じ、女工は工場主に壓服せられて泣寢入に終る事が多かつたのであります、

然し此壓迫が却つて一九〇九年以後の復活の準備期となつた事は勿論であります。

エー、エフ、エルと婦人組合

何故に此沈滯期が又準備期であつたかと云ふと、此時期に於て婦人組合の大團結が行はれ、又アメリカン、フエデレーション、オブ、レーボアとの協調が結ばれたからであります。

エー、エフ、エル、卽ちアメリカン、フエデレーションオブ、レーボア（American Federation of Labor）は合衆國勞働組合の一大統一團體であります、此團體は早く婦人勞働者の組合組織を賛成する事を記錄に留めて居るのでありますが、進んで婦人の組合組織を慫慂し之に對し機會あれば援助を吝まざるべきを全國大會に於て決議したのは一八八五年の事であります、超えて一八九〇年の全國大會にはオハヨー州フィンドレーの書記組合（Clerks' Union in Findlay, O.）から一婦人代議員が出席し、翌一八九一年には婦人職業に關する委員會組織せられて其の議長及び幹事共に婦人より選出せられ、一九〇〇年には一婦人が幹部に加はつて團體の機關雜誌アメリカン、フエデレーショニスト（American Federationist）の副主筆となり、一九〇三年以後毎年の大會は必ず婦人を役員に選擧せざるなきに至つたのであります。

■賣れる書物

東京堂が七月發表した統計表によると本年上半期において發行されたる新刊書九百五十種のうち最も賣行よきもの〻順位次のごとし。

第一位、新英和大辭典（神田乃武著）
第二位、或女（有島武郎著）
第八位、資本論解說（高畠素之譯）
第九位、挽近社會思想研究（米田庄太郎著）
第十三位、几帳のかげ（伊藤白蓮著）
第十八位、デモクラシー講話（室伏高信著）
第廿二位、内村全集（内村鑑三著）
第廿四位、新生（島崎藤村著）
第廿九位、社會問題及社會運動（河田嗣郎著）
第卅一位、社會主義と民主主義（室伏高信著）
第卅二位、野性の呼聲（堺利彥著）
第卅六位、生活戰術（浮田和民著）
第卅九位、社會主義と進化論（高畠素之著）
第四十位、須磨子一生（秋田雨雀著）
第四十六位、社會主義の立場から（山川均著）
第四十七位、世界文明の新紀元（姉崎正治著）

▲マルクス傳（スパルゴウ著）これはスパルゴウのマルクス傳の最初の一部分を飜譯したもの（芝區三田通り三田書房發行定價七十錢）

▲社會主義者になつた漱石の猫（遠藤無水著）賣文社の内部を素破拔いたものだといふことで仲々面白い讀物である

新聞職工ストライキの眞相とその批判

七月二十四日中にそのことあり、ために同新聞の地方版は同日中一切休刊するの止むなき狀態であつた。それから一轉して職工團體は時事新報に向つて賃銀値上げの運動を起した。萬朝報は職工の要求を拒絕したために三十日の夕刊及び三十一日の朝刊を發行することができなかつた。中外商業新聞は資本主義的精神を發揮して斷然職工の要求を拒絕し、職工にしてその態度を變じないとすれば、新聞の廢刊をなすべき旨を答へたために遂に職工は一時泣寢入りの止むなきことになつた。さういふわけで三十一日の全職工ストライキとなるまでには數日の間各種の運動が新聞社資本家側と職工との間に行はれたが三十日萬朝報及び讀賣新聞において資本家側と職工側との交涉不調に歸するとともに遂に三十一日の各新聞社印刷職工の一致したる同盟罷工を見るに至つたのである。さうして東京市から翌日には一枚の新聞紙をも發行しえられなかつたといふ空前の大事件が起つたのである。

（二）

博文館印刷職工の同盟罷工は今日の同盟罷工史のうへに一時期を劃するものといことともできる。その同盟罷工は勞働者の全條件を貫徹するの結果を齎らしてはゐないにしても、第三者の居中調停卽ち所謂（mediation）の結果、大體において職工側の勝利に歸着することによつてその局を結んでゐる。私はこの問題について論じようとするではないたゞそれが更に重要なる同盟罷工を導いたことにおいて注意を要することを回顧するまでのことである。更に重要なる同盟罷工とは卽ち東京における各新聞社印刷職工の一致したる同盟罷工がこれである。このことは七月三十一日において實現された。けれどもその內部の運動について見れば、博文館印刷職工の同盟罷工を動機とするものである。博文館印刷職工の間にこのことありてより、各新聞社印刷職工の間にも動搖の形勢があつた。東京日日新聞社は既に

（二）

事件の進行は大體にかくのごとくである。この運動は何人がこれを起し或は煽動したものであるといふよりは自然に促進されたものである。思想の動搖、資本主義の發達、物價の騰貴、これ等の事實によつて不安と動搖とを感じつゝありたる職工が、博文館同盟罷工を最も直接の動機として遂に結束してその生活の擁護を要求することとなつたのである。博文館印刷職工の勝利は、各新聞社の職工に對して、團結が力であることを教へた。否な職工が實に印刷業における最も重要なる力であり價値であることを敎えたこの空氣のうちに、各新聞社印刷工の同盟罷工は自らにして生れた。何人がこれを煽動したのでもなく、何人がこれを強制したのでもない。環境は印刷工の心理――新らしき心理を創造した。その心理から三十一日の同盟罷工が生れたものである。この點において三十一日の同盟罷工もまた『避くべからざる害惡』として生れたものである。從つて同盟罷工そのものについては何人もこれを是非することはできない。

（三）

三十一日の同盟罷工は、二つの目的をもつて生れた。その一つは最低賃銀の要求であり、他の一つは勞働時間の短縮である。その目的とするところはこれだけである。それには決して革命的の目的が含まれてゐるものではない。卽ち資本主義そのものの轉覆、賃銀制度の撤廢、または產業自由の要求として生れたものではない。純然たる同盟罷工streik であつて直接行動としてのストライキではなく、產業組合主義としてのストライキではない、勞働條件の改善が唯一にして無二なる要求である。從つてこの『三十一日のストライキ』はたゞこの目的の範圍においてのみ論議せらるべきものでなくてはならない。卽ち如何なる意味においてもそれ以上のものとして論じてはならない。

（四）

この點について論ずるためには、われ等は先づ職工側の要求と資本家側の態度について見なくてはならない。勞働者側の要求は主として二條件である。卽ち最低賃銀を一ヶ月七十圓とし、勞働時間を十時間に短縮することがこれである。これに對して資本家側は勞働時間は兎も角も賃銀の點において職工の要求を不當とし、ロックアウトの下心からそれとは全然距りたるものをもつて答へた。さうして

これを職工側に答へた。職工側は斷然これを拒絕することとなつたために、遂に交渉の不調を見ることとなつた。先づ職工側及び資本家側の交渉の內容は以上の通りである。

（五）

印刷職工が最低賃銀七十圓の要求をなすことは一見して不當のごとくに見える。これを巡査に比し、小學敎員に比し電車の車掌に比し、印刷工の要求が多額であることは勿論である。けれどもそれが多額であるか否かを決するためには、少くともその計算の基礎となるべき條件について考へる必要がある。この基礎となるべき條件について判斷するためには、各新聞社の營業狀態について知る必要がある。ところがこの點になると、今日の新聞社には根本的の弱點がある。新聞社の營業狀態は一切秘密にされてゐる。世間に秘密にされてゐるばかりではなく社員の大多數、九十九パアセントまではこれを知ることができない。如何なるところから生產費がでゝくるか。幾何の生產費が必要とされるか。幾何の收益があるか。こゝ等は凡て營業の秘密として葬られてゐる。新聞社の營業狀態について見れば新聞社は實に一種の秘密結社のごとくである。從つて資本家またはその資本家の周圍の人々のほかは、新聞事業についての一切の計算の根據を發見することはできないのである。從つてこの方面から職工賃銀計算の基礎を發見することはできない。また從つて職工賃銀の適度を決定することは、主として周圍の事情、生活事情によつて決定するのほかはない。この點から見て最低賃銀七十圓は不當であらうか。この點を論ずるためには各種の關係について研究する必要がある。けれど職工が妻を養ひ、小供を養ひ、且つ相當の快樂を要求することを內容とする生活賃銀として考量する時は七十圓の最低額が高きに過ぐると信ずるものはないであらう。勞働者もまた人格者であるとせば人格者として、その生活を營むこと並に相當の快樂を要求すべき權利があるとすれば、それに相當する賃銀を要求することは當然でなくてはならない。英國の炭坑夫は本年三月の同盟罷工の際に一日三志の賃銀値上げと一日の勞働時間を六時間に短縮することを要求してゐる。これと比較して見ても印刷職工の要求條件を急激であると見ることも出來ない。特に日本の勞働者が一般に安賃銀を與へられてきたことの事實からその賃銀値上げの要求が稍や急進的であることもまた自然の結果である。この要求に對して新聞社資本家側は、これにては營業が成り立たないとなしてゐるようである。けれども職工賃銀の如何にかゝわらず、半數或はそれ以上の新聞社

は產業費と收益と相償つてゐないことが今日までの實情である。その缺陷を如何にして補足してきたか。この問題は實に政治及び社會の暗黑面を語るものである。政黨の資金が何れより如何にし生れるかゞ社會上の大問題であるごとくにこれ等約半數ばかりの新聞社の生產費のある部分が何れから生れ來るかは實に奇怪なる一疑問でなくてはならないこれとともに大新聞例へば朝日、日日（大阪每日）のごときは、多額の利益をえてゐるがゆえに、その營業狀態は優に職工の要求に應ぜられることと察せられる。

（六）

けれどもこゝにこのストライキ問題を批評するについて重要な注意を要する點がある。それは既に述べてきたとほり、この同盟罷工は決して革命の性質をもつてゐるものではなくして單に勞働者の勞働條件を改善する目的をもつてゐるに過ぎないことである。この目的をもつてゐるとすれば卽ち革命主義を奉ずるものでないとすれば勞働者の行動もまたその目的の範圍內に制限せらるべきものでなくてはならない。果して然らば彼等の同盟罷工はその目的の範圍內においてのみ許されるものでなくてはならない。

（七）

この目的からいへば、甲の新聞社の職工の賃銀値上運動は必ずしも乙の新聞社の賃銀値上運動と關係のあるものではない。その運動は別々にも成立しえらるるものである。例へば數箇の新聞社が値上の要求に應じたとすれば、他の殘りの新聞社の態度の如何にかゝわらず、値上をなしたる新聞社に對して同盟罷工をなすの必要がないといふとを理解しなくてはならない。もつと言葉を換えていへば、ある一新聞社において値上げをなさない場合には、その一新聞社の職工は罷工をなすのほかなきものであるにしても他の新聞社の職工は同盟罷工をなすの必要がない。この場合においては、勞働條件の改善のみを目的とする同盟罷工としては、嚴格に、たゞその賃銀値上げの要求に應ぜざる新聞社に對し、その新聞社の職工のみ同盟罷工をなせば足りるのである。その他の新聞社の職工が罷工をなすことは全然無意味である。

（八）

事實はどうであつたか、ある新聞社——ある社といふよりは一、二の新聞社を除いては、全部職工側との間に、賃

銀上の協定の餘地が存在してゐたのである。それにもかゝわらず各新聞社の印刷工は全部一致の態度に出でた。その印刷工の組合たる革進會の首腦者――その首腦者は勞働者ではない――全社印刷工の罷工を要求したのである。さうして彼等はいふ『これ同情罷工である』と。果してそれが同情罷工 Sympathiestreik であるか。否、斷じて否。

（九）

同情罷工とは、その被同情罷工者がこれによつて利益をうけることを必然の條件とする。從つてそれは、被同情罷工者の職業に關係ある職工の罷業でなくてはならないのであるところが今度の同盟罷工はこれとは全然その性質を異にしてゐる。所謂被同情罷工者はこれによつて何等の利益をもうけるものではない。却つてその反對である。卽ち賃銀値上に應ぜざる新聞社はこれに應じたる新聞社もともに休業することによつて、營業上の顧客を奪はれる恐れがない從つて他の新聞社にも罷工の存在することによつて利益をうける。否な、その罷工よりうくる精神的並に物質的苦痛が少ないのである。從つてまたその罷工の効果が薄弱となるのである。この點から見て彼等が稱して同情罷工となすことは、實は同情罷工の性質を解せざることの傷ましき暴露である。然り、革進會は適當なる指導者をもつてゐないといはなくてはならぬ。この點において反省することは絕對に必要である。またこの點において今回の新聞印刷工同盟罷工は根本的誤謬に陷つてゐるのである。

（十）

たゞに誤謬であるばかりではない。新聞紙が國民文化を增進すべき重要なる社會共通の機關であることを自覺する以上は新聞社の同盟罷工は決して輕々に實行すべきものではない。これを輕々に行ふことは罪惡である。それは社會共同の機關を單に印刷工の利己心または自儘心のため――否これを指導すると稱するデマゴーグのために、蹂躪せしめることとなるのである。印刷工にして言論の自由を奪ふべき權利のあるものではないとすれば、職工の態度は穩健でなくてはならぬ。職工の要求は妥當でなくてはならぬ。少くとも彼等の要求は勞働條件の改善から一歩も出てはならぬ。

（横井四郎）

福田徳三博士序
高畠素之譯
カウツキー著

社會主義運動の先驅者を以て任じ來れる賣文社は社會主義の純科學的研究を欲する人士の爲めに最良書たるを確信して本書を提供す

マルクス資本論解說

第四版出づ

現世界に汪流せる第四級民的思想の背景を爲せるは社會主義にして**マルクス**『資本論』は實に社會主義の科學的基礎たり。而も『資本論』は難解にして學界の秘庫と云はれしが、本書原著出で﹂初めて其鍵鑰は與えられたり原著者**カウツキー**氏は『何人も彼に勝りて社會主義を解說せるものなし』とまで呼ばれし世界に於ける、現存社會主義學者の最大權威にして、本書は實に彼が多年の心血を注ぎしもの其の咀嚼主義に依る獨特の解說法は『資本論』原作を讀まずして其堂奧に參せしめ原作を讀みたる者に未だ達せざる新見地を展開せしむ。譯者は日本に於ける最も眞面目なる**マルクス**研究者の一人たる自信に基き反譯者としての完全なる責任を以て譯出に從事せり。福田博士の序文は二十頁の長論文にして文中左の數節あり『河上博士や高畠君が今十年前日本に生れざりしは實に日本に取つて大なる損害であつた』『一見亂暴者の如く見ゆる高畠君に斯の如き細心、綿密、忠實の隱し藝ありとは實に意想外であつた』『此序文は唯賴れたからオイソレと書いたのでないことは讀者に諒察を願いたい』

賣文社出版部
東京有樂町一ノ四
振替東京四五七七四
定價二圓五十錢
送料十錢

本書譯者は今又學界の注目裡に**資本論全譯**に着手せり。蓋し本邦出版界最難事業の一ならん。第一卷は分册とし其第一册は九月中に刊行の豫定。

定價

毎月一回一日發行

		郵税
一部	廿二錢	五厘
半年分	一圓廿錢	税共
一年分	二圓卅錢	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割増
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十錢

大正八年八月一日印刷納本
大正八年八月一日發行

東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館
編輯兼發行兼印刷人　尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館
發行所　批評社
振替東京四五三四六

廣告

頁	料金
半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館
▲日本橋　至誠堂

東京絹綿株式會社

東京市京橋區南槇町

取締役社長 河崎助太郎
取締役 尾崎敬義
同 矢野慶太郎
同 松岡修造
同 田村駒次郎
同 藤井善助
同 鈴木久次郎
同 松島肇
監査役 戸田榮藏
同 金原與吉
同 皆川芳造

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年九月一日印刷納本　大正八年九月一日發行
（定價金二拾二錢）

批評

九　月　號（第七號）

ギルド社會主義

現代流行兒十人

エンゲルス傳

勞働人格論

批　評　社

『批評』より

◆眞の自由は、たゞ批評においてのみ存在する。批評的精神とは自由なる精神、然り自由なる精神そのものである。

◆この自由なる精神は、何ものにも滞ふることなきところに存在する。社會主義といひ、サンヂカリズムといひ、それ等のものはある社會を救ひうることともなり、また社會の病弊となることもある。

◆資本主義に對して社會主義があり、社會主義に對してサンヂカリズムがあり、或はギルド・ソーシャリズムが存する。けれども社會主義にしてもまたサンヂカリズムにしても、英國における一大流行のギルド・ソーシャリズムにしても、それ等のものは、不朽に亘っての、人間精神の救治となりうるであらうか。

◆われ等は絶えず理想を追ふて止むことはない。理想を追ふて止むことなきものは、現在の社會と、さうしてそれの救治策においてのみ滿足することはできない。

◆人間の救ひ、人間精神の救ひは、深きところに横はる。自由は不朽の生命である。

◆不朽の生命としての自由、その自由の體現としての批評的精神こそ、われ等の熱切の要求である。

◆かうした立場から、われ等は自由への各種の手段について論ずることを『批評』の主要なる任務であると考へてゐるものである。この立場から普通選擧を論じ(第一號)デモクラシーを論じ(第二號)社會主義を論じ(第三號)無政府主義を論じ(第四號)國家社會主義を論じ(第五號)サンヂカリズムを論じ(第六號)さうして今度はギルド・ソーシャリズムを論ずることとしました。

◆問題は殘る。けれどもわれ等の精神はたゞ一つである。批評的精神――自由の精神がこれである。

◆今や社會改造問題はわれ等の眼前に迫つてゐる。如何に社會は改造せらるべきか。改造の聲は高い。さうして未だ改造の主義と綱領とは日本國民に與へられてはゐない。

◆日本國民に改造の綱領を與へる事はわれ等の任務として殘されてゐるのである。

◆然り、僞りのない、正しきデモクラットのみこの問題を解決しうる。デモクラシーの排斥においての社會主義、デモクラシーの排斥においてのサンヂカリズム、かくのごときものは、われ等の眞先に反對するところである。

◆今度の號では『サンヂカリズムの批判』(室伏高信氏)の續きを掲載すべきでしたが紙面の都合で次回に、また『米國婦人勞働組合の發達』(倉橋藤治郎氏)の第三回も次回に廻すこととしました。

◆次號には甲野哲二氏の『社會政策の價値』が掲載されます。

◆コールのものは毎號紹介したいと思つてゐます。

◆よき雜誌はみな薄い雜誌だ。『ニユー・エーヂ』『ノイエ・ツアイト』『ニユー・ステーツマン』『ヂヤスチス』『アメリキヤン・フェデレーショニスト』『ニユー・レパブリツク』『レエボア・リーダア』さうして わが『批評』もその一つであると信ずる。

◆ペーヂを少くすることによつてのみ内容を豊かにすることができる。

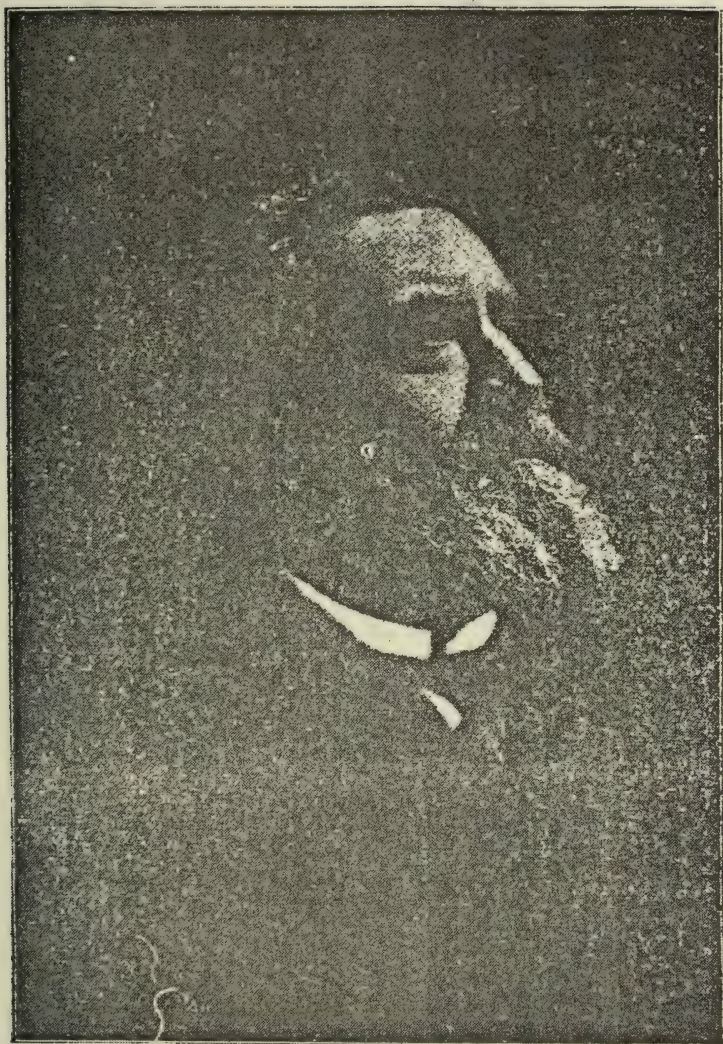
◆多くの商賣雜誌の間にあつて、『批評』は權威と繁榮とを進めてゆくことは、既にその道が開けてきた。

◆われ等はあらゆる妨害や嫉妬や陰謀に打ち勝つてであらう。さうして何時までも眞摯な研究的態度を持してゆく。

批評

九月號　目次

Jean Jaurès

「ミルランゆき、ンリアンゆき、ヂョウレスは殘つた――死せるヂ
ャン・ヂョウレスは不朽に殘るであらう。

ギルド・ソーシヤリズムとその批判

室伏高信

ギルド・ソーシヤリズムGuild Socialismはオレーヂ(1)によつて發見された新社會主義である。オレーヂが初めてこの主義を提唱したのは一九一三年その主宰する雜誌New Ageにおいてゞある。(2)だからギルド・ソーシヤリズムは『自由への道』として勞働階級の前に提供されたもののうちで最も若い生命である。サンヂカリズムよりも、I・W・Wよりも、ボルシエヴヰキ主義よりも、遙に後れて生まれてきたものである。(3)今日英國におけるギルド派社會主義の最も卓越せる批評家としてのコール(4)でさへ、一九一三年の秋にその名著The World Labourを出版した當時においては、彼れはギルド・ソーシヤリズムをもつて、それはたゞ中等階級に訴へるに過ぎない運動であつたことを述べずにはゐられなかつた。(5)けれどもこの若き生命は、五、六年といふ短い歳月の間に、英國における最も有力なる新産業組織の哲學となり、勞働階級に對する最も力強き靈感とならうとしつゝある。コール、オレーヂ、ホブソン、ペンテイ、レキツト、ベツチアオフア、アンダアソン、さうして最近にはベルトランド・ラツセルなぞがその理論的指導者である。

(一) オレーヂ(A.R. Orage)は『新時代』を主宰し、著書としてはAlphabet of Economicsの一書がある。

(二) Edward R. Pease, The History of the Fabian Society P. 230

(三) ボルシエヴヰキ主義は一九〇三年瑞西の會議のうちに現れた。I・W・Wは一九〇三 四年コロラドのストライキのうちに生れたとなされてゐる。(Brooks, American Syndicalism, P. 20) サンヂカリズムは一九〇二‥六年にその基

礎を築いたものであるとされてゐる。(Cole, Self-Government in Industry, PP. 304-5)

(四) コールは始めフエービアン協會に屬してゐつたがオレーヂの説に共鳴してからフエービアン協會と意見を異にし、一九一四年こゝを去り、それとともにオツクスフオード大學フエービアン協會は本部から分離した。

(五) G.D.H. Cole, The World of Labour, P. 52

(二)

ギルド・ソーシヤリスムについて述べるためには一九一〇—一二年の產業不安について述べることが必要である。否、この點を述べるためには更に遡つて英國の職工組合運動幷に政治的勞働運動の歷史について一瞥することか必要である。大陸においての如く、勞働の結合は、英國においてもまたその當初においては禁んぜられた。これに對して勞働者團結權のために奮鬪したものはフレデリツク・ハリソンを初めとしてトーマス・ヒユースや基督教社會主義者等の一派である。これ等の人々の奮鬪したのは一八六七—七六年の間である。けれどもこの時代の職工組合運動は極端に保守的のものであつた。(1) その保守的職工組合主義は少くともドツク・ストライキの時代に至るまでの英國における職工組合の全精神をなしたものである。ホブソンの指摘してゐるところによれば一八七〇年代及び一八九〇年代の初期における英國の職工組合議會は純然たる熟練職工の一團であり、また從つて著しく保守的な精神の所有者であつたのである。(2) 卽ちそれは先づ熟練職工の組合であつた。全體の勞働者の組合ではなくして、不熟練職工の排斥においての熟練職工の組合であつた。從つてそれはまた純然たる職業別組合 Craft Union であり、舊派の職工組合主義を代表するものであり、その目的とするところは主として勞働條件の改善といふことに過ぎなかつた。卽ちそれは單なる團體協約 Collective bargaining の機關であり、また相互保險 Mutual insurance の機關であるに過ぎなかつたの

である。彼れは自ら靈感せらるべき何の理想をもたなかつたといふことができる。然り、この時代の勞働組合主義は經濟制度の轉覆を要求するものでもなくまた全體の勞働者のための運動であつたのでもない。たゞ熟練職工のための勞働條件の改善を主眼としたものであるといふことができるのである。初期における英國の職工組合の特質は實にかくのごときものであつたのである。これに對して一時期を劃したもの——それの先驅者として現はれてきたものが有名なる一八八九年のドック・ストライキである。このストライキは社會主義、就中ケーア・ファーデエ等の獨立勞働黨のプロパガンダの影響のうへに立てられた。そのプロパガンダとさうしてそれのうへに立てられたるドック・ストライキの影響とは、古るき職工組合主義の基礎に可成りの動搖を與へることの力となつた。不熟練職工の政治的及び產業的覺醒はこれである。その結果は直に職工組合そのものゝうへにも現はれた。職工組合議會(3)はドック・ストライキとともに不熟練勞働者組合をもこれに參加せしめなければならないことになつた。純粹熟練工組合主義の破綻がこゝにその端緒を開くことになつたのである。さうして古るき職工組合主義に甘んずることなき人々の要求は更に新らたなる理想を求めずにはゐられなかつた。資本主義の轉覆がこれであつた。資本主義を轉覆するにあらざれば勞働階級の世界を創造することのできないものであるとするところの心——勞働階級の社會主義的要求の精神が英國職工組合の歷史のうへに現れてきたのはこの時である。ケーア・ハーデエ等一派の獨立勞働黨のプロパガンダはランカシャイアに、ヨークシャイアに、到るところに熟練職工組合のうちに侵入し、さうしてこれ等の職工組合の思想と目的とに急激なる變化を與へることゝなつた。彼等はストライキが武器として微力なものであることを告げた。「ストライキから投票へ!」これが獨立勞働黨のモットウであつた。このプロパガンダは勞働者の間に力となつた。ストライキはそれがために絕滅したのではないにしても、勞働階級の主要なる注意が政治のうへに向けられることになつたのである。ホブソンの言葉を借りていへば、勞働階級は、ストライキによつてえられなかつたものを、議會によつてえら

れるものであるとするの、眞面目なる信仰をもつてゐたのである。否、職工組合主義はその手段としての政治的行動に傾いたばかりではなく、その組合主義の理想のうへに一大革命が實現されてゐたのである。彼等を政治的に導いた獨立勞働黨が社會主義の國家を目的とするものであるがごとくに、職工組合主義もまた既に新理想——資本主義轉覆の理想へと入つてゐたのである。[5] これが英國勞働運動の第二期であり、こういふ關係のもとに英國勞働運動の第二期における中心勢力として、并に英國における政治的勞働運動の中心勢力としての勞働黨 Labour Party が生れることとなつたのである。

（一） G.D.H. Cole, An Introduction to Trade Unionism, P. 97

（二） S. G. Hobson, Guild Principles in War and Peace, P. 15

（三） 職工組合議會（Trade Union Congress）の性質についてはウエッヴの産業民主主義（Sidney and Beatrice Webb. Industrial Democracy, PP. 265-278）參照

（四） Hobson, op, cit., P. 16

（五） Cole, World of Labour, P.31

（二）

かくのごとくにして英國勞働黨が生れた。その生れたのは一八九九年のことである。今日の英國において、勞働運動を政治的に代表するものとしては『勞働黨』を奉ぐべきである。[1] また英國における勞働運動の第二期においての中心點はこの勞働黨のうへにかゝつてゐるといふことができる。それは幾多の異分子の集合體であり、職工組合、獨立勞働黨、フエービアン協會、婦人勞働同盟、消費組合、地方勞働黨、勞働會議の諸要素から成立してゐるものであ

る。(1) 從つてそれは統一したる思想の所有者としては多大の弱點をもつてゐることを免れない。爾來數年の間は少しも政界の注意を惹くには至らなかつた。(2) それが一九〇六年になつて二十一人の代議士を選出することとなり、一九一〇年一月には四十人、仝十二月の選擧には四十二人の代議士を選出するまでとなつた。(3) 勞働黨としてはその政治的成功の序幕にとゝつたのである「ストライキから投票場へ！」彼れは産業的民主主義が政治的民主主義によつて贏ちえられるものであることを敎へた。ところがこれと相前後して勞働不安、さうして産業不安の陰影が全英國のうへに投げられた。物價騰貴、生活難の聲は、市場の繁榮の裏面を縫うて、勞働階級の傷ましい叫び聲となつた。一九〇〇年から一九一〇年に至る間に、物價の騰貴は停止するところを知らないほどの有樣であつたのに、勞働者の賃銀は全く沈滯の有樣であつた。(4) ホブソンの計算してゐるところによれば一九〇六年から十年に至る間に、賃銀は名儀上六パァセントだけ騰貴した形であつたにしても、實際においては十パーセントの低落を示してゐる。物價は家賃と小賣相場とを一所にして、バロウ、ダンディ、グラスゴウでは十パァセント、またブラックバァン、ボルトン、ストックポートでは十六パァセントの騰貴を示した。(5) 勞働者の生活は益々艱難となつた。艱難なる生活は英國における一九一〇―一二年の産業不安を生むことゝなつたのである。勞働不安は、颶風のごとくに全英國の勞働界を襲うた。この間にあつて政治的自由主義はたゞ所有階級においてのみの自由であることをいよ〳〵明らかにした。議會政治は改革さるべきか或は廢滅さるべきか。何れにしてもトーリー・ホイッグの對立によつての議會政治の不信用は英國の勞働階級のうへに深い印象を與へることとなつた。獨り自由黨の政府だけではない。またホイッグ・トーリーの議會政治だけではない。一九一〇年の總選擧において四十人の代議士を送ることとなつた勞働黨――然り、産業民主主義を標榜する勞働黨もまたよく勞働階級の要求を滿足せしむることはできなかつた。それは政治上に勞働階級の威力と利益とを代表するにはあまりに薄弱でもありまたあまりに微力でもあつた。彼れは議會において勞働階級の獨立したる代

表者としての働きを徹底せしむることは不可能であつた。そのことは、彼れをして自由黨との妥協に入らしめた。自由黨はそれの援助によつてよく統一黨と對抗することができたで また勞働黨は自由黨との妥協によつて彼れの政策を一歩々々、議會政治のうへに實現しようと試みた。けれども政治的にのみ自由を見出さんとするものは、産業自由の要求に對しては、たゞそれの敵であることが證據立てられるのみであつた。勞働黨の妥協政策は決して英國の勞働階級を滿足せしめるには至らなかつた。勞働黨不信用の聲は各種の方面に揚げられてきた。

（一） 勞働黨 (Labour Party) のほかに社會民主主義同盟 (Social Democratic Fedration) があつたが實際勢力は極めて微弱であり、それが一八八五年に選擧を爭つた時には一人の候補者は三十二票、他の一人は二十九票を得たに過ぎなかつた。この團體は後に分裂して英國社會黨及び大英國社會黨の二つとなつた。そのうち英國社會黨 (British Socialist Party) にはハインドマン、ウヰリアム・モーリス、ジョン・バーンス、カアペンタア、ハーバート・バロウスザヤック・ウヰリアムスのような名士が加はつてゐた。それもまた一九一六年に分裂し、ハインドマンの一派は National Socialist Party を組織した。Justice はこの側の機關雜誌であり、The Call は英國社會黨の機關雜誌である。前者は一千、後者は四千の會員をもつてゐるに過ぎない。また大英國社會黨(Socialist Party of Great Britain)も微弱なる一團體であつて支部が二十五、主として倫敦のうちにある。

（二） 勞働黨は最初は各團體の聯合であつたが一九一七年ヘンダアソンの主張によつてそれ以外の個人的黨員をも吸收することとなつた。精神勞働者に道を開いたのである。

（三） 勞働黨は一九〇〇年から六年までの間に三人の當選者があつた。クリセローにおいてのシヤツクルトン、ウールウキツチにおいてのクルツクス、バーナアード・カツスルにおいてのヘンダアンの當選がこれである。

（四） Cole, World of Labor., P. 35

（五） S. G. Hobson, Guild Principles in war and Peace, P 18

（三）

私は既に政治的勞働黨不信用の聲が一九一〇—一二年の産業不安の時代において英國勞働階級の間に起りつゝあつたことを述べた。けれどもこの勞働黨不信用の聲は勞働黨そのもの——政治的勞働運動そのものの責任としてのみ見るべきものでなかつたことは勿論である。このことを述べるためにはトム・マン（Tom Mann）及びベン・チレット（Ben Tillett）の運動について述べなくてはならない。一九一〇—一二年の産業不安は主としてトム・マン(1)及びベン・チレットの指導に負ふてゐるものであるからであります。彼れは一八八九年のドック・ストライキにおいては、既にヂョン・バーンス等とともにその有力な指導者の一人であつた。その後彼れは久しく濠洲に遊んで勞働運動の實際にも參加しまた親しく研究もし、さうして英本國における勞働運動とは關係なき立場にをつた。一九一〇年の産業不安の序幕は彼れの歸國を迎へてゐたのである。私は一九一〇—一二年の産業不安が彼れによつて起されたといふのではない。彼れによつて、一九一〇—一二年の産業不安が、それに應はしき——善きにせよ惡しきにせよ——指導者を見出したといふまでゞある。彼れの天才的雄辯、彼れの狂熱的才能、彼れの剛健なる人物、これ等のものは、多數の勞働者を指導するうへにおいて、あらゆる資格のうちにおいて最も重要なものでなくてはならない。彼れは勞働問題を解決すべき方法は、仲裁制度のごときものによつて滿足せらるべきものでないことを力說した。彼れはサンヂカリズムの主張者であつた。講演により、煽動により、小册子によつて、彼れは全英國に亘つてサンヂカリズムの福音を說いた。Industrial Syndicalist Education League こそ彼れがサンヂカリズムを宣傳すべきプロパカンダの本部であつたのである。彼れの宣傳運動は全英國の勞働階級に深い印象を與へた。獨立勞働黨のプロパガンダによつて古るき職工

組合主義の思想から解放された英國の勞働階級は、こゝにトム●マンのプロパガンダによつて更にその政治的社會主義の思想に動搖と不滿との色を示すこととなつたのである。少くともその當時における政治的勞働運動の無能と無力とに失望したる英國の勞働階級が更に新らたなる理想に興味と憧憬とを禁じえなかつたことだけは明らかである。こゝに英國における勞働運動の第三期が兆したのである。然り、この第三期はサンヂカリズムの運動によつて導かれた。コールは次のやうに述べる『產業不安のきたるとともに、それの原因の如何にかゝわらず、新社會組織及び產業的行動の理論が現はれてきたのである。一九一一年及び一九一二年において、われらの聞かされたものはサンヂカリズムであつた。さうして半ばフランスのサンヂカリズムのうへに立ち半ば米國の產業組合主義のうへに立つ多數のプロパガンダがトム●マンの精力主義的指導のものにこの國（英國）に顯出した』と。(2) 然り、この時代はトム●マンによつて指導せられた時代であり、さうしてサンヂカリズムが英國における勞働運動の新理想として呼び出された時代であつた。トム●マンの『單稅からサンヂカリズムへ』(From Single Tax to Syndicalism) はこの時代を表徵すべき著作であるとされてゐます。けれども『サンヂカリズムの波』が英國の勞働階級を洗つてゐた時代は極めて短い歲月であつた。それは英國の勞働階級を吸收することなくしてたゞ新らしき時代への先驅者として存在したものであつた。『波』が去つてから二つのものが殘され、或は芽ばえた。コールの所謂マルクス派產業組合主義 Marxian Industrial Unionism と組合社會主義 Guild Socialism がこれである。(7)

（一）トム・マン(Tom Mann)は今日では既にその精力を傾け盡して英國の勞働運動は彼れの時代からスマイリーやトーマス等の時代となつた。マンは既に今年六十四歲である。けれども嘗つてはリバープールの鐵道及運送夫ストライキの指導者であり、ロンドン改革同盟の幹部であり、國際運輸夫聯合のセクレタリーであり、一八八一年以來の英國の勞働運動においての大立物である。

(二) Cole, An Introduction to Trade Unionism, P. 97

(三) ibid.

(四)

コールの謂ふところのマルクス派産業組合主義は早くから英國に輸入されてゐなかつたといふのではない。けれども一九一〇—一二年のサンヂカリズム宣傳の時代に至るまでは少しも注意に價されるものではなかつたのである。それが一九一〇—一二年の『サンヂカリズムの波』がひきさつた後において英國の勞働階級に殘された。この産業組合主義は主として米國から輸入されたものである。(1) それは職業組合主義 (Craft Unionism) に對する革命である。彼等の最初にとつた行動はこの職業別組合主義を破壊することであつた。彼等は資本主義の轉覆を要求したとともにまた職業別組合主義の完全なる轉覆を要求したのである。彼等は既成組合をもつて、有害にして無益なものであるとなした。さうしてこれを利用し、或はそのうへに産業別組合を組織することをなさずして直にこれを破壊することを求めた。さうして完全絶對に新らたなる基礎のうへに勞働組合を組織せんとするものである。その期するところは『單一大組合』(One Big Union) の組織である。階級別に従つて世界的の大組合を組織することが—— Industrial Workers of the World を組織することが彼等の理想とするところである。一九一〇—一二年のサンヂカリズムが舊組合主義即ち職業別組合主義の破壊をなさずしてそのうへに更に産業別に従つての組合の合同を企てたのに反して、マルクス派産業組合主義者は凡ての古るき組合を轉覆して全然新らたなる基礎のうへに新組合——階級的新組合を組織せんことを要求したのである。サンヂカリズムの波がひきさつた後に、彼等はサンヂカリズムの敎訓に従つて、既成の職業的組合を利用してそれの産業別的合同を要求するの運動をとることになつた。彼れは國家をもつて資本主義の表現であ

ると見るの點において素より非國家主義である、彼等は國家の完全なる轉覆を要求する。さうして勞働者によつての完全なる產業の支配權を要求する　それには國家の分擔を許さない。彼等は政治的行動を排斥して產業的行動を主張するものである。マルクス派唯物史觀は素より彼等の奉ずるところである。こういふ立場からして彼等は英國の勞働階級の間に次第にその勢力を侵入せしめた　彼等はその數においては小數であるにしても、彼等の間接の勢力は深く勞働者の間に影響し、就中鐵道勞働組合 National Union of Railwaymen や南ウエールスの炭坑夫や戰時中に英國の上下を驚かした Shop Steward Movement のうちにその强い影響を與へてゐるのである。(2) 中央勞働大學 Central Labour College とはマルクス派產業組合主義の思想的中心であるとされてゐます。

（一） Bertrand Russell, Proposed Roads to Freedom, P.74

（二） Cole, Trade Unionism, P. 98.

（五）

ギルド・ソーシャリズム卽ち國民的組合 National Guilds (1) もまた一九一〇―一二年の產業不安の產業として生れたものである。それはオレーヂによつて唱導されてたものである。オレーヂの主張は各方面において多くの共鳴者を出した。就中、今日この方面の最も卓越せる理論家としてのコールは一九一四年フエービアン協會のうちにこれを宣傳したがその議容れられずしてフエービアンから去つた。コールの述べてゐるところによれば、ギルド・ソーシャリズムは今日の英國における鐵道從業員や郵便從業者などの間に非常なる勢力を及ぼしてゐる。またそれは社會主義者の政策のうへに非常なる影響を與へてゐるとなす。(2) その中心は國民組合同盟 National Guilds League である。然り、ギルド・ソーシャリズムは英國における社會改造の中心的勢力とならうとしつゝある。コールは英國の勞働者に

告げていふ『勞働者は團體協約の時代から團體支配の時代へ、さうして賃銀制度からギルド●ソーシャリズムへゆくことができる』と。(3) かくして一九一〇―一二年サンヂカリズムの波は去つても、それは職業別組合主義への復歸を導くに至つたのでもなく、政治的勞働運動へと急進したのでもなく、産業組合主義とさうしてギルド●ソーシャリズムとを殘しまたは創造するに至つてゐるのである。英國における勞働運動、さうして職工組合主義そのものの革命は今や頗る顯著であるといはなくてはならない。

（一）ギルド・ソーシャリズムには國民的のもの National Guilds と地方的のもの Local Guilds の二分派がある。後者はペンテイによつて代表せられる。この點は後に述べる機會がある。

（二）Cole, Trade Unionism, P. 99

（三）Cole, Self-Government in Industry, P. 134

（六）

ギルド●ソーシャリズムはサンヂカリズムに類するところもある。マルクス派産業組合主義に類するところもある。また國家社會主義に類するところもある。けれどもそれはサンヂカリズムでもなく、I●W●Wでもなく國家社會主義でもない。それ等のものに反對しつつ、またそれ等のものの要素と共通點をもつてゐるものである。それゆへにギルド●ソーシャリズムを知るためには先づギルド●ソーシャリズムとそれ等との關係について知ることが必要である

（七）

われ等は先づギルド●ソーシャリズムと國家社會主義との關係を知らなくてはならぬ。サンヂカリズムが正統マル

クス主義に對する革命的修正主義であるごとくギルド・ソーシャリズムもまた正統マルクス主義に對する革命的修正主義である。正統派マルクス主義は今日においては唯物的團體主義 Collectivism である。コレクチヴヰズムとは地理的團體に生産機關を集中することである。從つてそれは生産機關の國有 Nationalization または市有 Municipalization の要求となるものである。それは「少數の株主によつて鐵道の所有せられる代りにフランス國によつて所有せられフランスの勞働者によつて管理せられる鐵道を要求する」フランスにおける正統マルクス派としてのヂュール・ゲードはこう述べてゐます。(1) この言葉はよくコレクチヴヰズムの如何なるものであるかを説明したるものとして著名である。從つてそれは國家社會主義に歸着する。國家によつて生産手段が所有せられるとともに國家によつてその統制權も要求せられるのである。この點において英國における社會民主主義同盟 Social Democratic Federation の立場は極めて鮮明である。彼れはその目的を規定して『民主的國家によつて統制(コントロール)せられる生産、分配及び交換の社會化』に存する旨を宣言してゐるのである。卽ち國家によつて産業の統制せらるべきことを主張してゐるのである。かくしてコレクチヴヰズムにおいては地理的團體は權威である。地理的團體の所有においての地理的團體の統制が要求せられるのである。それは分裂の代りに統一を要求する。個人意思の代りに集合意思を要求する。産業別の社會的統制を要求するものではなくして凡ての産業が地理的團體に集中することを要求する。從つてそれは地理的團體を中心とする社會生活の要求である。國家によつて社會主義を實現せんとするところにコレクチブヰズムが存在する。この點は既に共産黨宣言のうちにも現はれてゐるところである。(2) 英國においてはハインドマン一派の社會民主主義同盟、(3) マクドナルド一派の獨立勞働黨(4) ウエッヴ一派のフエービアン協會(5) がこの側に屬してゐる『フエービアンの兒』として生れた勞働黨は自ら社會主義の團體であることを宣言することを避けてゐるにしても、(5) それが一九一七年に發表した綱領としての新社會的秩序 New Social Order について見れば、勞働黨もまた國有主義の主張者であることが白

明である。彼れは土地、鐵道、鑛山、電力の共有を主張し、且つその國有となすべき産業が單に大産業に限るものでないことを宣言してゐます。(7)これが英國勞働黨の謂ふところの産業民主主義である。ヘンダァソンはこの點を解說していふ『われ等は産業の民主的統制への道は生産手段の共有にあることを信んずる』と。(8)從つて勞働黨の目的とするところもまた國家社會主義の實現にあることは明白である。然り、彼等の目的とするところは國家社會主義の實現にある。即ち民主主義的國家社會主義の實現にある。國家社會主義 State Socialism とは今日においては最早や決してビスマーク的國家社會主義の意味ではない。ビスマーク的國家社會主義は既に獨逸の革命とともにこの世界から滅亡したといつても差支はないのである。今日においての國家社會主義とは全然民主主義的社會主義の意味である。從つてコレクチヴヰズムの意味であり、またこの點において各國における正統マルクス派の立場と一致してゐるものである。さうしてこの目的に到達すべき手段としては政治的行動によらんとするものである。この點を最も明白にしてゐるものは獨逸社會民主黨のエルフルトの宣言（一八九一年）である。彼れはいふ『資本家の絞取に對する勞働階級の戰は必然に政治的爭鬪でなければならない』と。否、獨り獨逸の社會民主黨だけではない。フランスのゲード派も、英國の勞働黨も白耳義のヴァンダァベルト派もまた等しくこの立場をとつてゐるものである。(9)いふまでもなく政治的行動は決して議會政治に限つてゐるものではない。議會政治の衰頽は今日の世界における顯著なる傾向である。(10)たゞ各國の正統派社會主義者は議會主義（パーリヤメンタリズム）を採用することに一致してきたのである。第二インタナショナルの態度はこの點を明白にしてゐるのである。(11)これに對してギルド・ソーシャリズムは痛烈なる攻撃を加へてゐる。ギルド・ソーシャリズムは決して國家または政治そのものの存在を否認するものではないが、國家社會主義そのものに反對するの點においてはサンヂカリズム、マルクス派産業組合主義または無政府主義とその立場を一つにするものである。

（1） Jules Guesde, Collectivism, P. 8

（二） Communist Manifesto, PP. 41-2

（三） 社會民主主義同盟はその後分裂して大英國社會黨及び英國社會黨の二つとなつた。ハイドマン一派は英國社會黨 British Labour Party の側に立つた。社會民主主義同盟の綱領においては、それが先づ生産手段の社會化と、民主的國家によつてこれを統制（コントロール）することを目的とすることを宣言してゐる。さうしてその直接改革案のうちでは鐵道やドックや運河やその他のものの國有を主張してゐる。

（四） 獨立勞働黨（Independent Labour Party）は社會主義の國家を建設することを目的とする旨を宣言してゐる。ケーア・ハーディエによつて創立されたものであり、今日では勞働黨の一部をなしラムセエ・マクドナルド、ジエ、アール・クライネス、フヰリップ・スノーデン、ダブルユー・シー・アンダソンなぞが指導者である。

（五） フエービアン協會（Fabian Society）は『土地及び産業資本を個人または階級的所有から衛つて社會全體の利益のために社會のものとすること』を目的とする社會主義者の團體であり、ウエッヴ夫妻を初めとしてベサント、ウワラス、ショウ、オリバアなぞが中心であり、New Statesman はその非公式の機關である。（エッチ・ヂ・ウエールス及びヂ・デ・エッチ・コールは既に退會した）

（六） 英國勞働黨は英國社會黨の要求を拒絶しその候補者に『勞働及び社會黨候補者』と標榜することに反對した。

（七） Arthur Henderson, The Aims of Labour, PP. 119-21

（八） ibid., P. 28

（九） Orth, Socialism and Democracy in Europe, PP. 293 ff.

（十） 拙著『民本主義について』及び同『デモクラシー講話』參照

（十一） Walling & others, The Socialism of To-day, PP. 8 ff.

（八）

ギルド・ソーシャリズムは國家そのものには反對しない。けれども國家社會主義に對しては痛烈なる反對を敢てする。その反對の論點は大體において三つに分けることができる。その一つは國家社會主義をもつて官僚主義に墮するものであるとするの點である。その二つは國家社會主義をもつて官僚主義に過ぎないとなすの點である。その三つは國家社會主義をもつて消費者本位の制度であるとなすの點である。この三點はギルド・ソーシャリズムが國家社會主義に加へる非難の主要なるものである。先づ第一點から順次にこれを考察して見ることとする。ギルド派の人々が國家社會主義をもつて官僚主義であるとなすことは、國家社會主義が産業統制權を國家の手に掌握するといふの點から出發する前にも述べたとほり國家社會主義は生産機關の公有とさうして全會社の利益においての生産の統制をも要求するものである。ギルド・ソーシリズムはこの公有に反對するものではない。その反對する點は産業統制權の一點である。國家社會主義が國家によつての産業統制權を要求するに對してギルド・ソーシャリズムは生産者によつての産業統制權を要求する。こゝにこの二つのものの最も重要なる差別が横はつてゐる。ギルド・ソーシャリズムは先づ國家社會主義の如何なるものであるかについて次のように考へる。

『資本家や勞働者によつて用ゐられてゐる國有といふことの眞實なる意味は、國家的經營（ナショナル・マネージメント）の意味である。』(1)

コールは國家社會主義者の國有論を右のように定義することによつてこれと社會化 Socialization とを全然區別し、社會化とは國家的經營の意味ではなくして國家的所有（ステート・オウナアシップ）の意味であることを指摘し、次に産業統制權が生産者に與へられることによつてのみ民主主義――産業民主主義が存在しえられるものであることについて次のように述べる。

『産業の實際的統制は生産者の事務である。製造者に對して彼れ自身の仕事についての統制をなさしむることによつてのみ

吾等はデモクラシーの主義を滿足せしむることができる。』(2)

『勞働者の要求すべき產業の統制とは何んぞや？　それは直接經營（ダイレクト・マネーヂメント）の二語に外ならぬ。……直接經營といふことのみ獨り勞働者の理想的願望を滿足せしめることができる。……直接經營を許すことを恐れる凡ての人々は、自由の意味を把握することのできない人々である。彼等は高々溫情的官僚 conciliatory bureaucrats であるに過ぎない。』(3)

コールはまた同じ書物のうらにおいて次のように述べる。

『國家社會主義は社會の利益が常に最高であり、また最高でなくてはならないと述べる。……勞働者はこれによつて疑もなく最低賃銀を與へられ、小綺麗にしてゐることができるであらう。その代り彼れは自由を開け渡してしまうことを餘儀なくされるであらう。』(4)

コールは更に他の書物のうちにおいて次のように述べてゐます。

『勞働組合によつて支持せらるゝことなきコレクチヴヰズムは單に巨大なスケールにおいての國家官僚制となるに過ぎないものである。』(5)

ギルト・ソーシャリズムは第一にこの立場から國家社會主義――コレクチヴヰズムに反對する。ベロックが國家社會主義をもつて奴隷國 Servile State の要求であるに過ぎないとなしてゐることは彼等のプラットフォームから常に吐き出される言葉である。ベロックはいふ。『社會主義は町人國民を番頭國民に轉ぜしむる手段である』と。(6) かくしてギルド・ソーシャリズムは先づ國家社會主義をもつてデモクラシーの主義に背きたるもの、官僚主義であるに過ぎないとなしてゐるのである。この點において彼れはサンヂカリズムとその立場を同じくしてゐる。次ぎにギルど・ソーシャリズムは國家社會主義をもつて國家資本主義であるに過ぎないと論ずる。(7) この點においても彼等の立場はサンヂカリズムと全然同じ態度である。先づコールの著者について見る。彼れは直裁に次のように斷ずる。

『都市社會主義は都市資本主義である。……その同じ議論が買收による國有の場合に當嵌めることができる。それは社會主義を結果するものではなくして國家資本主義を結果するものである』(8)

何故に國家資本主義であるとなすか。國家社會主義のもとにおいても賃銀制度の存續するものであることを信んじてゐるからである。この點についてコールは國家ギルド主義者の立場を明かにして次のように述べてゐます。

『國家ギルド主義者は賃銀制度に代るべきものが一つに止まらないことを認めてゐる。概して、彼等は動産的奴隷、賃銀奴隷と國家ギルドとを比較し、また國有主義のプロパガンダに特別の注意を拂つて、彼等は國家社會主義のもとにおいても賃銀制度が維持されるものであることを指摘した。』(9)

これに對してギルド・ソーシャリズムは賃銀制度の撤廢を主張します。それゆえにギルド・ソーシャリズムはまたこの點において國家社會主義に反對するのである。第三にギルド・ソーシャリズムは國家社會主義をもつて消費者本位の制度であるとして攻撃します。コールは次のように述べる。

『コレクチヴヰズムは主として分配の理論である。それは卸賣消費組合のように消費者の立場から生産を考察するものである。さうして……勞働者を生産に雇傭するところの大規模の消費者の組織卽ち國家を考量してゐるものである。』(10)

彼れはまた次のように述べる。

『將來の社會組織について空想する時に勞働階級の恐れることは、コレクチヴヰズムのもとにおいても賃銀制度が存續し、さうして生産者が消費者によつて取教せらるゝことである。』(11)

かくして國家社會主義をもつて消費者本位の手段であるとなすとともに、この消費者本位の社會組織は要するに多數者專制に歸するものであるとなしてゐる。(12) 從つてまた眞實なるデモクラシー、產業民主主義の組織でないと論じてゐるのである。こういふ諸點からしてギルド・ソーシャリズムは先づコレクチヴヰズム——國家社會主義に反對するのである

（一）Cole, Self-Goverment in Indtstry. P. 195
（二）ibid., P. 197
（三）Cole, The Meaning of Industrial Freedom, P. 23
（四）ibid., P. 26
（五）Cole, Self-Goverment in Industry, P. 106
（六）H. Bellock, Srvile State
（七）ペンテイはコレクチヴヰズムが國家商賣主義となることを論じてゐる。
（八）Cole, Self-Government, P. 195
（九）ibid. P154
（十）Col, The world of Labour, p. 7
（十一）Cole, Self-Government, P. 282
（十二）B. Russell, Political Ideals, P. 92

（九）

ギルド・ソーシャリズムとサンヂカリズムとの關係如何。

前にも述べたとほりギルド・ソーシャリズムは英國において『サンヂカリズムの波』がひきあげた後に生れたものである。從つてそれはサンヂカリズムと無關係であることはできない。否、英國の勞働黨が『フエービアンの兒』であるといひえられるとすればギルド・ソーシャリズムは『サンヂカリズムの兒』としての多量の分子をもつてゐるといふことができる。少くともそれが生れるに至つた動機がサンヂカリズムの影響のうちに存在してゐることは明白である。この意味においてギルド・ソーシャリズムは國家社會主義であるといふことよりもより多くサンヂカリズムである

とすることに眞理をもつてゐる。それはサンヂカリズムの基礎のうへに立つて國家社會主義と妥協してゐるものであると見られる多くの理由と箇條とをもつてゐる。完全なる產業統制權を生產者の手に掌握しようとすることはいふまでもなくサンヂカリズムの要素である。この點においてギルド•ソーシャリズムは大體サンヂカリズムの立場を是認するものである。生產者がその關渉する產業について統制權をもつこと、從つて產業上の自治 Self-Government の許されることを要求するの點において、ギルド•ソーシャリズムはこれをサンヂカリズムから學んだものである。フランスにおけるサンヂカリズムの要素はまた英國におけるギルド•ソーシャリズムの要素の一つをなしてゐるものである。さうしてこの要素はギルド•ソーシャリズムが國家社會主義に對する最も重要なる特色であり、この特質のうへに立つて國家社會主義を非難しつゝあるものである。卽ちギルド•ソーシャリズムはサンヂカリズムの武器により、サンヂカリズムから受け入れたる壘によつて國家社會主義を非難してゐるものである。さういふわけであるから、サンヂカリズムなくしてはギルド•ソーシャリズムの成立を想像することは殆んど不可能である。サンヂカリズムはギルド•ソーシャリズムの導火線であり、刺激であり、就中それに產業自治の理想を與へたものである。サンヂカリズムとギルド•ソーシャリズムとの間にはこういふ重要な一致點をもつてゐるものである。けれどもまたこの二つのものの間には殆んどこの一致點に匹敵するだけの差別點をもつてゐることを知らなくてはならない。差別點とは何んぞや。國家に對する關係がこれである。サンヂカリズムは國家を認めることをしない。如何なる種類、如何なる組織の國家に對しても反對である。デモクラシーそれ自身に對しても反對である。デモクラシーとはたゞ『總意』の空想のうへに立つ多數者專制に過ぎないものであるとするのがソーレルのサンヂカリズムの立場である。(1) これに對してサンヂカリズムは國家を承認するものである。(2) その國家とは今日の意味においての國家に比べると著しく性質を異にしてゐるものであるにしても、兎も角も、地理的團體の權力を承認し、この權力に對する服從關係を承認し、その權力

――政治的權力の主體としての國家の存在を承認し且つそれの職分を認めてゐるものである。この點がサンヂカリズムとギルド・ソーシャリズムとの最も主要なる、さうして根本的の相違點である。またこの點がギルド・ソーシャリズムとマルクス派產業組合主義との根本的差別點ともなつてゐることは勿論である。いふまでもなくギルド・ソーシャリズムが國家を承認することの理由はまた同時にそれがサンヂカリズム或はマルクス派產業組合主義に反對する理由でなくてはならない。その理由は二つある。その一つはギルド・ソーシャリズムが唯物史觀の立場に反對することである。この點はコールの著述のうちに最もよく現はれてゐる。ホブソンもまた同一の立場をとつてゐる。產業の問題以外に精神的の方面の代表者として國家を承認しようとすることがホブソンの國家觀の中心をなしてゐるのである。(3) 次にギルド主義者が國家を承認することの理由は國家をもつて消費者(コムシューマアス)の代表者と看做してゐるからである。社會はたゞ生產者だけから成つてゐるのではない。(4) 生產者の反面にはまた消費者が存在する。從つてサンヂカリズムまたはマルクス派產業組合主義者のごとくに凡ての產業を生產者の完全なる支配統制(control)に一任することは生產者によつての消費者に對する絞取(exploitation)となるものである。――ギルド・ソーシャリズムはかう主張するのである。(5) コールはいふ『サンヂカリズムは個々の團體に絕對權を與へるために集團的利潤暴奪を防ぐことできないものである』と。(7) さうしてデモクラシーは自治であり、無政府主義ではないと主張してゐるのである。(7)

(一) George Sorel, Illusions du Progrès

(二) ギルド・ソーシャリズムの主張者のうちにあつてもペンティは國家組合同盟 National Guilds League とは異つた立場をとつてゐる。さうしてホブソンの國家觀が新マルクス派を滿足せしむるものでないこと述べてゐる。(Arthur J. Penty, Guilds and The Social Crisis, P. 71

(三) Hobson, Guild Principles in War and Peace, P. 61

(四) サンヂカリストは消費者も結局は生產者に歸着するとなしてゐる。

（五） Cole, The World of Labour, P. 352

（六） Cole, The Meaning of Industrial Freedom, P. 40

（七） ibid.

（十）

ギルド・ソーシャリズムは何んぞや。

以上の說明によつてギルド・ソーシャリズムの否定的方面は明らかにされたと思ふ。卽ち大體においていへば、それは產業に對する國家の統制に反對する點において國家社會主義と區別せられるものであり、また國家を承認することによつてサンヂカリズムと區別せらるべきものである。このギルド・ソーシャリズムの否定的の方面を知ることによつてまたそれの積極的方面を窺うことのできるのは勿論である。卽ちギルド・ソーシャリズムは產業に對する生產者の統制權を要求するとともにまた國家の存在を承認し且つ生產に對する國家の消費者としての權力を承認してゐるものである。ギルド・ソーシャリズムの立場は二元である。一方に生產者の自由を要求する、他方に消費者の自由を要求する。生產者の自由の體現としての勞働組合――產業別全勞働者組合を要求するとともにまたそれと並んで消費者の自由の保證としての國家を要求するものである。ギルド・ソーシャリズムの中心としての「國家組合主義同盟」はその目的を次のやうに規定してゐる。「ナショナル、ギルヅ、リーグ」の期するところは「國家と聯合する國家組合の組織によつて賃銀制度を撤廢し且つ產業自治を樹立することであると。（つゞく）

私は次回に一、ギルド主義の目的二、ギルドにおいての國家の性質三、勞働組合の意味四、勞働組合及び國家の職掌並に兩者の關係五、產業議會の性質及び組織六、これ等に對する批判について述べます。（筆者）

編輯室と校正室

◆改造同盟といふ一團體ができた。改造は結構だが、憲政擁護運動を途中から逃げだした松田源治サンや鵜澤總明サンや、さうして例の政黨策士の古島一雄サンなんかに『改造』されちあ『日本』の方で浮ばれまいよ。

◆それに政黨からきてゐる連中は揃ひも揃つて今年の議會で普通選擧に反對した連中ばかりではないか。院内と院外とは違うとでもいふのか。それとも今年の春までは『恒産なきものは恒心なし』であつたのが夏になつてから急に『恒心』ができたとでもいふのか。これも陽氣のせいだらう。

◆マルクスの本が今頃賣れゆきのいゝのはロシアの田舎と日本位ひのものだらう。これといふのもみな今日までの官憲の壓迫に對する反動かと思へば官憲の壓迫もまた社會運動の一武器だといふの結論がでゝくる。

◆そこである社會主義者曰く、福田博士のいふとほりだ。――『日本に生れたことは幸ひである』――。

◆その福田博士はこの頃はもうどの雜誌にも書かぬといつて逃げて歩いてゐるそうだ。そうして見ると『黎明錄』の序文のうちでこれは懺悔錄だといつてゐるのはもう時事問題は論じないといふ意味らしい。論壇のためには殘念このうへもないが學界のためには幸であらう。

◆山川菊榮女史がある雜誌で發表してゐるところによれば『私の良夫なぞは幾度も監獄へ入つた位ひの恐ろしい男』だといつて『私の良夫』と山田憲の立場を比べて論じてゐられるが、さういはれて見ると『ヤマダケン』と『ヤマカワキン』とは發音だけは大部似てゐるようだ。

◆小學校の先生の組合――啓明會といふのができた。何にしてもいゝことだ。埼玉あたりに引込んでゐないでどし〳〵運動して貰いたい。機運は熟してゐる。英國なぞでは教員のストライキも盛んにあり、この頃は巡査の組合が政府と對抗してゐるのも興味ある現象だ。

◆日本ではマアそこまでゆかなくてもいいが學校の先生も郡長や視學の鼻息を窺うのはやめるようにしたいものだし、また巡査が國民に挑戰するようなツマラヌことは止めたいものだ。

◆鈴木文治君が九州へ行つて勞働者から袋叩きといふような迫害をうけて這々の體で逃げ歸つたことは事實だそうだが、聞くところによると何んでも炭坑の持主連中が坑夫どもに金をくれて鈴木退治をやらせたのださうだ。

◆英國でも勞働黨の會議へ參列するためにフランスからやつていつたロンゲエやフロサールの入國を禁止し、ルノーデルやチヨウオウ等をも嚴重に取調べたといふことが『ニユー、ステーツマン』に攻擊してあつた。

◆憲政會がこの頃政府彈劾を始めたようだが、國民の方では政府と憲政會と兩方を彈劾すると思つてもらいたい。メカケザルがハナカケザルを笑ふようなことはやめてもらいたい。

◆時代は急轉しつゝある。『古るき革袋』はもう願下げにしたいものだ。

◆そこで純粋な改造同盟が必要となつてくる。前科者のゐないやつが欲しいものだ。

▲黎明錄（福田德三著）

福田博士の『黎明錄』は最近の論壇が生み出した最大の産物である。博士の外交論のうちには無論大缺點がある。例へば英國を非難するにはたゞ英國の表面――倒れつゝある資本主義や支配階級ばかりを見て勞働階級の勃興しつゝある點を一切無視してゐることのごときは、博士の外交論の全體に亘つての誤謬であり、外交論としては既に舊式であり、高橋作衞時代のものである。けれどこれ等の缺點を除くと全卷を通じて教えられるところが甚だ多く博士一流の見識と學問と痛烈さとが到るところに現はれてゐる。鎌田榮吉氏や金井博士などを攻撃してゐるところは痛快限りない。博士は自ら序文中で本書を懺悔錄だといつてゐるが時代が『政治』から經濟へと移りつゝある時に本書のごとく經濟の立場から、否もつと高い立場からの批評は時代の眞の『黎明錄』である。（定價三圓九十錢神田佐藤出版部發行）（室伏生）

▲社會問題及社會運動（河田嗣郎著）

よき問題を捕へてゐる點において本書にど成功してゐるものはないが。その內容の粗笨、思想の未熟な點は非難を免れないだらう（定價二圓八十錢岩波書店發行）

勞働人格主義

ヂイ・デエ・エッチ・コール

英國における勞働問題の權威がコールであることはこゝにいふまでもない。ウエッヴ夫妻が舊派の組合主義を代表するに對して彼れは新派を代表する明星である。『批評』はラッセルのものとともに成るべく多くコールのものを紹介したいと思つてゐます。こゝに譯出するは彼れの著 "Labour in the Commonwealth" の卷頭論文 The Humanity of Labour の抄譯。

（一）

人々をして怪しみ、恐れしめるものまたはその他の凡ての人間の感情を人格化する人々の傾向は屢々詩人や哲學者の題目となつてきたものである。けれども人々はまた人格を奪略する傾向をも少からずもつてゐる。前世紀前における經濟學者及び政治家が勞働階級に對して行つた『非人格化』は後者の最も有力なる實例である。經濟學說及び社會學說の領域においては產業革命以來教育ある人々の多數が抽象的の言葉を用ゐた。『殺風景』な科學においての『經濟人』は勿論、經濟學者が好んで『資本』と對立させる『勞働』は、思想を害し、經濟學をその本來の動きから誤導せしめた抽象である。

私はさういふ生命なき抽象を考へてゐるものではない。

私は既にこの勞働が、世界の商品の製造者及び使用者としての集合的の名稱でなくして抽象的の量、力または生產費の要素となすところの假說を打ち破るべきある種のことが行はれたことを是認するものである。『應用經濟』の方向への經濟學の發達、社會問題における心理學の應用、ヴヰクトリア朝哲學者よりもより少く『高尚にして無味乾燥』な社會哲學の發生などはみな來らんとする變化の證據である。就中勞働者自身のうちには、勞働の人道を確保し及びそれの自由及び自決主義を要求する理論及び實行の有力な

る發達が行はれてきた。

（二）

けれども『普通の人』はさういふ哲學的及經濟的理論の知的醱酵または組織的勞働者の間における新精神の生長に接觸する最後の人達である。彼等が新思想を聽いた時にこれに達することはできるにしても、少くとも彼等をしてこれを聽取させまたは傾聽させることが非常に困難である。われ等がその批評的能力を眠らせてゐるときに、さうしたこの能力が目ざめるに至つてゐない凡ての思想の領域において、われ等は悉く『普通の人』であり、偏見と現代の假說の動物である。誠に事實はこれよりももつと惡るい。何となればこれ等の偏見と臆斷とはわれ等の時代の產物ではなくして過去からの時代の遺物であるからである。

かくしてわれ等がその意識的思想において受働的に勞働は『物』であるといふの思想を排斥するにしても、その思想は依然としてわれ等の半意識のうちに存在し、さうして非常な範圍においてわれ等の心のより警戒に乏しき部分を支配するのである。『勞働の目的及び要求』についての同情ある考慮のうちにおいてさへ、われ等はわれ等自らが本能的に且つ習慣的の力によつて、何か勞働は非人格的なもの、それでなければ高々半人格的のものだといふの思想のうちにはまりこまされるのを知るのである。われ等は半合理的であるがゆゑにわれ等は直に新らしい知的確信によつて過去の知的確信が凝結してゐる凡ての偏見と臆斷とを驅逐することは出來ない。

二三の實例を示せば、勞働についてわれ等の多くが常にさうしてわれ等の凡てが時々陷りつゝある見解を全く明らかにすることができる。最上の實例はわれ等が『賃銀制度』と呼んでゐるのである。製造業者または工場における費用管理者の見解からすれば、『勞働』は生產費の要素である。地代、建物、機械、機械の消耗破損、原料、管理、勞働――生產費をもつての仕上げ生產はこれ等の凡ての費用を包含してゐる。生產費においてのある種の要素は固定し、あるものは波動する。地代は固定した費用であり、原料の代價は時時變化する。從つて勞働の代價も變化する。然らば何ものが勞働の代價を決定するか？　概していへば確實に各種の材料及商品の代價を決定するもの――即ちそれ等自身の生產費によつて表面上決定した基本的の費用とそれに需要供給によつて決定された浮動的費用とを加へたものである。

『勞働市場』は金屬市場よりも神經過敏であり、浮動的傾向をもつてゐる。けれどこの二つのものにおいて働く原則は主として同一であり、さうして企業家及び管理者は必ず二つのうへに眼をつけてゐる。

勞働は機械や綿俵が必然に商品(コムモディティ)であるごとく商品(コムモディティ)である。

私は費用の專問家について何等の非難をも加へんとするものではない。勞働を抽象的に觀念することは彼れの義務であり、さうして商品が個人主義組織のもとにおいて買賣のために生産せられる間は、彼れはそれと違つた方法で働くことはできないのである。私の不平はここである。卽ちこのある商業上の計算の一定限の目的のためにする勞働の純粹な抽象的觀察方法が習慣的に嚴然たる學說のうちに取入れられ、就中最も惡るいのは嚴然たる推斷——疑問なきために學說化されないのではなき——のうちにとり入れられてゐることである。普通の人、並に決して平凡でない多くの人人は、この勞働が商品として賣買されることを何か當り前な、自然な、さうして不可避なこととして平氣で受取つてゐる。それ等の人々のうちには最も熱心な社會改革者があり、また社會主義者すらもある。けれども彼等にとつては賃銀制度卽ち勞働の商品說に疑を抱くようなことはないのである。

(二)

かくして近年に至つては凡ての雇傭勞働者のために一定の最低賃銀を得ようとする立法への運動が行はれてきた。石炭(最低賃銀)法や穀物生産法などはある種の産業についてこの運動を公認せしめることになつた。さうしてその結果は不充分であるにしても全體において利益であつた。けれどもこゝにわれ等は根本問題に接觸してゐる。最低賃銀立法の主張者のどれだけの人がこの戰爭中ある點まで行はれた株式取引所の安定のために最低價を定める政策について全く同樣のことを考へたであらうか? 就中、彼等がこれについて考へたとすればそれとの比較によつてどれだけの人が感動したであらうか? けれども最低立法の政策は、ある點で緩和してゐるにしても、それが勞働商品說の明白な承認であることはいふまでもない。

それと同じことが穀物生産物法において明白に觀取することができる。

（四）

勞働商品説は勞働が人間から成立するものであるとするの事實の承認と兩立するものではない。文明世界の良心は奴隷をもつて人間が他の人間に屬することを人格と兩立しないものとしてこれを排斥した。けれども若し人間がその生涯をある代價で賣買することが罪惡であるとすれば人間が一年、一月、または一日の間賣買されることもまた同樣に罪惡である。それの罪惡は、賣買そのものであつて期間の問題ではないのである。

世界は動産奴隷（チヤツテル、スレエヴアリー）を廢した。英國における勞働の賃銀取引は動産奴隷からの多少の變化である。けれどももつと文化の低い人種の間における契約勞働者または直接間接に强制される勞働は矢張り奴隷の要素である。それのみならず、賃銀契約であつても矢張り奴隷の要素である。それは勞働を勞働者から抽象し、さうして勞働者に對して名義上の自由を與へるにしても、それによつて勞働者をして、彼れの勞働が如何なる意味においても人間的でなからしめるようにする。勞働者は名義上自由であり且つ人である。彼れの勞働は、たゞ買受人から一定の値段で買はれ且つ利益

のために使用されるだけの『力』である。

勿論、進步――それ自身偏見と臆測の大なるものであるを――は存在する。勞働者は百年以前――それ以前と比べるとどうだか分らないが――よりもよりよく食しよりよく衣服してゐる。私のいはんとするところは、われ〳〵が退歩しつゝあるといふことではない。われ等の學識と假定とが間違つてゐるといふのである。さうしてわれ等が社會組織を改良しようとする時においてさへ、われ等は依然として既に否認において爛熟せる思想の犧牲となつてゐるといふことである。われ等は最早や勞働を商品または『物』として取扱ふことを欲しない。唯われ等はよりよきものを知らないし且つ産業革命の神話を捨てることができないためにこれを持續してゐるのである。

われ等が勞働について理解する必要のあることには二つの意味がある。われ等は勞働者自身の考へ、感じ、希望し、且つ想像しつゝあることが何んであるかを理解することが必要であり、また社會における勞働者の地位についての理論または想像をもたなくてはならない。この二つの理解をもつてゐる以上、われ等は最早や勞働を商品または『物』で

あると考へることはできない。

（五）

勞働を『物』として取扱ふ人々は、丁度用心深き製造業者がよき機械を使用し且つそれを立派に取扱やうに、勞働をよき狀態に置くことを欲する。彼等は充分に『高率賃銀の經濟』や健康な工場狀態と『正直な仕事』の利益であることを心得てゐる。多くの溫情的雇主や多くの名譽職員などは――そうでない人も澤山にあるが――この立場にある。けれども『善き』または『惡しき』雇主が等しく彼等の使用する勞働者が少くともある人間としての屬性をもつてゐることを悟り始めるやうになつてきた。この事實は屢々彼等に先づ不快なる驚きを起させる。……それから彼等は勞働者に對してより多き生產をさせるための財政上の誘惑として『結果によつての仕拂』を主張する段取りとなる。

これ等の誘惑はある程度まで勞働の人格性を承認することであるにしても、それはたゞ勞働か賤しき感情によつて奬勵されることの承認であるに過ぎない。彼等は勞働者に人間性の存在することを承認する。けれども彼等はそれが高い品質のものであることを認めないのである。

（六）

勞働の人格性を尊重することについてのわれ等の失敗の他の實例は勞働組合運動それ自身についての現在の態度のうちにも發見せらるべきものである。勞働組合の『兵卒』等が、盲目的にその指導者の命令に服從することの代りに、彼等自身のために考へまたは行動さへもしたことは近年において多くの實例が示されてゐる。直に新聞紙、政治家または公衆から勞働組合の『訓練』論が起り、また指導者がその『兵卒』に服從を强ゐることができなければ全勞働組合運動は不信用となり、公衆の同情を要求するの權利がなくなるといふの聲が起つてくる。それのみならず、この態度はまた勞働組合の指導者自身によつて屢々摸倣せらる。

『訓練』が勞働の第一の義務であるとなすの推斷は資本家の道德である。勞働組合の指導者は『軍隊』の參謀本部ではなくしてたゞ『兵卒』の意思に從つて行動するために撰まれたそれの『僕』であるに過ぎない。

レバアフアルム卿の六時間勞働の萬能効は、勞働者の生活に閑暇の必要と價値とを承認する點において勞働の人權を承認してゐるように見える。けれども彼れは勞働についての眞の理解から遙かに隔つてゐる。彼れの到達せんとする主要な目的は、善き人生ではなくして能率の增進であるに過ぎない。

（七）

彼等の論議は要するに階級的社會の辯護であり、また社會を單に社會的に異る職能によつて區別するうへに更に權利の相異る程度に從つて階級に區別しようとするのである。

われ等はウヰリアム・モオリスとともにある。――『私は少數者のための教育を要求せざるがごとくに、また少數者のための自由を要求せざると同じく、少數者のための藝術を要求しない。』

（八）

產業上における民主的統制の要求は直接且つ論理上勞働の人格性の承認を伴ふものである。われ等がわれ等の頭腦から勞働は勞働者卽ち勞働力をもつてゐる人から抽出する何ものかであるとするの思想を除き去ることができさへすれば、政治的デモクラシーのための凡ての議論が產業上の領域において同一の力をもつて適用することのできることは明りである。われは屢々この點について政治と產業とは同一列ではないといふ議論、卽ち政治の目的は『善き生活』であるに對して產業の目的は『商品の生產』であり、從つて產業組織は一つの科學であり政治組織は藝術であるといふの議論を聞く。

產業の目的のうちには勿論『商品の生產』の意味が存在する。けれども政治の精神的意味は多く物質的必要のために並に物質的危險に反對して現はれる。國家が『善き生活』を進めてゆくためには、國家は學校生徒の給養のために、社會の肉體的幸福のために、合理的の衞生のために、物質上の安全のために、大に用意すべきものである。

精神的の價値は必然に主として物質上の形式において表現せられる。

われ等は產業組織がたゞ科學であるとするの觀念を捨てねばならぬ。またわれ等はそれを政治より以下に藝術であると思つてはならぬ。その意味は產業の目的が單に『商品の生產』でないといふことである。卽ちそれは『民主主義的條件のもとにおける自由人によつてのよき商品の生產』を意味する。

われ等をして產業をたゞに科學としてゞなく、共同生活の緊要な職能であると思はしめよ。かくする時は、われ等は直に勞働が抽象でなくして共同の務め（コンモン、サアヴホス）において協勞する人間であることを知るであらう。

產業上における奴隸組織は必然に政治的奴隸根性及び奴隸的社會を反影する。

然らばわれ等の希望は何れにあるであらうか？　男女の人格性のうちにあり、さうしてそれ以外の何もののうちにもない。

エンゲルスの人物と其思想

――カアル・カウツキイの著書に據る――

(一)

カウツキーはそのエンゲルス論の巻頭に書いてゐる。『一八五九年、八月六日に國際的勞働團體が倫敦から發せられた消息に依て驚ろかされた。其通知は、八月五日(月曜日)の午前十一時半に發せられたものであつて、フレデリック・エンゲルスが人事不省に陥つた事を報導したものである。

それは全く空谷の跫音ではあつたけれども彼と最も親しくしてゐた少數の友人の間には、同じ年の三月以來、瘤が次第に増大して來たので、軈ては彼の生命が覺束なくなるといふ事が解てゐた。――然し是等の人ですらも死が斯く迄に早いといふ事は到底想像する事の出來ない事であつた――』と。洵にエンゲルスの死は早かつた。而して、彼の死はマルクスの死と共に取扱はるべきものである。マルクスとエンゲルスとは共に勞働階級の國際的運動に於ける二人の精神的指導者である。

現在の日本はマルクスの天下である。然しマルクスの聲名が天地を壓する時、一人のエンゲルスを語る者の無いのは何が爲めであるか。――エンゲルスの事實が盡くマルクスの名の下に隱れた。社會的功名心を擲つたエンゲルスの崇高な事實がマルクスの名に依て覆はれた。唯それ丈けの理由である。――吾等は隱れたるエンゲルスを世の中へ引出さなければならぬ。マルクスに捧げられた畏敬と崇服の心をエンゲルスに向ても捧げしめなければならぬ。――尠くともそれをする事を社會運動に多少でも理解を持つ者の當然の義務である事を知らなければならぬ。

(二)

フレデリック・エンゲルスは一八二〇年十一月二十八日にバルメンに於て生れた。其一八一五年以前凡そ二十年

間、此地方は佛國領の一部を形成して、可成り濃厚に佛國西革命の影響を受けてゐたので、エンゲルスの幼時の頃は、革命によつて生じた思想か此地方に多大の勢力を有てゐた。

獨逸哲學も亦此時に於て高潮に達した。十八世紀の社會革命は、英國に於ては產業的革命となり、佛國に於ては政治革命になつたのであるが、獨逸に於ては其特殊なる事情のために思想革命になつて顯はれた。

而して、ヘエゲル哲學は其最も甚しいものである。ヘエゲル哲學は、その根本より革命的であつて、常に現狀の破壞を教つた。――ハイネ、フォイエルバハ、マルクス等は盡くヘエゲルの影響を受けた。――エンゲルスが又等しく其感化を蒙つた事は言ふ迄も無い。けれども、エンゲルスは多く經濟的智識を有したるが故に、彼のヘエゲル哲學は單純なる言語上の戲れでは無くして、科學的研究の方法となつて顯はれた。――彼は其始め經濟學を學ばんとして、エルベルフエルトの高等學校に入つたのであるが、軈て周圍の事情は彼をして商人たる可く餘儀なくせしめた。

然し、ブレーメン及びベルリンの商家に働ける間に於ても猶彼は其哲學研究を續けた。

一八四二年より四四年迄、彼は英國マンチエスターの或る會社に傭はれた。その會社は彼の父の關係してゐるものであつた。

(三)

彼が、進んで空想的社會主義の運動に參加し、又當時社會主義的ならざる勞働者の實際運動に投じたのは正に此間の事である。

其後暫くにして彼は獨逸に歸つた。彼か獨逸に歸る時、巴里に足を留めて、マルクスを訪問した。永久に絡んで離れない二人の運命の紐は此時より始めて結ばれた。

ヘエゲル哲學は、他の獨逸哲學の大部と等しく、觀念論である。從來の學徒に從へば、觀念は現實物の映像に非ずして獨立の存在を有てゐる。故に觀念の發達は事物發達の基礎を爲す。と。彼等二人は此說に反對した。

彼等はアイデオロジーに代ふるにマテリアリズムを以てした。爾來、彼等の著述が多く經濟的性質を帶ぶる樣になつた事は言ふ迄も無い。

此時エンゲルスは『英國勞働階級の狀態』を著はし、マルクスは一八八四年、其友ルージュと共に『獨佛年報』を發刊し、その第一章に『經濟學批評』を載せた。此『經濟學批評』は最も重要なものであつて、社會主義を經濟學の

上に建てんとした第一の企圖である。

エンゲルスは『英國勞働階級の狀態』に於てチャーチスト黨とオーエン派とに反對した。

當時、英國に於ける空想的社會主義卽オーエン派は一般に勞働運動の何たるかを解せず、同盟罷工、勞働組合、又は政治運動の意義に就てすら明確な智識を有てゐなかつた

(四)

當時、歐州諸國の間に秘密結社を造てゐる共產主義者の一團があつた。表面は勞働組合の形を爲して、處々に散在し、一八三九年以後は倫敦に本部を置き、次第に其勢力を增加したが、此同盟は忽ちにして、マルクス、及びエンゲルスの說を容認する樣になつて來た。

一八四七年の春、丁度、マルクスがブラッセルに在り、エンゲルスが巴里に在つた時此同盟に一人である時計製造業者のモルといふ人の訪問を受けた。モル氏は此同盟が從來の謀反的性質を捨て、新らしい理論的基礎の上に立つべきを條件として、二人の此同盟に加はらん事を要求した。二人は直ちに之れに應じた。一八四七年の夏、此同盟の第一大會が倫敦に開かれ、從來迄の秘密結社は今や公然の傳道團體となり、全然其組織を新にして、新らしく、共產主義同盟と銘を打つた。

此年の冬に第二大會が開かれ、マルクスとエンゲルスとは共に之に臨み、此新らしい基礎條件は殆んど全會一致を以て採用せられ、マルクスとエンゲルスとは公然に宣言の起草を委任された。——マルクスとエンゲルスの生涯が新時代に入つたのは此時からである。彼等は直ちに巴里に赴き、轉じて獨逸に入り、遂にコローンに於て日刊新らしく新聞を經營するに到つた。

此新聞時代に於けるエンゲルスの歷史に就て語らんと欲すれば、卽ち一八四八年に於ける佛蘭西革命の全部に就て語らなければならぬ。

一八四八年の革命運動は實に多大の謬見を生んだ。殊に經濟上及び政治上に未熟なる獨逸に於て此傾向は最も甚しかつた。紳士閥の革命的分子——小地主及び勞働者——は時の復古的政府を破壞するならば、天は直ちに地の上に來るべしと信じてゐた。而して、彼等は此鬪爭に依て獲得せられたる人民の自由が、聽て紳士閥と平民との間に於ける後日の大階級鬪爭の基礎を造るものなる事を悟らなかつた

一八四八年の革命は、反對の効果なくして終つたといふ事は吾等の屢々耳にする所である。然し乍ら、それは實に此謬見に基くものである。當時の人民は、勞働者、製造家、

及び職工等は皆共通の利害、共通の目的を有する同胞であると信じてゐた。而も其實彼等の結合は僅に眼前の專制政治を打破せんがためのみに形成せられた。而して、此革命に依て紳士閥と平民との對立は始めて示現せられ、同時に政治上に於ける小財產家の無力は表明せられた。

一八四八年の運動を貫通して流るゝ根本精神は實に此小財產家にあつた。而して、此運動の失敗は卽ち此階級の敗滅を意味してゐる。平民階級は到る處に彼等の爲めに戰て而も彼等に裏切られた。――此處に於てか彼等の間に始めて階級的自覺が生れて來た。小財產家は、經濟上にも、政治上にも、道德上にも此革命に依て一切の物を失つた。

(五)

一八四八年の當時に於て、此間の消息を明白に認識し得たる者は、唯僅に一個の新ライン新聞があつたばかりである。而して、彼等は國民間に汪溢したる此謬見を打破する事を以て其任となし、更に一切の舊制度破壞の爲めに力戰苦鬪を續けた。

然るに、自然の形勢は次第に進みつゝあつた。エルベルフエルト事件等が夫れである。

然し此事件は新ライン新聞の運命を決した。此新聞は五月十九日を以て其發行を禁止され、マルクスは國外に放逐せられ、エンゲルスはコローンを去るの止む無きに到つた。

それよりマルクスは巴里に赴いて民主黨の運動に參加しエンゲルスはバーデンに赴いて六月十三日の憲法戰爭に加はつたが、此戰爭の一敗地に塗れてより巴里の計畫も亦崩れマルクスは再び巴里を去て倫敦に逃げた。エンゲルスは一度び瑞西に逃れてゐたが、遂にゼーアより、ジブラルを經て倫敦に入つた。

同年秋、共產主義同盟の主要な地位を占むる人に、及び一八四八年の革命に於ける獨逸の大人物は大抵倫敦に嘯集してゐた。

一八五〇年、彼等は又新ライン新聞と題する月刊をハンブルグより出し、其他種々雜多な著述を公にした。(未完)

ロバアト・オーウエンの社會主義（二完）

甲野哲二

（四）

オーウエンは眞に勞働階級の幸福を求めた。彼はラニウ・ラナアリゴの施設で以て滿足することが出來なかつた。彼の眞の仕事はこれから始まるのである。彼の始めて社會主義に入つたのは千八百十七年である。下院の救貧法委員會に與へた報告は其始めである。當時大戰の影響に依る一般的貧困と貿易の不振とは大いに世人の視聽を集めて居た。而してオーウエンは斯くの如き憐むべき狀態に陷らしめた戰爭と直接關係ある諸原因を明かにした後に、困窮の永久的原因は機械と人間の勞働との競爭にあり其唯一の救治策は人々の團結を以て機械をして人間に從屬せしむるにあるを指摘したのである。

斯くて彼は其主義を實現する爲に共產的生活を必要としたのである。約千二百人以上の一隊を以て一千エーカーから千五百エーカーの土地に移住しすべてのものは共同の食物調理所と食堂の附いた一建築中に住居し、各家族は各其特別の室を有し、小兒は三才まで其家族により、其後は團體の手によつて養成せられ、兩親は食事其他の適宜の時に其子女に會ふの機會が與へられる。それ等の社會は個人、數區、一郡又は國家に依つて建設せらるべくすべての場合適當な管理人を置くこととし、勞働と其生產物の享樂とは共產的なるべきものとなした。

この團體の大さはニユウ・ラナアクの村から考へ附いた樣に思はれる。オーウエンはかゝる計畫が社會の改造に最も適するものであるとし、五百人から三千人の組合が最も勞働に適した團體で其職業は主として農業であるが優秀な機械を所有し、職業の種類を多くし出來る丈け自供自足のものたらしめんとした。換言すればそは一個の獨立した單位をなして、常に最良の教育と非利己的の教化とをな

し、都會と田舍との生活の利益を結び附け、產業的技術のすべての最近の進步を採用しながら職業の自由轉換に依つて工場勞働の單調を矯正しようとした。而してかゝる團體は數に於て增加するときは、其結合は十或は百或は千を以て連盟し、遂に、共同の利益を持つた一大共和國に全世界を抱擁せなければならぬと彼は語つて居る。

オーウエンは其共產的社會の建設を熱心に希望した。時は遂に來た。千八百二十九年オーウエンの弟子アブラム●コムブの指導の下に、グラスゴウ近くのオウビストンに於て新しい村は建てられた。オーウエン自らも北米インディアナ洲のニュウ●ハアモニーに其理想鄕を建設した。

オーウエンが其理想鄕を建設する爲に買取つた土地はインディアナ洲のワバッシュ河畔の地で其地は既にヂョージ、ラップ等に依つて建設せられた宗教的共產團の所有に屬して居たものであつた。時は恰度千八百二十五年の春、土地の廣さは三萬エーカーで其內約三千エーカーは已に耕地になつて居た。村には住居も整備して居り公會堂や工場なども出來て居た。オーウエンは十五萬弗で此所を買ひ取り理想鄕の建設に當てた。オーウエンの計畫を發表すると來り住するもの數週間に八百人に達し、千八百二十五年十月には九百人に達したとせられて居る。

千八百二十六年二月五日はこの理想鄕の憲法が制定せられた日である。其團體はニュウ●ハアモニイ平等村 "The New Harmony Community of Equality" と名附け、其第二條に於て理想鄕の大方針を定めて居る。

「村の會員は總べて一個の家族として考へらるべし、而して何人も其職業の故を以て高下貴賤の制を附せられざる可し。

「村には總べての人に向ひ其年齡に應じて、出來得る限り直に、同樣の食物、衣服及び敎育を供給することとなし、又實行し得らるる限り成るべく速に、總べての人は同樣の家屋に生活し總べての關係に於て同樣の待遇を受くべし。

「右會員は全體の利益の爲に男女を問はず其最善の奉仕をなす可し」

是の樣な大方針を以て建設せられた彼の理想鄕も僅かに二年餘の命脈を保つたに過ぎなかつた。千八百二十八年六月二十二日ロバアト●オーウエンは其村の失敗の結果村の人々に告別の辭を呈し次の金曜日に其村を去つたのである。

「余は、余の同胞をば迷想及び精神的墮落より救濟せんが爲に此新開國に於て實行され得べき所のものを試みんとの決心を以て、此地に來り、かくて若しも成功するならば其實驗は總ての人が之によりて利益する所の一實例たるに至るべしと考へた。……

……余は土地、家屋及び巨額の資本の使用を提供した。……

然るに實驗の證明する所に依れば斯かる目的に向つて以前敎育されたることなき多數の他人同志を集め廣大なる範圍に亘つ

て彼等共同の利益の爲に働かしめ且つ一個の共通の家族として共同生活を爲さしむるといふことは畢竟尙早の企であつた。：………。」

オーウエンは斯くの如く其共產的生活を回顧して居る。會員は雜多の人間から成立つて居た。彼等は感情を異にし、習慣を異にして居た。彼等の多數は團體の財產に對して、不注意であり、實驗其ものに對しても多くの興味を持つて居なかつた。會員相互の間にも十分の信任なく、仕事に勵む度合もそれぞれ相異したことが彼の共產村の失敗の原因であるとせられて居る。洵に、同じ北米のイマナ宗教團の共產村が其宗教的感情に依つて强烈に結び附けられ、其會員の選擇を嚴重ならしむることを考へ、非宗教的なカッペーの主義に基くものも、フーリエーの主義に基くものも共に失敗の歷史を有することに考へ及ぶときに、オーウエンの共產村の失敗の偶然ならざりしを思ふのである。人間の感は多數者の共產的生活に向つて居るのは事實であるけれど情もそは未だ少數の家族間のみに限れて居る狀態にある。

（五）

失敗後のロバアト。オーウエンは英國に歸來した。今やオーウエンは其共產村の爲に其資產を蕩盡し去つて昔日の如き富有の資本家ではなかつた。彼の共產村の失敗は環境の變改に依つて社會を改良するの不可能なるを思はしめ彼をして、昔日の志を投げ打たしめ、現在の社會の中に於て其害惡を刈除せんとするに至つた。彼の思想の重要な時期を畫する利潤廢止論と勞働劵使用論は卽ち是れである。

社會的害惡の根源は利潤である。利潤其ものの性質が取りも直さず社會的不公正である。何となれば勞働の生產物は其生產費に依て賣却せられなければならぬのに、利潤は生產費の內容をなさぬものであるからである。從つて利潤の存在は勞働者をして、其勞働の生產物丈の享樂を阻むことになり、利潤は社會的强者の爲にエクスプロイテションの對照となる。オーウエンは先づこの社會的寄生の事實をなくすことが第一の問題であるとした。

そこでオーウエンは利潤を絕滅し 併せて最も低廉に買ひ、最も高く賣ると言ふ樣な謬想を打破する組織を作らねばならぬと考へた。利潤は常に貨幣に依つて實現せられるのである。「實に鑄貨は多くの罪惡 不公正並に缺乏の原因であり、人格を破滅し、人生をして伏魔殿たらしむる有力な原因の一である。」故に、利潤を絕滅する爲には貨幣を無さなくてはならぬ。物の價値は人間のそれの生產に要した

勞働の分量であるから、價値の標準は勞働が最も適當であり、金銀の價値標準に代へるのに勞働を以てせなければならぬ。金銀の貨幣に代ふるに勞働券(Labour Note)を以てせねばならぬ。生產者が其生產物を他に賣らうとするときには彼は其生產に要した丈けの勞働時間の勞働券を與へられ、又消費者が或る生產物を購はんとするときには、彼は其物の生產時間に對する勞働券を交附せねばならぬ。斯くすることに依つて利潤は當然絶滅せらるるのである。

貨幣は害惡なりとする思想は決してオーウエンを以て始まるものでない。けれども其勞働券を以て貨幣に換ふべしとしたのはオーウエンを以て始めてとする。彼はこの發明を以て「メキシコ並にペルーのすべての金銀鑛よりも貴重なもの」であると考へた。然しこの考は各人の必要に應じて物を與へようとするオーウエンの共產主義的思想と合致するものではない、何となれば勞働券は明かに、各人の能力に從て支拂をなすものであるからである。けれどもこの制度はオーウエンが目的とした共產主義的生活の實現を尙早なりとして案出した妥協案であるから其矛盾に富むのは止むを得ない所である。

オーウエンはこの趣旨に基き千八百三十二年九月National Equitable Labour Exchange をロンドンに設立し、其初め八百四十名の會員を有したのであるが、勞働時間の計量の困難其他の組織上の不備の爲にオーウエンの企ては又しても二年後に之を中止せざるを得なかつたのである。然しこの制度の精神を汲んだ消費組合は今や全世界に廣まつて多くの利益を消費者に與へて居る。

千八百三十五年オーウエン主義の心服者は彼の「凡ての階級及び凡ての國民の協同」(The Association of all classes and of all Nations)なる新運動に對して初めて、「社會主義」なる名稱を附した。オーウエンの運動は失敗には終つて居るけれども其現世主義と共に尙ほ勞働者の心を支配して居たことは當時のウエストミンスター・レビユウの誌せる所である。そして、四十年にはオーウエンはフィルポッツ監督の起訴に依り宗教上の審判を受くるに至り、彼の社會改造の大望も一大頓挫を來した。其後オーウエンは漸次神祕論者となり從來抱懷した現世主義を拋棄するに至つたのである。一八五八年リバープールに開かれた社會學會會議の席上に一の講演をなしたが是れ彼の最後の公會の席に臨むだものであつた。彼は間もなく健康を害し、一八五八年十一月十七日八十餘の高齢を以て其故郷ニュウ・タウンに其尊き一生を終つた。彼は個人として、極めて、親切、正直で人間味に富み、其社會的事業に於て失敗を重ねたとは言

へ彼の精神は後世を支配した幾多のものを持つて居るのである。

(六)

オーウエン主義の價値如何を論ずる順序となつたが私は自ら其勞を取ることなくマルクス並にエンゲルスに依つて起草せられた共産黨宣言に之を求むる方がよい樣に思ふ。

「サン・シモン、フーリエー、オーウエン等の社會主義並に共産主義體系はプロレタリア及びブルジョアーの闘爭の未だ盛ならざりし時代に生れたものである。…………

「階級闘爭の盛ならざりし狀態は、彼等自身の周圍と共に此種の社會主義者をして、すべての階級的對抗よりも、彼等自身を優秀なりと思はしめるに至つた。而して彼等は、社會全員の、其最も良好な狀態に居る者の狀態をも改良せんと欲したのである。…………

「故に彼等はすべての政治的、殊にすべての革命的行動を退け、彼等の目的を平和的手段を以て達せんとし、必然失敗に終るべき小なる實驗並に實例の力に依り、新しき社會的福音への道を敷かんとしたのである。…………

「然しながら彼等の社會主義並に共産主義の刊行物には亦批評的要素をも見ることが出來る。彼等はすべての現在の社會の原則を攻擊したが爲に、勞働階級の啓化に對して最も貴重な材料に富んで居る。其内に表はれた實際的綱要例へば都會と田舍との區別の廢止、家族の廢止、私營業的產業、勞銀制度の廢止、社會的調和の要求、國家の職務を單に生產管理に變更するの主張——これ等の綱要は、其當時蒙昧として未だ一定の形態を採らざりし狀態に於て認められた、階級闘爭の絕滅を目的としたものであつた。故にこれ等の綱要は純然たる空想的性質のものである。

「批判的空想的社會主義並に共產主義の意義は歷史的發展に對して反對の關係を有する。現代の階級闘爭が其進展を見て一定の形態を採るに從つて其闘爭より離れた空想的立場、其空想的攻擊とはすべての實際的價値とすべての理論的根據とを失つてしまつたのである。」(1)

之を要するに、オーウエンの社會主義も亦時勢の產物である。如何なる偉人の努力も時にして熟さざれば其効果を顯はすことは難い。オーウエンの出づること五十年の後なりしならば、彼は又其思想に止まることは出來なかつたらう。フリードリッヒ・エンゲルスは空想的社會主義を批評して言つた。

「資本主義的生產並に階級的狀態の成熟せざる狀態に於ては亦——未熟の思想を生む。社會問題の解決法は當時猶は

其の未發達な經濟狀態の中に潜んで居たのであるが、彼の空想家等は之を人間の腦髓の中から產み出ださうと企てた。社會は悉く惡を現じて居る、此の諸惡を除くは卽ち道理の任である。故に一層完全な新社會組織を發明して、傳道の方法に依り及び可能なるときは模範的の實例に依り、外から之を社會に課する事が必要となつた。然るに是等の新社會組織は固より空想の運命を有したもので、其の細目が完備されればされる程、愈々益々純粹な幻想に陷るを免れ得なかつた。」と。(2)

(1) Marx & Engels Communist Manifesto. Kerr ed. PP. 53—55.

(2) Engels Socialism. P. 68.

附言。以上オーウエンの事業並に思想は、Kirkup. History of Socialism. Gide: History of Economic Doctorin. J D. Roger "Robert Owen" in Palgrave's Dictionaryof Pol-itical Economy. 其他三四の參考書に依て書いたものである。尙ほ、オーウエンの著書は(1)New View of Society 1813. (2) Observation on the Effec ts of the manufacturing System 1817. (3) Two memorials on behalf of the Working Classes. 1819. (4) The Book of the New moral World. 1841. (5) Life of Robert Owen. 1857. (6) The Human Race Governed without P-unishment 18[illegible]. 其他多くのものがあるが、他は略して置く。——一九一九—七—七　稿了——

私の立場

室伏高信

八月十五日、私は芝統一教會における學術講演會に出席し過激主義と社會民主主義との關係を學術的に講演するつもりで演壇に立らました所私の講演はタッタ一分間ばかりで臨場の警官から中止の要求をうけました。そのことを新聞紙で傳へられ、私も少からず迷惑に感ずる點がありますからこゝに批評の紙上をかり私の演說の全部（統一教會で陳述したゞけの）をこゝに掲げます　左のごとくです

『私は社會主義ではありません。社會主義者でないといふよりも私は民主主義者（デモクラット）であります。民主主義は社會主義よりももつと深い人間の精神であります。』

これが私の述べた凡てゞす。これより多くもなく少くもない。そうしてこの時講演は中止を要求されました。

私は默してその要求に從ひました。その時私は激昂せる聽衆を見ました。激昂せる聽衆と警官との爭を見ました。事件はたゞこれだけであります。（八月二十四日）

田中博士の『坐食權』を排すの誤謬

竹森一則

一

法學博士田中萃一郎氏は『新時代』の八月號に『坐食權を排す』といふ一論文を與へた。七頁に亘る其の論文の前半は英政府の失業手當に就て記述し、且非難した。また後半は英國勞働運動最近の狀況を記述し、且非難した。そして其の結末に於て、『階級鬪爭論者は富者の坐食を攻擊するが富者の坐食は必ずしも國家社會に迷惑を及ぼすもので無いが、貧者の坐食は必ず他の勤勉者流の膏血を吸收せねば止まぬ。我輩が社會主義者の生存權の主張に反對するのはその貧者の坐食權に歸着すべきが爲である。』と述べた。

博士の數千語は實に此の結句のために費されたものである。卽ち博士の全文は實に此の結句に現はれたところの思想を以て彩られなければならなかつたのである。否、博士は實に此の結句に到着する以前、最初から此の結句を振りかざして進んだのである。そして決して躊躇するところがなかつたのである。則ち博士は其の主題とした批判の對象に就て、何等疑問するところなく、考慮するところなく、最初から此の種の豫斷を以て出發したのである。其の故に博士の論文に對する私の反抗は當然に其處に出發する。先づ私は田中博士の『坐食權』とは何であるかを吟味し、また其の意味する『坐食』が何を値するかを明にしやう。そして其はまた實に博士の論文に對する私の批判のすべてをなすものである。要するに問題は、爰に來る『坐食』が排擊されなければならぬ『坐食』であるか否かの爭ひである。

二

然り而して『坐食』とは何であるか。田中博士はそれによつて何を意味したか。私は博士の數千語の中に於て遂に其の明確な意味を發見し得なかつたのである。英政府は休戰成立の結果として除隊解雇を行ひ、之に失業手當を支給し三月廿一日迄四ヶ月間に總額一千二百萬磅總員一千二

百萬人を算した。そして爾後毎週の支給額が二十九萬磅となり一年五十二週間には六千萬磅乃至六千五百萬磅を要する計算となつた。そこで英國には

『怠け者の言ひ草聴けば
ソッツ博士なんか馬鹿である
遊んで居れば一年に
五千五百萬磅
樂々せしめるこの景氣
眞面目なことを云はしやるな』

といふ『落首』が謳はれ、『是では勞働權では無くて坐食權の主張容認であるとの非難さへ起つた。』と、以上が田中博士の意味する坐食に就て考へ得るすべてである。そして博士の『坐食』とは失職手當によつて生活すること其れであると知り得らるゝのである。仍つて問題は失業は坐食であるか否か、失業手當は坐食權であるか否かの詮議の上に置かれることになる。

三

坐食を一口に定義し去れば、勞働なき生活である。衣食住のために勞働することなき生活である。されば失業者に於ての生活は當然に坐食のカテゴリーにあるものである。如何にも坐食をStaticに眺めるとさうである。坐食に共通をなすものは無勞働である。けれども私等は此の generality を以てすべての無勞働的生活を取扱つてはならないのである。何故なら、坐食には各持質があるからである。各の無勞働的生活には Individuality があるからである、卽ち其の原因的に見ては到底之を同一のカテゴリーにおくことを不能とする程に性質の相違するものがあるからである、爰に於てか坐食をDynamicに取扱ふことを要する。其の故に私は今坐食をcausalに見て、之を大まかに四つに分類して見るものである。

而して其の第一の分類に來るものは、身體に關する勞働不能である。老朽幼弱疾病廢疾等勞働不能の原因によりて勞働し自活をなす能はぬものが其の範圍に入るのであつて此の分類の狀態に於ては無勞働が必要なる條件である。そして其の無勞働の原因としては勞働不能があるのである。卽ち是れ可能的害惡であり必要なる坐食である。それ故に道德も社會的主義も此の種の坐食を承認し、彼等は坐食の權利を與へてゐる。卽ち私的にも公的にも社會は彼等に扶養の義務を負ふことになつてゐる。家族關係、慈善の形式、または養老金、恩給金、扶助料の諸制度に於て行はれるものが其れである。かくして身體的勞働不能者は坐食保障の形式に於て、其の生存權を確立してゐることが知れる。卽ち彼等の坐食の根抵には生存權 Right of existence

の哲學があるのである、フィヒテの言葉を借りていへは、『生きよ而して生かしめよ』の精神が其處に躍動し、そして支持してゐる。

次いで坐食の第二分類に來るものは、境遇に關する勞働不能である。其の身體は勞働に堪え、そして勞働の意志を發動してゐるけれども、勞働の機會を得ないがため坐食するものが其れである。或はよりよき勞働條件を得んがための勞働賣り控えの場合が其れである。即ち仕事を求めて得ざるが故の坐食または必要な競爭手段としての其れであつて、原因は一身に存するよりも社會事情に存することが多い。即ち彼等の坐食は勞働が適當に分配され居る社會關係に原因するもので、いはゞ社會的關係坐食を强制してゐるも同然である。即ち彼等にあつて、勞働によつて生活せんとするも、其の勞働が與へられざるが故に、其の勞働によつて生活することができないのであるならば、彼等は勞働の機會を得るまで坐食するの權利があつてよい。個人なり社會なり國家なりに扶助されてよい。なぜなら、彼等の無職無勞働は自由意志選擇の結果でなくして不可抗な社會關係の强制であるからである。即ち彼等に無職の責任を負ふべきものは其の種の社會關係をつくり出しつゝある社會全體でなければならぬからである。其の故に彼等の坐食は亦第一種の場合と同樣に正當となされなければならぬのである、彼等は其の背後に勞働權 Right to labour と生存權との二哲學を支持者として有つ。そして國家社會繁榮の上からいへば第二分類は第一分類と異り極めて vital である。一は死滅すべき劣敗者の保護であり、一は殘存すべき優良者の保護であるからである。私は兩者に其の樣な區別を設けたくない。けれども區別が必要な場合にはさうであるといふだらう。

次に第三の分類に來るものは、坐食のための坐食である。怠惰を好み遊逸を事とするための坐食である。即ち彼等は勞働忌避者であつて、自由意志の發動に原因するものなるが故に其の坐食は全く自己の負擔に歸すべきである。且つ道德上の非難は到底免かれることはできない。

而して最後に來る第四の分類としては、生活のために勞働する必要なき階級を擧げやう。資本家貯蓄家及び特權者の如きが其れで勞働の必要なきが故に、また勞働を欲せざるが故に坐食するのが其れである。現代に於ては此の種の怠惰的坐食は特權として認められ、道德上にもあまり多くの非難を加へぬのである。けれども私等の見解によれば、それは戒むべき不德であり罪惡である。私等は勞働し得べき能力と機會とを有ちて勞働せずに坐食するものはすべて之

を社會的不公正として排撃するものである。

以上私等にとつては、働かんとして働き得ざる第一第二の坐食が合理的であつて働き得て働かざる第三第四の坐食は不合理であるのに、田中博士は私等が合理的必要と見る第二の坐食即ち田中博士の場合によれば失業者による坐食を以て不當としてゐる。此の見解の相違は田中博士の思想的色盲による『坐食』の無差別に原因するのであるから、私は更に少しく詳しく第二の分類に就て述べて見やう。

四

資本と勞働とを分離し、そして更に勞働が勞働より分離し、商品として賣買さるゝ現代の產業組織に於ては、勞働者は其の勞働を提げて市に買手を見出さねばならぬのである。買手は勿論資本家の側に立つものである。賣買は自由に行はれない。そして不公正な代價で取引される。そこで勞働者は團體取引 Collective bargaining を行ふて資本家と對等ならんとする。其の戰法、其の强制手段として同盟罷業 Strike がある。之をスタテックに見れば坐食である。即ち怠惰と連らる。然しダイナミックに見れば故意の坐食である。即ち怠惰のためならず、更によりよき條件に於て勞働せんことを欲するものである。即ち坐食なれども勞働に連らなる。是れは普通の商取引に於ては商機であつて、不買は賣買價格吊上げの尋常手段である。そして隨意行爲として認められる。此の場合の坐食、怠惰はすべて時機の見合はせである。to wait for the best である。私は資本家も此の種の waiting をなすことを知る。そして爰には坐食に『求めて待つ』ことのあることを指摘しやう。しかも此の種の坐食は階級の存續する限り、級階鬪爭の手段として存續するであらう。

次には、初めて勞働界に出でんとして職を求めつゝある間の坐食である。また失業の故に就職口を求めつゝある間の坐食である。共に彼等は to wait for するものであつて to be lazy するものではない。同盟罷業の坐食に對しては勞働組合は罷業金 strike pay を以て其の坐食を支持してゐる。失業の坐食に對しては勞働保險または失業保險に於て其の坐食を支持してゐる。即ち尠くとも勞働組合の世界に於ては合理的坐食があるのみである。また失業保險の世界にも合理的坐食があるのである。

然り而して失業手當のみは何故に不當であるだらう。國家が其の必要に應じて勞働界に戰時動員を行ひ事實上の强制勞働、强制徵集を行つたのである。それが除隊を行ひ、解雇するに際し、即ち復員に際して、彼等が勞働の機會を得るまで、または準備するまで或は手當を受け、坐食の資

金を受けることがどうして悪いのであらうか。つまり、失業手當は國家が勞働契約を破棄するために負ふ賠償金である。そしてそれは、國家が雇主であると、資本家が雇主であるとの場合によつて變つたことはない筈である。勞働の機會に對する"waiting"田中博士の用語に從へば『坐食』それに保障を與へずして解雇し除隊することが果して公正であるだらうか。私は田中博士失業的坐食觀には根本的に大きな誤謬が横つてゐると思ふ。

五

失業とは、一度得た勞働の機會を失ふことである。卽ち彼れ勞働者にとつては、其の生存の唯一途なる旣得の或る勞働權を中止されることである。勿論其の原因には自己の原因もあならう。然し多くは雇主側の理由に於てゞある。私は其のいつれを問はず、能力ある勞働者は勞働によつてのみ其の生存權を保障されるものであると解するが故に、或る勞働に對する勞働權が自己の理由、或は他人の理由によつて中止されても、生存權と、この勞働權は中止されるものではないとするものである　元より勞働權は未だ社會權の一として存するだけであつて國法上の權利となつてゐるわけではないから法律上に權利として何者も要求できない。けれども文明國家は旣に職業紹介所、或は勞働取引所の必要を認め、且つ失業者保險をも實施してゐる。卽ち勞働權は漸次公法化せんとする傾向にあるのである。爰に於てか失業は保護され得べきものと解すべきであらう。無職は救はるべきものと解すべきであらう。而して失職や無職を救濟し保護するの最良の手段は授職である。卽坐に勞働口を見出してゆくことである。けれども其の機會を握る迄彼れ若し無資力なれは、彼れに求職のため坐食權を與ふべきではあるまいか。

國家は病弱、廢疾、老朽のごとき社會活力に關係なきものすら保護し、之に坐食の權を與へる。田中博士の思想によれば、之れ恐らく、有用なる社會の活力を殺ぎ來つて無用の贅肉、有害の廢疾を養ふものであつて最も排擊すべきものでなければなるまい。而して博士は恩給養老金、扶助料の極端なる排斥者でなければなるまい。果して博士は然るか否か。其のいづれにもせよ、有望有力なる勞働者を支持することは國家活力に活素を與へることであらう。從て勞働能力ある失業者の保護は國家第一の任務でなければならない。

私は失業的坐食に於て waiting を見る。preparedness を見る。そして其の原因に社會的關係を見る。卽ち功利的に彼等を養ふの利益をも見るのみならず、義務としての保護をも必要とするものである。のみならず、若し田中博士の所謂『坐食權』を認めざる時は其の背後に社會的擾亂が脅すであらう　此の故に英政府の失業手當を以て適當の處置として田中博士の新說に誤謬を認めるものである。重ねて博士の說を聞くを得ば幸甚。

マルクスの生涯（二）

ヴヰルヘルム・リープクネヒト

「獨佛年鑑」と關係して居る間に、マルクスは、彼よりも二歳程若いエンゲルスと知合になつた。さうして彼が英國に滯在して居る間今迄よりも更に強く唯物的觀念を得る樣になると同時に彼自身を全然ヘーゲルから解放した。二人は互に賞讃に値する程補足し合つた。二人はこれをよく理解して居た。さうして彼等の互に異なつてゐるにも拘らず、遊戯と仕事――政治と科學的の仕事――の同盟を形造つた。その同盟によつて彼等兩人は彼等の絶大な力を發揮し、發展せしめ、愈々益々これを堅固にした。

「獨佛年鑑」の休刊後マルクスとエンゲルスはハイネやエヴエルベツクや其の他の人々と共に巴里の Vorwaerts (Advance)に據つて協力した。彼等の新同盟の最初の宣言の一つとして彼等は「神聖な家族」を書いた。この立派なパンフレツト――今では全く絶版になて居ることを私は悲しむ――はブルーノー・バウエルやその仲間に當たつて居るのである。さうしてエンゲルスの言葉を借りて云へば「最近に於て當時の獨逸の哲學的理想主義が踏み迷つた形式の一つに對する諷刺的批評」である。

巴里に於て主として經濟學（といつては變だが獨逸では國民經濟學と呼ばれて居た、まるで經濟學に何か國民的なものでもありさうな工合に！）と佛蘭西革命の研究に沒頭して居たマルクスは同時 プロシア政府と不斷の筆戰を繼續して居た。プロシア政府は其の當時「市民王」の全能なる大臣にして且つフランスから追放されて居たギゾーを監禁することによつて復讐した。

マルクスは今やブラツセルに行つた。其處で彼は勞働者の倶樂部を建てることに盡力し。尚ほ"Deutsche Bruesseler Zeitung"に折々寄稿して居た。さうして彼の研究を續けて居た。千八百四十六年の自由貿易業者の集會に於て彼は自由貿易に關して一場の演説をした。それはその後パンフレ

ツトとしてフランス語で出版された。さうして彼はプルードンの「貧困の哲學」を反駁する爲に「哲學の貧困」を書いて既に完全なるマルクスを我々に示して居た。その書はたとへフランス語で書かれては居るが我黨の文學に屬すべきものである。ブラッセルに於てマルクスと彼の友達等は共產同盟に入會した。彼はこれより以前既に巴里に於てその會の首領達と交はりを結んで居た。マルクスにとつて革命は唯勞働者のみから起るべきものであるといふことが明かになつて居た。「ヘーゲルの法理哲學の批判」と題する彼の論文中に、彼は平民階級のみが獨り階級的法則を打破するものであるといふことを宣言した。何故なれば其處には何等の階級もなく從つて抑壓さる可き何物も存在しては居ないから、しかし獨逸に於ては經濟狀態は未だ充分に發達しては居なかつた。其處にはまだ第四階級なるものが存在して居なかつたのである。「第四階級は」と彼は書いて居る、「當に差し迫まりつゝある產業運動を通して獨逸に起りかけて居る。何故なればそれは自然に發達したものではなく、人工的に生ぜられた貧困である、それは社會の高壓によつて機械的に押しつめられた人間の塊ではなく、その痛切な崩解、特に中產階級の崩解によつて生ぜられたものであつて、それがやがて第四階級を形造つて居るので有る。

勿論自然的貧困と基督教的獨逸の奴隸階級が徐々としてその階級に入り込むことは自明の理である。」

これこそ當に胚胎された「資本論」の根本觀念！

共產同盟は千八百三十六年に於て巴里に居る獨逸の亡命者等によつて基礎を置かれた。「マルクスの入會する迄は、多少共謀的であつたその會は」と勿論その中に加はつて居たエンゲルスが書いて居る、「今では立派な同盟に變化して共產黨のプロパカンダに對する組織となり種々なる事情の下に獨逸社會民主黨の最初の機關となつた。その會は獨逸勞働者の俱樂部が存在して居る所には必ず存在して居た。英國やベルギーや佛蘭西や瑞西の殆んど總ての獨逸俱樂部に於て、さうして勿論獨逸に於ける多くの俱樂部に於て重なる會員達はこの同盟に迄屬して居た。さうして次第に進步して行く獨逸勞働者等の運動にこの會が與へた力は極めて重大なるものであつた。同時に我々の同盟は勞働運動全體の國際的性質と協調せる最初のものであつた。さうして英國人やベルギー人やハンガリー人やポーランド人を加入せしめ、國際勞働者の會合を特にロンドンに於て召集することによつて、實際運動を開始した。」

共產同盟の性質についてマルクス彼自身は度々この說明を繰り返して居る。それは主として「共產主義者の過程に

闘する開陳」及び "Herr Vogt" に於てである。
外國に於ける獨逸の勞働者倶樂部は千八百四十八年以前に於て眞に社會主義や共產主義の高等學校――と呼ばれて居たが――であつた。
「同盟の變化は」とエンゲルスは尚續けて云ふ――「千八百四十七年に開かれた二種の會議に於て完成された。その第二の會議に於て會の綱領を宣言書の形式に於てマルクスとエンゲルスによつて編纂され、發行されるといふことが決定された。」
これが千八百四十八年の二月革命の少し以前に初めて出版された「共產黨宣言書」の原案であつて、其の後殆んど總ての歐洲の各國語に飜譯された。
私は共產黨宣言を論じて居るのではない。それは近代勞働運動の親石であり、同時に彼の完本たる「資本論」のプログラムである。
宣言者はマルクスとエンゲルスの著作である。何がマルクスによつて供給され、何がエンゲルスによつて供給されたか? 無駄な質問よ! それば一個の型に作り上げられたもので、マルクスとエンゲルスは不二の魂――それは共產黨宣言書に於ても、又彼等の一生を通じての仕事と計畫に於ても分つべからざるものであつた如く、又彼等が人類のこの世に存在する限り、その仕事と創造に於て人類に貢獻した限りに於て。
さうして第四階級民の爲に、この宣言書を起草し、それによつて彼等の思想並に彼等の行爲を指導し、敎義と戰術の根本的原則を据えたこの榮譽こそ眞に巨大なるものであつて、これを各自の力に分配するも猶且つ大なる分前と言はなければならない。若しマルクスやエンゲルスが自餘の何物をも創造しないとしても、或は又彼等が豫言的靈覺を以て宣言書をこの世に投げ下した昨晩に於て革命の爲に犧牲となつたとしても、彼等は猶不朽の榮譽を獲得したのである。
宣言書は千八百四十八年二月の初めに現はれた。二月二十二日に革命の舊火口は十八年の休息の後再び爆發した。二月二十四日に七月王座(ジュライ・ローン)バスチーユ街に於ける七月柱(ジュライカラム)の前に燒かれた。さうして七月柱は再び短時間の間「自由の柱」となつた。
革命が勃發した。さうしてその回轉を始めた。ブラッセルに於て、それは嵐の如きデモンストレイションを引起した。これより先、彼の不愉快なるマルクスの永逗留を禁ぜんとするプロシア政府の種々なる要求を拒絶したベルギー政府はマルクスを縛して國境外に輸送した。彼は巴里に急

いで居た。それは恐らくその當時急進「改造」の主筆であり、假政府の黨員であつた彼の友達のフロコン氏が二月二十五日に彼を招待したからであつた。巴里に於て彼は速かに彼の取るべき態度を發見した。さうして全力を擧げてその出來事に加はつた。――しかし彼は騷擾を引起さんとするヘルウエーの企てに反對した。兎に角マルクスは永くそれを巴里で續けることを好まなかつた。獨逸からの樣々な報告か止み難く彼を故國に引きつけた。今や彼の革命的行動の領域が玆にあつた。彼は "Rheinische Zeitung" を繼續せんとする計畫を以て三月コローンに歸つた。さうしてその仕事は五年間中絶されて居たものであるが、今や五年以前に希望された革命の領土に於て實際運動となつて現はれたのである。"Neue Rheinische Zeitung" が現はれた。エンゲルスの外に彼のマルクスが「資本論」の中で "Casemate wolf" と書いたウイルヘルム、ウオルフ、又巴里から佛蘭西精神を輸入した "red wolf" とフエルヂナンド、ウオルフ、「伯林の秘密」の著者フエルヂナンド、フライリグラト、敏感な詩人にして機智に滿ちたゲオルグ、ウエルト――獨逸に於て斯くの如き腕ぞろひの編輯幹部を持つた新聞は嘗てなかつた。獨逸に對するプログラムはその後エンゲルスがその言葉の中に要約した。「分ち難き共和政體とボーランドの再興を含むロシアとの戰爭」

「その "Neue Rheinische Zeitung" は」とエンゲルスは書いて居る。「其の當時第四階級の立脚地を辨護する民主的運動の唯一の新聞紙であつた。さうしてそれは千八百四十八年の巴里七月謀反者等をたゆまずに防禦したのでみとめられ、その株主連を遠ざけだ。"Kreuz Zeitung" は彼の "Neue Rheinische Zeitung" が上は〇〇行政より下は巡査に至る迄あらゆる神聖なものを攻擊した「チンボラゾーの如き厚顏無恥」を徒らに指摘した。自由黨の Rheinische Phistrian は突然反動的になつて徒らに激昂した。コローンの軍法會議は千八百四十八年の秋に於て可成り永くその新聞の發行を徒らに禁止した。又フランクフルトの司法省は條令を出す每にその新聞紙條令違反を徒らに告發した。しかもその新聞は穩かに編輯印刷されて、その講談の範圍と名聲とが政府や紳士間の激烈な攻擊に比例して增加した。千八百四十八年の十一月にプロシアのクーディタアが續いて起つた時に "Neue Rheinische Zeitung" は每號の卷頭に納稅を拒絕し、暴力に對して暴力を用ふべく人民を煽動したのである。千八百四十九年の春に於てこれらの記事の爲に陪審官の取調を受けたが、無罪を宣告された。終にドレスデンとラインランドに於ける千八百四十九年の五月革命が

中絶せられ、バーデン及びバラチナーテに於ける暴動に對するフロシアの陣營が夥しき軍隊の集中に依つて開始された後に政府は "Neue Rheinische Zeitung" を暴力によつて停止することが出來るといふ力の自信を得た。」

千八百四十八年六月一日に "Neue Rheinische Zeitung" の初號が現はれた。さうして千八百四十九年五月十九日に廢刊號が出た。廢刊號は所謂 "red number" で、赤紙の上に印刷され、その卷頭にはフライリ、グラートの素張らしき詩が掲載された。彼は彼の最も力強き詩の數篇を "Neue Rheinische Zeitung" に出したのであつた。

Kein offner Hieb in ehrlicher Schlacht,
Mich faellten die Nuecken und Tuecken,
Mich faellte die schleichende Niedertracht.

正直な戰に於ける公然たる打撃によつてではなく、
私は夜密かに忍び寄る卑劣な
鈎によつて倒される。

（木蘇生譯）

トロツキーの新著

レオン・トロツキーは單に勞働者の實際的指導者であるばかりではなく、ヂヤーナリストとしての卓越した才能の所有者であります。彼れの『戰爭と國際黨』はよくこれを證明してゐます。彼れの著書として最近に英譯された『ロシア革命史』(The History of the Russian Revolution to Brest=Litovsk)に對しては流石に反過激主義の大立物ロンドン・タイムスでさへ彼れのヂヤーナリストとしての才能を稱讃せずにはゐられなかつたのである。否、單にヂヤーナリズムとしてゞはなく、また單にプロパガンダ用としてゞはなく、ロシア革命の眞相とその精神とを知るために、この書物は最も貴重な材料であらう(London, George Allen & Unwin)

○別所にて

秋花

信州は山高うして溫泉の宿に
鶯をきく八月の朝
避暑の宿の前のポストに文入れて
人待つ心淋しき心

流行兒十人（月旦）

△△△△

『論でも無ければ評でも無い。唯漫然とした感じである』――憖ういふ事を先づ明瞭りと理解して貰はなければ決して筆が執れるもので無い。

『一』

一榮一落の目に見えて凄ましいのは相撲と文壇とであります。――わけても文壇の傍系に位する評論壇の人にほど眼に見えて轉變の速い運命を持てゐるものは先づありますまい。けれども彼等は其轉變が速い丈けに、純粹文壇の人々が擔はされてゐる樣な慘酷な運命の暴虐からは免れる事が出來ます。而して純粹文壇の人々がタイムを離れて、唯驀らにイズムの世界にのみ生きゐ時に、彼等は、時代といふ背景なくしては生きる事が出來ません。彼等は常に轉變轉化する時の流れに依て其運命を繰られ無ければなりません。唯最近に於ては多くの評論家が、在來の評論家の如く、評論夫自身に生活の中心點を置かなくなつて來ました。夫丈けに彼等の生活は甚だ安全であります。――彼等の盛者は大學教授であり彼等の盛者は會社の重役であり、彼等の或者は社會運動を本職とする人であり彼等の或者は新聞記者であります。――かくて、時の流れから捨てられても彼等は猶他に多くの安住地を見出す事が出來るのであります。

『二』

一年前の流行兒は最早現代の流行兒ではない。一年前國民思想の指導者は最早や現代には要無き者であります。今其各時代を一瞥してみると大變面白いものがあります。昔は大抵の時代を通じて英雄專制でありました。一人の優れたる評論家の前には群小評論家は黎明の空に消えゆく星であつたのです然し乍ら。此最近十年の間に於ては、評論壇の封建時代は、全く其跡を絕ち多少優越性を有てゐるものがあるにせよ、實質以上に其優越性が誇大せらるといふ事はなくなつてまゐりました――其現代に於て流行兒のグループに入る者は、俄に之を指摘する事の出來ないのは、評論壇にいふ所が、其性質上文壇とは異て、實質――個人性の優越――といふ事よりも寧ろ、時代の流行を追ふ人々の歡迎される所であるからであります。而して、文壇の樣に、ある特定のイズムが其時代の中心勢力を握るといふ樣な事は無くして、時宜に應じて右から左に移ては左から右に移る。――從て評論壇程短くして長い生命を保ち得る所は無いとも言へます

一時にパッと燃える人には多く長い生命が無いのに反して、ヂミな質實な人には可成りに長い生命のあるのは、通じて何處でも同じ樣でありますが、評論壇に於て特に其著しきものがあります。

例へば現代に於て田中王堂だとか吉野作造だとかいふ人が割合に長い壽命を持てゐるのは全くこれがためで御座います。

今雜誌によく名前が出る事を以て其

人の背後に縊れる人氣を推定する標準として之を列記しますれば――田中、吉野の兩氏を除いて、河上肇、福田德三、中澤臨川、堺利彦、山川均、山川菊榮、賀川豐彥、杉森孝次郎等の諸氏で御座いませう。然し以上の人々を以て評論壇の代表者と見る事は絕對に不可能であります。人に依て夫に見る所を異にするし、實際に於て非常な卓見を持てゐながらあまり多く顯はれない人もあるからであります。

河上肇氏の人氣は其量に於てにあらずして、其質に於てゞあります。氏の評論は其法學士時代、社會主義評論―から始めて、現在の其獨舞臺「社會問題研究」に到る迄恰も築かれたるピラミツトの如く人氣と聲望とを出て登て來ました。唯物史觀の信奉者から見ると、氏の批評の背後を汪流する精神主義的傾向――それは氏が伊藤澄作氏の無我宛に投じた時から連續してゐる――が其態度を甚だ奏え切らないものにしてゐるといふ批難を浴びせかけられますけれどもそれは畢竟するに立場の相異であります。而して、其是非の判定は各人のテンペラメントによつて決する外に道はありません。

福田德三氏は河上肇氏と並び稱せらるべき人氣持者であります。兎に角此兩者はその學識に於て、其素質に於てあまり多くの類を見ない優秀な人々であります。唯其性質の相違に就て論ずれば、河上肇氏は生一本であります。之に反して福田氏は山氣があります。二人の立場に就て考察するも河上氏が可成り明瞭な社會主義的立場を固執し表明してゐるに對して、福田氏は甚だ曖昧であります。彼は常に兩刄の劍を用ひて、其敵の異る毎に刀の面を異にしてゐます。

『三』

中澤臨川氏は最近の評論壇に於て甚だ特徵多き立場を持てゐます。廣い學識と鋭い理解の所有者である點に於て彼は當に稀であります。

其前身は文藝評論家であつた丈けに單純な政治評論家に特有な大ざつぱなあまやかしがない。其キビ〳〵とした文章、文句と文句の間の快よく漂ひ流る音調、――左樣いふものが氏の評論に一つの輝きを與へてゐます。中澤氏の特徵は、研究の過程を尊重する事であります。氏は嘗て自己の結論を造り上げた事がありません。不用意に結論に到着する事が傑い事だと考へてゐる輕薄な大學敎授や、評論家先生の多い中に氏の如きは洵に寥大の星の如しとでも申すべきで御座いませう。その態度を最も卒直に語るものは中央公論八月號の「社會改造の哲學と人格的潜力」であります。その一節を次に掲げます

「――私の結論は簡單である。その何れの思想もが安全でなく、その何れを取入れるかは各人の氣質に依て決するほかはない。かやうな思想は思想そのものに價値を有するのでは無くて、それが行爲に顯はれて始めて實を結ぶべき性質のものである。」

以前、氏に對して單なる外國思想の紹介者といふ言葉を以て罵倒した人々のあつた事を記憶してゐますが、左樣

いふ「批評」は正當に成立するには相違ないにしても、それは中澤氏の恥辱でも何でもありません。現代日本の何人が外國思想の紹介者でないでせうね唯彼等と中澤氏との相違は、不忠實なる紹介者であるのと　忠實なる紹介者であるのとの相違であります。

堺利彥氏は評論壇に於ける優秀なる技術師であります。其上に氏が社會主義運動の中堅であるといふ所から、一種の恐わもてがあります。その文章の輕妙さは一寸類がありません。

山川夫婦は何と言ても現在評論壇に輝く宵と明の明星であります。現在に於て東京の學生間に於ける均氏の人氣は素晴らしいものであります。菊榮氏の事に就ては改めて喋々と申す迄の事もありません。均氏は今暫く評論の筆を避けて、その平常の蘊蓄を傾けて一代の大著に從事してゐられるそうです無政府主義者としての其勇敢なる立場が青年の人氣の中心であることは止むを得ない事だと思ひます。

『四』

賀川豐〻氏が日本の勞働運動に貢獻した功績は甚だ見るべきものがあります。自ら神力の貧民屈に住んで、勞動者と共に生活してゐる氏の立場が如何に徹底したものであるかといふ事は申すまでもありません。――それよりも氏に就て一番尊く思はれるのは恁ふいふ人々の中で飛び離れた人間味、藝術味を豐富に持てゐられるといふ事です

杉森孝次郎氏の事に就ては何にも書く事が出來ません。氏の書かれたものは嘗て讀んだ事もなければ、又讀まうとした事もありません。唯知るのは、氏が早稻田大學の教授である事と、その大學の中で若い學生連に例の懸賞論文で有名な帆足理一郎氏と共に非常な人氣を蒐めてゐられるといふ事丈けです。流行兒といふ以上は先づ雜誌に最も頻繁に名前の出る人を擧げなければならないので氏のお名前を拜借したわけです。

ざつとこれ丈け書きました。――要するに流行兒なんといふものはドウセ錄なものでないといふ事を今明瞭りと感じてゐます，雜誌に名前が顯はれるといふ事は要するに彼等の其素質に於て輕卒なヂャアナリストである事を物語てゐます。(八月二十五日)

▲社會主義と婦人（ベーベル著）

これはオ！ギユスト・ベーベルの婦人論を譯したものである。譯したといふほど正確な仕事ではないが原著の臭ひのするたけでも出版の價値はある。しかく原著は貴重なものである。一讀することは是非必要なことである。譯文も中々よく書けてゐる（三田書房發行）

危險區域の人々

一

■日本の警視廳には所謂注意人物の名簿があるさうだ。その名簿は甲乙丙丁の順序に岐れ、その又甲乙丙丁の間に又上下の區別があるさうである。

■思想的にラデイカリストと稱せらるべき人々が盡く此名簿に名前を刻み込まれる光榮を擔てゐる事は言ふまでも無い。そして、一度び此名簿に名前を印せられたる者は日本現行の○○○○○○○○○○先づ無限に注意人物の醜名を殘さなければならぬ約束になつてゐる。今の急進思想家か全く問題にしてゐない永井柳太郎すら、其學生時代に青年社會政策學會の幹部の一人として社會運動に從事した事があるといふ丈けの理由で警視廳の注意人物とされた。爾來數年、彼が英國に學んで歸て來て早稻田の教授となつてからも猶彼は屢々刑事に附き纏はれた。其擔任の講座社會政策の時間には、學生に非る學生が屢々ノートにペンを走らせてゐる事があつたさうだ。――その彼の名前が警視廳の名簿から完全に除き去られたのは早大の御大大隈重信が日本の宰相たる印授を帶びた時からである。

■私が今此處に、稱して危險區域と爲すのは言ふ迄も無く警視廳の名簿を標準にしての事である。

二

■現在の日本で思想的分類を爲す時、急進思想と名くる渦卷を解剖すると大體三個の潮流のある事が解る。その第一は、無政府主義である。その第二は社會主義である。その第三は民主々義である、言ふ迄も無く是等のものの更に岐れたる流れや 全く是等のものに屬せざる新らしい流れのあることは事實であるが大體に於て斯の如く區分する事は至當である。

■その危險區域に於て最左端には勿論無政府主義であり、最右端は民主々義である

■最左端に屬する人は大杉榮である。大杉は無政府共產主義者と言ふよりも寧ろ個人的無政府主義者と言ふに近い。――而して彼が勞働運動の上に於てはサンデイカリストである事は注意すべき事實である。

思想が最左端に屬する丈けに大杉に對する監視は最も甚しい。聞く所に依ると今度内閣が變つてから多少の周圍の情勢に動かされて警視廳の方針が變更し、爲に今迄尾行巡查を附けられた人にも大部分其監視の眼から遠ざけられてゐるにも係らず、大杉丈けは十年一日の如く、或は二人、或は三人の尾行に附纏はれてゐる。而して、大杉に對する○○○○○○○○○○極めたもので、其出版を○○○、其旅行を○○○、其生活のあらゆる部面に喰び入つて彼の○○○○ゐる。最近の訴訟事件の如きは明に其一適例である。然しその事に就ては本論の目的に離れるから多く言ふ事を避くる何れにせよ、大杉は幸德秋水以來の注意人物である事は疑ひは無い。

■彼は其前半生 ― 尠くとも平民社解體後に於ける――を文壇に過した。而して、彼の文壇的生命は大體近代思想と早稻田文學とに依て保たれた。然し早稻田文學は大杉君に依て屢々(發賣禁止)の憂目を見なければならなかつたことは言ふ迄も無い。或意味に於ける彼の知己相馬御風があつた事が彼に多くの便宜を與へた。

■大杉の近代思想は二卷迄續いて廢刊され

た。雑誌は非常な人氣を以て迎へられてゐたに係らず之を發刊しなければならなくなつた事は返す返すも遺憾であつた。其主たる理由は、雑誌の經營者であつた大杉荒畑の二君が、文藝といふDream Masturbation に隠れてゐることが堪え得られなくなつたといふこと、――實際運動に對する熱情が到底彼等をして現在のごとき曖昧の天地を彷徨せしむる能はざるに到らしめたこと、――唯これ丈けの理由に依て彼等は潔よく近代思想を捨てゝ平民新聞を創立した。然し乍ら、○○なる○○手は彼等の○○○○事業をして、再び起つ能はざる迄に○○し盡した。三號にして潰れたる平民新聞の運命は又同時に大杉荒畑二君の運命であつた。

三

■大杉は飽迄も英雄的である。彼は自ら稱する如く常に『强がり』を主張する。これに對して荒畑君は熱情的である。彼は理性より感情に勝つ。

■嘗て大杉が神近市子事件に依て天下の非難を蒙つた時、彼の同志中には『大杉の運命既に極まれり』と罵した者もあつた。所が妥んぞ知らん、社會的批難に對して捨身になつた大杉は、その極まつた運命の中から更に新らしい運命を開いた。――あらゆる障碍に突當る毎に其力を極度に顯現してゆく力をもつてゐる。

■荒畑は鼻柱が强い割に前へ進んでゆく力が乏しい。これは主として彼が感情に生くる人である事の證左である。

嘗て、土岐哀果、柴田勝衞の機關雑誌生活と藝術が發行されてゐた頃、同誌上に於て楠山正雄が『ハプスブルグ家の終り』といふ論文を書いた。その中に社會主義者を可成り辛辣に批難攻撃した箇所があつた。――此一文が同誌にも相當に深い關係を保てゐた若い荒畑を激昂せしめた事は言ふ迄も無い。其後一二回論戰が續けられた後、生暖い手段では到底我慢のし切れない荒畑は、直ちに楠山に向て公式に對決を申込んだ。そこで楠山もそれを承認し、雑誌の關係者といふ立場から土岐、柴田の二君が世話役となり、更に立會に堺、大杉、和氣(律)安成の四君を加へて、カフエー鴻の巣(多分左樣だつたと覺えてゐる。)の二階で對決が行はれた。けれども文章の上で猛烈な意氣込みを見せた荒畑君は決して對決の勇者ではなかつた。直ぐに激昂してプレゼンス・オブ・マインドを忘れてしまふ荒畑は、楠山と論戰するに當っても、憎惡が先に立て冷靜な論理の爭を忘れ易かつた。

■從てこの對決も全く曖昧模糊たる中に終てしまはればならなかつた。――荒畑の歌に、『會文社其處も長くはつとまらず、わが飽き性ぞかなしかりけれ』といふのがあるが荒畑の感激性は恁ういふ所にも明瞭りと顯はれてゐる。彼は今雑誌『赤』の編輯者であるが運動に對する情熱の煮え沸いてゐる彼にとつては其處も決して長續きのする所では無いであらう。

■山川均は矢張り大杉と同じ線路を歩いてゐる人である。大杉が社會學者である事に對して山川は經濟學者である。山川は其青春時代を經濟の書物ばかりを繙いて暮したといふ人丈けあつて其頭は大理石の樣に冷靜である。然し彼の冷靜は燃ゆる樣な焰を中に包んだ冷靜である。彼は最初同志社に學び、後上京して齡十九歳にして守田有秋と共に獄に下つた。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（つゞく）

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部 廿二錢	五厘
半年分 一圓廿錢	税共
一年分 二圓卅錢	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金 ▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替 ▲外國行郵税十錢

大正八年九月一日印刷納本
大正八年九月一日發行

編輯兼發行兼印刷人 東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館 尾崎士郎

印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地 株式會社博文館印刷所

發行所 東京市京橋區元數寄屋町三ノ一成勢館 批評社 振替東京四五三四六

廣告

半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田 東京堂 上田屋
▲京橋 東海堂 北隆館
▲日本橋 至誠堂

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年十月一日印刷納本　大正八年十月一日發行
（定價金二拾五錢）

十月號（第八號）

勞働組合主義
第四階級主義
サンキー報告（全文）

批評社

室伏高信著

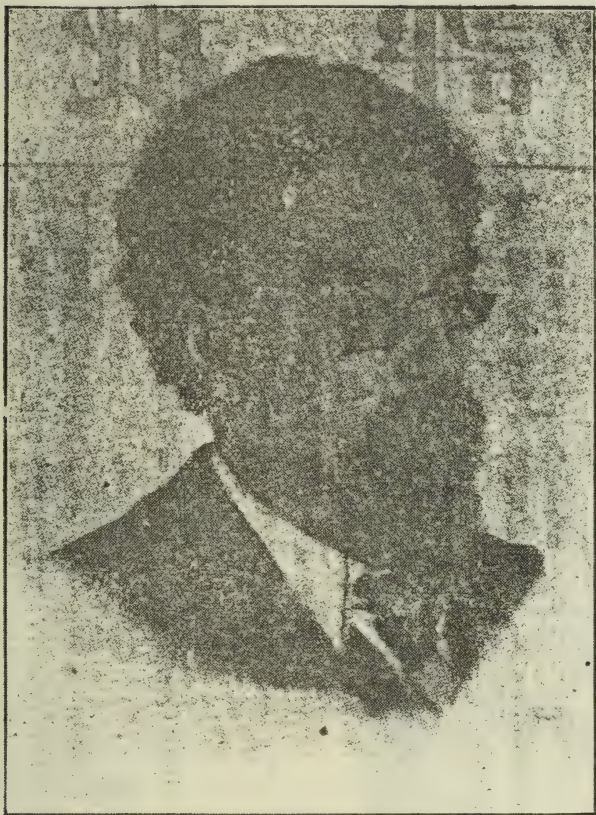
十月中旬出版（四六版四百頁）定價約貳圓

現代を彩る新著！

社會主義の『怪物（スペクトル）』は世界を襲ひつゝある。これを好むと好まざるとにかゝわらず社會主義について正しき知識と判斷とをもつことは現代のあらゆる階級の人々にとつてヴアイタルのことである——本書は著者室伏高信氏が廣き知識と學者的研究と鋭どき批判力とをもつて書き上げたる社會主義の一大新研究であり、またその卓越したる批評である

發行所 東京市京橋區銀座三丁目二十七 振替東京四五三四六番 批評社

批評

十月號　目次

From a drawing　　　　　　　　　　by Fessie Holliday

Sidney Webb, in 1909

シドニー・ウエッヴは今年五十九歳、ロンドン大學の元老にしてまたフエービアン協會の中心勢力である。職工組合主義の研究者としてまた英國勞働黨の知識的指導者として現はる。その二大名著「勞働組合主義の歴史」及び「産業民主々義」は歴史的のものとされる。

勞働組合主義の批判

室伏高信

勞働組合[1]『Trade Union, Gewerkschaft, Syndicat Ouvrier の起原についての二つの說がある ブレンタノの說くところとウエッヴの說くところがこれである。ブレンタノに從へば勞働組合の起原はギルド Guilds [2]にある。『勞働組合は古るぎギルヅの相續者である』。ブレンタノはこう述べてゐるのである。[3] また彼れに從へば獨逸種族が固着の住所に定住した後に、一定地域に住んでゐるその家族が共同の犧牲的集合において結合した。彼等は原則として共同の食事をなした。これ等の結合からしてギルドと呼ばれることとなつた。さうしてこのギルドには三種類ある。その一つは宗教(または社會)ギルド Religious (or Social) Guilds である。宗教ギルドは『宗教上のミステリーを尊敬し且つ聖者のためにする』集團であるとされてゐる。[5] 次ぎは都市(または商業)ギルド Town (or merchant) Guilds である。その三は同職ギルド Craft Guilds である。このうち都市ギルドは商人を中心とするものであり、クラフト・ギルドは工業に從事するものを中心とするものであるが、都市ギルドにしても、必ずしも職人を排斥するものではない。市民權を有する職人はこれに參加を許されてゐたのである。從つてこの二つのギルドの區別は除々に行はれたものである。[6]然らばクラフト・ギルドとは何んぞや。自由手工業者がギルドを組織するに至つたのはブレンタノに從へば、彼等が都市貴族の專權に對して自ら保護せんがためである。[7] さうしてこのクラフト・ギルドから勞働組合が生れたとするのがブレンタノの立場である。これに對してウエッヴは全然反對の立場をとる。即ちウエッヴに從へばギルドの中心となるものは賃銀勞働者でなくして親方と稱する雇主で

あつて、この親方がギルドを支配してゐるものであるが、勞働組合はこれと全く性質を異にし、純然たる賃銀勞働者の團體であるが故に、勞働組合とギルドとはこれを混同すべきものでなく、またギルドが勞働組合の母となることはできないといふことである。(8)

(1) Trade Union, Gewerkschaft は職工組合とも譯されてゐる。また英語では Trade Union のほかに Lobour union といふ言葉が用ゐられてもゐるから、これを勞働組合と譯すことは面白くないといつてゐる人もあるようであるが、勞働組合といふ文字は一番に汎く用ゐられてゐるようでもあり且つ『職工』といふ文字の響きがあまりに狹いと思ふから私は多數の使用例に倣つて『勞働組合』の譯語を用ゐることとする。

(2) Guild または Gilde の字義についてはブレンタノ『ギルドの歴史及發達並に勞働組合の起原について』P.XIII 參照

(3) Julo Brentano, on the History and Development of Guilds and the Origin of Trade-union, P.101

(4) ibid.,P.17

(5) ibid.,P.19

(6) ibid., P.43

(7) ibid.,P.54

(8) Sidney and Beatrice Webb, The History of Trade unionism, PP.11——56

（二）

勞働組合主義 Trade Unionism, Gewerkschaftsvereinigung とクラフト・ギルド主義との間に多くの類似點の存在するものであることはブレンタノの指摘してゐるとほりである。(1) けれども類似點の有無からのみ論ずれば、勞働組合

に類似點をもつてゐるものは獨りクラフト●ギルドだけではなくして、ウエッヴの指摘してゐるとほり、共濟組合もまた勞働組合に多くの類似點をもつてゐます。(2) それゆゑにクラフト●ギルドと勞働組合との類似點の有無は、少しも勞働組合の起原を明らかにすべき理由となるものではない。中世のギルドと、近世及現代の勞働組合との間にはウエッヴの指摘してゐるとほり、その性質において全然――少くとも重要な相違點をもつてゐるものである。この相違點は根本的のものである。ギルド●ソシャリズムの要求する國民ギルド National Guilds にしても、それと中世のギルドとの間には根本的の相違がある。これ等のもの丶間にある種の類似點特に形式上の類似點の存在するとの理由によつて中世のギルドと近世及現代の勞働組合とが母たり兒たるの關係のあるもの丶ごとくに論ずる人は、そのもの丶根底に横はる深き精神について盲目なる人々であるに過ぎない。それは丁度慈善と社會主義とを混同し、仁政と政治的デモクラシーとを混同したものと同じ程度においての驚くべき誤謬である。否な、既に中世のギルドと近世及び現代の勞働組合主義との間に根本的の相違點があるものとすれば、この二つのもの丶關係について穿鑿すること自身があまり重要なこと丶は思はれない。われ等が勞働組合主義の研究の上において重要なことは、それの發生及び發達を促した根本理由である。根本理由とは何んぞや。産業革命がこれである。いふまでもなく産業革命の前に於ても、勞働組合に類似したる團體がないことはなかつた。前にも述べたクラフト●ギルドのごときまたは職人組合 Journeymen fratternity のごときがこれである。けれどもクラフト●ギルドはどこまでもギルドであり、職人組合はどこまでも職人組合であり、從つて勞働組合そのものでない。先づギルドについて見れば、ブレンタノの主張してゐるとほり、それは中世における自由民が貴族に對してその利益を防禦せんがためであり、または職人が自由民に對してその地位を擁護せんがためでのものであり、何れにしても中世の政治及び經濟的組織に特有なる産物であると見るべきものである。(3) 職人組合にしてもそれは『いろ〱の工匠がともに會合し、その親睦と眞實なるクリスト教的慈善とを增進せんとする

るものであつて、漂浪者(トランプス)を救劑し、賃銀の増加を討議することのあるにしても、[(4)]それをもつて未だ勞働組合そのものであると見ることのできないのは勿論である。否、この職人組合から一轉して勞働組合が生れるに至つたにしても[(4)]それをもつと勞働組合と職人組合とを同一視することを許されるものではない。職人組合もまたクラフト●ギルドと同じく中世經濟組織の反影であると見るべきものである。

（1）Brentano, op.cit., PP.101-135

（2）Webb,op.cit., P.18

（3）ibid.,P19

（4）ibid., PP.22-3

（二）

クラフト●ギルドまたは職人組合が中世の政治的または經濟的組織の産物であるごとく、勞働組合主義は近代の政治的及び經濟組織の反響である。ウエッヴは職人組合について研究した後に次のように論結する『凡てこれ等のもの（職人組合）は同一トレードの職人が會合するの機會であつたに過ぎない。彼れ等は十八世紀においては、十五世紀または十七世紀におけるよりも、却つて賃銀勞働者の永續的組織を樹立することを明らかにしなかつた。賃銀勞働者の永續的團體の發生の原因の主要なるものはこの世紀に特有なるあるもの丶うちに存在してゐなくてはならない。勞働組合主義の基礎的條件は、ある種の産業が經過しつ丶ある經濟的革命のうちに發見する』と。[(1)]卽ち勞働組合の原因をもつて經濟革命にあるとなしてゐるのである。經濟革命とは何んぞや。機械の發明とその影響である。機械の發明は十八世紀における最も重大なる出來事である。先づチョン●ケエが一七三八年に『フライ●シャットル』を發明し

たのを初めとしてハアグレーヴスの多軸紡績機は一七七〇年、アークライトの『ウォータア・フレーム』は一七六九年クロムトンの紡織走錘精紡機は一七七九年、ホヰットニーの綿繰機は一七九二年、ヂェームス・ワットの蒸汽機關は一七六九年に發明された。これ等の機械の發明が産業革命を導いたものであることはいふまでもないことである。この十八世紀の中葉以後における機械の發明の結果、第一に影響をうけたものは工業職人である彼れ等は初めはその技術によつて獨立の生産者であつた。ところが機械の發明の結果は、最早や年期奉公によつての技術によつて獨立の生産者であることはできなくなつた。彼等は獨立の生産者であることの地位から終身賃銀勞働者の地位にと落された。即ち生産機械をも、仕上げ商品をも所有することのできない賃銀勞働者の地位に落されたのである。『この時からして事業を經營するためには職人が數年間で容易に畜積することのできるものよりも多くの資本が要求された。ギルドの管理とは名ばかりになつた、……熟練だけでは無價値である。さうして直に資本の助力をうけねばならなくなつた。』ルドロウはこう述べてゐる。[2] その結果は資本の所有者とこれを所有せざるものとの分離とならざるをえない。こゝにおいてルドロウは直に勞働組合の發生がこの關係のうちに存在するものであることを指摘する。彼れは次のように述べる『かくして雇主と被傭者との對立が始まる。さうして後者がともに團結を始める。かくして勞働團體が起る』と。[3]『勞働組合主義の歴史』に擧げられてゐるところによれば、イングラム博士もまた近代における勞働者の團結はこの資本の機能と勞働者との分離のうへにその成立の根本理由をもつてゐることを主張してゐる。[4] これ等の主張に反對するものは、工場の成立の以前に、勞働組合の存在したことの事實を指摘する。けれどもそれ等の事實例へば裁縫職人の組合のごときものは既に一七二〇年においてその親方裁縫師(マスタア、テーラア)と對立してゐるの事實があるにしても、夫はまた終身賃銀勞働者が單に工場に於てのみ存在するものでないことを示すに止まつてゐるものであつて、經濟組織の變化と勞働組合の成立との關係を否認するの理由となるものではない。即ちこの裁縫職人がその技術によつて獨立の生

産者たることができなくなり、彼等が終身賃銀勞働者の地位に落さるゝこととなつてから、永續的の賃銀勞働者の團體が生れることになつたのである。(5) ウエッヴは勞働者の永續的團體が資本の所有者と賃銀勞働者との分離の結果であることについて幾多の事實を指摘してゐる。(6) さうして次のように論結してゐる。勞働組合主義が生産機械の所有者と勞働者との分離とに結び付いてゐることの主要なる事例は工場組織の出現とともに勞働者の團體が急速に起つたことにおいて知ることができる。われ等は既にヨークシャイアにおける勞働組合が工場の設立並に動力の使用とともに始まつたことを見た。……この勞働組合主義が、勞働者の生産手段の所有からの分離のうへに立つてゐるものであることの積極的の證據は、この分離の行はれなかつた工業において永續的勞働團體の存在しなかつたことによつて補足せられる。中世の組織の破滅とともに熟練職人の生活標準の低下したことは各種のトレードにおいてみな然りである。けれども勞働組合主義はたゞ資本と勞働との間における分離の行はれたところにだけ起つた』と。(7) かくして勞働組合主義が資本と勞働の分離から生れたことは明白である。卽ち經濟組織の革命、近世經濟組織の發達とともに生れ且つ發達したものであることを知るのである。

(1) Webb, op.cit P,24

(2) J.M. Ludlow, in article in macmillan's Magazine, February, 1861 (Webb,op.cit.,P.25)

(3) ibid.

(4) J.K. Ingram,Work and the Workman, 1880

(5) Webb, op.cit., PP. 25-7

(9) ibid., 25-33

(7) ibid.,PP. 33-5

（三）

勞働組合主義は英國において最も早く發達した。獨逸において勞働組合の生れたのは十九世紀の中葉であり、フランスにおいては一八八四年に始めて勞働團體が公認せらるゝことゝなつた。それに對し英國では既に十八世紀において勞働組合の發達を見、その勢力の增大について、一七九九年及び一八〇〇年に組合禁止の法律が發せられたが、この法律は勞働者の團結を禁止することはできなかつたのみならず、それは秘密結社に變じ、且つその戰鬪方法が益々險惡とならざるをえなかつた。その結果は一八二四年ヒュームの發議に基いて結社禁止令の廢止案は議會を通過することゝなつたのである。[1] かくして英國は大陸の諸國に比べると勞働組合の發達において著しく早かつたことを知るのである。これは英國において產業革命が最も早く行はれたことの結果である。また產業革命の早く行はれた英國において早く勞働組合の發達を見、大陸就中フランスのごとき小企業國において勞働組合の發達の非常に遲かつたことは勞働組合が產業革命と必然的の關係をもつてゐることの證據でなくてはならない。

（1）一八二四年の勞働者團結禁止令廢止の結果同盟罷工が著しく增加したため翌年になり資本家側の運動によつて禁止令の一部が復活することゝなつたが最早や全然勞働者の團結を禁止することはできなかつた。

（四）

產業革命の影響は、マルクスの唯物史觀に多くの裏書きを與へてゐる。卽ち經濟生活における生產手段が人間の政治的、社會的生活關係を支配したのである。人間の政治的、社會的、經濟關係に於ての自由放任主義 Lais'' sez'' faire' の成立がこれである。この自由放任主義の經濟的方面として われ等は先づ契約自由の制度を見るのである。是れよ

り先き、勞働者と雇主との關係は契約の自由を認めらるゝことなくして、勞働者のうくべき報酬並に勞働條件は國家と公共團體または公の組合の決定により或は慣習により定められてゐる。契約自由の原則が公認されることゝなつてから、勞働者は自由にその雇主と勞働條件を契約することができた。けれどもその自由とはたゞ法律上の自由だけである。その法律上の自由は所有階級の勃興とゝもに起り、また所有階級の勃興に自由を與へた。所有階級は機械の所有者として經濟上に優越な地歩を占めてゐる結果として自由にその所有慾を滿たすことができたのに對して、勞働者はその安賃銀を契約することのほかには資本家に對抗する道がなかつた。彼等はその經濟上の弱者としての地位を保障せられる何ものをもつてはゐなかつた。政治上の權力もまた所有階級に集中せられて『勞働者には國家なし』との『共産黨宣言』の立場はこの時代の勞働者に正しく當箝まるものがあつたのである。けれども勞働者が迫害をうくるとゝもにまた勞働者のためのまたは勞働者によつての諸運動の發達したことも自然の結果でなくてはならない、社會主義、無政府主義、勞働組合主義はこれである。

（五）

社會主義も無政府主義も勞働組合主義もみな第四階級のうへに立脚したものである。自由民主義に對しての第四階級主義 Proletarianism であることの點においてはみな一つであるといひえられる。そのうち無政府主義は單なる思想としての勢力は常に侮るべからざるものがあつたが、實際運動としての無政府主義は、それが勞働組合主義と結合し、或は勞働組合を征服してその指導的精神となるに至るまでは全く孤立した運動であり、暗殺陰謀のほかに、多く世間の注意を惹くこともなかつた。それが實際運動としての勢力を組織したのは勞働組合主義との結合卽ちサンヂカリズムとして現はれた時であつた。これに對して社會主義と勞働組合主義とは相並んで各國の勞働階級のうちに漸進

的の發達を遂げてきた。この二つのもの〻關係は國によつて異る。ある場合には提携し、ある場合には結合し　ある場合には對立もし、敵對もしてきた。けれども各國に通じていひえられることは、最初における勞働組合主義の勃興が社會主義の影響のもとに立つてゐることである。勞働組合主義が最も早く發達した英國においては、この勞働組合の誕生は經濟組織の革命とともに自然に發生したものであるにしても、それの發達史上においての第一期を劃したものは社會主義の影響のもとにおいてである。卽ち一八二四年の勞働者團結禁止令の廢止以後における英國の勞働組合運動はロバアト・オーウエンの影響をうけることが最も多かつた、彼等は單なる經濟上の目的を追ふことに滿足しないで一方にチャーチストの運動と結合して政治上の改革、普通選擧の運動に參加したとともに、また他方に勞働者の大同團結を期待した。卽ち職業によることなくしてたゞ勞働者なるがゆゑに結合せしめんとしたのである。國民總勞働組合 Grand National Consolidated Trades Union がこれである。この國民總勞働組合の主義は米國にも輸入された。米國における勞働組合發達史上において第一期を劃するものは『ナイツ・オブ・レエヴォア』The Noble Order of the Knights of Labour である。[2]『ナイツ・オブ・レエヴォア』は一八六九年ウリア・スミス・ステフエンス[3]によつて組織されたものである。[4]これもまた英國の『グランド・ナショナル』と同じく、職業の異同熟練の如何による事よりも、單に勞働者なるが故に結合せんとする階級的組合主義であり、その最盛期には五十萬人以上の會員を包容してゐたのである。獨逸において勞働組合の起つたのは十九世紀の中葉である。最初獨逸の勞働團はサラール主義に反對したものもあつたが、[5]ラサールの天才的宣傳運動は深く獨逸の勞働者を動かし、彼の後繼者としてのシユワイツエル及びデリッチエ等の指導のもとに一八六八年卽ち『ナイツ・オブ・レエヴォア』の組織された一年前に、伯林において勞働組合同盟 Gewerkschaftsbund が組織された。これは英國の『グランド・ナショナル』に類似してゐるものである。[6]またこれと同時にベーベル及びヴキルヘルム・リーブクネヒト等のマルクス派社會主義者の指導のもとにマル

クス主義に基いての勞働組合を組織した。Internationale Gewerkgenossenschaften がこれである。フランスにおいても一八八四年に勞働者の團結が公認されてから最初に生れたものは社會主義、特にマルクス派社會主義としてのヂユール・ゲードの指導のもとに立つた。[7] こういふわけであつて、勞働組合は前にも述べたとほり、經濟組織の革命とともに生るべくして生れたものであり、詳にいへば、經濟組織の革命の以前においては眞の勞働組合なるものなく、[8] この革命の後には、各國において勞働者の團結が禁止されてゐたにもかゝわらず勞働組合は自然に發達してきたものであつて、それは何人の宣傳によるのでもなく、また何人もこれを妨げることはできなかつたものである。けれどもそれの發達の第一期を劃した精神は主として社會主義の影響のもとに立つてゐる。從つてそれは政治運動と結合して階級的精神に富み、單なる經濟的の目的を達することに滿足してゐなかつたことである。この點は勞働組合發達史上において最も主要な注意を要する點である、勞働組合主義の基礎的精神がこの間に明白に成立してゐるのを見るのである

(1)チャーチスト Chartist とは自由の特許 Charter of Liberties を要求する人の意味であつて、それの要求は全部で六ヶ條あるがそのうち最も主要なものは普通選擧の要求である。從つてそれは一八三二年の選擧法改正の結果に不滿を抱いた人々の一派として知られてゐます。(拙著『デモクラシー講話』第百七十二—七頁參照)

(2)ナイツ・オブ・レエヴォアの前に米國に勞働組合の存在してゐたとは勿論である。一八二七年には既にフヒラデルフヒアに勞働組合があつた。唯これ等のものは地方的のものであつた。(John R. Commons, History of Labour in the United States, Vol. I, P. 25)

(3)ステフエンス (Uria Smith Stephens) は一八二一年ニュー・ヂャアシーのケープ・メーで生れ、後教員生活をしてゐたこともあつたが、一八六〇年代に歐洲に旅行し、マルクス派インタアナショナルの影響をうけた。

(4)ナイツ・オブ・レエヴォアが勞働運動のうへに重要な地位を占めたのは一八七三年以後である。

(5)一八六三年ラサールはライプチヒの勞働者會議に書簡を與へて勞働階級の政治的要求綱領を明らかにした。この會議の委員會はラサールに贊成したが伯林の勞働者クラブはこれに反對した。(John Rae, Contemporary Socialism, PP.103-5

(6)獨逸ではこのほかにヒルシ、ドウンケル兩氏の指導のもとに政治運動に全然關係なき勞働組合卽ちヒルシ・ドウンケル派の勞働組合 (Hirsch-Dunker Gewerkvereine)があり、漸次發達を遂げた。

(7)『批評』八月號拙稿『サンヂカリズムの批判』參照

(8)コムモンスの述べてゐるところによれば米國においても、一八二七年の勞働組合の組織以前に多くの類似の團體があり、一七八六年にはフヒラデルフヒアで賃銀勞働者がストライキを實行したこともある。けれどもこれは單に賃銀について市の規定に反對したまでゞある。だからコムモンスは次のように述べる『一七八六年から一八二七年の間に散在的のストライキがありまた孤立的の組合があつたが勞働運動はなかつた。』『さうして米國における眞の勞働組合は產業組合の結果起つたものであることを證據立てゝゐる。』(Commons op. cit., PP. 25-30)

(六)

勞働組合主義の第二期を劃してゐるものは勞働組合主義と社會主義との分離運動である。英國でオーウエン派勞働組合主義の失敗[1]の後に起つた勞働組合主義は純然たる職業別組合であり、從つて純然たる熟練工組合主義であつたこの時代の組合主義の精神を最もよく代表してゐるものとしては合同機械工組合[2]Amalgamated Society of Engineersを擧ぐべきである。この團體は一八五一年一月十日ウヰリアム・ニユートン等の盡力によつて生れたものであり、その年の十月には一萬一千の會員をもつてゐた。[3]この組合はその時代における勞働組合の『新らしいモデル』であると稱せられた。それは先づオーウエン派やチヤーチスト一派の大團結主義 Universalism に反對する。彼等は一八三〇―四年の總勞働組合と異り、その會員を年期終了者 Apprenticed workmen に制限した。卽ち不熟練勞働者の排斥においての熟練工の團體となしたのである。その結果は職業別組合となることは勿論であり、その職業においての技工 Craftman の利益を保護するの團體となつたものである。[4]この排他的の精神は英國における勞働組合主義の歷史

のうへに極めて重要な意味をもつてゐるものであり、この精神は大體において一八八九年のドック•ストライキまで繼續したといふことができる。またこの組合主義者が謂ふところの英國的の組合として知られてきたものである。この組合主義は獨逸にもフランスに輸入された。獨逸のヒルシ•ドウケル組合はこれである。またフランスの勞働總同盟La Confédération Générale du Travail のうちにも職業別組合が存在してゐる。[5] けれどもそれ等の勢力は極めて微弱である。[6] これに反して他の半球におけるアングロ•サクソン國としての米國においては所謂英國的職業別組合主義が發達した。『ナイツ•オブ•レエヴォア』が漸次その勢力を失墜してからこれに代つて立つたものはアメリカ勞働聯合American Federation of Labour である。[7] アメリカ勞働聯合は英國生れのサミユエル•ゴムパアス [8] の盡力に負ふところが甚だ多い。ゴムパアスはアメリカ勞働聯合を組織する前にストラツセルとともに國際煙草製造者組合 International Cigar Makers' Association を改造して謂ふところの新組合主義を立てようと試みた。彼れの新しき試みとは熟練工組合主義である。即ちマクドウネルやソーヂ等が不熟練工の國際勞働團體を組織せんとしたのに對してゴムパアス及びアドルフ•ストラツセル等の一派は熟練工の組合を組織せんとしたのである。[9] この精神のもとに指導されたものが國際煙草製造者組合の改造であり、また軈てアメリカ勞働聯合の組織となるに至つたのである。從つてアメリカ勞働聯合は熟練工組合主義のもとに組織せられたものであり、この點において最も代表的なものであるとされてゐるのである。

(1)英國におけるオーウエン派組合主義は一八四〇年代の商工業繁榮時代に衰へた。

(2)合同機械工組合のほかにも一八五〇年代にこれに匹敵する位ひの組合は他になかつたのではない。Friendly Society of Iron Foundersのごときはこれである。けれども最も顯著な發達をなしたものは合同機械工組合である。

(3)合同機械工組合は一八五五年にはその會員一萬二千五百五十三人となり、一八七〇年には三萬四千七百十一人、一八八〇年には四萬四千六百九十二人、一八九〇年には六萬七千九百二十八人に達した。

(4)Webb, History of Trade Unioism, P. 199
(5)「批評」第六號拙稿『サンヂカリズムの批判』參照
(9)ヒルシ・ドゥンケル派組合は自由組合が二百餘萬の組合員をもつてゐるに對しその會員は同年に十二萬二千五百七十一人に過ぎない。
(7)アメリカ勞働聯合の前身は Federation of Organized Trades and Labour Union of the United States and Canada である。さうしてまた今年になつてゴムパアス指導のもとに全米勞働聯合 Pan-American Federation of Labour の組織が成つた。(American Federationist, July, 1919 參照
(8)ゴムパアス(Samuel Gompers)は一八五〇年和蘭人及猶太人の兒として生れた。米國に渡つたのは一八六三年であり、彼れが煙草製造者組合を改造したのは二十七歳の時である。彼れは社會主義嫌ひとして有名であるが彼れが勞働組合の聯合に盡力してゐた當時においてはピッツバーグの『コムマアシヤル・ギヤゼツト』は彼れを社會主義者として排斥した。(Commons, op. cit. P. 329)
(9)Commons, History of Labour in the United States, P. 306

(七)

私はこゝで勞働組合主義とは何んぞやの問題について述べることの必要を感ずる。勞働組合主義とは何んぞや。ブレンタノに從へば『勞働組合は同一業に從事する賃銀勞働者より成る利益團體にして、組合員の利益特に雇傭契約の締結に際しその利益を保全し且つ失業の場合に救濟をなすを目的とするもの』である[1]ウエッヴに從へば『勞働條件の維持並に改善を目的とする賃銀勞働者の永續的團結（コムティニユアス・アソシエーション）』である。[2]この二つの定義のうちにおいての相違はウエッヴが單に勞働組合をもつて勞働條件の維持または改善を目的とするものであるとなしてゐるのに對し、ブレンタノは共濟的性質をも勞働組合の必要條件としてゐるの點にある。けれども共濟は勞働組合の必要條件ではない。共濟

なくして勞働組合が存在し、また共濟のみを目的とするものは勞働組合ではなくして共濟組合（フレンドリー・ソサイエテイ）であるからブレンタノのように勞働組合の概念のうちに共濟的觀念を挿入することは誤謬である。ウエッヴとブレンタノとの間における相違の第二はブレンタノが勞働組合をもつて同一業に從事する賃銀勞働者の團體であるとなしてゐるのに對しウエッヴは必ずしも同一業たることに限つてゐないことである。勞働組合を同一業においての勞働者の結合であるとなす事は英國勞働組合史の或部分に當箝まるものであるにしても、それはチャーチストやオーウエン派の Universalism にも當箝まらないものであり特に最近における新組合主義に當箝めることのできないものであつて、その誤謬であることは勿論である。然らばウエッヴの定義は正しく勞働組合主義の一切を包含してゐるものであるかどうか。この問題について答へることは勞働組合主義のうちにおける各派の對立について述べることでなくてはならない。

(1)經濟大辭典二〇一八頁關一氏論文參照

(2)ウエッヴの『勞働組合主義の歷史』の第一頁には次のように述べてある—— A Trade Union, as we understand the term, is a Continuous Association of wage-earers for the purpose of maintaining or improving the conditions of their employment.

(八)

勞働組合主義の分裂のうちにおいて最も顯著であつたものは社會主義的組合主義と英國的熟練工組合主義とであつた。社會主義的組合主義はオーウエン合びチャーチストの影響のもとに英國に生れたものであつた。この組合主義が英國において失敗した後において、社會主義の影響または指導のもとに發達したものは大陸の諸國における勞働組合主義である。就中獨逸におけるマルクス派及びラサール派社會主義の指導のもとに發達した勞働組合は一八七五年の勞働組合協議會において兩派の融和となり、政治運動と分離して自由組合 Freie Gewerkschaft として發達したもの

であるが、中には社會主義を奉ずるものもあり、奉ぜざるものもある。けれどもヒルシ・ドウンケルの純然たる職業別組合に對して自由組合[1]は大體において社會主義の指導のもとに立つてゐる。墺太利、白耳義等における勞働組合もまた社會黨と密接な關係をもつてゐる。かくして大陸の諸國における勞働組合主義が十九紀の後半における英國の勞働組合主義に比して社會主義的影響の甚だ大なるものであることを知るのであるが、英國においても勞働組合主義は屡々變動を遂げてゐる。ウエッヴの指摘してゐるところによれば先づ一八三三―四年、一八五二年、一八八九―九〇年の三回において英國の勞働組合主義はみなそれ〴〵新組合主義として現はれてゐる。[2]一八三三―四年の組合主義とは前にも述べたとほりオーウエン及びチャーチスト派の Universalism であり、一八五二年の組合主義は合同機械工組合によつて代表せられる熟練工組合主義である。さうして一八五二年の新組合主義 New Unionism も一八八九―九〇年においての舊組合主義 old Unionism であり、英國的勞働組合主義として知られてゐたものは此一八八九―九〇年の狂熱的新組合主義とともに、英國においてもたゞ舊派の組合として殘されることとなつたのである。一八八九年とは有名なりドック・ストライキの起つた年である。是より先きジョン・バアンスやトム・マンやベン・チレット等の一派は一八五二年の新組合主義としての熟練工組合主義を排斥して勞働組合主義のうへに一大革命を導こうとした。[3]それが一八八九年のドック・ストライキ[4]によつて代表せられたのである。このドック・ストライキこそウエッヴやハウエル等の『新組合主義』を代表するものである。[5]然らば一八八九―九〇年の『新組合主義』とは何んぞや。この組合主義の代表的の指働者としてのジョン・バアンスは一八八七年『ヂャスチス』紙上において舊派の組合を罵つて英國の勞働組合は單に勞働權を支持するの組合でなくして單なる上級及中級階級の Rate-reducing institutions になつたと述べてゐる。[6]彼れの罵倒したのは實に一八五二年の組合主義卽ち熟練工組合主義であつたのである。從つて一八八九―九〇年の新組合主義として建設せられたものは熟練の如何にかゝわらす、卽ち不熟練勞働者をも勞働組合に結

合せんとする運動であつたことは勿論である。その運動は英國の勞働組合のうちに浸透した。一年とたゝないうちに約二十萬人の不熟練職工が勞働組合に參加するに至つたのである。(7) また熟練職工の間にあつても、青年勞働者の間には新組合主義を奉ずるものが少くなかつたのである。(8) かくして英國においても熟練工組合主義の時代は一八八九――九〇年の新組合主義の勃興とともに去つたのである。

(1)自由組合は一九一〇年に二百一萬七千二百九十八人の組合員と五千三百五十七萬五千五百〇五麻克の財産をもつてゐた。
(3) Webb, op.cit., PP.400-2
(3)ヂョン・バアンス等が勞働組合に對して社會主義の宣傳をなしたのは一八八六年からであり、一八八六年の失業者の暴動の結果バアンスやハインドマンやウキリアムス等の『社會民主主義同盟』の指導者が起訴され、バアンスはカンニングハム・グラハム等とともに牢獄に投ぜられた。
(4)一八八九年のドック・ストライキには四萬八千七百三十六磅の公衆寄附があつた。
(5)ハウエルについては Hower, Trade Unionism, New and Old, PP. 129——206 參照
(6)Ariel in Justice, September 3 1887 (Webb, oP. cit. ,P: 371)
(7)G. M. Lloyd, Trade Unionism P. 31
(8)Webb, op. cit., P. 375

(九)

熟練工組合主義は合同機械工組合の例によつても知られてゐるとほり、熟練工自身のためには有力なる保護の機會を與へたとは勿論である。従つてこの種の組合は健實なる發達を遂げることができたのである。けれども熟練工の利益の擁護は決して全體の勞働者の利益の擁護となることはできない。却つてそれとは反對である。熟練工が資本家と直接對抗する場合においてこそ資本勞働の對抗を見ることができるにしても、それが不熟練勞働者に對する場合にお

いては熟練工組合は決して不熟練工然り大多數の勞働者と利害の相對立する團體である。こゝにおいてか利益團體 interessen verbände としての熟練工組合は資本勞働の二大階級の對抗關係を不明瞭にし、從つて一般勞働者の犧牲においての資本家の利益となることのあるは勿論であり、また從つてその組合政策は極めて平和的であり、資本主義の是認においての、さうして不熟練勞働者の排斥においての、熟練工の利益擁護團たることに過ぎないものとなり、賃銀其他の勞働條件の維持または改善以外或は共濟互助の外には何等の要求をもたないものであつたのである。だからそれが勞働階級の貴族主義と稱せられる事は當然でなくてはならない。マルクスはこれを指して『小ブルジョア』Kleine Bourgeois であるといつてゐる。カウツキーのこれに對する批評は最も深刻である。彼れは次のやうに述べる『近代の熟練勞働者は、その先輩から勞働運動に非常に有害であつた一つの傾向を繼承した。これが各種の職業に分離せんとする傾向である。戰鬪において最良の地位に置かれた人々は彼等自身のために優秀な利益を得、さう彼等自身を勞働の貴族主義として考へるやうになつた。彼等自身の利益のみを考へて、彼等のより幸福の小さい友僚の不利益においての彼等自身の利益に滿足してきた。……今日においては勞働階級の最惡の敵は愚鈍な、反動的政治家ではなくして、その友と稱する職業別組合を奬勵する人々である』と。[1] 從つて熟練工組合主義は勞働者のための勞働組合ではなく、第四階級の組織としての勞働組合ではなく、職業的利己主義、職業的技術的階級主義であつてたゞに階級鬪爭のための團結でないのみならず、デモクラシーの要求と一致することのできないものであつて、勞働組合主義としてのその失敗は致命的であるといはなくてはならない。

（1）Karl Kautsky, The class Struggle, PP. 181-2（尙ほ關一博士はその職工組合論のうちでカウツキーが勞働組合（職工組合）をもつて勞働者の敵であると主張したやうに述べてゐるが、カウツキーの攻擊したのは Craft union であつて Trade Union ではない。從つて關博士の說明は誤謬である。（經濟大辭典(二〇一九頁參照）

(十)

前にも述べたとほり、英國的熟練工組合主義は一八八九年のドック・ストライキによつて一大革命をうくるに至つたさうして謂ふところの『新組合主義』が生れたのである。『新組合主義』とは何んぞや。それはある點においてのロバアト・オーウエンへの復歸を意味するものである。けれどももつと正しくいへば國家社會主義への轉化を意味するものである、クレーの指摘してゐるとほり新組合主義はコルクチヴヰズムの別名である。(1) 獨立勞働黨及びフエービアン協會の國家社會主義が英國の勞働組合を指導した時代が所謂新組合主義の時代であり、それによつて勞働組合主義は共濟且つ利益團的勞働組合主義から、デモクラシーの方向へと進んできたことは明白である。卽ち職業的または熟練工的利益本位からもつと廣く全勞働階級の利益のうへに立つこととなつたことは明白である。勞働局 Labour bureau の要求にしても、また勞働立法就中八時間勞働立法についての熱切な要求にしても、みなこの立場を明らかにしてゐるものである。(2) その結果は勞働組合の政治的覺醒を導くに至り、勞働黨の生れるに至り、さうして獨立勞働黨のモットウとしての『ストライキから投票場へ』の宣傳運動が勞働組合の精神のうちに深く浸透するに至つたのである。彼等の指導者はストライキの無効なることを說くことに努めた。(3) 從つて勞働組合主義は熟練工的、孤立的勞働組合主義から統一的となりまた政治的主義との結合を求むるに至つたのである。クレーはこれをもつて勞働組合主義の破滅であると論じてゐるが(4)ウエッヴに從へば『政治上におけるがごとく、勞働組合においても自由競爭の思想は、……社會全體の犧牲においての、恩寵階級自身の利益ある地位を改良することである。』從つてコレクチヴヰズムに行かなくてはならない。(5)

(1) Clay, Syndicalism and Labour, P,157

(2) Howell, Trade Unionism New and Old; PP. 160
(3) P.Snowden, The Living Wage, P. 80
(4) Clay, op. cit., P. 154
(5) Webb, Industrial Democracy, PP. 598—9

(十一)

けれども一八三三—四年においての『新組合主義』が一八五二年においての新組合主義でなく、一八五二年の『新組合主義』が一八八九—九〇年の舊組合主義であつたかごとく、一八八九—九〇年の『新組合主義』もまた軈て舊組合主義として取扱はれるほかなきこととなつた。一九一一—一三年の産業不安はまた再び英國の勞働組合主義のうへに一大動搖を捲き起した。この點は既に私の他の論文『ギルド•ソーシャリズムの批判』のうちに述べてゐるからこゝに繰返すことの必要はない。[1] 『サンヂカリズムの波』が引去つた後において殘されたものは、マルクス派産業組合主義とギルド•ソーシャリズムであることもまた既に私の同じ論文のうちに述べてゐる。爾來英國の勞働組合主義のうへに異常なる活躍を續けてきたもの、さうして英國の勞働組合においての指導的精神となりつゝあるものは産業組合主義であり、さうしてその基礎のうへにおいて國家と提携せんことを主張するギルド•ノーシャリズムである。

それゆゑに私は次に産業組合主義について述べなくてはならない。

(1)『批評』九月號參照

(十二)

こゝで私は勞働組合主義について分類することの必要に會した。ホッキシーの分類に從へば、勞働組合主義はこれ

を四種類に區別することができる。第一は職業別組合 Craft union である。第二は職業聯合組合 Crafts union である。第三は産業別組合 Industrial union である。第四は大同團結的勞働組合 Labour union である。[1] 此内第一の職業別組合と第二の職業聯合組合とはたゞ聯合すると否との相違であつてその間に主義においての相違を見ることができないのみならず、この第一のものは多くは第二のものとして現はれてゐる。アメリカ勞働聯合のごときはその好適例であつて、普通にはこの二つの間に區別を設くることなく、ともに職業別組合主義として取扱はれてゐるものである。少くともこの二つのものを區別することはあまり價値あることではない。また第四の大同團結的勞働組合はオーウエン主義であり、米國においては Knights of Labour においてその例を見るものであるが、それも今日においてはあまり重要な區別とするには足りない。オーウエン主義においての universalism と I・W・W においての One big union とは決して同一のものではないからである。この分類の内で重要なものは産業別組合主義 Industrial Unionism と職業別組合主義 Craft unionism との二つである。このほかに尚ほ一つの重要なものがある。コールはこれを Occupational unionism と呼んでゐる。Occupational unionism とは、類似の過程のうへに勞働する人々の結合を主張するものであつて、必ずしも同一の産業過程に働く人々のみの結合であることを必要としないものである。[2] この點において同一の産業過程に働く勞働者の結合を要求する純粋の職業別組合と區別せらるべきものである。またその結果は純粋の職業別組合主義が熟練職工の組合であるに對して、Occupational unionism においては必ずしも熟練職工の組合であることを必要とするものではない。卽ち不熟練職工も勞働組合に參加することのできるものであつて、これを純粋の職業別組合主義に比べるともつと廣い勞働者の立場をとるものである。英國における一八八九—九〇年のドック・ストライキによつて表徴せられる所謂『新組合主義』なるものはこれである。私が前に述べたコレクチヴキズムにおいての勞働組合主義とはこれである。それは不熟練勞働者をも勞働組合に組織することにおいて、一八五二年の『新

組合主義』即ち純粋の職業別組合主義と區別せらるべきものである。職業別組合主義においての一つの重要なる變化、舊派の職業別主義にとつては重要なる組合主義の革命である。この變化は勞働組合主義を研究するものの觀過すべからざるものである。けれどもこの occupational unionism はそれが不熟練職工の勞働組合を包含するものであるにしても、その根抵においては依然として『爲された仕事』を基礎とするものであつて、コールの指摘してゐるとほり依然として職業的原則即ち Occupatonal または Craft の原則によつてゐるものである。(3) さうしてこの職業的原則によつて國民的基礎に勞働組合を擴大し、中心的機關に統一し、その活動の能率を增進せんとすることを期し、且つ直接行動を避けて政治的行動に訴へんとしたところにコレクチヴキズムにおいての勞働組合主義の特質を見ることができるのである。ウエッヴがその『產業民主主義』のうちに述べてゐるところはこの種の勞働組合主義の內容を窺ふに最も適してゐる。彼れは將來の勞働組合主義について次のやうに述べる『將來の勞働組合はその職業とともに擴大し、範圍において國民的で、行政において集權者で、且つそれ自身の專門役員によつて奉任せらるるものであらう』と。(4) かくして一八八九―九〇年の『新組合主義』の理論的代表者としてのウエッヴ夫妻はその組合主義が依然たる職業別組合主義であることを主張してゐるのである。

（1） Robert Franklin Hoxie, Trade Unionism in the United States, PP. 38-41
（2） Cole, The World of Labour, P. 212
（3） Cole, Self-government in Industry, P. 135
（4） Webb, Industrial Democracy, P. 834

（十三）

これ等に對して產業組合主義 Industrial unionism は先づその基礎において職業別的組織を排斥して產業別による

組合を組織することを主張する。即ち産業別組合 Industrial union, Industrie verbände の組織を主張する。即ち職業別組合主義が或産業例へば鐵道に從事する勞働者に對してそのうちにおける職業の種類に從つて勞働者を區別しそれぞれそれを別々の組合に組織するとともに、他の産業例へば造船業に從事するものであつても、その職業の種類を同じくするものはみなこれを同一組合に組織するものであるに對し、産業別組合主義はこれ等の職業による區別を認めないで鐵道に從事する勞働者は大工も人足も運轉手もみな同一の組合に組織しそのうへに國民的聯合を要求するものである。例へば鐵道從業者國民組合 National Union of Railway men のごとき組織がこれである。

(十四)

産業別組合主義と職業別組合主義とは勞働組合主義のうへにおいて相對立する二大對抗である。此二大對抗は各國の勞働組合主義のうへにおいて見るところであり、また勞働組合主義のあらゆる對抗のうちにおいて最も意義深いものである。獨逸においてはこの産業別的組合が成立してゐる。米國においてはゴムパァス一派の純正なる Craft unionism に對して I・W・W によつて代表せられる産業別組合主義の爭鬪の益々甚だしくなりつゝあることを見る。フランスにおいては勞働組合 Syndicat は主として産業別である。英國においてはその勢力は相半ばしてゐる。一九一五年にこの二つの主義についての爭が勞働組合會議の議に上つた時に、二つの勢力が相半ばしてゐることを示してゐるのである。即ち一九一五年九月の勞働組合會議において馬車製造者協會のコムトンが次のやうな決議案を提出した。

『同一のオキユペーションにおける勞働者を分離せしめるやうな凡ての方法は勞働組合主義に有害である……』

この決議はいふまでもなく職業別組合主義を維持せんとするものである。これに對して鐵道勞働者と鑛夫側とが産業別組合主義を主張して激烈なる討論の行はれた結果この決議案は通過したのであるが、その贊成者百三十萬人に對

して反對者の數もまた百十萬人の多きに達してゐる。これによつて見ても英國における産業別組合主義の勢力の增大してきたことを知るべきである。一九一五年に勃發し有名な Shop Steward Movement のごときもまた産業組合主義の一運動であるといふことができる。[2]

(1) Cole and Arnot, Trade Unionism on the Railways, P. 78

(2) Cole, an Introduction to Trade Unionism, P.-55

(十五)

職業別組合主義が産業別組合主義によつて反對せられる理由のうちには、單なる内部組織として見らるべき點もないことはない。[1] けれ共内部組織の點からいへば、職業別組合主義が批評せらるゝ如く産業別組合主義もまた批評せられる。[2] この二つのものの區別は單なる内部組織の問題として見ることはできない。これをもつて單なる方法 Method, Methode の相違であると見ることは皮相の觀察であるに過ぎない。それはコールの述べてゐるとほり、組織においての新觀念を意味してゐるものであるとともにまた新政策を主張することである。[3] 新政策とは何んぞや。賃銀制度及産業統制の問題がこれである。卽ち賃銀制度を撤廢し生産者によつての産業統制の主張がそれである。『産業別組合主義はたゞに賃銀制度に對する戰ひの機關として奉仕するものであるのみではなく、それは勞働者がこの戰に從事してゐる間に、その最後において、勞働者に期待してゐる直接的産業統制の時代に對して準備してゐるのである。』コールは産業組合主義の立場についてかう述べてゐる。[4] 産業統制の問題と勞働組合の組織とは切り離して考へることのできるものではない。勞働組合が單に『コレクチヴ・バアゲニング』の機關であり、また單に『勞働條件の維持または改善』を目的とする勞働者の團體である間は、職業別組合特にコールの謂ふところの Occupational unionism をもつてしても差支ないわけである。けれども旣に勞働組合が賃銀制度を廢止して、勞働者の直接的産業統制または國家と生産者との共同統制を要求することとなるに至るとすれば、それに適したる勞働組合の組織が必要の事となる。

卽ち各々の産業に從業してゐる勞働者がその産業を統制するためには、その勞働者が産業線 Industrial line に從つて組織せられることの必要であることは勿論である、『産業線に從つての合同は直接統制においての重要な第一步である。』(5) コールの説はこの點において當然でなくてはならない。

(1) 職業別組合においては各勞働組合間の分界が明白でない。從つてこの點においての紛爭の起ることを免れない缺點をもつてゐる。

(2) 産業組合主義によると同一組合內の各勞働者の賃銀も異り利害が同一でないために勞働者の結合のうへに弱點のあるものとされる。

(3) Cole, Self-government in Industry, P.125

(4) ibid., P.136

(5) ibid., P. 143

(十六)

『コレクチヴ・バアゲニングからコレクチヴ・コントロールへ』

かういふ叫びは、産業組合主義者の間において屢々聽取するところである。勞働組合主義は、それの最も發達してゐる、英國において一大變轉の時期にある。これについての研究は今日において尙ほ充分であることはできないにしても、この新らし現象についての特質は、それが旣に單なる賃銀勞働者として、勞働條件としての維持または改善を主張するの運動からして、一轉して、雇人でなくしての獨立生産者として勞働運動となり、勞働商品主義に滿足することなくして勞働の人間性を要求し、さうして産業の領域においても、政治におけると同じく、デモクラシーの原則を要求してゐるものであることは益々明白となりつゝある。それのみならず勞働組合主義の問題は單に勞働組合主義だけの問題ではなくして全社會組織の問題として考へらるべきものである。從つてそれはギルド・ソーシャリズムの研究と密接する問題であり、I・W・Wは勿論サンチカリズム或は國家社會主義の問題として研究せらるべきものでありさうして勞働組合主義が社會改造の中心的楔機をなしつゝあることを見るのである。(大正八年九月二十二日)

第四階級主義

ヂ・イ・デエ・エッチ・コール

これはコールの Labour in Commonwealth のうちの第九章 Proletarianism の抄譯である。

（一）

如何なる範圍まで勞働階級卽ちプロレタリアートがそれ自身の文化とイデイオロジイをもつべきかといふことは、勞働者及び社會主義者の宣傳運動の歴史のうちにおいて、再三再四もちだされた問題である。この問題はフランスにおいては知的サンヂカリストの學者ラガルデル、ベルト及ワーレルの書物のうちにおいて、最も人心を引つける方法によつて論議せられてきた。英國においては社會主義勞働黨、中央勞働大學及び平民同盟（プレッブスリーグ）によつて代表せられた極端派勞働階級運動との關係において顯著となつた。最近に出版された最も興味ある書物のうちで社會主義勞働黨の一首領は國家の性質、起原及び職能を分析することに手をつけたゞこゝには、私は彼れの議論を扱ふのではなくして、たゞ彼れの著書目錄を引照するだけである。彼れは各章毎に參考とすべき書物の目錄を添へてゐる。國家の性質を學者的に論議する凡ての教授及び識者について、十人に一人も、そのうちに示されてゐる書物の十分の一についてさへ聞いたことがないと斷言しても冒險ではない。これ等の書物は凡て勞働階級の人によつてのものではなく、また社會主義運動についてのものではない。けれども全體としてみればわれ等の時代における承認された文化から全く違つた出發點と及び全く違つた文化とを代表してゐます。類似の現象がある程度まで中央勞働大學の保護のもとに爲された分類において幷に『平民雜誌（プレッブスマガジン）』のうちに發表された論文のうちに見ることができやう。これ等の勞働階級の極端派は嘗に彼等が『所有階級的經濟學』及び『所有階級的歴史』と名づけるものゝ結論を排斥するのみではなく、またその方法及

び教科書をも排斥するのである、彼等は非常に不充分な材源と準備とをもつて著手してゐることは事實である。けれども確實なる事實から來るところの高き確信をもつて新しき生産階級の學問を創造し及び新しき生産階級の文化を創造せんとしてゐます。從つて彼等は過去との關係を絶體に破ることはできない。また過去においてブルジョアの學者によつて爲された凡ての調査を繰返すのである。けれども彼等は彼等の文化を寧ろ限局し、且つそれをできるだけ無産階級の者として推持せんとする著しい傾向を示してゐる

(二)

それの途方もなき限局と偏したる文化とを指摘することによつて且つそれの基礎をなす歴史的知識の根底の不充分であることを指摘することによつてこの運動を非難することは容易のことである。けれどもそれが如何にして起つたかまた如何なる程度までそれが正しき基礎をもつてゐるかを問ふことなくして單にそれの不完全を非難することは殆んど無價値なことである。

勞働階級に同情をもつて歴史または經濟に接近するもので、『ブルジョアの文化』が供給してゐる多くの書物の不適正であることを悟らないものはない。就中、教科書は特種的研究よりも遙に不適正である。彼等の多くはたゞに存在する事實を辨護するために強く偏してゐるばかりではない。また彼等が常に爭ひの餘地ある結論を直に敍述し且つ非常に論爭の存する理論を事實として示してゐるのみではない。彼等はまた勞働階級の研究者またはその黨與が最も知らんことを熱望してゐる多くの事項を全然省略する。

(三)

書物について眞實であることは、教師についても眞實である。鋭敏な勞働階級の學生は、丁度ブルジョアの書物におけると同じく不滿足の原因を發見せんとする傾がある。爭ひある理論を公理として受入れる偏見と、さうして特に學生が知らんとする事項を教へるとにおいての失敗――これ等のものは階級的自覺ある勞働者の立場から見ての、多くのブルジョアの教師の缺點である。『歴史についての勞働者の觀察』とは最近に中央勞働大學から出版された小册子の名前である。さうしてブルジョアと勞働者との間にどれだけの見解の相違のあるかを高調するために役立つ名前である。

(四)

それゆえに眞實にして且つ有效な勞働階級教育の爲に、教科書の大部分が少くとも歴史と經濟學の範圍において、書き直されなくてはならないものであることは眞實であるまた非常に廣い範圍において、若し學生との關係が正しき關係に置かれべきものであるとすれば教師が全く別個の訓練をうけなくてはならないことも眞實である。けれどもこれからして勞働階級が全く新らしい文化を創造しまたはそれと所有階級との間における橋（ブリッヂ）が破壞されなくてはならないといふことが起つてくるのではない。それは寧ろ勞働階級が全速力をもつてそれの要求に適する教師及び教科書を創造しなくてはならない結果を導く。

（五）

偏狹な文化卽ち文化を非常な狹いものに制限することには恐ろしい危險がある。また勞働階級の文化を建設するために、勞働者が單に所有階級の誤謬を繰返してゐることにも恐ろしい危險がある。所有階級の歴史家及び經濟家のうちに眞理を發見して、彼等はそれ等の所有階級の記者が取り殘した他の半分の眞理を容易に彼等自身の仕事とすることができる。さうして同じ方法で彼等の教師はたゞブルジョアの教師において見出すことのできない他の半分の眞理を教ゆればいゝのである。彼れ等がかくするとも私はブルジョアのそれと同じように惡いものとはいはない。けれども彼等はブルジョアの武器をもつて戰ふのであらう。

（六）

勞働階級にとつて價値あるものはたゞ『眞理』、全體の眞理、さうして眞理のほかの何ものでもない。彼れ等は特に文化を勞働階級的とするためにそれを狹めてはならない。彼等はブルジョアの文化が除外した諸要素をも加へるために文化を廣めるのである。彼等は彼等自身の新らしい反對文化 Counter-Culture を造ることによつてゞはなしに、ブルジョアの書物から用心深く蔽はれたる事實をむしりとりそれ等の著作者が無理やりに引入れようとする事實と幷列せしめることによつて、彼等は現存文化の缺點を正さなくてはならぬ。彼等は彼等に反對する事實を迫害してはならない。またブルジョアの思想家によつて書かれたる有力なる書物を不問に附してはならない。彼等はブルジョアの文化のうへに建設しなくてはならない。さうしてそれを越えなくてはならない。

（七）

若し彼等がかうするならば、「できるだけ彼等自身の階級から彼等自身の教師を訓練することにおいて、且つ彼等自身の教科書を書き、彼等自身の調査をなすことにおいて、全く誤りなきに庶幾い。けれども、たへと彼等が彼等の『意見』(ドキシー)を正しいと深く信じまた彼等の學説を眞理であると深く信じてゐるにしても若し彼等が彼等の教師及び教科書のうへに學説上正統説固執または信仰についての嚴正な試みをなさしめようとするならば、それは矢張り誤りである。若し彼等がその教師を訓練しまたそれ自身の教科書を書かうとしてゐるならば、彼等はその階級の人々にできるだけの訓練を與へ、さうして彼等に對してその欲するまゝに信仰、教授及び書くことについての自由を與へなくてはならない。

（八）

ある範圍までブルジョアはこの訓練を知つてゐる。彼等はその教師や記者、就中資本主義の權力が産業中心においてのほどに感じられない古るい大學において、非常な自由を與へてゐるのである。この寛容(トレランス)が、多くの場合において非常に危險な經濟上の意見を公表する教師または著作家に對して停止される傾向のあることは事實である。けれどもそれにもかゝわらずこの寛容は實際に行はれてゐる。それの存在は、眞の教育がなされ、さうして眞の大學(ユニバァシチー)と宗教的訓練のカレッヂとの區別をなすところのたゞ一つの保障である。

（九）

勞働階級がそれ自身の教育上の制度を造ることに着手する時には、彼れは眞の大學と宗門的の訓練學校との間における隔りを明らかに心得てゐなくてはならない。訓練(トレーニング)が教育の後でなくてはならぬこと並に、教育の基礎のうへに立たなくてはならないことは、教育家によつて――少くとも理論においては――承認された原則である。よきユニテリアンや長老教會(プレスビテリアン)の牧師の訓練の場合には彼れは、宗門的でない制度のもとで教育され、宗門的の教育を與へられることなく、さうしてその後に宗門學校で訓練をうけてゐる。

それと全く同一の原則が勞働階級の教育に當箝めることができる。ある特種の社會的學説のうへに立つ訓練はたゞかゝる方針から全く自由な立場での教育をうけた後に行はれるものでなくてはならない。その意味は教育が勞働階級の利害及びプレ、オッキユペーションから自由であれといふのではなくして勞働階級についての如何なる特種な獨斷

說または主義のうへにも立てられてならないといふことである。私はマルクスについて深く信用してゐるものであるが、『マルクス派の敎育』は敎育ではなくして宗門的の訓練であるのだ。

（十）

………………。

勞働階級が現存の秩序に對する戰においてこの最も重要なハンディキャップが知識及敎育の缺乏であることは承認されてゐるところである。所有階級の手においてさへ、敎育は何ごとにも換えがたき價値をもつてゐる。さうして最高の敎育をうけた人はその人から奪ふことのできない權力をもつてゐる。彼等が若し勞働階級を援けようとすれば非常に大きな助けをなすことができる。彼等が希望すべき最後のことは、勞働者が凡ての實際の監督を彼等に讓ることである。彼等は勞働階級にその欲することをなさしめるために勞働者の任意に彼等の知識と熟練とを供給するところのたゞの助言者であるべきである。この働きは勞働者の眞實の友である人々が喜んで受取ることであらう。

（十一）

それゆゑに勞働階級の人々が、それ自身の敎師を同情によく訓練する時または機會をもつ前に大學によつて訓練された敎師の援助を拒絕するやうなことがあればそれは間違つたことである。この態度をとるためには彼等の運動を狹めなくてはならぬ。要求されてゐることは各階級の廢滅である。さうしてこれについて最もよき方法は古るきよりも更に烈しい新階級的排他主義（クラス・エクスクルーシブネス）ではない。

（十二）

マルクスは氣の毒にも誤解された著作家である。獨逸のマルクス主義者は彼れについて一つの解說をなし、フランスのサンヂカリストは第二の解說をなし、さうして英國の產業組合主義者は第三の解說をなしてゐる。嚴密な且つ抽象的な學說を組織する人々のうちに戰慄すべき傾向があるさうしてこの傾向は新しい文化を創造することにおいて特に著しい。私は經濟的思想家として就中その歷史的の方法について、マルクスを稱讃することにおいて何人にも讓るものではない、けれどもマルクスの、爭ひのある著作を、嚴密な學說に書きあげることは私には誤解のうへにたよつてゐること〻思はれる。マルクスはわれ等が彼の著述を永へに凡ての經濟學についての『基礎及び終曲（ベーシス・エンド・フヒナール）』として看做しまたは新らしい文化組織の基礎として取扱ふために書いたのではなくして、彼れの意見を辯護し且つ同時代の人々を說破するために書いたのである、彼れは大著述をなした。けれども彼れから越えてゆくことはわれ等の任務である。

サボタージュ

（一）

川崎造船所の職工がサボタージュを實行したことは日本の勞働運動史のうへに見逃すことのできない出來事である。勿論川崎造船所で初めてサボタージュが實行されたといふのではない。たゞ大規模なサボタージュの實行が初めてこゝに行はれたといふことである。

（二）

サボタージュとは何んぞや。詳しいことをこゝに述べてゐる暇はない。ブルツクスに從へばそれはストライキと同じほどに古ろくから行はれたものである。先づ一八三四年のリヨンの機織勞働者の間にこのことがあつた。彼等は木靴をもつて機械を破壞したのである。一八八九年グラスゴーウのドツク勞働者の間にこのことがあつた。スコツトランド語の Ca Canny がこれである『われ〳〵は仕事をしよう。チヨツヴ（不熟練水夫）のやうに。これ等のバタアフヒンガア（よく手から物を取落す人）は物をこわし、ドツクから物を海水に落す。それに習へ、さうして主人が物のわかるまで眞似をするがいゝ』『若し主人等がこういふ種類の仕事が入用なら、澤山してやるがいゝ』。——サボタージュの指導者はこういつて煽動したのである。サボタージュの意義はこの言葉によつて可成り明瞭である。

（三）

サボタージュにおいての機械の破壞とは昔の無組織の勞働者が試みたような機械の破壞ではない。それはたゞストライキ・ブレーカーを妨げるために、一時機械の disorganization をもたらすまでのことである

（四）

サボタージュの意味は、學者によつてまた國によつて多少の隔りのあることは事實である。たゞここにいひえられることは『惡ろい賃銀に對して惡ろい仕事』といふことのモツトウは凡てのサボタージュに當て篏めることができるといふことである。

（五）

サボタージュはフランスにおいて發達した。從つてそれはサンヂカリズムと切り離して考へられない位ひに密接な關係があるけれどもサンヂカリストの二大理論家としてのソーレルとベルトとはともにこれに反對する。

（六）

サボタージュが忌むべき方法であることは勿論である。それは階級戰の方法として有効であればあるほど、また生産能力を奪ふことが大であればあるほど、この方法は忌むべき方法である。今のフランスの勞働總同盟のセクレタリーとしてのジヨオウはサボタージュができうる限り避けべきものであることを主張してゐる。

（七）

サボタージュはヂヨオウのいつてゐるとほりできるだけこれを避けなくてはならぬたゞこれを避けることは、勞働者の側において戒めべきことであるのみならず、資本家が『低い賃銀』bad wage を與へることを避けなくてはならぬ。さうして勞働者に正堂々の戰ひ、ストライキの權利を與へなくてはならぬ。治安警察法第十七條はサボタージュを拒ぐことができないのみならずストライキを押へて忌まわしいサボタージュを餘儀なくすることのある惡法であることが證明される。（室伏生）

英國炭坑國有問題（報告全文）

サンキー

こゝに掲載するは英國で有名なるサンキー報告の全文である。詳しく説明すると炭坑夫のストライキについて英國政府は今年調査委員を任命した。委員は炭坑夫組合會長のスマイリーを始めとしてウエッヴ、バルフオーア、サンキー、ホッヂ、ウヰリアムス、マネー、クーパア、ロイデン、タツクハム、タウネー、フオルギー、スミスの十三人であつて判事サンキーをチエアマンとしたためにサンキー委員會と稱せられたがそのうちサンキー、バルフオーア、ロイデン、ダツクハムの四人が連名で有名なサンキー報告としての interim report を發表した。こゝに紹介するのがそれの全文である。（森格）

時間及び賃銀

（一）

われ等は普通に八時間條令として知られてゐる一九〇八年の炭坑規則が、地下勞働の時間を制限してゐる條項を、一九一九年七月十六日から『八』といふ言葉のかわりに『七』といふ言葉をもつてし、さうして一九二〇年末におけるこの産業の經濟的地位に從つて一九二一年七月十三日から『八』といふ言葉のかわりに『六』といふ言葉をもつて修正することを勸める。

（二）

われ等は一九一九年七月十六日から礦坑面または礦坑の周圍に從業する人々の勞働時間が一週間食事時間を除いて四十六時間半となすべきことを勸める。但し細目は地方的に決定せらるべき事。

（三）

われ等は、炭坑または炭坑の竪坑口に從業しその賃銀が礦坑標準賃銀法によつて規律されてきた各階級の礦坑勞働者の一交代勞働即ち一日の勞働に對して二志の賃銀を增加することを勸める。

（四）

われ等はわれ等の報告に示してゐる勸告に從つて、一九一八年の炭坑統制協定法を存續することを勸める。

これ等の勸告の結果は次のことを意味する。——

(1) 地下勞働を一九一九年七月十六日から一日一時間、さうし

て多分一九二一年七月十三日からもつと多くの時間を短縮すること。

(2) 礦坑勞働者の間に毎年賃銀として三千萬磅の増額を分配すること。

(五)

これ等の結果はこの報告に説明してある通り消費者に對する炭價を引上げることなくして、到達することができるものと思はれる。

國有について

(六)

一九一九年の炭業委員令の第五章によつて委員は出來るだけ速に礦坑勞働者の賃銀及勞働時間の問題について中間報告をなすべきことが規定されてゐる。

第一章によつて委員は炭業の今後の組織を、今日の基礎においてすべきか、共同統制の基礎においてすべきか、國有とすべきか或はまた他の基礎においてすべきかについて、彼等に委任されまたは彼等によつて組織的に表明されたるところの諸考案の調査をなすであらう。

(七)

總理大臣は二月二十五日(水曜)下院において出來るなら三月二十日までに、賃銀及び時間の二問題についての決定をうべきことを約束した。(國會議事錄 この三月二十日までに賃銀及び時間についての中間報告をなすことの約束は履行された。

(八)

既に與へられてゐる證據によつて見ても、炭業がよつて立つ所の今日の所有及び勞働の組織は排斥せられる。そうしてそれはある他の組織例へば國有、即ち國家の買收による統一か、或は共同統制かによつて代へられなくてならない。

(九)

われ等が非常に尊重する同僚のある者にとつては、國有が一生の研究または大望である。そうして彼等は直にそのための報告に準備してゐる。

(十)

同じくわれ等の尊重する他の同僚にとつては、共同統制がこの問題の解決であるべきもの丶やうに思はれる。

(十一)

國有についての詳細な計畫は未だ委員に提供されてゐない。また共同統制についての計畫も彼等の前に提供されない。

(十二)

國有即ち國家の買收による統一の方法か或は共同統制か何れが國家及びその輸出貿易、勞働者、そうして持主にとつて最も利益であるかを明からにするための充分な證據は未だ提示されてゐないし、また充分な批評も與へられてはゐない。

(十三)

われ等は今日不充分でありまたは間もなく全然不適當となるべき證據のうへに立つてゐる或るまたは他の方法を報告しようとしてはゐない。またわれ等は今日全國民に影響する事柄についてここに一時的の決定を與へようとしてはゐない。また上記の國會議事錄に見えることを、委員長は自ら誓つたことはない。

(十四)

けれどもわれ等は礦坑勞働者が將來炭坑の管理について有力な

發言權をもつことがこの國の利益であることをこゝに報告する準備がある。三十年間礦坑勞働者は社會的及技術的 に教育されて來た。その結果は大なる國民的財産（アセッツ）である。何故にそれを 使用しないか？。

（十五）

われ等は今日更に進んで改良された方法の影響をうける經濟が國家の利益となり且つわれ等が今日こゝに勸告することのできるものよりも礦坑勞働者により善き條件を齎らすであらう。また同時に投ぜられた資本に對して立派な且つ正しき收獲を與へるといふことを報告する準備ができてゐる。

（十六）

われ等は礦坑勞働者が炭坑の管理について有力な發言權をもつ結果は、前に述べた勞働條件の改善と相俟つて、彼等をして彼等がその資格があり、さうして彼等の大部分が今日うけてゐない、より高き生活標準に到達することをえせしめるであらう。

（十七）

われ等は勞働者と持主との間における公開 の討論から、また彼等の間における秘密の熟議からして、よきことのほかには何ごとも考へない。

（十八）

けれどもこの委員會はこの 問題の最後の解決として提示せられる種々の計畫または勸告について審議報告は出來るにしても結局國　有（ナショナリゼーション）即ち國家の買收による統一の方法または共同統制の問題が最後に國會で決せらるべき政策の一つであつてこの委員會によつて最後決定を與へられるもの でないことを忘れてはならない。

（十九）

尙ほこの中間報告の一部として約束せられてゐるものではないが、こゝに世界の注意を喚起するの必要ある 緊急の問題がある。

（二十）

各地における礦坑勞働者の住宅設備についてこの委員會に證據が提出された。ある地方には善き 住宅設備のあることは事實であるが、ある地方においてわが文明のために 非難すべき住宅があるこれ等の非難については充分強くまたは充分に 嚴正なる批判的の言葉がないほどである。

（二十一）

一噸について直に一ペニーの炭價値上げをなして それをかゝる特定礦坑區域の住宅及びアメニテイを改良するために 供給してならないかどうかは熟慮を要する問題である。

今日の生産高においては一噸一ペニーは一年に約百萬磅となる。

（二十二）

この委員會が再開した時には、われ等の意見にては、經濟及び炭業における改良においての 他の方法についての勸告を記載する中間報告を繼續すべきものであり、且つこれ等の 報告が直に適用しえらるべき權力が附與せらるべきものと思はれる。

（二十三）

數ケ月間は最後報告をなすこと は不可能である。また議會がこれを論議するためにも同一の時間が費されるであらう。

（二十四）

直に適用しえられ且つ試驗しえられる勸告 を記載する中間報告を引續き發表することによつて能率的な基礎のうへに立つ見解をもつてこの産業の改造をなすべき計劃を立てることができる。

米國婦人勞働組合の發達（三）

倉橋藤治郎

全國婦人勞働組合團

此のアメリカン、フエデーション、オブ、レーボアと極めて親密なる關係を有し、爾も婦人のみを以て組織せる全國的團體は此ナショナル、ウーメンス、トレード、ユニオン、リーグ (National Women's Trade Union Leagues) であつて、創立は一九〇三年、總ての婦人勞働者を全國的組織中に網羅せんが爲め、從來組合に加盟せると否と又勞働階級以外の同情者たるとを問はず、廣く糾合せん事を目的としまして、翌一九〇四年にはイリノイス、マサチユーセッツ、ニユー・ヨーク等の各州に其支部を設置したのであります。此團體は前述の如くエー、エフ、エルと密接なる關係を有つて居るが、勿論エー、エフ、エルの婦人別働隊と云ふ譯でなく、獨立の事務所、役員及び機關銃ライフ、エンド、レーボア (Life and Labor) を有し婦人の爲めの婦人の運動として前記各州に於ては忽ちにして婦人勞働狀態改善運動の中心となりました、然しながら全國を通ずる婦人勞働組合運動の沈衰は此處にも影響して眞に此團體が發達するに至つたのは一九〇八年乃至九年以後の事であります。

婦人萬國聯合レーベル團

他の一全國的婦人勞働者團體は一八九九年の組織に係るウーメンス、インターショナル、ユニオン、レーベル、リーグ (Women's International Union Label League) であつて其の目的は勞働條件を改善し、幼年勞働を禁止せしめ、性別に關せず同一分量の仕事に對しては同一賃銀を支拂はしめ、一般的に賃銀生活者の福利を增進せんとするにありましたが、實際の運動としては殆んどユニオン勞働者製造證を製造品に貼附せしむ事を奬勵勸誘するに全力を盡して居るのであります、此方法は組合運動を促進する一手段に相違ないが、此れが婦人の組合組織運動に及ほす直接の効果如何は之を著しく認めるに至らないのであります。

スウエヂッシユ、ユニオン

此第三期の婦人勞働組合運動中最も成功せるものは男子

用洋服仕立職組合で、一九〇八年成立當時婦人組合數百三十三、此組合員一萬七百十二に達し、實に全仕立職組合員の四割に及んで居ます、殊に此組合婦人に就て興味あるはシカゴに於ける行動でありました。

此れより先きナイツ、オブ、レーボアが漸く勢力を失墜し、賃銀は止め度なく低下して行つたに拘はらず、勞働者の素質が漸く變化して六人種以上の外來移民を著しく包括せる爲め、團體的行動によつて勞働者の利益を保護するなどは思ひも寄らざる事となりました、就中多數であつたのはスカンヂナヴィア殊にスウェデン人で、彼等が一八九八年頃から此仕事に入り込む頃から、丁度所謂別誂元註文(スペシアル・オーダー・トレード)が漸次重要な位置を占めて來ました、此れは個人から洋服の註文を取り一定の期日に調製配達すると云ふ段取の仕事で此規定期日内に仕上げて渡すと云ふ事は在來のアメリカ土着の女工の嫌がる所であつて、從つてスウェデン出の女工が容易に此仕事に夥しく入込み得る原因となつたのであります、其の結果一八九九年末には三ケの地方組合が彼等の間に組織せられ、組合員證(ユニオン・レーベル)を制定し、翌年三月一日實行の閉店契約(クローズド・ショップ・コントラクト)に參加し、其多數を利用して遂に此運動の牛耳を採るに至つたのであります。

一九〇〇年になりますと、此スウエデン男子用洋服仕立女工組合は三千人以上の組合員を有し、勞働時間を九時間に減じ、賃銀を増加し、十六歳以下の少年の雇傭を禁止せしめ、一般の就業狀態を著しく改善向上したのでありま す然るに彼等の運動が聯合仕立職組合(United Garment Makers)と衝突するに及び、仕立業者等は反間苦肉の策を以て遂にスウエデン人組合を瓦解せしめました、大體の事情は聯合組合が承諾せんとした勞働條件に對しスウエデン人組合は之を拒絶せんとした時、資本家等は双方の組合を離間中傷して益々軋轢を甚しからしめ、遂にスウヱデン人組合は解散の止むなきに至り、殘れる聯合組合も疲弊して殆んど無勢力となり、シカゴの洋服仕立職女工間の勞働組合運動は致命傷を受け、資本家は自由に片務的な勞働條件の多くを復活したのであります。

其他の方面にはニューヨーク州トロイ市の洗濯工女等が一九〇六年非常な決心と意志とを以て九ケ月に亙るストライキを斷行した事がありました。

然し總ての組合運動は前述の通り此時代の終り卽ち一九〇八年頃に至つて萎縮不振の極に達しました、多數の婦人勞働組合は解散せられ、組合加盟婦人數は著しく減少したのでありますこれは後に揭げる表によつて判斷する事が出來ます。

第五期（一九〇九―現今）

此期に入つて婦人勞働組合は始めて安定なる位置を得ました前期末非常に不振に陥つた組合運動も漸次復活すると共に活潑なる運動を開始し、組合數及び組合員數の增加せるのみならず特に注目すべきは此期に於てあらゆる職業の婦人が勞働組合に興味を有つに至つた事と國內到る處に普及するに至つた事であります。

殊に一九〇八年乃至九年に於ける失業者の激增、裁判所の勞働者に對する不利益なる判決等は、彼等勞働者をして男女共協同目的に向つて一致團結する事の何事よりも大切なる事。あらゆる他の社會に增して仲間の勞働者の信賴すべき事を自覺せしめ、之が著しく組合運動の發達を助けたのであります。

彼のナショナル、ウーメンス、トレード、ユニオン、リーグの如きも此期に入つて發達しました、一九〇八―九年に此團體のシカゴ支部の發表したプラットフォームは此團體に就て代表的のものとも云はれますが、大體次の如き綱領であります。

一、全婦人勞働者を勞働組合に組織化する事
二、同一仕事に對する同一賃銀（Equal Pay for Equal Work）
三、一日八時間勞働制の採用
四、最低賃銀規定
五、婦人に對する完全なる市民權の附與
六、アメリカン、フエデレーション、オブ、レーボアの經濟上のプログラムに揭ぐる各主張の實現

今一九一四年九月ニユー・ヨーク州勞働省の調査に係る同州內婦人勞働組合の概況を示せば左の如くで、之で略戰爭勃發當時の有樣を知る事が出來樣と思はれます。

職業	組合婦人勞働者數		全組合員に對する百分率（一九一四・九）	婦人のみより成る勞働組合數（一九一四、九）	
	一九一三年九月	一九一四年九月		組合數	組合員數
二、交通運輸	二七〇	三〇四	〇・四	—	—
內 鐵道	一三	一五	〇・〇五以下	—	—
電信	二五七	二八九	六・四	—	—
三、紡織及仕立業	六七、四〇九	五八、七六五	一九・九	九	二、六一七
內 洋服仕立	五一、五一二	四七、八一二	二九・一	一〇	一、三四五
シャツ、カラー及洗濯	九、三六三	六、四二六	八七・〇	一	一二
帽子及毛皮	二、九四二	三、二〇四	二〇・〇	四	六一八
靴及手袋	三六七	三三五	七・六	一	一七〇
紡織	三、二二五	九八八	三三・八	三	四七二
四、金屬機械及造船	六三五	四五四	一・三	一	一六
內 鋼鐵	六三三	四三八	一・五	—	—
其他金屬工業	一三	一六	〇・三	一	一六
五、印刷製本等	一、八九一	一、七七〇	五・五	一	一、三三〇
六、木工及家具	三六	三八	〇・三	—	—
八、劇場及音樂	三、三九五	二、〇八〇	七・七	—	—

九、煙草	二、三九〇	二、二九七	三三・九	—	—
一〇、料理店旅館商店	六五三	三八二	三・一	—	—
内 旅館料理店	三〇一	一	〇・〇五以下	—	—
小賣商店	三五二	三八一	二三・一	—	—
一一、公共事業	一、五〇一	九六二	五・〇	一	八〇〇
一二、雜	三四二	四〇七	四・六	—	—
内 紙及紙器	一〇六	五	〇・一	—	—
皮革及其製品	二五	一〇〇	六・九	—	—
其他工業	一七九	二九一	一三・六	—	—
雜役	三二	一一	三・八	—	—
計	七八、五二三	六七、四四九	一一・三	三	四、六六三

更にアメリカン、フエデーシヨン、オブ、レーボアに聯絡ある勞働組合に於ける婦人勞働者狀態に付、同樣に紐育洲勞働省が一九一四年九月調査せる處によると、全州内に於けるフエデレーシヨンに屬する全國又は萬國組合七十四の内婦人組合員を有するもの二十三團體、卽ち製本、印刷活版、紙料、煙草(二)電氣、電信、鐵道電信、鐵道書記、男子服仕立、女子服仕立、裁縫、毛皮、製帽、紡績、縫靴旅行具及革細工、小賣店書記、旅館料理業、音樂家、俳優裝飾等と尙フエデレーシヨン以外には全國組合は婦人組合員を有し、全勞働組合員五九八、一二八名中婦人組合員六七四四九名を算するのであります、就中婦人組合員の多數なるはInternational Brotherhood of Bookbinders of North America の千二百八十二名、Cigar Makers' Internationl Union of America の二千二百七名、Internationl Fur Workers' Union of U.S.& Canada の二千五十五名、United Garment Workers of America の一萬一千七百八十七名、International Ladie,' Garment Workers' Unionの四萬五百二十一名、White Rats Actors' Union of Amerirs の一千名等でありました、紐育州のみで之れであるから全國を通じて夥しき數に上る事は容易に推定し得るのであります。

戰爭以來の活躍

戰爭が約四百萬人に近い靑年壯年男子を佛國に將た內地軍隊に召集せる結果、其の空位置が婦人によつて補充された事は著しい出來事でありました、尤も戰時合衆國婦人勞働者の增加と其職業種類の膨脹は到底英國の夫れに及ばないのでありますが夫れにしても婦人の職業上の地位は此際量的にも質的にも格段の進步をしたのであります、私は戰時ワシントンの中央各官省が其可成りな仕事の分量を婦人の手に委し婦人官吏がドシ〳〵男子官吏に代つて行つた光景を眼前に見ました、婦人の車掌、郵便配達、自働車運轉手、書記、賣子等が自覺まして殖えて行くのみならず工業の方面で從來一步も婦人の踏み込まなかつた仕事が容易に婦人によつて運用されて居るのを實見しました、エー、エ

ス、エルの機關誌アメリカン、フエデレーシヨニストによればオハヨー州クリーブランド市では七十五人乃至百人の婦人職工が或機械工場に於てブラツトドンー式スチーム、ハムマーを運用し、バルチモア、エンド、オハヨー鐵道會社の機械工場では婦人の機械職工を有し、シカゴの一製材所では婦人の材木扱ひ方を見るに至つたと云ひます、此れに對して同誌記者は生理的に到底不適當なるを免れざるブラツドレー式ハムマーの作業などを婦人がやるのは考へ物だと云つて居ました。

又ペンシルヴエニア鐵道會社は事務所及び工場を通じて一九一六年に二千五百名の婦人を使用し、バルチモア、エンド、オハヨー州は機械工場の或部門に於る婦人の使用に成功し、他の幹線鐵道の或者等は保線工事の一部に婦人使用を計劃中であると報ぜられて居ます。

又私は一九一七年の秋、紐育も目貫の第五街の或る高層建築の側壁地上面數十尺の高さにブラツシユを振つて廣告畫を描く婦人を見ました、屋上から釣り下げたワイヤーロープが唯一の命の綱です。

此時に於て勞働組合も百尺竿頭一歩を進めざるを得なかつたのであります、殊にエー、エフ、エルが其團長サミユール、ゴムバース氏の指導の下にウイルソン氏の戰時政策を援助し、ウイルソン氏亦エー、エフ、エルによつて戰時工業動員に遺漏なからしめんと期し、例へば一九一八年同團體がニユー、ヨーク州バツハアロ市に大會を開くや、大統領忽然何等の豫告なくしてバツフアロ市に着し、大會席上戰爭と工業動員と勞働組合と組合勞働者との爲に大演說をなし、參集せる組合勞働者の熱狂的歡聲裡にワシントンに歸還せるが如き、又工業動員の中樞機關たる全國々防會議 Council of National Defense の議員に陸海軍、大藏卿等と共にサミユール、ゴムパース氏を擧げ、戰時勞働院 War Labor Board 以下戰時行政機關の要部に組合勞働者の幹部を任命し、大統領以下民主黨政府の戰時政策と勞働組合の大團結とが愛國心によつて固く聯絡された爲めに勞働組合は未曾有の大發展を遂げ、政界には『ゴムパースは今や大統領に當選し得る選擧票數を有せり』と噂する者をすら生じたのであります、然し私は今日の處氏が政治的野心を抱ける事を證するトレースをも認めない、氏自身の如きは屢々政爭の外に立脚すべきことを言明して居るのであります。

私は又ペンシルヴエニア炭田の炭坑町で合衆國燃料管理局勞働顧問 (Labor Adviser, U.S. Fuel Administration) が炭坑勞働者に向ひヴエランダの上から演說せる處を瞥見しました、彼は元職工でありました、就任前彼れは礦夫勞働組合 International Miners' Union の會長でありました。

社會政策の價値

甲野哲二

（一）

社會政策とは社會問題に對する一の態度である。所謂社會問題を如何にして解決すべきかの思想に於ての一の流派である。然らば其社會問題とは何であるか。イタリアの學者アヒレ・ロリアは社會問題の變遷に就いて、宗教的、政治的並に經濟的の三つを數へて居るのは其著「現代社會問題」を讀む人の均しく認めて居る所である、而して、現代に於ける社會問題根底に横はる所の主要問題は亦經濟問題であるとする。

之に反して、社會問題の焦點は經濟問題にあらずと主張するものがある。エールウッドの「社會問題」並に「社會學と現代社會問題」の如きは其一例である。彼は言ふ「社會問題とは人間相互の關係であるが單に而して根本的に經濟問題であると謂ふよりは寧ろ生物的及び心理的問題であり、一の道德問題である」と。

（二）

然り「人はパンのみに依りて生くるものにあらず」とのナザレのイエスの教訓より立脚せしものは、社會問題を以て經濟問題にあらずとする。けれども人は亦パンなくして生き得ざるはかなき現實性を有して居る。故に社會に於ける貧富の懸隔とこの貧富の懸隔が無產者階級に依つて自覺せらるるときに眞の社會問題として取扱はるるのである。殊に現代社會問題の眞髓を深く洞見するものに取りては以上の二要素が決定的原因であることを否むことが出來ぬ。斯かる意味に於て現代社會問題の發生は貧富と富裕とに對する壞疑より出發すると言ふことが出來る。

而して、現代社會問題は斯くの如き二つの要素——貧富の隔懸と其自覺——から成立するのを其特徴とするものであるが古代並に中世に於ては、其貧富の自覺なる一要素の缺けるに、社會問題は其重要を無視せられたのである。か

の大哲アリストテレスの如きを以てしても尚ほ奴隷の必要を說いた如きは當時の經濟の進歩せざりしと時代思潮の影響に依るものであらう。奴隷と其所有者、領主と農奴、親方と徒弟、吾々は其所に幾多の問題たるべき要素の存在を否定するものでない。人類社會の歴史は階級闘爭の歴史であると斷定したマルクス、並にエンゲルスの共產黨宣言は例へ之が闘爭の原因としての民族心理を閑却したにせよ多くの場合に於ては眞實である。けれども古代並に中世に於ける階級闘爭は現代の社會に於ける如き階級の對立、而して其自覺に依る階級闘爭にあらざる點において其特徵を發見し得るのである。故に私は極めて概括的な意義に於て社會問題が眞の其重要を認めらるるに至りしは第十八世紀末に於ける英國產業革命以後であると信ずる。

（三）

社會問題の解決は大體これを五種に分類することが出來る。其一は現在の社會組織を其儘に固持せんとする現狀維持主義、其二は現在の社會組織を根本的には保持しながら而も之に重大なる改良を加へんとする改良主義其三は現在の社會組織に重要なる改造を加へて之を過去の黃金時代社會組織に挽き戾さんとする復古主義其第四は現在の社會組織を根本的に改造して、全く新しき社會組織を造らんとする革命主義（社會主義）其第五は人間の力を以て有意的計畫的に社會組織を改良し或は改造せんとするは總て無益な或は有害な業にして只自然に成り行くが儘に放任して置くのが最善の策なりとする放任主義卽ち是れである。（米田庄太郎氏輓近社會思想の硏究）私の今論ぜんとする所は、其第二に當る改良主義の主張する社會政策が社會問題の解決法として幾何の價値があるかと言ふ點である。

社會政策の思想は大體獨逸に於て發生せしものと見ることが出來る。一八七〇年代に於ける獨逸は、社會改造運動の著かりし時である。英國の自由貿易主義は獨逸に輸入されて目覺ましき活動をなして居た。一方にラッサールに依つて創められた社會民主主義は一八六九年社會民主黨として政治的勢力を形成するに至つたので、これ等二つの運動に對して起つたのが獨逸社會政策學會其ものである、この學會は一八七二年の有志の會合があつて、翌年學會として成立し今日に至つたものであるが、當時の獨逸の諸大學のプロフエサーは殆んど全部其會員であつた。日本に於ても同じく社會政策學會なるもの組織を有して居る。其宣言書の一節はよく社會改良主義の主張をよく簡明して居るものと思ふ。

「余輩は放任主義に反對す、何となれば極端なる利己心の

發動と制限なき自由競爭とは貧富の懸隔を甚だしくすればなり、余輩は又社會主義に反對す、何となれば現在の經濟組織を破壞し資本家の絶滅を圖るは國運の進歩に害あればなり、余輩の主義とするところは現在私有的經濟組織を維持し、其範圍内に於て個人の活動と國家の權力とに依て階級の軋轢を防ぎ、社會の調和を期するに在り此主義に基きて内外の事例に徵し、學理に照し社會問題を講究するは實に是れ本會の目的なり。……」(社會政策學會趣意書)

斯くの如き立場に在つて社會政策學會は社會問題研究の歩を進めてゐる、其要旨とする所は、個人主義的自由放任主義を信ぜず、其理論的根柢に餘剩價値說を採り、階級鬪爭を新社會實現の手段とし、經濟的革命を以て、其主要目的とする社會主義に對しては、そか「國運の進歩」を害するが故に之を排斥するのである。彼等の趣旨とする所は福田博士の言を換りて謂へば「社會民主主義の資本侵略主義との間を行く」のである。斯くて彼れは右手に社會主義より來る攻撃を排け、左手に資本主義より來る强襲を擊破せんとする一石二鳥的効果を得んとするものである。後等は健全なる社會政策を主張せんとする。「現代の社會組織經濟組織範圍内に於て國家並に個人の施設を以て階級間の軋轢衝突を融和し、以て社會の調和を企圖し社會の健全なる發展に資せんとする努力は、よしや其の方法が微溫的で其結果が遲々たりとするも極めて健全にして合理的である」」とは勞働問題の新進學者北澤新次郎氏の主張である。(同氏、勞働者問題上卷)

(四)

社會政策とは國家の施設であると共に、個人の施設であるとする、のが一般の思想である、福田博士の如く「社會政策とは社會の社會に依つての社會の爲めの政策である」と解したならば――(黎明錄、社會政策とは何ぞや)――「今日までの社會政策は時々の實際的施設に日も雖れ足らず自ら新しく哲學を建て社會政策の立場に於ける世界人生觀を餘裕を有せず。從つて今日までの社會政策には何等の哲學等なかりしなり。尤も此狀態に滿足せざる學者なきにあらず或は傳來の哲學に赴きて其人生觀を借り來り或は社會主義より其哲學を奪胎し來りて之を社會政策にせんとするものあり然れども借用物は到底借用物たるを免れず。社會政策の基礎たるべき哲學としては一長一短ありて滿足は得られ」ざる狀態にあるのである。(福田博士、經濟哲學考證生存權の社會政策)けれども福田博士の如き生存權を主張せざる學者に採りての社會政策の根據は私有財產制度維持

論にある。この私有財産維持論より出發した福田博士の所謂實際的施設としては、社會政策的財政策、勞働者問題の解決法たる勞働紹介、各種勞働保險、割増金制度、利潤分配、最低勞銀、住居改善を數へることが出來るが其効果如何に就いてはこゝに詳論を避け、一八七〇年代のビスマルクに始まる獨逸の社會的施設の完備にも拘らず今次の社會革命の齎らせしが如き變革並に英國の如き獨逸に次ぎて社會施設の多かりし國に於て社會主義に立脚せる勞働黨の社會改造案が同國の多數者に認容せらるるに至りしが如き狀態に到りしの一事を讀者に告ぐるに止めて置く。

（五）

社會政策は先にも言つた樣に現在の社會組織の範圍内に於て社會諸階級殊に資本家階級と勞働者階級卽ち有産階級と無産者階級との調和を可能とするものである。

然るに近世資本主義的精神の精隨は「金の獲得」にある遠く中世の末葉から始まつた金を求むるの心は、經濟組織の發展と共に、更に其強度を増して、所謂企業精神なるものを構成したのである。如何なる手段方法を以てしても其所有財産を増殖せんとするのは現代資本家の特色である。近世資本主義の發達がかゝる精神的要求に依り、其形態を安い賃銀を以て雇入れた勞働力に依る商品生産を以てして餘剰價値を發生せしむることに採つたのである。斯くて兩者共相互的効果を經濟組織と人間の精神の上に及ぼして、ゾンバルト教授が其著「有産者階級論（デア・ブルジョアー）」に於て論ぜしが如き企業家精神を構成するに至つたものである。洵に近代資本主義の努力は一に資本の増殖に集中せられた。資本家は其大を致す爲に、生産の原料、並に勞働力を極めて低廉に仕入れる必要がある。彼は他の競爭上斯くすることを強制せられることも有り得るが、更に利益を追ふに忙しい資本家は、其間にカルテル、トラスト等に依りて其商品の市價の低落を防ぎ一方に於て其團結を以て所要の勞働力を廉價に購入せんとする。然るに勞働者にあつては、其生活上の必要、享樂を求むる心よりして其勞働力を出來る限り高價に賣らんとする。斯くて彼等は勞働組合を組織し、同盟罷業をなし、非賣同盟をなすことは彼等の自衞上の必要である。資本主義經濟組織の必然的結果はかゝる資本家と勞働者の對立的爭鬪に終らなければ罷まはぬのである。

（六）

有産階級は物を所有することを其特徴とし、無産者階級は、財産よりの自由を其特徴とする。資本主義の永き鍛錬は資本家をして所有の心理を構成せしめ、ブルジョアの唯一の誇りは其所有の高に依るのである。貸借對照表の利

益の數字は彼等の露骨な人生觀である。彼等は何處までも富を追究する。之に反して無產者階級は生產手段を有せざる爲に、其勞働力を有償的に資本家に提供し、以て其生計の費を得るにある、故に彼等の主とする任務は物の生產である。

ベルトランド・ラッセルに依れば人間の行爲は衝動より發するもので、其衝動は分つて所有の衝動と創造の衝動とし、人間の幸福は所有の衝動を排けて、創造の衝動を育むことに依つて得らるるとして居る。(Political Ideals, why men fight) 而して現代資本主義的經濟組織の範圍內に於ては人は必然的に所有の衝動のみに依つて其行爲を律することとなり、資本家と勞働者とは其爲に必然的の鬪爭に從事せなければならぬ。然るに資本家は其肉體の外に資本なる武器を持つて居る。資本とは多くの經濟學者に依て誤り信ぜられるが如く、單なる生產手段其ものではない。之れは生產手段が或る社會的關係にあるときにのみ資本となるものである。資本とは「餘剩價値を生む價値」であつて資本主義經濟組織特有の現象である勞働力のエクスプロイテイションに外ならない。故に資本の所有者は何等の勞力なくして一室の所得を獲得し、更に資本の增大を計ることが出來るが、元來文無しの勞働者階級に於ては一定の收入より以上に其所得を增大することが出來ぬ、爲め貧富の懸隔は益々資本主義制の下にあつては增大して行く。洵にベルンシュタイン以下の修正派(レビジョニスト)の主張する如く勞働者階級が困窮困憊の極に落るべしとのマルクス說が絕對の眞理にあらざるは其勞銀の絕對額の增加を見ても明かであるが、其絕對額の增加は必ずしも問題を簡明する所以のものでないのはカウツキー、スパルゴウ等のマルクス正統派の主張する通りである。彼等の勞銀の絕對額は增加したのは事實であるけれども其資本との對比を見るときに、私達はマルクスの先見に驚かざるを得ない。

かゝる狀態は歐米諸國に於ける社會政策的施設を眼前にしての事實である。そは資本主義認容の必然的結果として現はれた現象である、私は諸種の社會政策的施設の効果として諸種の社會問題が一時的解決を得たことを否定するものではない。然し其解決は常に一種の妥協である。時日の經過は再び爭鬪を齎らすことは歐米に於ける勞働問題史がよく之を證するものである。何となれば資本主義制の維持は所有の衝動の勞働を絕滅するの期なく鬪爭は其必然的の結果であるからである。

(七)

物の生產には其原料、生產用具之を概括すれば生產手段

と勞働とを必要とする。故に資本主義制の下に於ける生產には生產手段の所有者たる資本家に勞働力の所有者たる勞働者との協力を要する。世の論者は斯くの如き事實より出發して、資本家と勞働者との利害は其根柢に於て一致するものなりと主張するのである。もしかゝる議論が眞であるとするならば現今の社會に於て勞働者問題が存在すべき理由が無い筈でなければならない。然るに勞働者問題が大問題となつたと言ふのは資本家並に勞働者が生產を營むに當り互に一方は資本の提供に依り、他分は勞働力の提供に依りて協同せなければならぬと言ふ狀態から發生したのである。されば資本家と勞働者との溫情的交涉とか融和親睦とが言力ことを說くことそれ自らが既に矛盾である。故に資本家と勞働者とに對等の權利を認むと稱しながら私有財產權を否定せざるが如き「微溫的」な社會政策を實行せんとするのは社會組織と眞の倫理的要求とを會得せざるもので決して、現下の社會問題を解決する所以ではない。

（八）

社會全體としての向上を求める社會的要求は、平等を求むる心から發する。換言すればそは社會的正義（ソーシャル・ジャスチィス）を求むるものである。社會の社會に依ての社會の爲の政策は社會的正義の觀念卽ち個人並に社會の發展と生命とは出來る丈け之を許容することにし、然も其個人と社會の發展と生命とは他の犧牲を要するならばそは最小限度に制限すると言ふ理想に依らなければならぬ。個人は其個性を發輝し得ると同時に彼は又社會的奉仕の觀念より脫することは出來ぬ　個人はたゞ個人として存在するものでなく、彼は又社會の共同生活の一分子である事を認めなければならぬ。而して社會的團體は其團體利益のみを追究するのみでなく、全社會の協同てふことを考量しなければならぬ。斯く各社會並に各個人が其社會的奉仕の觀念を自覺する時に於てのみ、各個人の人格の平等は實現せられ、各社會は全體の社會中に於て其存在と價値とを保持することが出來る。斯くの如き觀念に於てのみ、社會は之を構成する各個人の機會の均等と其個性を充分に發輝することが出來る。眞の文化の發達は世に謂ふ所の競爭でなくして協同である。而して、之は之を理想の上からのみ見て然かるのみならず、社會生活の科學的觀察はかゝる說の眞理なのはクロポトキンの「相互扶助論」を讀むものゝ均しく認むる所である。競爭より協同の世界へ！　これが私達の理想でなければならぬ。

かゝる見地に立つて社會政策的施設を見るときに私達は無限の失望を感じない譯には行かない。そは資本主義の暴威に對して何れ丈けの效果があらうか。社會生活の理想が

物質上に於ても精神上に於ても平等を求むることにあるならば社會政策は理想として、極めて低いものと許さなければならない。そは極めて、社會生活を皮相に觀察した結果に過ぎないと均しく人間性其ものゝ要求をも無視したものではないか。一方に、有りあまる資産を所持して、何かの勞働をもなすことなく享樂の自由が限りなく許さるゝときに、他方には手より口への其日嫁ぎに享樂の自由よりは享樂よりの自由を極度に有するが如き狀態には有産者階級の他のものは一人として、之に贊同せぬでせう。

斯く觀じ來れば社會政策とは遂に有産者階級の權利保持に對する保險料である。其の經濟組織を維持せんとして右手にてエクスプロイテイションせしもの　一部を右手にて與へんとするに外ならない、そは社會の社會に依ての社會の爲の政策でなくして、有産者階級の有産者階級に依ての有産者階級の爲めの政策である。高度の文化生活を欲するものに取りては、社會政策に對して、多大の價値を認めることは出來ない。そはたゞ有産者階級に對してのみ價値あるもので全人民が一體として、要望すべきにはあまりに低度の理想でなければならぬ。(一九一九・八・九、房州のある海岸にて)

十月特別號

最近勞働運動の嚴正批判

安部教授　戸田博士　堺利彦　賀川豊彦　三宅博士　神戸博士

日本の現時勞働運動を評す……山川均

婦人欄　時評

自由論壇　海外時潮

黑人解放論……北澤教授

權力階級流行を支配す……山口孤劍

新進教授月旦（穂積博士……帝大學生山崎　北澤教授……早大學生渥美）

可憐なる製糸工女……丸山記者

變態心理日記……沖野岩三郎

ゴリキーと死刑執行兵……大泉黒石

美術の秋……黒田重太郎　幸崎伊次郎　足立源一郎　齋藤與里

有島武郎論……増田篤夫

創作の感興……永井荷風

經濟生活の解放……森本博士

唯物史觀說の改造……高畠素之

ルウディンよりサバロフへ……小樽高商教授　大西猪之介

具體的文化價値としての自由……野村隈畔

民衆の世界改造……早大教授　木村久一

秋季創作附錄

お千代と其母……宮地嘉六

風聞……葛西善藏

ボオドレエル散文詩（邦譯）……谷崎潤一郎

大村一家……正宗白鳥

腦病院の庭……中村星湖

春の心臓（邦譯）……芥川龍之介

寢顔を眺めて……沖野岩三郎

鎖（脚本）……中村吉藏

本號に限り　特價九拾錢　送料二錢

毎月一回一日發行　定價五拾錢　税二錢

六冊　貳圓九拾五錢

十二冊　五圓八拾錢

（郵税不要）

株式會社　大鐙閣　發行

東京京橋區桶町五十

大阪南區三休橋南詰

振替　東京三三六一八　大阪二七一五五

勞働代表としての高野博士

（一）

法學博士高野岩三郎氏は日本の現代においては第一流の統計學者である。この點は何人も異議のないところである。それのみではなく高野博士が勞働問題についても相當に造詣の深いものであることは、一部の人々の間には認められてゐるやうだ。だから學問の點からいへば勞働代表としての高野博士は先づ結構の方だと思ふ。

（二）

若し今度の國際勞働會議が萬國國際法學界か何かのやうな純學術的の會合であるとすれば高野博士を出したことは或は日本のために名譽となることもあるかも知れないまた高野博士が單なる顧問として行かれることであるとすれば、それもまたよき顧問を得た事になるに相違ない。ところが困つたことには事實は丸で反對だ。

（三）

事實は勞働者の代表としてゆくのである勞働問題には何の關係もない學校の一教授か、突如として勞働階級の代表者となつたわけである。無論選擧もあつた。けれども選擧團體を構成する人達が如何にして選まれてきたか。またその選擧團體の中で、やや正しき方法で選まれてきた人達がこの團體から脱退したことの事實を思へば、高野博士が選擧されたといふことはたゞ名ばかりである。勞働的良心のあるものから判斷して見れば、かういふ方法で選まれた所謂代表者なるものが、代表者としての何等の意義をもつてゐるものでないことは明白である。

（四）

代表と非代表との關係は、卓越か否かの問題ではない。代表と非代表との關係は、責任と否との關係である。責任を負ふことなくして代表といふことはありえない。高野博士は何ものに對して責任を負ふのであるか。その高野博士の選擧者たる團體が、既に勞働者と沒交渉なものであるとすればこれに對して責任を負ふことが、勞働階級に對して責任を負ふことゝなるものでないことは明白である。

（五）

或は汎く日本の全勞働者に對して責任を負ふといふかも知れない。突如として勞働代表だと稱し、さうしてそれが日本の勞働者に對して責任が負えれるといふことであれば、凡ての官僚政治家も國民に向つて責任が負へるわけではないか。然り、かゝる責任とは『自己製造』の責任であり、從つて自己欺瞞の責任ではないか。

（六）

學者的良心のあるものは、先づ彼れが如何にして選まれたかについて、學者的良心をもつて批判しなくてはならぬ。彼れは冷やかに學者として、また、第三者の立場に身を置いて、彼れと日本の勞働階級との接觸、さうしてそれとの責任關係について考へるところがなくてはならぬ。

（七）

今度の勞働會議はいふまでもなくたゞの勞働者だけの會議ではない。それゆゑに高野博士が政府を代表し、或は資本家から代表に推薦されたとしたならば、われ等には何の文句もない。けれども今度の會議が勞働者だけの會議でなければないほど、勞働階級を代表するものは、眞實なる勞働階級の代表者でなくてはならない。勞働者と呼吸を一つにすることのできる人、勞働者と

利害を共にすることのできる人、勞働運動について熱切な同情をもつてゐる人でなくてはならぬ。高野博士にその何ものがあるか。勞働問題の一學究としての彼れは、勞資協調主義からいへば、或は公平な立場だといへるかも知れない。けれども勞働階級にとつては、そんな『公平』は大禁物である資本家の利己心に對して、眞實なる勞働者の叫びをなしうるものこそ、勞働階級が要求する唯一の人物である。この點から見れば、彼れは勞働階級の代表者として、乞ひ問ふ、彼れ自らに何の自信があるか。

（八）

英國からの勞働黨總理としてのヘンダアソン、佛國からのサンヂカリストとしてのヂヨオウ、白國からの國際社會黨のチヤムピオンとしてのヴアンダアベルト、米勞働聯合會長としてのゴムパアス、これ等の人々の間に伍して　わが高野博士は、何ものを代表し　何ものゝために辯ぜんとするか。

（九）

彼れのために、彼れを起たしめるために最も熱心であつたもの、さうして彼れの意見を飜さしたものは、實に政府の熱心な勸告である。然り、彼れを起たしめるために熱心であつたものは勞働者の一人でゞもなくして、たゞ政府の大臣であり、吏僚である。彼れは、乞ひ問ふ、勞働代表であるか政府代表であるか。

（十）

彼れは新聞記者に辯じていふ。『政府の意見が變化したから』と、けれども政府の意見が變化すると否とが、勞働代表としての彼れの進退に何の關係があるか。

（十一）

變節改論者としての彼れ、勞働代表を潜稱する彼れ、さうして政府の一喪狗であるに過ぎない彼れ、學者的良心の缺乏したる彼れ、勞働代表としての虚名に憧れる彼れかくのごとき學究は、日本の學界の一大汚點を印するものである。かくのごとくにして、高野岩三郎と桝本なにがし、宇野なにがしと何の相違があるか。

政府代表としての鎌田榮吉氏

（一）

慶應義塾塾長鎌田榮吉氏が勞働問題について何の理解もなき一個の門外漢であり、ありふれたる一常識宗徒であることは世間既に定評がある。その人今ま推されて勞働會議に日本を代表するといふ。われ等はただ驚きと呆れとのほかには、何ものをも感じ何ものをも考へることはできない。

（二）

私は紙とペンとインキとを無益に使用することを欲しない。從つて鎌田氏が勞働會議の大使として適當か否かをこゝに論んぜんとするものではない。けれども古く日本の學界において名譽ある地位を占めてゐる慶應義塾のために一言を呈しなくてはならないことは、官僚の巣窟と稱せられてきた帝國大學から、善かれ惡しかれ兎も角も勞働階級の代表としての人が選まれてゐる時に、多年平民主義のために戰つてきた私立の慶應義塾から官選にして資本家的政府の代表者が選まれることは、果して慶應義塾の名譽であるかどうか。勞働代表の帝大、資本代表の慶應！皮肉か、錯誤か將たまた内面の暴露か？

（三

かくのごとくにして慶應義塾はよく一政黨の御用大學、『資本家の學習院』としての非難を免れることができるであらうか。

マルクス資本論
(松浦要譯註)

先に高畠素之氏に依つて、カウツキイ著「マルクス資本論解説」の邦譯を得た吾々は今マルクス生涯の大著資本論の邦譯が商學士松浦要氏に依つて提供されたのを喜ぶものである。

マルクスの資本論は誰人も知る如く難解で一寸手の出せないものである。であるからマルクスを論ずる多くの人々がこの資本論を通讀すらしないと言ふことは萬更根據のないことではないと思ふ。英國の經濟學者ボーナー教授は其名著「マルクスの生涯と事業」の內で「アダム・スミスは萬人之を讀まずして推奬する書を殘し、ロバアト・マルサスは何人も讀まずして非難する書を殘した」と言つたがマルクスの大著も亦この例に洩れまいと思ふ。

語脈を異にした吾々の日本人が數千頁の歐洲語を讀み通すには多大の努力を要するのは致し方ないことである、そして容易な方面に走つてしまふのも人情である。マルクスの著書殊に資本論は誰でも讀み度い。けれども其力と時間とを有たないものが多くはなからうか。飜譯があれば如何に難解な書でも讀む人は多くなるのは疑ひを容れない。

こんな風で資本論の邦譯を望む人も多かつた異ひないが、もしこの大戰がなつたならば恐らくはこのことは一の空想に終つたらう、然し世界の思潮は日本にもマルクス資本論の邦譯を要求した。そして其要求は松浦要氏と高畠素之氏とに依つて充たされることになり、先づ松浦氏の譯書は先陣の功を其第一冊において附けることが出來た

松浦氏は東京高商に學び、其マルクス研究に從事すること既に八九年に及ぶと言ふ其卒業論文「マルクス價値說の研究」は福田博士の推奬を得たものである。譯者は從來中央大學の教授として、極めて、篤學の聞え高き人である。

私は先づ譯者其人を得たことを喜ぶ。譯者はマルクス流行に依つて飜譯した樣な根據のないものではない。譯者にあつてはこの事業は內心の學問的要求に依つて生れたものであると私は信じて疑はない。

次に私は譯書に就て語らう。この第一册は原品の第一卷資本の生產行程中の第一編商品及び貨幣全部三章、原著者の第一版と第二版の序文、譯者の序文、譯者の筆になるカール、マルクス小傳、並に譯者註とか其全部である。

譯文は極めて流暢で飜譯的臭味を脫して居て通讀し易いものである。紹介者は、精讀、並に原本との對照をなす時日がなかつたので一々の文章に就いて批評することは出來ない。然しこの位日本語になつて居れば充分であると信ずる。殊に難解を以て聞けるマルクスの獨逸文を斯くまでに譯された譯者の手腕に敬服するのである。

譯者は「出來る丈け誤解を避ける爲めに譯者自身の註を卷末に附した」のである。其ことは國語系統の異つたものを飜譯するには特に必要である。そして讀者をして原著の意味を誤らざらしめんとする親切な飜譯者の當然の仕事である。

要するにこの譯書はマルクス研究の專門家の仕事である丈けに、手に入つたものであり親切なものである。早く續册が出て資本論全譯を吾等の机上に見たいものであるそして斯くの如き譯書を見るにつけても私は世の推移の恐しさを思ふ。世界は見えざる力に動かされて行く。資本論飜譯の出現は我國に於ける新興階級の烽火ではないか學問的見地とそしてこの樣な社會的表徵として、私はこの譯書を得たことを限りなく喜ぶものである。(定價一圓八十錢下谷區谷中三崎町四八經濟社出版部(哲)

文藝時評

木蘇穀

今月の雜誌に出て居る創作と評論とを出來得る限り數多くさうして出來得る限りゆつくり讀み味はつた上で、それからの私としての感想なり批評なりについて素直に書いて見たいと思つたので澤山の雜誌を集めて來た私は、讀みたいとは思つて居たものゝほんの僅かしか讀むことが出來なかつた。しかも餘り落着くことも出來ないで。だからざつと私が讀んだそれに對して一通りの感想を述べて、最後に私が最近感じたことについて少しばかり書くことにしたい。

最初に「解放」を手にした私は先づ宇野浩二氏の長篇「苦の世界」を讀んだ。讀みながら、私の心は何の不自然もなく作者の世界へ引き込まれて行つた。私の心は常に驚嘆して居た。嘗て何處にもなかつたもの耳にぶつかつた驚きを以て。「浮世の詩人」——かういふ名稱こそ本當に氏に取つて相應はしいものだ。我々が兎角あはたゞしく、別に深く省みもしないで通り過ぎ勝ちなさうした世界に對して斯く迄情味に滿ちた詩を見出し得る人！　さうしてそれの表現は如何にもさうしたものにしつくりと合つたフレッシュそのものといつてもいゝスタイルだ！　他にいろ〳〵と論ずる人もあらう——しかし私はそれ丈で澤山だ。尊敬すべき人であり藝術家であると思ふ。兎角情味の稀薄な單なリポートとしてしか——それも平凡極まるといつてもいゝ程の——在存し得ない作品の多い今の文壇の中にあつては本當に貴い。次に同じ雜誌の久米正雄氏の「彼等と逢ふ」を讀んだ氏のいつもの至つて平易なスタイルはちつとも變はつて居らない。さうしてそれが氏の心持とは本當に自然と合つて居る樣に思ふ。文章が少し勝つて居るかも知れないとも思ふが、それ丈つまり氏は所謂才人といふ型をも持つて居るのであらう。私は如何にも人のよささうな氏を見る——さうだ極めて自然に見える。けれども何處にも氏の個性の色なり香なりがない。單に樂屋落ちに過ぎない——私はかう迄思つた　氏には——この作品丈について云ふのではないこれ迄讀んで居るもので私の頭に殘つて居るものが云はせるのだと思ふが——感受性はあるが唯それ丈なのではないのだらうか。尤そのことゝ月並な何の個性もない類型的な日本人といふものとが一所に頭の中へ這入つて來ると、そこには別に特異な性格なり、特異な氣分の波動等が生れて來るといふことも考へられないが。若しこゝに異常な人が

現はれたと假定した場合、氏は本當にそれを自分のものとする爲に全體としての震動をなし得るか?! 非常に興味深い問題だと思ふ、そこには主體的の背景がないから。

次で「中央公論」を手にして佐藤春夫氏の「海濱の望樓んて」と谷崎潤一郎氏の「或る少年の怯れ」とを讀んだ。佐藤氏のは非常によくまとまつた作品だ。かういふ作品ではどうしても第一人者だといふ感が深い。私には餘りによくまとまり過ぎて居るので、少しうるほひが薄くなつたうらみがありしはないかとも思はれた。私に取つては、佐藤氏のものは此の頃少し一體にさういふ傾向がありはしないかと思はれる。この「海濱の望樓んて」を讀んだ時、作者と同じ鋭い神經と心とを以てそれの海濱へ立つて、そこに起つた事件なり、その時の海濱なりを觀たり感じたりして居る樣な氣はしたけれども、以前私が「指紋」を讀んだ時、その主人公の氣持に同化し切つて、それの作品の中の長崎が幻影にこびりついて、長崎へ行きたくてたまらなく思つた程の壓力――或はそれに優る透明があるだらうが――を强く感ずることが出來なかつたことを悲しく思ふ。私には佐藤氏のさういつた壓力が一番何よりも好きである丈、その悲しさは深い。

谷崎氏のは、氏のこれ迄のものと比べて、可成り違つた全體として――ものだと思つた。氏としては新らしい試みだらうと思ふ。それの成功不成功は別に考へなかつたが、兎に角しつとりとした落着が以前のものと比べるもずつと多量にあつた樣に思はれた。さういふ意味での新らしい試みであつたのが第一の原因だらうと思ふが、氏獨特のアトモスフィアの調子が少し低くなつて居たのがあきたらなかつた。玆で、ふみ止まつて一個の谷崎潤一郎氏を考へ通して來るとどこから來てどこまで行くのかさへ分からない程の氏の藝術的境地の樣なことを今更の樣に思ひ當る。

「新小說」で大杉榮氏の「死灰の中より」を讀んだ。創作としては餘り感心しなかつた。一番足りないのが、人間味とさうして更に藝術味だ。氏はどうしても創作家ではないとも思つた。さうしてそれに關聯して今更に所謂社會政革家と創作家との間の本質的の相違がはつきりと私の心の中に描かれた。それは優劣の問題ではなくして、本質の相違だ! 堺利彦氏の「魚食人と宍食人」は非常にうまいものだと思つたが、矢張理智だ。底に動く人間がその理智に比べるとなさ過ぎる程ない。――それ等の人がする社會改革――それがどんな位置を持ち、何處へ到達すべきものか――それもはつきり分かる樣な氣がした。イズムと人間、理智と人間、更に人間と藝術、――それらの位置をはつきり分

かる人間が何よりも必要だ。

「三田文學」があつたので、私は水上瀧太郎氏の『「末枯」の作者』を讀んで、氏の理解の豊かなのに感心した。少し同感しにくい點もあつたが、久保田萬太郎氏の位置が本當にはつきり描かれてあつた。久保田氏も立派な理解者を持つたと云ふべきであらう。

＊　＊　＊　＊

私の讀んだのはざつとそれ丈だ。非常に雜駁な感想になつたのを私はひどく苦しく思ふ。しかし少くとも私の云ふべきことは透徹しては居ない迄も、僞りはないと思ふので少しは自ら慰められもする。來月からは本當に落着いた、批評を書きたいと希ふ。

玆で少しく私の最近の感想を書いて見たい。藝術品とはどんなものか——こんなことを考へて來ると、いろ／＼のことが心に浮んで來るが、更に最近の日本の文壇の藝術品のことを思ふと、自分にはどういふつもりでそれらが書かれて居るのか分からない程、調子が低い。作品を讀んでも其の後でそれが私に持つて來る感じは極めて薄い。さうして直に私をして素のナッシングの狀態に引きもどす丈だ。讀んで三十分と私を捉へて居た作品は極めて稀だ、私はいふ迄もなく全體としてその作品にぶつかつて行く。のだが依然としてさうだ、どうしてそんなに稀薄なサムシングで作品を書かねばならないのか——かう考へて來ると、いろいろのことがはつきり私の中に浮き上がつて來るが——それは盡く恥ずべきサムシングの樣に思はれる。日本人といふのは結局かうなのか——私には外國のことはよく知らないが——とよくさう思つて、片附けてしまふこともあるが、結局はどうしても不滿でならない。

（八、九、一五）

編輯室と校正室

▲今度はあまり原稿が多すぎたので『批評より』も、新著批評もみなできないこととなつた。『編輯室と校正室』も小さくされてしまつた。

▲續きもののでる筈のものがでない。ギルドソーシャリズムの續きは止むをえず他の雜誌に出すこととした。『マルクスの生涯』も一回休む。

▲『批評』第一號からの御註文が引續いてあるやうだが一號はもう一册もないから他日合本を出すまで御註文は御斷りする。

▲批評社は別記の通り移轉しました。定價もよそなみに値上しました。

▲本誌發行人尾崎士郎君の病氣も大分いゝ方で近く退院する。

危險區域（二）

■山川は流石に賣文社の樓上で靴下のガアタア無用論を主張する人丈けあつて身體は骨と皮ばかりである。山川の人格の全部を端的に表現してゐるものはその顏である。思ひ切て緊張した顏面の上に眼鏡越しに鋭く光り輝いてゐる眼は一切の矛盾と一切の非論理とを突止めなければ止まない力を持てゐる。その顏の前に坐つた時大抵の人が一種の壓迫を蒙るのは無理の無い事である。

■眼と言へば日本の危險思想家を通じて大杉、荒畑、山川の三君の眼は最も強く鋭く光てゐる。大杉が嘗て尾行を連れて旅行をした時、同室の人の眼には泥棒とスリとが連れ合て旅行してゐる樣に見えたさうである。

■荒畑が怒つた時には白眼がギロリと大きく顯はれて恐ろしい形相になる。そこへ行くと山川の眼には前の二君に見るが如き厭味は無い。唯人の心の髓迄見透さなければ止まないといふインテレクチユアルな輝がある。

■堺利彥はその自ら標榜するが如くマルクス直系の純正社會主義者である。高畠素之はナショナル・ソーシアリズムを標榜してゐるが其系統は矢張り堺の純正社會主義である。然し今其主張の根據を解剖してみると堺と高畠との間には尠からず共通した點がある。而して、此二人はその方面こそ異なれ其表面上の立場に於ては日本の社會主義者中最も明瞭な道を歩みつゝある。

■堺、高畠二君の外に舊平民社の殘黨であつて現在不即不離の生活に生きてゐる人が澤山ある。曰く、山口孤劍、曰く、白柳秀湖、曰く、安成貞雄等である。

■山口孤劍は目下毎夕新聞記者である。毎夕の特徵の一である苦味辛味は數年來彼の筆に成るものである。彼は有名な達文家であつて毎夕新聞記者たる傍ら『夢の世界』の主筆を兼れてゐる。其他あらゆる雜誌に執筆してゐるから恐らく年中原稿用紙と萬年筆から解放される時は先づ無いと言て宜いであらう。然しそれ丈けに彼は立派な雜文家と成り下てゐる。八面玲瓏の逸才を一個の雜文家に終らしめてゐることは彼のために返す返すも遺憾に堪えない。

その昔平民社の社會運動が旺盛を極めてゐた頃、彼は當時の青年中隨一の運動家として東奔西走した。或時は寒風に曝され乍ら路上に傳道演説を試み或時は自ら傳道用のパンフレツドを車に載せて地方の各地を引いて廻つた。――其演説は巧妙では無いが熱烈火を吐くの概があつて、常に最後に『若し將來精魂疲れて十字街頭に斃るゝ者あらば山口孤劍を記憶せよ』と言つたさうである。人事雲千變、浮世夢一場、往年の彼は再び今日見る事の出來ないのを遺憾とする。

■白柳秀湖が社會主義者である乎、無い乎といふ事に就ては社會主義者の間にも疑問があるらしい。彼は早稻田の出身であつて幸德堺が運動を起した當時から或意味の同志であつた。其後日刊平民が刊行されるに際して洽く同志中の文章家を求めた時、白柳も亦其人選に入つた。當時稻門にあつた彼は堺からの勸誘狀に對して『丁度許嫁の男から自分の心を疑はれる樣で甚だ苦しい』といふ意味の手紙を書いて送つたさうだ。その彼が學校を卒業するも進んで平民新聞に入り得なかつたといふ事は今日猶彼の人物論の上に置かれた一つの疑問となつてゐる。

彼は今鈴木梅四郎といふ旦那をとつて雜誌『實生活』を經營してゐる。彼に對する多少の批難がその所行の上に在るにしても、彼が社會的に盡したる功績は尠からざるものがある。彼は日本歷史、殊に維新史に就て甚だ深い造詣がある。其著倒叙日本史は其心血の結晶と見らるべきものである。白柳山口の二君は當時の平民社に於て靑年論客を代表するものとして知られてゐた。

■安成貞雄は日本一の怠け者である。彼も最密に思想上の區分をすると社會主義の何れの派に屬する人か一寸解らない。彼は語學に優れたる事と、記憶に明敏なると、人類學に於ける知識の豐富なる事に於て著名である。

彼は學校を卒業すると同時にやまと新聞の記者募集に應じた。所が其才幹は忽ち認められて一等に當選して入社し、それより秋田縣に出向を命ぜられた。――爾來二年半、重大なる使命を帶びて去つたやまと新聞の特派員は其後ウンともスンとも言はなかつた。二年半經つてヒヨツコリ上京してみると彼は既に退社を命ぜられてゐた。

■彼の生涯はズボラと與太の押し通しである。其一度び生ビールの泡を吹くや、談論風發、罵語、嘲語口を突いて出て來る。暫く實業の世界主筆として收まつてゐたが忽ちその職を抛て再び放浪の人になり、毎日原稿を書いては生ビールを飲んでゐた。

■最近雜誌『中外』に記者として奉公し、或用務を帶びて京都へ行つた所が其後半年、社はおろか、在京の友人に對しても一枚の葉書をすら飛ばせなかつた。安成の性癖を心配してゐる人には、或は無錢遊興で未決にでも抛り込まれてゐるのではないか、或は何かとんでも無い面白い事があつて有頂天になつてゐるのではないか、と、噂とりどりせられてゐた。――その安成貞雄がヒヨツコリ京都から歸つて來たのは間の無い事である。

■雜誌日本一八月號は日本一の怠け者を以て安成貞雄と爲したのは流石に人を見るの明がある。馬場孤蝶が往年の總選擧に出馬した時彼は和氣律次郎と共に其參謀であつた。所が此肝心の參謀は何處かへ姿を晦まして見えなくなつてしまつたといふ。――彼は日本の社會運動史上に於ける愛嬌役者である。

■高畠素之はその靑年時代を同志社に學んだ。然るに彼の革命質、煽動質は、忽ち學校當事者との間に物議を醸して飄然として京都を去つた。その同窓の學生に、今の遠藤無水、伊庭孝の二人がある。爾來彼は東京に於て、或は英語、獨逸語の個人教授を爲し或は、會社員になつて翻譯に從事したりしてゐたが其後當時堺利彦の經營してゐた賣文社に傭はれた。此時分の彼は唯業務に忠實なる人として以外あまり多く認められなかつた　然し彼は此逆境時代に於ても全力を其研究に盡した。質實な途を焦らず、慌てずに進んで來た彼が今日の名聲を得た事は敢て怪しむに足りない。（尾崎生）

定價			
毎月一回一日發行	一部	半年分	一年分
郵稅	廿五錢	一圓四十錢	二圓七十錢
	五厘	稅共	稅共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金
▲送金は可成振替
▲郵券代用一割増
▲外國行郵稅十錢

大正八年十月一日印刷納本
大正八年十月一日發行

編輯兼發行印刷人　東京市京橋區銀座三丁目二十七　尾崎士郎

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　株式會社博文館印刷所

發行所　東京市京橋區銀座三丁目二十七　批評社
振替東京四五三四六
電話京一五四八

廣告	
半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館
▲日本橋　至誠堂

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年十一月一日印刷納本 大正八年十一月一日發行
（定價金廿八錢）

十一月號（第九號）

レーニンの著書を讀む

批評社

◆冬帽各種新着◆

今春仕入れの爲め渡航したる店員の仕入品續々着荷し、就中世界製帽界の權威たる、ステッソン、ノックス、バタスビイ、クリスティ、グリン、ヘンリーヒースを初め其他著名なる英米製帽會社の新型流行品の精華は近來稀に見るの盛況なり、何卒御來觀の榮を賜へ

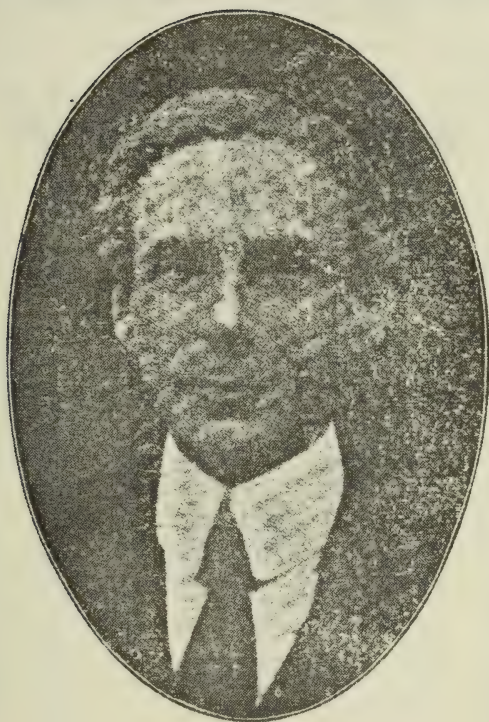
三越の十一月

◆春衣裳陳列會（一日より九日迄）
◆京都西陣御好合製作丸帶陳列會（十日より十四日迄）
◆挿花器陳列（十日より十六日迄）
◆三越繪畫展覽會（廿日より廿五日迄）

◆◆十一月定休日◆二日（第一日曜日）◆十六日（第三日曜日）◆◆

東京

批評

十一月號　目次

HONORABLE BERTRAND RUSSELL

(ルセツラ・ドンラトルベ)

History will one day pay tribute to Bertrand Russell for his appeal to truth and justice on questions of international and personal rights, before, during and after world struggle.

レーニンの著書を讀む

室伏高信

ニコライ・レーニン(1) Nikolai Lenin は卓越したる組織的才能の所有者である。この點は既に過去二ケ年間における彼れの行動によつて證據立てられた。恐らくは民衆運動の指導者として、彼れほどに組織的才能を發輝したものは歴史上においてもその例を見出すことは容易でない。この點においては、ボルシエヴキキ主義(2)の指導者としての彼れは『社會民主主義同盟』(3)の指導者としてのミハエル・バクーニンにも匹敵し、『國際勞働者協會』の指導者としてのカール・マルクスにも匹敵する。もとより彼れは新思想の唱導者ではない。また彼れは新運動の創造者でもない。この點において、彼れはマルクスに比し、バクーニンに比して、甚だ物足らなさを感ぜしめなくては止まない。この物足らなさは歴史上の人物としてのレーニンにとつては殆んど致命的である。この致命的の缺陷の故に、われ等はレーニンについて學ぶところが甚だ多いにもかゝわらず、遂に彼れからの感激を思ふことができないのである。しかし勞働運動の組織者としての才能において、ニコライ・レーニンは古今獨歩であるといふことができるマルクスもバクーニンも、この點においては彼れに一歩を譲らなくてはならない。フエルヂナンド・ラサーレは今日までの勞働運動者のうちにおいて最も華やかな、さうして最も熱情的な指導者であつた。しかし華やかであつただけそれだけ、ラサーレはニコライ・レーニンのごとき組織的能力と堅實さとを示すことはできなかつた。然り、勞働運動の組織的才能としてのニコライ・レーニンはわれ等の警異を禁ずる能はざるところ、ボルシエヴキキ主義の如何なる反對者と雖も、彼れのこの組織的才能については大に學ぶところがなくては

ならない。私自身ボルシエヴヰキ主義の反對者であることは、屢々聲明してきたところであり、今日においてもその確信を動かすことはできない。しかしボルシエヴヰキ主義の反對者としての私は、ボルシエヴヰキ主義から學ぶところが甚だ多い。特にそれの將來に暗示する政治的及び産業的組織については、私は深い興味と反省とを感ぜざるをえない。さうしてこのニコライ・レーニンの組織的才能と、彼れの才能によつて暗示せられる將來の政治的及び産業的組織とは、彼れの小著『勞兵會論』(5) The Soviet at Work によつて表徴せられる。しかくこの小著は重要なる價値あるものであり、ロシア・ボルシエヴヰキ革命の産出したる歴史的の著述であるとせられる。

(1) ニコライ・レーニンは一九一七年九月革命以來レオン・トロツキー Leon Trotzky とともに革命ロシアの指導であり、その間に彼れ及びその政權の覆滅は屢々傳へられたところであるが、それ等はみな資本家の新聞紙または通信機關の捏造説であるに過ぎないことは勿論である。また彼れがブレスト・リトヴスク條約に調印して獨逸と和を結んだために、協商諸國の諸新聞紙は彼れを罵つて獨逸探であるかのごとくに論じた。しかしレーニン自身はこの條約に對して少しも滿足してはゐない。さうしてこの條約をもつて掠奪者の講和 Brigand's Peace であると述べてゐる。またそれがロシアのうへに課せられた『チルジツト』の講和であるとも述べてゐる、これによつて見ても彼れがブレスト・リトヴスク條約に滿足してゐないことが明白である。然らば何故にかゝる條約に調印したか。ロシアは『軍備をもたなかつた』からである。『勞働階級革命の怪物が掠奪者の前に脅威であればあるほど掠奪者はいよ〱ロシアを壓迫し、窒息させ、裂き切つてしまうからである』と。

(2) ボルシエヴヰキ Bolshevik とは一九〇三年以來レーニン派に與へられたニツクネームであつてロシア語の Bolshinstvo卽ち多數といふ意味であり、これに對してプレハアノフ派はメンシエヴヰキ Mensheviki と稱せられたがこれもロシア語の Menshinstvo卽ち少數といふことの意味である。

(3) 社會民主主義同盟 Alliance de la Démocratie Scialiste は一八六九年バクーニン Mikail'Bakunin によつて組織された勞働者の團體である。最初は國際勞働者協會の内部の組織であつた。スパルゴウがそのマルクス傳 (p. 286)のうちに記る

してゐるところによれば、バクーニンはこの社會民主主義同盟を通じて國際勞働者協會の支配者たらんとしたとのことである。それは名義上は國際勞働者協會の支部であつたが實際においてはそれ自身の綱領を所有する獨立の團體である。バクーニン自身はロシア人であつたにもかゝわらずこの團體に屬する人々は多く南歐人であつた。無政府主義、無神主義、無信仰、無崇拜主義を奉じ、結婚制度を否認した。

(4) 國際勞働者協會 International Workingmens Association は一八六二年ロンドン博覽會を機會として集合した英佛白勞働者の協議に端を發し一八六四年に永續團體として成立した。英、獨、佛、伊、白、和、瑞(西)米の諸國に支部をえたが、財政的基礎の薄弱と一八七〇——七一年の普佛戰爭のために衰へ、且つマルクスとバクーニンとの爭ひは團體の致命傷となつて一八七三年のゼネバの會合によつて事實上滅亡し、一八七六年フヒラデルフヒヤの會合において正式に解放された。

(5) レーニンの『勞兵會論』(Nikolai Lenin, The Soviet at Work; the International Position of The Russian Soviet Republic and the Fundamenal Problems of the Socialist Revolution, 1919) は最初その機關紙プラウダ Pravda に載せたものである。それを米國の Rand School of Social Science から英譯して出版した。

(二)

ボルシエヴキ黨は最初は社會民主勞働黨に屬してゐたものであつたが、今日においては他の社會民主勞働黨と區別するために、名稱を變更して『共産黨』Communist Party と稱してゐる。この名稱の變更はたゞ名稱だけの變更として見ることはできない。それはマルクス•エンゲルスの『共産黨宣言』(または『共産同盟』と相應ずるものであるからであり、さうして私はレーニンの立場、ボルシエヴキ主義の立場をもつて、『共産黨宣言』の立場であると信ずるものであるからである(1)

(1) 拙著『社會主義批判』第六章參照

（二）

ニコライ・レーニンに從へば、共産黨――ボルシエヴヰキ黨にとつて二つの重大問題、先決的の二大問題がある。その一つは、共産黨が政綱と政策とを通じて人民の多數を說伏することである。他の一つはそれによつて政治的權力を征服して絞取者の反抗を抑制することである。このうち第一の點は、『モスコウの勞兵會議によつて證據立てられたとほり、ロシア勞働者並に農民の多數が、ボルシエヴヰキの側に立つたことによつて』大體において落着してゐる。ニコライ・レーニンはこう述べてゐる。(1)また彼れは第二の點について次のように述べてゐる『われ等は一方に王黨及び立憲民主黨、他方にメンシエヴヰキ黨及び社會革命黨が、勞兵會の權力を轉覆せんとしてゐることの事實を閑却することはできない。しかし、概言すれば、絞取者の反抗によつて導かれた問題は、既に一九一七年九月七日から一九一八年二月頃――ボジヤエフスキーの降伏までの間に解決せられてゐる』と。(2)ロシアにおけるボルシエヴヰキ革命の指導者としてのニコライ・レーニンはボルシエヴヰキ黨のロシアにおける地位を以上のごとくに觀察してゐるのである。『われ等、ボルシエヴヰキ黨はロシアを征服した。……社會黨が本質的に權力を獲得し並に絞取者を抑壓することの事業を完成したことは、世界の歴史のうちにおいて、最初のことである』。レーニンは得々としてこう述べてゐる。(3)この點は素より事實である。この事實は何人も僞ることはできない。從つてレーニンの大言壯語に對しては、世界は忍んでこれを聽取することの義務がある。

(1) Lenin, Soviet at Work, p. 6
(2) ibid., pp. 6-7
(3) ibid. p. 8

（三）

レーニンの豪語してゐるとほりボルシエヴヰキ黨はロシアにおいて勝利を占めた。レーニンの言葉通りにいへば、『ボルシエヴヰキ黨はロシアを征服した。それはロシアを富者から貧者へ、絞取者から勞役者の手に奪つた』のであるもう一度レーニンの言葉を借りていへばロシアは勞兵會のロシアとなつたとともに、それのみならず『社會主義共和國』となつたのである。そこで第一に起つてくる問題は如何にしてこの新ロシアの政治及び産業を統制してゆくかといふことである。この問題は、ボルシエヴヰキ革命が正統派社會主義の革命と同一でないことの理由によつて、並にボルシエヴヰキ革命が社會主義革命の歴史のうちにおいて、成就されたる最初のものであるといふ理由によつて、資本主義の秩序に對する最初の社會的、政治的、産業的の反對秩序を創造するの試練であることの理由によつて、更に資本主義の新聞紙がボルシエヴヰキの諸施設を冷笑し惡罵することの批評がどれほどの程度において眞理であるかを試驗することの理由によつて、ボルシエヴヰキによつての Management の問題は、われ等の深い感興をもつて知らんとするところである。レーニンはこの問題に答へることをもつて、彼れの著述においての第一の職分であると考へてゐる。前に述べたとほりボルシエヴヰキ革命の第一の事業は多數の民衆を說伏し、また勞働者の手に政權を獲得することである。即ち資本家の支配、資本主義の政權に對して、勞働者の支配、勞働者の政權を獲得することであるが、勞働者が政權を獲得した後において、資本主義が直に轉覆するものと信ずることは大なる誤謬である。ボルシエヴヰキは『ロシアを征服した』しかし資本主義はロシアの內部において彼れに反抗し、またロシアの外部において彼れを脅かしてゐる。レーニンは如何にしてこの內部の局面に對せんとするか。彼れはボルシエヴヰキ革命をもつて歴史上において最初の成就したる社會主義革命であることを誇りながらも、その成しとげられたる革命なるものが、實は、單

なる序幕、社會主義の第一歩であるに過ぎないものであることを自白しないではゐられなかつた。彼れはボルシエヴヰキ革命をもつて一七九三年及び一八七一年のフランス革命(1)に比較して次のように述べる『われ等の革命を西歐の革命に比較するとわれ等は今日まで一七九三年及び一八七一年にフランスにおいて到著した點にまで達してゐる。われ等はわれ等がこの點にまで到達してゐることを誇りとするものである……しかし、われ等はかゝる成果に滿足してゐることはできない。何となればわれ等は單に社會主義への轉化を始めたばかりであり、またこの點において、われ等はまだ決定的な何ものをも成就するに至つてはゐないからである』と(2)

(1) 一七九三年の革命とはフランス大革命のことである。大革命は一七八九年に始まり、一七九三年に共和政府を樹立するに至つてゐる。一八七一年の革命とは Paris Commune のことである。卽ち巴里自治會の革命であつて勞働階級の革命史上においては重要な地位を占めてゐるものである。

(2) Lenin op.cit., p. 10

(四)

ボルシエヴヰキがその權力を獲得し且つそれを維持するために第一に試みた行動は赤衞軍の使用である。この點はボルシシエヴヰキの執政權の問題と關連するものであり、またボルシエヴヰキに對する非難の最も重要な點の一つである。レーニンは如何にこの非難に答へる。彼れの答辯の第一點は、軍事的反抗に對しては軍事的手段に訴へるのほかはないといふことである。卽ち既に所有階級が軍隊を使用し、軍隊の力によつてボルシエヴヰキに對抗する以上ボルシエヴヰキもまた軍隊の力に訴へるのほかはないといふのである。(1) 彼れのこの議論は、今日の所有階級の辨護者の何人もこれを非難することはできない。卽ち所有階級が既にその階級的利益を擁護するために軍隊を使用してゐる以上、無所有階級がその階級的利益を擁護するために軍隊を使用することを拒否することはできない筈であるからで

ある。しかし、それはたゞ所有階級の政治家に對抗するだけの根據をもつてゐるに過ぎない。また從つてレーニン自ら革命の熟してゐなかつたことを證據立てゝゐるに過ぎない。次にレーニンの答辯の第二は、人民が統制の技術をもつてゐなかつたといふことである。『統制の技術は人民に固有のものでなくして經驗によつてえられるものであることの理由によつて、われ等は壓迫の方法の代りに統制の方法において卓越することができなかつた』レーニンはこう述べてゐる　彼れの答辯の第三は、彼れ等が專問家をもつてゐなかつたといふの點である。卽ち專問家を有せず、また統制の技術に熟しなかつたために、ボルシエヴヰキ革命は『壓迫の方法に訴へるのほかはなかつた』といふのである。かくしてボルシエヴヰキ革命の指導者としてのニコライ・レーニンは、彼等の革命が、軍隊と壓迫との手段に訴へることのほかには、何等の準備をもつてゐなかつたことを自白してゐるのである。さうしてまた民主主義を與へられない國民の間においての階級鬪爭が不幸なる暴力の爭鬪に終るべきことの事實を敎訓してゐることを知るのである。ニコライ・レーニンが『われ等は境遇の變化によつて爭鬪の方法を變化することができる』と述べてゐることは、この點において深く味うべき言葉でなくてはならない。

(1) Lenin, op. cit., p. 13

(2) ibid.

(五)

レーニンがブルジョアから學んでゐることはたゞ壓迫の方法だけではない。彼れは統制の方法をもブルジョアから學ばんとするものである。社會主義の主張者としての彼れは、また生産能率の增進の主張者としての彼れである。彼れの社會主義または共産主義において第一に高調されてゐるものは生産能率の增進といふことである。彼れは先づ次のように述べる。

『凡ての社會主義革命において、勞働階級が權力を獲得することの問題を解決し、また奪掠者を奪掠し、その反抗を壓迫するまでに至つた時には、その革命は、何よりも先きに、資本主義よりもより高き社會的組織を創造することの基本的問題に轉ずることが必要である。卽ち勞働の生産力を高め、またこれに關連してその組織を改善することである。われ等の勞兵會の權力は今や丁度その地位に到着した……』(1)

かくして社會主義の主張者としてのレーニンは、また生産力の增進の主張者としてのレーニンである。如何にしてこの生産力を增進すべきか。

『勞働の生産力を增加するためには、われ等は先づ第一に大産業の物質的基礎を獲得しなくてはならない。卽ち燃料、鐵、機械の生産及び化學工業の發達を獲得しなくてはならない。』(2)

この點においての生産力の增進の問題は、自然力との間に密接な關係をもつてゐることは勿論であるが、レーニンはこの點においての樂觀者である。彼れはロシアがウラルの鑛山、シベリア、カウカサス、南東及び中部ロシアの燃料等の豐富なる所有者であることを知つてゐるからである。それゆゑにわれ等の問題とするところは、この自然的富源を基礎として生産力の增進を如何にして求めるかといふの點である。彼れはこの點については、先づ第一に人民の教育的及び文化的狀態を改良することの必要であることを主張する。さうしてこの改良が驚くべき急速度をもつて進行しつゝあることの事實を擧げてゐる。しかしこの點は最も重要な點であるとともに、また間接的の效果をもつてゐるに過ぎない。直接的に生産力を增進するの方法如何、レーニンは先づ勞役者の訓練、熟練、能率、勞働の組織の改善の必要であることを指摘する。彼れはこの點においてテーラー●システムの支持者である卽ち彼れは社會主義にテーラー式を接續せんとするものである。

『社會主義の可能性は勞兵會の統治及勞兵會の統制組織に對して資本主義においての最新の進歩的方法を結合することの成否によつて決せられる。われ等はロシアにテーラー式の研究と教訓とを紹介しなくてはならない』(3)

レーニンは以上のごとく述べてゐる。卽ち『資本主義の最後の言葉』をもつて社會主義の生産方法となさんとするものである。それは二つの方法に分れる。その一つは競爭の組織であり、他の一つは强制力の使用である。

(1) Lenin, op. cit., p. 23
(2) ibid.
(3) ibid., p. 25

（六）

『ブルジョアが社會主義について吹聽することを欲する無稽の僞瞞のうちには、社會主義者が競爭の價値を否認するといふ點がある』こういふレーニンの言葉によつても知られるとほり、ニコライ・レーニンは決して競爭 emulation の否認者ではない。それとは反對である。それとは反對に、彼れは社會主義においてのみ、『群衆のスケールのうへにおける競爭に對して機會を與へること』のできるものであることを主張する。(1) 卽ちブルジョアの『形式的デモクラシー』からボルシエヴヰキの組織、勞役的群衆にディケとアイドウスとを一樣に與へることによつて、始めて眞實なる競爭の舞臺が開かれるものであることを主張してゐるのである。然らば競爭を刺激するの方法如何。彼れは競爭刺激することの第一の方法が公開主義にあることを主張する。

『ブルジアの共和國においては、この公開 Publicity はたゞ形式だけである。實際には新聞紙を資本に從屬せしめ、面白味のある政治的小事件で暴徒を喜ばせ、事業の祕密として工場や商業事務においての出來事を隱蔽し、『神聖な』財産を保護する。勞兵會は商業上の祕密を廢して新らしい道に入つた。……われ等は政治上の面白味によつて群衆を喜ばせまた愚にすることなくして、日々の經濟問題について、群衆の注意を惹起せしめ、且つそれの眞面目に研究することを援助するところの新聞紙を創造することに努力しなくてはならない。凡ての工場、凡ての村落は、それ自身の方法において一般的勞兵會の規則を適用するの權利と義

務となつてゐる生産及び消費の自治團(コムミユーン)である。……資本主義のもとにおいては、それは個人資本家または地主の「個人的事務」であつた。勞兵會のもとにおいては、これは個人的事務ではなくして最も重要なる國務である。』(2)

『またわれ等は、辛うじてパンや、衣服や、その他の生産の過程においての報告と公開とを實行し、無味なる枯死せる官僚的報告を生き〲したものに變更するために、各自治團體の間における競爭を刺激することの、廣大な困難な、しかしまた有望にして且つ重要な仕事を始めるに至つた』(3)

『模範的自治團體は後れてゐる自治團體を訓練し、教示し、且つ刺激するの目的に役立つであらう。新聞紙は模範的自治團體の成功についての凡ての細目を公開し、それの成功の原則と經濟の方法とを研究し、またこれとともに資本主義の傳統を支持する自治團體をブラツクリストすることに努めるであらう。資本主義のもとにおいての統計は專ら政府の使用人または少數の專問家の手に存するが、われ等はこれを公衆に與へ、さうして勞役者をして、次第に自ら如何なる仕事、如何ほどの仕事が必要であるかについて、並にどれだけの休息が可能であるかについて了解せしめなくてはならない』(4)

かくしてボルシエヴヰキにおいての生産力の增進の方法は、資本主義においてのごとくに『個人的の事務』ではなくまた『事業の秘密』のうちに隱されたる問題ではなくして、凡てのものを公開し、それによつて民衆の自覺と判斷とを刺激することにおいて、その一つの特色の存することを知るのである。

(1) (2) Lenin, op. cit., p. 26

(3) (4) ibid., p. 27

(七)

ボルシエヴヰキの制度において生産力を增進することの第二の方法、さうして最も重要な方法は勞働能率の增進の問題である。それについて先づわれ等の興味をそゝつてゐるものは、ボルシエヴヰキと專門家、然りブルジヨア階級

に屬する專門家との關係である。ニコラィ・レーニンは先づ專門家について次のやうに述べる。

『專門家は、彼等を專門家となした社會生活の全環境のために、不可避的にブルジョアである。』[1]

こうして專門家をもつてブルジョアに屬するものであるとしてゐるレーニンは、やがてはこのブルジョアの專門家を『完全に降伏』せしめることを期待してゐることは勿論であるが[2]彼れの謂ふところの變轉期においては、ブルジョアの專門家に依頼することの甚だ必要であることを主張する。恐らく專門家を尊重し、それに特權――一時的にもせよ――を與へることを躊躇しないことの點において彼れは如何なる資本主義的企業家にも劣るものではない。[3]彼れはこの種の專門家がブルジョアに屬するものであることを信じながらも、尚ほそれを利用し、歡迎し、さうして勞働階級のための新らしき秩序を確立することに力を致そうとする。彼れはこの方法が妥協、有產階級に對する妥協であることを認めてゐる[4]彼れは決して一切の妥協の排斥者ではない。また從つて彼れは資本主義の諸新聞紙が今日まで吹聽してきたほどに急激且つ無慈悲な方法をもつて資本主義のもとにおいての一切の秩序を一時に破壞せんとするものではなくして、資本主義の舊秩序から社會主義の新秩序への轉化の間に、一つの時期、變轉期間 transition period を考へてゐるのである。この變轉期において、彼れはブルジョアの方法を學び、その方法と妥協することを躊躇しない。

『かゝる方法が妥協であり、巴里コムミユーンの原則並に凡てのプロレタリアの法則からの背反であることは明白である』[5]

彼れはコウ述べてゐるにもかゝわらず、資本主義的秩序と社會主義的秩序との間に一つの變轉期の存在するものであることを知るがゆえに、さうして彼れの革命が、資本主義的恐怖心の想像しまたは吹聽してゐるとほりに急激でないがために、彼れは巴里コムミユーンの原則と、さうして彼れの謂ふところの無產階級の法則 Proletarian rule とは背反して、有產階級のメソツドとの妥協を敢てしてゐるのである。こゝにも彼れの社會主義、ボルシエヴヰキの弱點が存在してゐることは明白である。しかし彼れにとるべきところはこの弱點を自ら隱すことなくして明白に承認し、

その承認のうへにボルシエヴキキ●マネーヂメントを當て嵌めてゆくことである。(6)

(1) (2) Lenin, op. cit., p. 14

(3) ボルシエヴキキ政府は專門家に對して高額の報酬を與へてゐる。レーンンはまたそのことの必要である所以を述べてゐる。

(4) (5) (6) Lenin, op. cit., p. 15

(八)

生産力の增進の他の一つの方法は、レーニンに從へば、强制力の使用である。能率的の組織と高度の訓練とはたゞこの强制力の使用によつてのみ實現せられるとするのがレーニンの立場である。『强制と執政權となくして、資本主義から社會主義への轉化が可能であるかのごとくに想像することは、非常な愚鈍であり、また最も無稽な日和見主義である。』レーニンはこういつてゐるのである。(1) この言葉によつても知られるとほり、彼れの謂ふところの强制 compulsion とは執政權 dictatorship と結合してゐるものである。卽ち執政權においての强制である。ただその執政權がザーの專制主義においての執政權の要求と同一のものでないことは勿論である。彼れの謂ふところの執政權とは無産階級の執政權 Proletarian dictatorship である。彼れはロシアの時局を説明して、コルニーロフの執政權か否らざれば無産階級の執政權か、何れか一つの要求を實現されなくてはならない狀態にあつた事を指摘する。さうして此場合においてチエルノフや、ツエレテリーや、マルトウ等の『ブルジヨア●デモクラシー』が全く無意味である事を指摘する。

『またそれとゝもに凡ての資本主義から社會主義への變轉の時期において執政權が二つの理由によつて必要であることを知るのは容易のことである。第一に、絞取者の反抗に對して無慈悲な壓迫を加へることなくして資本主義を征服し且つ破壞することは不可能である。……第二に、凡ての大革命、特に社會主義革命は、內部の戰爭――數千人數百萬人の動搖と荒廢と、非常なる不定と不安と混亂となくしては考へることのできないものである。』(2)

この混亂と不安と內部的戰爭との避くべからざる狀態において、社會主義革命が必然的に强制、さうして執政權を要求するものであるとするのが、ニコライ・レーニンの執政權論の基礎である。またこゝにロシア・ボルシエヴキキ主義の特質が存在してゐるのである。彼れは無產階級の執政權を要求する。この點においてメンシエヴキキとその立場を異にしてゐるのみならず、正統派社會主義ともその立場を異にしてゐるのである。ボルシエヴキキの持質は實にこの無產階級の執政權の一點に存するといふことができるのである。

(1) Lenin, op. cit., p. 29

(2) ibid., p. 30

（九）

無產階級の手に執政權を掌握することの主張は決してレーニンによつて創唱されたものではない。また決してボルシエヴキキ主義にのみ存在することではない。それは既にマルクスによつて唱導されたところである。マルクス・エンゲルスの『共產黨宣言』において主張されてゐるところである。(1)レーニンのボルシエヴキキ主義はただ『共產黨宣言』においてのマルクス主義を實行せんとするものであるに過ぎない。然り、ボルシエヴキキ主義とは『共產黨宣言』においてのマルクス主義であるといふことができる。彼れはただ一八四八年代のマルクスを祖述してゐるに過ぎないのである。この點においてニコライ・レーニンとは、ただ一八四八年代のカール・マルクスの祖述者であるに過ぎないのである。從つて歷史的人物としてのニコライ・レーニンの思想的價値はたゞ『マルクスの門徒』であるといふに過ぎないのである。レーニンもまた彼れがマルクスの祖述者であることを認めてゐる。さうして彼れがボルシエヴキキ主義を辯護することの基本的の理由は、それがマルクスの敎訓であるといふの點であることを明らかにしてゐる。彼れは次のように述べる

『凡ての革命の歴史的經驗、世界史的、經濟的、政治的敎訓は、マルクスによつて、彼れの短き、鋭き、正確な、强い公式―無產階級の執政權―――に要約せられた』(2)

然らばボルシエヴヰキ主義はこの點においてマルクス主義そのものであらうか。私は既にこの點においてのボルシエヴヰキ主義が一八四八年代―――『共產黨宣言』においてのマルクス・エンゲルス派の立場と一致するものであることを述べた。繰返していへばボルシエヴヰキ主義はこの點において『共產黨宣言』においてのマルクス・エンゲルス派の立場である。しかしこの共產黨宣言においてのマルクス・エンゲルスの立場は、決して絕對的マルクス・エンゲルスそのものの立場であるといふことはできない。マルクスは既に一八七一年の巴里コムミユーンの失敗の後に、『共產黨宣言』の立場を捨てゝゐる。エンゲルスもまた一八九五年の書簡において、『共產黨宣言』においてのこの點についての彼等の立場が誤謬であつたことを述べてゐる(3)それゆえにボルシエヴヰキの立場は、この點において、たゞ一八四八年代のマルクス・エンゲルスの立場を相續してゐるに過ぎないのであり、マルクス・エンゲルスそれ自身によつて捨てられたる立場を相續してゐるに過ぎないことを知るのである。

(1) 拙著『社會主義批判』第六章參照
(2) Lenin, op. cit., p. 31
(3) 拙著『社會主義批判』第六章參照

(十)

しかしニコライ・レーニンは『共產黨宣言』の立場を相續するとゝもに更に『共產黨宣言』の立場に對して、テーラー式を結合せしめんとするものである。彼れは能率增進の主張者である。能率增進の主張者としての彼れは、單なる無產階級執政權だけに滿足してゐることはできない。更にそれを能率化することを要求するのである。その能率化の要求は、ニコライ・レーニンに從へば『一人の執政權』に歸着しなくてはならないものである。彼れは實に『一人の執政權』の主張者である。

『何れにせよ、大規模の機械工業の型のうへに組織された仕事の過程の成功に對して、一人の意思に對する完全なる服從は、絕

對的に必要である』(1)

彼れは一人の意思に對する服從をもつてデモクラシーの原則に背くものでなくして却つてデモクラシーの高き形式であることを主張してゐるのである。素よりデモクラシーは形式ではなく、デモクラシーと能率の增進とは兩立のできるものでなくてはならない。從つてデモクラシーにおいて組織、整然たる科學的組織を要するものであることは勿論である。また從つて民衆の代表者が一人であると數人であると數百人であるとは問ふところではない。たゞその間に卽ち民衆とその代表者との間に責任の關係が明白且つ嚴重であることが要點である。この點においてニコライ・レーニンの主張は、國家社會主義(3)においての、將來の諸制度を暗示するところが甚だ多いと思はれる。

(1) Lenin, op. cit., p. 35

(2) ボルシエヴヰキ主義の目的は國家社會主義である。

(十一)

ニコライ・レーニンの著書『勞兵會論』を通じて知りうるところは、大體において以上のごとくである。彼れは無產階級の執政權——一人の執政權に組織して——を通じて、ブルジョアの方法を學び、勞働者を訓練して、國家の强大な權力によつて國家社會主義を實現せんとするものである。彼れの到達せんとする目的は正統派社會主義のそれと異るところはない。その異るところは執政權の方法によつてその目的を達せんとすることである。ニコライ・レーニンはこの方法をもつて資本主義から社會主義への變轉期において不可避のことであると主張する。果して然るか。若し然りとすれば資本主義の害毒と民衆の愚昧とは、少くともロシアにおいては、深くして大なりとはいはなくてはならない。われ等をして資本主義の害毒と民衆の無智とから解放せしめよ。さうしてボルシエヴヰキの戰慄すべき方法を再び繰返さしむること勿れ。(十月十五日)

□次號豫告　唯心的經濟史觀の認識論的地位……賀川豐彥

新刊

（十一月中旬發賣）

シドニー・ウエッブ
ビアトリス・ウエッブ 共著・山川均・荒畑勝三共譯

菊判六百頁内外

定價 送料 未定

英國は勞働運動の故鄕と云はれる國であつて、其勞働組合は過去一百年間の貴き經驗の成果である。其うちには悲壯な鬪爭があり、光輝ある成功があると共に、資本家側に於ても勞働者側に於ても、幾多の過誤があり、錯誤があり、失敗がある。そして英國組合運動の歷史が、後進者に取つて特に教訓に富んで居る所以も亦こゝに在る。原著者**ウエッブ**氏は、學者として、また眞摯なる社會改良論者として、英國に重きを爲すと同時に、勞働運動史の權威を以て許さるゝの人である。本書は氏の二大名著の一つとして、組合運動史の研究に、不朽の貢獻を殘した貴重な文書であつて、苟も勞働運動を語り、勞働組合を論ずるものは、氏の組合運動史を參照せざる者なしと云ふも過言でない。戰前に親しく獨逸の組合運動を調査し　**ステフエン・サンダアス**氏は、獨逸の如何なる勞働組合の一小地方支部に往つて見ても、曾て本書の獨逸譯を所藏せぬ所はないと云つて居る一事に依ても、勞働運動並びに組合運動の實驗家からも、研究家からも、本書が如何に高き評價を拂はれて居るかゞ覗はれる。先進者の經驗に學んで、有ゆる精力の空費と行程の迂廻とを避け、最小の犧牲によつて最大の効果を舉げる事は、後進者の特權であると共に、義務である。譯者が微力を顧みずして此大著の反譯を企てた所以は、恰かも勞働組合運動の黎明期にある我國の現狀が、最も切實に本書の公刊を必要としてゐると信じたからである。……………………譯者

東京牛込區神樂町二丁目十一番地
叢文閣
（振替貯金口座東京四二八八九番）

三角同盟

ジー・デ・エッチ・コール

三角同盟The Triple Industrial Alliance は英國勞働運動における中心勢力である。こゝに譯出するのは G.D.H. Cole and R.Page Arnot 'Trade Unionism on the Railways の第十四章の全譯である。（森格）

（一）

一九一四年の初めには、國民鐵道從業員聯合會と他の大勞働組合との間に戰鬪的目的の爲に同盟を組織する商議が進行して居つた。一九一三年十月スカアボローに於ける坑夫の年會議は英國坑夫同盟實行委員に對して、「協同行動を行ひ、且つ相互の要求を支持する目的の爲に他の大勞働組合の實行委員との接近」を要求する決議案を通過した。この決議に從つて坑夫組合の實行委員は國民鐵道從業員聯合會並に國民運輸勞働者同盟に接近することに決し、且つ「これ等三團體の聯合會議が其初期に於て開かれたのを滿足した。」とスマイリーは言つて居る。

三角同盟形成の理由は鐵道ドック並に鑛山に於ける一九一一年及び一九一二年の大同盟罷工の部分的失敗である。何等の聯絡なく時を異にして、同盟罷工を行ふのは、結合的努力の勢力を失ふ許りでなく、其相互を害するものである。經濟的根據からのみ言つても勞働者は同時に同盟罷業する方が利益である。何となれば石炭勞働者の罷業は時の經過と共に全産業を解體し、それは鐵道從業員とも直接の影響があるからである。一九一一年の鐵道從業員同盟罷工は三日間で四萬五千磅を要したが、一九一二年の石炭坑夫の六週間罷業のときは鐵道從業員聯合會は九萬四千磅を費して居る。同樣に、鐵道從業員の罷業は坑夫並に、ドック從業員に影響及ぼすのである かくてドリバア・ジエーム

ス事件の時には千五百人の鐵道從業員の罷業の爲に二萬九千の坑夫と三千のドック從業員とを失業せしめて居る。また、ドック同盟罷工は水上運輸用の石炭に關係ある鐵道從業員と坑夫とに影響を及ぼして居る。故に、一致行動に對する動機は第一に國民的運動はすべてこの三產業に於て同時に起らなければならず、かくてこそ其費用と失業とは、減少せられ、其運動は成功を見るべしとの欲求から起つたのである。

然し、この必要に應ぜしめたのは、斯樣なことの外に他の理由もある。其一は、資本家の協同の增加を見たことである。資本家は明かに又注意深く勞動組合運動に反對する爲に、また之を防禦する爲に結合して居るのを彼等は見たのである。そしてこの危險はたゞ之に對抗する組織のみに據つてすることが出來る。三角同盟が論議された時分恰度南亞輪送並にダブリン同盟罷工に依つてこの感じは强められた。この外に、これ等三團體の同盟罷工の脅威は其の內の一團體が全國に涉つて同盟罷工するよりも遙かに效果あるべしと思はれたと同時に、斯樣な同盟は勞働者の一般的協同の上に著しい影響を齎らすべしと考へられたのである。

(二)

斯くの如く共同の綱領と共同行動は經濟上並に能率上の明かな根據から觀迎されて居る間に、これ等三勞働組合の實行委員は其同盟が資本家並に勞働者に及ぼす一般的影響は、其宣言した目的以上に出づべしとは熟知して居た所である。

一九一四年四月に於けるこれ等實行委員の最初の三回の協議會の後に、計畫を立てる爲に、小委員は任命された。委員は六月更に協議を重ねたが同盟の條件は戰爭當初まで決定されなかつた。戰爭の爲に事の進行は一ヶ年間妨げられたが三組合の年次總會は滿場一致この計畫を支持したのである。坑夫協議會は一の條項に異議を表明した。其條項は國民的協同同盟罷業は三實行委員が其責任に於てこれをなすを得べしと言ふにある。これに對して、坑夫側は同盟罷工は會員の秘密投票に依るまでは之を實行するを得ざる旨の修正をなした。鐵道從業員並に運輸勞働者は之に對して、秘密投票に依る遲延が其同盟罷業の場合に於て、其成功を犧牲にすべき危險あるを根據として反對した。鐵道從業員は更に坑夫側は規約に依りてストラキ投票をなすとを要しても國民鐵道從業員聯合會ば其拘束なきを指摘した。

斯くて數次の論議の結果妥協成立し綱領は一九一五年十二月九日に遂に承認された。其綱領は次の通りである。

一、聯合團體に附議せられ、之に對して行動をなすべき事項は國民的性質を有するものか、または實行委員の意見に於て聯合行動を必要とする主義に著しき關係を有するものなること。

二、紛爭事項が當初より關係せる團體の國民的實行委員に依つて考量せられ其認可を受くるまでは聯合團體の共同行動は要求せられざるべし、而して、他の加盟團體を包含すべき運動をなすに就きては各團體は一定の計畫を施定する以前に全事項を聯合團體の考量に委任すべきこと。

三、共同行動に對する運動の能率增進の目的を以て三團體の全實行委員會の定期集會は少くとも半年毎に開催せらるべきこと

四、三團體の實行委員より各二名を選出せる六名の協議委員を任命す、協議委員は時々會合するの義務を負ひ必要と認むる時は隨時三團體實行委員の特別協議會を招集し得る權限を有す、其會合は三團體の何れかよりの要求によりて招集せらる。

五、經費に充當するが爲に、各加盟團體は一ヶ年千人に就き十志の割合にて會費を據出すべきこと、この會費の割合は時々決定せらるべし。

六、これ等の三團體間の共同行動に對する綱領と共に、各團體の有效にして完全なる支配をなし得べき樣各々努力すべきこと

七、加盟三團體の各々に對し其利益の爲に行動し得る樣完全なる自治を保留すべきこと。

八、共同行動は當該問題が三團體の會員に提出せられ、各團體の制定せる規約に依る方法に依つて決定せられたる時に於て實行せられ、而して、行動實行の問題を考量し且つ決定する爲遲滯なく協議會を開催すべし。

九、前記の條件が合致するに非らざれば三團體の就れに對しても何等の行動すべき義務を課せざるものとす。

三團體の會長及び祕書は規定中の小委員會を構成すべき樣決定せられた。新同盟の役員は議長ロバアト・スマイリー、副議長ハリー・ゴスリング、會計ジエー・エッチ・トーマス、祕書トーマス・アッシュトンである。

三角同盟は運輸業に於ける勞働者の殆んど全部を包含する樣であるが鑛山又は鐵道に於ける勞働者は其全部を包含して居ないのである。初め同盟の提議が現はれた時に機關車技師及び火夫鐵道從業書記組合も同盟罷業政策を有さないものであるがこの同盟に加入する意志がなかつたのである。また鐵道工場に會員を有する勞働組合（クラフト・ユニオン）、機械、發動機、雇員等の組合は坑夫組合から接近しなかつた。この明白な除外は忽ち波瀾を惹起した、そして、三團體の實行委員が

四月に會合して綱領を審議した時に機關車技師並に火夫聯合協會の現任秘書が出席し、鐵道業に三萬三千の會員を有する機關車技師並に火夫聯合協會及び機械技師及び火夫二萬六千を其會員とする他の組合を結合した國民機械工同盟の代表者として出席の許可を要求した。モーア氏は協議會に出席することを許されなかつた、其理由とする所は他の關係勞働者並に技師は坑夫聯合會又は國民鐵道從業員聯合會を通じて同盟に加はるべしと言ふにあつた。要するに協議會は各産業は一の團體に依りて代表せらるるを要すと決し斯くの如き部分的代表を認むるを拒否したのである。

一九一四年七月に於ける協議會でこの事項はまた運輸業勞働者の代表者の一人に依つて問題とされた、彼は同盟罷工に於ける戰術的見地から鐵道關係の機械工は其他以上之に加盟せしめる必要のあることを指摘した。議長はこれを認容し協議會の意志は産業に關係あるすべてのものが共同運動の目的の爲に參加するのを望んで居るのを確め、同盟が最も重要な三團體以上に及び産業關係の各團體の加盟を許可するときは其止まるべき限界を知るに苦むを言ふことを示した。然し彼はこの目的の爲にのみ或る勞働組合（クラフトオユニオン）が國民鐵道從業員同盟又は英國坑夫同盟に加盟し得べしとした。そこでこの事項は三會長と三秘書との小委員會附託となり、小委員會は一九一五年十二月、同盟は先づ最初三團體の間に締結せられ、他の産業若しくは組合の加盟は後に考量するを適當となす者と報告した、同盟が必然的に三團體間に限定さるるものとなすのは妥當でないと考へられたのである。坑夫協議會が其實行委員への要求に依つて他の大勞働組合と協同する動機は生じ始め、事實として同盟を木綿産業に擴張することは再び提議せられた。然し機械工は一時的にも永久的にも其除外を固執した。そして一九一四年の國民機械工同盟の年次總會は三角同盟の決定を激烈に論議し 秘書に依りて注意すべき覺書が作成されたのである。それは次の通りである。三角同盟は國民機械工同盟を一の獨立せる團體として承認せざるが故に、鐵道機關車關係者並に鑛業技術者は如何なる國民的運動にも之と協同する義務を要じない。「國民鐵道從業員聯合會は坑夫同盟並に運輸組合の援助の下にこの共同運動に於て、坑夫同盟の欲求すると同樣な地位を實現する機會と鐵道關係のすべての人々は國民鐵道從業員聯合會に加入せざるべからずと宣言するの機會を實現せんとしてるのである。然し吾々は其初めより斯くの如き條件を是認しない決心を以て行かなければならない」機關車技師並に火夫聯合協會の會員の熱烈な演說の後に次の決議が可決されたのである。

「聯合協會は坑夫、鐵道勞働者並に運輸勞働者の合同協議會が聯合協會に依つて代表せらるゝ鐵道並に鑛山の關係者に聯合團體の協議の目的に於て直接代表と其認容とを與へざりし理由を知るに困しむものである。吾等が國民鐵道從業員聯合會又は坑夫同盟を通じて代表を求めねばならぬと言ふのは如何なる事情の爲に於ても是認し得ないことである。而して聯合協會の代表者に依つて行動すべき事情の起りたる時に、其自由なる行動の權利を本協會は留保するものである。

(四)

三角同盟は前述の如く同盟罷業關係の事項に關して共同綱領と同一行動とを行はんとするものであつた。然し其一度び成立するや同盟罷業を要せざるが如き同一利益の事項に關しても商議を行ふの必要に會した。同盟は其會員數の多數に依つて得た權力を實現する樣になつた。一九一四年の初めには英國坑夫同盟は八十萬、運輸勞働者は二十五萬國民鐵道從業員聯合會は三十萬の會員を有して居て、全體で百三十五萬の多數に上つた。現在の人數は不明であるが其後各團體に增加人員もあるから現在百五十萬を數へることが出來るであらう。其數は、勞働運動に於て重要な聯盟團體であつた勞働組合一般同盟の人數の二倍である。勞働組合會議は兩者よりも其人數は多數であるが其名稱の示す如くそは單に年次會議以上に出でぬものである。其結果三角同盟は勞働者全體の利益の問題に對する政策を形成する樣になり、勞働組合會議の遲々な動力に氣勢を加へたと言ふ樣な形になつて居る。

三角同盟の第一回會議は一九一六年の四月の終りに開催され、戰後の問題に關する三角同盟の一般的政策を論じた。其決定した事項は、勞働組合規約の完全なる回復、軍事的單位に依ることなく產業的單位に依つて復員を行ふこと、解職兵卒に對しては國家が充分なる生活を保證すること、軍需品勞働者並に戰事中代用として雇傭せられたすべての男女に對しても同樣たるべきことであつた。これ等の目的を實行する機關に就いても論議せられ、アスキス氏キッチナー卿、商務院總裁ランシマン氏の許に委員を送ることとした。この委員は長き遲延の後に會見されたのであつたがこの機會を以てタイムス紙は三角同盟に對して激烈な攻擊を加へた。同紙はこの委員を以て「公共生活に全然新たな要素を加へたもので、彼等は總理大臣が其命令を出すを期待して居る。……この勞働組合の團體は立憲政治を廢止し君主の任命したる國務大臣に對して其意志を實行すべく脅迫して居る。三角同盟は其當時吾人の指摘せるが如くこの

目的の爲に組織されたものである。現今のことは其第一着手であつて、政府が之を拒絶すると否とを論ぜず其目的を變更せぬであらう」アスキス氏は其委員に對する回答中で完全なる複歸に對する明かな政府の言質を與へたのである。

一九一六年十二月三角同盟は再び會合して生活費騰貴を理由として次の決議を通過して之を要求した。(一)勞働者補償法の下に與へらるる金額を增加すべきこと。(二)すべての農業勞働者は一週三十志の最低賃銀を受くべきこと、これである。同會議は又船航業に於ける支那勞働者使用の擴大、有色勞働者の輸入、並に軍事的管理の下における勞働軍の使用に對して抗議した。有色勞働者の雇傭は當時勞働組合の間に盛に論議されて居たので三角同盟の抗議は有效であつた。兎に角、他の提案に就いては何等聞く所がない。

(五)

斯く三角同盟が其の後以來一年を以て、勞働運動の內で有力な地位を得たのであるが其理由は、一方には、三團體の會員を集中したことと他方にはこれ等の團體の急進的性質に依るのであつて、其考量と綱領とは勞働組合一般同盟のものと同じく世間の視聽を惹きつゝあるのである。

三角同盟は屢々推稱せられ且つ批評せられる。三角同盟は勞働組合運動に於ける現在の機關よりも其勢力に於て數等優れたもので勞働組合合同の一新型として、又、急進的政策を有する組合の團結すべき中心點として推稱せられた。また三角同盟はプロシャ主義の一例であると批評された。卽ち三大團體の聯合によつて他の勞働組合運動を無視し、高壓的に其政策を實行するものなりと言ふのである。前者は確かに眞理である。三角同盟は嘗て生じたことのない程勢力ある勞働組合の聯合である、そして、それが勞働運動に於ける新精神の中心點として行動することは理論上からも最も望ましい所である。三角同盟は勞働者階級の未來をその手中に握つて居る、そして、時熟するときには他の協動者をもこれに加盟さすべく其基礎を擴張するならば、勞働組合が產業的自由の增進に對する有效な機關となる以前に必要とする其構成並に目的を變更せしむるに最も有力なものであらう。(一九一九・一〇・一四譯)

◇孫文の雜誌　孫文は戴天仇等と共に「建設」といふ新雜誌を發行してゐる。進步主義の活き〳〵した雜誌である。

ベルトランド・ラッセル

（一）

ベルトランド・ラッセルの名は多くの人々に親しまれつゝある。たゞに親しまれつゝあるばかりではなく、多くの人々に、社會改造の理論的指導者として、強き感激をもつて迎えられつゝある。

（二）

彼れの頭腦は明晰である。彼れの文章は自在であり、さうして深い含蓄に富むでゐる。就中『社會改造の原理』においての彼れの文章は、強き力と暗示とをもつてゐることにおいて、讀むものゝ心を、深く反省せしめなくては止まない。彼は慥に才人である。しかし彼れの才人であるといふことは、たゞ時流を追ひゆく輕薄なる人の才人の意味ではなく、深きところに時代を洞察し、時代の病弊を洞察し否な人間性の根原と、時代の病弊との關係を明白にし、そこにその救治策を見出すことにおいて、ベルトランド・ラッセルの頭腦は、實に犀利であり、深刻であり、透徹である。

彼れは慥に現代の世界を彩る一異彩でなくてはならぬ。

（三）

ベルトランド・ラッセルは英國における名門の出である。彼れの父は子爵であるといふことのほかには何ものも殘すことなき人であるにしても、彼れの祖父は、英國の政治史のうへに埋沒すべからざる人、ロード・ヂョン・ラッセルである。ロード・ヂョン・ラッセルは二回（一八四六―五二年及び一八六五―六六年）英國宰相の印綬を帶びた。彼れは宰相として歴史を彩るのである。これに對し、その孫ベルトランド・ラッセルは、彼れの思想によつて歴史に異彩を放つであらう。

（四）

ベルトランド・ラッセルは數學の教師として立つてきたケムブリッヂ大學においての Trinity College の講師であり且つフエロウであつた。彼れには次の著述がある。

(1) Introduction to Mathematical Philosophy

(2) Scientific Method in Philosophy.
(3) Mysticism and Logic
(4) German Social Democracy
(5) Justice in War Time.
(6) Principles of Social Reconstruction.
(7) Political Ideals.
(3) Proposed Roads Freedom.
(9) その他

（五）

ベルトランド・ラッセルが夙に學者として重んぜられてゐたことは勿論である。しかし彼れの名を一般的にしたものは、さうして彼れをして現代の一異彩たるに至らしめたものは、世界大戰であつだ。この大戰の審判者としてのベルトランド・ラッセルは、何ものにも勝る勇氣と冷靜と智力と學者的良心とを發揮した。

（六）

彼れの勇氣と智力と學者的良心とは、英國政府の忌憚に觸れざるをえなかつた。一九一六年九月一日、軍事官憲から一通の禁止命令を受取つた。それは、彼れが官憲の許諾なくして禁止區域に出入することを禁ずることの命令であつた。禁止區域は、事實上英國の全海岸地方であつた。これより先き彼れは既に大學を追はれてをつた。

『私の職業は今日までは數學的論理についての講師であつた政府は私がハーバードにおいてこの職業を行ふことの約束を遂行することを禁じた。またトリニチー・カレッヂの評議員會は私にそれをケムブリッヂで行ふことを禁じた。』

ラッセルはその『ヂヤスチス・イン・ウオーア・タイム』の序文中においてかう述べてゐる『こうした事情のもとに、私はもつと一般的の問題について講演することを餘儀なくされた。さうして私は各所の田舍町において講演するために政治哲學の原理についての一課程を準備した。』ところがラッセルの招かれてゐる町のうち三つのものは禁止區域にあつた　彼れは軍事官憲の許諾なくしてこゝに出入することができなかつた。官憲はラッセルに向つて、彼れがその講演をプロパガンタに利用せざる條件のもとに彼れの講演を許すべきことを答へた。ラッセルはこれに從ふことを拒絕した。彼れは政府の專制に反抗せんと決心した。

『他の人々が外において獨逸と戰つてゐると同じく、内においてのに專制と戰ふことが、丁度私の義務として命令されたるが

ごとくである。』

『私は如何にしても精神的自由の微片たりとも明け渡すことはできない』

彼れはこう述べてゐる。彼れにおいては自由は第一義である。彼れの自由は、彼れの協同なくして何ものも奪ひ去ることはできないとなしてゐるのである。

（七）

『肉體的自由は人間から奪ふことができる。しかし精神的自由は彼れの本然の權利である。世界のあらゆる軍隊も政府も、彼れの協同なくしては、彼れから奪ふのに無力である』

ベルトランド・ラッセルの確信は何ものもこれを動かすことはできないのである。彼れはその自由の確信のために、その專制主義との勇氣ある戰と學者的良心とのために、英國政府によつて牢獄に投ぜられた。入獄の前に著したのが『自由への道』一卷である。

（八）

彼れの哲學についても、彼れの社會改造の原理についても、こゝに一々述べてゐることはできない。たゞこゝにいひうることは、彼れが無政府主義を理想としつゝある、ギルド社會主義の支持者であるといふことである。

（九）

英國の政府は彼れを牢獄に投じた。しかしベルトランド・ラッセルは人々の心のうちに深き感激をもつて迎へられつゝある。ラッセルを牢獄に投じた英國政府は、彼れの精神的自由を奪ふことができなかつたのみならず、英國における勞働階級の熱切なる自由の要求によつて、その運命も既に極まらうとしつゝある。電報の傳へてゐるところによれば、彼れは保守黨の首領ボナー・ロー氏とグラスゴー大學總長の椅子を爭ふべき地位に置かれたとのことである。ラッセル勝つかボナー・ロー勝つかは素よりこれを知ることはできないにしても、永遠の勝利は、ベルトランド・ラッセルのうへに輝きつゝあるを知る。（K）

◆書物讓る

Hunter, Violence and Labour, ￥5.00

右は註文重複し不用のものあり希望者に讓る

◆新妻康愛君から懇切な御手紙を寄せて下すつたことを感謝します

スマイリー

(一)

英國の勞働運動のうへで一番の人氣者は何といつてもスマイリー Rebert Smillie であらう。スマイリーの名聲は日本においても大分知られてきた。ロイド・ヂョーヂの評判がだんだん地に墜ちてゆくのとは正反對にロバート・スマイリーの名聲が高まつてゆく、これはたゞ英國だけの問題ではない。またロイド・ヂョーヂ對スマイリーの個人的の問題であるとすればどうでもいゝことである。また英國だけの問題であるとすればそれも大したことではない。しかし、われ等はさういふ狹い眼をもつて見てゐてはならない。人物批評の稼人が人物を見るように、狹い眼と、たゞ好憎の心持ちと、履歴調べとに沒頭することは無用な詮索である。われ等の眼をつけてゐるところはスマイリーの名が高まつてロイド・ヂョーヂの名が葬られつゝあるところに時代の推移の深い精神と強い力との横はつてゐる點である。

こゝにロイド・ヂョーヂを論ずることはしない。彼れのごときは時勢後れの憐れむべきデマゴーグであるに過ぎないからである。ロバート・スマイリーとは如何なる人であるか「新支配階級の代表的典型は賢明にして正直な政治家のクラインスでもなく、政治技師のアーサー・ヘンダアソンでもない。またそれは純粋な勞働運動の燃ゆる心としてのヂョージ・ランヅベリーによつても、正確な、忍耐強い、敏捷な事實蒐集者、計劃立案の才能としてのシドニー・ウエッヴやヂイ・デエ・エッチ・コールのごとき人物によつても表徴されるものではない」

「英國における數百萬の勞働者にとつて、時代の代表者、時代の主潮を捕へた、その熱情に觸れた人物は、ロバートスマイリーである」

ケロッグとグリーソンの合著「英國勞働と戰爭」のうちにこう述べてゐる。

(二)

ロバート・スマイリーはスコットランドに生れた。彼れは一勞働者、坑夫である。さうして炭坑夫組合の會長である炭坑夫組合の會長としてのスマイリーは、八十萬の勞働者に父のごとくに尊敬されてゐる。いふまでもなく彼れはブルジョアの人々からはマクドナルドよりもヘンダアソンよ

りもスノーデンよりもより多く嫌れてゐるが、嫌れてゐればゐるほど彼が勞働者の間における信望は大したものだ。この信望は、彼れをして三角同盟の指導者たらしめた。彼れは三角同盟の會長である。三角同盟の會長としての彼れが英國の勞働運動を左右するほどの勢力をもつことは自然の數である。彼れは幾度か入閣をすゝめられたが每にこれを拒絶した。さうして閣外にあつて、政府を脅かす、一大敵國である。一坑夫としての彼れは、一政府を動かすの力をもつてゐる「彼れは彼れの地位のゆゑに有力であり、また「彼れは彼れの人格のゆゑに有力である。」

(三)

彼れは今ま六十二歳である。その顏は敏感的であり、休息の時には傷ましい、さうしてその話してゐる時には力の意識に滿ちた、視力の强い——こういふ顏の持主である。

彼れには七人の小兒がある。みなその父と同じく社會主義者である。そのうち二人は戰時中從軍した。あとの五人は炭坑に農園に、その父と同じく一介の勞働者である。

(四)

「十年内に勞働者の政府を迎える」とは、ロバート・スマイリーが昨年の言葉である。彼れはブルジョアとの協同を欲しない。彼れがホットレー委員會の委員となり、またサンキー委員會の委員となつてゐるにかゝわらず、所謂サンキー報告に署名せず、また所謂ホキットレー報告に署名せずさうしてまたロイド・ヂョーヂ政府の閣員たることを肯んじない所以のものは、彼れがブルジョアと妥協することを排斥するがためであり、また勞働者政府が近く實現せられることを確く信じてゐるがためである。然り、彼れは勞働者の勝利について深い信念をもつてゐる。この信念は、彼れをして一切のブルジョア的妥協から遠ざけしめるに至る一九一八年六月の勞働黨の會議に於いて、彼れは熱心且つ痛烈に政府との絶緣を主張した。この主張は素よりヘンダアソンの支持するところではあつたが、スマイリーの立場は、ヘンダアソンよりも遙に急進的であつた。彼れはヘンダアソンの態度に慊らなかつたのである。この會議は九十五萬に對する百七十萬の大多數をもつて絶緣派の勝利に歸した。さうしてヂョーヂ・バーンスは苦境に落された。

(五)

ロバート・スマイリーは英國の改造について次のような意見をもつてゐる。——

「炭坑夫は一致して土地の國有を贊成するものである。彼れ等はこう信ずる、政府は單に石炭の統制をなすに止まらず、進んでこれを國有に移すべきことを。勞働者が炭坑を管理し且つ所有することのサンヂカリストの思想はこの國の炭坑夫には深い根據をもつてはゐない。彼等は若し炭坑が國家によつて所有され且つ統制されるとすれば、勞働者はそれの管理のうへに、大に發言權をもつだらうと期待してゐる。

彼等の生命の安全は、彼等が管理のうへに代表されることの要求を正しきこととする。

私は恐らくは大抵の人達よりも、この國の組織的勞働者の見解を試めすべき無類の機會をもつてゐる。何となれば私は過去三年間をイングランド、スコツトランド及びウエールスの偶々における民衆の會合において演說することに費してきたからである。これ等の集會においての多數は、勞働組合の保護のもとに召集された。さうして討議された主要な問題は、組織的勞働者によつて多年の間獲得せんとしたものであり、更に戰後の大改造運動によつて獲得すべきものであり、かくして大英國の土地は現在の持主から徵收、人民の利益において使用せらるべきである。炭山、鐵道及び工場は有用なる商品の生産のために使用せらるべきものであつて單に資本階級の幸福を建設するために使用せらるべきでない。」

この短い言葉の一節は、彼れの立場と綱領とを可成り明瞭にしてゐることと思ひます。

□ヘンダアソン

最近に英國の政界で起つた重大な出來事の一つはアーサーヘンダアソンの當選である。この前の選擧では、彼れは政府の惡辣な干涉のために選擧區で演說さへもできない位ひであつたが、しかし英國の政治的要求はヘンダアソンをウエストミンスタアに迎えずにはゐられなかた。彼れによつて反對黨は中心を回復した。彼れは英國勞働黨の中心であるのみならず、また來るべき勞働內閣の中心であるのみならず、國際黨の一つの有力な中心點である。彼れの立場は益々明瞭となりつゝある。彼れは國際的勞資協調會としてのワシントン會議に出席することを拒絕したとのことだ。

賀川豐彦君

◇私が賀川豐彦君の名を知つたのは今から丁度三年許り前、氏の名著「貧民心理の研究」を手にした時である。「貧民心理の研究」は賀川君の大研究宇宙惡の研究中の一部で人間社會に於ける貧乏なる惡が如何なる影響を人々の上に及ぼすべきかを取扱つたものである。

◇其書を手にして感心した自分は其時から賀川豐彦君の名前を忘れなかつた。そして人から無產者階級に關する參考書などを聞かれるときには何時も其書を推奬した。それは單なる思索の產物ではない。賀川君が四年半の神戶の貧民窟に於ける實地生活の結果になつたものである。そこに本書の特徴と長所とがある。

◇急激な世界の變動は之を理解する思想家を求めて止まない。「貧民心理の研究」の印刷を終るか終らぬ內に賀川氏は米國へ研究に出掛けた。研究を終へて日本に歸つた時は日本も既に世界的潮流の中に捲き込まれて居た。時代は新人を要求して居た。

◇賀川君は新時代の要求する人物であつた。其貧民窟生活にあつても多くの評論をものして吾等に供給した。「精神運動と社會運動」に收められた諸篇は實に新時代を指導せんとする精神と新時代の要求とに依つて生れたものである。

◇「私の最大傑作は、紙上に有つてはならない」こう賀川君は信じて居る。私はこの一句の內に賀川君の抱負を見出す。賀川君のよくする所は評論にしても其理論的方面よりも實際的方面である。換言すれば貧民窟生活の直接名物である貧民事情の方が私達に貴重であり且つアツピイルする。で、賀川君位に學者であり、且つ無產者階級の實狀に通ずる人は他に求むることを得ないこの點に於て賀川君のみ社會運動の指導者たり得ると言つても過言ではないと思ふ。

◇賀川君は精神主義者である。其社會思想はギルド、ソーシヤリズムに負ふ所多きが如くである。氏は在來の唯物的經濟學に反對し、唯物史觀に反對する、そして一言にして言へば勞働人格主義を信ずるものである。されば賀川君を評して宗敎味のある日本のコオルと呼んでもいいと思ふ。

◇其最近の思想を表はしたものは生產者組合を基礎とする新國家哲學「產業國家論」改造九月號）である。國家改造の第一步は生產者を貨幣を基礎とした資本主義より解放することである。然し之はマルキシズムに止まつてはならない、それは單なるコレクチビスムであつてはならない。生產の創造力藝術心の滿足を保證した生產者組合を基準として國家を改造しなければならぬ。

◇現在の國家は資本主義である、コレクチビズムの國家も亦消費者偏重の觀なきを得ない。故に國家は先づ生產者としての個人を保護しなければならぬ。生產者議會の要求はこれである。と同時に又消費者は國家に依つて代表せられなければならぬ。これが賀川君の主張の要點であり、且ギルドソーシヤリズムの要點である。

◇其實現方法として賀川君は知識革命を主張し精神的○○を絕叫し、暴力的革命に反對する。私は困憊せる現代無產者階級が有產者階級の精神的○○まで思はし得るかどうかは知らぬ。たゞ多數者に多くアツピイルする所は精神的○○にあらずして、經濟的○○でなきかを疑ふ。何れにせよ、新人賀川君が益々其運動に於て、其の思想に於て深味を有するに至るべきことは信じて疑はぬ所である。社會は此に飽迄寬大でなければならぬ。（哲生）

勞働運動の理論的基礎

甲野哲二

（一）

古代の經濟生活に於ける人間的基礎が奴隸にあり中世に於ては其基礎が農奴の上に置かれた如く近世資本主義の經濟組織にあつては企業家と賃傭勞働者とが其組織の根幹をなして居る。そして其經濟生活に於ける鬪爭は久しく資本家又は企業家の勝利に歸して居たのであるが、無產階級の勞働者の慘憺たる敗戰は心ある人をして深き懷疑に陷らしめたのである。

勞働運動はかゝる有識者の人道主義的見地から出發して勞働者の自覺運動となつたのである。そして或る時は政治運動となり或る時は經濟運動として今日まで繼續し來つたものであるが其根本的起源が資本主義經濟組織の前提たる賃傭勞働者と企業家又は資本家との利害の衝突に發したものである丈けに資本主義制度が崩壞せぬ限りは少くとも其餘剩價値が資本家の懷に多く流れ込む間は勞働運動は止まぬであらうし又例へ其餘剩價値が資本家の所有に歸さなくて國家社會主義――その反對者の所謂國家資本主義――の制度に依つて其餘剩價値の獲得者が國家である場合に於ても勞働運動は行はるゝに違ひない。之を簡單に言へば或る權力階級と勞働者階級との對抗に於て勞働者の產出する價値が不公正に權力階級に依つて所有せらるゝことが勞働者に依つて自覺せらるゝときに勞働運動は起るのである。

（二）

勞働運動は勞働者階級に對して公正を求むる運動である之は勞働者個々の運動でなくして全く團體としての勞働者の運動である。其團體としての運動も繼續的に之を行ふものと一時的ものとの二つを見ることが出來る。前者は勞働組合、勞働黨又は社會黨（社會民主黨）其他の勞働者團體の

行ふ運動であり、後者は我國の如き勞働團體が種々な理由から發達の狀態に達して居ない所に於て行はるゝ一時的團結の同盟罷業サボタージュ等の繼續的性質を有しないものである。而して其運動の目的は勞働者の勞働條件改善を主として來たものであるが、其他社會上政治上の要求も其目的として認められて居る。現在に於ける勞働運動の目的は單に勞働條件の改善のみではない、彼のシドニー・ウエッブ夫妻が其名著英國勞働組合史で勞働組合は勞働者の雇傭條件の維持若くは改善の爲の勞銀勞働者の繼續的團結であると定義したが勞働組合の最近の英國に於ける運動を見ても其定義より以上の目的を有することは疑ひの餘地はない。更に社會黨は其運動の基礎を勞働者階級へ置くものであるが其目的は單に勞働者又は勞働關係にのみ限つて居ないのは周知の事實である。而して斯くの如く勞働運動が勞働條件の維持改善以上に及んで居る所に其著しい文化的意義を見出すことが出來るのである。然らば勞働運動の文化的意義とは何か。其理論的根據は何か。

（三）

勞働運動の任務は其鬪爭部分と其建設的部分との二つであると見ることは便宜である。資本主義經濟組織に於ける資本家對勞働者の階級的對立は其經濟的利害の衝突から必然的に或る種の鬪爭を求むのである。而してかゝる鬪爭は勞働運動の理想實現の過程として見るときにこゝに文化的意義を發見するのである。

勞働運動の鬪爭的部分は勞働者階級が一時的又は繼續的に資本家若しくは資本家階級に對して行ふ階級戰を意味するのであつて、其普通の形態は之をストライキ、ボイコット、サボタージュ等に見ることが出來る。然らばこれ等の鬪爭的手段は果して合理的であるか。勞働者階級が資本家階級に對して鬪爭的手段に出づることは社會全體の上より見て望ましいことでないのは疑を容れないのである。群集のセンセイションは鬪爭を望むで居るが、社會全體から見れば如何なる形態の鬪爭も決して許容せらるべきではない戰それはそれ自ら呪ふべきものである。

けれども吾々は資本主義制度の下に於てこれは兩階級の必然的鬪爭の要因あるを知れるが故に、事實として之を認めざるを得ない。而して斯くの如き鬪爭を根絶せんとするならば必ず其根本的原因の排除を最も必要と思ふ。かゝる根本的原因に手を觸れずして單に權力に依り、又は勞働者階級の懐柔に依る平和は決して經濟生活に於ける永久的安定を齎らすものではない。

現在の　察法第十七條は勞働運動に於ける同盟結社の自由を刑罰を以て禁止して居る。かゝる法制は何等意義なきは私の叙說を要しないことゝ思ふ、資本家は種々の手段によつて國家の援助を得て居るが資本家の行ふ商品の買占、賣惜みが國民生活の基礎を危ふするときに、其制禦に使用せらるべき暴利取締令なるものが、例へ其效果が資本家の奸智に依つて稀薄にせらるゝとは言へ、傳家の寶刀として秘藏せるゝときに、勞働者が商品としての勞働の販賣に當りよりよき條件を以て取引するが爲めの同盟結社に對して刑罰を以て之に臨むとは果して如何なる論理であるか論理學の敎ぶる思惟の法則を守りつゝある私達の頭腦は其理由を見出すに苦しむのである。資本家は勞働者に對して公然に又は秘密裡に階級としての結社の自由を有するのみならず、社會全體に對してもカルテルに並にトラストの組織によりて商品の價格引上げをするではないか。これ誠に立派な結社であり、同盟である。かゝる結社と同盟とを許容する國家の法令が同じく商品の販賣條件を改善せんとする勞働者の同盟結社に對して干渉するのは矛盾である。

資本家は資本なる武器を有する貨幣を中心とする現代の經濟組織にあつてはそは極めて有力な武器である。然るに勞働者階級は卽ち無產者階級である、從て資本家に對抗すべき武器は其勞働以外にはない、而して、其勞働の團結は力である。彼等はこの武器を以て資本家に對抗する以外に方法がないのである。斯くの如き同盟結社的鬪爭は甚だ悲しむべきである、然し現在の如き資本主義制度の下に於ては、そは必然的の產物である。もし國家がサンジカリストの言ふ如く資本家の國家でなく、國民全體の爲の國家であるとしたならば、そして資本主義制度を認容するならば、國家は勞働者にも資本家にも公平でなければならぬ。殊に各國民の九割以上も占める無產者階級の生活問題に關して無關心ではあり能はぬ筈である。故に同盟結社權は必ず權利として國家に依つて認められなければならぬ。

而して斯くの如き同盟罷工權、結社權の認容が勞働者階級の生活改善に與つて力あるものであるのは言ぶまでもない。近世勞働運動の結果として生れたものが現在に於ける勞働者階級の向上である。こゝに勞働運動の鬪爭的部分の文化的意義を發見し得るのである。かくてマルクス、エンゲルスの共著「共產黨宣言」の末尾の「萬國の勞働者よ團結せよ」との一句の更に意味深きを思ふのである。

(四)

勞働運動は其一時的鬪爭のみを事とするものでない勞働

者階級の社會上經濟上並に政治上の進歩向上は其窮極の目的でなければならぬ。而して勞働者運動がかゝる窮極の目的を有することに學問的根據を與ふるものは實に社會主義の學說に異ならぬ。

「勞働組合主義が政治上に及ぶとき、そは必ずしも社會主義ではない。賃銀增額、勞働時間の減少其他勞働條件の改善に關しての雇主に對する鬪爭は生產の管理並に政治上の資本主義に對する鬪爭と必然的に關係のあるものではない。」(E. Walling: Socialism as it is. p 353) 然り米國に於けるサミユエル・ゴンパアスに依つて指揮せらるゝアメリカンフエデレーション・オブ・レーバアの如きは明かに勞働運動に於ける貴族主義である。其組合は職業別勞働組合であつてゴンパアスの如きは著しく其思想に於てブルジョアである。彼は千九百九年歐洲漫遊中資本家階級と勞働者階級との共同利害を力說し、階級鬪爭說を否定し勞働資本協調主義を高調して歐洲社會主義者から著しい反對を受けた。カアル・カウツキイも其說を斥けた一人である。米國の急進主義の勞働運動家デッブスの如きはゴムパアスの主宰する組合を批評して次の如く言つて居る「「米國勞働同盟」は多數の會員を有する、然し資本家階級はこの勞働同盟を恐れぬのみが全く其反對である。斯くの如き形態の勞働組合の指導者が資本主義の使徒であるものには何か惡い所がある。其組合が資本家の組合と同盟するが如きものは惡である。……而して古き形態の勞働組合は最早勞働者階級の要求に應ずることか出來ない。舊派勞働組合は其使命を果し、最早其效用なく單に反動的勢力となり終り其目的とする所は所屬勞働者の利益にあらずして勞働者を絞取する資本家の利益である。」更にヘイウッド、ボーンの共著產業的社會主義は「米國勞働同盟は勞働階級の團結を作る爲に存在して居るものではない。そは職業別勞働組合の結合弱き團體であつて各組合は單に各職業に於ける賃銀の標準を引上げ勞働時間の短縮を求めるのみであつて勞働者階級に對して何等の使命をも有たないものである。そは失業の絕滅、幼兒勞働の廢止及び其他の恐るべき勞働狀態の掃蕩を目的とするものではない、」と評して居る。

果然米國の勞働者階級殊に不熟練勞働者はこの狀態を以て滿足しなかつた。第廿世記の初期からの產業不安は遂に千九百五年I、W、Wの出現となつた。T、W、Wの運動は資本家勞働者兩階級に於ける共同利害を否定し、階級鬪爭は必然的に現經濟制度の存續する限り、行はれるのである。斯くの如き資本主義的狀態を打破するものは勞働者運動に依る新社會の實現であるとする思想であるが　其運動の根

底は從來の職業別勞働組合を排し、一產業を基礎とする一大勞働組合に啣くのである。斯くて、そはサンヂカリズムに類似するものであるが、サンヂイカリズムが社會主義的なりと言ふ意味に於てI、W、Wも又社會主義的である。斯くの如くI、W、Wも勞働運動の社會主義化であるが、米國勞働同盟も亦コールの傳ふる所に依ると米國社會黨員の四十四パアセントは米國勞働同盟の會員である。而してエー・エムシモンスは米國勞働同盟が其組織と手段とを變更して社會主義に向ひつゝありと傳へて居る。(G. D. H. Colé. Wrld of Labour. pp 159-160)。

（五）

千八百九十三年チウリッヒに於ける國際社會主義者會議は十六票對二票の多數を以て勞働者階級の組織と政治的運動との必要を認めるすべての勞働組合は國際會議に臨席する事を得べしとする決議案を通過した。この結果國際的運動は社會黨に其基礎を置くと共に勞働組合の獨立政治行動の重要を認める勞働組合に依ること多きに至つたのである

斯くの如き勞働黨又は政治的勞働組合の比較的重要の傾向は年と共に益々增加するに至つた。

斯くて國際社會主義者會議は最早完全な社會主義者の會議たるを要さないとした。一九〇七年に於けるシユットガルト並に一九一〇年に於けるコペンハーゲンの會議に於ては英國勞働黨が勞働組合を政治上代表するものにして、社會主義の政黨にあらざる旨を宣言したにも拘らず會議に列席することを許され、英國の投票權十票の內五票を與へられたのである。斯くの如く社會黨と勞働組合との關係は少數の例外を除くときは極めて深きものゝ存するのを見る。或る國に於ては社會黨が或程度まで勞働組合を支配し、他の國に於ては勞働組合が其社會主義的政治團體である所もある。エルスターの「國民經濟辭典」が其「勞働運動」の項に何事をも記載せずして「社會民主主義」の項を見よとあるは這般の消息を明かに示すものである。

一九〇七年のシユットガルトの國際社會主義者大會は社會主義と勞働組合との關係を論じて居る。

「無產者階級を知識的、政治的並に經濟的隷屬の地位より完全に解放するには政治的並に經濟的鬪爭を共に必要とする。社會黨の活動が主として、無產者階級の政治的方面に行はれるならば、勞働組合の活動は勞働者の經濟的鬪爭の方面に之を表はすのである。斯く勞働組合と社會黨とは無產者階級解放の鬪爭に於て均しく重要である。……

其結果として勞働組合と社會黨との關係が勞働組合の必然

的結合を侵すことなくして强固ならしめることが出來るならば無產者階級の鬪爭は一層有效に一層重要な效果を以て行はるゝであらう……。」

此の如き社會主義者の態度は其後我國社會主義大會に於ても襲踏せられて居る。米國の產業的勞働組合主義者(インダストリアル・ユーニオニスト)デッブスの如きも政治運動に贊成し「余は產業的勞働組合主義(インダストリアル・ユーニオニスト)者なるが故に社會主義者であり、而して社會主義者なるが故に產業的勞働組合主義者である」と言つて兩者の關係を不可分なものとなして居る。斯の樣な勞働運動の傾向は英國に於ても見ることが出來る。英國は人も知る如く勞働組合の發詳地である、勞働運動の最も進步せる所である。而して千八百八十九年ドック・ストライキ以來の勞働組合運動は又社會主義的傾向を(コレクチビズムへの傾向)を有するものであり、斯の傾向は最近の英國勞働黨の宣言と勞働組合の活動とを見るものゝ何人も疑はない所である。(W. E. Walling. Socialism of To-day. p. 373以下參照)

(六)

勞働運動の中樞的勢力たる勞働組合の社會主義化は資本主義經濟組織の必然の結果である。「社會主義と無產者階級との間の溝渠が如何に廣くとも社會主義の哲學は勞働者階級の最良の頭腦の思想の要求には適當のものであり、彼等は機會のあり次第喜んで社會主義に改宗するのである。」と言ふカアル・カウツキイの語は歐洲勞働運動史の證明した所であることは前節既に私の述べた所である。(Karl Kautsky. Class Struggle. p. 195) かくて經濟生活の形態は明かに勞働者階級の心理を支配した。こゝに私は唯物史觀の適用を見ることが出來る。勞働者階級の勢力の微少であつた間は其要求も資本主義制を前提としての最小要求であつた。卽ち其要求は賃銀の增加と勞働時間の短縮を以て其主要部分としたのである。斯くの如き勞働者階級も經濟生活の進步と共に其階級的要求を露骨に表現するに至つた。斯くて勞働者階級の要求は所謂社會政策的施設を政府又は資本家をして實行せしめたのであるが、勞働者階級の要求はかゝる部分的幸福增進策に隨喜の淚を流すにはあまりに過大であつた。そして所謂社會政策的施設なるものゝ理論的根據の薄弱なりしは謂ふまでもない。(批評十月號拙稿社會政策の價値參照)

こゝで勞働運動の指導的精神は轉換した。私が勞働運動の建設的理想と名附けたものはこの轉換された指導的精神を言ふのである。それはデモクラシーの精神である。全人民の上に建てられたデモクラシーの要求である。

自由と協同の社會へ！　これが勞働運動のモットーとなつたのである。「我々の建設せんとする所は新しき社會的秩序である。そは鬪爭に立脚せるものにあらずして博愛に依るのである。そは單なる生活資料に對する競爭的鬪爭にあらずして精神的又は肉體的に干與せるすべての人の利益の爲に熟慮せられた生產並に分配に於ける協同に依らなければならぬ。そは貧富の甚だしき懸隔に依るのでなくこの世に生れたすべての人々に對する物質的境遇の健全な平等への組織的接近に依るものでなければならぬ。そは從屬的諸民族諸人種諸殖民地諸階級又は異性に對する强制的支配ではない。そは產業に於ても政治に於ても平等と自由、一般の同意並に最も廣汎な參與權でなければならぬ。これデモクラシーの特質である。」斯く英國勞働黨は其最近の宣言「勞働黨と新社會的秩序」の中に言つて居るが、今やこの思想は英國勞働運動の精神的指導者となつた。彼等は斯くの如き一般的原則より其實行方法として次の四項を掲げた。

一、國民生活最小限の一般的强制
二、生產の民主的管理
三、國家財政に於ける革命
四、餘剩の富の一般幸福の爲にする使用

これ等四項は勞働黨が實現せんとする新社會なる大建築の四大柱である。彼等の主張する所は眞に〇〇的である。勞働黨の見地は戰後に改造せらるものは單に行政部分の一二でもなく社會機關の小部分でもない英國の關する限りに於てそは社會そのものである。」彼等は斯くの如き思想を以て勞働運動に從事するのである。其根本的要求の四項に對してこゝに之を詳論する暇はないが要するに之がデモクラシーの精神に指導せられつあることは事實である。

改造を要するものは實に社會の一小部分ではない。社會其ものの改造こそ私達の窮極の目的でなければならぬ。かかる窮極の目的を認むる所に於てのみ、勞働運動の文化的意義を見出し得、其運動が國民の最も深き生活問題に觸れる時に於てのみ、そこに其理論的根據を見出し得るのである。何となればラッセルが「政治の理想は個人的生活に對する理想の上に其基礎を置かなければならぬ。政治の目的は個人の生活を出來る丈け善くすることになければならぬ政治家の考量すべきは世界を構成する種々の男子婦人並に小兒以上にも其以外にも何ものもない。政治の問題は各人が其生存を最もよくする樣に人々の關係を調整する事である。」)B. Russell. Political Ideals. p. 2.）と言つたことは國家に於て一の國民より離れた何ものがあり、國家は國民以上のものであるとする抽象論を打破し、端的に國民生活

其ものを除いて國家の理想なしとする理義明白な事實の上に立脚して居るからである。國民の生活のみが眞面目に考へられたならば私達は種々な害惡を社會との間に於て見出すことが少くなるであらうと思ふ。而して斯の樣な國民生活を基礎とするデモクラシーの要求か最近勞働運動の要求である。之を簡單に言へばソーシャル・デモクラシーの要求である。

社會は一の渾一體である。獨逸の社會學者シユタムラーの言ふ如く社會生活の實質は經濟であり、其生活の形式が法律であり、この實質と形式とを次代に傳へ且つ之を改善すべき任務が教育にありとすれば社會生活の改造はこれ等經濟法律並に教育の三方面に徹底的變革を齎らさなければならぬ。卽ち社會生活改造の精神がデモクラシーであるならば經濟法律並に教育は共にデモクラシーの精神に依て指導されなければならぬ。かゝる要求が産業民主主義であり政治的民主主義であり、教育上に於ける義務教育の年限延長並に高等教育機關の解放卽ちこれである。

私は眼前多數者の飢に瀕するを見る。かゝる狀態は諸々の社會改造の學說をして經濟的ならしめた重要なる原因であると共に、私をして社會問題の解決は先づ經濟的たるべしと主張せしめるのである。この意味に於て私は獨逸社會民主黨のエ・フルト宣言の生産手段○○○○○○○○○ことを能はねのである。

而して單に國有論より一歩を進めた國家に依る所有、勞働者に依る管理なるギルド社會主義の主張に最近勞働運動の經濟的方面の理論的根據を置くこととなつてゐる。

（七）

勞働運動はマルクス並にエンゲルが共産黨宣言の中で、「無産者階級運動は最大多數の利益に於ての最大多數の自覺せる獨立の運動である。」とした如く勞働運動は勞働者階級それ自らの運動である。之か勞働者階級の運動あるが故に第三階級のデモクラシーが其階級的特權を主張した如くに、其デモクラシーも亦第四階級の專制（[illegible]）を主張するものとせられる。卽ち其ソーシャル・デモクラシーに於てのデモスとは全國民の意義にあらずして第四階級のみなりとする。けれどもかゝる說はソーシャル・デモクラシーの反對者の曲解であつて何等意義なきものである、洵にサンデイカリズムの主張者やボルシエビイズムの主張者は第四階級民のデイクテーターシップを主張する、けれどもソーシャル・デモクラシーはかゝるデイクテーターシ

ップの撤廢をこそ要求すれそれ自ら何等の特權を要求しないのである。

「獨乙社會民主黨は新たなる階級的特權を得んが爲に奮鬪するものではない。社會民主黨の奮鬪は階級的支配權並に階級其ものを破棄して體性の區別及び家系の區別如何を論ぜず、萬人平等に同樣の義務と同樣の權利とを附與せんが爲めの奮鬪である。」(エルフルト宣告)

この引用文に於けるが如くソーシャル・デモクラシーは何等階級的主張ではない。其主張する私有財產に基ける資本主義經濟組織から社會全體の要求を基礎とする社會協同主義への變遷は正に「勞働者階級のみならず、社會の現狀に惱める人類の一切を擧げて之を解放するものであ」然し其解放の事業に當り得るものは勞働者階級のみであると言ふのである。何となれば「自餘の諸階級は縱令相互の間に利益の爭があつても、何れも生產資料の私有別度を基礎として立てるものに屬し、現社會制度の基礎を維持するを以て共同の目的とするものであるが故に、現社會の根本的改造は此等の階級に期待するを得ない」からである。(エルフルト宣言)

斯くソーシャル　デモクラシーが一階級の爲めの指導的精神でなくして、全人類の解放を其理想とせる所に於て、更に勞働運動の理論的基礎を强固にするものであると　は信ずる。私は終りにベルトランド・ラッセルの言葉を引用してこの稿を結びたいと思ふ。

「長い間には思想の力は他の人間の力よりも大である。人間の要求に應じて思惟する能力と想像とを有する人々は多分其生存中ではなからうけれども早晩其目的とする善に達することが出來るであらう。」(Why Men Fight. p. 247.)

(一九一九、一〇、四稿了)

『勞働者問題』

この書物はブレンターノ教授の著(森戸辰男君譯)である社會改良主義の立場から勞働問題を取扱つたもので、凡てが「政策」的である。例へば勞働者に選擧權を與へるにしてもそれは勞働者に祖國愛犧牲心とを與へるための手段としてゞあるに過ぎない。(三六六頁)…ブレンターノの時代も過ぎた。しかしクラシックとしての價値は少しもこれによつて減ずることはない。こうした價値ある書物がどし／＼出版されることは讀書界のため最も喜ぶべきことだ。總じて岩波書店から出る書物には價値あるものが多い。岩波書店がわが學界讀書界に與へてゐる功績は感謝すべきことである。最近に出版されたカント『道德哲學原論』のごときその功績ある書物の一つとしてこの『勞働者問題』とともに近頃推薦さるべき出版物である。(神田南神保町　岩波書店)(室伏生)

フランスの政治

(一)

▲この十一月十二日を期してフランスに總選擧が行はれる。この總選擧には無論クレマンソオが首相として陣頭に立つわけであるが、總選擧後におけるフランスの政治はどうなるか。この問題は異常な興味をもつて見られてゐる。

▲現在のフランス下院は一九一四年に選擧されたものである。だから昨年の五月に改選さるべきものであつたのだが、戰爭の爲に今日まで延び〱になつてきた。さうしてこの十一月になつた。上院の方は來年一月に改選が行はれることゝなつてゐる。

(二)

▲フランスにおいては今日まで保守主義者の勢力が可成り强かつた。これは主として農民勢力の反影である。『パリーがフランスでなくして、フランスは地方農民のうちにある』。こういはれてゐる位ひである。その農民達が社會黨に反對してきたゝめに、フランスの政治上においての右翼と左翼とが均衡を保つてきたのである。

▲然しこの戰爭に參加して具さに艱難を味はつたものの大多數はこの農民の子弟である。彼等は戰爭からの敎訓を伴うて鄕里に歸つた。爰にフランスの政治上における、來るべき變化が根ざしてゐるのである。

(三)

▲クレマンソオは無論退かなくてはならないであらう。彼れは社會主義者から見ると軍國主義者だとせられる。軍國主義者から見ると『この人は戰に勝ち平和に敗れた』とされる。何れにしても、『虎』はもう退かなくてはならぬ。

▲『ブリアンが準備しつゝある』――こうした聲が聞えつゝある。『ル・マタン』は無論彼れを援ける。彼れの友は彼れを援ける。ブリアンの機會は再び輝いてきた。

(四)

▲しかし興味の中心は、誰れが次の首相となるかといふことではない。誰がフランスの難局に堪えるかといふことである。

▲一フランの價は十二ペニーしかしてゐないではないか。債權國は債務國となつたではないか。

▲戰費のために、米國は五十パアセントの增税を行つた。英國は二十五パアセントの增税を行つた。しかしフランスは十二パアセントにしか過ぎない。それも、收入税は、納税實收入が半分しかない。クローツは煙草税によつて數百萬法の收入を企てた。卽ち四割の課税と、十割の輸入税とを課した。『われ〱は破滅した』――煙草屋連がこういつて大藏卿に訴へた。

(五)

▲それとゝもに興味の中心となりうることは、社會黨の興廢である。――社會黨は必ず勃興するであらう。

▲その理由に二つある。一つは今日までの政黨のブロックが破れたことである。各政黨は提携してきた。さうして社會黨のみ孤立してきた。しかしこのブロックが破れた。これによつて社會黨が有利な立場に立つべきことは勿論である。

▲その二つは、直接行動の失敗である。その結果は、勞働者がある程度まで一致して政治にゆくことができる。ゲード派の活躍時代が復活しないとも限らぬ(K)

米國婦人勞働組合の發達（四）完

倉橋藤治郎

婦人勞働法律摘要表

今や合衆國各州は婦人に關する勞働法律の制定に多忙でありますゝ、即ち之を各州に就て見るに

州名	每週婦人勞働時間	夜業有無	年齡最低限	最低賃銀規定
アラバマ	―	有	一四(學)	―
アリゾナ	五六	有	一四(學)	―
アルカンサス	五四	有	一四	最初六ヶ月週六弗 其後週七弗以上 百貨小賣店月給四十三弗三十三仙
カリホルニア	四八	有	一四	
コロラド	五六	有	一六(一四―一六)(學)	―
カネチカツト	五五	有	一四	―
デラウエア	五五	無	一四	―
フロリダ	―	有	一四(三)	―
ジヨルヂア	―	有	一四	―
アイダホ	州法未制定			
イリノイス	七〇	有	一四(學)	―
インヂアナ	州法未制定			
アイチワ	無制限	有	一四	―
カンサス	―	―	一四	―
ケンタツキー	六〇	有	一四(學)	―
ルイジアナ	六〇	有(十八歳以下無)	一四	―
メーン	五四	有	一四	―
メリーランド	六〇	午前六―後一〇時	一四	―
マサチユセッツ	五四	午前六―後一〇時(七)	一六	―
ミシガン	五四	無	一五	―
ミネソタ	五四(五)	有	―	―
ミツシツピー	六〇	有(十六歳以下無)	男一二、女一四	―
ミゾーリー	五四	有	一六	―
モンタナ	五六	有	一六	―
ネブラスカ	五四	午前六―後十時	一六	―
ネヴアダ	五六	有	男一四、女一六	―
ニユーヘンプシヤー	五五	有	一六	―
ニユージヤージー	六〇	有	一四(學)	―
ニユーメキシコ		州法未制定		
ニユーヨーク	五四	無	一四	―
北カロライナ	六〇	有、十六歳以下無	一二	―
北ダコタ	六〇	有	一四	―
オハヨー	五〇	有(廿一歳以下無)	一六	―
オクラホマ	―	有(女十八歳以上 男十六歳以上)	一六	―
オレゴン	五〇―五四	有	一四(二)	週八弗廿五仙(四)
ペンシルヴエニア	五四	無	一四(學)	―

ロードアイランド	五四	有	一四	―
南カロライナ	六〇	有	一四	―
南ダコタ	六〇	有	一四	―
テネシー	五七	有	一四	―
テキサス	六〇	有	一五	―
ユタ	州法未制定			―
ヴァモント	五六	有	一四	―
ヴァヂニア	六〇	有	一四	―
ワシントン	五六(一日八時間)	有	男一四 女一六	成年週八弗六十仙 ―
西ヴァジニア	―	有	一六	―
ウイスコンシン	五五	有(六)	一四(一四―一七歳條件付許可)	―
ワイヨミング	五六	有	一四	―

(學)義務教育終了證書を要す、(二)特殊職業に對し年齢制限あり、(三)新聞賣子十歳、メッセンジャー十二歳、夜間メッセンジャー十六歳、工場勞働十四乃至十六歳は許可を要し十六歳以上許可を要せず(四)ポートランド以外の規定、ポートランド市は八弗六十四仙、(五)製造業五十四時間、商業五十八時間、市外製造業五十八時間、(六)工場又は洗濯屋は夜業無し、(七)紡績工業は午後六時以後の作業禁止

表の數字は一九一六年九月の Federal child labor law に基ける各州法律によりました

即ち一日の勞働時間は一日九時間と十時間との間に制限せられ、十四歳乃至十六歳以下の少年少女の勞働は禁ぜられ、夜業禁止も各州で中々問題たらんとして居ます

結論

以上述べた所を約言すれば

第一期(一八二五――一八四〇)は實驗時代であつて紡績工女等がストライキの際臨時に結合する團體をトレードユニオンと呼んだのであります

第二期(一八四〇――一八六〇)は社會的秩序の回復の時代で人情論が一世を風靡しました、從つて勞働運動も勞働改良協會の如き著しく教育的色彩を帶びた團體を主としミス、バグリーの指導するマサチユーセッツ州ローウエル婦人勞働改良協會は此運動の中心でありました。

婦人十時間勞働法は此時代ニユー、ヘンプシャイアを始め北東部工業地方數州の婦人勞働者の運動によつて捷ち得られましたが、團結力の弱い彼等は工場主が除外例を悪用して此法律を死文に歸せしめ行く事を何うする事も出來なかつたのであります、

第三期(一八六〇――一八八〇)は婦人勞働組合が始めて今日の如き性質のものとなつて組織化せられ、夫れと共に多年女工を排斥せる男子勞働組合も、婦人の産業上に於ける位置の進むに伴なひ、其の全國組合に婦人の加盟を許さざるを得なくなりました

第四期(一八八〇――一九〇八)はナイツ、オブ、レーボアの指導に始まり、次で一九〇三――〇八年の沈衰期に入りましたが、一方エー、エフ、エルは此期間に婦人組合と

握手し、全國婦人勞働組合團、婦人萬國聯合レーベル團等の如き婦人の組織せる全國的組合成立し、次期の發展に準備したのであります

第五期（一九〇九―現今）に入り婦人勞働組合は政府及び男子組合との圓滿なる協調により全國全職業に普遍的となり、戰爭によつて婦人に開かれた廣い職業の天地は組合運動の格好なる培養所でありました

今私は手許に合衆國全部の婦人勞働組合の現狀を示す統計的材料を持ちません、次に掲げるのは紐育州に於ける婦人勞働組合の發達狀態でありますが、大勢は之で察知され樣と思ひます (Statistics of Trade Unions in 1914, Bul. No, 74, Dept. of Labor, State of New York, Albay, N. Y., U. S. A., 1915)

年次	組合數	組合員數			全組合員數に對する婦人組合員數百分率
		男子	女子	總計	
一八八八	八二六			一六九、〇〇〇	
一八九四	八六〇	一四九、七〇八	七、四八八	一五七、一九七	四・八
一八九五	九二七	一七〇、一二九	一〇、一〇二	一八〇、二三一	五・六
一八九六	九六二	―	―	一七〇、二九六	
一八九七	一、〇〇九	一六三、六九〇	五、七六四	一六八、四五四	三・四
一八九八	一、〇八七	一六三、五六二	七、五〇五	一七一、〇六七	四・四
一八九九	一、三二〇	二〇〇、九三二	八、〇八八	二〇九、〇二〇	四・〇
一九〇〇	一、六三五	二三三、五五三	一一、八二八	二四五、三八一	四・八
一九〇一	一、八七一	二六一、五二三	一四、六一八	二七六、一四一	五・三
一九〇二	二、二二九	三一三、五九一	一五、五〇九	三二九、一〇一	四・七
一九〇三	二、五八三	三八〇、八四五	一四、七五三	三九五、五九八	三・七
一九〇四	二、五〇四	三七八、八五九	一三、八一七	三九一、六七六	三・三
一九〇五	二、四〇二	三七〇、九七一	一三、二六五	三八三、二三六	三・二
一九〇六	二、四二〇	三八六、八六九	一一、六二五	三九八、四九四	二・九
一九〇七	二、四九七	四二三、五六一	一四、一三一	四三六、七九二	三・三
一九〇八	二、四四四	三六一、七六一	一〇、六九八	三七二、四五九	二・九
一九〇九	二、三六八	三六〇、三一九	一三、四一〇	三七二、七二九	三・三
一九一〇	二、四五七	四五三、八〇一	二八、一二三	四八一、九二四	五・八
一九一一	二、四九八	四六八、九一三	三五、四〇三	五〇四、三一四	七・〇
一九一二	二、四六九	四八九、五〇二	三七、一七〇	五二六、六七二	七・〇
一九一三	二、六四三	五八六、七二六	七八、五二二	六六五、二四八	一一・八
一九一四	二、六一七	五二八、三七五	六七、四四九	五九五、八二四	一一・三

一八九七年以後は九月三十日に終る一ヶ年、一八九四―五年は七月一日に終る一ヶ年、一八九六年は十月三十一日に終る一ヶ年統計であります、

卽ち私の述べた所の發達隆替は此の數字の上からも窺はれるのであります

斯く述べ來つて私の感ずる所、見聞の結果觀察せる所は

第一、婦人勞働運動は勞働階級以外の指導者によつて開發せられた事であります、此等外來の指導者はインダストリアル、デモクラシイの歷史の隨所に發見される如き獻身的な努力を以て運動の先導に立つたのであります、尤も又此等外來指導者のある爲めに婦人間の純勞働組合の發達が稍々もすれば遲れ勝ちな事もありました、然しながら之は

敢て勞働組合運動と限らず、一般に婦人運動發達の初期に於て常に經驗する所でありまして此場合におきましても夫れによつてイニシアル・ダイレクションを與えられ、婦人勞働者が自分達自身の純勞働組合を組織する自覺と了解とに目覺める迄の搖籃となつた效果は認めなければなるまいと思ひます。

第二、婦人勞働組合は男子組合運動者の開拓せる跡を追ふた者であつて、男子組合の經驗せる實行性の少ない漠然たる勞働組合、ストライキに處する臨時的組合時代より、資本家の反擊による解散時代に次で今日の如き純勞働組合の發達時代に至る同一經路を蹈んで居ますが、夫れ以外に婦人勞働者等は最初男子組合との衝突、其の排斥を免れなかつたのであります、而して婦人組合は男子組合をして其排斥の不可能且不合理にして協調融合の當然なるを認めしめ、全國組合に婦人組合を歡迎せしむるに至つて始めて着實なる發達を遂げたのであります、

第三、全國組合の組織發達、其の財政的基礎の確立によらねば組合が眞の發達をする事は出來なかつたのであります、

第四、婦人勞働者の組合運動が非常に消長の多い一原因は結婚と姙娠との影響であります、合衆國勞働省及び商務省が聯合調査の上聯邦議會に報告せる所によるも (Report on Condition of Woman & Child Wage Earners in the U. S., Vol. X, History of Woman in Trade Unions, pp. 17-8, U. S. Government Printing Office, Wash., D. C., 1909)『男子は結婚するや一層其職業に又其地方に並に其の勞働組合に定住固着の意を強むる者なるが、婦人は通則として結婚が經濟的獨立の戰場より彼等を運び去るや。其產業より從つて又其のユニオンより落伍脫退する者なり』と云つて居ます、

日本の婦人勞働者間に組合運動ありや否や、歸つて間も無い私はこれに就て何事も知りません、從つて云ふべき事もありません(一九一九五、二三)

『日本改造の意義及其綱領』

この書物は『庶民階級の友』をもつて自ら任ずる鈴木梅四郎君の著述である。鈴木君自身が資本家であるだけ、この書物の内容もまた『庶民階級の友』であるとともに『資本家の友』でもある。從つて不徹底は免れない。先づブレバアフアルム卿の六時間勞動論への途中にあるものと見ることができる。しかし資本家であるとしては、時々、こうした書物を表發して、多少にても改造運動に貢獻することはよきことである。特にこの書物が改造の實際綱領を示してゐる點をとる。(京橋出雲町實生活社發行)(室伏生)

諸家の婦人観

和田むめお

婦人公論十月號に『改造の急を要するものは何かと』題して、諸家の所謂改造觀を發表してゐるが、云ふ迄もなくこれは同誌の問に對して、簡單にハガキにて答へられた態のもので、それを以て各氏それ〴〵の纒つた意見と斷定する事は無理かも知れないが、又一方には、所謂思想家らしい表現や學者らしい研究を外にして、卒直に不用意に答へられたものだけに各人それ〴〵の個性と智識階級一般の傾向の一瞥をらる事が出來ると思ふ。

私は一個の婦人として、それ等の諸氏の改造觀の中から特に婦人に就いて云はれたものに關して、こゝに私自身としての考察を、それ〴〵の意見に加へてみたいと思ふ。

改造の根本を人間自身の或ひは各人それ〴〵と答へてをられる片山伸氏、佐藤春夫氏、有島武郎氏、木村久一氏の言に就いては——これは無論、單に婦人のみに關しての問題ではないが——私は全く同感である。唯、自分自身を改造すると云ふ事は、複雜な有機的社會の存在として置かれた一個の社會人としての自分自身を、全體としての社會の上を流れてゆく潮流（カーレント）、傾向（テンデレシイ）のそれぞれに結びつけて、社會狀態の改造、經濟狀態改造に依つてその具體的な效果をみる事を外にしては、完全なる自己の改善を圖らうとする事は不可能事であると自分は信ずる。

次に、特に婦人に關して云はれたものに就いては、家庭の改造と云ふ事が、犬養毅氏、帆足理一郎氏、宮田修氏、厨川白村氏、丘淺次郎氏、其他の諸氏に依つて緊急問題として說かれてゐる。それ等の諸氏の大體の意見は、第一が家屋及び衣服の改造にあるやうであるが、中にも帆足氏丘氏の如きは、疊敷きの生活を廢し洋風の生活を高唱してをられる。云ふ迄もなく各人がそれ〴〵自分の個性と、社會

共同の目的に適した家屋と衣服の改造をはかる事は何人にも望ましい事ではあるけれ共そうした要求を一般的な問題として萬人に實現させるべく、より根本的に要求さるべき所謂、改造の急を要する問題がそこに横つてゐるのではあるまいか。現代の社會に於ては、大多數の人々が自分の土地家屋はおろか、自分自身の疊をすら自由にする事を許されてはゐないのである。斯うした存在の下に於て、一般問題として家庭や家屋の改造を叫ぶのは恰も、木に倚つて魚を求むるの類ひである。斯くの如き要求の實現されるためには、その前程として現在の誤れる消費と生産の、創造と文化の問題がより合理的な存在におかれる事を各人が自覺して、それ〳〵の個性に從つて努力する事より外に、道はないと自分は信ずる。

更に、家庭にデモクラシィを容れる事に依つて主人と主婦との從屬關係を廢すべきが、帆足氏、中島氏其他の諸氏に依つて說かれてゐるが、デモクラシィと云ふが如き事は單に先づ家庭にとり入れられるやうな一小部分の問題ではなくして、すでに萬人の上に要求されてゐなければならないものであると思ふ。誤られたる男女關係の上に立つた現代の社會に於て、不合理なる結婚の上に成立つた大多數の現在の家庭にデモクラシィを求むるが如き事は帆足氏の如き少數の例外を外にしては、猿猴に冠するの類ひではあるまいか。家庭をデモクラシィにするためには、その前程としてより合理的な結婚が要求され、更にその根本問題として男女の正しき存在が要求さるべきである。

次に婦人そのものの改善をとかれてゐる藤井健次郎氏、野間五造氏其他の諸氏は、女子教育の奬勵、或ひは智識の涵養、精神の開發、婦人の奴隷的生活の自覺等を促してゐるが、無論かうした事は忽がせにする事の出來ない問題で婦人それ自身が自己の社會的存在を更に男性に對する存在を自覺して、過去の誤れる男性のモノポリーに對して、自分自身を開放しやうとする事は最大急務ではあるか、それと同時に、現在の男性が、長年月の間、婦人の完全な存在を傷ける事に依つて、例へば、その母に、その妻に、その娘に獨立した人間としての接觸を見出しえない事に依つて自分自身の存在に、時代の文化にどれだけの損失を招いでゐるかと云ふ事を氣付かなければならないと思ふ。少數の婦人の中には、すでに自分自身の問題として自分の奴隷的存在に對する目醒めた要求の發現をみ逃がす事が出來ないが、男性の殆ど全ては――丁度資本家が勞働者に對すると全く同じやうに――婦人問題を自分自身の問題として考へ

てゐない。如何なる社會問題に於てもそうであるやうに、婦人問題に於ても現在の地位にある婦人を誘導救濟するといふが如き事は、第二位的な方法論であつて、その根本問題は婦人と男子の正しい存在を相互に、見出す事であらねばならない。向軍治氏は我國には、賢母良妻としての務めを滿足に盡せる婦人は幾人もないと云はれてゐるが――自分の考へてゐる賢母良妻といふものが果して同氏と同じ內容を持つたものか否か解らないが――それと同じ意味にて我國に於て賢父良夫と呼ばれ得べき人が幾人あるかと反問したくなる。

勞働問題に於ては、彼等の奴隷的存在を開放する事をその使命の如く心得てゐる多數の人々も、全く同等の意義を以て考へらるべき婦人問題に於ては、未だ婦人を一個の玩弄物としてみる以外に、人としての婦人をみやうとする內的反省をすら見出し得ない人が多いやうに思はれる。斯うした內的精神の發現を外にしては結局勞働問題も婦人問題も、悲喜劇の一幕に終止するにすぎないであろう。

私は言葉を重ねて云ふ、全ての人類文化の發達は、各人が自分自身の問題として自分の內的要求の上に、それ〳〵自分の面接した社會問題を擴充させる事に依つてのみそれ等の現實的確實性を握る事が出來るのである。自分は不幸にして、少く共女子問題に就いては斯うした切實な要求を同誌に答へられた所謂智識階級の人々の言葉の中から見出す事の出來なかつた事を非常に殘念に思ふ。

國際勞働者同盟まで（マルクスの生涯(三)）

ヴ井ルヘルム・リーブクネヒト

革命は千八百四十八年以來——恐怖を感じて居た資本家階級に勞働者階級がそれの戰鬪時期に達したといふことを示した巴里六月戰以來——降り坂に轉向した。

千八百四十八年十一月、ロバート・ブラムは戰爭法令によつて指し向けられたオーストリアの彈丸に貫かれて、ヴインナのブリギッテナウで死んだ。さうして同じ十一月九日——殆んど同じ時間に——ウランゲルがベルリンへ這入つて、包圍狀態を宣言した。しかしプロシア王と他の王族が王國の憲法を受入れるのを拒んだ後、千八百四十九年の春、革命の烽火が再びまたゝいた革命は、最後の努力として兵を擧げやうか、ベルリンとヴインナに於ける勝ち誇つた反動で、ゆる〳〵と壓潰されるか、どちらかの選擇をされる可く曝されて居た。ペンの爲の時は刻々に過ぎ去つてしまつた、——劍の日であつた。それの無用の幻想と意識から自由であつたけれども、エンゲルスが「憲法擁護戰」に加はつて、バーデンと宮廷の領地へ行つた間、マルクスは急進的中產階級が赤旗に恐れ、外交の衝に熱心な資本家階級に反對して「堂々たる戰鬪」の準備をして居たパリへ行つた。

この戰鬪も亦失敗した——急進中產階級は勞働者なくしては何物でもなかつた。さうして勞働者の花は千八百四十八年の六年に射落された或は「鋭いギロチン」に對する生餌として落命した。千八百四十九年「六月十三日」は唯急進的中產階級の無力を表はしたに過ぎなかつた。失敗した「戰鬪」の主要な主人公であつたレドル・ロリンは、ロンドンへ逃れなければならなかつた。一年前に彼の同僚、ルイ・ブランが六月戰の後ロンドンへ逃れたのだが。さうしてマルクスは政府から耐火的だと考へられたブレタンを除いてパリやフランスの他の場に滯在することを禁じられた。マルクスはブレタンの提供を辭退してロンドンへ行つた。

さうして此處で彼は留まつた——七年間放浪した後。休息は、しかし、彼に來なかつた、又彼はそれを欲しなかつた。

此處、首府（母市）であり、さうして世界の及び世界の商業の中心であるロンドンで——世界の望樓、そこから世界の商業と世界の政治的の及び經濟的の雜沓が地球の他の如何なる所に於ても觀ることの出來ない方法で觀ることが出來る——此處でマルクスは彼が求め、さうして必要としたところのもの、——彼の著作に取つて　煉瓦と漆喰とを見出した資本論はロンドンに於てのみ創造し得たのである。

ロンドンでは、マルクスと彼の友達とは二月及び三月革命の灰と屑とに再び火を付けやうとする愚かな企てをしやうとは思はなかつた。千八百五十二年の十二月二日の急撃——それの爲にマルクスは彼の「ルイ、ボナバルトの第十八ブルメア（第二月）」の中でダンテの恐るべき三句押韻」の如き不朽である恥辱の記念碑を建てた——は革命的の競爭者の最後の尊敬を破壞した。暫時「共産同盟」は存在し續けたしかし被告の罪の宣告とロンドンから指揮されることの出來る以上ドイツに於ける是以上の宣言の望みのないことを指示して、千八百五十二年十一月十二日に終はつた。コロンに於ける共産主義者の訴訟手續の後、共産同盟は瓦解した。これらの進行についてのこれ以上の知識を得んことを欲する人は、誰でもマルクスが書いて、新版となつて再版された「千八百五十三年、コロンに於ける共産主義者の訴訟に關する要覽を讀むがよい。"Neue Rhenische Zeiting"（新ライン新聞）を評論の形で——不規則な卷で—ロンドンから、（ハンブルグを通つて）發行を繼續しやうとする企て（千八百五十年）は都合の惡い境遇によつて直に破れた。「共産同盟」の瓦解後、マルクスは彼の科學的の研究と雜誌業とに彼自身を捧げた。彼は東洋の才能ある探檢者であり、東洋問題とロシアの政治の研究者であつたダヴィッド、ウルクオアルトと知合になつた。さうして彼は彼を助けて新聞の、題目やパンフレットで中及西ヨーロッパの外交、殊にパルへマアストンの外交の恥辱に滿ちた魯鈍と詭計とを洩しさうして發いた」"New York Tribune"の爲に、彼は普通の寄書家として政治狀態及經濟問題についての光輝ある題目の長篇——彼等の現代的の價値と政治經濟著作の例としてドイツの翻譯も亦失敗されなければならない非常に高價な材料を含む題目——を書いた。

千八百五十九年、」政治的經濟學の批評」が初めてマルクスの價値についての理論を明示して、出版された。

千八百五十九年のイタリーの戰爭は再びマルクスを政治

へ導いた。ボナパートは國際的資本家の偶像となつてしまつた。ドイツの中産階級は殊に彼に昏迷された――丁度少し後彼の拙劣な摸倣者のビスマークに、さうして現在はクリスピロ。彼のぐらついて居る王位の堅固にしやうとしてイタリーの釋放の爲にオーストリアに對して戰を宣言した時に、皇帝は民主々義思想の擁護者となつた。さうして其の時既にオーストリアの費用で「より偉大なプロシア」の設立を企てたプロシア政府は自由主義のボナパートを利用しやうと試みた。マルクスと彼の友達が寄書した "The People" といふロンドンで出來た新聞は、それらの虚僞の「瓦解せんとする計畫」に反對してフランス帝國の性質と喝望とを殘酷に曝露した。

この場合に、カール・フォグトは、「革命」の他の人物の如く、ナポレオンの民主々義的の朝廷に職を得た。さうして彼の「赤い王族」たるプロンプロンは稍荒く馴らされた。さうしてそれによつて彼から毒と言葉とを以て脹らんだ罵詈の條目を引き出した。フォーグトの罵詈の條目はマルクスの古典的パンフレットたる "Herr Vogt" の原因であつた。

彼是ずる中に境遇が異なつた文明國に於ける獨立勞働運動に都合よくなつた。英國では、改進主義が無くなつて、中産階級の主義の上に建立された、さうして中産階級の團體を支持して居た勞働組合主義が最早進歩的の勞働者を滿足させなかつた。文明戰の恐るべき流血に續いて狹量な職業組織と俗人消費者及び生産者倶樂部が出來た。フランスでは古い〇〇の血が再び動いた。さうしてドイツでは、マルクスの後、ラッサールによつて勃興した勞働運動者は、彼等の調和の夢から階級組織の必要を考へて、獨立の政治團體を形造る計畫をなし始めた。マルクスは今やそれの國際的觀念を高調して、出來得る限り共通の一致した行動をなし得る、異なつた國々の勞働運動を含む同盟を組織する時が到達したのだと信じた。

千八百六十三年、四月二十八日、同情の會合がプロシアの助けを以て再び丁度ロシアによつて滅されたポーランドの爲にロンドンであつた。異なつた國々の勞働者の代表者が招かれた。さうして國際的勞働者の同盟を組織することが決定された。(國際勞働者同盟) "International Workingmen's Association" といふ名はこゝで始めて使用された。二ケ月後に、卽ち六月二十二日に、ポーランドの爲の第二の同情の會合がロンドンで開かれ。

たさうしてその中にフランスの勞働者が特に加はつて居た、社會問題の徹底した論議があつた。さうして "International Workingmen's Association" を組織する決心が新

たにされた。千八百六十四年の春、——さうして再び四月に——"International Workingman's Association"を創立する目的の爲に國際的の代表者の會合を召集し、さうして最初の仕事をマルクスに委すべく、ドイツ・ポーランド、英國、及びアメリカの代表者と相談することを決心した勞働者の代表委員がパリから來た。

五ヶ月後、千八百六十四年、九月二十八日に、ロンドンの聖チエームス會堂に於ける記憶すべき會合で、"International Workingmen's Association"が生れた。マルクスは戰鬪機關よりも寧ろ——歐洲大陸で勢力を得る境遇にある限り——勞働階級の解決を指示する總ての努力の中心であるべき新らしい組織の發會演説とプログラムと構造とを編輯した。『凡ての國の勞働者よ、結合せよ!』こういふ精神だ國際勞働者同盟ができたのである。(木蘇生)

◇ギルド社會主義參考書

S. G. Hobson, National Guilds,

——Guild Principles in War and Peace

A. R. Orage An Alphabet of Economics

A. J. Penty, Old Worlds for New,

——Guilds and the Social Crisis,

G. D. H. Cole The World of Labour

——Self-Government in Industry.

——An Introkuction to Trade Unionism.

——Labour in Commonwealth.

M. B. Reckitt and C. E. Bechhofer, The Meaning of National Guilds.

B. Russell, Roads to Freedom.

編輯室と校正室

◆政府はいよ〳〵勞働組合法案を次の議會に出すさうだ。それは結構千萬なことだが政府の――イヤ床次内相の勞働組合といふのは、例のタテの組合たといふことだ

◆何のことはない共濟組合なんだ。隨分馬鹿々々しことではないか。こゝらが日本特有とでもいふのか知れない。――然り溫情的勞働組合とでもいふのであらう。床次さんも甘いことを考へたものだ。これで注文通りにいつたら床次タテ次郎閣下萬歳を三唱しなくてはなるまい。

◆尤も一概にタテ組合が間違つてゐるとはいへないこともある。何んでも床次さんは各大臣のうちで一番頭が惡るいが併し新らしいといふことであるから或は [illegible] movement からこういふ敎訓をえたのかも知れない。さうとすればこのうへもない結構なことだ。

◆こういふ頭の新らしい大臣のあるのに、大學の先生でも隨分頭の古るい人もあるようだ。慶應大學でも若手敎授連から大分嫌はれてゐる第三階級の忠臣田中萃一博士がある雜誌で述べてゐるところによると『華族廢止は尙早』なそうである。この人にかかるとみな尙早だ。普通選擧も尙早、華族廢止も尙早　慶應が大學令による大學となることも尙早だとはまだいつてはいないようだが。

◆古るいのを探すことは、この頃のように皆が新らしがる時代には、餘程六かしいかと思つてゐたら必ずしも然らずだ。井上哲二郎博士といへばこの方で泰斗であるがこの人がその機關雜誌で述べてゐることが素敵に面白い。

◆話は尾崎行雄氏の態度を攻擊してそのアメリカかぶれを難じてゐるのであるが、それにこういふ文句が使つてある「眼に唾液をぬり、摩擦一番、これを諦視せよ…」何だか二昔ばかり前の世界に戻されたような心持ちがする。

◆その尾崎行雄氏が後藤新平男とロンドンの王宮内で會つたといふ話がある。實際一寸挨拶だけは交換したさうだがそれ以外には、一度も會つたこともなく、後藤男がある政治上の目的のために歐米巡禮をしてきたのに對し、尾崎氏は全く勞働問題の研究に專念してゐるのだとは、最近歸朝した橫山雄偉君の話をそのまゝ。

◆尾崎氏も今ま頃は井上博士の注文通り華盛頓で『眼に唾液をぬり、摩擦一番、世界の大勢を諦視し』てゐることであらう

◆前々號の本欄で山川菊榮女史について書いて置いたことが事實に相違してゐるとのことで、同女史は十月の『新社會』で『批評』記者を叱られてゐる。誠に申わけのないこととして恐縮するのほかはない。謹んで取消します。

▲菊榮女史の御良人均君のこの頃の活動は目ざましいものだ。同君の銳利な批評は評論壇の異彩である。

▲福田博士が黎明會退會を申出たことは誰れも知つてゐる。そこへ仲裁好きの吉野博士がかゝわつて色々に盡力してゐるようだ。

▲雄辯十月號に出てゐる「社會主義の人々」には大分間違ひが多いとかで社會主義者の間で問題になり、辨明書が出るとか出ないとかいふ話だ。

◆政治家といへば直ぐに無學の代名詞のように聞えるが、そのうちでは江木翼君なぞは立派なものだ。

社會主義の學理的經典

新刊

山川均編

四六版總クロース上製　定價一圓五十錢　送料六錢

本書の特色

本書は『資本論』の解説書ではない。又た資本論を通俗化したものでもない。更に其一部分を粗述布衍したものでもない。本書はマルクスの資本論を、マルクスの書いた儘で、其結構を崩さず順序を變ぜず、出來得る限り原形の儘にて出來得る限りマルクス自身の用語の儘にて、而かも出來得る限の壓搾し凝縮したものである。之を資本論の大綱と云つても梗概と云つても若しくは神髄と云つてもよい。資本論は社會主義の科學的經典と稱せられ、無產階級の聖書と云はれて居るにも拘らず、原文は全巻を通じて二千數百頁の大冊であつて、何人も資本論を口にするが何人も資本論を通讀した者がないと迄で云はれて居る。資本論を解することの困難は、一つには其眼界の餘りに尨大な爲に、いづれの一隅に立つても全體を一と目に見渡し難い所に基因する。本書の企圖卽ち資本論を一と目に見渡して、成るほど資本論とは如斯きものかと云ふ概念を最も鮮明に與へんとする所にある。家を借る人は、先づ案内者の說明によつて內部の間取りを知り、然る後ち更に數十步を退いて家の全體を見るように、資本論の原文により、又は註釋書や解說書によつて既に資本論の間取りを明らかにした人も、更に本書によつて今一度、資本論の全體を大觀することは決して徒勞でないと思ふ。——著　者——

東京芝區三田一丁目

發行所　三田書房

振替東京四一八一〇

定價		
毎月一回一日發行		郵税
一部	廿八錢	五厘
半年分	一圓五十錢	税共
一年分	三圓	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金
▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替
▲外國行郵税十錢

大正八年十一月一日印刷納本
大正八年十一月一日發行

編輯兼發行印刷人　東京市京橋區銀座三丁目二十七　尾崎士郎

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　株式會社博文館印刷所

發行所　東京市京橋區銀座三丁目二十七　批評社
振替東京四五三四六
電話京一五四八

廣告	
半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館
▲日本橋　至誠堂　▲本郷　盛春堂

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
批評 十一月號（定價廿八錢）

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正八年十二月一日印刷納本 大正八年十二月一日發行

（定價金廿八錢）

十二月號（第十號）

普通選擧史論

唯心的經濟史觀の認識論的位置

批評社

法學博士　福田德三　校註

近世の科學的努力が産出したる最大最高勞作の一はマルクスの著述たる事、誰人も之を否定するを許さず。社會進化の根本原理を究明し、資本主義經濟生活の構造を解剖するに深刻なる哲理と批判と該博なる經濟文獻の考證とを以てし、來るべき新經濟文化の歸趣を提示したるものは即ち彼にして、今や世界は其一半を擧げて彼の科學的豫言を實現しつゝあり。嚴正なる科學の嶄新が人類文化の運命を支配するの偉大なる、誠に彼に於て之を見る。弊閣夙に邦文を以て彼の全面目を同胞に傳ふ可き系統的全集の刊行を企て、其準備に多くの勞と時とを捧げたる苦心茲に報いられ、マルクス研究の權威たる海內の碩學諸家、擧つて飜譯擔任を欣諾せられたり。福田博士は全集を通じて校註の任に當るの外、自ら飜譯の筆を執らるべく、本邦社會主義學者の第一人たる高畠素之氏は一切の社會運動を放擲し、其全生活を資本論の邦譯に投ぜらる可し。企業論の著者にして經濟史經濟學史の權威たる阪西教授と純理經濟學の驍將寺尾教授とは餘剰價値學說史を分擔完譯せらるべく、經濟哲學の樹立を以て新カント派哲學に別乾坤を啓きたる左右田博士は博士門下の俊秀金子教授と共に批判哲理的諸篇に筆を下さるべく、マーシアル經濟學の紹介者として學界の驚異たる大塚教授は、福田博士を助けて平易的諸篇に其の明快なる譯筆を再試せらる可く、別に總索引の編成は圖書學の權威村島司書官之れに當らる可し。斯くして本邦の文運に貢獻し世界の改造に寄與せんとする弊閣の微衷が、江湖の援助と庇護とを贏ち得べきことは確信して疑はざる所なり。

飜譯擔任

〔一部〕資本論　法學博士 福田德三　高畠素之

〔二部〕餘剰價値論　神戸高商教授 阪西由藏　大阪高商教授 寺尾隆一

〔三部〕批判諸篇　法學博士 左右田喜一郎　東京高商教授 金子鷹之助

〔四部〕主張諸篇　法學博士 福田德三　東京高商教授 大塚金之助

〔別卷〕總索引及備考　帝國圖書館司書官 村嶋靖雄

高畠素之譯　資本論【壹】　大正九年一月發行

體裁摘要

◉菊判全二十卷別卷「總索引及備考」◉毎卷約五百五十頁、總頁數一萬二千頁◉總布裝

發行方法

◉完成期間、大正九年一月より向ふ約三個年、一ヶ年六卷宛逐次刊行◉定價毎卷金五圓五十錢（但多少增減あり）郵稅（金廿五錢）

購讀者の特典

◉豫約前拂等の方法を採らず、從つて申込保證金等を申受けず。左の期限内に購讀を申込み全集二十卷を購入せられたる方には別卷一「總索引及備考」（假約金十圓）を呈す。

申込期限　大正八年十二月二十日

申込取扱全國各書店

内容解說　進呈

東京京橋區桶町　大阪南區三休橋　株式會社　大鐙閣發行　振替 東京三三一六一八　大阪二七一五五

批評

十二月號

フエヂナンド・ラサーレ

Ferdinand Lassalle

(1825—1864)

唯心的經濟史觀の認識論的位置

賀川豐彦

一、歷史科學としての經濟學

經濟學が價値を取扱ふ科學であることは、よくわかつて居るか、唯物的經濟史觀では認識的に素朴的實在論から出發して、科學的歸納法式を取つた純粹科學に生きやうと云ふ努力が有るので、價値科學の常規である規範科學として生きやうとはせずに、記載科學たらんとして居る。そこで、經濟學の第一の範圍が定まるのである。經濟學を數學派やマルクス派の考へる如くに、自然科學的歸納法で試みんとする努力は、誠によい思ひつきで、之が心理生活の加味せられて居ら無い、純粹生理化學方程式を說く樣なもので有れば、食物のカロリー量と、之を補給する熱とによつて經濟學は殆ど凡てを決定し得るのであるけれども、經濟學はたゞ一個の歸納科學としては價値の少ないものである。之は矢張り、人間の價値の科學であるから、左右田喜一郎博士がその『經濟哲學の諸問題』の中に論じて居られるやうに『歷史的メソード』を取るより仕方があるまい。卽ち、發生的に硏究するより外に方法は無いのである。從つてそれは實驗として繰返さる可きもので無くして、唯一度だけしか經驗が出來ず、法則としては時間の中に與へられた傾向を把束するにしか過ぎ無いのである。卽ち之が經濟學の中に歷史派が勢力を占め得る理由で、マルクスの如き認識上の素朴的實在論から出發して――マルクスは實體的にはヘーゲル左黨の形而上學が有つたらうが認識論の上では僅かに素朴的實在論である――唯物史觀を組織せんとしたが、歷史的に發生の記錄を辿り、また之を發生的に、變轉的に、史觀として經濟學を見なければなら無かつたのである。卽ちマルクスに於ては資本論は特別の法則が有る樣に

書かる可きものでは無く（心理的法則としては兎も角）資本史として唯物史観の一節として書かる可きもので有つたのだ。それで無ければ、經濟學を唯物史觀の中に編成した一元論に、外の法則を加へる樣になるからである。

卽ちマルクスに取つても、經濟學は一度經驗すればまた返つて來無い、自然科學の經驗とは違ふ一個の歷史的經驗の科學であると云ふことは、明瞭に意識されて居た筈で有るけれども、不幸にしてマルクスの時代は今日の樣に、價値の科學が發達して居ら無かつたから、折角出かけた方式から途中で舞ひ戻つたと云ふ氣味が無いでも無い。

マルクスの後に、各種の經濟學派が現はれるけれども皆この經濟學の方法論を取り眞違へて、經濟學を妙な所へ連れて行くのである。この點から見れば、シユモラーの如きは眞に偉大であるとせねばならぬ。たゞ不幸にしてシユモラーは心理的價値の法則を無視した爲めに、過去の發生史を辿るに止つて、現代より未來に渡す橋を架けることが出來なかつた。

既に私はマルクスが認識的素朴實在論を取つたのは惡いけれども、史觀として經濟學を組織したのは善いと判定した。マルクスは資本主義の心理だけは方程式にして現し得たが、之も將來のことを豫測し得なかつた。で、經濟學は發生的に、傾向的に、心理的に、價値論的に、規範科學的に、研究し無くてはならぬものである。

二、價値標準の認識的實在の探究

然し發生的に、傾向的に、心理的に、價値論的に、規範科學的に經濟學を研究するに當つて、之を唯物史觀的に、實在論的に感覺によつて客觀的確實性が得られる樣に考へると、問題は無いのであるが、心理生活と經濟生活の反應とか、價値の標準とか傾向とか云ひ出すとそこに價値標準の認識的實在の基礎を要求せられる樣になるのである。

卽ち私の樣に心理的經濟史觀を組立てゝ見ると、私の心理生活に於ける心とはどんな實在的意義を持つて居るか、その心が經濟生活を送ると云ふことは實在とはどんな關係があるか、善い品物だから價が高いと云ふのは人間生活には實在的意義が無いものでは無いかと云ふ樣な種々の質問を受けるのである。それで私は質問に對して、價値の實在

的意義を論じて答へ無ければならぬ。たゞ不幸にしてこの論文には各種の説明が省略せられるから、徹底し無い所が出來るかも知れぬがそれは後日に論ずることとして玆には許して戴かねばならぬ。

三、實在の世界と存在の世界

新實在論者の驍將でベルトランド、ラッセルと共に有名である、メルヴヰン Melvin はその著『形而上學初歩』("A First Book in Metaphisics") に『事實とは何ぞや？』と云ふ問に對してこんなことを云ふて居る。——

『知覺は我等に究極の保證を與へるものである、それは我等が正しい時にも謬つて居る時にも告げてくれる。それは或ものが斯くあり、他のものが斯くあらずと云つてくれる。つまり、それは我等が眞なりと知る凡てのことを云つてくれる。之によつて、使ひ慣れて居る言葉に學術的意味が與へられる。それで『事實』と云ふ言葉には知覺上の眞があることを意味するとして居る。で、事實は假説に反對して居る。と云ふのは、假説は常に推測或は推測から來る部分的推論である。然し『事實は』それ自身眞である。』

"Perception gives us our ultimate warrant, It tells us when we are right and when we are wrong-It tells us that some things are thus and that other things are not. In short it tells us all that we know to be true' This enables us to give a technical meaning to a familiar word. Henceforth we shall always mean by the word Fact a perceived truth. Fact then is opposed to theory, for theory is always a guess or an inference in part from guesses Facts are as such true ("A First Book in Metaphysics, P. 35.)

リール Riehl も認識的實在論者を説いてメルヴヰンによく似た樣なことを云ふて居る『吾々の經驗の中に與へられたる事物は凡て、それ自らとして見れば、意識内容にすぎないやうな要素に分解せられる。然しかやうな誰でも同意のできる、事實の『主觀性』といふ事は僅かに事實の認識可能性に限られ、其實在にまで、押し及ぼす事は許されな

い。何となれば、事實からあらゆる屬性とその結合の様式とを盡く除き去つても、猶事實の存在そのものが常に殘存する。故に吾人は『客觀の實在』と其『客觀實在』とを截別せねばならぬ』（Riehl: Der philosophische Kritizismus II. 2. S）即ち二人の立派な實在論者は客觀に實在性を求めるが爲めに、あせつて居るので有る。

然しこの際注意し無くてはならぬことは、存在と實在の區別である。メルヴキンにしても、リールが云ふ樣に知覺の世界が直に實在の世界であるとしても、それが自己の知覺を離れて存在し無いことはよく判つて居ることであるから、自己の知覺の能力が變化するに從つて、その知覺する世界が變化するものであることは認めねばならぬと思ふのである。この點に關しては、リッケルトなどが立派に論據してくれて居るから私はこれを、くど〳〵しく繰返すまいと思ふ。（リッケルト『認識の對象』内山得三譯一五一—五二參照）

最近に於てもアインスタインの相對律論が物理學に現れた樣に、人間の知覺と云ふものは存在のレコードを記載することは出來るがそれが決して實在では無いのである。關係せる位置を換へて行けば色々とその形象を變化する存在である。

それで色々と六ケ敷いことも云ひ得るが直觀の世界、先驗的世界 A world of a priori は自我を離れて存在し得ないのである。

即ちデカルトが『我思ふ故に、我在り』と云つた言葉の中には、少し急ぎ過ぎた所が無いでは無いけれどもカントもロッチエも、ヴントも、この『我』を出發點とし無ければ認識の世界に浮び出ることは不可能で有つたのだ。それで實在の本體を第一に尋ねるならば『我生く』と云ふ直觀の世界が最も早いのである。

私がこんなに結論を前につけることに就て、論理學を八釜敷云ふ人々は科學的で無いと云はれるかも知れぬ。然し

結論を長く引張る爲めならば リッケルトや、コーヘンや、ナトルプを參照してそれに、ロッチエやヴントやバウンなどの自我中心の心理的形而上學や認識論を附加すれば善いのであるけれども、私のこの論文は經濟史觀の認識的價値を論じて居るのであるから、その過程を省略せざるを得ないのである。

卽ち認識の基礎となる可き出發點は『我』である。その『我』は知覺と直觀と思考と概念を內容として實在して居るものである。卽ち客觀界の事象は凡て存在であるが『我』はその存在を內容として實在の世界に安住して居ることは直觀がそれを指示するのである。

四、『我』の成長と範疇の進化

さてこの『我』と云ふ先天性範疇が『物』と云ふ客觀界と相峙して居ることは凡ての哲學の認める所である。さてこの『我』と『物』との關係が認識と云ふもので結ばれるのであるが、何故認識と云ふ綱が入るかが問題の中心である。

ここにベルグソンは時間上の純粹持續を持つて來た。卽ちカントは『物自爾』の認識は不可知であるが、主情意生活の價値の絕對性に先驗的超越性を發見するとして超越的批評哲學に引籠つたのであるが、ベルグソンは時間の經驗はカントの云ふ樣な實在認識に常に遲刻する概念と範疇とを漉して後に接近す可きものでは無くして、時間の上に轉ろんで居るもの卽ち實在の本體であるとしたのである。

卽ちベルグソンによれば、客觀に對する叡智的認識は、實在の附錄で有つて、直入直觀の『我』の經驗が時間の上に成長して行くのが、實在の本質であるとして居るのである。

然しベルグソンの樣に云ふても客觀がなぜ有るか、或は何故出來たかと云ふ形而上的な問題は認識的に解くことは出來ないのである。

が、客觀と主觀の對立は與へられた事實である。之は時間の純粹經驗が認識的事實である如く、我等に取つては直觀的事實である。そして客觀の世界は空間と云ふ一つの軸しか無いが、主觀の世界には空間と時間と云ふ二つの軸があることを直覺するのである。そして客觀の世界から主觀の世界へ越すには必ず認識と云ふ綱によらねばならぬ、また主觀の世界から客觀の世界へ渡るにしても同樣である。卽ち認識は一個の約束として與へられてあるのである。もし客觀の世界を經驗するにも時間の軸を通じての主觀を直觀する樣なものであればと思ふけれどもそれは許され無い卽ち客觀に向つての認識は各種の範疇で束縛せられて居ることに氣がつくのである。

それでもしも範疇が進化するならば、今日の我等の認識して居る客觀界と全く違つたものが與へられるであらうと思ふのである。殊に實在の直觀が時間の形式で與へられるものであるから、客觀の認識に對しても成長が有るのである。卽ち範疇の進化が認識上に於ける事實である。卽ちカントが考へたが如き範疇の固定化とアンチノミーを溶かして、範疇が進化することを見るのである。

カントであると、範疇の四型十二則と云ふものは固定して動かぬものである。之が客觀に於ける物自爾を認識させてくれない、アンチノミーの世界を織り出す縱絲であるとするのである。卽ちその範疇は次の樣なものである。

範疇の表

一、量に關するもの

統一性

複數性

全體性

二、質に關するもの

實在性
否定性
限定性

三、相待關係に關するもの
實體と附屬性（Substantia et accidens）
因果律
相互的關係（主從の相互性の如き）

四、形態に關して
可能――不可能
存在――非存在
必然――偶　然

卽ちカントはこの範疇に縛られて認識が二進も三進も動かないと考へたものである。然し範疇と云ふものは固定したものでは無くして、我の成長（卽ち時間的持續）の中に變化して行くものである。と云ふわけは我の時間的持續の中に經驗して行くもののみが實在性を持つて居るのであるが、凡ての範疇なるものも、我が空間的に經驗した事象の時間的綜合に對する或規約に過ぎ無いものである。それで『我』が時間的に爆發して新しい經驗と創造を急ぐ時には過去の範疇より進化した形式のものが現はれるのである。卽ち過去の經驗の世界に對する範疇は『現在』と時間を通過するだけ、それだけ進化に遲れて居るのである。

それで範疇とは過去及現在の認識事體を整理する約束と道具で有るが、現在の我は更に新しき經驗の中にその道具

を新しく作ら無いとも限ら無いのである。(或は新しい道具を與へられ無いとも限ら無いのである。)

かく認識は過去に向つては歴史的性質を帶び現在及未來に向つては、我の創造性を待つものである。そしてその歴史性は記憶として祕藏せられ、創造性は自由意志として空間の世界に爆發するのである。

五、認識に於ける經濟行爲

ベルグソンが直觀の世界を重じて慧智の世界を墮落した世界だと名付けたのは謬つてゐるのである。その直觀が空間に對する直觀で有り得たならば、人間は認識と稱す可き潜り戸を通過せずして絶對の實在に同化し得たで有らうが、人間は不幸にして相對的實在の世界に捨てられて、辛じて時間の中に呼吸する、我の純粋持續の經驗を通じて、時間の上に轉ぶ實在と云ふものを經驗したのである。そしてこの小さき『我』の經驗から、大きな謎の如く捨てられた、客觀の世界に主觀内容として知覺せられる客觀的存在卽ち『物』の本體（Ding an Sich）の發掘に使はされるのである。

そこで、この小さい第一の實在である『我』それは、時間の上に延び無くてはならぬ『我』が、約束の實在卽ち、空間に形を張つた姿になつて居る『物』の本體を發掘するのには工夫が入る。それが直觀で與へられ無くて、或與へられた感官を通じて來る以上、一層工夫が入る。それで認識はどうしても、主觀的經濟を脳の中でせねばならぬことになるのである。それが、主觀には形象として客觀が寫る理由である。卽ち客觀的認識とは、この經濟そのものを云ふのである。

然しかう云つたからと云ふて私は、客觀が存在せぬものだと云ふのでは無い。客觀的存在は『我』に向つては相對的意義内容として與へられ、『我』は第一の實在として時間と空間に延び上る『實在』を直觀し、約束の實在として、『物』と云ふものを認識するので有つて、客觀がその本體——我が我を經驗する如きもの——を主觀に啓示するには

今の處では絕望で有るらしく感ぜられる。然しそれは我が成長し無いものでは無いから……範疇を飛び越へて我は成長しつゝあるものだから……何時どんな風に、客觀の世界をも『我』の本體に吸收し得ないとも限らぬと私は繰返し述べた。然し今の處では、第一實在と第一の實在の意義內容とをなす第二の實在(物)との間には共通の軸があると共に共通ならざる軸(時間)がある爲めに知覺による外直觀の形を取つて吸收することは不可能であるのだ。

然し、人間は不思議な實在として置かれ、直觀の及ばざる世界をも慧知の力を以つて探檢せねばならぬことになつて居る。その爲めに限られた『我』と云ふ袋の中へ客觀認識の最も實際に近きものをのみ貯へる爲めに、眞理と云ふものが發生したのである。卽ち客觀的眞理は此意味に於て、全く自由意志の產物で有り、價値で有り、世界の再構成である、否新しき創造である。卽ちベルグソンが自由意志を認定し乍ら、本能と直觀を重じて、慧知を排斥したのは全く此點に於て失敗で有ると考へざるを得ないのである。

たとへば『私は此處に机が動かずに有る』と云ふことを眼によつて知覺するとする。之は『事實』で有るとメルヴヰンもリールも凡ての實在派の哲學者は云ふであらう。私もそれが相待的『事實』で有ることを否定しない。然しそれは外の眼が机と相對して置かれた場合の相對的關係の事實で有つて、それは本質的の事實では無い。机の中の原子は光の速度を持つて廻つて居るので、物質程大速力を以つて活動して居るものは無いと云ふことを最近の物理學は敎へてくれた。それで、私は之を本質的に書くと『私は此處に、最大速力で動いて居る物質で造つた机が、動かずに有る樣な心理的關係に、私がおかれて居る』と訂正し無ければならぬ。

今日まで、物質と云へば、全く固定した動かぬものと考へて居て、ベルグソンなどが、之を爆發するのが自由意志を所持する時間の上に延び上るものゝ任務であると云ふて居たが、之も要するに誤謬であることがわかつた。物質程活動して居るものは無いのである。卽ち、空間は活動と爆發で充されて居るのである。それを人間の認識のパイプが

不完全な爲めに、今日まで靜止した形で吸收されて居たのである、之が認識の經濟的方面である、又同時に創造的方面である、それで私はベルグソンの樣に知慧を宇宙進化の本流より墮落したものだとは考へない。正統な發生的意義あるものだとしたいのである。

六、認識に於ける自由意志と必然の關係

そこで考へねばならぬのはこの客觀的認識の基礎をなす、自由意志に就てゞある。自由意志の發生を生物的に考へると色々と面白いことに出會すのであるがそれは此處で論ずることが出來ない。たゞ之を認識論と關係して考へると自由意志の無い世界は客觀に對する眞理と云ふものが無い世界である。撰擇の無い世界は必然の世界で有つて、それは直觀の世界で有り得るけれども、客觀界の經濟的知識は全く得られ無いのである。それで、もし自由意志なくして客觀の事象が感ぜられるにしても、それは必然の關係として現はれ、その經驗は二つ以上の經驗の誤謬と眞理との區別が出來ない。卽ち馬と牛との區別は出來ない。馬は馬として經驗し、牛は牛として經驗し、その間に連絡が出來ない筈である。卽ち人間が相對的世界に適應する爲めに生れて居ると云ふ事はこの必然的關係を離れて、獨立した實在(相待的に)として、他の實體をも自己と關係した範圍内に於て經驗し得る爲めに、自由意志を通じての正誤取捨をなし得る點にあるのである。

そして自由意志を通じて、客觀的存在が我に攝取された場合に、客觀的存在は、我の內在的內容として復活するのであるが、この場合にはそれは既に一個の價値として復活したものであることは先に論じた議論によつてよく理解せられたことと思ふ。

卽ち、實在としての直觀は『我』が出發點で有つて、我の內容は自由意志を通じての價値の世界である。此處に於て、價値の世界卽ち實在の世界である。卽ち我を通じて示現せられた小宇宙の體系は、價値の創造の爲めの我の成長

であると云ふことに凡ての眞理が盡きることになるのである。卽ち此處に至つて、自我の主情意生活と認識生活が全く同一軌道を歩んで居るもので有つて、主情意生活の內容は全く直觀と理知によつて與へられるもので有ると云ふことが、云ひ得ることになるので有る。

卽ち意識內容を構成する必然の現象として認識されるものは、主觀的實在の直觀と同時に必要にして缺ぐ可らざる實在の形體を持つて、時間の中に進展する存在として認識せらる。

然しこの必然の現象と云へども、それが主觀を構成する自由意志と交渉が無いものでは無い。與へられた相對的實在（主觀に於て直觀する）に於ては、實在の世界と價値の世界は全く相溶け合ふて居るのである。自由意志が直觀の我の基礎であり、自由意志によつて、認識の內容が、必然を通じて生理的に知覺せられた物質の世界より撰擇せられるのである。そしてその認識の內容が構成された時に更に、自由意志はそのものより、價値を吸收する。

その最も善き一例は或男と私が會話する場合である。私はその男を求めて會ふ。そして、物理的必然の光線と音響を通じて、彼の云ふ處を腦に印して、その後彼の云ふ處の價値の生活を批判するのである、卽ち此場合、實在は價値そのもので有つて、價値は實在そのもので有るのだ。

七、實在卽價値　價値卽實在
——因果律の否定——

認識の世界に於ては、實在は卽ち價値の世界で有つて、價値は卽ち實在の世界で有ることが、以上の認識で、よくわかつたことと思ふ。

たとへば因果律と稱うなるものが古來唱へられて居る。そして、それは必然の世界の認識から來た樣に云ふけれどもその必然の世界の法則は、價値を基礎とする『我』が認識したものである以上、所謂必然の因果律で有り得ないので

ある。それは一個の價値律である。原因と結果の認識は自由意志の範圍内に於てのみ、實驗として研究せられるけれども、自由意志を離れて嘗て原因、結果が認識されたことが無い處を見ると、原因と結果は、『酸素と水素が化合して水になる』と人間の價値の世界へ寫つたので、今の條件の外の世界では保證する限りでは無い。之は勢力不滅の法則や、物質不滅の法則が因果律から演繹した爲めに、新しき物理學では否定されて居る理由である。即ち勢力も無くなるだらうし、物質も消滅して了ふであらう、それはラヂウム物理學から新しく歸納されたことである。

價値の世界では價値の無から、價値の有が發生する。之は因果律では許され無いことである。有から有が常に發生すると云ふのが因果律である。それで凡てが必然である。引力によつて落下することがあるけれども、引力に反抗して石が天へ飛ぶと云ふ意志の作用は不可能なことに屬する。然るに實際に於て天へ飛ぶ。即ち因果律は進化律と相容れ無いものである。進化論では、無から有が生じ無いと云ふて出來た實說であるけれども生物の價値生活から云へば、猿から人間が產れたと云ふことは、無から有が出來たのである。進化であると共に、一種の創造である。

因果律は、二個の客觀的實在ＡとＢが有つた場合ＡがＢから出來たことを證明せん場合、ＡがＡだと證明するもので有つて、酸素と水素が化合して、水が出來た場合、水は全く新しい條件と、或一定の時間の後に生れたものであることを思ふ時、水としては酸素と水素に無かつた性質を持つて居るものであることを認めねばならぬ。即ちそれは時間的に云へば、先に無かつたものが新しく出來たもので有つて、それは必しも原因と結果として云ふことの出來ない。何か新しいものが加はつて居るのである。即ち時間的に考へると、因果律はこの後どんなものが出てくるか知ら無いものを指して居るものであることを告白せねばならぬ。即ち因果律の代りに、現代では進化論が重ぜられる理由である。進化律は時間的に變移を說くこと因果律と同じであるけれども、之は價値の世界を說く爲めに、因果律の樣に無理をしない。無から有が出來ることも信じ得るのである。もし世界が固定して居つて動かぬものとすれば因果律

で結構で有るが、その實在性が主觀の中に價値として認識される樣なものだとすればたゞ因果律だけではすまないのである。どうしても進化律の形を取るのである。卽ち實在と價値とを離して考へることが出來ないのである。

八、認識的價値の絶對性

そこで問題になるのは、價値の標準で有る。絶對的價値の標準卽ち絶對の樣なものが有り得るか否かの問題で有る。實在論の方から行けば、之は存在し得るものが最も大なる價値で有つて、ダァウキンがそこを取り眞違へて『生存競爭』卽ち、動物は存在の爲めのみに競爭して居るのであると考へ、美への進化をもこの生存の爲めの犧牲にして了つたものである。卽ち實在に最も近きものが認識に於て價値が有るものだとして、實在論に於ては取り扱はれるのである。卽ち認識的生存競爭が、實在論的では最も價値のあるものと考へられるのはこの理由である。

然し價値の無き實在卽ち、○の如き實在がいくら續いてもそれは價値の本質をなすものでは無い。價値の無い實在の想例出來ないのは、實在は『我』と云ふ價値卽實在の直觀を離れて考へられ無いからである。たとへばまた價値の標準を空間の擴がる『無限』の樣なものだとする。それでもそれは無意味なもので有つて、空間に擴がる空間と云ふものも、價値で經驗する絶對性を時間的に引き延べたものを空間的に適合させたものにしか過ぎ無いものである。

卽ち客觀的實在のみに價値を求めることは全く誤つて居る。卽ち價値の標準は、認識的に云ふてどうしても、主觀性の中に求めざるを得ない。

然し主觀性の價値の判定の中にはカントが無上命令だと考へまた、ヴントも、バウンも、ラウドも、ロッチエも超越的絶對性が含まれて居ると考へた如く、それが主觀的の價値判斷ではあるけれども、價値に於ては、絶對性のもので無ければならぬと云ふ性質を帶びて居るのである。

たとへば『私が生きて居る』と云ふことは、主觀的のものであるには違ゐないが、之は絕對的のものである。其の理由は、第二の判斷が許され無いからである。その外、私が食ふにしても、呑むにして、着るにして、凡て意志行動に對しては、その價値の認識的判定は絕對的のもので有る。卽ち此處に認識價値には凡て絕對性が有るものであることを知るのである。

卽ち『絕對』の形は實在的には與へられずして、今日の人類に向つては、價値の形で與へられて居るのである。それで、凡ての認識的價値は主情意生活に取り入れられた時に初めて絕對性を生ずることになる。またそれと反對に主情意生活も認識的價値の評價が無ければ、絕對性を所有し無いのである

九、價値の實在標準

認識の標準が價値的に與へられるもので有ると理解された以上、凡ての主觀的認識價値が主情意生活の絕對的方面に標準を求めて行かんとすることは當然である。然し之は必しもプログマチズムの樣に眞理を功利的のものと見る必要は無い。延ひ上り、成長せんとする――範疇の進化も時間的直觀も入れて――その實在的の自我の生命の中に、自己が相對と意識する絕對的批評の中に、『我』に屬せざるも超越性を價値的に認識するのはプログマチズムに無い分子である。卽ちこの絕對性は價値的であると共に實在的のものである。

で、凡ての價値の生活は主觀の經驗は、この形式を以つて與へられる。卽ち、自我の成長は進化律を自然法として價値の批判に輸入せしむると共に、それは絕對性に常に保證されつゝ進むのである。

卽ち、自我の成長は、實在的價値に生きつゝ、絕對の自由卽ち價値のみの世界に生きんことを努力して勉めて居る卽ち自由意志によつて、無より有の價値の創造生活に入らんことを要求して居る。

之が、絕對が二通になつて見える理由である。一つは認識價値の保證としての絕對性と他は主情意的生活の價値の

絕對である。前者は絕對が價値にのぞいた形で、後のものは時間上の價値が絕對に向つて居る形である。之の二つを連續させたものが自我である。卽ち自我が自らを創造したもので無いから相待的關係の中に絕對を價値の上に認識し自我が價値の創造の途上にあることを自覺する爲めに、目的としての絕對を價値の上に欲求するのである。そしてこの過程は自我の創造的進化である。

十、經濟行爲の實在的價値

この自我の成長進化によつて、實在までも創造せんとする價値生活の欲求が起る。そして之が經濟價値を主觀化し、人格化して、その歷史的進化によつて、唯心的經濟史觀を畫く理由である。それで唯心的經濟史觀は、自我の實在的價値生活の認識的立場より見れば、二樣に考へられる。

(一)食物攝取によつて自我を養ふて居る實在的方面

(二)自我が外界を支配して經濟的價値を創造せんとし外界を凡て自我の價値表象で充さんとして居る價値的方面

然し實際は、實在的方面と價値的方面は、私が先に論じて來た處によつてもわかる通り認識的には全く一つで有るのだ――生理的知覺に於ては違つて居るが。

卽ち自我の生活は食物が作つたのでは無く、自我の生活が有るから食物を攝取することによつて、自我が生き得る價値生活が發生し、その生き得た自我が更に食物を創造することによつて否、寧ろ食物と云ふ或一定の條件を發見することによつて、無より有の價値を創造し得る、價値的實在の世界を創造するのである。

かく見ることに依つて、經濟生活は徐々に自我を解放する價値進化の運動史であることを知るのである。で、それは生存競爭のみを目的とする、ダアヴヰン的生物經濟の實在論と違つて、自我完成の觀念的實在價値から發生する認識によつて進む可きものである。

十一、唯心的實在論の立場と認識的基礎

即ち、私は『自我』を實在とすることによつて唯心的實在論者で有つて、自我の意識内容を構成する故を以つて客觀世界を自我と間に相待的實在性（即存在）のあるものとして、客觀界を認めることに於て、絶對的唯心論者では無い。價値を認識の基點とする處に於てプログマチストであるが、プログマチズムの如く、相對的價値に滿足せずして絶對價値を認識價値に移入する點に於て、ブトグマチズムと分離し　客觀に實在性を與へざる點はカントに近く、その範疇の絶對を否定して、時間の純粹持續の上に直觀を見る所はベルグソンに接近し、慧知を以つて、客觀と接近する價値生活に必要にして缺ぐ可からざるものであると認むる點に於てベルグソンに反對し、實在即價値の人格的實在論を主張するものであるが、それが人格的である故に、唯心的實在論（Idealistic realism）と云ふのである。

この見地よりして人格性の墮落を意味する經濟行爲の諸型（資本主義、マルキシズム）等は凡て退化に導くものであると排斥し、その經濟史觀を自我の認識的價値發生史と同一軌道の上に置くのである。即ち認識も一個の價値の創造の經濟行爲である故に、自我の經濟的意志行爲も自我が絶對的價値即絶對自由に到る爲めに認識行爲と同じ軌道を取つて走りつゝあることを認めるのである。

即ち唯心的經濟史觀はその認識の經濟的行爲に信賴し認識の基礎を、絶對をその價値批判の中に啓示する「我　の時間的進化の中に置くのである。（十一月七日）

普通選擧史論

(序論一)

室伏高信

ユートピアン社會主義がブルジョア階級の創造的才能の間に生れたごとくに、普通選擧運動もまたその最初の形においては、ブルジョアの創造的才能のうちに生れたものである。ユートピアン普通選擧運動と名づくべきものがこれである。この意味においての普通選擧運動は産業革命に先つてゐる。それは勞働階級の成立に無關係にして生れ出でてゐるものである。その起原は、私の知りえられる範圍においては遠く十七世紀の中半、レヴエラァス運動のうちに生れたものである。(1) レヴエラァス Levellers (2) 運動と稱せられるものは最初は宗教運動である。卽ち長老教會派 Presbyterians に對する獨立派 Independents の運動として生れたものである。その運動は一八四七年に起つた。しかし獨立派の宗教的デモクラシーの要求が長老教會派的國會によつて拒絕せらるゝに至るとともに、それは議會と王制との轉覆の運動と化した。軍隊は士官も兵卒もみな獨立派の側にと同情を捧げた。その軍隊の力によつて獨立派の運動は政治革命運動を導くに至つたのである。さうしてこの軍權的レヂームの終息において殘されたものは自然的權利(天賦人權)の思想である。エドワーヅはその Gangroena のうちで英國の法律と習慣とが、『アダムと正しき理由とから享けた自然的權利のために主張する』ことを指摘してゐるのである。その自然的權利は、生命、自由、財產、良心及び表現の自由の權利並に政治的特權の平等の觀念を包含してゐるものであり、この平等論は直に政治上におい

て成年選擧權 manhood suffrage の要求となるに至つてゐるのである。この要求の體現されたものが一六四七年の軍隊會議において作成された『人民の協約』The Agreemnt of the People である。——かくして普通選擧の要求は既に一六四七年において見ることができるのである。(3)

(1)、ギリシヤ及びローマの民主主義は奴隷に及ばなかつたものであり、從つて普通選擧なるものが存在したといふことはできない。(拙著『民本主義について』及び同『デモクラシー講話』各第一章參照)

(2)、Levellers とは『平等を主張する人々』の意味であり、獨立派の宗教運動に與へられた名前であつた。

(3)、Dunning, Political Theories (From Luther to Montesquieu). PP 234—40

序論 (二)

自然權の主張者のうちにあつては、普通選擧を要求したものが少くない。ルソウのごときはその最も代表的のものである。彼れに從へば絶對的政治上の平等は、政治的自由の必要條件である。凡ての人々は投票權をもたなくてはならぬ。その投票權は平等のものでなくてはならぬ。ルソウはこう主張してゐるのである。ルソウの說は深くフランス革命に影響した。フランス革命の歷史的大記錄としての人權及び公民權宣言においては、人の權利は生れながらにして平等であることを宣言するに至つてゐるのである。しかし一七九一年のフランス共和國憲法において普通選擧を採用するに至らなかつた。一七九三年の憲法においてはこの主義を採用するに至つてゐるが、その憲法は一回も實施せらるゝに至つてはゐない。かくしてフランスにおける自然權說は一面においてルソウのごとき普通選擧論者を生み出してゐるにもかゝわらず、普通選擧は勞働階級の勃興するに至るまでは一部の急進論者の間に主張されたに過ぎなかつたものである。英國においてはレヴエラアスの運動以來久しく普通選擧の要求の聲を聽くことができなかつたが、一七七四年に至つてスタンホープは自然權の立場から普通選擧を主張するに至つてゐる。その翌々年の一七七六年は、

カアトライトが普通選擧論を發表した年である。彼れはその著書(1)のうちで次のように述べてゐる。

『自由は凡ての人類に對する神の賦與である。……市井の掃除夫は、貴族がその冠に對してもつてゐる權利よりも、その投票に對してより正しき權利をもつてゐる。……何となれば貴族及び〇〇の權利は人間の法律から生れてゐるものであるに對し、掃除夫の權利は神の法律から生れてゐるものであるからである』

カアトライトの主張もまた自然權説から生れてゐるものであることを知るのである。カアトライトの主張は英國におけるその當時の政治家の間に多くの影響を見出すことができる。『立憲協會』のごとき『ホイッグ倶樂部』のごとき『民友協會』のごときは、爭ふてルソウや百科辭典派の説を受入れるといふの有樣であつた。(2) 一七八〇年には、リッチモンド侯によつて『普通選擧及び年議會』法案 A bill for Universal Suffrage and Annual Parliament が提出せられた。その同じ年にホイッグ黨の指導著としてのチャーレス・ヂエームス・フォックスもまたチャーチスト運動の『六ヶ條』に等しき六ヶ條の改革案を提唱するに至つたために、カアトライトの主張は實際政治家の間に着々その勢力を占めるに至つたのである。『立憲報告協會』のごときもまたカアトライトの側にと立つた。(3) かくして普通選擧論は一七八〇年代において英國における所有階級の政治家の間に勢力を占めるに至つたのであるが、その運動は政府の代表者としてのノース卿とホイッグ黨の代表者としてのフォックスとの間に聯立の協議の成立するととも自然に實際政治家の間に勢力を失うこととなつた。當時、英國政界のスターとしてのウヰリアム・ピットは普通選擧の敵であつた。彼れの競爭者としてのエドマンド・バークもまた普通選擧の反對者であつた。(4) フランス革命は英國の政界に對してはたゞ反動的の傾向を導いたに過ぎなかつたのである。(5) 就中バークはフランス革命について一書(6)を著し、革命フランスに對し、並にその革命の主義に對して猛烈な攻撃を加へてゐる。彼れのフランス革命論は權力階級の間に非常な影響を與へるに至つた。政治的勢力としての普通選擧運動はこゝに一頓挫を來すのほかはなかつたのである。

しかし他の一面においては、權力階級の反動的行動は、また急進主義の間における反對活動の原因ともならずにはゐなかつた。バークのフランス革命論に對してトーマス・ペーンは有名なる「人間の權利」(7)を著した。熱心なる改革主義者の團體としての『ロンドン通信協會』は靴製造人としてのトーマス・ハアデエによつて發見せられた。その協會は最初は四人の人によつて企てられ、第一回の創立會においては集まるものが僅に九人であつた。しかしリッチモンド侯の援助のもとに次第にその勢力を擴大し、忽ちにして英國における急進派の最大團體となるに至つてゐる。英國政府はこれに對して常に強き壓迫を加へた。一七九三年のフランスに對する英國の戰はヂャコビン主義に對するものであるとされてゐる。外にフランスのヂャコビン主義と戰ふ英國の權力階級が内において急進主義者を迫害することは素より自然の結果でなくてはならない。著名なる人物リッチウエーは單にトーマス・ペーンの『人間の權利』を販賣したといふの理由によつて四ヶ年の禁獄と二百磅の罰金に處せられた。凡ての改革論者は或は獄に投ぜられ、或は脅迫せられ、凡ての改革のための集會は禁止せられ、凡ての改革團體は解散を命ぜられた。さうして爾來約二十年の間は、權力階級が、その權力慾を恣いまゝにすることのできた二十年であつた。

(1)、Major John Cartwright, Legislative Rights of the Commonality Vindicated, 1776

(2)、Frank F. Rosenblatt, The Chartist Movement, P. 23

(3)、立憲報告協會にはリッチモンド侯を初めとしてベッドフォード侯、ダアビイ伯、エフキンガム伯、セルカアク伯、マウントノリス卿なぞの貴族が加はつてゐた。

(4)、バークは人民を罵しつて『豚のような群集（スワニッシ・マルチチユード）』といつてゐる。

(5)、ベルトラシド・ラッセルは英國の歴史上における最惡事の一つが革命フランスに反對したことであると述べてゐる（社會改造の原理、第三章）

(6)、Edmund Burk, Reflections on the French Revolution, 1790

(7)、Thomas Paine, The Rights of Man

序論(三)

以上のやうな次第で普通選擧論または普通選擧運動は既に十七世紀に存在し、十八世紀においては、フランス及び英國において有力なる政治上の運動としての記錄をもつてゐる。それの理論的根據は自然權說である。人は生れながらにして權利を有するものであるとするの主張は、またその急進論者によつて普通選擧論と結合せらるべき自然の論理的交渉をもつてゐた。しかし自然權說が必然的に普通選擧論に結合せらるべきものであると考へることは大なる誤謬である。自然權說は單なる空想または學問的研究として生れたものではなくして、その時代においての經濟生活の反影である。卽ち中世都市生活における所有階級の發生は、この自然權說と切り離して考へらるべきものではなくして、必然的に所有階級の哲學として運命づけられてゐるものである。それは決して單なる人權論ではなくして、その個人的自由は、財產の自由、契約の自由において最も著しい特質を見るのである。ルソウのごときでさへ財產の自由を力說してゐるのである。その結果は所有階級の哲學となることは自然の論理であり、それか政治上に代表せられる時に、普通選擧の要求として現はるゝこと極めて少くなくして、主として所有階級のための制限選擧、財產選擧の要求として現はれてゐることは素より當然でなくてはならない。各國の實際政治の歷史はこの事實を證據立てゝゐるのである。この間にあつて、急進的傾向と人道的愛情と想像的興味とをもつてゐた政治家または思想家の一派は、そのブルジョア哲學の間から普通選擧の空想を生み出すに至つてゐるのであることは前に述べたとほりである。しかしそれはたゞユートピアンであつた。彼等は普通選擧への合理的根據を有することなくして普通選擧を主張した。彼等は普通選擧への組織的勢力をもつことなくして普通選擧を主張した。彼等の普通選擧論とはたゞブルジョア階級の空想

的遊戯であつたに過ぎないのである。從つてこれ等の時代においての普通選擧論なるものは、普通選擧史上において多くの價値をもつてゐるものではない。たゞ先驅者としての興味の原因となるに過ぎないものである。

普通選擧史上において、最も價値ある運動は第一には英國におけるチャーチスト運動である。第二は一八四八年二月革命を中心とするヨオロッパ大陸においての普通選擧運動である。

（一）

英國における最初の第四階級運動としてのチャーチスト運動（Chartist Movement）は一八三二年の選擧法改正とともに起つたものである。(1) 一八三二年の選擧法改正は、英國憲政史上における第一回の選擧法改正である。この意味においても一八三二年の選擧法改正は重要視せられてゐるのであるが、それの歴史的價値は、それが所有階級の勃興とその政治的膨張とを意味してゐるの點にある。その選擧法改正のチャムピオンと稱せられた人はロード・ジョン・ラッセルである。(2) 彼れはこの改革が英國において『最後の改革』であることを主張した。その言葉によつても知られるとほり、この改革は決して普通選擧への道程ではなくして、普通選擧の原理の否定においての選擧區の改正、さうして選擧權の擴張である。即ち所有階級の勃興に對して、政治上の權利と分配とを擴大したものが一八三二年の選擧法改正の眼目であつたといふことができる。(3) ブロンテーアの『國民改革者』はこの改正選擧法の性質を明らかにして次のように述べてゐる。

『改革法案を作つた人々は決して愚者ではなかつた。……ホイッグ黨は見た、さうして中等階級も見た、この改革の結果が貧困(パバティ)に反對して凡ての財産(プロパアティ)を結合するであらうといふことを』(4)

即ちブロンテーアに從へば、一八三二年の選擧法改正は第四階級の迫害においての所有階級のための結合を意味して

ゐるものにほかならないとせられてゐるのである。このブロンテーアの言葉は、よくこの一八三二年の選擧法攻正の精神を代表したものである。ギルバート・スレーターの計算に從へば、この選擧法攻正の結果は、勞働階級においての有權者の割合を減じたとのことである。[5] こゝにおいてかこの改正の結果は、新らたに勃興したる都市、さうして多くの所有階級の新特權者の歡迎するところとなるに至つたことは自然の結果である。チャーチスト派のハント[6]がこれ等の階級の人々からデマゴーグとして遇せられてゐた時に、『改革のヒーロー』としてのロード・ジョン・ラッセルの名は彼等の間に深き人氣をもつて迎へられた。しかしラッセルの名が所有階級の間に人氣をもつて迎へられゝばられるほど、それは無所有階級においての不人氣とならざるをえなかつた。その改革は所有階級のためには政治的分配の擴大であり、ブロンテーアの言葉のごとくそれは所有階級を結合するものであり、もつと特徴的にいへば、それは所有階級の政治的覇權を陰謀し、主張し、樹立し、支持するものである。階級的自覺の第一步へと步るいてゐた英國の勞働階級は、彼等の間に階級的闘爭のアヂテーションを反響するのに、既に機會が一步々々近づき來りつゝあるを見た。彼等の指導者はこの心理に訴へた。一八三二年の改正選擧法に對する勞働階級の不滿は彼等の階級的自覺を誘つた。彼等の階級的自覺は、先づ一八三二年の改正選擧法に對する不滿としてその歷史的運動の第一步を進めた。勞働階級急進主義者の機關としての Poor Mar' s Guardian は、この選擧法の改正が、土地所有者、商人、製造業者の勢力を擴張するに過ぎないものであり、さうして『最も專制的な、最も不名譽な、極惡な手段』であることを論じてゐる。[7] 勞働階級國民組合もまたこの法案を罵しつて次のように宣言してゐる。それは『人民を欺き、勞働階級の條件をよりよくすべき何等の方法をも含むではゐない』[8]と。ハントはこれをもつて『貧民を束縛する制度であり、また貧民に對する攻戰である』といつてゐる。こうして一八三二年の改正案に對する非難は擴大してゆくばかりであつた。その結果はまたこの改正の指導者としてのホイッグ黨に對する批難となつた。チャーチストの機關紙はホイッグ黨をも

て『政治的誤魔化し屋』Political shuffler であると罵つた。更に暴君であり、狡猾であり、偽善者であると罵つた。あらゆる非難の聲がホイッグ黨に向つて與へられた。コブデンのごとき、ブライトのごとき、ヒュームのごとき、ロウバックのごとき、またはロード・ブロウハムのごとき、みな所有階級の間に『自由のための戰士』として迎えられればられるほど、却つて職人階級、勞働階級の間には不人氣によつて遇せられなくてはならなかつた。(9) 繰返していへば、一八三二年の選擧法改正は所有階級のための改革としてその階級の人氣をもつて迎えられたとは反對に、勞働階級、職人階級の間においては甚だしい不人氣をもつて遇せられた。その結果は勞働階級の階級的自覺を導いたばかりではなくして、更にその勞働階級を政治的に覺醒せしめることとなつた。チャーチスト運動がこれである。一八三二年以前において未だ嘗つて政治に的組織せられたことのなかつた英國の勞働階級がこゝに始めて政治運動に組織せられた。チャーチスト運動はかくして先づ一八三二年の選擧法改正の結果に不滿を抱ける勞働階級の政治運動として出發したのである。

(1)、スロッソンはそのチャーチスト研究のうちで一八三二年以前において英國の勞働者が政治團體を組織したことのないことを指摘してゐる (Preston william Slosson, The Decline of the Chartist Movement, P. 17)

(2)、ロード・ヂョン・ラッセルはベルトランド・ラッセルの祖父である。

(3)、一八三二年の選擧法改正の眼目は第一に選擧區の改正である。それは新に勃興した商工業都市のために政權を分割したものである。第二は選擧權の擴張である。その改正の結果郡部では四十志の年收ある土地所有權、コピーホールドまたは六十ケ年以上のリースホールドの名義をもつて年收十磅以上の土地の占有者、二十年以上六十年以下のリースホールドまたは普通の借地者で年收五十磅以上の土地の占有者に選擧權を與へ、市部においては一年の家賃十磅以上の家屋の占有者は家主も借家人もともに選擧權を與へられることとなつた。

(4)、Bronterre's National Reformer, Feb, 11 1837
(5)、Slosson, The Decline of Chartist Movement, P. 21
(6)、ハント (Henry Hunt, 1773—1835) はトーリーに屬してゐたが決闘罪のために入獄し、獄友に動かされてから急進主義者として終始することとなつた。一八一六年の暴動の指導者であり、その反對者からはデマゴーグと罵られたがその味方からは自由のチャムピオンと稱せられた。
(7)、Rosenblatt, The Chartist movement, P. 35
(8)、ibid, P. 38
(9)、Slossen, op.cit., P. 27

（二）

チャーチスト運動に刺激とさうして歴史的の意味とを與へた第二のものは『新貧困法』The New Poor Law であつた。『新貧困法』とは一六〇一年のエリザベス法に更へられたる一八三四年の法律である。エリザベス法による時は、治安判事及び教會委員は、老年、老弱者または一年標準以下の賃銀をうるに止まる勞働者の救濟のために、教區内の人民に課税することの權限をもつてゐたのであつたが、この法律の改正の結果は、一、戸内に住むものに對しては病氣または老年でない限り救貧をなさず、二、健全な體格の勞働者は工場において仕事に從事せしめ、三、數ヶの教區が一つの保護局のもとに組合を組織すべきこととなつたのである。その結果救貧をうくるものの數は減少し、一八三三年に救貧のための支出八百六十萬磅に達してゐたのに對し、一八三五年には五百五十二萬六千餘磅となり一八三六—三七年には四百〇四萬磅となつた。その結果所有階級の好評を博したのとは反對に、貧民の側に反對熱が盛んに興り特に工場に收容された勞働者の待遇が甚だ峻嚴であつたがために勞働者はこの工場を監獄のごとく嫌惡するといふ有

樣となり、その時代の政治が所有階級の政治であるといふ感情と意識とを深くするに至つたのである。アトウッド(1)はこの法律改正を批評して『ノルマン征服以來の如何なる手段よりも忌はしきものである』とさへ論じてゐる。ステフエンス(2)は一層激烈な言葉をもつて一八三六年一月、そのニユーカッスルの傍聽者に告げていふ『この法律が繼續されるよりは、寧ろニユカッスルを火焰と化し、この憎むべき方法の凡ての支持者を血にて洗ふに若かず』と。かくのごとくにして所有階級の政治に對する貧民不滿の聲はこの貧困法の改正によつて益々火の手を昂めてきた。一八三二年の選擧法改正によつて階級的政治的に意識してきた英國の勞働階級は、この一八三四年の新貧困法によつてここに階級的意識の第二の洗禮をうけることとなつたわけである。この英國勞働界においての、階級的政治的意識が、組織されたる運動として、こゝにチャーチスト運動となつたのである。(3)從つてチャーチスト運動はその性質において全く階級的運動である。政治的及び經濟的に新興の支配階級として威力を振ひつゝある第三階級に對する、政治的並に經濟的に壓迫され絞取されたる第四階級の階級的意識に根ざしたる新運動であつたのである。

(1)、アトウッド(Thomas Attwood)はバーミンガムの銀行家であつた。最初は自由の反對者であり、自由の叫びは血と無政府の要求であると論じたこともあつた。しかし一八二九年以後その態度を一變し自ら急進主義の改革家であることを宣言し、同年十二月に同志十四人とともに『バーミンガム政治團』を組織し、一八三二年には自由民のために戰つた。彼れは選擧の際に小供や婦人に接吻することによつて選擧民の同情をうることに努めた點において有名である。ある選擧の時には一選擧に八千人の婦人に接吻したといはれてゐる。彼れもまたチャーチスト運動の指導者の一人であつたが、オコンナアやコベットは彼れを非難してゐる。

(2)、ステフエンス(Joseph Raynor Stephens)は一八〇五年生れ、暴動の使徒として、ある時期にはオコンナアに並んでのチャーチスト運動の人氣者であつた。最初は牧師であつたが一八三四年に牧師の生活を擲つてチャーチスト運動に投じ新貧民法を攻擊して貧民側の喝采を博した。彼れは自ら急進家とは考へてゐない。彼れは自ら『火によつての革命家』『血によつて

の革命家』であると信じてゐた。彼れに從へば普通選擧もまた要するに『ナイフとフォークの問題』であつた。彼れの雄辯は民衆のうちに强い力であつた。

(3)、チルドスレー博士はチャーチスト運動の主因をもつて一、オーウェン主義の運動二、十時間勞働法の運動三、新貧困法の廢止の要求四、一八一九年のピールの通貨法の廢止の欲求、さうしてこれに第五の原因として穀物法の廢止問題を附け加へることができるといつてゐる。

（三）

チャーチスト運動がその全國的組織の中心を確立したのは一八四〇年のことである。『ナショナル・チャータア・アヅソシエーション』National Charter. Associations がこれである。しかしこれより先きロンドンには『ロンドン勞働者聯合』があり、バーミンガムには『バーミンガム政治團』があり、またフヰアガス・オコンノーアによつて指導せられた政治團體もあつた。それ等のものが一八四〇年に合同して『ナショナル・チャータア・アヅソシエーション』ができたのである。そのうち『ロンドン勞働者聯合』London Workingmen's Association の成立したのは一八三六年六月十六日のことである。その發見者は unstamped press のチャムピオンとしてのヘンリー・ヘザアリングトン、[1]チョン・クリーヴ、それから勞働組合の有力者としてのウヰリアム・ロヴエット[2]ヘンリー・ヴヰンセント[3]ヂョーヂ・ヂユリアン・ハアネエ等の諸氏であつた。これ等の人々が勞働者聯合を組織した時には、その運動が、英國の政治史上において、革命的の重要な地位を占むるに至るべき結果については、何人も意識してゐなかつた。[4]その聯合は、必ずしも統一した精神、一定の主義によつて指導されたものではなく、自由主義も、急進主義も、勞働組合主義も、社會主義も、オーウェン主義も、みなそれ〴〵この運動に影響を與へてゐたことは、彼等の作り上げた綱領によつても知ることができる。その綱領は全部八ヶ條から成つてゐる。即ち次のごとくである。

一、都市及び地方における勞働階級の知力的及び有力なる部分を結合すること。

二、凡ての合法的手段によりて社會の凡ての階級を平等の政治的及び社會的權利の所有者たらしめることの要求をなすこと。

三、安價にして正直な新聞紙によつての思想の自由なる傳派を妨ぐる惡法を發するために於ての可能な手段を工夫し且つあらゆる努力を用ゆること。

四、あらゆる有效な手段によつて、青年の教育、及び將來の奴隷制に傾く組織の根絕を獎勵すること。

五、特に勞働階級または社會全體の利害に關するあらゆる報告、就中勞働の賃銀についての統計、勞働者の習慣及び狀態、並に主として現狀に關係あるものについての統計を集めること。

六、必要な報告を集錄し且つ彼等が實際に勞働階級の幸福に資益するを信ずる計畫を熟せしめるために會合し且つ傳達すること。

七、道德的、反省的、且つ强烈な輿論を作興するために最もよく役立つように、彼等の意見及び感想を發見し、かくして暴動または擾亂なくして、勞働階級の狀態を次第に改善すべく指導すること。

八、參考となり且つ有益なる報告を集めた圖書館をつくること。精神的改善のために集合し、地方からの兄弟と、一つの偉大なる動機——政治的、社會的及び道德的に、有益なる階級を利する——によつて動かされる同一の精神をもつて、會同する場所を維持すること。

以上のようなわけであるから、この綱領のうちには社會革命的な分子は殆んど含まれてゐない程度のものであり、就中この團體が道德的觀念に重きを置いたことは注意を要するところである。しかしこの團體において最も多く注意を要することは純勞働者の政治團體としての任務と綱領とをもつてゐることである。その規則による時は、勞働者のみこの

團體に加はることを許された。『産業階級』Industrious classes 以外のものはたゞ名譽會員としてのみ參加することを許され、さうして討論に加はることと凡ての會合に出席することゝを許された。しかしこの組織の役員となり、または統制をなすことに與ることを禁んぜられてゐた。(5) これを禁じたことはそれまでの運動においての中等階級の代表者に對する經驗からきたものであり、この點についてウヰリアム・ロヴエットは次のように述べてゐる。

『群衆及びその政治團は、主義に對してよりも、偉人（または自稱偉人）に對してより多く尊崇してきた。それゆゑに彼等の間に、彼等が自ら偉大なる社會的政治的主義を討究することに慣れるように、自己教育の政治學校を樹てることを希望した。』(6)

ロンドン勞働者聯合は、その最初から政治的權力の重要であることに着目しておつた、さうして彼等の意見を三ペニー・パムフレットとしての『腐敗せる下院』(Rotten House of Commons) によつて公刊した。それによると、この當時においての英國下院は全人口の百六十分の一（二十一歲以上の成年男子の四十分の一）だけより成る選擧民のうへに立つたものであり、この選擧民のうへに選まれた代議士は凡て貴族、陸海軍人、辯護士、訟師、及び金持階級であつた。卽ち勞働階級は國民の代表者と稱する下院には少しも代表されてはゐないのである。

『製造業者や資本家、然り、木材や、鐵や、蒸汽の力を獨占し、勞働を最低の報酬に强制することに利益をもつてゐる彼等が、勞働者の利益を代表するに適してゐるであらうか? 主人等、然り、勞働を最低率で買ふことを利益とする主人等が、その勞働に對してできうるだけ最高のものをうることを利益とする勞働者の代表者として果して適當であらうか?

彼等はかくのごとくに訴へる。さうして勞働者に告げていふ『第一且つ本質的の方法として、勞働階級に平等の政治的及び社會的權利を與へることなき政黨の道具となること勿れ』と。彼等は、彼等の階級、勞働によつて生活する人

人の階級から代表者を送ることを求めたのである。

彼等の宣傳運動の機關としては、先づヘザァリングトンの週間雜誌『ツウペニー・デスパッチ』があつた。しかしこれだけをもつて滿足することは素よりできなかつた。ヘザァリングトンや、ヴキンセントや、クリーヴ等の諸氏は全國への宣傳の旅にと上つた。彼等は絞取階級の惡事を指摘し、さうして民衆の激情を煽つた。彼等の運動は忽ちにして勞働者の間に勢力を占めてきた。さうして多衆の後援者の支持によつて、六ヶ條の請願を公刊した。それは Rotten House of Commons の要綱である。卽ち次の六ヶ條である。

(1)平等代表 (Equal representation)

(2)普通選擧 (Universal suffrage)

(3)年回議會 (Annual parliament)

(4)財産資格廢止 (No property qualification)

(5)祕密投票 (Vote by ballot)

(6)歳費支給 (Payment to menbers)

この六ヶ條は有名なる『人民特許狀』の骨子をなすものである。この請願を公刊して後、一八三七年二月二十八日に『ロンドン勞働者聯合』の指導のもとに、クラウン及びアンコーアにおいて一大集會が催された。その結果三千人の會集によつて上記の六ヶ條が調印され、さうして議會に提出せらるゝこととなつた。議會においてこの六ヶ條を紹介したものはその當時最も急進的のデモクラットであるとされてゐたロウバックであつた。

(1)、ヘザァリングトン (Henry Hetherington) は雄辯家ではなかつた。しかし unstamped press) のチャムピオンとしての彼れは到るところに名聲をうけた。監獄は彼れには恐怖ではなかつた。

(2)、ロヴエット（William Lovett）は『人民の特許狀』の起草者である。フランシス・プレースの書いてゐるところに從へば彼れは脊の高い、瘠せた、物寂しい性質の男であつた。早く七年の年期で年期奉公にやられた。その後ロンドンに出て指物師となり、First London Cooperative Association の會員となり、組合商業協同の手段によつて次第に資本を蓄積し、且つ遂に勞働者が産業及商業をその掌中に握ることができると思つた。またオーウエンの主義をうけ入れた。一八三一年彼れは國民軍に入ることを拒絶した。下院議員の選擧權をもつことなくして、自己の代表せられざる議員の制定した法律、その法律は『私自身の權利にして唯一の財産たる私の勞働を保護してゐない』といふのが彼れの主張であつた。

(3)、ヴキンセント（Henry Vincent）は勞働組合の有力なる指導者の一人であり『婦人聯合』の組織者であり、オレーターとして著名であつた。

(4)、Rosenblatt, op. cit., P.84

(5)、ヘザアリングトンは記者であつたがこの勞働者聯合の會計係であつた。

(6)、Lovett, Life and Struggles, PP, 91-2

（四）

一八三七年の總選擧は、チャーチスト運動の前に所有階級を結合せしめた。さうしてトムソンやロウバックやクラウフオード等チャーチスト派の候補者はみな落選の悲運を見た。しかしその結果は決してチャーチスト運動を失望せしめることとはならなかつた。『ロンドン勞働者聯合』は直に十二人委員會を召集した。(1) 委員會はロウバックとロヴエットとを法案の起草委員に擧げた。ロウバックは結論、その他はロヴエットの手によつて起草された。(2) これが有名なる『人民の特許狀』People's Charter である。(3) それの發表されたのは一八三八年五月八日である。普通選擧運動——勞働階級の意識的政治運動史上において紀念すべき日はこの一八三八年五月八日でなくてはならぬ。『人民の特許

狀』が發表せられてから普通選擧運動は一層の熱狂を加へた。

(1)、十二人委員會とはムーア、ワツトソン、クリーヴ、ヴヰンセント、ヘザアリングトン、ロヴエツト、クラウフオトド、トムソン、ヒンドレー、リーダア、ロウバツク、オコンノーアの十二人から成立した委員會である。

(2)、草案には婦人にも選擧權を與へることとなつてゐた。

(3)、『人民の特許狀』は十數章から成り長文のものであるからこゝに全文を揭げることはできない。しかしその骨子は『六ケ條』と略々同一である。その第一章は普通選擧の必要を述べたものであり一、英國に生れたるものまたは外國人にして二年以上英國に居住し歸化したるものにして二、二十一歲以上の男子三、精神錯亂に非ざる四、法律通過後六ヶ月以內に重罪の宣告を受けず五、選擧權が選擧においての賄賂欺僞選擧證明書の僞造のため權利を停止されざるものは凡て選擧權を有するものと記されてゐる。

(五)

『人民の特許狀』のための最初の重要なデモンストレーションは、グラスゴウにおいて、一八三八年五月二十八日に催された。この運動に力を添へるためにバアミンガム政治團はトウマス・アトウッドを指導者として代表者をグラスゴウに送つた。二十萬人の男女の行列が行はれた。四十組の音樂隊、二百旒の旗が伴つた。バーミンガムからの應援隊は熱狂的に歡迎せられた。トウマス・アトウッドは群衆に告げていふ『この運動は純粹に政治的である』と。またいふ『貴族の全部、搢紳の十分の九、僧正の一團、凡ての年金受領者、冗官、吸血動物はみな人民の生命を喰つて生きてゐるのである』と。

越えて六月二十七日になつて、ニユカツスル・オン・タインにおいて、八千人の群衆によつての一大運動が催された

When once more her ho ts assemble,

Let the tyrants only tremble; Smile they at this idle threat?
Crimson tears may fallow yet

これはバイロンの自由の詩である。バイロンの詩は高く吟んぜられた。事態は決して平穩ではなかつた。『凡ての手段――凡ての合法的手段ではない、記憶せよ！――普通選擧の到達のためにあらゆる手段を。こういつてある一人は論じた。フヰアガス・オコンノーア(1)はスタア・スピーカァの一人であつた。彼れの演說中に騎兵、歩兵の一隊が集會の附近に現はれた。そのことは群衆の間に非常な憤激を惹起した。オコンノーアは『貴族主義の餓鬼』に警告を與へていふ『黑服のもとにも、赤服のもとにおけると同じく、勇敢なる精神と道德的武器とがある』と。しかし暴動は輕うじて避けられた。

サンダアランドとノーサムプトンにおいても『人民の特許狀』のために示威運動が行はれた。八月六日にはバアミンガムにおいて大示威が起つた。バアミンガム政治團がその主催者である。約二十萬の人がこの行列に加はつたと稱せられた。ウルベルハムプトン、ウオルソオル、ダツドレー、ヘレスオーエン、ウオアウキツク、スツツドレーの六ケ所から行列が續いて行はれた。フヰアガス・オコンノーアは大喝采のうちに紹介された。彼れが暴動の必要を說いたのはこの時であつた。アトウツドもまた政府を動かすために一週間の總同盟罷工をなすべきことをすゝめた。この會議においては、『國民請願』に調印せしめるために勞働者を召集すること並に『產業階級一般會議』への代表者を選むべきことを決した。

それから『ロンドン勞働者聯合』は中央の集會を開催することに努力した。この集會においては、凡ての演說者は暴動に反對の立場をとつた。しかし群衆の氣分は統制することのできるものではなかつた。オコンノーアは人民をもつて掏兒に例へた。彼れは富める掏兒と貧しき掏兒の二種類を區別した。『貧民はその腹を滿たすために富者のポケツ

トを掏り、富者はそのポケットを滿すために貧者の腹を掏る』とは彼れがこの席上における有名な言葉であつた。この集會は五時間以上に亙り、『人民の特許狀』を可決し、『國民請願』に一萬六千人の調印者を贏ちえた。

一八三八年の秋は、チャーチスト運動が漸やくその高潮に達した時である。九月二十五日のマンチエスタアの集會は、大規模の計畫のもとに行はれた。約三十萬の人々が集會に加つた。工場はみな閉鎖せられた。數百の旗は、樣々の示威的文字によつて彩られた。中には『殺戮は正義を要求す』といふやうなものさへもあつた。オコンノーアとステフエンスとは興奮せる群衆の間に於いての花形演說家であつた。この會議もまた『人民の特許狀』を可決し、工場改革と新貧困法反對とを決議した。

マンチエスタアに次いでヨークシャイアに於いても示威運動が行はれた。感激の情に滿ちてゐた。西部の人民は、雄辯の士、ヘンリー・ヴキンセントの宣傳によつて、感激の情に滿ちてゐた。チャーチストの宣傳運動は、屢々暴動の精神をさへ養つた。加ふるに勞働者の政治運動は、工場においての勞働功程を減少するために、所有階級のチャーチストに對する惡感と壓迫とは益々强くなるばかりであつた。市の公會堂をさへチャーチスト運動のためには使用することを妨げた。しかしチャーチストの指導者は却つてこれに乘じた。所有階級に對する勞働者の反感を煽動し、ボルトン、アシトン、ストツクポート等においては松明行列をさへ企てた。行列は町々の大道を進み、新聞紙や、製造業者や、市長等を罵倒し、戰慄すべきほどの恐ろしい言葉さへ常に群衆の間から叫ばれた。

暴力論者のうちに密に武器の製造をなしてゐるものさへもあつた。ロード・ジョン・ラツセルはランカシャイアの町奉行に松明行列を禁止すべきことの書簡を送つた。『第三階級の道具』だといふ非難が起つた。(2)

ステフエンスは不法の集會に出席し且つ暴言を用ゐたといふことの理由によつて捕縛せられた。チャーチスト運動の最初の犧牲である。その犧牲は、民衆の憤激を極度に煽つた。かくしてチャーチスト運動は全英國を蔽ふ有樣であつた。勞働階級の全精力が、政治的に、チャーチスト運動のうへに集中せられた。

(1)、オコンノーア(Fargus O'Connor)はチャーチスト運動を通じての最大の雄辯の士であつた。『彼れは數百萬の人々に愛せられ尊敬せられ且つ多數の人々に憎まれた。しかし何人によつても輕蔑されはしなかつた』ローゼンブラットはこう彼れを評してゐる。彼れは自らいふ『オコンノーアの名を除いては、如何なる非難者もチャーチスト運動を記述することはできない』と。彼れは一七九四年七月十六日、ローヂア・オコンノーアの兒として生れた。ローヂアは愛蘭民族運動のために投獄せられたことがある。彼れはダヴリンのトリニチイ・カレッヂに學んだ。彼れが政治舞臺に立つたのは三十七歳の時であつた。彼れは愛蘭におけるオコンネル黨の誇りであつた。一八三三年に始めて下院議員に選まれた。一八三七年に最急進的なチャーチスト週刊雜誌 Northam Ster を發行した。その發行部數は忽ち六萬に達した。彼れは屢々デマゴーグと評せられた。ロウバックは彼れを『惡性デマゴーグ』だといつた。ブロンテーアは彼れを獨裁官だと評した。フランシス・プレースは彼れを評して『民衆を指導し且つ惡導するためにあらゆる手段を用ゐる人、……代表的デマゴーグである』といつた。しかし民衆指導者として、雄辯家として、彼れは飽くまでチャーチスト運動の第一人者であつた。

(2)、ジョン・ラッセルは一八三二年の改正選擧法が最後の改正だと論じたために "finality" といふ名前をとつた。

(筆者曰く、本篇は次回にてチャーチスト運動を終り次に一八四八年代の運動に入ります。)

次號豫告

マルクスとニーチエ……………………中澤臨川

生存競爭の哲學……………………賀川豐彥

ラッセルの教育論

森　恪

社會改造論の多くは、其問題として經濟と政治（法律）とを論ずる。故に經濟問題と政治問題とは、社會改造に關する全體なるかの如き觀を人をして懷かしめる。洵に經濟は社會の實質であつて、政治又は法律は社會の形式である。兩者は不可分のものであつて、實質の變化は、形式の變化を要し、形式の更改は實質の內容の變改を必要とする。故に社會改造論か社會の素材と形式との兩者に就いて熱心に其論歩を進めるのは素より其所である。

けれども、社會は過去よりの發展であると共に未來へも其形態を傳ふるものであることを知らなければならぬ。唯物史觀論者は社會の進化は其社會の有する經濟狀態（主として生産並に交換の形態）を基礎として、之に適應して行はるゝものであると主張する。法律も政治も學問文藝もすべて經濟狀態を基礎として、其上に建設せられた、上部建築であると主張する。洵に、社會に於ける經濟の力は强大である。穩健と廣汎な知識とを以て英國學界を濶歩する經濟學者アルフレッド・マーシャルの如きも世界の歷史を動かすものは經濟と宗教であつて、其內經濟が人間の日常生活を支配する力の强大なるを說いたのは、其經濟學原理の讀者の何人も知る所である。けれども私達の忘れてはならないことは社會の形態（實質と形式）の發展進化に資するのは思想の力であり、この形態を後代に傳ふるものは思想であることである。そして思想の涵養は其多くを教育に負ふことである。

ベルトランド・ラッセルの『社會改造の原理』が其深遠な哲學的思索と人間性其ものに對する徹底的理解とから生れたものであることはこゝに呶々を要さないであらう。そしてラッセルは社會問題の解決に、卽ち社會改造に魂を入れるのを忘れなかつた人である。彼は社會の實質と形式とに對して銳い批判を加へた許りでなく、其兩者の精神を吹き

込んだ機關である。教育に對しても、其徹底的な批評を加へたのである。

ラッセルが其教育論に於て取扱つた問題は多々であるが之は要するに現在の教育は如何なる精神に依つて行はれて居るか、其結果は如何、而して、將來の教育の方針は那邊に向ふべきであるか、其教育の精神如何等の問題が其主なるものである。ラッセルの論じた教育とは教育に關する理論全體ではなくて、政治制度としての教育が以上の如きものを如何に取扱ひまたは取扱はねばならぬかの問題である。

第一の問題は教育が如何なる精神に依つて遂行されつつあるかの問題である。ラッセルは深くこの問題を考察して現在の教育は被教育者それ自身のことを考へるものではなく、實に教育は教育者其他の者がある目的に對する手段として、遂行して居るのを見た。これは政治關係に依る黨派、宗教的團體が其目的とする所を達成せんが爲めの手段である。けれども眞の教育は被教育者を手段として見てはならない。甲派、乙派の二團體がある目的の爲に存在するとき眞正な教育は其被教育者に對して甲派又は乙派の優越又は拙劣なることを教ふることでなくて、被教育者の自由意志に依つて其二者間の撰擇をなさしめる思想を養成することでなければならぬ。現在の教育の病弊は實にかゝる被教育者と教育を手段として用ふる所に存する。例へ又個人それ自らが其目的として考量されるときに於ても、彼は人生の尊重すべきは少しも教へらるることがない。金儲と世間的に高き地位を得ることを以て其最高の理想とする。故に教育は眞に知識の爲に入るべき門ではなくて、金儲と地位との爲に必ず通過すべき道であると考へられる。斯くて被教育者は教育を人生の眞實と知らんとする努力から之を觀ることなく、純粹な功利的見地から之を眺めることとなるのである。

然らば如何なる精神で教育を導くべきか。正義と自由とは社會改造の二大原則である。けれども教育は之を以て足れりとすることは出來ない。正義は其字義に於て平等な權利であるが、これは兒童の場合には適用することが出來ない。また自由は、其本質に於て消極的であり、そはたゞ自由を妨ぐる種々の障害をのぞかんとするのみで何等建設的な原理を教ふるものではない。然るに教育は本來建設的であつて、善い人生をなすべき積極的觀念を必要とする。教育に於ても自由は尊重されなければならぬが、そは指導と兩立する範圍に於てである。

斯くの如き自由と正義の犧牲に依る權威の必要とする所になければならぬのは尊敬(レベレンス)の精神である。眞正な教育者は

尊敬の精神に充たされて居る。斯の詰込主義や機械的教育主義を振り舞はす人々は他人に對する尊敬の心の缺けた人である。殊に兒童は其精神力に於て皮相的には晏かであり教師よりは賢明でない。この故を以て他人に對して尊敬心のない者は、兒童を型へ鑄込むことを其義務と心得其兒童をして、遂に他人に對して自己と同樣な型に入らねばならぬと思はしむるに至るのである。けれども尊敬の精神に富む人は兒童を型に入れるのを其義務であるとは考へない。彼は人間の貴重な性質を知つて、兒童に對して、其精神が求めて居るものを與ふるのに援助する。これは何等外的目的に依つて兒童を手段と見るのでなく、眞に兒童の精神を偏見なく開發せしめるのである。教育は正に斯くの如き精神に依つてなされなければならない。

ラッセルは、現在の教育の特徴と將來の教育の遂行さるべき精神とを相對比して、更に現在の教育か以上の如き精神に依つて行はる内容と其價値とに其筆を進めて居る。

前にも言つた樣に現在國家又は教會の如きものに依つて行はるる教育は尊敬の精神の缺けたものである。だから其教育は皆政治的動機を有するものであり、其動機に依つて教授科目、其内容等を決定するのであつて、何等被教育者の内的發達に資する所のないものである。

乍然、現在の教育の遂行して居る、其或るものは次代の教育に依つても達成せられなければならぬ。すべての兒童は讀み書きを教はらねばならぬし、特殊職業に就くものは特殊の學問を必要とし、學問藝術に適した人材に對しては高等教育も必要である。卽ち是等の教授はもつと自由な精神を以つて遂行されなければならぬが槪して有效であり如何なる教育組織にあつても其一部分をなすものである。

然し教授が最も有害であるのは、宗教と歷史とに於てである。歷史はあらゆる國に於て其國が偉大であり、常勝の國であるかの如く教へられる。そして愛國心と國民的自負心とを養成するのである。ラッセルはウォターローの大戰に關する各國の記述を揚げてこのことを證して居る。英、佛、獨の各國は各々自國に有利な記述をして、兒童の頭にある考へを注入させるのである。ラッセルは斯くの如きは最も弊害の甚だしいものであるとなして、國際的平和を維持し、各國民の敵愾心を和げる爲に、歷史教科書を國際委員の手に依つて作成すべしと提議をして居る。宗教に就いても同樣なことを言ひ得るのである。

斯の樣な弊害は單に初等教育のみに限られた譯ではない勿論イートンやオックスフォードの樣な所で一つの確然たる目的があるとは言ひ得ないけれども、そはまた或種の「よ

い形式」に依つて、人をしてこの以外に出ることが出來なくするのである。それは生命の發展を阻害すること恰度中世の教會制度の如きものであつて、其源は、「よい形式」を以て無批判に正しいと思い、他の思想、藝術に浸るよりも、其一定の行爲を以て價値あるものと見るから起るものである。

斯くの如きことの結果は自由討究の抑壓であり、不自然な服從の要求である。私達の內心の有する哲學的精神はその爲に亡び、潑溂たる元氣と意氣はその爲に滅亡せられる。服從は機械的に事を行ひ、大多數のクラスの存する所には止むを得ないことであるが、然しこれは誤つた經濟である。過勞の教師は勢ひ學生を機械的に取扱ふし、多數の學生に對しては勢ひ機械的に其日の業を行はざるを得ない。教師は過勞の爲に神經衰弱に陷ち入る。彼等はよい教授が其授業に當つてどれだけの犧牲が必要であるかを知らないで教師も亦銀行員や會社員と同樣に長時間の勞働に耐え得るものであるとする誤謬に陷つて居る。現代の教育の改造は教師の過勞と其精神的壓迫と其生活難から救濟しなければ達することが出來ない。

現在の學校に於ける訓練なるものも一つの弊害である。然し訓練にしてもすべての功業に對して必要なものもある遠い目的を達する爲に、其道程にあるすべての困難を打破して除くと共に其目的に達する樣な訓練は私達に取つて大いに必要であつて、教育に依つてのみ作られる訓練である。そして斯くの如き訓練は個人の意志のみから發するもので決して外的權威の力に依つて作ることの出來ないものである。傳統的の高等教育に依つて生ずる一種の純粹な精神的訓練がある。それは其研究の對象に對して他を顧みることなく其思想を集中せしめるものであるが、斯の種類の訓練は複雜な世の中に於て多いに其效用を有するもので多忙な法律家が其特殊な事件に就いて直ちに科學的研究を積んでゐるのも斯樣な訓練のお影である。斯樣な精神的訓練を積み得ることは傳統的教育の功業である。

尙ほ試驗制度と授業が主として生活の爲にせらるる事實とは、學生をして、純功利的見地から教育を目することになり、教育はたゞ生活の手段として、たゞ金儲の手段としてのみ見るべきであるとするに至り、其教師の知識を無批判に受け容れることとなり、この結果は其知識の獨立を失ひ、後年に去つて、何事をするにも指導者の必要を感ずるに至るのである。而して、斬くの如き制度は研究的精神の萎縮を生ぜしめ、內心の學問的精神の如きは全然其影を潛めしめ、爲に才能ある者をして學問を憎惡するに至らしめ

なければ止まぬものである。

斯く論じ來つてベルトランド・ラッセルは教育の指導さるべき全精神を次の如く言つて其教育論を終つて居る。

「人事に於ける創造的原理は希望であつて恐怖ではない人間を偉大にしたすべてのことは善を確保せんとする企から起つたもので惡なりと思惟するものを避けんとする爭鬪よりではない。現代の教育は大なる希望に依つて感激せられないが故に、其大效果を揚げ得ないのである。未來を作らんとする希望よりも過去を保持せんとする精神が教育者の精神を支配して居る。教育は單に死せる事實の消極的認識を目的としないで、私達の努力の創造すべき世界へ向けられる活動を目的としなければならぬ。教育はギリシア及び文藝復興の消えたる點に回顧の咏嘆をなすことなく、來べき社會の美しき光景に依つて鼓吹されなければならぬ。」

（一九一九・一一・一二）

◇福田博士の講演を聽く

◆十月二十三日、神田青年會館に黎明會の講演を聽いた。私は青年會館の二階へと陣取つた。丁度午後六時、會場は七八分取り聽衆で埋められてゐた。拍手の音が三、四分置きに聞える。開會を促したのである。

◆北澤新次郎君が壇上の人となつた。問題の外面を、すうと滑つてゆく。力ない拍手が起る。

◆次ぎに福田博士が壇上に立つた。場内は遽に緊張してきた。矢張當代の人氣役者である『今日は失禮ながら諸君を生徒扱ひにする……一時間半かゝる……一人でも簡單！と叫ぶものがあつたら止める』こうした振れ出して一かゝへのほどの材料を卓子のうへに擴げる。

◆先づ話は勞働問題の世界性から始まつて政府や資本家のやうに「日本獨特」を主張するものは『ベラボー』な奴どもだと叱咤される。『忠義々々』と口にする奴に限つて不忠である！』

◆それから得意の勞働契約論にと入る。ローマ法に遡つての大講演が始まる。博士の顔面に油が乘る。小柄の博士が大きく、さうして輝いて見える。聽衆はみな前へのめつて聽きとれる。矢張り博士は雄辯だ！

◆講演がだん／＼長くなる。聽衆も少しづゝ飽いてくる。『我輩は社會主義に贊成しない…… 社會政策の立場を維持する……不徹底だといはれるかも知れないが……』こういふ言葉がだん／＼多くなつてくる。博士の所謂『ベラボー』の方へとだん／＼近づいてくる。

◆聽衆のうちに輕い冷笑が見えてくる。もう二時間近くになつた。『簡單！』といふ聲がどこからか聞える。やつぱり厭いたのだ。簡單／＼！と連呼するものが出る。

◆聽衆の厭き性は、博士の大講演を龍頭蛇尾に終らしめた。代つて立つたのが三邊金藏とかいふ人、どこかの先生らしい。何とかを『嗤ふ』といふ演題だ。そのせいでもあらうか、この先生が喘息聲で一言二言しやべる毎に傍聽席から『ワアッー！』といふ笑ふ聲。やがて嘲笑の波に葬られてしまつた。

◆歸らうと思ふ時麻生久君が起つた。嚙切のいゝ、若々しい演說であつた。若い人に限る――こう思ひながら九時半頃場外へ出た。雨がどしやぶりであつた。

ユートピアの勞動と其報酬

甲野哲二

（一）

科學的社會主義は社會進化の必然的結果は社會主義の實現であると主張する。其唯物史觀を根據とする社會發達の法則が幾何の眞實と價値とを有するかはこゝに問題ではない。社會が必然的に社會主義化すると否とに拘らず、種々の社會運動はユートピアを建設せんとする文化的努力に外ならない。ユートピアは社會改造の窮極の目的である。

物を人類に提供し得るものはたゞ自然のみである。人は其勞働に依つて自然から其產物を取得することが出來る。卽ち、私達の欲望の充足に對してはある程度の勞働を提供しなければならぬ。この事は政治制度や勞働絞取制度に依つて起ることではなくて、自然其ものの必要上から起る自然法則である。自然と勞働と、この二つは人類の如何なる階段にあつても人間か其生を續けるならば免れ得ない境遇である。斯の英國經濟學者ウヰリアム・ペティが「勞働は富の父にして土地は其母なり」と云ひアダム・スミスが「萬物は勞働に依りて購はる。」と云つたのは這般の消息を道破したものである。

斯樣な自然と人類の勞働との必然的關係はユートピアの樂園をも襲つて來る。ユートピアの民は、幸福であるべき筈である。彼は野に咲く百合の花の樣に美しく、野に歌ふ雲雀の樣に自由で快活でなければならぬ。もし人間が其衣食住の必要の爲に多くの時間を工場に、田園に費さなければならぬとしたならば、ユートピアはこの世の牢獄に均しいと言はねばならぬ。また例へユートピアの生產物が豐富であつたとしても、人口の增加が其生產力に超過した時には、ユートピアはまた饑饉の修羅場と化するであらう。だから私はユートピアを語る前にこの生活資料の問題と人口問題とを論じなければならない。

（二）

人口の問題に就いて、始めて科學的の研究を發表したのはロバアト・マルサスであらう。其の青年時代に宗教的教育を受けて、其後も牧師であつたマルサスは、其の當時流行であつた、ウリアム・ゴツドウヰレやコンドルセーの人間の完全化（ヒユーマン・パアフエクチビリテイ）に依る無政府主義を信じて居た其父と其社會觀を論爭したが、其結果を發表したものが彼の有名な「人口論」で、其初版は一七九八年、匿名で出版されたものである。彼は其人口論の中に――第二版以下に重大な改訂はしてあるが――人間の性欲の强烈と不變とを前提として、人口の增加は食物の增加よりも急速であつて食物が算術級數即ち一、二、三、四、五、六、七、……の割合で增加するのに、人口は幾何級數即ち一、二、四、八、十六、三十二、六十四の割合で增加するから二世紀半で食物に對する人口の割合は十に對する五百十二となり、三世紀目には十三に對する四千九十六の割合となると計算してゐる。彼はかゝる計算より出發して食物の增加は人口の增加部分に對してもし人口が諸々の方法に依つて制限されないときは到底其食糧を與へ得ざるべしとした。斯くて彼はこの人口論より出發して、すべての社會改造を否定し、人間社會は其生存競爭に放任すべしとの決論に達したのである。（生物進化論の大家チヤーレス・ダーウヰンが其名著「種の起源」中に說ける生存競爭に依る適者生存の說は實にマルサスの「人口論」に負ふ所多しとはダーウヰン自らの言へる所である。）

（三）

ロバアト・マルサスの研究は幸にして、當らなかつた。人口の統計的研究は其學說の誤なことを立證した、ブレンタノ教授の研究は、生活資料の豐富な所が反つて人口增加率の小さいことをも立證したのである。產業革命以後の生產の增加は急速なものであつた。動力を使用する大工場の生產力は測り知るべからざるものであつた。マルクスの主張する勞働者階級の貧困は其絕對的意義に於て認容し得ないのは、エドワード・ベルンシユタインが其著「社會主義の前提と社會民主主義の任務」に指摘するが如くである。資本主義經濟組織の生產能率の偉大であるのは何人も否定することを得ない事實である。ロバアト・ギツフインが第十九世紀の勞働者生活の統計的研究は明かに資本主義經濟組織の生產力が人口繁殖力に伴つたことの半面を語るものである。

私は無味乾燥な數字をこゝに出したくはない。斯の尊敬すべきロシアの無政府主義者クロポトキンが農業に關する研究の結果を簡單に述べるに止めよう。クロポトキンの著「麵麭の略取」と「農場、大工場と小工場」とは洵にラッ

セルの批評の樣に詳細な事實の研究である。彼は農業に於ける科學の應用に依る集約的耕作法が收穫を非常に增加したことを示してゐる。英國、並に巴里附近其他に於ける市場向菜園農業に就いて次の樣に言つて居る。

「彼等は全然新しい農業を創造した。私達が輪耕法に依つて農場から毎年一度の收穫を取り、每三年に四度の收穫を得たことを誇ると彼等はたゞ微笑した、何となれば彼等の野心は十二ケ月に同じ土地から六度から九度の收穫を穫ることにあるからである。彼等は私達が土味の善惡に就いて語ることを了解しない、何となれば彼等は自ら土地を作つて、時々其幾部分かを賣らなければならないのである。もし、そうしないと彼等の土地は每年半時づつ其平準を高めることになるからである。彼等は、私達のやる樣に一、エーカーの土地から五六噸の草を得るのでなくて、同面積の所から色々な野菜を五十噸から百噸まで得るのにあるのである。」

收穫漸減の法則の適用を受くることの最も多い農業ででも斯くの如き事實がある。まして、この法則の適用の割合に少い工業方面にあつては、生産力の發達は近時の大經營に依る生産の必然的結果である。人口の增加と生産物の增加、殊に、生産物の增加の技術的方面は何等の問題もない。大生産に依る生産力の大增加は疑いのない事實であると共に、相對的貧困の增加も亦事實である。

社會運動の根本的理由はこゝにある。この事實から出發して社會主義者も無政府主義者も私有制度を以つて人類の不幸と見て、之を共有制度に換え樣とするのである。

（四）

社會主義や無政府主義が最も主張する所は財の分配の正義である。故に私は今これ等の分配制度が生産の減少を惹起するかどうかを研究して見なくてはならない。

分配の問題に關しては無政府主義と社會主義との間に大なる相違がある。社會主義は勞働をする者または勞働をする意志ある者に對して、ある支拂をする、これは老年若しくは幼年、其他勞働不能の場合には例外であるのは勿論である。然るに無政府主義は何等の條件なしに、普通の貨物ならば、其消費を望む人に、珍稀な貨物ならば人口に均分するのである。斯く無政府主義が勞働の義務を賦課しないのに反して、社會主義は之を賦するのである。

この二つの主義を論ずるのに、勞働に對して、經濟的動機がどんな働をするかを研究して見なければならない。社會は熟練勞働又は社會的に有用な勞働に對して、其勞働が充分の高丈け仕遂げられれば、多額の支拂をしなければな

らないだろうか。遊んで居る者も勞働する人々と同じ高丈け生産物を享受することが出來ならば、勞働は充分になさるるが。この二つの問題に就いて解答を與なければならぬ其第一問に就いては社會主義者の間に二つの派を見ることが出來る。其には報酬に差異を設くべしとなすものと、他は、絶對的平等を維持せんとするものである。第二問は社會主義と無政府主義とを分つものである。前着は、勞働に對する報酬を其原則とし、後者はこんな原則を設定しない

(五)

賃銀制度の廢止は無政府主義にも社會主義にも共通な綱領の一つである。ギルド社會主義に至つては賃銀制度の廢止を以て其中心的綱領として凡ての無産者階級解放の前提であるとする。然し、其最も自然な意義に於ては無政府主義制度の下に於てのみ賃銀制度の廢止は徹底的であり得る。無政府主義の社會にあつてはすべての普通の貨物は、私達が現在水を使用する様に制限なく使用し得るからである。無政府主義者は道路や公園や橋を揚げて現在の社會に於も其傾向の存することを指摘する。斯樣なユートピアにあつては生産に對する經濟的刺激は消え失せて、もし仕事が繼續されるとしたならば、それは他の動機からである。

斯の樣な制度は可能であるか。第一に、各人が其欲する丈け、使用し得る程多量の生活必需品を生産することは技術的に可能であるか、が問題である。貨幣の提供に依つて凡ての貨物を購入消費する現在の制度の下に住む私達は無償で生活必需品を得ると云ふ樣なことは容易に想像だもなし得ないし、またこれに思ひ及ぶものあつたにしろ、無償に伴ふ濫費に想到しないものがあらうか。そしてそれはユートピアであるとする。けれども私達は深く考へなければならない。富者に取つての一片の麵麭は其價値に於て實に僅少である。けれども彼等は其麵麭の消費を無限に增大して行くことは出來ない。私達は今水を無限に供給されて居る、然し何人も之を無限に消費しないのは事實である。私達の欲望は其强さに於て有限である。もし、生産が科學的に組織された時には、自由分配の制度は技術的にも可能である。

然し、人が勞働をしないでも一般的享樂の標準を確保されるときにも必要な勞働は遂行せらるゝかが第二の問題である。多くの人は之に對して否定の回答を與へる、殊に資本家は其勞働者の怠惰であつて、餓と刑とを以てするにあらざればよく勞働しないことを訴ふる。けれどもそれは不潔と喧音との中に長時間勞働するときのことである。理想の社會ではこれ等の不愉快な勞働を一掃しなければならぬ。

勞働が愉快を以て行はれる様な社會でなければこは理想の社會であるとは言ひ得ない。

現在でも自由職業者や高級企業從業員の勞働は其大部分に於て快樂である。私は其全過程が快樂であると云ふのではない、たゞ何にもすることなく平等の所得を享受する人よりも多くは快樂であると云ふに止まる。洵に一定量の動作は私達の生理的要求である。この生理的要求を超過しない範圍に於ては勞働は一つの快樂でなければならぬ、殊に之が自己を一般の幸福の爲にせらるるときに於て然りである。然し、人が自發的に撰擇する様な勞働の種類は例外として、多くの必要な勞働は苦痛である。鑛山に於ける坑夫の勞働、遠洋航路の火夫の勞働、これ等の勞働は他に容易な勞働の機會の存するときに何人も進んで從事するものはないであらう。

斯様に多くの必要な勞働は不快であるか、少くとも單調である。だからこれに從事する者に對しては或る種の特權を附與しなければならない。この特權の附與は、純無政府主義の主張とは相容れないけれども、社會の要求する正義と自由とを著しく打破するものではない。一方では斯の種の特權の附與に依つて、其苦痛に報ゆると共に、科學的生產組織に依つて、勞働時間の短縮と生產の增加とを行へば其苦痛の程度は減少し或は絶滅するに至るであらう。

かゝる組織に依つて、遊食者が其最低生活程度を確保されても、多くの必要勞働は、遂に、喜んで之に從事せらるに至るであらう。そして、其最低生活程度確保後の餘剩は必要勞働に從事した人々に、財、名譽又は特權の形態に於て特殊報酬として之に許容すればよいのである。

（六）

無政府主義の弱點は其富の分配の方法である。けれどもそれは本質的の問題でなくて、たゞ程度の問題である。無政府主義は其經濟的節分に於て、二部から成立つ。其一はすべての通常の貨物は其要求者の自由に供給せらるること其二は勞働の義務又は之に對する經濟的報酬を何人にも賦課せざることである。この二つの提案は必然的に不可分のものでもなく、無政府主義には缺く可からざるものであるが其全部ではない。其第一の提案に關しては現在でもある種のものに對して實行されて居るし、將來は、尚ほ多數のものに、適用せらるるであらう。世界の推勢はこの方向に向つて行く。無政府主義者の提案は着々其適用を受けて、遂に、廣汎な範圍に至るであらう

然しながら第二の提案は疑問多いものである。無政府主義は其計畫にして成功すれば何人も喜んで勞働すべしとして居るが、これが實際的目的として、何れ丈け眞實であるかは、尚ほ疑問である。

此問題に對するマルクス派社會主義の態度は無政府主義

の態度とは大分異つて居る。マルクスとエンゲルスか其「共產黨宣言」の中で提唱した直接綱領の一は、すべての人の勞働に對する平等の義務であり、產業軍殊に農業の爲にするものの建設である。社會主義の學說は普通勞働のみ勞働の生產物に對する享樂權のあることを主張する。勿論この主張は老年者、幼年者並に其過失に依ることなく一時的に勞働を要さない者に取つては例外であるが、社會主義の根本觀念は勞働可能の者は餓飢又は刑罰を以ても勞働を强制せんとするにある。而して、其仕事は當局の認めた仕事に限定されてしまう。故に勞働者は、其勞働に對して、自由を有すること比較的少き有樣になるのである。然しマルキストは、此を辯護して、生產の社會化は、勞働者の自由を拘縛しても、「之は强制的性質を失ふ許りでなく、人間に許される最大の自由の基礎となるものである」と主張する。（カウツキイ、「エルフルト宣言解說」）彼等は、生產の社會化が必然的に他の勞働者との協力を必要とし、他との協力の必要は勞働者の自由に對する一定の拘束であるとする。この拘束に對して、ギルド社會主義者は資本主義制度の下に於けるが如く勞働者を奴隸的狀態に置くものなりとするのであるが、マルキストは國家の民主化はこの弊害を救濟し得るものであると信ずる。

孰れにせよ、マルキシズムの國家が勞働者に對して、强制的權力を有することは疑ひを容れない。この點無政府主義のマルキシズムに優る點であつて、ベルトランド・ラッセルの如く「自由は政治上の最高善なり」と主張する者がマルキシズムに反對して、無政府主義に接近せんとする所以である。

（七）

多くの人が相當の程度に勞働し、其勞働が科學と組織とに依つて出來る丈け、生產的になると假定するときは、生活必需品をすべての人に自由に供給してはならないと言ふ理由はない。そしてもし必需品をすべての人々に自由に與へても、必需品以外のものは、すべて現在勞働して居る人人並に、其過失に依らずして、勞働不能となつた人々にのみ與へれば、遊食者を多數に出すと云ふ弊害は避けることが出來る。そして、社會的に有用な勞働若しくは熟練勞働に對して、特別の高い報酬を出す必要はない。其勞働は通常のものよりも興味あり且つ尊敬されるものであるからである。勞働時間の減縮を望む者には之に準して少額の支拂をなし、普通の仕事よりも不快な勞働に從事する者には普通の勞働者に對するよりも多額の報酬を與へることにする。斯くすることに依つて、無政府主義とマルクス主義との危險を避け、自由と正義との抱合するユートピアを作ることが出來るのである。（一九一九・一一・一二）

本篇を草するに當り Bertrand Russell ;-Proposed Roads to Freedom, chap. IV に負ふ所最も多し。此の問藝術に關する勞働が如何な待遇を受くべきかに就ては同書第七章に讓づる。

ラッセル『社會改造の原理』

ベルトランド・ラッセルの名著『社會改造の原理』は既に高橋五郎氏によつて譯出された。この外に松本悟郎君も飜譯するといふ話を聽いた。私も書肆『冬夏社』から依頼をうけ、甲野哲二君の援助のもとに飜譯をなした。實は飜譯には甚だ不得手な私のことであるから、他に一人でも飜譯者があるとすれば進んで私は一切を中止したいと思つてゐた。(コールの勞働組合概論はさういふ意味で私は飜譯を中止した)しかし書肆との關係その他で兎も角飜譯を了した。校正の際にこれを一讀すると可成り誤譯が含まれてゐた。私はそれを一々訂正して完全なものにして世間に出したいと思つてゐた。その矢先に高橋五郎氏の譯本が既に出版された。早速一本を買つて見た。一頁に二つ三つ位ゐは大抵誤譯が見出されるようである。誤譯は指摘するに易くこれを避けるに難い。私はこの點において高橋氏を咎めようとする勇氣がない。しかし高橋氏の譯述について最も遺憾を感ずるのは、思想界の新人としてのラッセルの文字に對してあまりに舊式の文字を當て箝めたことである。例へば『吾人は天下國家の爲に何を爲すべき乎』といふような文字が使つてゐる。これでは『自由』の愛護者としてのラッセルの面目が少しも出てこない。またある所では創造的衝動(クリエーチヴ・イムパルス)とすべきところを『創作的出來心』と譯してゐる。これでは折角の新思想のラッセルが大なしになる。私の殘念に思ふのはこの點である。再版の際には是非訂正をして貰いたいものである。(室伏生)

勞働四團體

◆著作家組合の傾向は、だん〳〵と左へ左へと行くやうである。著作家組合が、眞賃の自覺、勞働組合としての自覺へと入つてゆくことを示すものとして喜ばしいことである。結局は友愛會あたりへでも入ることになるかも知れぬ。

◆純勞働者以外の者が、勞働團體に入つてゆくことは、排斥された時代もないことはない。しかし知識階級の援助なくしては勞働運動は堅實に發達することのできるものではない。

◆その點において今の友愛會なぞのやり方は決して非難すべきでない。特に最近友愛會が若き人々を中心とするやうになつてから面目を一新するに至つたことは、同會のためにも、日本の勞働運動のうへにも、慶すべきことでなくてはならぬ。

◆勿論、友愛會の態度が急進的になればなるほど敵は多く、敵は益々壓迫を加へるに相違ない。愛知支部崩壞說のごとき、海員團體の分裂のごときこうした犧牲は、あらゆる歷史上の勞働團體がうけたと同じ犧牲をうけてゐるまでのことである。

◆犧牲は悲しむことを須ひゐない。凡ての先驅者は、先驅者的精神において、彼れの本質的の價値をもつてゐるからである。

◆信友會の奮鬪は目ざましいものがある活版職工は、歷史上において、凡ての國において、最も早く目醒めてゐる。彼等に文字があるからである。

◆これとともに言論の自由についてもわれ等は考へなくてはならぬ。言論の自由が勞働運動によつて脅かされることは、勞働運動それ自身の自殺である。凡ての自由への運動は、言論の自由とともにゆかなくてはならぬ。またそれとともにのみゆくことができる。

◆一方に言論の自由のために、印刷業は一日も休むことは望ましくない。それとともに職工の地位を向上せしめることの必要のあるのは勿論である。その必要のためにストライキを拒むことはできない。この矛盾を如何にして調和すべきか。

◆われ等には素より考がある。そは調和しえらるべきものである。しかし活版工組合としての信友會もまた、自らの綱領としてその案を示さなくてはならぬ。前途多望なる信友會のために我等はこれを求める。

さうして、勞働運動の戰士が、自ら活版工ストライキのために、言論を奪はれざるがごとき、新組織が生れ出づべきを求める。その望はえられるであらう。

◆友愛會、信友會と並んで日本における代表的の勞働團體は大阪鐵工組合である。その組合規則は至つて平凡である。しかしその實質は可成り立派のようである。特に堅實な發達を遂げつゝあるようである。その機關紙は片々たるものであるにしても、紙面には關西における勞働運動の中心としての意氣が現はれてゐるのを見る。

◆この組合は堂々たる宣言をもつてその創立者の一人たる堂前茱氏を除名した。勞働運動に賣名と裏切り者とは大禁物である勞働者は今日まで——今後も尙ほ當分さうであらうが——勞働を賣るべく餘儀なくされてきた。然り、資本家は勞働を勞働者から引ぬいて、最低價でこれを買ひとつた。裏切り者の勞働指導者は、勞働者そのものを資本家に賣りつけることによつて、勞働顧問となり、代表者となる。然り彼れは勞働者の血を吸ひとる吸血鬼(ヴアンパイア)である。勞働者は先づこの吸血鬼に注意しなくてはならぬ、吸血鬼の多いことよ!

マルクスの唯物史觀

（マルクスの生涯(四)）

ヴィルヘルム・リープクネヒト

マルクスの科學的價値を決定し評價するのはこの傳記の目的ではない。又彼の政治經濟學說の基礎的梗概を茲に明かにすることも決して私の趣旨ではない。その樣な事は誰でも諸君が知つて居られる、又は手に入れることの出來る出版物に於てなされて居る。只一つの點だけに就いて、短かい記述をして見たい。近來屢々適切に或は不適切に、兩樣に說かれて居る所謂「唯物史觀」に就いて。

エンゲルスの述べて居るやうに、マルクスに依つて「發見」せられたのでないが彼に依つて初めて明瞭に定義せられ、秩序ある自覺を以て應用された唯物史觀に就いてエンゲルスは次の如く說いて居る。

「それに依つてマルクスの名が科學の歷史に知られたその重大な發見の一つは、彼の世界史についての概念である。彼以前の總ての歷史觀は總ての歷史的變動の窮局の原因は人の變化的觀念の中に見出される。さうして又總ての歷史的變動の中で政治的變革が最も重要であつて、全歷史を支配するものであるところの觀念に基いて居る。しかし何時からこれらの觀念が人々に引出されたか又政治的變革を動かしつゝある原因は何であるか、何人も嘗て穿鑿したことはない。少くとも中世紀以後の歐羅巴史に於ける促進的勢力は發展しつゝある中產階級と封建貴族との間に於ける社會的政治的優越權の爭鬪であつたといふ確信は佛國近代學派に於てのみ又部分的には英國歷史家のそれに於ても亦既に現はれて居た。しかしマルクスは總ての歷史が從來階級爭鬪の歷史であつたことを證明した、即ち無數の錯綜した政治的努力は總て社會の諸階級の政治的社會的優越の爲にのみ行はれた。古い階級はその優越の地位を維持する爲に新たに勃興した階級は主權を樹立する爲に、何物の働きを通じてこれらの階級は興起し、存在するであらうか。或る時代の社會が其の下に生存資料を生産し、交換するその物

質的物理的條件の壓迫通してあるのである。中世封建時代は小農社會の自足的で、殆んど無交易な處理に基いて居た――殆んど總ての彼等自身の必要品を生産し、戰爭好きな貴族から外敵に對する保護と國民的、或は少くとも政治的執着を受けながら。都市は勃興した。さうしてそれと同時に技術的産業の分派と最初內地市場に限られて居たが、其の後、國際的に膨脹した商業とが起つて來た。その時には都市の公民的要素が發達して、貴族と鬪ひながら、中世紀にあつてさへも矢張り、特權階級として封建の列に地歩を占めた。しかし十五世紀中葉歐洲以外に新陸地が發見された爲に、中産階級はその商業の爲の遙かに擴大された領域を獲た、從つて又産業の新らしい刺戟を受けた。技術勞働はその最も重要な範圍に於て更に工場的な生産に代はつたこの工場生産も遂に前世紀の發明殊に蒸汽機關によつて可能ならしめられた大規模の産業組織の爲に、同樣の運命に遭遇した。これらの産業は更に後れた諸國の手工業を廢し遙かに進歩した諸國に於ては、現在の新交通機關、蒸汽機關、鐵道、電信――を創めることに依つて、商業に反動を與へた。斯くの如くにして、中産階級は益々社會の富と社會の實力とを其の手に集めた。矢張り貴族の掌握するところとなつて居る政權からは尙ほ久しく除外され、帝政は貴族によつて、防禦されて居たが。しかし或る階梯に上つた時――大革命後の佛國に於て――中産階級は又この權力を征服して、今や遂に勞働階級及び小農に對する支配者となつた。この見地から觀ると、總ての歷史的事件は至極容易に說明出來る――職業的歷史家が不幸にも全く見落して居たその時代の社會經濟狀態に就いての充分な知識を以て。さうして或る特空の歷史的時機の概念と思想とは其の時代を通じての經濟的生存要件とそれらの經濟的要素に依つて居る社會的政治的條件とによつて、最も單純に說明される歷史は玆に始めてその眞の基礎の上に置かれた。總ての人は食はなければならない、飮まなければならない、身を庇ふ所と身を纏ふ物とを持たなければならない。故に政治、宗教、哲學等に身を委ねることの出來る前に働かなければならないといふ見易い事實、これ迄全く等閑に附せられて居たこの明かな事實は遂に歷史的承認を得たのである。」

私の屢々引用したマルクス傳に於てエンゲルスはかくの如く述べて居る。彼はこの階級鬪爭の語を最も廣義に用ゐて居る。その時代の生産要件に基く利害の爭といふ意味に於て。斯くの如き鬪爭は遊牧の民と狩獵國民とによつて異なつた樣式を採るであらう。又農業國と工業國とによつても態樣を異にするであらう。是は自明の理である。丁度獨

逸帝國はダホメー黑奴によつて建設されたものであり得ない事實と同樣に。獨逸帝國——諸君の最も近い周圍からその例を擧げるのが常に都合がよいから——は唯物史觀の正確なことを示す立派な例證を與へて居る。帝國思想を稱揚して今日迄ビスマーク鐵血政策の最も光輝ある外交手腕の眞髓を見て居る。獨逸中産社會は五十年前には徹頭徹尾自由であつた、民主的であつた、軍國主義を惡み、警察規則を嘲つた——一言にして言へば今日彼等の尊敬して居る、或は少くとも必要と考へて居る總てのものに反抗した。

この變化は何を說明して居るであらうか、獨逸中産階級は資本主義化してしまつたのである。

小規模な工業生産が優勢であつた間は、封建官僚政治の小さな暴虐に抑壓され、服從せしめられて居た中産的要素は統治に反對し政權を渴望することを利益としたのである——かく彼等は民主的であつた。

中産社會が資本化して以來、卽ち大規模生産が風靡して來た。さうして一面には、階級的反目が其極に達し、勞働者を驅つて社會主義の旗章の下に階級競爭の渦中に投ぜしめたと同時に他方には小規模生産が競爭上廢頽してしまつた、其の時より身を下層階級へ逐はれなかつた中産階級の一部は其れ自身支配階級なのである。彼等の權力ある生きな論爭は現存の政治手段を彼等の爲に利用することと信侶や封建貴族等の如き政治を支配しつゝある過去の文明の要素と結托することである。かくの如くして民主的獨逸中産階級はビスマーク黨と化し、我々の見地からすれば帝國主義者となつたのである——たゞ小規模地方的生産の大規模資本的生産への進化の結果として。

さうして又その進化は産業敎化及び政治の總て今日迄の進步と同樣に絕えず我々の生存要件を改良せんとする人性に根ざした努力の自然的結果である。さうして又人生のより便利な條件は道具を改良して仕事の生産力を增進することである。

かくて人類文明は仕事道具の效果に外ならない。眞に然り、人類の歷史は彼が道具の歷史である——彼の道具とこれに憑る生産組織の歷史である。(完)

『批評』より

河上博士『社會問題硏究』十一月號を見ると『批評』十月號の新刊評について皮肉な御意見が載せられてゐる。提灯記事愼しむべきものと存じ候　匆々

福田博士と河上博士

（一）

■近頃の評論界で一番に多く興味を惹いたものは福田博士對河上博士の對抗戰である。

■戰ひは先づ福田博士の方から仕向けられたように記憶する。福田博士が河上博士に對する批評は可成り猛烈に仕向けられたわれ等から見れば無用であると思はれるほどに枝葉の問題にまで立入つた。

■ある外國人、Bodin をブーダンと發言したことが間違つてゐるとかゐないとかいふようなことまで立ち入つた。もう一歩を進めたなら、三井甲之君のように『誤謬の第何ヶ條、假名遣ひが間違つてゐる』といふようなことにも立入ることとなる順序であつた

（二）

■河上博士に對する福田博士の批評のうちで、われ等の最も多く贊成のできたことは、河上博士によつて發行される『社會問題研究』か學問研究のためでなくして單なるプロパガンダ用のものであるとなした點である。

■ありていにいへば、河上博士の『社會問題研究』は學問研究のための機關としてはあまりに通俗的である。黎明會の講演が純然たる通俗講演であり、內務省邊の地方講演――切り賣り商賣人の講演師の講演と同じ程度の通俗講演であるごとく、黎明會の講演もまた純然たる通俗講演である。またそれと同じ程度において、河上博士の『社會問題研究』もまた立派な通俗講演である。

■然り、河上博士の『社會問題研究』の價値は、それがプロパガンダ用であるの點である。――マルクス主義の宣傳こそ、この小雜誌の目的であるといふことができるのである。

（三）

■そのプロパガンダの性質を最も露骨に現はしたものは『社會問題研究』の十月號である。早川千吉郎氏に對する批評のごときは、資本主義攻擊のプロパガンダとして近頃上乘のものの一つである。

■しかしそれよりもわれ等の注意を惹いたものは、福田博士の社會民主主義論に對する河上博士の批評である。その批評は素より大文字だといふのではない。それは既に本誌の六月號に現れたもの（室伏高信―『福田博士とソーシャル・デモクラシー』）と大同小異である。論旨においてほゞ同一であり材料においてほゞ同一である。

■しかし福田博士の論敵として何人よりも適當な箝まり役は何んといつても河上博士である。年功において、地位において、方面において、名望において、この二人は相近い。評論壇において、學界において、この二人は花形中の花形である。大學教授が過當に尊敬せられてゐる今日において特に然りである。

■社會民主主義論において福田博士は明らかに間違つてゐる。これに反對する河上博士の立場は正しきに近いものである。この爭ひは、所詮は河上博士の勝利である。

■しかし福田博士に逃げ道が一つある。それはボルシエヴヰキを引合ひに出すことである。それもわれ等から見れば逃げ路にはならないが、河上博士がこの點を全然イグノーアしてゐる點において河上博士にも缺點がある。

高畠素之譯　法學博士福田德三氏序　カルル・カウツキー氏著

東京芝區三田一丁目　振替東京四一八一〇　三田書房

半價格版發賣

世界改造の大法廷は開かれたり。資本主義文明は今や最後の審判を前にして戰慄す見よ**マルクス**が印したる科學的文字は新興階級の經典として地球の全面に舞躍せり。時代の批判は**マルクス**學の批判より始めざるべからず。

本書原著は**マルクス**學の中堅たる『資本論』に平易明快なる解說を加えたるもの、久しく專門學者の机上に置かれし難解深遠の典籍も本書出づると共に高級常識の一資財と化せられたり。原著者は**エンゲルス**に次ぐ社會主義學の最巨頭にして、譯者は今福田博士等を鞭勵して**マルクス**全集の譯出に從事中なる日本**マルクス**學の第一人者なり。寔に原著者譯者共に其の人を得たるものと云ふべし。**マルクス**學は革命の學也。精緻なる學究的論理の間を縫ふて一脈の熱火縱橫に奔馳す。新人の腸、本書に依つて初めて燃えむ。社會改造戰に參與せんと欲する青年諸君の必讀を促す。本書は先きに六千部を賣り盡し、今裝訂を略して半價格版五千部を發賣す。紙價印刷費倍騰の時價格を半減す、本書の普及に依つて社會主義宣傳の一端を行はんと欲するが故也。

定價

毎月一回一日發行		郵税
一部	廿八錢	五厘
半年分	一圓五十錢	税共
一年分	三圓	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十錢

大正八年十二月一日印刷納本
大正八年十二月一日發行

編輯兼發行兼印刷人　東京市京橋區銀座三丁目二十七番地　尾崎士郎

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　株式會社博文館印刷所

發行所　東京市京橋區銀座三丁目二十七番地　批評社
振替東京四五三四六
電話京一五四八

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可 批評 十二月號（定價廿八錢）

編者

飯田　泰三（いいだ たいぞう）
1943年生れ。法政大学法学部教授。東京大学法学部卒、同大学大学院博士課程修了。
専攻　日本政治思想史。

主要著書・論文

「長谷川如是閑評論集」（岩波文庫・共編著）岩波書店1989年
「吉野作造――ナショナル・デモクラットと『社会の発見』」（小松茂夫・田中浩編『日本の国家思想(下)』青木書店1980年）
「明治末年の或る精神風景――『現代国家批判』以前の長谷川如是閑」（『みすず』1980年11～12月）
「批判の航跡――長谷川如是閑」（日本政治学会年報1982年『近代日本の国家像』岩波書店1983年）
「アイロニーの銃眼――如是閑のラディカリズム」（『長谷川如是閑集 第2巻』岩波書店1989年）
「如是閑における小説の成立――異化と喪失の経験からの」（『如是閑文芸選集 第1巻』解説 岩波書店1990年）

編集協力者

山領　健二（やまりょう けんじ）
1933年生れ。神田外語大学教授。東京大学文学部卒。
専攻　日本近代思想史。

主要著書・論文

思想の科学研究会編『共同研究 転向(上)』（共著）平凡社1959年
『転向の時代と知識人』三一書房 1978年
『人物書誌大系 6 長谷川如是閑』日外アソシエーツ 1984年
『長谷川如是閑評論集』（岩波文庫・共編著）岩波書店 1989年
「『改造社文学月報』とその読者」（『ブックエンド通信』1979年12月）
「黎明会」（『思想の科学』1980年5月）
「日本のプラグマティズム」（鈴木正・古田光編『近代日本の哲学』北樹出版 1983年）
「長谷川如是閑」（三谷太一郎編『言論は日本を動かす 第1巻 近代を考える』講談社 1986年）
「『我等』の時代」『長谷川如是閑集 第8巻』岩波書店 1990年

復刻版 批　評　　第1巻

1992年4月復刻版第1刷　発行

揃定価 60,000円
本体価格

編　　者　飯田泰三
発 行 者　北村正光
発 行 所　㈱龍溪書舎
〒173 東京都板橋区南町43－4－103
電話03(3554)8045・振替 東京3－76123
FAX03(3554)8444

落丁、乱丁本はおとりかえします。
ISBN 4-8447-3347-8

印刷：武内印刷
製本：岸田製本紙工